

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第723集

# 間木戸<sup>まぎと</sup>Ⅰ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

(第1分冊 本文・遺構図版・自然科学分析・総括編)

2021

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所  
(公財) 岩手県文化振興事業団

# 間木戸 I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

(第1分冊 本文・遺構図版・自然科学分析・総括編)







間木戸 1 遺跡から山田湾を臨む（北から）



建設中の三陸沿岸自動車道と間木戸 1 遺跡（南から）



平成 27 年度調査区全景（直上）



調査風景（平成 26 年度）



A 19号竪穴建物全景（北西から）



縄文時代竪穴建物群（A 218～221号竪穴建物）（南から）



竪穴建物（A 44号竪穴建物）と土坑（47号土坑）の重複（南東から）



竪穴建物（A 46・51号竪穴建物）と土坑（47号土坑）の重複（南西から）





A 211 号竪穴建物（北西から）



A 211 号竪穴建物埋設土器（西から）



A 140号竪穴建物床面遺物出土状況（南から）



II B22m～Iグリッド遺物出土状況（北東から）



群集する貯蔵穴（76～80号土坑）（北西から）



貯蔵穴内の堆積状況（106・108号土坑）（西から）





B 8号竪穴建物炭化材検出状況（南から）



B 8号竪穴建物遺物出土状況（北東から）



B 8号竪穴建物鉤帯金具出土状況（南から）



B 9号竪穴建物カマド2（南東から）



縄文時代中期中～後葉の土器



縄文土器前後葉～中期前葉の土器



縄文時代中期後～末葉の土器



a381 (A 116 号竪穴建物出土)



a1808 (II A9y グリッド出土)



巻頭写真図版 13 縄文時代の遺物 (4)





石製垂飾具



三角壘形土製品・石製品、翡翠製石斧・垂飾具



板状土偶 (e1)



ミニチュア土器





土師器・須恵器



金属製品

## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設に関連して平成25～27年度の延べ3箇年に発掘調査を実施した間木戸Ⅰ遺跡の成果をまとめたものです。調査の結果、縄文時代前期～中期の竪穴建物や土坑、古代の竪穴建物や鉄生産関連炉といった遺構、それに伴う土器・石器・金属製品・製鉄関連など多岐にわたる遺物が出土しており、本遺跡が縄文時代と古代の生活の痕跡を留めた遺跡であることが判明しました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、山田町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和3年3月

公益財団法人岩手県文化振興事業団

理事長 高橋 嘉行

## 例 言

- 1 本報告書は、岩手県下閉伊郡山田町山田第3地割ほかに所在する間木戸I遺跡の発掘調査成果を取録したものである。
- 2 本遺跡の発掘調査は三陸沿岸道路建設事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は岩手県教育委員会の調整を経て国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所の委託を受けた（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 岩手県遺跡台帳に登録されている遺跡コード・遺跡略号は次のとおりである。  
遺跡コード：LG 94 - 0005 遺跡略号：MG I - 13・MG I - 14・MG I - 15
- 4 発掘調査期間・調査面積・担当者は次のとおりである。  
【平成25年度】 調査期間：平成25年11月5日～11月28日 面積：1,600㎡  
担当者：村上 拓  
【平成26年度】 調査期間：平成26年4月8日～12月19日 面積：7,660㎡  
担当者：村上 拓・阿部勝則・伊藤 武・北村忠昭・北田 勲・村田 淳  
・河本純一・佐藤あゆみ・松政里奈・中村隼人・高橋静歩  
・佐々木あゆみ・佐藤奈津季・森 裕樹・酒井野々子  
【平成27年度】 調査期間：平成27年4月17日～8月7日 面積：2,140㎡  
担当者：村田 淳・川又 晋・中村隼人・高橋静歩・酒井野々子
- 5 室内整理期間・担当者は次のとおりである。  
【平成26年度】 整理期間：平成26年11月1日～平成27年3月31日  
担当者：村上 拓・高橋静歩・佐藤奈津季・森 裕樹・酒井野々子  
【平成27年度】 整理期間：平成27年8月1日～平成28年3月31日  
担当者：村田 淳・中村隼人・高橋静歩・酒井野々子・宇部めぐみ  
・近藤行仁  
【平成28年度】 整理期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日  
担当者：丸山直美  
【平成29年度】 整理期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日  
担当者：村田 淳  
【平成30年度】 整理期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日  
担当者：村田 淳  
【平成31・令和元年度】 整理期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日  
担当者：村田 淳  
【令和2年度】 整理期間：令和2年9月1日～令和2年12月31日  
令和3年1月1日～3月31日  
担当者：村田 淳

- 6 本報告書の執筆分担は次のとおりである。  
I：国土交通省三陸国道事務所 II：佐藤・村田 III・V・Ⅶ：村田 IV：担当者で分担
- 7 各種委託業務は次の機関等に依頼した（順不同）  
基準点測量：㈱スカイ測量設計（平成26年度）・釜石測量設計株式会社（平成27年度）  
航空写真撮影：東邦航空㈱  
遺構写真解析図化：㈱リッケイ  
石器石材鑑定：花崗岩研究会  
石器実測：㈱ラング  
放射性炭素年代測定（Ⅵ-1）：㈱加速器分析研究所  
火山灰分析（Ⅵ-2）：㈱火山灰考古学研究所  
炭化材樹種同定（Ⅵ-3）：古代の森研究舎  
動物遺存体分析（Ⅵ-4）：パリオ・サーヴェイ株式会社  
黒曜石・水晶分析（Ⅵ-5）：㈱第四紀地質研究所  
琥珀分析（Ⅵ-6）：㈱第四紀地質研究所  
翡翠分析（Ⅵ-7）：㈱第四紀地質研究所  
鉄滓分析（Ⅵ-8）：パリオ・サーヴェイ株式会社  
金属製品保存処理（Ⅵ-9）：（公財）大阪市博物館協会大阪文化財研究所
- 8 野外調査及び室内整理にあたり、以下の機関等から御協力いただいた（敬称略）  
金子昭彦、菊池賢、八木光則、花巻市教育委員会、宮古市教育委員会、山田町教育委員会
- 9 本遺跡の出土遺物及び諸記録類は岩手県立埋蔵文化財センターで保管している。
- 10 これまでに、調査成果の一部を現地説明会資料、調査概報等において公表しているが、本書の記載内容を正式なものとする。
- 11 本書は3分冊であるため、第1分冊中では各分冊図版の記載表現を以下の通りとした。  
・第1分冊第○図 → 第1-○図  
・第2分冊第○図 → 第2-○図  
・第3分冊写真図版○ → 写真図版○

## 目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地と周辺の環境	
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	2
III 調査の方法	
1 野外調査の方法	7
2 調査経過	8
3 室内整理の方法	9
IV 検出遺構	
1 調査概要	13
2 竪穴建物(縄文時代)	24
3 竪穴建物(古代)	277
4 土 坑	300
5 炉・焼土	335
6 鉄生産関連炉	339
7 溝	339
8 配石遺構	343
9 土器埋設遺構	343
10 遺物包含層	346
11 整 地	350
12 性格不明遺構	350
13 柱 穴	352
V 出土遺物	
1 縄文土器	368
2 土師器・須恵器	374
3 石 器	386
4 石 製 品	388
5 土 製 品	390
6 台形土器	391

7	土器片円盤	391
8	土製支脚	392
9	金属製品	392
10	鉄生産関連遺物	392
11	陶磁器・ガラス製品	393
12	動物遺存体	393

## VI 自然科学分析

1	放射性炭素年代測定	394
2	火山灰分析	398
3	炭化材樹種同定	404
4	動物遺存体分析	407
5	黒曜石分析	428
6	琥珀分析	437
7	翡翠分析	443
8	鉄滓分析	447
9	金属製品保存処理	454

## VII 調査のまとめ

1	検出遺構	460
2	出土遺物	465
3	総括	473

報告書抄録	563
-------	-----

## 図版目次

第1図	遺跡の位置	1	第11図	遺構配置図(5)	22
第2図	地形分類図	3	第12図	トレンチ・遺物包含層位置図	23
第3図	周辺の遺跡	6	第13図	A1・2号堅穴建物	122
第4図	グリッド・等高線図	14	第14図	A3・4・15～20号堅穴建物(1)	123
第5図	遺物取り上げ地点・基本層序図	15	第15図	A3・4・15～20号堅穴建物(2)	124
第6図	遺構配置図(全体)	16・17	第16図	A3・4・15～20号堅穴建物(3)	125
第7図	遺構配置図(1)	18			
第8図	遺構配置図(2)	19			
第9図	遺構配置図(3)	20			
第10図	遺構配置図(4)	21			

第17图	A 3·4·15~20号竖穴建物(4)	第42图	A 67·68·70·73·74号竖穴建物(2)
.....	126	.....	151
第18图	A 5·8号竖穴建物	第43图	A 67·68·70·73·74号竖穴建物(3)
.....	127	.....	152
第19图	A 6·7·22~24号竖穴建物(1)	第44图	A 69·71·72·75~81号竖穴建物(1)
.....	128	.....	153
第20图	A 6·7·22~24号竖穴建物(2)	第45图	A 69·71·72·75~81号竖穴建物(2)
.....	129	.....	154
第21图	A 9~11·21·25号竖穴建物(1)	第46图	A 69·71·72·75~81号竖穴建物(3)
.....	130	.....	155
第22图	A 9~11·21·25号竖穴建物(2)	第47图	A 82·85·90·99·102·104号竖穴建物
.....	131	(1) .....	156
第23图	A 9~11·21·25号竖穴建物(3)	第48图	A 82·85·90·99·102·104号竖穴建物
.....	132	(2)、A 98号竖穴建物.....	157
第24图	A 12·14号竖穴建物(1)	第49图	A 83·84·86~89·94号竖穴建物(1)
.....	133	.....	158
第25图	A 12·14号竖穴建物(2)、	第50图	A 83·84·86~89·94号竖穴建物(2)
A 13号竖穴建物.....	134	.....	159
第26图	A 26~29·33号竖穴建物(1).....	第51图	A 91·95·97号竖穴建物、
第27图	A 26~29·33号竖穴建物(2).....	A 92号竖穴建物.....	160
第28图	A 30·31号竖穴建物.....	第52图	A 93·96号竖穴建物.....
第29图	A 32·38·39号竖穴建物、	第53图	A 100·101·103号竖穴建物、
A 34号竖穴建物.....	138	A 102号竖穴建物 .....	162
第30图	A 35·48·64号竖穴建物(1) .....	第54图	A 105·106·133号竖穴建物(1).....
第31图	A 35·48·64号竖穴建物(2)、	第55图	A 105·106·133号竖穴建物(2)、
A 36号竖穴建物.....	140	A 107号竖穴建物 .....	164
第32图	A 37·40~47·58·59·62·63号竖穴	第56图	A 108·117·123·124·128号竖穴建物
建物(1).....	141	(1) .....	165
第33图	A 37·40~47·58·59·62·63号竖穴	第57图	A 108·117·123·124·128号竖穴建物
建物(2) .....	142	(2) .....	166
第34图	A 37·40~47·58·59·62·63号竖穴	第58图	A 108·117·123·124·128号竖穴建物
建物(3) ..	143	(3) .....	167
第35图	A 37·40~47·58·59·62·63号竖穴	第59图	A 109号竖穴建物 .....
建物(4) ..	144	第60图	A 110~112号竖穴建物 .....
第36图	A 37·40~47·58·59·62·63号竖穴	第61图	A 113·114·154·161·170·180号竖穴
建物(5).....	145	建物(1).....	170
第37图	A 49·50号竖穴建物、A 61号竖穴建物	第62图	A 113·114·154·161·170·180号竖穴
.....	146	建物(2).....	171
第38图	A 51~53·56·57·65·66号竖穴建物	第63图	A 115号竖穴建物、A 116号竖穴建物
(1) .....	147	.....	172
第39图	A 51~53·56·57·65·66号竖穴建物	第64图	A 118·119号竖穴建物.....
(2) .....	148	第65图	A 120·121·126·127·132·139·144
第40图	A 54·55·60号竖穴建物.....	.....	148·152·153·159·173·174·177
第41图	A 67·68·70·73·74号竖穴建物(1)	.....	·178号竖穴建物(1) .....
.....	150		174

第 66 图	A 120 · 121 · 126 · 127 · 132 · 139 · 144 · 148 · 152 · 153 · 159 · 173 · 174 · 177 · 178 号竖穴建物 (2) ····· 175	第 86 图	A151 · 157 ~ 159 · 161 · 166 · 167 · 170 · 171 · 179 · 190 号竖穴建物 (4) ····· 195
第 67 图	A 120 · 121 · 126 · 127 · 132 · 139 · 144 · 148 · 152 · 153 · 159 · 173 · 174 · 177 · 178 号竖穴建物 (3) ····· 176	第 87 图	A 156 · 165 号竖穴建物 ····· 196
第 68 图	A 120 · 121 · 126 · 127 · 132 · 139 · 144 · 148 · 152 · 153 · 159 · 173 · 174 · 177 · 178 号竖穴建物 (4) ····· 177	第 88 图	A 160 号竖穴建物、A 168 号竖穴建物 ····· 197
第 69 图	A 120 · 121 · 126 · 127 · 132 · 139 · 144 · 148 · 152 · 153 · 159 · 173 · 174 · 177 · 178 号竖穴建物 (5) ····· 178	第 89 图	A 163 · 164 · 170 · 176 · 181 · 183 · 185 号竖穴建物 (1) ····· 198
第 70 图	A 120 · 121 · 126 · 127 · 132 · 139 · 144 · 148 · 152 · 153 · 159 · 173 · 174 · 177 · 178 号竖穴建物 (6) ····· 179	第 90 图	A 163 · 164 · 170 · 176 · 181 · 183 · 185 号竖穴建物 (2) ····· 199
第 71 图	A 122 号竖穴建物、A 134 号竖穴建物 ····· 180	第 91 图	A 163 · 164 · 170 · 176 · 181 · 183 · 185 号竖穴建物 (3)、A 172 · 186 · 193 号竖穴建物 (1) ····· 200
第 72 图	A 125 · 145 · 146 · 149 · 162 · 175 · 187 ~ 189 · 191 号竖穴建物 (1) ····· 181	第 92 图	A 172 · 186 · 193 号竖穴建物 (2) ····· 201
第 73 图	A 125 · 145 · 146 · 149 · 162 · 175 · 187 ~ 189 · 191 号竖穴建物 (2) ····· 182	第 93 图	A 182 · 184 号竖穴建物 ····· 202
第 74 图	A 125 · 145 · 146 · 149 · 162 · 175 · 187 ~ 189 · 191 号竖穴建物 (3) ····· 183	第 94 图	A 194 号竖穴建物、A 195 号竖穴建物、A 196 号竖穴建物、A 197 · 198 号竖穴建物 ····· 203
第 75 图	A 129 · 131 · 136 ~ 138 · 145 · 192 号竖穴建物 (1) ····· 184	第 95 图	A 199 号竖穴建物、A 201 号竖穴建物 ····· 204
第 76 图	A 129 · 131 · 136 ~ 138 · 145 · 192 号竖穴建物 (2) ····· 185	第 96 图	A 200 号竖穴建物 ····· 205
第 77 图	A 129 · 131 · 136 ~ 138 · 145 · 192 号竖穴建物 (3) ····· 186	第 97 图	A 202 号竖穴建物 ····· 206
第 78 图	A 130 号竖穴建物、A 143 号竖穴建物、A 147 号竖穴建物 ····· 187	第 98 图	A 203 ~ 205 · 208 · 212 · 215 · 222 · 224 号竖穴建物 (1) ····· 207
第 79 图	A 135 · 150 · 155 号竖穴建物 ····· 188	第 99 图	A 203 ~ 205 · 208 · 212 · 215 · 222 · 224 号竖穴建物 (2) ····· 208
第 80 图	A 140 ~ 142 · 169 号竖穴建物 (1) ····· 189	第 100 图	A 206 · 207 · 211 · 227 ~ 230 号竖穴建物 (1) ····· 209
第 81 图	A 140 ~ 142 · 169 号竖穴建物 (2)、A 149 · 175 号竖穴建物 ····· 190	第 101 图	A 206 · 207 · 211 · 227 ~ 230 号竖穴建物 (2) ····· 210
第 82 图	A 146 号竖穴建物 ····· 191	第 102 图	A 209 · 210 · 213 · 214 号竖穴建物 ··· 211
第 83 图	A151 · 157 ~ 159 · 161 · 166 · 167 · 170 · 171 · 179 · 190 号竖穴建物 (1) ····· 192	第 103 图	A 216 号竖穴建物、A 217 号竖穴建物、A 225 号竖穴建物 ····· 212
第 84 图	A151 · 157 ~ 159 · 161 · 166 · 167 · 170 · 171 · 179 · 190 号竖穴建物 (2) ····· 193	第 104 图	A 218 ~ 221 · 223 · 226 号竖穴建物 (1) ····· 213
第 85 图	A151 · 157 ~ 159 · 161 · 166 · 167 · 170 · 171 · 179 · 190 号竖穴建物 (3) ····· 194	第 105 图	A 218 ~ 221 · 223 · 226 号竖穴建物 (2) ····· 214
		第 106 图	A 218 ~ 221 · 223 · 226 号竖穴建物 (3) ····· 215
		第 107 图	A 231 ~ 234 · 239 · 240 号竖穴建物 (1) ····· 216
		第 108 图	A 231 ~ 234 · 239 · 240 号竖穴建物 (2) ····· 217
		第 109 图	A 231 ~ 234 · 239 · 240 号竖穴建物 (3) ····· 218



第 110 图	A 235 ~ 238 · 251 · 252 号竖穴建物 (1)	第 151 图	竖穴建物出土土器集成图 (35)	260
	..... 219	第 152 图	竖穴建物出土土器集成图 (36)	261
第 111 图	A 235 ~ 238 · 251 · 252 号竖穴建物 (2)	第 153 图	竖穴建物出土土器集成图 (37)	262
	..... 220	第 154 图	竖穴建物出土土器集成图 (38)	263
第 112 图	A 235 ~ 238 · 251 · 252 号竖穴建物 (3)	第 155 图	竖穴建物出土土器集成图 (39)	264
	..... 221	第 156 图	竖穴建物出土土器集成图 (40)	265
第 113 图	A 239 号竖穴建物、	第 157 图	竖穴建物出土土器集成图 (41)	266
	A 241 · 253 号竖穴建物	第 158 图	竖穴建物出土土器集成图 (42)	267
	..... 222	第 159 图	竖穴建物出土土器集成图 (43)	268
第 114 图	A 242 · 243 号竖穴建物	第 160 图	竖穴建物出土土器集成图 (44)	269
	..... 223	第 161 图	竖穴建物出土土器集成图 (45)	270
第 115 图	A 244 ~ 247 号竖穴建物	第 162 图	竖穴建物出土土器集成图 (46)	271
	..... 224	第 163 图	竖穴建物出土土器集成图 (47)	272
第 116 图	A 248 ~ 250 号竖穴建物	第 164 图	竖穴建物出土土器集成图 (48)	273
	..... 225	第 165 图	竖穴建物出土土器集成图 (49)	274
第 117 图	竖穴建物出土土器集成图 (1)	第 166 图	竖穴建物出土土器集成图 (50)	275
	..... 226	第 167 图	竖穴建物出土土器集成图 (51)	276
第 118 图	竖穴建物出土土器集成图 (2)	第 168 图	B 1 · 2 号竖穴建物	281
	..... 227	第 169 图	B 3 号竖穴建物	282
第 119 图	竖穴建物出土土器集成图 (3)	第 170 图	B 4 号竖穴建物	283
	..... 228	第 171 图	B 5 · 6 号竖穴建物	284
第 120 图	竖穴建物出土土器集成图 (4)	第 172 图	B 7 号竖穴建物	285
	..... 229	第 173 图	B 8 号竖穴建物	289
第 121 图	竖穴建物出土土器集成图 (5)	第 174 图	B 9 号竖穴建物	290
	..... 230	第 175 图	B 10 · 11 号竖穴建物	291
第 122 图	竖穴建物出土土器集成图 (6)	第 176 图	B 12 · 13 号竖穴建物	292
	..... 231	第 177 图	B 14 · 15 号竖穴建物	296
第 123 图	竖穴建物出土土器集成图 (7)	第 178 图	B 16 · 17 号竖穴建物	297
	..... 232	第 179 图	B 18 ~ 21 号竖穴建物	298
第 124 图	竖穴建物出土土器集成图 (8)	第 180 图	B 22 · 23 号竖穴建物	299
	..... 233	第 181 图	1 ~ 12 号土坑	307
第 125 图	竖穴建物出土土器集成图 (9)	第 182 图	13 ~ 24 号土坑	308
	..... 234	第 183 图	25 ~ 30 · 33 号土坑	309
第 126 图	竖穴建物出土土器集成图 (10)	第 184 图	31 · 32 · 34 ~ 40 · 43 号土坑	310
	..... 235	第 185 图	41 · 42 · 44 ~ 49 号土坑	311
第 127 图	竖穴建物出土土器集成图 (11)	第 186 图	50 ~ 59 号土坑	312
	..... 236	第 187 图	60 ~ 67 · 71 · 72 号土坑	313
第 128 图	竖穴建物出土土器集成图 (12)	第 188 图	68 ~ 70 · 73 ~ 75 · 78 号土坑	314
	..... 237	第 189 图	76 · 77 · 79 · 80 ~ 86 号土坑	315
第 129 图	竖穴建物出土土器集成图 (13)	第 190 图	87 ~ 95 号土坑	316
	..... 238	第 191 图	96 ~ 109 号土坑	317
第 130 图	竖穴建物出土土器集成图 (14)	第 192 图	110 ~ 118 · 121 ~ 123 号土坑	318
	..... 239	第 193 图	119 · 120 · 124 ~ 131 · 133 · 134 · 144	
第 131 图	竖穴建物出土土器集成图 (15)		· 152 号土坑	319
	..... 240	第 194 图	132 · 135 ~ 143 · 145 号土坑	320
第 132 图	竖穴建物出土土器集成图 (16)			
	..... 241			
第 133 图	竖穴建物出土土器集成图 (17)			
	..... 242			
第 134 图	竖穴建物出土土器集成图 (18)			
	..... 243			
第 135 图	竖穴建物出土土器集成图 (19)			
	..... 244			
第 136 图	竖穴建物出土土器集成图 (20)			
	..... 245			
第 137 图	竖穴建物出土土器集成图 (21)			
	..... 246			
第 138 图	竖穴建物出土土器集成图 (22)			
	..... 247			
第 139 图	竖穴建物出土土器集成图 (23)			
	..... 248			
第 140 图	竖穴建物出土土器集成图 (24)			
	..... 249			
第 141 图	竖穴建物出土土器集成图 (25)			
	..... 250			
第 142 图	竖穴建物出土土器集成图 (26)			
	..... 251			
第 143 图	竖穴建物出土土器集成图 (27)			
	..... 252			
第 144 图	竖穴建物出土土器集成图 (28)			
	..... 253			
第 145 图	竖穴建物出土土器集成图 (29)			
	..... 254			
第 146 图	竖穴建物出土土器集成图 (30)			
	..... 255			
第 147 图	竖穴建物出土土器集成图 (31)			
	..... 256			
第 148 图	竖穴建物出土土器集成图 (32)			
	..... 257			
第 149 图	竖穴建物出土土器集成图 (33)			
	..... 258			
第 150 图	竖穴建物出土土器集成图 (34)			
	..... 259			

第195 図	146～151・153～158号土坑	321	第218 図	遺物包含層(2)	349
第196 図	159～167号土坑	322	第219 図	1・2号切土整地、1号盛土整地、 1号性格不明遺構	351
第197 図	168～174・176・181号土坑	323	第220 図	柱穴分布位置図	352
第198 図	175・177～180・182～187号土坑	324	第221 図	柱穴分布図(1)	353
第199 図	188～196号土坑	325	第222 図	柱穴分布図(2)	354
第200 図	197～210号土坑	326	第223 図	柱穴分布図(3)	355
第201 図	211～218号土坑	327	第224 図	柱穴分布図(4)	356
第202 図	219～227・235号土坑	328	第225 図	柱穴分布図(5)	357
第203 図	228～234・236～243号土坑	329	第226 図	縄文土器分類図(1)	375
第204 図	244～257号土坑	330	第227 図	縄文土器分類図(2)	376
第205 図	258～274号土坑	331	第228 図	縄文土器分類図(3)	377
第206 図	275～288号土坑	332	第229 図	縄文土器分類図(4)	378
第207 図	289～303号土坑	333	第230 図	縄文土器分類図(5)	379
第208 図	304～312号土坑	334	第231 図	縄文土器分類図(6)	380
第209 図	1～15号炉	336	第232 図	縄文土器分類図(7)	381
第210 図	16～22号炉、1～8号焼土	337	第233 図	縄文土器分類図(8)	382
第211 図	9～19号焼土、1号鍛冶炉	338	第234 図	縄文土器分類図(9)	383
第212 図	1・2・5～7号溝	340	第235 図	縄文土器分類図(10)	384
第213 図	3・4・8～10・12号溝	341	第236 図	時期別縄文時代堅穴建物分布図	462
第214 図	11・13～19号溝	342	第237 図	遺構外出土土器重量分布図	466
第215 図	1号配石遺構、1～3号土器埋設遺構	344	第238 図	板状土偶の諸例	468
第216 図	4～7号土器埋設遺構	345	第239 図	台形土器の諸例	470
第217 図	遺物包含層(1)	348	第240 図	轡・鍍吊金具・鈎帯金具の諸例	472

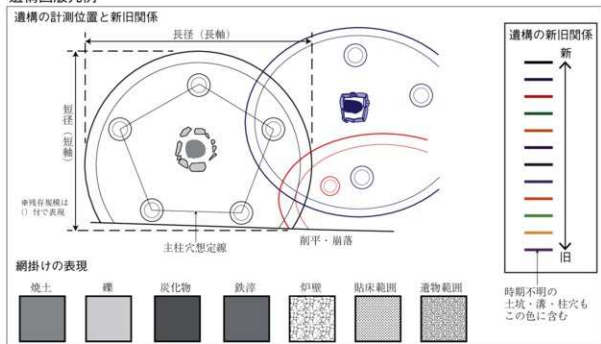
## 表 目 次

第1表	周辺の遺跡	5	第17表	削器観察表	541
第2表	基準点一覧	7	第18表	異形石器観察表	541
第3表	遺構名変更一覧	10	第19表	石核観察表	541
第4表	堅穴建物(縄文時代)一覧	114	第20表	細部加工剥片観察表	542
第5表	堅穴建物(古代)一覧	276	第21表	石斧観察表	543
第6表	土坑一覧	301	第22表	石皿・台石類観察表	544
第7表	炉・焼土一覧	335	第23表	敲磨器類観察表	546
第8表	溝一覧	339	第24表	円盤状石器観察表	550
第9表	柱穴一覧	358	第25表	石製品観察表	550
第10表	縄文土器観察表	477	第26表	土製品観察表	553
第11表	縄文土器(赤彩)観察表	531	第27表	土器片円盤観察表	556
第12表	土師器・須恵器観察表	532	第28表	台形土器観察表	560
第13表	石鏃・尖頭器観察表	534	第29表	金属製品観察表	560
第14表	石錐観察表	539	第30表	鉄生産関連遺物観察表	561
第15表	石匙観察表	539	第31表	土製支脚観察表	561
第16表	跪状石器観察表	541	第32表	陶磁器・ガラス製品観察表	562

## 巻頭写真図版目次

巻頭写真図版 1	遺跡遠景	巻頭写真図版 9	古代の遺構 (2)
巻頭写真図版 2	調査区の状況	巻頭写真図版 10	縄文時代の遺物 (1)
巻頭写真図版 3	縄文時代の遺構 (1)	巻頭写真図版 11	縄文時代の遺物 (2)
巻頭写真図版 4	縄文時代の遺構 (2)	巻頭写真図版 12	縄文時代の遺物 (3)
巻頭写真図版 5	縄文時代の遺構 (3)	巻頭写真図版 13	縄文時代の遺物 (4)
巻頭写真図版 6	縄文時代の遺構 (4)	巻頭写真図版 14	縄文時代の遺物 (5)
巻頭写真図版 7	縄文時代の遺構 (5)	巻頭写真図版 15	縄文時代の遺物 (6)
巻頭写真図版 8	古代の遺構 (1)	巻頭写真図版 16	古代の遺物

### 遺構図版凡例



## I 調査に至る経過

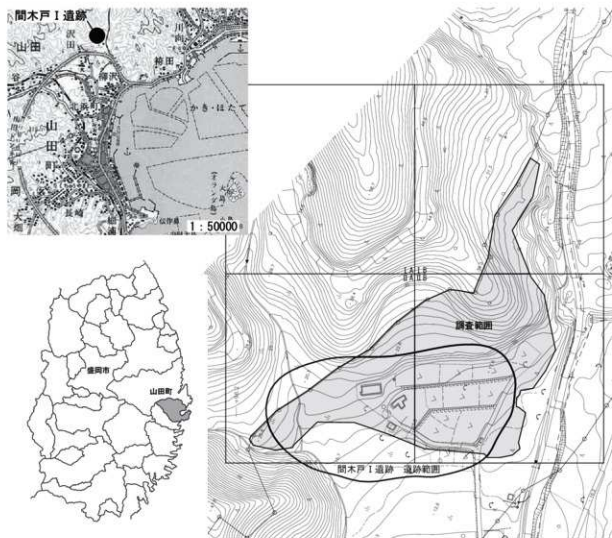
間木戸I遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業（山田～宮古）の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することになったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成24年11月9日付け国東整陸一調第1005号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成25年1月8日～9日にわたり試掘調査を行い、平成25年2月18日付け教生第1619号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成27年4月10日付けで財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)



第1図 遺跡の位置

## II 遺跡の立地と周辺の環境

### 1 地理的環境

#### (1) 遺跡の位置(第1-1図)

問木戸I遺跡は、岩手県の沿岸部、岩手県下閉伊郡山田町山田に所在する。山田町に隣接するのは、北が宮古市、西から南に上閉伊郡大槌町である。山田町は三陸海岸のほぼ中央に位置し、山田湾と船越湾を有する。遺跡が位置する山田町山田地区は、カキ・ホタテなどの養殖が盛んな山田湾に面しており、湾に注ぐ関口川周辺は、宅地や農地として利用されている。また、関口川河口付近は東日本大震災による大津波で甚大なる被害を受けた地域でもある。遺跡は山田町役場から北へ約1.5kmの山林にある。緯度は、39度29分00秒・経度141度57分11秒付近である。調査前は田畑・宅地として利用され、一部で杉が植生されていた。遺跡の北東側には問木戸一里塚が盛土保存されている。東側には問木戸川が南流し、町道が併走している。町道部分は、かつて江戸時代に主要道路として使用されており、これに付随する問木戸一里塚は寛永20年(1643)に、宮古大槌間で完成した9対の一里塚のひとつである。遺跡内からは遺物を地表面でも採取できるため、かつての住民が耕作時に縄文土器や石器・鉄滓等を多量に見つけている。

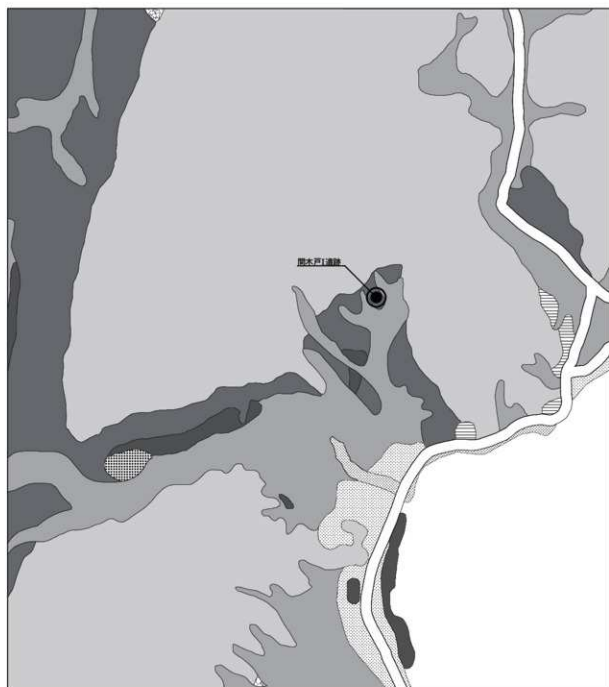
#### (2) 遺跡周辺の地形と地質(第1-2図)

山田町の総面積263.45km<sup>2</sup>のうち、山林は236.04km<sup>2</sup>を占める。西側に北上高地、そこからは丘陵地が連なり、リアス式海岸が太平洋に面している。山田湾に面する低地は、北上高地に連なる標高807mの山母森に水源をもつ関口川により形成された沖積平野である。河口付近で合流する問木戸川は、関口川の左支川で、この問木戸川により開析された谷部に遺跡は所在する。周辺は、風化花崗岩層で構成された標高150m以下の小起伏山地で、関口川周辺の平野部より北側に入り込むため、遺跡は山田湾を望むことはできない場所にある。遺跡周辺には、複数の沢筋が確認でき、調査区外北側では問木戸川と合流していた沢の存在が地形図から読み取れる。これらにより谷底平野状に形成された緩斜面地に本遺跡を含む問木戸遺跡群が立地している。

調査区内の地形は、東側から南側にかけて、問木戸川によって形成された段丘状の緩斜面が縁取られ、中央部には段丘面と考えられる平坦な部分を確認できる。そこから段丘状の斜面地が一部で現れる。北側には台地状の張り出しを持つ尾根と、そこから連なる斜面地が北東や南西に展開される。その斜面地南西側では、縄文時代以降に形成された馬蹄形状の地形が確認されている。中央部下、南側の段丘状斜面地は、当初田畑の存在から改変された地形とも考えたが、竪穴住居跡等の遺構が多く検出されており、近代には自然地形を活かし田畑として利用していたものであろう。また、標高が低くなる南端部では湧水が著しい。調査区内の標高は、14～35mである。

### 2 歴史的環境(第1-3図)

山田町では、平成30年12月時点で525の遺跡が岩手県遺跡台帳に登録されている。遺跡は低地に確認されることは少なく、小起伏山地もしくはその縁辺に確認されているものが多い。ここでは、



第2図 地形分類図

第1-3図に示した遺跡のうち縄文時代・古代・鉄生産関連の遺跡について簡単に触れておく。

縄文時代の遺跡としては、間木戸Ⅱ遺跡(2)・沢田Ⅰ遺跡(36)・沢田Ⅲ遺跡(38)・大畑Ⅰ遺跡(67)等がある。沢田Ⅰ遺跡は、縄文時代から平安時代の遺構が重複する複合遺跡である。沢田Ⅰ遺跡からは現在のところ山田町内で最も古い時代に相当する縄文時代早期の土器片が出土しており、山田湾付近ではこの時期になり人々の生活が始まったものと考えられる。遺跡の主体となる時期は縄文時代前期と中期で、前期の遺構の埋土に十和田中振テフラ(To-Cu)が堆積する大木2a式以前の堅穴建物や、ロングハウスなどの大形建物が複数検出され、中期末葉までの堅穴建物のみられ、この時期まで集落の継続が確認されている。大畑Ⅰ遺跡では、大木10式を主体とした集落が確認され、石囲炉・土器埋設炉・複式炉等様々な形態の炉をもつ堅穴建物や多数の土坑が検出されている。

古代の遺跡としては、間木戸Ⅱ遺跡・房の沢Ⅳ遺跡(45)、大畑Ⅱ遺跡(68)等がある。房の沢Ⅳ遺跡は本遺跡から西側約600mの丘陵上に立地しており、平成8・9年度(第1～3次)調査で7～8世紀の古墳35基が検出され、当該期の群集墳であったことが判明している。古墳は山田湾を望める尾根の斜面地に築造され、主体部からは蕨手刀・刀装具・鉄鎌・馬具等をはじめ、錫製銅や黒曜石等他地域との交流を示す遺物が出土している。本遺跡に隣接する間木戸Ⅱ遺跡では7～8世紀前半の堅穴建物が5軒検出されており、房の沢古墳群に関わりのあった集落と考えられる。大畑Ⅱ遺跡は、10世紀前半の堅穴建物5軒が重複せずに検出されている。堅穴建物には近接して鉄生産関連炉や工房があり、鉄生産に従事した人々の集落と考えられる。

鉄生産関連の遺跡としては、間木戸Ⅴ遺跡(5)・沢田Ⅲ遺跡・後山Ⅰ遺跡(103)・上村遺跡(100)等があり、各遺跡とも鉄生産関連の遺構は丘陵地の南向き斜面に構築される傾向がある。このうち、間木戸Ⅴ遺跡と上村遺跡では奈良時代(8世紀後半)の可能性のある鉄生産関連炉が検出されており、山田町域における製鉄関連遺跡の最古例の可能性がある。しかし、出土遺物から想定される年代観と自然科学分析の測定結果が一致しておらず検討の余地がある。後山Ⅰ遺跡では平安時代後半の製鉄関連遺構が多数検出され、時期差が認められる7棟の工房跡、製鉄炉を含む鉄生産炉が29基、15基の炭窯も検出されている。また、鍛冶工房を再利用したと考えられる堅穴建物のカマド芯材に鉄滓が使用されている事例もある。上村遺跡では、製鉄炉8基、鍛冶炉2基、堅穴建物1軒が検出されている。鉋子など鍛冶工程で使われていた道具類のほか、約2.5tの鉄滓が出土している。沢田Ⅲ遺跡では、古代の製鉄炉18基や炭窯13基等が検出されている。

この他、図幅に含まれない遺跡のうち、当センターが東日本大震災の復興関連調査を実施した遺跡について簡単に触れておきたい。まず、大沢地区にある浜川目沢田Ⅰ遺跡は、標高2～7mの沖積低地上に立地し、縄文時代中期と晩期の複合遺跡であることが判明した(岩文振第689集)。遺構は堅穴建物が中期のものを中心として24軒、貯蔵穴は晩期のものが多数検出されている。また、中期と晩期の遺物包含層が形成されており、前期前葉から晩期中葉までの膨大な量の遺物が出土した。

豊間根地区にある石峠Ⅱ遺跡では、縄文時代の遺構として早期の堅穴建物3軒や前期の堅穴建物約30軒、陥し穴状遺構約300基等が検出されている(岩文振第709集)。また、中世の製鉄炉3基が検出されており、鉄滓をはじめとした鉄生産関連遺物も多量に出土している。船越地区にある焼山遺跡では、古代～中世の鉄生産関連炉が多数検出されている(岩文振第651集)。鉄生産関連炉のほか、炭窯や鍛冶工房、炉壁構築用年度の採掘坑等が検出されており、遺跡内で製鉄から鍛冶という一連の鉄生産工程を行っていた事が判明した。

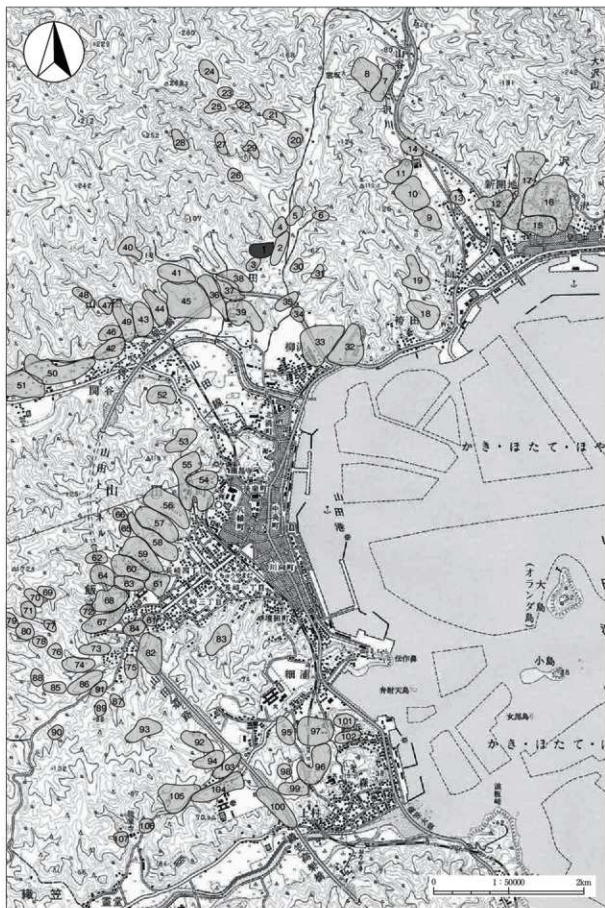
(佐藤・村田)

第1表 周辺の遺跡

No.	遺跡名	住所	種別	主な遺構・遺物	No.	遺跡名	住所	種別	主な遺構・遺物
1	栗木Ⅰ	山田第3地割	散	縄文土器	69	大畑Ⅱ	飯岡第6地割	散	鉄滓
2	栗木Ⅱ	山田第3地割	散	縄文土器	70	大畑Ⅲ	飯岡第6地割	散	鉄滓
3	栗木Ⅲ	山田第3地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓	71	大畑Ⅳ	飯岡第6地割	散	鉄滓
4	栗木Ⅳ	山田第3地割	集・一里塚	縄文土器	72	大畑Ⅴ	飯岡第6地割	散	鉄滓
5	栗木Ⅴ	山田第3地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓・引口	73	長野Ⅰ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓
6	栗木Ⅵ	山田第3地割	鉄	鉄滓	74	長野Ⅱ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓
7	山谷	大沢Ⅱ	散	縄文土器	75	長野Ⅲ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓
8	山谷Ⅰ	大沢Ⅱ3地割	鉄	造成平地、鉄滓	76	長野Ⅳ	飯岡第6地割	鉄	鉄滓
9	川内Ⅰ	大沢Ⅱ向	散	縄文土器	77	長野Ⅴ	飯岡第6地割	鉄	鉄滓
10	川内Ⅱ	大沢Ⅱ向	散	縄文土器	78	長野Ⅵ	飯岡第6地割	鉄	鉄滓
11	川内Ⅲ	大沢Ⅱ向	散	縄文土器	79	長野Ⅶ	飯岡第6地割	鉄	鉄滓
12	新開地	大沢新開地	散	縄文土器・石礫	80	長野Ⅷ	飯岡第6地割	鉄	鉄滓
13	新開地Ⅰ	大沢新開地	散	縄文土器	81	飯岡Ⅰ	飯岡第6地割	城	土器・甕器
14	新開地Ⅱ	大沢新開地	散	縄文土器	82	飯岡Ⅱ	飯岡第6地割	城	土器・甕器・空堀・竈
15	紅山A	大沢紅山	散	縄文土器(前・中・後・晩期)、石器(鏃・槍・斧)	83	飯岡Ⅲ	飯岡第6地割	散	不明
16	紅山B	大沢紅山	集	縄文土器	84	飯岡Ⅳ	飯岡第6地割	散	不明
17	大沢Ⅰ	大沢7地割	城	土器・甕器・空堀	85	赤松Ⅰ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓・引口
18	梅田Ⅰ	大沢梅田	散	縄文土器	86	赤松Ⅱ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器
19	梅田Ⅱ	大沢梅田	散	縄文土器	87	赤松Ⅲ	飯岡第6地割	鉄	鉄滓・引口
20	天舟岡本Ⅰ	山田第3地割	鉄	鉄滓	88	赤松Ⅳ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器・湖片・鉄滓・引口
21	天舟岡本Ⅱ	山田第3地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓	89	赤松Ⅴ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓
22	天舟岡本Ⅲ	山田第3地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓	90	赤松Ⅵ	飯岡第6地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓
23	天舟岡本Ⅳ	山田第3地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓	91	赤松Ⅶ	飯岡第6地割	散	縄文土器
24	天舟岡本Ⅴ	山田第3地割	鉄	鉄滓・引口	92	細浦Ⅰ	縄笠第14地割	散・鉄	縄文土器・赤生土器・鉄滓
25	天舟岡本Ⅵ	山田第3地割	散・鉄	縄文土器・湖片・鉄滓・引口	93	細浦Ⅱ	縄笠第14地割	散	縄文土器
26	天舟岡本Ⅶ	山田第3地割	鉄	鉄滓	94	細浦Ⅲ	縄笠第12地割	散	縄文土器
27	天舟岡本Ⅷ	山田第3地割	鉄	鉄滓・引口	95	細浦Ⅳ	縄笠第12地割	散・城	土器・甕器・縄文土器
28	天舟岡本Ⅸ	山田第3地割	鉄	鉄滓	97	細浦Ⅴ	縄笠第12地割	散・鉄	縄文土器・土師器・鉄滓
29	天舟岡本Ⅹ	山田第3地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓・引口	98	細浦Ⅵ	縄笠第14地割	散	鉄滓
30	山の神	山田第3地割	鉄	鉄滓	99	細浦Ⅶ	縄笠第10地割	集	縄文土器・赤生土器
31	山の神Ⅰ	山田第3地割	散	縄文土器	100	上村	縄笠第9地割	散・鉄	製鉄炉、縄文土器
32	柳沢Ⅰ	山田第1地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓	101	藤浜Ⅰ	縄笠第12地割	散	縄文土器
33	柳沢Ⅱ	山田第1地割	散・鉄・城	縄文土器・湖片・鉄滓	102	藤浜Ⅱ	縄笠第12地割	散	縄文土器
34	柳沢Ⅲ	山田第1地割	散	縄文土器・土師器	103	飯山Ⅰ	縄笠第14地割	散・鉄	製鉄炉、縄文土器・石斧・土師器・鉄滓・引口
35	柳沢Ⅳ	山田第1地割	散	縄文土器・湖片	104	飯山Ⅱ	縄笠第15地割	散	縄文土器
36	沢田Ⅰ	山田第14地割	集	縄文土器・土師器・須恵器	105	飯山Ⅲ	縄笠第14地割	集・鉄	縄文土器・湖片・赤生土器・土師器・鉄滓
37	沢田Ⅱ	山田第4地割	散・鉄・城	土器・甕器・空堀、縄文土器・鉄滓	106	札堂一里塚	縄笠第15地割	一里塚	
38	沢田Ⅲ	山田第4地割	散	縄文土器・湖片	107	札堂	縄笠第15地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓
39	沢田Ⅳ	山田第4地割	散・鉄・城	土器・甕器・甕器・空堀、縄文土器・鉄滓					
40	沢田Ⅴ	山田第14地割	鉄	鉄滓					
41	沢田Ⅵ	山田第14地割	散	縄文土器					
42	房の沢Ⅰ	山田第14地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
43	房の沢Ⅱ	山田第14地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
44	房の沢Ⅲ	山田第14地割	散	縄文土器					
45	房の沢Ⅳ	山田第14地割	古墳	縄文土器・土師器・須恵器・鉄製品					
46	房の沢Ⅴ	山田第15地割	散・鉄	縄文土器・湖片・鉄滓					
47	房の沢Ⅵ	山田第15地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
48	房の沢Ⅶ	山田第15地割	散・鉄	石礫・鉄滓					
49	房の沢Ⅷ	山田第14地割	城	土器・甕器・特殊空堀・柱石					
50	関谷Ⅰ	山田第15地割	散・鉄	縄文土器・石礫・鉄滓					
51	関谷Ⅱ	山田第17地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
52	関谷Ⅲ	山田第9地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
53	関谷Ⅳ	山田第9地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
54	関谷Ⅴ	飯岡第13地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
55	八幡Ⅰ	八幡町第7地割	城	土器・甕器・空堀					
56	長崎Ⅰ	飯岡第10地割	散・城	土器・甕器、縄文土器					
57	長崎Ⅱ	飯岡第9地割	散・城	土器・甕器、縄文土器					
58	長崎Ⅲ	飯岡第8地割	城	土器・二の部、空堀、竈					
59	長崎Ⅳ	飯岡第8地割	城	平地・空堀					
60	小沢Ⅰ	飯岡第7地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
61	小沢Ⅱ	飯岡第7地割	散	縄文土器					
62	小沢Ⅲ	飯岡第7地割	散・鉄	縄文土器・鉄滓					
63	小沢Ⅳ	飯岡第7地割	鉄	鉄滓					
64	小沢Ⅴ	飯岡第7地割	鉄	鉄滓					
65	小沢Ⅵ	飯岡第7地割	鉄	鉄滓					
66	小沢Ⅶ	飯岡第7地割	鉄	鉄滓					
67	大畑Ⅰ	飯岡第6地割	散	縄文土器					
68	大畑Ⅱ	飯岡第6地割	散・城	空堀、縄文土器・須恵器					

※遺跡種別 散布地=「散」、製鉄関連=「鉄」、城跡=「城」、集落=「集」





第3図 周辺の遺跡

## III 調査の方法

## 1 野外調査の方法

## (1) グリッドの設定 (第14図)

調査区の設定は、遺跡の全範囲を網羅するように調査区内に平面直角座標系第X系(世界測地系)に従って基準点の設置を行った。具体的には、 $X = -56,600,000$ 、 $Y = 96,200,000$ の座標を基点として一辺100×100mの正方形グリッド(大グリッド)を設定、さらに各辺を10等分して4×4mの小グリッドを設定した。グリッドの呼称は、北西隅を基点として大グリッドは北から南へI～II、西から東へA～C、小グリッドは北から南へ1～25、西から東へa～yとし、小グリッドは「IA5b」などと呼称している。

調査区には平成26・27年度ともに業務委託によって基準点各2点と補点各4点を打設しており、それをもとにグリッドを設定した。また、調査の進行に応じて構構実測用の補点を調査員が追加で打設している。基準点の座標は第2表の通りである。

第2表 基準点一覧

平成26年度				平成27年度					
点名	グリッド	X	Y	標高(m)	点名	グリッド	X	Y	標高(m)
K-1	-	-56,804,571	96,231,987	24,717	No.1	II A13q	-56,749,030	96,267,442	22,423
K-2	II B2h	-56,706,370	96,237,930	35,463	No.2	II B4j	-56,712,097	96,338,004	33,889
基-1	II A16a	-56,760,004	96,280,020	18,769	基-11	II B7d	-56,724,000	96,316,000	25,250
基-2	II B16j	-56,759,965	96,336,004	16,191	基-12	II B4j	-56,712,000	96,336,000	34,281
補-1	II B4j	-56,712,000	96,336,000	34,156	補-11	II B4h	-56,712,000	96,328,000	34,461
補-2	II A21f	-56,780,012	96,220,034	20,915	補-12	II B9f	-56,732,000	96,330,000	23,323
補-3	II A21u	-56,780,000	96,280,000	16,737	補-13	II A12r	-56,744,000	96,276,000	22,886
補-4	II B21j	-56,779,950	96,336,026	13,358	補-14	II A13r	-56,748,000	96,276,000	22,347
補-5	II B13j	-56,748,000	96,336,000	17,629	補-15	II A6w	-56,730,832	96,294,996	24,332
補-6	II A13a	-56,747,987	96,280,011	21,610	補-16	II B5d	-56,719,422	96,313,068	26,472
補-7	II B13a	-56,748,000	96,356,000	16,298	補-17	II B9f	-56,733,758	96,320,898	22,840
補-8	II B10a	-56,736,000	96,356,000	17,019	補-18	II B9c	-56,733,862	96,310,044	22,132
CBM-1	II B22a	-56,784,026	96,300,040	13,862	CBM-4	II B11a	-56,742,862	96,300,320	20,288
CBM-2	II B21a	-56,780,023	96,300,018	14,110	CBM-5	II B11c	-56,740,390	96,309,383	20,949
CBM-3	II A15u	-56,755,629	96,283,532	19,045	※K-1は調査区外に打設した3級基準点				
SBM-1	II B17a	-56,764,181	96,300,666	15,657					
SBM-2	II B17d	-56,767,168	96,338,111	14,563					
SBM-3	II B16j	-56,760,792	96,338,954	15,188					
SBM-4	II A20a	-56,777,876	96,271,933	16,212					
WBM-1	II A22f	-56,785,706	96,222,370	19,574					
G-7	II A10a	-56,735,972	96,279,986	23,767					
G-8	II B13a	-56,747,943	96,316,000	18,205					
北端区A	I B11p	-56,640,000	96,360,000	25,816					
北端区B	I B17m	-56,664,000	96,532,000	24,170					

## (2) 精査の方法および遺構の記録

調査に先立って調査区内の雑物撤去を行い、続いて遺構の有無を確認するために数箇所にてトレンチを設定して人力で試掘を行った。試掘の結果をうけ、遺構検出面及び遺物包含層上面までは調査の迅速化と人力掘削量の軽減を図るため、調査員監督の下、重機（バックホー）によって表土（I層）を掘削し、その後人力で遺構検出を行った。

検出した遺構には釘やすプレーを使ってマーキングし、さらに一部の遺構については検出状況の写真撮影を行った。遺構名は、平成26年度の調査では9月以降複数の調査班に分かれたため、明確な調査区の区分はしていないが、班毎に遺構略号の後ろにアルファベット（A・B・C・K等）を付した略号とを使用した。また、平成27年度は前年度から継続して精査を行っている遺構を除いては略号の後ろに「D」を付したものをを使用した。なお、これらの遺構名は、最終的に室内整理の段階で第3表のように変更している。

遺構の掘り下げは4分法と2分法を使い分け、土層観察を行いながら進めた。掘り下げには主に移植窓を使用し、遺物の集中する地点などでは竹笥なども使用している。遺構のプランや新旧関係が不明な場合は適宜サブトレンチを設定して層位確認を行っている。

遺構については、完掘、土層断面、遺物出土など状況に応じて写真撮影と実測図の作成を行っている。遺構の平面図は、実測用ソフト「遺構くん」(株Cubic社製)を用いて収集した数値データをもとにパソコン上で図化した。断面図は、簡易遣り方測量とデジタルカメラ画像を用いた写真解析図化作業(業務委託)、「遺構くん」による計測で作成した。

遺構の写真撮影には、6×7cm判カメラ(モノクロ)とデジタルカメラ(キヤノン社製一眼レフタイプ、2020万画素)を使用した。6×7cm判は記録保存、デジタルカメラは報告書作成及び広報・普及を目的として撮影しているが、基本的に6×7cm判で撮影したものについてはデジタルカメラでも同一カットの撮影を行っている。

## (3) 広報・普及啓発活動

平成27年6月20日 現地説明会開催(約135名参加)

平成27年6月23日 遺跡見学(山田町立山田北小学校6年生12名)

平成29年9月28～30日 『復興発掘調査展 in 山田町』での遺物展示及びスライド報告

## 2 調査経過

平成25年度は、尾根頂部を中心とする1,600㎡について重機による表土除去作業を行った。掘削は11月5日から開始し、11月28日に終了した。

平成26年度は、4月8日に調査用資材を搬入、調査の進捗に合わせて三陸国道事務所・県生涯学習文化課・当センターで現地協議や部分終了確認を複数回行いながら進行し、7,660㎡分の調査を終了し、残る2,140㎡の養生を行って12月19日に当該年度分の野外調査を終了した。

平成27年度は、4月17日から野外調査を再開し、前年度と同じく現地協議や部分終了確認を行いながら進行し、8月7日に資材を撤収して野外調査の一切を終了した。

### 3 室内整理の方法

#### (1) 遺 構

今回の調査では一部の遺構について写真解析図化作業を業務委託しており、遺構図面は①「遺構くん」で作成したデジタルデータ、②簡易造り方測量による断面図、③写真解析によるデジタルデータの3者が作成されている。平面図は原則として全て①のデータであるため、図面の合合作業（修正図の作成）については断面図のデータ種別に応じて以下の通り整理を行った。

##### ①簡易造り方測量の場合

断面図は実測図を等倍でスキャニング（解像度 200～300dpi）して Adobe Illustrator CS4・6 でトレースを行う。「遺構くん」データは EPS 形式に変換し、トレースした断面図と同縮尺で同じ画面上に貼り付ける。両者のセクションポイントの位置を描いて調整を行い、修正図を作成する。

##### ②写真解析によるデジタルデータの場合

委託先に「遺構くん」で作成したデジタルデータを DXF 形式で送付し、一枚の画像の中に①と同じく平面図と断面図が含まれている図面の作成を依頼する。作成された図面は紙ベースに打ち出し、原稿の校正と同じ要領で指示書きをして調整を行う。

なお、修正図完成後は土層注記のテキストデータをファイルに貼り付け、さらに当センターの版面（縦 24.0×横 16.0cm）に収まるように Illustrator のデータ上でレイアウト、網掛け処理、キャプションの記入を行い、AI または EPS 形式のファイルを完成品として印刷業者に納入した。

遺構写真図版については、野外調査時にデジタル一眼レフカメラで撮影した画像（RAW データ）を JPEG 形式に変換し、一部画像のトリミングを行った後に Adobe In Design CS6 を用いて割付を行った。印刷時には In Design で作成した割付データと画像の JPEG データを印刷業者に納入し、色調整は校正時に行っている。

#### (2) 遺 物

遺物の処理は、平成 26・27 年とも土器類の洗浄から開始した。土器類は水洗・乾燥後に土器（縄文土器・土師器・須恵器）、土製品、石器・石製品、金属製品、陶磁器、鉄生産関連遺物（鉄滓・羽口・炉壁）、動物遺存体に選別した。各種別の遺物の処理状況は以下の通りである。

**土器・土製品** 洗浄後、重量を計測しながら遺構・グリッド毎に仕分けを行った。総量が膨大であったため全点の注記は行わず、接合の際に必要なのみを行った。接合をしながら遺構内出土のもので器形の復元が可能なものを選別、続いて遺構外出土のものは器形及び文様の特徴があるものを中心に登録を行った。登録を行った後に重量計測を行い、必要なものについては復元作業を行った。これらの行程を経て、報告書掲載遺物については実測・拓本を行った。

**石器・石製品** 洗浄後、加工・使用の有無を確認しながら剥片石器・礫石器・石製品に分類した。分類した後にさらに細分類を行い（細分類は第 V 章参照）、登録作業を行った。実測については石製品の一部を除いて業務委託を実施している。

**金属製品** 点数が少ないため、錯落しをしながら形状を確認し、代表的なものについては登録・実測を行った。銭貨も点数が少ないため、拓本が可能なものについて登録・拓本を行った。また、一部のものについては破損防止のために保存処理作業を委託している（第 VI 章第 9 節）。

**陶磁器** 出土量が少ないため、代表的なものについて登録を行い、実測及び写真撮影を行った。

第3表 遺構名変更一覧

型穴建物(縄文)		型穴建物(縄文)		型穴建物(縄文)		型穴建物(縄文)	
新	旧	新	旧	新	旧	新	旧
A.1号型穴建物	→ S101a	A61号型穴建物	→ S867	A121号型穴建物	→ S1D33	A181号型穴建物	→ S1D96
A.2号型穴建物	→ S101b	A62号型穴建物	→ S69a	A122号型穴建物	→ S1D34	A182号型穴建物	→ S1D97
A.3号型穴建物	→ S102	A63号型穴建物	→ S69b	A123号型穴建物	→ S1D35	A183号型穴建物	→ S1D98
A.4号型穴建物	→ S103	A64号型穴建物	→ S69c	A124号型穴建物	→ S1D36	A184号型穴建物	→ S1D99
A.5号型穴建物	→ S104	A65号型穴建物	→ S70	A125号型穴建物	→ S1D37	A185号型穴建物	→ S1D101
A.6号型穴建物	→ S105	A66号型穴建物	→ S71	A126号型穴建物	→ S1D38a	A186号型穴建物	→ S1D104
A.7号型穴建物	→ S106	A67号型穴建物	→ S1K01	A127号型穴建物	→ S1D38b	A187号型穴建物	→ S1D105
A.8号型穴建物	→ S109	A68号型穴建物	→ S1K02	A128号型穴建物	→ S1D39	A188号型穴建物	→ S1D106
A.9号型穴建物	→ S110	A69号型穴建物	→ S1K03	A129号型穴建物	→ S1D30	A189号型穴建物	→ S1D110
A10号型穴建物	→ S111	A70号型穴建物	→ S1K04	A130号型穴建物	→ S1D32	A190号型穴建物	→ S1D111
A11号型穴建物	→ S115	A71号型穴建物	→ S1K05	A131号型穴建物	→ S1D33	A191号型穴建物	→ S1D112
A12号型穴建物	→ S116	A72号型穴建物	→ S1K06	A132号型穴建物	→ S1D34	A192号型穴建物	→ S1D113
A13号型穴建物	→ S117	A73号型穴建物	→ S1K07	A133号型穴建物	→ S1D35	A193号型穴建物	→ S1D114
A14号型穴建物	→ S119	A74号型穴建物	→ S1K08	A134号型穴建物	→ S1D36	A194号型穴建物	→ SKD52
A15号型穴建物	→ S120	A75号型穴建物	→ S1K09	A135号型穴建物	→ S1D37	A195号型穴建物	→ SKD04
A16号型穴建物	→ S121	A76号型穴建物	→ S1K10	A136号型穴建物	→ S1D38	A196号型穴建物	→ Aトロンに 移る(住居)
A17号型穴建物	→ S122	A77号型穴建物	→ S1K11	A137号型穴建物	→ S1D39	A197号型穴建物	→ S1D91
A18号型穴建物	→ S125a	A78号型穴建物	→ S1K12	A138号型穴建物	→ S1D40	A198号型穴建物	→ S1D93
A19号型穴建物	→ S125a	A79号型穴建物	→ S1K13	A139号型穴建物	→ S1D41	A199号型穴建物	→ S1D92
A30号型穴建物	→ S124	A80号型穴建物	→ S1K14	A140号型穴建物	→ S1D42	A200号型穴建物	→ S1D94
A21号型穴建物	→ S126	A81号型穴建物	→ S1K15	A141号型穴建物	→ S1D43a	A201号型穴建物	→ S1D95
A22号型穴建物	→ S127	A82号型穴建物	→ S1C05	A142号型穴建物	→ S1D43b	A202号型穴建物	→ S1D96
A23号型穴建物	→ S128	A83号型穴建物	→ S1C06	A143号型穴建物	→ S1D44	A203号型穴建物	→ S1D99
A24号型穴建物	→ S129	A84号型穴建物	→ S1C08	A144号型穴建物	→ S1D45	A204号型穴建物	→ S1D10
A25号型穴建物	→ S1D30-31	A85号型穴建物	→ S1C09	A145号型穴建物	→ S1D49	A205号型穴建物	→ S1D11
A26号型穴建物	→ S132	A86号型穴建物	→ S1C11	A146号型穴建物	→ S1D50	A206号型穴建物	→ S1D13
A27号型穴建物	→ S133	A87号型穴建物	→ S1C12①	A147号型穴建物	→ S1D52	A207号型穴建物	→ S1D14
A28号型穴建物	→ S134	A88号型穴建物	→ S1C12①-②	A148号型穴建物	→ S1D53	A208号型穴建物	→ S1D15
A29号型穴建物	→ S135	A89号型穴建物	→ S1C12②	A149号型穴建物	→ S1D54	A209号型穴建物	→ S1D16
A30号型穴建物	→ S136	A90号型穴建物	→ S1C14	A150号型穴建物	→ S1D55	A210号型穴建物	→ S1D17
A31号型穴建物	→ S137	A91号型穴建物	→ S1C16	A151号型穴建物	→ S1D56	A211号型穴建物	→ S1D21
A32号型穴建物	→ S138	A92号型穴建物	→ S1C17	A152号型穴建物	→ S1D57	A212号型穴建物	→ S1D22
A33号型穴建物	→ S139	A93号型穴建物	→ S1C18	A153号型穴建物	→ S1D58	A213号型穴建物	→ S1D23
A34号型穴建物	→ S140	A94号型穴建物	→ S1C21	A154号型穴建物	→ S1D59	A214号型穴建物	→ S1D24
A35号型穴建物	→ S147	A95号型穴建物	→ S1C23	A155号型穴建物	→ S1D60	A215号型穴建物	→ S1D26
A36号型穴建物	→ S142	A96号型穴建物	→ S1C24	A156号型穴建物	→ S1D61	A216号型穴建物	→ S1D27
A37号型穴建物	→ S143	A97号型穴建物	→ S1C25	A157号型穴建物	→ S1D64	A217号型穴建物	→ S1D28- SKD94
A38号型穴建物	→ S144	A98号型穴建物	→ S1C26	A158号型穴建物	→ S1D65	A218号型穴建物	→ S1D29
A39号型穴建物	→ S144下層	A99号型穴建物	→ S1C22	A159号型穴建物	→ S1D66	A219号型穴建物	→ S1D30
A40号型穴建物	→ S145	A100号型穴建物	→ S1C28	A160号型穴建物	→ S1D69	A220号型穴建物	→ S1D31
A41号型穴建物	→ S148	A101号型穴建物	→ S1C29	A161号型穴建物	→ S1D68	A221号型穴建物	→ S1D32
A42号型穴建物	→ S149a	A102号型穴建物	→ S1C30	A162号型穴建物	→ S1D69	A222号型穴建物	→ S1D33
A43号型穴建物	→ S149b	A103号型穴建物	→ S1C31	A163号型穴建物	→ S1D72	A223号型穴建物	→ S1D34
A44号型穴建物	→ S1D50-51	A104号型穴建物	→ S1C29	A164号型穴建物	→ S1D73	A224号型穴建物	→ S1D35
A45号型穴建物	→ S1D100遺構	A105号型穴建物	→ S1D04	A165号型穴建物	→ S1D74	A225号型穴建物	→ S1D36
A46号型穴建物	→ S1K36	A106号型穴建物	→ S1D05	A166号型穴建物	→ S1D75	A226号型穴建物	→ S1D37
A47号型穴建物	→ S136	A107号型穴建物	→ S1D06	A167号型穴建物	→ S1D76	A227号型穴建物	→ S1D39
A48号型穴建物	→ S154	A108号型穴建物	→ S1D07	A168号型穴建物	→ S1D77	A228号型穴建物	→ S1D40
A49号型穴建物	→ S155	A109号型穴建物	→ S1D08	A169号型穴建物	→ S1D78	A229号型穴建物	→ S1D41
A50号型穴建物	→ S1K43	A110号型穴建物	→ S1D11	A170号型穴建物	→ S1D80a	A230号型穴建物	→ S1D42
A51号型穴建物	→ S157	A111号型穴建物	→ S1D12	A171号型穴建物	→ S1D80b	A231号型穴建物	→ S1A-01-1
A52号型穴建物	→ S158	A112号型穴建物	→ S1D13	A172号型穴建物	→ S1D81	A232号型穴建物	→ S1A-01-2
A53号型穴建物	→ S159	A113号型穴建物	→ S1D14E	A173号型穴建物	→ S1D86	A233号型穴建物	→ S1A-01-3
A54号型穴建物	→ S160	A114号型穴建物	→ S1D14W	A174号型穴建物	→ S1D87	A234号型穴建物	→ S1A-01-4
A55号型穴建物	→ S161	A115号型穴建物	→ S1D15	A175号型穴建物	→ S1D88	A235号型穴建物	→ S1A-02
A56号型穴建物	→ S162	A116号型穴建物	→ S1D18	A176号型穴建物	→ S1D90	A236号型穴建物	→ S1A-03
A57号型穴建物	→ S163	A117号型穴建物	→ S1D19	A177号型穴建物	→ S1D92	A237号型穴建物	→ S1A-04a
A58号型穴建物	→ S164	A118号型穴建物	→ S1D20	A178号型穴建物	→ S1D93	A238号型穴建物	→ S1A-04b
A59号型穴建物	→ S165	A119号型穴建物	→ S1D21	A179号型穴建物	→ S1D94	A239号型穴建物	→ S1A-05
A60号型穴建物	→ S166	A120号型穴建物	→ S1D22	A180号型穴建物	→ S1D95		

整穴建物(備文)	
新	旧
A240号整穴建物	SI-A06
A241号整穴建物	SI-A07
A242号整穴建物	SI-A09
A243号整穴建物	SI-A08
A244号整穴建物	SI-A13
A245号整穴建物	SI-A12
A246号整穴建物	SI-A11
A247号整穴建物	SI-A10
A248号整穴建物	SI-A14
A249号整穴建物	SI-A15
A250号整穴建物	SI-A16
A251号整穴建物	SI-A17
A252号整穴建物	SI-A18
A253号整穴建物	SI-A19

整穴建物(古代)	
新	旧
B19号整穴建物	SI07
B29号整穴建物	SI12
B39号整穴建物	SI13
B49号整穴建物	SI14
B59号整穴建物	SI18
B69号整穴建物	SI201
B79号整穴建物	SI201
B89号整穴建物	SI202
B99号整穴建物	SI210
B109号整穴建物	SI201
B119号整穴建物	SI202
B129号整穴建物	SI209
B139号整穴建物	SI210
B149号整穴建物	SI213
B159号整穴建物	SI215
B169号整穴建物	SI247
B179号整穴建物	SI208
B189号整穴建物	SI212
B199号整穴建物	SI218
B209号整穴建物	SI219
B219号整穴建物	SI220
B229号整穴建物	SI238
B239号整穴建物	SI208

土 坑	
新	旧
1号土坑	SK01
2号土坑	SK02
3号土坑	SK03
4号土坑	SK04
5号土坑	SK05
6号土坑	SK06
7号土坑	SK07
8号土坑	SK08
9号土坑	SK09
10号土坑	SK10
11号土坑	SK11
12号土坑	SK12
13号土坑	SK13
14号土坑	SK14
15号土坑	SK15
16号土坑	SK16
17号土坑	SK17

土 坑	
新	旧
18号土坑	SK18
19号土坑	SK20
20号土坑	SK21
21号土坑	SK22
22号土坑	SK23
23号土坑	SK24
24号土坑	SK25
25号土坑	SK26
26号土坑	SK27
27号土坑	SK29
28号土坑	SK30
29号土坑	SK31
30号土坑	SK32
31号土坑	SK33
32号土坑	SK34
33号土坑	SK35
34号土坑	SI62P11
35号土坑	SK37
36号土坑	SK38
37号土坑	SK39
38号土坑	SK40
39号土坑	SK41
40号土坑	SK42
41号土坑	SK44
42号土坑	SK45
43号土坑	SK46
44号土坑	SK47
45号土坑	SK48
46号土坑	SK49
47号土坑	SK50
48号土坑	SK51
49号土坑	SK52
50号土坑	SK53
51号土坑	SK54
52号土坑	SK55
53号土坑	SK56
54号土坑	SK57
55号土坑	SK59
56号土坑	SK61
57号土坑	SK62
58号土坑	SK63
59号土坑	SK64
60号土坑	SK65
61号土坑	SK66
62号土坑	SK67
63号土坑	SK68
64号土坑	SI49SK01
65号土坑	SK70
66号土坑	SKK01
67号土坑	SKK02
68号土坑	SKK04
69号土坑	SKK06
70号土坑	SKK05
71号土坑	SKK07
72号土坑	SKK08
73号土坑	SKK09
74号土坑	SKK10
75号土坑	SKK11
76号土坑	SKK12
77号土坑	SKK13

土 坑	
新	旧
78号土坑	SKK14
79号土坑	SKK15
80号土坑	SKK16
81号土坑	SKN01
82号土坑	SKN02
83号土坑	SKN03
84号土坑	SKN04
85号土坑	SKN05
86号土坑	SKN06
87号土坑	SKN07
88号土坑	SKN08
89号土坑	SKN09
90号土坑	SKN10
91号土坑	SKN11
92号土坑	SKC01
93号土坑	SKC02
94号土坑	SKC03
95号土坑	SKC04
96号土坑	SKC05
97号土坑	SKC06
98号土坑	SKC07
99号土坑	SKC08
100号土坑	SKC09
101号土坑	SKC10
102号土坑	SKC12
103号土坑	SKC13
104号土坑	SKC15
105号土坑	SKC18
106号土坑	SKC19
107号土坑	SKC20
108号土坑	SKC21
109号土坑	SKC22
110号土坑	SKC23
111号土坑	SKC24
112号土坑	SKC25
113号土坑	SKD01
114号土坑	SKD02
115号土坑	SKD03
116号土坑	SKD05
117号土坑	SKD06
118号土坑	SKD06
119号土坑	SKD07
120号土坑	SKD25
121号土坑	SKD08
122号土坑	SKD09
123号土坑	SKD10
124号土坑	SKD11
125号土坑	SKD12
126号土坑	SKD13
127号土坑	SKD14
128号土坑	SKD15
129号土坑	SKD16
130号土坑	SKD17
131号土坑	SKD18
132号土坑	SKD20
133号土坑	SKD21a
134号土坑	SKD21b
135号土坑	SKD22
136号土坑	SKD23
137号土坑	SKD24

土 坑	
新	旧
138号土坑	SKD25
139号土坑	SKD26
140号土坑	SKD27
141号土坑	SKD28
142号土坑	SKD29
143号土坑	SKD30
144号土坑	SKD31
145号土坑	SKD32
146号土坑	SKD33
147号土坑	SKD34
148号土坑	SKD35
149号土坑	SKD36
150号土坑	SKD38
151号土坑	SKD39
152号土坑	SKD40
153号土坑	SKD41
154号土坑	SKD42
155号土坑	SKD43
156号土坑	SKD44
157号土坑	SKD42
158号土坑	SKD46
159号土坑	SKD47
160号土坑	SKD48
161号土坑	SKD49
162号土坑	SKD59
163号土坑	SKD51
164号土坑	SKD53
165号土坑	SKD54
166号土坑	SKD55
167号土坑	SKD56
168号土坑	SKD57
169号土坑	SKD58
170号土坑	SKD59
171号土坑	SKD60
172号土坑	SKD61
173号土坑	SKD62
174号土坑	SKD63
175号土坑	SKD64
176号土坑	SKD65
177号土坑	SKD66
178号土坑	SKD67
179号土坑	SKD68
180号土坑	SKD69
181号土坑	SKD70
182号土坑	SKD71
183号土坑	SKD72
184号土坑	SKD73
185号土坑	SKD74
186号土坑	SKD75
187号土坑	SKD76
188号土坑	SKD77
189号土坑	SKD78
190号土坑	SKD79
191号土坑	SKD80a
192号土坑	SKD80b
193号土坑	SKD81
194号土坑	SKD82
195号土坑	SKD83
196号土坑	SKD84
197号土坑	SKD85

### 3 室内整理の方法

土 坑		土 坑		土 坑		骨・焼土・炭治骨	
新	旧	新	旧	新	旧	新	旧
198号土坑	SKD86	241号土坑	SKF19	284号土坑	SKA34	1号炉	SN05
199号土坑	SKD87	242号土坑	SKF20	285号土坑	SKA35	2号炉	SN10
200号土坑	SKD88	243号土坑	SKF21	286号土坑	SKA36	3号炉	SN11
201号土坑	SKD89	244号土坑	SKF22	287号土坑	SKA37	4号炉	SN12
202号土坑	SKD90	245号土坑	SKF23	288号土坑	SKA38	5号炉	SN13
203号土坑	SKD92	246号土坑	SKF24	289号土坑	SKA39	6号炉	SN14
204号土坑	SKD93	247号土坑	SKF25	290号土坑	SKA40	7号炉	SN15
205号土坑	SKD95	248号土坑	SKF26	291号土坑	SKA41	8号炉	SN16
206号土坑	SKD94	249号土坑	SKF27	292号土坑	SKA42	9号炉	SN17
207号土坑	SKD96	250号土坑	SKF28	293号土坑	SKA43	10号炉	SN18
208号土坑	SKD97	251号土坑	SKF29	294号土坑	SKA44	11号炉	SN19
209号土坑	SKD98	252号土坑	SKF30	295号土坑	SKA45	12号炉	SN21
210号土坑	SKD99	253号土坑	SKF31	296号土坑	SKA46	13号炉	SN22
211号土坑	SKD100	254号土坑	SKA01	297号土坑	SKA47	14号炉	SN201
212号土坑	SKD101	255号土坑	SKA02	298号土坑	SKA48	15号炉	SN206
213号土坑	SKD102	256号土坑	SKA03	299号土坑	SKA49	16号炉	SN207
214号土坑	SKD103	257号土坑	SKA04	300号土坑	SKA50	17号炉	SN210
215号土坑	SKD104	258号土坑	SKA05	301号土坑	SKA51	18号炉	SN211
216号土坑	SKD105	259号土坑	SKA06	302号土坑	SKA52	19号炉	SN212
217号土坑	SKD106	260号土坑	SKA07	303号土坑	SKA53	20号炉	SN214
218号土坑	SKD107	261号土坑	SKA08	304号土坑	SKA54	21号炉	SN202
219号土坑	SKD108	262号土坑	SKA09	305号土坑	SKA55	22号炉	SN805
220号土坑	SKD109	263号土坑	SKA10	306号土坑	SKA57	1号焼土	SN20
221号土坑	SKD110	264号土坑	SKA11	307号土坑	SKA59	2号焼土	SN202
222号土坑	SKD111	265号土坑	SKA13	308号土坑	SKA61	3号焼土	SF202
223号土坑	SKD112	266号土坑	SKA14	309号土坑	SKA62	4号焼土	SF211
224号土坑	SKD113	267号土坑	SKA15	310号土坑	SKA63	5号焼土	SF213
225号土坑	SKF01	268号土坑	SKA16	311号土坑	SKF201	6号焼土	SF219
226号土坑	SKF02	269号土坑	SKA17	312号土坑	SF228	7号焼土	SF220
227号土坑	SKD03	270号土坑	SKA18			8号焼土	SF221
228号土坑	SKB04	271号土坑	SKA19			9号焼土	SF222a
229号土坑	SKD05	272号土坑	SKA20			10号焼土	SF222b
230号土坑	SKB06	273号土坑	SKA21			11号焼土	SF223
231号土坑	SKD08	274号土坑	SKA22			12号焼土	SF224
232号土坑	SKB09	275号土坑	SKA23			13号焼土	SF225
233号土坑	SKB10	276号土坑	SKA24			14号焼土	SF229
234号土坑	SKB11	277号土坑	SKA26			15号焼土	SN201
235号土坑	SKB13	278号土坑	SKA28			16号焼土	SN803
236号土坑	SKB14	279号土坑	SKA29			17号焼土	SF208
237号土坑	SKB15	280号土坑	SKA30			18号焼土	SXD08SP2
238号土坑	SKB16	281号土坑	SKA31			19号焼土	SXD08SP1
239号土坑	SKB17	282号土坑	SKA32			1号炭治骨	SF204
240号土坑	SKB18	283号土坑	SKA33				

土器・施設遺構		その他	
新	旧	新	旧
1号土器埋設	SD09代変	1号竈石遺構	SX05
2号土器埋設	SXD04	1号切土跡地	SXB02
3号土器埋設	SXD06	2号切土跡地	SXB05
4号土器埋設	SXD07	1号竈土跡地	SXB01
5号土器埋設	SXD09	1号不明遺構	SX01
6号土器埋設	SXB04		
7号土器埋設	SXD06		

溝	
新	旧
1号溝	SD01
2号溝	SD02
3号溝	SD021
4号溝	SD022
5号溝	SD001
6号溝	SD002
7号溝	SD003
8号溝	SD004
9号溝	SD005
10号溝	SD001
11号溝	SD002
12号溝	SD003
13号溝	SD005
14号溝	SDA04
15号溝	SDA05
16号溝	SDA06
17号溝	SDA07
18号溝	SDA08
19号溝	SDA09

鉄生産関連遺物 種別ごとに重量を計測したのち、鉄滓については形状をもとに分類を行った。分類基準については第V章に記載している。

動物遺存体 獣骨・貝類等の大分類を行い、代表的なものについては種別同定を業務委託した（第VI章第4節）。

なお、実測を行った遺物については全てIllustratorでトレースを行い、版下を組んで遺物図版を作成した。（村田）

## IV 検出遺構

### 1 調査概要

#### (1) 遺 構

間木戸Ⅰ遺跡は、山田湾に向かって南東方向に張り出した丘陵尾根の南側斜面部約8,500㎡を遺跡範囲とし(第1-1図)、山田町教育委員会による分布調査で縄文土器片が出土している(山田町教委2002)。遺跡範囲の東側には沢が流れており、沢を挟んで東側には間木戸Ⅱ・Ⅴ遺跡及び間木戸一里塚(間木戸Ⅳ遺跡)が位置している。なお、今回の三陸沿岸道路建設に伴い岩手県教育委員会生涯学習文化課が遺跡範囲の北側隣接地の試掘調査を行ったところ、そこでも遺構・遺物が確認されたことから遺跡範囲が広がっており、発掘調査は旧来の遺跡範囲である尾根の南側斜面に尾根の頂部及び尾根の北側斜面部を加えた9,800㎡を対象として実施した。

調査区内の地形は、南東方向に張り出した複数の尾根先とその東側に広がる黒～黒褐色土が厚く堆積する沢状地形から成り(第1-4図)、沢状地形の低位部では現在でも湧水が著しい。遺構・遺物の第一検出面は12～34mであるが、後述するように調査区内では複数の検出面が確認されている。なお、調査前の現況は畑地及び水田であり、グリッド設定以前の遺構・遺物の検出地点については第5図のように名称を付した。

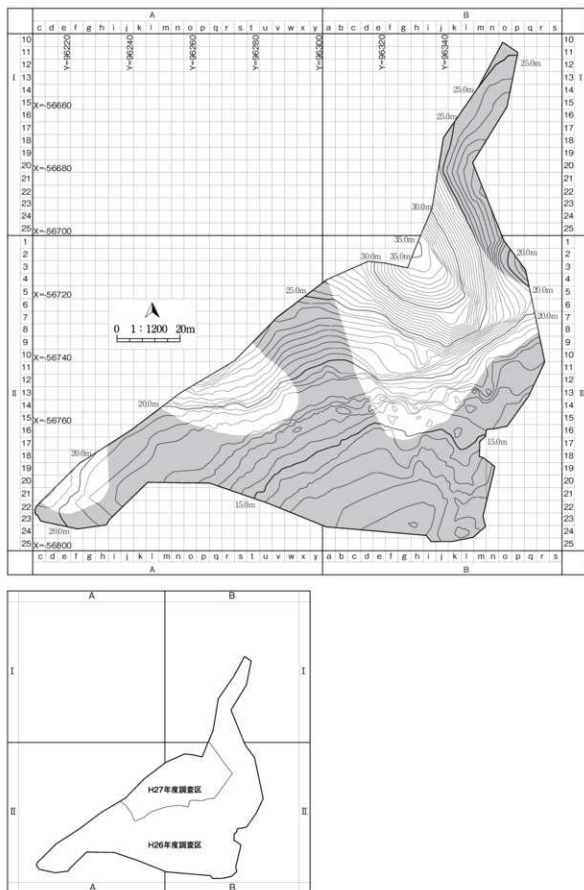
検出した遺構は、縄文時代(前期後葉～後期初頭)の竪穴建物253軒、古代(平安時代)の竪穴建物23軒、土坑312基(縄文時代・古代・近世・時期不明)、炉23基(縄文時代)、焼土19基(縄文時代・古代)、鉄生産関連炉1基(古代)、溝19条(縄文時代・古代・近世以降)、配石遺構1箇所(縄文時代)、土器埋設遺構7基(縄文時代)、遺物包含層2箇所(縄文時代)、整地3箇所(近世以降)、性格不明溝1基(時期不明)、柱穴2805個である。時代的には大きく縄文時代・古代・近世(以降)に分けられ、時代ごとに分布傾向は異なる(第1-6～11図)。縄文時代の遺構は、北端区を除いたほとんどの範囲で検出されているが、竪穴建物・炉・焼土・土器埋設遺構は沢状地形の縁辺から内部、貯蔵穴を主体とする土坑類は尾根頂部から沢状地形縁辺部に集中しており、沢状地形縁辺部では両者が重複して検出されている。また、竪穴建物はほとんどが他の竪穴建物と重複関係にあり、同一の範囲内で地点を少しずつ移動しながら構築・使用を繰り返していたものと考えられる。古代の遺構は竪穴建物が主体で、北端区で検出されたものを除いて基本的には沢状地形を避けて尾根上に構築されており、縄文時代の遺構とは立地が大きく異なる。また、近世以降の遺構に付いても古代の遺構と同じく沢状地形を避けて構築されるものが多い。

#### (2) 層 序

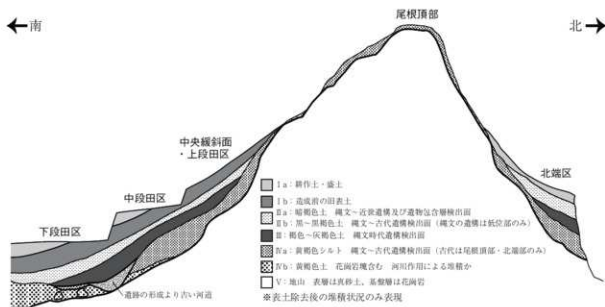
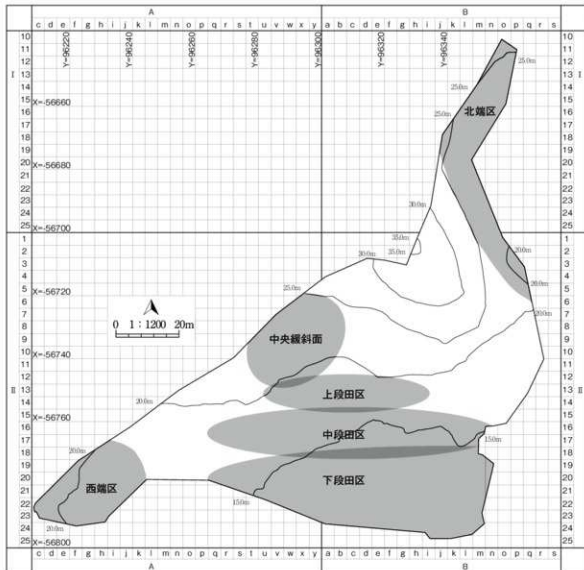
調査区壁面及び調査区内の土層確認トレンチ(A～Cトレンチ)で確認しており(第1-12図)、調査範囲の層序は第5図ようになる。堆積状況は尾根頂部と斜面部で異なり、尾根頂部では表土直下で地山であるV層が変成した真砂土層であるIV a層が薄く堆積するのみである。斜面部は尾根頂部と異なりV層直上に堆積するIV a・b層が厚く、この面が遺構の最終検出面となる。IV層の上位に堆積するⅢ層は基本的には沢状地形内に堆積した水成堆積層で、縄文時代の遺構の多くがこの面で検出されている。なお、調査範囲内ではⅢ層より新しいと考えられる細い沢跡も確認されているが、これら



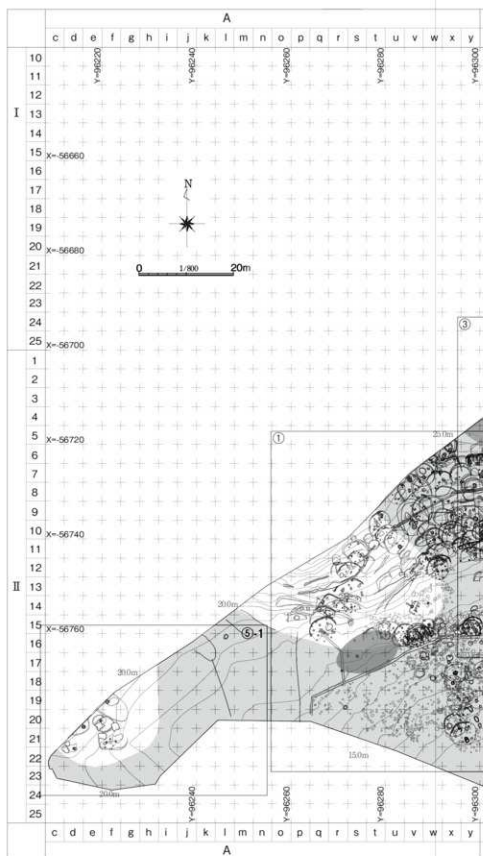
1 調査概要



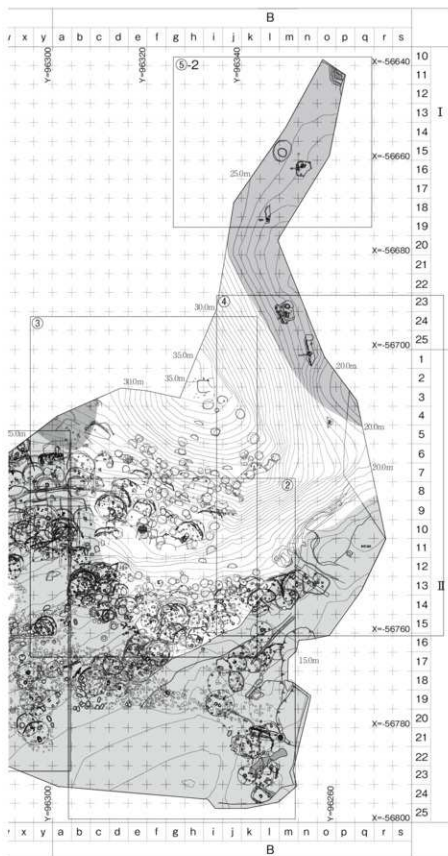
第4図 グリッド・等高線図

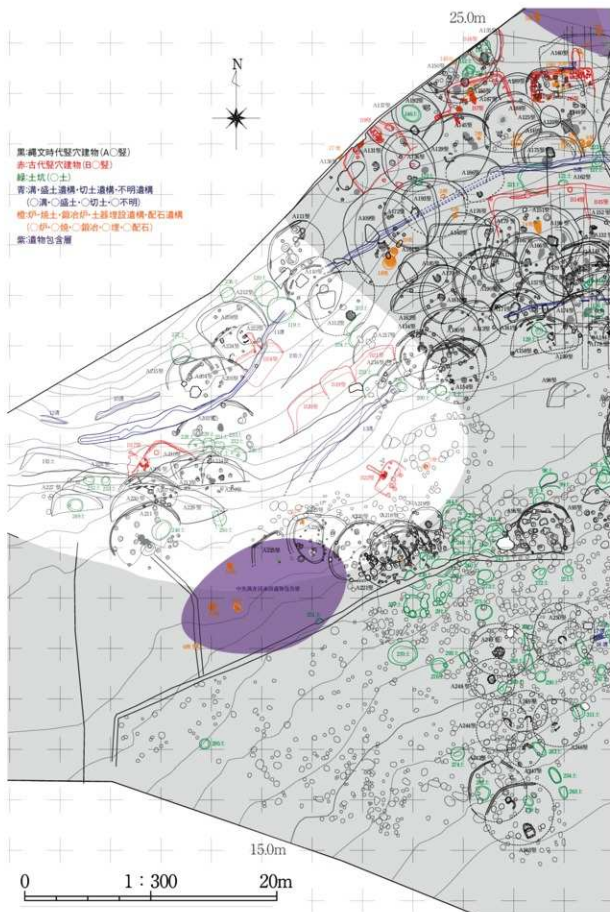


第5図 遺物取り上げ地点・基本層序図

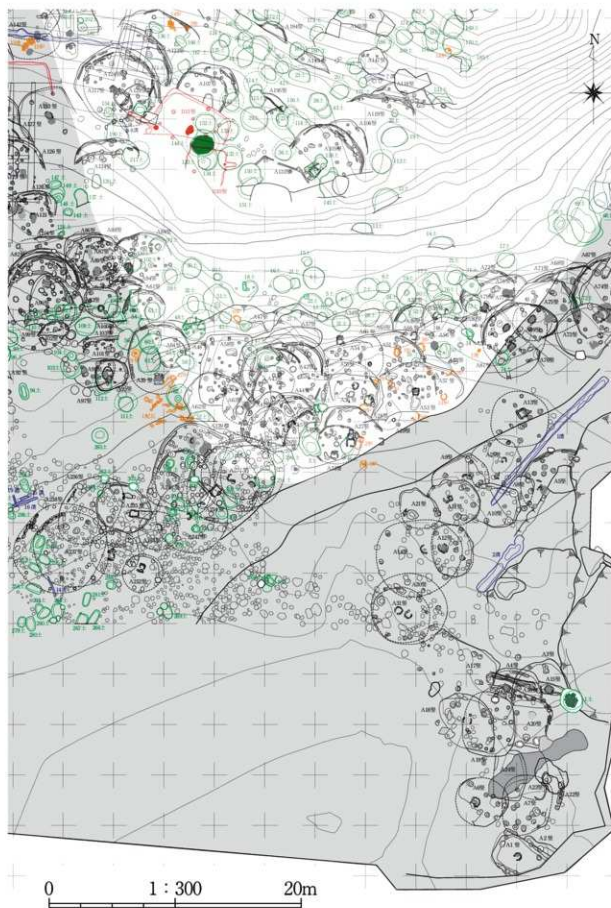


第6図 遺構配置図 (全体)

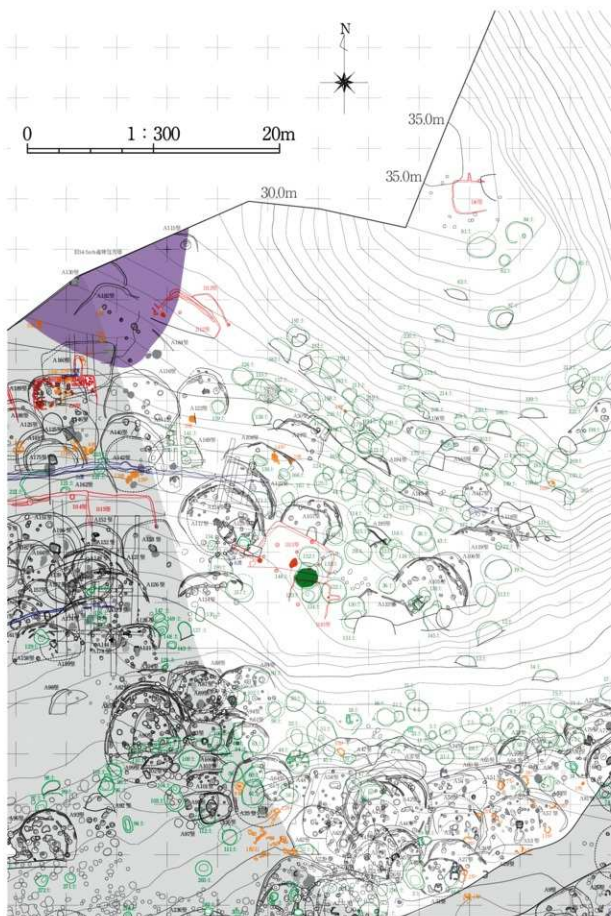




第7図 遺構配置図(1)

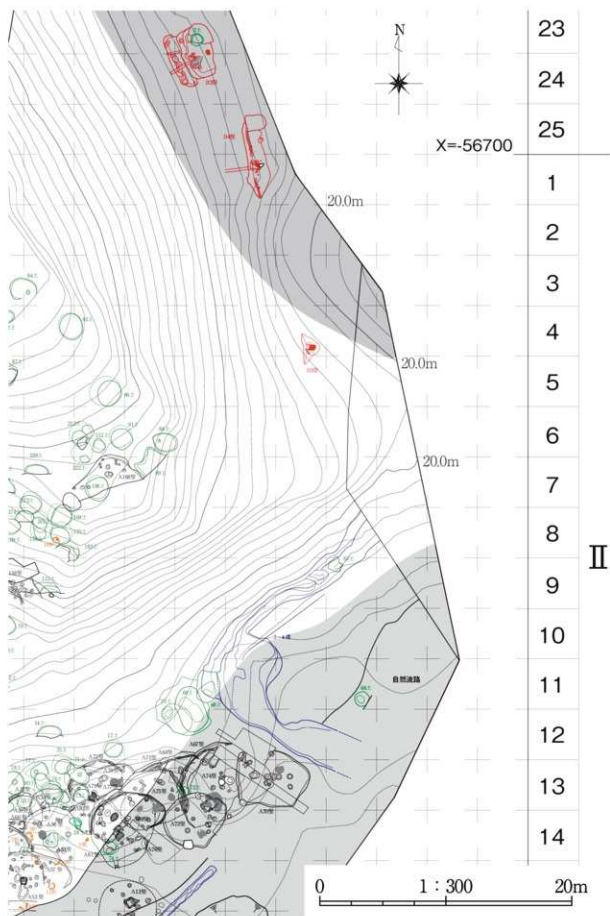


第8図 遺構配置図(2)



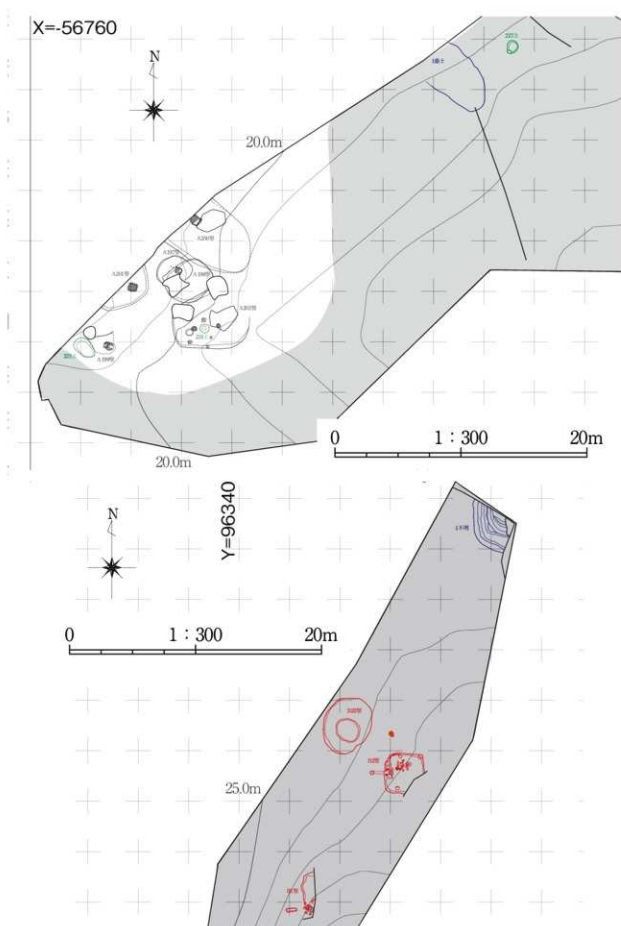
第9図 遺構配置図(3)



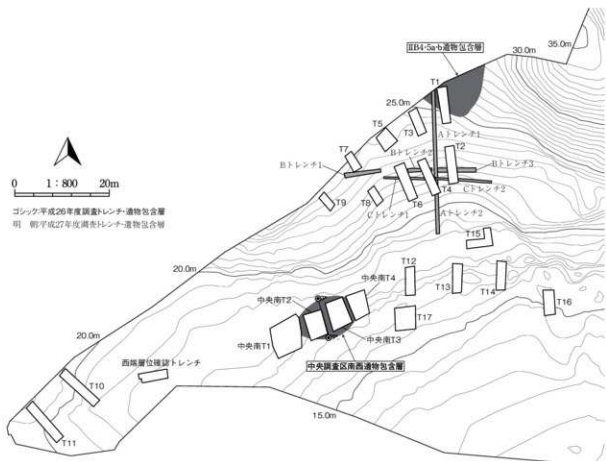


第10図 遺構配置図(4)





第11図 遺構配置図(5)



第12図 トレンチ・遺物包含層位置図

の堆積土とⅢ層の判別は困難であることから、遺構の記載では「Ⅲ層に類似する沢状地形堆積土」という表現を用いている。また、Ⅲ層中には火山灰も若干含まれており、ⅡA7・8 x グリッドで採取した試料を分析したところ十和田中堰火山灰 (To-Cu テフラ) であるとの分析結果が得られている (第Ⅵ章第3節)。Ⅱ層は沢状地形埋没後に斜面上方から流れ込んだ自然堆積層で、縄文時代の遺物を多量に含む。縄文時代～近世までの遺構検出面であり、縄文時代には既に堆積していたと考えられる。また、Ⅱ層の分布範囲のうち特に遺物の出土量が多い地点については遺物包含層とみなして精査を行っている (第12図)。

### (3) 遺物

土器大コンテナ750箱 (縄文土器・土師器・須恵器)、石器大コンテナ90箱 (主に縄文時代)、土製品・石製品約300点 (主に縄文時代)、金属製品約30点 (古代・近世)、鉄生産関連遺物大コンテナ10箱 (古代・近世)、陶磁器・ガラス類約50点 (古代～近代)、動物遺存体 (縄文時代・古代・近世) が出土している。最も出土量が多いのは大木式土器を主体とする縄文土器で、时期的には早期後葉～後期

初頭のものまで確認されているが、特に前期末～中期後葉（大木6～9式）の出土量が多い。縄文土器については遺構内出土も多いが、遺構同士の重複が激しいことに加えてⅡ～Ⅲ層からの出土量も多く、接合関係も多様であることから出土地点の帰属を決定することが困難であった。したがって本報告では床面直上や遺構内堆積土と判断できた土層から出土したもののみを遺構内出土遺物として掲載したが、同一グリッドから出土した遺構外出土遺物の中にも遺構に帰属するものが多数含まれていると考えられる。石器・石製品・土製品は古代以降と考えられるものが極少量含まれるが、基本的には縄文時代に属するものであり、出土傾向は縄文土器と同様である。古代以降の遺物は遺構内及びⅠ層から出土している。鉄生産関連遺物は大半が3・4号溝からの出土である。

#### （4）図面の表現方法

遺構図版は平・断面図とも同一遺構については同縮尺を基本としているが、遺構の規模に応じて両者の縮尺を変えているものもある。遺構図版の網掛処理については目次下凡例図の通りである。なお、縄文時代の竪穴建物及び土坑のうち、重複が激しいものについては多色刷りで掲載している。線の色と重複の順序についても凡例図の通りである。

## 2 竪穴建物（縄文時代）

253軒検出した。規模・出土遺物重量・遺構の重複関係等は第4表の通りであり、以下では検出状況、堆積土、床面施設、掲載遺物、年代について記載する。

縄文時代の竪穴建物は遺構同士の重複が激しく、単独あるいは2～3軒で精査を行ったものは少ない。また、Ⅱ層中で検出されるものはⅡ層由来の黒褐色土、Ⅲ層中で検出されるものはⅢ層由来の黒褐色～暗褐色土が堆積していることがほとんどであり、平面プランの確認が困難であった。その為、遺物や焼土・炭化物の集中があり遺構が重複すると考えられる地点に対しては、下記のいずれかの方法でベルトを設定して掘り下げを行った。

1. 範囲がある程度把握できるものはその範囲の長軸方向及びそれに直交する方向
2. 範囲が不明瞭な地点ではグリッドラインに沿って南北・東西方向

この方法で第一にベルトに沿って層位確認用トレンチを設定し、炉や床面施設が検出された場合はその面まで、それらが検出されない場合は最終検出面であるⅣ層まで掘り下げを行い、断面観察によって壁面の立ち上がりや遺構の切り合いを確認した。また、縄文時代の竪穴建物は垂直方向・水平方向いずれにも重複が激しく全形が判明するものが少ない為、床面施設の検出面及び硬化が確認された面を床面とみなして1軒の建物と認定した。なお、この方法で掘り下げた竪穴建物は断面ラインが建物の中心を通っていないものが多く、掲載した断面図の横幅が最大長、深さが最大深度を必ずしも表現していないことを断っておきたい。

上記の方法で精査を行ったことから、断面図の作成及び写真撮影等の記録は複数の竪穴建物についてまとめて行っている。以下に提示する各図版が精査における一つのまとまりであり、本文の記載はそのまとまり毎に行っている。新旧関係は「旧遺構→新遺構」の順で記載しており、右に行くほど時期の新しい遺構となる。なお、調査は複数の調査員で複数の地点に分かれて行っており、各地点で遺構が認識できた順番に遺構番号を付していることから、遺構番号が連番とならず大きく離れているものも多い。本来であれば連番に修正して提示すれば理解しやすいが、並べ替えを行うと併行して行っていた遺物の整理作業（注記・接合等）に混乱が生じることから大部分は現場で付した番号順を踏襲

した。また、先述の通り縄文土器については遺構の重複が激しく帰属の判断が難しいものも多いことから、堅穴建物についてはまとまり毎に土器集成図を作成して提示した(第117～167図)。なお、集成図では本来の縮尺より小さく掲載している為、詳細は第二分冊を参照して頂きたい。

年代は出土土器の型式と重複関係から推定しており、時期幅は前期末葉から後期初頭までと考えられる。土器型式と建物時期の対応関係は、大木5式を前期後葉、大木6式を前期末葉、大木7 a・b式を中期前葉、大木8 a・b式を中期中葉、大木9式を中期後葉、大木10式を中期末葉とし、大木8 b～9式のように二つの型式に跨るものは中期中～後葉等とした。

#### A1・2号堅穴建物

(第1-13・117図、第2-1・2・267・284・358・381図、写真図版8・274・469・477・509・524)

II B 24 1 グリッドに位置する。下段田区東端部の遺物包含層状に堆積するII層中で遺物が集中する隅丸長方形のプランを検出した。新旧関係は、A2号堅穴建物→A1号堅穴建物である。

A1号堅穴建物は南東部が調査区外に延びるため全体形状は明らかでないが、平面形は隅丸方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は湧水のため全体に軟弱だが、上面は緻密で平坦に整っている。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積が基本となるが、土器の集中廃棄がみられる5層は人為堆積の可能性がある。

床面施設として中央やや北西寄りで石囲炉1基を検出した。石組は、外径65×60cmの円形である。燃焼部焼土は30×10cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。燃焼部焼土上面は、床面より5cmほど低い。その他に柱穴7個を検出した。いずれも壁際で検出しているが、配置は不規則である。

遺物は5層を中心に出土しており、縄文土器12点、石器4点、土器片円盤10点を掲載した(a1～12、c278・1001・1002・1366・g1～10)。土器片円盤の出土量は本遺構が最も多い。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、大木9式新段階の土器が主体となることから中期後葉頃の構築・使用と考えられる。

A2号堅穴建物は、A1号堅穴建物に大部分を削平されており全形は不明だが、平面形は隅丸方形と考えられる。壁面は崩落が著しく大きく外傾して立ち上がる。床面は壁際の僅かな部分しか残存していないが、構築土と考えられる地山由来の砂質土(16層)が確認されている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として北壁付近で柱穴1個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、A1号堅穴建物との境界付近から出土した縄文土器1点と石器1点を掲載した(a13、c279)。

本遺構は炉は確認されていないがA1号堅穴建物と同様の形態と考えられることから住居として使用された堅穴建物であり、A1号堅穴建物に先行する中期中～後葉のものと考えられる。

#### A3・4・15～20号堅穴建物

(第1-14～17・117～119図、第2-2・3・5～7・253・319・320・376・381図、写真図版9～15・275・277・278・462・493・494・520・524)

II B 20 j～22 m グリッドに位置する。検出面は遺物包含層状に堆積するII層～IV層で、黒～暗褐色の半円形・方形プランが複数重複する形で検出した。この範囲では上面でのプラン把握が困難であったことからグリッドラインに沿って東西・南北方向に複数のベルトを設定して掘り下げを行い、断面観察から遺構の認定を行った。新旧関係は、A15号堅穴建物→A16号堅穴建物→A17号堅穴建物

→A 20号竪穴建物→A 19号竪穴建物→A 18号竪穴建物→A 4号竪穴建物→A 3号竪穴建物→1号土坑である。

A 3号竪穴建物は、断面観察で確認した壁面の立ち上がりから平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層及び下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として床面中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は、外径75×65cmの円形である。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、50×46cmの円形で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面よりも10cm程度低く、石組と同規模の掘り方を掘削した後さらに炉石を設置する部分を掘り込んでいる。その他に柱穴2個を検出した。

遺物は炉内や堆積土中から出土しており、縄文土器9点を掲載した（a 14～22）。このうちa 21・22はA 4号竪穴建物との重複部分から出土している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器に大木9式が含まれることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 4号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されているが、床面残存範囲から平面形は円形と考えられる。壁面は下位が緩く内湾し、上部は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層及び下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央西寄りで石囲炉1基を検出した。石組は、外径65×50cmの方形である。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、35×31cmの不整形円形で、被熱深度は約4cmである。その他に周溝1条と柱穴1個を検出した。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器3点、土製品1点を掲載した（a 21～26、c 1・1158・1159、e 60）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることと他遺構との重複関係から中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 15号竪穴建物は、A 3号竪穴建物の床面精査時に炉の周辺で床面と異なる黒褐色土の広がりを確認し、掘り下げたところ床面施設を検出したことから竪穴建物と認定した。大部分を新期の竪穴建物に壊されており、平面形は不明である。壁面は直立し、床面はIV層を平坦に整えている。堆積土は黒～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴1個を検出した。

遺物は堆積土中から少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物が乏しく詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から前期の構築・使用と考えられる。

A 16号竪穴建物は、A 3号竪穴建物の床面精査時に床面と異なる黒褐色土の広がりを確認し、掘り下げたところ床面施設を検出したことから竪穴建物と認定した。大部分を新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝2条と柱穴6個を検出した。周溝は壁面に沿って2条並行しており、建て替え・拡張が行われていた可能性がある。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器8点と石器1点を掲載した（a 44～51、c 1160）。縄文土器のうちa 44はA 19号竪穴建物との重複部分から出土しており、型的にはそこに帰属する可能性がある。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木5～6式主体であることから前期後～末葉の構築・使用と考えられる。

A 17号竪穴建物は、黒褐色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、礫の露出が多く凹凸が著しい。また、部分的にぶい黄褐色土を充填している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴10個を検出した。柱配置はP 01～06を使用する六角形とP 01・02・07～10を使用する六角形の2案が考えられ、建て替えが行われていた可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しているが、縄文土器は地文の破片が多く図示していない。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から前期末～中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 18号竪穴建物は、遺物包含層状のII層中で石囲炉を検出したことから、竪穴建物と想定して精査を行った。当初はA 19号竪穴建物を含めて1軒と認識していたが、床面に段差があり、その段差に合わせて堆積土も異なることが判明したことから2軒に分離した。その為、堆積土中の遺物のほとんどはA 19号竪穴建物と一括して取り上げている。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形で、壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、湧水のためやや軟弱で凹凸が認められる。堆積土は黒～黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。石組は外径80×60cmの円形と考えられるが、南北壁の炉石は失われている。燃焼部焼土は54×54cmの円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面とはほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴7個を検出した。柱配置はP 01～04を使用する四角形とP 01～03・05～07を使用する六角形の2案が考えられ、建て替えが行われていた可能性がある。

遺物は堆積土中から出土している。縄文土器の大半はA 19号竪穴建物と一括で取り上げており、3点を掲載した(a 52～54)。また、本遺構に帰属するものとして石器2点を掲載した(c 1161・1162)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 19号竪穴建物は、先述の通りA 18号竪穴建物の床面精査時に認識した竪穴建物である。平面形は隅丸方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、湧水のためやや軟弱で凹凸が認められる。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴10個を検出した。北西側の柱穴が確認されていないが、柱配置はP 01～07を使用する八角形とP 01～04・06～09を使用する九角形の2案が考えられ、建て替えが行われていた可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、本遺構に帰属するものとして石器2点と土器片円盤1点を掲載した(c 1163・1164、g 12)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 20号竪穴建物は、遺物包含層状のII層中で直線的に並ぶ石列を含む黒褐色の長方形プランとして検出した。西側をA 19号竪穴建物に壊されているが、平面形は長方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。北壁及び東壁際付近で連続する直立した板状の石列を検出した。石の長径は25cm程度で、

多少の異同はあるものの直近の壁面に沿うように並べられている。床面はⅣ層を削り出しているが湧水の影響により全体に脆弱で、部分的に薄く黄褐色土を敷き均し平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として地床炉2基を検出した。直接的な重複関係が無い為、新旧関係は不明である。炉1は東側に位置する地床炉で、P 265に大部分を壊されており平面形と規模は不明である。被熱深度は約2cmである。炉2は中央に位置する地床炉で、燃焼部焼土は68×61cmの楕円形、被熱深度は約2cmである。炉1は床面と同じ高さであるが、炉2は床面を若干掘り込んでいる。その他に柱穴12個を検出した。柱配置はP 01～06を使用する六角形とP 01・03・04・07～12を使用する九角形の2案が考えられ、建て替えが行われていた可能性がある。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器15点を掲載した（a 55～69）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、床面直上から出土した土器が大木8 a～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

### A 5・8号竪穴建物

（第1-18・119図、第2-3・4図、写真図版16・275・276）

ⅡB 16・17 I グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、自然流路の付近で黒褐色の半円形プランとして検出した。A 10号竪穴建物、1号溝とも重複関係にあり、新旧関係はA 8号竪穴建物→A 5号竪穴建物→A 10号竪穴建物、1号溝である。

A 5号竪穴建物は、東側は自然流路に削平されているが、残存する壁面及び炉・柱穴の配置から平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層を平坦に整え、窪みに褐色土を充填することで構築しているが、凹凸が著しい。堆積土にはぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。建物南側の床面付近には炉から流出したと考えられる二次堆積の焼土が堆積している。

床面施設として南側で複式炉の可能性がある石組1基を検出した。現地性焼土が残存する部分が前室、それに隣接する北側の石の集中部分が後室であったと考えられる。ただし、炉石は散逸し元位置を留めていないことから本来の形状や構築方法は不明である。燃焼部焼土は65×40cmの不整楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さである。その他に周溝2条と柱穴9個を検出した。柱穴はP 01～04が主柱穴になると考えられ、東側の床面は消失しているが八角形の柱配置であった可能性がある。

遺物は床面直上と堆積土中から出土しており、縄文土器7点を掲載した（a 27～33）。このうちa 33はA 8号竪穴建物との重複部分から出土しており、型的にはA 8号竪穴建物に帰属すると考えられる。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 8号竪穴建物は、大部分をA 5・10号竪穴建物と1号溝に壊されており、北東隅コーナー部と床面の一部が残存するのみである。コーナー部の形状から推定される平面形は方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層を平坦に整えているが、若干凹凸が認められる。堆積土は灰黄褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として地床炉の可能性がある現地性焼土1基を検出した。大部分を新期の竪穴建物に壊されており、60×20cmの範囲のみ残存している。被熱深度は約2cmである。その他に柱穴3個を検出した。いずれも壁面に位置しており、壁柱穴になる可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 37)。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物及びA5・10号竪穴建物との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

#### A6・7・22～24号竪穴建物

(第1-19・20・119・120図、第2-4・7図、写真図版17・18・275・276・278)

II B 22 k～23 l グリッドに位置する。検出面はII層下位で、遺物を多量に含む黒褐色の不整形プランとして検出した。また、この範囲では一部遺構上面にIII層より新しい沢状地形堆積土が被覆しておりプランの把握が困難であった為、グリッドラインに沿って東西・南北方向に複数のベルトを設定して掘り下げを行い、断面観察から遺構の認定を行った。現地で確認できた新旧関係は、A22号竪穴建物→A23号竪穴建物→A7号竪穴建物→A24号竪穴建物→A6号竪穴建物である。ただし、出土土器はいずれも中期中葉に属するが、A6・7・24号竪穴建物が大木8a式であるのに対し、それより古いA23号竪穴建物が大木8b式であることから新旧関係は前後する可能性もある。

A6号竪穴建物は、堆積土下位で石囲炉を検出したことから竪穴建物と判断した。大部分が削平されているが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、湧水のため軟弱で凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。石組は、径90cmの円形である。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、27×27cmの円形で、被熱深度は約2cmである。炉内と床面は同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴7個を検出した。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した(a 34・35)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、炉内出土土器が大木8a式新段階であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A7号竪穴建物は、IV層まで掘り下げた時点で断面観察を行ったところ、壁面と考えられる立ち上がりを検出したことから竪穴建物と認定した。堆積土の大部分を掘り上げた時点で認識した為残存部分は少ないが、平面形は円形または隅丸方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒～黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴14個を検出した。このうちP01～06が主柱穴と考えられ、床面北西側にも柱穴が存在したと仮定すれば七または八角形の柱配置となる可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 36)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8a式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A22号竪穴建物は、A7号竪穴建物の範囲外で周溝と柱穴を検出したことから竪穴建物と認定した。周溝と柱穴のみを検出した為、平面形・壁面形状・床面の状況は不明である。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積と考えられる。

床面施設として周溝1条と柱穴5個を検出した。

本遺構に伴う堆積土からは遺物は出土していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物の可能性はあるが詳細は不明である。また、出土遺物が無い為年代も不明である。

A23号竪穴建物は、A7号竪穴建物床面精査中にそれより若干低い位置にある床面を検出し、断面観察でそれに対応する壁面を確認したことから竪穴建物と認定した。大部分を新期の竪穴建物に壊



されており、平面形・壁面形状は不明である。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 70）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物の可能性はあるが、詳細は不明である。年代は、出土土器が大木8b式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 24号竪穴建物は、断面観察で壁面の立ち上がりを確認できたことから竪穴建物と認定した。大部分が後世の沢の流入により壊されているが、平面形は長方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 71）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物の可能性はあるが、詳細は不明である。年代は、出土土器が大木8a式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

（村上・村田）

#### A 9～11・21・25号竪穴建物

（第1-21～23・120図、第2-4・7・381図、写真図版19～22・276～278・524）

II B 16 j～18 k グリッドに位置する。検出面はIII層下位～IV層で、遺構と考えられるプランを断片的に確認したが、大部分がII層由来の黒褐色流入土に被覆されており、プラン把握が困難であった為、グリッドラインに沿って東西・南北方向に複数のベルトを設定して掘り下げを行い、断面観察から遺構の認定を行った。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係はA 8号竪穴建物→A 25号竪穴建物→A 9号竪穴建物→A 10号竪穴建物→A 11号竪穴建物→A 21号竪穴建物→1号溝である。

A 9号竪穴建物は、黒褐色の半円形プランとして検出した。南側をA 10・11号建物に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、凹凸が著しく平坦ではない。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。炉石はほとんどが元位置を留めておらず、形状・規模は不明である。燃焼部焼土は42×22cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。その他に柱穴3個を検出した。

遺物はA 10号竪穴建物と一括して取り上げており、いずれかに帰属するものとして縄文土器1点（a 38）、本遺構に帰属するものとして土器片円盤1点を掲載した（g 11）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 10号竪穴建物は、黒褐色の方形プランとして検出した。西側はA 11号竪穴建物に壊されているが、平面形は長方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として東側で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は38×28cmの楕円形で、被熱深度は約15cmである。なお、焼土より若干離れた位置で抜き取り痕の可能性のある窪みが複数検出されており、本来は石囲炉であった可能性もある。その他に、六角形の柱配置となる柱穴6個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 39・40）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 11号竪穴建物は、流入土の下位でいよいよ黄褐色土の広がりを検出し、断面観察を行ったところ

それに対応する壁面が確認されたことから竪穴建物と認定した。西側はA 21号竪穴建物に埋されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、凹凸が著しく平坦ではない。堆積土にはぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で複式炉1基を検出した。二室構成の複式炉で、長方形の石組内を区切る形で構築されている。西側が前室にあたり、前室は外径50×45cm、後室は外径40×45cmである。前室の北壁は炉石が失われている。燃焼部焼土は前室南壁付近に位置し、17×12cmの楕円形で、被熱深度は約1cmである。掘り方は石組とほぼ同じ大きさの土坑状で、壁面に炉石を立て並べている。その他に柱穴6個を検出した。

遺物は炉内や堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 41)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木10式であることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 21号竪穴建物は、流入土を除去したところ黒褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられる。上面が削平されており、壁面形状は不明である。床面はIV層を削り出しているが、凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土が確認できるが、堆積が薄く様相は不明である。

床面施設として西端で複式炉と考えられる石組を検出した。ほとんどの炉石が元位置を留めておらず、平面形と規模は不明である。その他に柱穴3個を検出した。

遺物は堆積土中から少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが他遺構との重複関係から中期末葉以降の構築・使用と考えられる。

A 25号竪穴建物は、II B 16 kグリッド内の黒褐色土を掘り下げたところIV層で炉を検出し、それを囲むように柱穴が検出されたことから竪穴建物と認定した。炉が2基検出された為2軒の建物が重複している可能性も考えられたが、炉の検出面が同じであることと堆積土の区別ができなかったことから1軒と判断した。堆積土の大部分を掘り下げた時点で認識した為、壁面形状は不明である。柱穴の配置から平面形は円形と考えられる。床面はIV層を削り出しているが、凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土が主体であるが、様相は不明である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は南東側に位置する石囲炉であるが、炉石の大部分は失われており形状と規模は不明である。燃焼部焼土は45×37cmの楕円形で、被熱深度は約1.5cmである。炉2は北東側に位置する石囲炉で、北壁と西壁の炉石は失われているが、外径45×40cmの方形と考えられる。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。その他に、六角形の柱配置となる柱穴6個を検出した。

遺物は柱穴内や堆積土中から出土しており、縄文土器3点を掲載した(a 72～74)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

#### A 12・14号竪穴建物

(第1-24・25・120図、第2-5・274図、写真図版23・24・277・473)

II B 18 i～19 jグリッドに位置する。検出面はIII層下位～IV層で、当初はA 12号竪穴建物のみを黒褐色の楕円形プランとして検出したが、東壁以外のプランが不明瞭であった為、II B 18 jグリッド内全体を掘り下げ、わずかに残る西壁面と炉の位置から1軒の竪穴建物と認定した。また、A 12

号竪穴建物のプラン外に炉が検出された為、隣接するⅡB 18 i グリッド内にも竪穴建物が存在することが判明した。ただし、この時点でベルト以外の堆積土をほとんど掘り下げてしまっていた為、炉と柱穴の配置から範囲を推定し、A 14号竪穴建物とした。A 14号竪穴建物はA 30・31号竪穴建物とも重複関係にあり、それらを含めた新旧関係はA 31号竪穴建物→A 14号竪穴建物→A 12号竪穴建物→A 30号竪穴建物である。

A 12号竪穴建物は、平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を削り出し、窪みに黒褐～褐色土を充填して構築しているが、Ⅳ層に礫が多量に含まれている為凹凸が著しい。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として石囲炉1基を検出した。石組は80×70cmの円形で、北側の炉石が1個抜けておりC字状となる。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、52×40cmの不整楕円形で、被熱深度は約3cmである。掘り方は石組より一回り大きめのドーナツ状で、炉内中央部が若干盛り上がっている。その他に柱穴5個を検出した。このうちP 01～04は壁際に位置するが、主柱穴であり四角形の柱配置になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した（a 42・43、c 337）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8a式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 14号竪穴建物は、炉と柱穴の配置から平面形は楕円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状は不明である。床面はA 12号竪穴建物と同じくⅣ層を削り出し、窪みに暗褐色土を充填して構築しているが、Ⅳ層に礫が多量に含まれている為凹凸が著しい。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として西側で石囲炉1基を検出した。石組は長軸80cmの方形プランと考えられるが、東側の炉石が無い為不明である。燃焼部焼土は炉内中央に位置している。炉内底面はⅣ層の礫が露出しており、熱変成が確認できるのは26×13cmの楕円形の範囲のみで、被熱深度は約1.5cmである。掘り方は石組より一回り大きめのドーナツ状であるが、礫が多く不定形である。炉内中央部は若干盛り上がっている。また、竪穴建物の範囲内では多数の柱穴が検出されているが、その中から八角形の柱配置となる柱穴8個を本建物に伴う柱穴と判断した。

遺物は、本遺構に伴う堆積土中からは出土していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は無いがA 12・30号竪穴建物との重複関係から中期中葉以前の構築・使用と考えられる。

### A 13号竪穴建物

（第125図、写真図版24）

ⅡB 15 k グリッドに位置する。検出面はⅢ層下位で、ⅢB 15 k～16 l グリッドのⅢ層を平面的に掘り下げたところ、炉及びその周辺に床面と考えられる平坦面を検出した。炉を検出した時点で堆積土の大部分を掘り下げてしまっていた為、炉と周辺の柱穴配置から本建物の範囲を推定した。床面推定範囲の南東側が1号溝とわずかに接する。炉と柱穴の配置から平面形は円形と考えられるが、壁面が残存していない為壁面形状と堆積の様相は不明である。床面は、残存範囲をみる限りⅢ層下位～Ⅳ層上面を平坦に整えている。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は東壁の炉石が北西～南東方向に設置されており、外径96×73cmの台形となる。燃焼部焼土は炉内東壁付近に位置し、33×26cmの不整円形で、

被熱深度は約3cmである。炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみを掘り込んでいる。また、竪穴建物の範囲内では多数の柱穴が検出されているが、その中から六角形の柱配置となる柱穴6個を本建物に伴う柱穴と判断した。

遺物は、本遺構に伴う堆積土中からは出土していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であるが、出土遺物が無く、他遺構との重複もほとんど無い為年代は不明である。

#### A 26～29・33号竪穴建物

(第1-26・27・120・121図、第2-7～9・320・373・381図、写真図版25～28・278・279・494・524)

II B 15 h～16 j グリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層で、斜面上方で黒褐～灰黄褐色の不整形プランを検出したことから南北方向に複数のベルトを設定して掘り下げを行った。また、斜面下方では炉を複数検出しており、これらが斜面上方のプランに伴う炉であると確認できたことから複数の竪穴建物が重複しているものと判断し、断面観察から5軒の竪穴建物と認定した。他遺構とも重複関係にあり、新旧関係はA 26号竪穴建物→A 28号竪穴建物→A 29号竪穴建物→A 33号竪穴建物→A 27号竪穴建物、3号土坑、2号炉である。

A 26号竪穴建物は、北壁の一部と炉が検出されたのみで平面形は不明である。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を平坦に整えることで構築しているが、礫が露出しており凹凸が著しい。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として石囲炉1基を検出した。石組は外径70×65cmの円形である。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、30×26cmの円形で、被熱深度は約1.5cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は堆積土中から出土しており、石器1点を掲載した(c 1165)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが、他遺構との重複関係から中期中葉以前の構築・使用と考えられる。

A 27号竪穴建物は、斜面下方である南側が削平されているが、平面形は不整形円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層及びA 33号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉2基を検出した。2基は重複関係にあり、炉1が炉2を壊している。炉1は二室構成の複式炉で、南側が前室になる。石組は、前室が外径45×50cm、後室が外径37×36cmで、平面形は前室側が広い台形である。前室・後室とも炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面より低い位置にあり、後室よりも前室のほうが低い。掘り方は石組と同規模の範囲を方形に掘り込み、その壁面に礫を立て並べている。炉2は単室の石囲炉で、外径は65×65cmの方形であるが、東側の炉石は無く開口している。炉内では北壁寄りに焼土塊の集中が認められるが、明瞭な燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝3条と柱穴6個を検出した。柱穴のうちP 01・05・06は壁柱穴になる可能性があるが、床面南側が残存していない為柱配置は不明である。

遺物は床面直上や炉内堆積土から出土しており、縄文土器6点と土製品1点、土器片円盤2点を掲載した(a 75～80、e 8、g 13・14)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物が大木10式古～中段階主体であること

から中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 28号竪穴建物は、A 27・29号竪穴建物堆積土を掘り込んで構築されており、かつ南側が沢状地形堆積土と重なっていることからプランの判別ができず大部分を掘り下げてしまった。その為、北壁の一部と炉を検出できたのみであり、平面形は不明である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ層及びA 27号竪穴建物堆積土を平坦に整え、さらにⅣ層まで掘削した部分では明黄褐色土を充填して構築している。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として石囲炉1基を検出した。石組は外径56×40cmの方形であるが、西壁の炉石は失われており残存していない。炉内に明瞭な燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と土器片円盤2点を掲載した（a 81、g 15・16）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいがA 27・29号竪穴建物との重複関係から中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 29号竪穴建物は、大部分が沢状地形と重複しており北壁付近が確認できたのみである。残存する北壁面が東西方向に直線的に延びることから平面形は方形と考えられる。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面は、沢状地形堆積土を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が確認できるが、大部分をA 28号竪穴建物に壊されており堆積の様相は不明である。

床面施設として柱穴2個を検出したが、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 82）。

本遺構は床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式土器であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 33号竪穴建物は、A 27号竪穴建物の床面精査中に床面より一段低い位置でにぶい黄褐色の円形プランとして検出した。上面はA 27号竪穴建物に壊され、南側は沢状地形と重複しているが壁面はほとんど残存していない。床面施設の配置から平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で石囲炉1基を検出した。石組は外径68×57cmの方形で、東西壁は若干膨らんでいる。焼土は炉内北壁付近に位置し、29×19cmの楕円形で、被熱深度は約1cmである。炉内は床面より低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝2条と柱穴13個を検出した。柱穴は規模の大きいP 09～11が主柱穴になると考えられるが、東側がA 27号竪穴建物により壊されているが柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と土器片円盤1点を掲載した（a 87、e 17）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木10式であることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

### A 30・31号竪穴建物

（第1-28・121図、第2-8図、写真図版29・279）

ⅡB 19 i～20 jグリッドに位置する。検出面はⅣ層で、Ⅲ層除去後に炉石が露出する黒褐色の円形プランとして検出したが、検出時点で堆積土はほとんど残存していなかった為、炉と柱穴の配置から竪穴建物と認定した。隣接して炉が2基検出されており、同一建物の建て替えの可能性も考えられたが、検出レベルが異なることからそれぞれ1軒の竪穴建物に伴う炉と判断した。A 14号竪穴建物

とも重複関係にあり、新旧関係はA 31号竪穴建物→A 14号竪穴建物→A 30号竪穴建物である。

A 30号竪穴建物は、堆積土の残存範囲と柱穴の配置から平面形は円形と考えられるが、壁面が残存していない為壁面形状は不明である。床面はIV層を削り出しているが、礫が露出しており凹凸が著しい。堆積土は黒褐色土が主体であるが、堆積が薄く様相は不明である。また、A 31号竪穴建物に伴う可能性もあるが、凹凸部分に床面構築土と考えられる黒褐色土も確認されている。

床面施設として石囲炉1基を検出した。石組は68×60cmの円形で、北東側の炉石が無く開口している。燃焼部焼土は検出されなかった。炉内には石組と同規模の土坑状の掘り込みがあるが、炉石を設置する前に黒褐色土で充填されており、炉石は掘り込みの外側に設置されている。また、竪穴建物の範囲内では多数の柱穴が検出されているが、その中から八角形の柱配置となる柱穴8個を本建物に伴う柱穴と判断した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 83)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 31号竪穴建物は、炉と柱穴の配置から平面形は円形と考えられるが、壁面が残存していない為壁面形状は不明である。床面はIV層を平坦に整えることで構築しているが、凹凸が著しい。堆積土は炉の周辺に残存するのみで、堆積の様相は不明である。

床面施設として石囲炉1基を検出した。石組は外径63×60cmの円形で、南東側の炉石が無く開口している。燃焼部焼土は検出されなかった。炉内には石組と同規模の土坑状の掘り込みがあるが、炉石を設置する前に黒褐色土で充填されており、炉石は掘り込みの外側に設置されている。また、竪穴建物の範囲内では多数の柱穴が検出されているが、その中から八角形の柱配置となる柱穴8個を本建物に伴う柱穴と判断した。

遺物は炉内堆積土から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 84)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいがA 30号竪穴建物との重複関係から中期中葉以前の構築・使用と考えられる。

#### A 32・38・39号竪穴建物

(第1-29・121図、第29・11・274・362・381図、写真図版30・31・279～281・473・512・524)

II B13 i～14 j グリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～IV層で、黒褐色の長楕円形プランとして検出した。当初は1軒の竪穴建物と考えていたが、北壁が直線的ではなく連続状になることから壁面が確認できた時点で2軒の竪穴建物に変更した(A 32・38号竪穴建物)。また、A 32号床面精査中に床面より若干低い位置で周溝が検出されたことからさらに1軒の竪穴建物を認定した(A 39号竪穴建物)。他遺構とも重複関係にあり、新旧関係はA 56・65・80号竪穴建物、35・53号土坑→A 39号竪穴建物→A 38号竪穴建物→A 32号竪穴建物である。

A 32号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されているが、残存する北壁と炉の配置から平面形は円形と考えられる。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面は、北側はIV層の再堆積土であるA 39号竪穴建物堆積土、南側はA 56・65号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で石囲炉1基を検出した。石組は、外径65×55cmの長方形であるが、南東側の炉石が1個失われている。燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器2点を掲載した（a 85・86、c 338・339）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木10式古段階であることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 38号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、北側はIV層、南側はA 56・80号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐～褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として南西側で石囲炉1基を検出した。石組は長軸60cmの楕円形と考えられるが、東側は攪乱により炉石が失われている。燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。また、中央東寄りで礫の集中範囲を1箇所検出した。石囲炉の可能性もあるが礫は倒れており断定はできなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点と石製品1点、土器片円盤1点を掲載した（a 108～110、d 43、g 21）。縄文土器のうちa 110はA 45号竪穴建物との重複部分から出土しており、そちらに帰属する可能性もある。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 39号竪穴建物は、A 32号竪穴建物床面で土坑を検出した為精査後に床面全体を掘り下げたところ、北西壁際で周溝を検出したことから1軒の竪穴建物と認定した。大部分が他遺構に壊されているが、平面形は円形と考えられる。壁面は残存していない為、壁面形状は不明である。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はIV層の再堆積土が確認できるが、堆積が薄く様相は不明である。

床面施設として周溝2条を検出した。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器が無い為詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。平面プランがA 32号竪穴建物とほぼ同じであり、建て替え前のプランであった可能性もある。

#### A 34号竪穴建物

（第1・29・121図、第2・9・292・374図、写真図版32・279・280・481・519）

II B 13 h～14 i グリッドに位置する。検出面はIV層で、灰黄褐色の方形プランとして検出した。多数の竪穴建物や土坑と重複関係にあり、新旧関係はA 54・60・65号竪穴建物、28・31号土坑→A 34号竪穴建物→11号土坑である。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は長方形と考えられる。壁面は、下位はほぼ垂直に立ち上がるが中位より上は崩落により外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層及びA 54・60・65号竪穴建物堆積土を平坦に整えることで構築しているが、先行する土坑の堆積土が落ち込んでいる為、本遺構の床面もその部分は窪んでいる。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南西側で石囲炉1基を検出した。石組は、外径76×53cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内北壁に位置し、32×24cmの楕円形で、被熱深度は約2.5cmである。炉内は床面より若干低い位置にあり、掘り方は石組より一回り大きな皿状で、南壁以外は掘り込みの壁面に沿って炉石を立て並べている。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器6点と石器2点、土製品1点を掲載した（a

88～93、c 1049・1050、e 15)。なお、土製品（斧形土製品）はA 44号竪穴建物堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階～10式古段階であることから中期後～末葉の構築・使用と考えられる。

#### A 35・48・64号竪穴建物

(第1・30・31・122図、第2・9・10・14図、写真図版33・34・280・283)

II B 14 d～15 e グリッドに位置する。検出面はIV層で、最初にA 35号竪穴建物を黒褐～灰黄褐色の円形プランとして検出した。また、東側に位置するA 58号竪穴建物を同時に精査していたところ、A 35号竪穴建物との間に黒褐色土の方形プランを検出し、A 35号竪穴建物の断面観察用ベルトにもそのプランの断面が確認できたことからこれをA 48号竪穴建物と認定した。この地点では多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係は54・56・65号土坑→A 64号竪穴建物→61号土坑→58・60号土坑→A 35号竪穴建物→A 48号竪穴建物→A 58号竪穴建物、9号炉、1号配石遺構である。

A 35号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられる。壁面は外傾しながら立ち上がるが、崩落や抉れによりIV層の礫が張り出している部分がある。床面はIV層を削り出し、炉の周辺は灰黄褐色を充填して構築しており、中央から南側に向かって傾斜している。堆積土にはぶい黄褐色～灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で石囲炉1基を検出した。石組は、外径88×72cmの方形である。燃焼部焼土は炉内中央～北側に位置し、50×50cmの円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面と同じ傾斜で南側に向かって下っており、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝4条と柱穴3個を検出した。

遺物は堆積土下位を中心に出土しており、縄文土器6点を掲載した(a 94～99)。このうち、a 99はA 40号竪穴建物堆積土下位出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 48号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平、東側はA 58号竪穴建物に壊されているが、平面形は長方形と考えられる。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層とA 35号竪穴建物堆積土を削り出しているが、A 35号竪穴建物堆積土の範囲は凹凸が著しい。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として柱穴4個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器5点を掲載した(a 149～153)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 64号竪穴建物はA 35号竪穴建物床面精査中に他の土坑と共に円形プランとして検出した。平面形は円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は、断面図の記録を忘れてしまった為不明である。

床面施設として柱穴4個を検出した。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物が無く詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中期中葉以前の構築・使用と考えられる。



### A 36号竪穴建物

(第1-31・122図、第2-10・253・377・381図、写真図版35・280・281・462・520・524)

II B 15 h グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐色の方形プランとして検出した。A 27・55号竪穴建物と重複関係にあり、新旧関係はA 55号竪穴建物→A 36号竪穴建物→A 27号竪穴建物である。南側をA 27号竪穴建物に壊されているが、平面形は方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南東側で石囲炉1基を検出した。石組は、外径86×78cmの円形である。燃烧部焼土は炉内東壁付近に位置し、43×18cmの楕円形で、被熱深度は約1cmである。炉内には石組より小規模な土坑状の掘り込みがあるが、炉石を設置する前に灰黄褐色土で充填されており、炉石は掘り込みの外側に設置されている。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器1点、土製品1点、土器片円盤2点を掲載した（a 100～103、c 2、e 87、g 18・19）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階主体であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

### A 37・40～47・58・59・62・63号竪穴建物

(第1-32～36・122～124図、第2-11～16・238・258・284・292～295・320～323・362・365・373・374・377・381図、写真図版36～43・281～285・465・481～483・494～496・512～514・517～520・524)

II B 14 e～16 h グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、広範囲に遺物を含む包含層状の堆積があり、斜面上方である北側で壁面を考えられる弧状または直線状のプランを検出したことから複数の遺構が重複しているものと判断した。ただし、上面ではプランの把握が困難であったことから最初にグリッドラインに沿って東西・南北方向に複数のベルトを設定し、その脇にⅣ層まで到達するトレンチを掘削して断面観察で床面と考えられる平坦面を確認することで遺構の認定を行った。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係はA 63号竪穴建物→A 62号竪穴建物、57号土坑→A 58号竪穴建物、64号土坑→47号土坑→A 43・45・47号竪穴建物→A 42号竪穴建物→A 44号竪穴建物→A 41号竪穴建物→A 40号竪穴建物→A 37・59号竪穴建物→A 46号竪穴建物、3・39・40号土坑である。

A 37号竪穴建物は、II B 13～15 g グリッド内の南北方向に設定したベルト脇のトレンチで確認された平坦面のうち最も北側に位置する。ベルトを残しながら上位の堆積土を除去したところ、灰褐色の楕円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層及び下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は灰褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。南壁をトレンチ掘削時に壊してしまったが、石組は外径57×50cmの方形である。燃烧部焼土は炉内北側に位置し、24×24cmの円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面より若干低い位置にあり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は炉内や堆積土中から出土しており、縄文土器4点と土製品1点、土器片円盤1点を掲載した（a 104～107、e 88、g 20）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器に大木10式古段階が含まれることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 40号竪穴建物は、A 42号竪穴建物掘り下げ中にプラン外で炉を検出し、それを囲むように柱穴が検出されたことから竪穴建物と認定した。堆積土の大部分を掘り下げた時点で認識した為、壁面形状は不明である。柱穴の配置から平面形は円形と考えられる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉1基を検出した。石組は外径70×65cmの方形であるが、北壁と南壁の炉石が無く開口している。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、62×45cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。その他に柱穴12個を検出した。このうちP 01～03・05・08～12が壁柱穴になると考えられる。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器8点と石器2点、石製品1点、土製品1点を掲載した(a 111～118, c 151・1051, d 64, e 89)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 41号竪穴建物は、A 40号竪穴建物の床面精査中にふい黄褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は三角形に近い楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層及び下位の遺構堆積土を削り出してあり、南側に向かって傾斜している。堆積土はふい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央東寄りで石囲炉1基を検出した。炉石の大部分が失われており、平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は14×10cmの楕円形で、被熱深度は約1cmである。掘り方は石組と同規模の浅い土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。その他に柱穴14個を検出した。このうちP 01・03～05・07・09・11・13・14が壁柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点を掲載した(a 119～122)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 42号竪穴建物は、II B 13～15 g グリッド内の南北方向に設定したベルト脇のトレンチで確認された平坦面のうち中央に位置し、このベルトで認識した竪穴建物の中で最も規模が大きい。ベルトを残しながら上位の堆積土を除去したところ、ふい黄褐色の円形プランとして検出した。後述するように周溝と柱穴の配置から複数の建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。斜面下方である南側は新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は隅丸方形に近い円形で、壁面は西～北西壁はほぼ垂直に立ち上がるが、北～東壁は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、凹凸や段差が複数認められる。堆積土はふい黄褐色土や褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は北西側に位置する石囲炉で、石組は72×64cmの方形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、50×37cmの範囲で、被熱深度は約1.5cmである。掘り方は石組と同規模の浅い土坑状で、壁面に沿って設置する部分を掘り込んで炉石を立て並べている。炉2は中央に位置する石囲炉で、石組は直径40cm程度の円形である。ただし、平・断面図の作成を怠ってしまった為、詳細図を作成できなかった。明瞭な燃焼部焼土は確認されていないが、炉内中央では礫が検出されている。その他に周溝10条と柱穴29個を検出した。周溝の重複関係から少なくとも3回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。想定される段階として、構築段階である第一段階は円形プランで溝2・6が巡るが、それに伴う柱穴は確認できない。第二段階は円形プランで溝1・7が巡り、P 15・19・21・27・29が主柱穴になるもの、第三段階は隅丸方形プランで溝1・3・5が巡り、P 02・07・11・21・26が主柱穴になるもの、

第四段階は隅丸方形プランで溝1・4・9・10が巡り、P 03・08・10・13・27・28が主柱穴になるものという変遷が考えられる。なお、位置関係から炉2が第一段階、炉1が第二～四段階のいずれかに伴うものと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、A 43号竪穴建物と一括して取り上げているものが多い。特に縄文土器はA 43号竪穴建物に帰属するものも含まれると考えられるが、ここでは18点を掲載した(a 123～140)。その他、本遺構に帰属するものとして石器8点を掲載した(c 1052～1056・1166～1168)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 43号竪穴建物は、A 42号竪穴建物床面で検出した。当初はA 42号竪穴建物と同一の竪穴建物と考えていたが、周溝の巡る方向が異なり、その内側で炉を検出したことから別の竪穴建物と認定した。周溝と柱穴の配置から平面形は円形と考えられる。床面精査の段階で認識した為、壁面形状は不明である。床面はIV層を整えており、A 42号竪穴建物とはほぼ同じ高さである。堆積土はA 42号竪穴建物として掘り上げてしまったが、別遺構と考えられる土質の変化は確認できなかった。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は中央に位置する地床炉で、燃焼部焼土は38×22cmの楕円形、被熱深度は約3cmである。炉2は中央東寄りに位置する地床炉で、燃焼部焼土は22×20cmの円形、被熱深度は約2cmである。その他に周溝3条と柱穴7個を検出した。柱穴のうちP 01・04～06が主柱穴になると考えられる。

遺物は先述の通りA 42号竪穴建物と一括して取り上げているものが多いが、本遺構に帰属するものとして赤彩が付着した縄文土器2点と土器片円盤1点を掲載した(r 1・2, g 22)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 44号竪穴建物は、A 41号竪穴建物の東側に広がるにぶい黄褐色の円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係は無く、新旧関係は不明である。炉1は中央南寄りに位置する石囲炉で、平面形は方形または楕円形と考えられるが南壁の炉石が失われている。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、32×10cmの不整形で、被熱深度は約3cmである。炉2は南側に位置する石囲炉であるが、炉石の大部分が失われており平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、13×10cmの不整形で、被熱深度は約1cmである。その他に周溝3条と柱穴10個を検出した。柱穴は北側に集中しており、柱配置は不明である。

遺物は本遺構の堆積土の他にA 42・43号竪穴建物との重複部分からも出土しており、縄文土器4点と石器13点、石製品8点、土製品1点、土器片円盤1点を掲載した(a 141～144, c 1003・1057～1061・1169～1175, d 42・44・46・47・56・57・65・116, e 15, g 23)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式古段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 45号竪穴建物は、A 41・44号竪穴建物床面精査時にこれらとは異なる方向に巡る周溝を検出したことから1軒の竪穴建物と認定した。周溝4条を検出したのみで、平面形・壁面形状・床面の状況・堆積状況は不明である。

遺物は床面直上から少量出土しており、石器1点を掲載した(c 1176)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物の可能性はあるが、詳細は不明である。出土遺物は無いが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 46号堅穴建物は、灰黄褐色の円形プランとして検出した。当初は土坑と考えていたが、床面で周溝を検出したことから小型ではあるが堅穴建物と認定した。平面形は円形と考えられるが、南側を他遺構の精査中に壊してしまっている。壁面は丸みをもって立ち上がり、床面はIV層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条を検出した。

遺物は堆積土中から少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は小型の土坑の可能性もあるが住居として使用された堅穴建物と判断した。出土遺物は乏しいが、他遺構との重複関係から中期末葉以降の構築・使用と考えられる。

A 47号堅穴建物は、A 42号堅穴建物の北側で床面と考えられる平坦面を検出したことから堅穴建物と認定した。北東コーナー部分のみしか残存していない為、平面形は不明である。壁面は内弯気味に立ち上がり、床面はIV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄橙色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器2点、土製品1点、土器片円盤1点を掲載した(a 145～148, c 1062・1177, e 9, g 24)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物の可能性はあるが、詳細は不明である。年代は、出土土器が大木8a式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 58号堅穴建物は、A 42号堅穴建物の西側でにぶい黄褐色の方形プランとして検出した。平面形は長方形で、壁面は下位が丸みをもって立ち上がるが、上位は外傾する。床面はIV層を削り出しているが、南側に向かって傾斜しており細かい凹凸も認められる。堆積土はにぶい黄褐色土と黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で石囲炉1基を検出した。炉石はほとんどが失われており、平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は、40×28cmの楕円形である。断面図の作成を怠ってしまった為、被熱深度及び構築方法は不明である。その他に土坑1基と柱穴20個を検出した。土坑1は南東側が張り出す長方形で、上面規模は86×50cm、深さは26cmである。柱穴のうちP 01・03・04・07・19が壁柱穴になると考えられ、さらにA 62号堅穴建物P 01が仮に本建物に帰属すると仮定すれば長方形の柱配置になる可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点と赤彩が付着した縄文土器1点を掲載した(a 168～170, r 5)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木8a式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 59号堅穴建物は、床面が同じ高さであることからA 44号堅穴建物の一部と考えていたが、北西壁が連弧状になり、断面観察でもA 41号堅穴建物より新しいことが確認されたことから1軒の堅穴建物と認定した。A 41・44号堅穴建物より新しい建物であるが、このような経緯で認識した為これらより新しい遺構番号を付している。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形で、壁面は丸みを持って立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は南側に位置する石囲炉であるが、炉石は抜き取られており平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は23

×18cmの楕円形で、被熱深度は約1.5cmである。炉2は中央に位置する地床炉で、床面を若干掘り窪めてその内部を炉としている。燃烧部焼土は25×23cmの円形で、被熱深度は約2cmである。その他に柱穴14個を検出した。このうちP 02・03・05・10が主柱穴と考えられ、床面北東及び南側に柱穴が存在したと仮定すれば六～八角形の柱配置となる可能性がある。

遺物は周溝や堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器2点、石製品1点を掲載した（a 171, c 1066・1067, d 117）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木10式古段階であることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 62号竪穴建物は、A 58号竪穴建物精査中に南西壁が外方に屈曲し、この部分から床面が一段低くなることが確認されたことから、この部分を1軒の竪穴建物と認定した。広範囲が新期の遺構に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は褐色土と暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴15個を検出したが、いずれも北側に集中しており柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 175・176）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6式であることから前期末葉の構築・使用と考えられる。

A 63号竪穴建物は、A 62号竪穴建物床面精査中に床面より一段下がる暗褐色のプランとして検出した。西壁面が検出されたのみで、平面形は不明である。壁面は外傾しながら立ち上がり、床面はIV層を平坦に整えている。

床面施設として土坑1基を検出した。平面形は68×64cmの円形で、深さは40cmである。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物の可能性はあるが、詳細は不明である。年代についても出土土器が無い為、他遺構との重複関係から前期末葉以前と推定されるのみである。

#### A 49・50号竪穴建物

（第137・124図、第214・293・294図、写真図版44～46・283・284・482）

II B 7 e・f グリッドに位置する。検出面はIV層で、大きさの異なる灰黄色の方形プランが連結する形で検出した。41号土坑とも重複関係にあり、新旧関係は41号土坑→A 49号竪穴建物→A 50号竪穴建物である。

A 49号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平及び攪乱により失われているが、平面形は方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、礫が露出し凹凸が認められる。堆積土は灰黄色砂が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴6個を検出した。規模の大きなP 01・02が主柱穴になる可能性はあるが、床面南側が残存していない為柱配置は不明である。また、北西壁付近で焼土の集中を確認したが、範囲が不明瞭で現地性が否か判断できなかった。

遺物は柱穴や堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器2点を掲載した（a 154, c 1063・1064）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 50号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形で、壁面は内傾しな

が立ち上がる。床面は、IV層及び41号土坑堆積土を削り出しているが、凹凸が認められる。堆積土は灰黄色砂が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。石組は、外径40×32cmの方形である。燃焼部焼土は検出されなかった。炉内には石組より小規模な土坑状の掘り込みがあるが、炉石を設置する前に黒褐色土で充填されており、炉石は掘り込みの外側に設置されている。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a155)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器に後期初頭のものが含まれていることからこの時期の構築・使用と考えられる。

#### A 61号堅穴建物

(第1-37・124図、第2-16図、写真図版46・285)

II B 13 dグリッドに位置する。検出面はIV層で、灰黄褐色の半円形プランとして検出した。多数の土坑と重複関係にあり、新旧関係は63号土坑→A 61号堅穴建物→49・106・108号土坑である。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、礫が露出しており凹凸が著しい。堆積土は灰黄褐色土の単層で、堆積が薄く様相は不明である。

床面施設として周溝3条と柱穴7個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した(a173・174)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木8b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(村田)

#### A 51～53・56・57・65・66号堅穴建物

(第1-38・39・125図、第2-15・323・362・377図、写真図版47～50・283・284・496・512・520)

II B 14 i～15 jグリッドに位置する。検出面はIV層で、後述するA 54・55・60号堅穴建物と共に遺物を含む黒褐～灰黄褐色土の広がりとして検出した。遺物が出土することから複数の堅穴建物と重複していると考えられたが、個別のプラン把握が困難であったことから土層観察用ベルトを設定して掘り下げを行い、壁面や床面が確認できた時点で遺構名を付した。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係はA 52・66号堅穴建物、50号土坑→A 56号堅穴建物→A 65号堅穴建物、34号土坑→A 60号堅穴建物→A 51号堅穴建物→A 55・57号堅穴建物→55号土坑→A 53号堅穴建物→A 29・36・38号堅穴建物、11・13号炉、1号土器埋設遺構である。

A 51号堅穴建物は、II B 14～16 jグリッドに沿って設定したトレンチの断面観察によってIV層を床面とすることを確認し、上位の黒褐色土(B断面1層)を除去した段階で暗灰黄色の半円形プランとして検出した。遺構の南～西側は新期の堅穴建物により壊されており、平面形は不明である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は暗灰黄色が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴10個を検出した。柱穴のうちP 02・05は壁柱穴になる可能性があるが、床面南～西側が残存していない為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点と石製品1点を掲載した(a156～158、d47)。縄文土器のうち、a157・158はA 53号堅穴建物との重複部分から出土している。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木9式古段

階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 52号竪穴建物は、トレンチの断面観察によって床面と考えられる平坦面を検出し、A 56号竪穴建物の精査中に灰褐色の扇形プランとして検出した。大部分が新期の竪穴建物に壊されており、北壁が残存するのみである。残存範囲が少ない為、平面・床面・壁面形状は不明である。堆積土にはぶい黄褐色土であり、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物と考えられるが、残存部分が少なく詳細は不明である。年代についてもA 56号竪穴建物との重複関係から中期後葉以前と推定されるのみである。

A 53号竪穴建物は、グリッドに沿って設定したトレンチの断面観察によってA 51号竪穴建物より一段低い位置で床面を確認し、上位の黒褐色土（B断面1層）を除去した段階で暗灰黄色の半円形プランとして検出した。遺構の南～西側は新期の竪穴建物により壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土と黒～黒褐色土が主体で、自然堆積であるが床面付近の堆積土には炭化物を多量に含む。

床面施設として中央東寄りで複式炉1基を検出した。石囲炉と前庭部で構成される複式炉で、石組は外径60×59cmの方形である。燃焼部焼土は炉内北側に位置し、38×26cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。前庭部は112×75cmの不整楕円形で、床面からの深さは10cmである。石組部の炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に土坑1基と柱穴27個を検出した。土坑1は床面北西側に位置し、平面規模は99×55cmの楕円形で、床面からの深さは32cmである。柱穴のうちP 02・03・09・14・23は主柱穴で、A 29号竪穴建物に削平された部分に柱穴があったと仮定すれば六角形の柱配置となる。また、P 06・13・17・19は壁柱穴になる可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点を掲載した（a 159～162）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 56号竪穴建物は、グリッドに沿って設定したトレンチの断面観察によってIV層を床面とすることを確認し、A 38号竪穴建物の床面精査中に暗褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は中央西寄りに位置する地床炉で、燃焼部焼土は65×50cmの円形で、被熱深度は約4cmである。炉2は東側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は56×37cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。その他に柱穴14個を検出した。このうちP 01・04・06・07・11が主柱穴で、五角形の柱配置となると考えられる。また、P 05・09・12・13は壁柱穴になる可能性がある。

遺物は柱穴や堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 165・166）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 57号竪穴建物は、A 53号竪穴建物東壁より外側で石囲炉を検出し、その周辺にA 53号竪穴建物堆積土と若干色調が異なる黒褐色の半円形プランが確認されたことから竪穴建物と認定した。ただし、床面の高さがA 53号竪穴建物と同じであることから同一建物の建て替え・拡張の可能性もある。斜面下方である南側は削平、西側はA 53号竪穴建物に壊されており平面形は不明である。壁面は、

床面付近はほぼ垂直に立ち上がるが、中位より上は外傾しながら立ち上がる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴4個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器1点、土製品1点を掲載した(a 167, c 1180, e 90)。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器は大木6式が多く含まれるが、他の竪穴建物との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 65号竪穴建物は、東西方向に設定したトレンチの断面観察で他の竪穴建物より低い位置にある床面を検出したことから竪穴建物と認定した。大部分がA 51・60号竪穴建物に壊されており、北壁が残存するのみで平面形は不明である。壁面は垂直に立ち上がるが、内傾気味になる部分もある。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物と考えられるが、残存部分が少なく詳細は不明である。年代についてもA 51・60号竪穴建物との重複関係から中期中葉以前と推定されるのみである。

A 66号竪穴建物は、A 56・65号竪穴建物の間で両者と異なるプランとして検出した。大部分がA 51・56・65号竪穴建物に壊されており、平面形は不明である。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土で、自然堆積である。

床面施設として柱穴1個を検出した。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物と考えられるが、残存部分が少なく詳細は不明である。年代についてもA 56・65号竪穴建物との重複関係から中期中葉以前と推定されるのみである。

(高橋・村田)

#### A 54・55・60号竪穴建物

(第140・125図、第2・15・16・238・295・323図、写真図版50～52・284・285・482・495・496)

II B 14 h～15 i グリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～IV層で、灰黄褐色の不整形な広がりとして検出した。多数の竪穴建物と重複関係にあり、新旧関係はA 65号竪穴建物→A 60号竪穴建物→A 54号竪穴建物→A 51号竪穴建物→A 55号竪穴建物→A 36・42・53号竪穴建物である。

A 54号竪穴建物は、大部分をA 42・55号竪穴建物に壊されており北壁と床面の一部が残存するのみである。平面形は方形と考えられ、壁面は内傾気味に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として東側で地床炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は20×20cmの円形で、被熱深度は約3cmである。炉2は54×33cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。その他に西側で柱穴9個を検出した。

遺物は炉の直上や堆積土から出土しており、縄文土器1点とA 55号竪穴建物との重複部分から出土した赤彩が付着した縄文土器1点を掲載した(a 164, r 3)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式新段階であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 55号竪穴建物は、西側をA 42号竪穴建物、東側をA 27号竪穴建物に壊されているが、平面形は方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を平坦に整え、南側ではⅢ・IV層由来の充填土



を用いて構築している。堆積土は灰黄褐～褐灰色が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央東寄りで石囲炉1基を検出した。石組は直径50cmの円形と考えられるが、北側の炉石は失われている。燃焼部焼土は検出されなかった。掘り方は石組と同規模の土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。炉内は床面より若干低い位置にある。その他に周溝3条と柱穴16個を検出した。周溝は壁面と離れていることから、旧壁面が周溝際にあったとすれば拡張を行っていた可能性がある。柱穴は、P 01・10・14等が主柱穴になる可能性があるが、床面南側が残存していない為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、A 54号竪穴建物との重複部分から出土した縄文土器1点と赤彩が付着した縄文土器1点、石器3点を掲載した（a 163、r 4、c 1065・1178・1179）。石器のうち、c 1179は炉石として転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式新段階であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 60号竪穴建物は、当初はA 54号竪穴建物の一部と考えていたが、北壁の向きが異なることと埋設土器の位置する床面が若干低いことから別々の竪穴建物と認定した。大部分をA 51・54・55号竪穴建物に壊されており、北壁と埋設土器が残存するのみである。平面形は不明で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を平坦に整えている。断面図の作成を行っていないが、堆積土はA 54号竪穴建物と同じく灰黄褐色土が主体で、自然堆積と考えられる。

床面施設として南側で埋設土器1基を検出した。床面を土器の直径とほぼ同じ大きさに掘り込み、その中に深鉢を逆位に設置して外側に黄褐色土を充填している。意図的なものかは不明であるが、底部は欠損している。

遺物は埋設土器の他に堆積土中からも出土しており、埋設土器に使用された縄文土器1点と石器1点を掲載した（a 172、c 1181）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、埋設土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

（村田）

#### A 67・68・70・73・74号竪穴建物

（第1-41～43・125図、第2-16～18・253・258・261・262・271・365図、写真図版53～56・285・286・462・465～467・471・514）

II B 13 l～14 n グリッドに位置する。検出面はIII層及びそれに類似する沢状地形堆積土で、表土除去の段階で石囲炉の頂部が露出したりトレンチでの断面観察で床面と考えられる平坦面が確認される等、複数の竪穴建物が重複していると想定される暗褐～灰黄褐色土の広がりとして検出した。新旧関係は、A 68号竪穴建物→A 69号竪穴建物→A 74号竪穴建物→A 70号竪穴建物→A 73号竪穴建物→A 67号竪穴建物である。

A 67号竪穴建物は、斜面下方である東～南側が削平されているが平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、III層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南西側で炉2基を検出した。2基は重複関係にあり、炉1のほうが新しい。炉1は石囲炉で、石組は外径138×89cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、45×42cmの円形で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面より若干低い位置にあり、石組より一回り大きな掘り方を掘って炉石を据え付けている。炉2は地床炉で、西側は炉1を設置する際に壊されている。燃焼部焼土は154×70cmの不整形円形、被熱深度は約7cmである。その他に周溝5条と土坑1基、柱穴14個

を検出した。土坑1は床面北側に位置し、上面規模は110×65cmの長楕円形で、深さは26cmである。柱穴はP 04・05・07・08が主柱穴で、四角形の柱配置となる。また、P 02・03・10が壁柱穴になる可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器1点、石製品1点を掲載した(a 177～180, c 152, d 66)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 68号堅穴建物は、重複するA 67号堅穴建物精査時にそれとは異なる灰黄褐色の弧状プランとして検出した。大部分をA 67・69号堅穴建物に壊されており、北壁付近が残存するのみである。平面形は不明で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を平坦に整えており、硬く締まっている。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴2個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した(a 181・182, c 233)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 70号堅穴建物は、A 67号堅穴建物の東側で黒褐色の隅丸方形プランとして検出した。平面形は東壁が張り出す不整形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を平坦に整えているが、床面西側では大型の礫が露出している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央北寄りで地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は72×56cmの楕円形で、被熱深度は約6cmである。その他に周溝1条と土坑1基、柱穴7個を検出した。土坑1は床面西側に位置し、上面規模は71×56cmの楕円形で、深さは33cmである。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器4点を掲載した(a 193・194, c 3～5・220)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 73号堅穴建物は、A 67号堅穴建物床面精査時に南西側で褐色の楕円形プランとして検出した。平面形は楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIII層を平坦に整えており、中央付近は硬く締まっている。堆積土は黒褐～灰黄褐色土で、自然堆積である。

床面施設として柱穴9個を検出した。このうちP 01・04・06・07が主柱穴で、四角形の柱配置となる。なお、床面南側で焼土範囲が確認されたが、流れ込みによる二次堆積の焼土であった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器1点を掲載した(a 200, c 316)。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された堅穴建物と考えられる。掲載した土器は大木7a式であるが、他の堅穴建物との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 74号堅穴建物は、A 67号堅穴建物床面精査時に床面より一回り小さい褐色の方形プランとして検出した。大部分をA 67・73号堅穴建物に壊されているが、平面形は方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を平坦に整えており、硬く締まっている。堆積土は褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として中央で柱穴4個を検出した。また、床面を掘り込んで設置されたものではないが、床面中央部では逆位に置かれた深鉢の口縁部が出土している。なお、床面南東側で焼土範囲が確認されたが、流れ込みによる二次堆積の焼土であった。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 201）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式新段階であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

#### A 69・71・72・75～81号竪穴建物

（第144～46・126・127図、第217～20・261・262・274・284・323・324・377・381図、写真図版57～62・285～288・466・467・473・477・496・521・524）

Ⅱ B13 k～14 mグリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層で、前述のA67・68号竪穴建物等と同じく複数の竪穴建物が重複していると想定される灰黄褐色土の広がりとして検出した。新旧関係は、A80号竪穴建物→A79号竪穴建物→A72号竪穴建物→A78号竪穴建物、72号土坑→A73号竪穴建物→A81号竪穴建物→A71号竪穴建物、74号土坑→A68号竪穴建物→A69号竪穴建物→A75号竪穴建物→A76号竪穴建物→A67・77号竪穴建物、71・75号土坑である。

A69号竪穴建物は、灰黄褐の円形プランとして検出した。南側は新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は隅丸方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅲ～Ⅳ層を平坦に整えており、硬く締まっている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として東側で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は64×52cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。その他に周溝1条と柱穴10個を検出した。柱穴のうちP01・06～08は主柱穴と考えられるが、床面南側が残存していない為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器10点と石器1点を掲載した（a 183～192、c 1182）。縄文土器のうちa 184はA75号竪穴建物との重複部分から出土している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b新段階～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A71号竪穴建物は、A69号竪穴建物北壁の外側で異なる方向に走る周溝が確認されたことから竪穴建物と認定した。大部分をA68・69号竪穴建物に壊されており、北壁が残存するのみである。平面形は不明で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。検出範囲が狭い為床面の状況は不明である。断面図の記録を行っていないが、堆積土は灰黄褐色土の単層で自然堆積である。

床面施設として周溝2条を検出した。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土したのみで、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物と考えられるが、詳細は不明である。出土遺物も乏しく年代についても他遺構との重複関係から中期中～後葉と推定されるのみである。

A72号竪穴建物は、A78号竪穴建物と共に褐色の楕円形プランとして検出した。当初は同一遺構と考えていたが、北壁が連弧状になることと床面施設に切り合い関係が認められたことから2軒の竪穴建物に分離した。南側は新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。断面図の作成は行っていないが、堆積土は灰黄褐色土の単層で自然堆積と考えられる。

床面施設として周溝5条と柱穴8個を検出した。

遺物はA78号竪穴建物との重複部分から出土しており、縄文土器5点と石器1点、土器片円盤1点を掲載した（a 195～199、c 340、g 25）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 75号竪穴建物は、A 76号竪穴建物精査中に北東壁付近で床面より一段低い位置で炉を検出したことから、A 76号竪穴建物と異なる建物として認定した。大部分をA 76号竪穴建物の土に埋されているが、平面形は楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐～褐色土で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は床面中央に位置する石囲炉で、石組は外径73×56cmの楕円形である。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、52×38cmの楕円形で、被熱深度は約5cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は東壁付近に位置する地床炉で、燃焼部焼土は70×55cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。その他に周溝1条と柱穴6個を検出した。柱穴のうちP 01～05が主柱穴で、五角形の柱配置となる。

遺物は柱穴や堆積土中から出土しており、縄文土器3点と石器2点、土製品1点を掲載した(a 202～204、c 221・1004、e 91)。縄文土器のうち、a 204はA 77号竪穴建物堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木8b式新段階主体であるが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 76号竪穴建物は、黄褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は不整形円で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅲ～IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色～明褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄り石囲炉1基を検出した。石組は、外径76×63cmの方形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、51×30cmの範囲で、被熱深度は約4cmである。掘り方は石組より若干大きい土坑状で、壁面のやや内側に炉石を立て並べ、裏込めとして灰黄褐色土を充填している。その他に周溝5条と柱穴10個を検出した。柱穴のうちP 01～03・07・08が主柱穴と考えられ、溝2・3及び削平されている床面南側に柱穴があると仮定すれば八角形の柱配置になると考えられる。

遺物は柱穴や床面直上から出土しており、縄文土器7点と石器1点を掲載した(a 205～211、c 1183)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式古段階であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 77号竪穴建物は、A 76号竪穴建物掘り下げ中に床面より高い位置で石囲炉を検出したことから、別の竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はA 76号竪穴建物堆積土を平坦に整えており、全体に硬化している。堆積土は灰黄褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄り石囲炉1基を検出した。石組は、外径76×51cmの楕円形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、被熱深度は約2cmである。断面図の作成を怠ってしまった為、炉の構築方法は確認していない。その他に柱穴2個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点を掲載した(a 212～214)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器と他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 78号竪穴建物は、褐色の弧状プランとして検出した。南側は新期の竪穴建物の土に埋されているが、平面形は楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は褐色～にぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として西寄りで石囲炉1基を検出した。石組は外径76×55cmの長方形であるが、西壁北側の炉石は失われている。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、被熱深度は約2cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴3個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器8点を掲載した（a 215～222）。このうちa 219～222はA 79・80号竪穴建物との重複部分から出土している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 79号竪穴建物は、にぶい黄褐色の円形プランとして検出した。南側をA 78号竪穴建物精査時に壊してしまったが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した（a 223・224、c 234）。

本遺構は床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7b式主体であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 80号竪穴建物は、A 76・77号竪穴建物精査中に壁面西側でこれらとは異なるプランとして検出した。南側は新期の竪穴建物に壊されており、平面形は不明である。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴7個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 225・226）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7b式主体であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 81号竪穴建物は、A 76号竪穴建物の炉の断面観察のために設定したトレンチ内でこれより下に位置する石囲炉を検出したことから、別の竪穴建物と認定した。大部分をA 76号竪穴建物に壊されているが、残存する北壁と柱穴の配置から平面形は楕円形と考えられる。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ～IV層を平坦に整えている。堆積土は褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は外径88×56cmの長方形であるが、南側の炉石は失われている。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。その他に柱穴11個を検出した。このうちP 01・02・04・07～11が主柱穴で、八角形の柱配置となる。

遺物は炉や柱穴内から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 227・228）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

（佐藤・村田）

#### A 82・85・90・99・102・104号竪穴建物

（第147・48・127・128図、第220～24・238・260・294・358・376・377図、写真図版63～65・288～290・466・483・509・520・521）

Ⅱ B12b～14cグリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～IV層で、黒褐～暗褐色土の大型円形プランとして検出した。当初は1軒の竪穴建物と考えていたが、掘り下げ途中で炉や周溝・柱穴が検出され、床面と考えられる平坦面にも段差が認められたことから、炉や床面施設が確認できる面を床面として分離を行った。その結果、プラン内では6軒の竪穴建物が重複していることが判明した。北東側でA 86・88号竪穴建物、東側でA 83号竪穴建物、南側で92・102・110号土坑とも重複関係にあり、これらを含めた新旧関係は110号土坑→A 88号竪穴建物→A 86号竪穴建物→A 104号竪穴建物

→A 99号竪穴建物→A 90号竪穴建物→A 85号竪穴建物→A 82号竪穴建物→A 83・102号竪穴建物、92・107号土坑である。なお、A 102号竪穴建物については第1-53図に個別図を掲載しており、それに合わせて記載は57頁で行っている。

A 82号竪穴建物は、堆積土の掘り下げ中に複式炉を検出した為、竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は若干外傾しながら立ち上がる。床面は、A 85号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として南側で複式炉1基を検出した。埋設土器と石囲炉で構成される複式炉で、石組部の南側では前庭部の可能性がある浅い皿状の窪みを検出した。石組は外径72×64cmの方形であるが、南側の炉石は抜き取られており残存していない。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、50×35cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面より低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみ掘り込んで深鉢の胴部を正位に設置し、掘り方は土器よりも大きく土坑状（A断面5層）に掘り込んで深鉢の胴部を正位に設置し、設置後に暗褐色土を再充填している。その他に柱穴10個を検出した。ただし、これらはA 85号竪穴建物に伴う柱穴と一緒に検出しており、そちらに帰属する可能性もある。規模の小さい柱穴が多いことと床面南側が削平されている為、柱配置は不明である。

遺物は埋設土器の他に堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点、土製品1点を掲載した（a 229・230、c 194、e 92）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、埋設土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 85号竪穴建物は、A 82号竪穴建物床面精査時に暗褐色の不整形プランとして検出した。上面ではプランが不明瞭であった為、IV層まで到達するトレンチを設定し、下部の確認を行った。その結果、トレンチ断面で2面の平坦面を確認したことから、A 82号竪穴建物と分離して1軒の竪穴建物と認定した。後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。斜面下方である南側は削平されているが、床面の残存範囲及び柱穴の配置から平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層及びA 90・99号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝8条と柱穴19個を検出した。周溝は北壁に沿って3～4列併行しており、少なくとも2回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。建物規模を拡張していったと考えれば、構築段階にあたる第一段階は溝3・4・7が巡り、P 01・03・13・14が主柱穴となるもの、第二段階は溝2が巡り、P 04・08・09・12・15が主柱穴となるもの、第三段階は溝1・5・6が部分的に巡り、P 06・11・15・16・19が壁柱穴として配置されるものと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器6点と赤彩が付着した縄文土器1点、石器1点、土製品2点を掲載した（a 239～244、r 6、c 1367、e 44・45）。縄文土器のうち、a 244はA 90号竪穴建物出土の破片と接合している。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式古段階主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 90号竪穴建物は、A 82・85号竪穴建物精査後に暗褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、床面残存範囲と柱穴配置から平面形は不整形円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、A 99号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土の単層で、部分的に廃棄したと考えられる焼土が含まれることから人為堆積の可能性はある。

床面施設として柱穴14個を検出した。重複している柱穴も多数あるが、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した（a 254・255、c 1069）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 99号竪穴建物は、A 85号竪穴建物床面精査後に南側に暗褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平及び他遺構に壊されているが、床面残存範囲と柱穴の配置から平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、黄褐色土を斑状・層状に含むことから人為堆積と考えられる。

床面施設として周溝5条と柱穴34個を検出した。周溝は一部併行している部分があることから建て替え・拡張を行っていた可能性がある。柱穴はP 01～03・05・09・33・36が主柱穴であり、七角形の柱配置になると考えられる。また、P 06・10・34・35等は壁柱穴になる可能性がある。

遺物は周溝や柱穴及び堆積土中から出土しており、縄文土器5点を掲載した（a 264～268）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式古段階主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 104号竪穴建物は、A 82号竪穴建物の北側に弧状に巡る黒褐色の溝状プランとして検出した。当初はA 82号竪穴建物の拡張部分の可能性も考えたが、本建物とA 82号竪穴建物の床面の比高差が10～15cmあることから、別の竪穴建物と認定した。A 82号竪穴建物とは直接的な重複関係は無いが、出土土器の年代から本遺構のほうが古いと判断した。大部分が削平されている為、平面形、壁面・床面形状、堆積の様相は不明である。

床面施設として周溝1条と柱穴6個を検出した。北壁付近に分布するが、柱配置は不明である。

遺物は柱穴及び堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 272）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

#### A 98号竪穴建物

（第148図、写真図版5）

II A12 yグリッドに位置する。検出面はIV層で、暗褐色の半円形プランとして検出した。他遺構との重複関係は無い。斜面下方である南側及び東側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として北壁付近で焼土1基を検出した。40×15cmの不整形な褐色焼土で、被熱深度は約1cmである。本遺構に伴う地床炉の可能性もあるが、熱変成が弱く断定はできない。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物と考えられるが、詳細は不明である。年代についても出土遺物及び他遺構との重複関係も無い為不明である。

#### A 83・84・86～89・94号竪穴建物

（第149・50・128・129図、第2-20～22・258・275・279・296・323・324・373・377図、写真図版66～69・288・289・465・473・475・482・495・496・518・521）

II B 12 c～14 dグリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～IV層で、黒褐色～黄褐色土が堆積する円形プランを複数検出した。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係は93・100・102号土坑

→A 94号竪穴建物→A 89号竪穴建物→A 88号竪穴建物→A 87号竪穴建物→A 84号竪穴建物→A 86号竪穴建物→A 85号竪穴建物→A 83号竪穴建物である。

A 83号竪穴建物は、黒褐色～にぶい黄褐色の円形プランとして検出した。平面形は円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層及び下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土の主体は黒褐色土で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉1基を検出した。石組は、外径45×42cmの方形である。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。掘り方は石組よりも一回り大きな土坑状で、壁面に炉石を立て並べ、裏込めとしてにぶい黄褐色土を充填している。その他に柱穴5個を検出した。このうちP 01～04が主柱穴で、四角形の柱配置となる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した(a 231・232)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新～10式古段階であることから中期後～末葉の構築・使用と考えられる。

A 84号竪穴建物は、にぶい黄褐色の円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されており、炉や柱穴の配置から範囲を推定した。平面形は不明であるが、壁面は外傾しながら立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として西側で石囲炉1基を検出した。石組は、外径70×60cmの円形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、被熱深度は約1.5cmである。また、石組の南側では1.0×0.73mの範囲で褐色の被熱層が確認されている。炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝1条と柱穴30個を検出した。柱穴のうちP 01・12・14・24・25が主柱穴と考えられ、削平されている南側に柱穴があると仮定すれば八角形の柱配置となる可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器6点を掲載した(a 233～238)。このうちa 238はA 86号竪穴建物堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 86号竪穴建物は、上面ではプランの把握が困難であったことから地山面まで到達するトレンチを設定し、下部の確認を行った。断面観察の結果、炉を伴い床面と考えられる平坦面が複数確認でき、最上位に位置するものを本遺構の床面と判断した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は隅丸方形または楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉1基を検出した。炉石の多くは失われており、一部しか残存していない。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がっていたと考えられ、80×71cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴8個を検出した。このうちP 01・02・07・08が壁柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器6点を掲載した(a 245～250)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 87号竪穴建物は、A 88・89号竪穴建物の床面で円形に配置される小形の柱穴が確認されたことから、これらとは別の竪穴建物と認定した。柱穴の重複関係からA 88・89号竪穴建物より新しいと考えられるが、堆積土を全て掘り上げた後に認識した為、平面形・規模・壁面形状は確認できなかった。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。



床面施設として柱穴 15 個を検出した。このうち P 02・04～08・10・12・13 が壁柱穴になる可能性がある。また、中央北寄りで二次堆積焼土の集中範囲を確認した。

遺物は A 88・89 号竪穴建物と一括して取り上げており、3 軒分合わせて縄文土器 3 点と石器 7 点を掲載した（a 251～253、c 153・154・346・380・1068・1184・1185）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 88 号竪穴建物は、A 86 号竪穴建物精査時に設定したトレンチ内で IV 層を床面とする平坦面を確認し、平面的に掘り下げたところ南西側で炉を検出したことから A 86 号竪穴建物より古い竪穴建物と認定した。なお、本建物では炉が 2 基検出されており、柱配置も 2 案が想定されることから少なくとも 1 回の建て替え・拡張が行われていたと考えられる。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV 層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南西側で石囲炉 2 基を検出した。2 基は重複関係にあり、炉 1 のほうが新しい。炉 1 の石組は外径 73 × 72cm の円形だが、西壁は A 85 号竪穴建物構築時に壊されている。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、56 × 50cm の範囲で、被熱深度は約 2cm である。掘り方は石組よりも一回り大きな土坑状で、壁面に炉石を立て並べている。炉 2 は炉 1 構築時に南側を壊されている為、石組の形状と規模は不明である。燃焼部焼土は 54 × 41cm の楕円形で、被熱深度は約 2cm である。掘り方は石組よりも一回り大きな土坑状で、壁面に炉石を立て並べている。その他に柱穴 27 個を検出した。本建物では建て替え・拡張が行われたと考えられ、第一段階は P 03・08・10～12・21・22 で炉 2 が伴い、第二段階として P 06・07・09・11・13・17・26・27 に炉 1 が伴うものと考えられる。

遺物は、先述の通り A 87・89 号竪穴建物と一括して取り上げている。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 89 号竪穴建物は、A 88 号竪穴建物と同じく A 86 号竪穴建物に設定したトレンチ内で検出した。A 88 号竪穴建物と床面が同じ高さであり同一遺構の可能性もあるが、北壁面が連弧状になることから別の建物として認定した。大部分が削平されており、平面形は楕円形と考えられるが壁面形状は不明である。堆積土はほとんど残存しておらず、堆積の様相は不明である。

床面施設として東側で地床炉 1 基を検出した。床面を 80 × 80cm の円形に掘り込み、内部で燃焼行為を行ったと考えられる。燃焼部焼土は掘り方西側に位置し、46 × 40cm の不整形円形で、被熱深度は約 1cm である。その他に柱穴 10 個を検出した。

遺物は、先述の通り A 87・88 号竪穴建物と一括して取り上げているが、それ以外に土製品 2 点を本遺構に帰属するものとして掲載した（e 10・93）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 94 号竪穴建物は、IV 層で弧状に巡る周溝と柱穴を複数確認したことから竪穴建物と認定した。周溝に重複関係が認められることから本建物では建て替え・拡張が行われた可能性がある。斜面下方である南側は削平及び新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられる。ただし、床面付近で本遺構を認定したこともあり、壁面形状と堆積の様相は不明である。

床面施設として周溝 3 条と柱穴 6 個を検出した。最も外側に位置する溝 1 は弧状で、内側に位置する溝 2・3 は直線的である。

遺物は柱穴内や堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 258）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6式であることから前期末葉の構築・使用と考えられる。

（北村・村田）

#### A 91・95・97号竪穴建物

（第1-51・129図、第2-22・23・295・296・376・381図、写真図版70～72・289・290・483・520・524）

ⅡB 14 c～15 d グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、土坑類と共に暗褐色の円形プランが重複する形で検出した。新旧関係は、112号土坑→A 97号竪穴建物→A 95号竪穴建物→A 91号竪穴建物→103・104号土坑である。

A 91号竪穴建物は、暗褐色の楕円形プランとして検出した。平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、A 95号竪穴建物堆積土を削り出しているが、南側に向かって傾斜している。堆積土は褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南東寄りで地床炉の可能性のある焼土範囲を検出した。46×28cmの不整円形で、被熱深度は約2cmである。熱変成は弱く、上面も硬化していない。その他に柱穴7個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 256）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木7 b式であるが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 95号竪穴建物は、A 91号竪穴建物床面精査時に暗褐色の円形プランとして検出した。平面形は円形で、壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はA 97号竪穴建物堆積土を削り出しているが、南側に向かって傾斜している。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央西寄りで石囲炉1基を検出した。石組は80×80cmの円形であるが、炉石の間に空間がある。掘り方は石組よりも一回り大きな土坑状で、壁面より内側に炉石を立て並べている。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 259・260）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 b式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 97号竪穴建物は、A 95号竪穴建物の直下ではほぼ同一のプランとして検出した。平面形は円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。堆積土は褐色～にぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央西寄りで石囲炉1基を検出した。石組は50×38cmの楕円形であるが、北壁の炉石は失われている。炉内には燃焼部焼土は検出されなかった。掘り方は石組より大きな土坑状で、壁面より若干内側に炉石を立て並べている。その他に柱穴3個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点と石器2点、土製品1点、土器片円盤1点を掲載した（a 261～263、c 1070・1071、e 75、g 27）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 b式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

#### A 92号竪穴建物

（第1-51・129図、第2-22図、写真図版72・289）

ⅡB 14 a グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、若干硬化した平坦面と壁面の立ち上がりを検出した。また北壁から1.5m程南東の位置（P 07直上）で焼土と土器底部片を検出したことから、遺

存状況は悪いが竪穴建物と判断して精査を行った。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形または楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面検出段階で遺構と認定した為、堆積土の観察はできなかった。

床面施設として柱穴 10 個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 1 点を掲載した (a257)。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器は地文の破片が多く詳細な年代は不明であるが、中期の構築・使用と考えられる。

#### A 93・96 号竪穴建物

(第 152 図、第 2-269・324・364・381 図、写真図版 73・470・496・514・524)

Ⅱ A 15 y～Ⅱ B 16 a グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、暗褐色の半円形プランとして検出した。当初は 1 軒の竪穴建物と考えて精査を行ったが、床面で検出した周溝・柱穴の配置と重複関係から 2 軒が重複しているものと判断した。97 号土坑とも重複関係にあり、新旧関係は 97 号土坑→A 96 号竪穴建物→A 93 号竪穴建物である。

A 93 号竪穴建物は、斜面下方にあたる南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で複式炉 1 基を検出した。炉石の散逸が著しく遺存状態は悪いが、二組の石組によって構成される複式炉であったと考えられる。北側の掘り方は 160cm×90cm の不整形で、底面は凹凸が著しい。南側の掘り方は 83×72cm の方形で、底面は平坦に整えられている。掘り方内では燃焼部焼土は検出されなかった。その他に周溝 6 条と柱穴 16 個を検出した。柱穴のうち P 01～03・08・11・13 が主柱穴と考えられ、削平された床面南側にも柱穴が存在したと仮定すれば七角形の柱配置であったと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、石器 2 点と土器片円盤 1 点を掲載した (c 1186・1187、g 26)。縄文土器も一定量出土しているが、地文の破片がほとんどであり図示していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、詳細な年代は不明であるが中期の構築・使用と考えられる。

A 96 号竪穴建物は床面精査の段階で認定した為、堆積土の観察はできなかった。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面はやや外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を平坦に整えており、A 93 号竪穴建物床面と同レベルである。断面図の作成を行っていないが、堆積土は A 93 号竪穴建物と同じ黒褐～暗褐色土で、自然堆積と考えられる。

床面施設として中央で地床炉と考えられる現地性焼土を検出した。大部分を A 93 号竪穴建物の柱穴に壊されており平面形と規模は不明である。被熱深度は約 15cm である。その他に周溝 8 条と柱穴 15 個を検出した。柱穴は西側に集中しており、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、石器 1 点と石製品 1 点を掲載した (c 301、d 67)。縄文土器も少量出土しているが、地文の破片がほとんどであり図示していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、詳細な年代は不明であるが中期の構築・使用と考えられる。

#### A 100・101・103 号竪穴建物

(第1-53・129図、第2-23・24図、写真図版74・290)

II B 14 c・dグリッドに位置する。検出面はIV層で、暗褐色の半円形プランとして検出した。当初は1軒の竪穴建物と認識していたが、掘り下げの結果床面に段差が確認されたことから、3軒の竪穴建物が重複していることが判明した。59・109号土坑とも重複関係にあり、新旧関係はA 103号竪穴建物→A 101号竪穴建物→A 100号竪穴建物→59・109号土坑である。なお、南側にA 91号竪穴建物が位置するが、直接的な重複関係が無く新旧関係は不明である。

A 100号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されており、東西側も土坑に壊されている為平面形は不明である。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、南側に向かって傾斜しており凹凸も認められる。堆積土は暗褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として柱穴2個を検出した。北壁付近に分布するが、床面の大部分が削平されている為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 269)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式新段階であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 101号竪穴建物は、大部分が削平されており、北壁付近が残存するのみで平面形は不明である。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、南側に向かって傾斜しており凹凸も認められる。堆積土は暗褐色土と褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として周溝2条と柱穴12個を検出した。柱穴は規模の大きいP 01・07・10等が主柱穴になる可能性があるが、床面の大部分が削平されている為柱配置は不明である。

遺物は柱穴及び堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 270)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 103号竪穴建物は、本遺構の上部に位置するA 100・101号竪穴建物の断面観察時に両遺構とは異なる平坦面を確認した為、竪穴建物と認定した。大部分をA 100・101号竪穴建物に壊されており、北壁の一部が残存しているのみで平面形・壁面・床面形状は不明である。堆積土は褐色土であるが、堆積が薄く様相は不明である。

床面施設として柱穴1個を検出した。

遺物は、本遺構に伴う堆積土からは出土していない。

本遺構は、住居として使用された竪穴建物と考えられるが、詳細は不明である。出土遺物は無いが、年代はA 100・101号竪穴建物との重複関係から中期中葉以前の構築・使用と考えておきたい。

#### A 102号竪穴建物

(第1-53・129図、第2-23・324・325図、写真図版65・290・496)

II B 14 bグリッドに位置する。検出面はIV層で、暗褐色の半円形プランとして検出した。A 99号竪穴建物と107号土坑と重複関係にあり、本遺構のほうが新しい。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、南側に向かって傾斜しており凹凸も認められる。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝2条と柱穴7個を検出した。柱穴はP 01・05・06が壁柱穴になる可能性があるが、床面の大部分が削平されている為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器3点を掲載した(a 271、c 1188～

1190)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

#### A 105・106・133号竪穴建物

(第1-54・55・129図、第2-24・269・296・324・325・381図、写真図版75・76・290・470・483・496・524)

ⅡB 10 g・hグリッドに位置する。検出面はⅣ層で、にぶい黄褐色の円形プランとして検出した。周辺の土坑とも多数重複関係にあり、新旧関係はA 138・150号土坑→A 133号竪穴建物、118号土坑→A 145号土坑→A 106号竪穴建物→A 105号竪穴建物である。

A 105号竪穴建物は、当初は1軒の竪穴建物として考えていたが、北東側のテラス状の部分が別の竪穴建物であることがわかり、こちらをA 106号竪穴建物とした。なお、A 105号竪穴建物は後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形で、壁面は部分的に崩落しているがほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄橙色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南西側で複式炉1基を検出した。二室構造の複式炉で、壁面に近い南東側が前室になる。石組は、前室が外径65×65cm、後室が外径40×57cmで、台形に近い長方形と考えられるが、前室の南東壁及び後室の北東・南東壁は炉石が確認できなかった。前室・後室とも炉内では燃燒部焼土は検出されなかった。なお、当初炉と重複している138号土坑を炉の掘り方と考えていたが、炉と土坑の中軸線が異なることと炉石が全て土坑堆積土中に設置されていたことから別の遺構と判断した。本炉の掘り方は138号土坑堆積土中に掘り込まれた方形の土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。また、炉内は床面より低い位置にある。その他に周溝9条と柱穴20個を検出した。北東側の周溝が壁面に沿って二列併行することから、床面北東側で少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。周溝は溝2～4・6が内側、溝1・8・9が外側の一連のものになると考えられ、拡張されたとすれば内側の周溝が第一段階、外側の周溝が第二段階に伴うものと考えられる。柱穴は、P 01・02・07・16・17・19・20を主柱穴とすると、南側の柱穴が検出されていないが八角形の柱配置になると考えられる。また、P 03・05・06・11・12が壁柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器3点、土器片円盤1点を掲載した(a 273・274、c 1072・1191・1192、g 28)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木10式古段階であることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 106号竪穴建物は、南西側の大部分をA 105号竪穴建물에壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はわずかに外方に開きながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄橙色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴4個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、石器1点を掲載した(c 302)。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物は乏しいが、年代はA 105号竪穴建物の重複関係から中期末葉以前と考えられる。

A 133号竪穴建物は、A 105号竪穴建物精査後にプラン外で溝と柱穴を検出し、壁面は残存していないが位置関係から竪穴建物と認定した。上面は削平されている為、平面形・壁面形状・堆積の様

相は不明である。

床面施設として周溝2条と柱穴3個を検出した。溝1・2はいずれも中央付近で鋭角に屈曲しており、壁面に沿って掘削されたものとするれば本建物の平面形は多角形プランであった可能性がある。

遺物は、本遺構に伴う床面施設からは出土していない。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物が無く、年代はA 105号竪穴建物との重複関係から中期末葉以前と推定されるのみである。

#### A 107号竪穴建物

(第1-55・129・130図、第2-24図、写真図版77・290・291)

II B 9e グリッドに位置する。検出面はIV層で、黒褐色の半円形プランとして検出した。B 11号竪穴建物、142・167号土坑と重複関係にあり、新旧関係は142・167号土坑→A 107号竪穴建物→B 11号竪穴建物である。南側はB 11号竪穴建物に大部分を壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝7条と土坑1基、柱穴10個を検出した。周溝の位置関係から床面北側で少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。構築段階である第一段階に伴う周溝は溝1・4・5で、この時点では平面形は方形であったと考えられる。P 01・02・04・07が主柱穴と考えられ、床面南側に柱穴が存在したと仮定すれば六～八角形の柱配置であった可能性がある。第二段階に伴う周溝は溝2・6・7で、平面形は楕円形となる。柱穴は、P 02・05～07・10が壁柱穴であった可能性がある。なお、土坑1は床面南側に位置しており、柱穴との位置関係から第二段階に伴うものと考えられる。

遺物は床面直上を中心に出土しており、縄文土器3点を掲載した(a 275～277)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、床面直上出土土器が大木10式古段階であることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

#### A 108・117・123・124・128号竪穴建物

(第1-56～58・130図、第2-24・35・36・39・40・42・253・290・296・298・327・382図、写真図版78～81・290・291・299・301・303・305・462・479・483・484・497・524)

II B 8c～10 d グリッド付近に位置する。検出面は北側と南側はIV層、中央はIII層で、当初はA 117・124号竪穴建物を黒～黒褐色の円形プラン、A 108号竪穴建物をにぶい黄褐色土の不整形プランとして検出した。A 108号竪穴建物の検出面では炉や焼土を検出したが、いずれもA 108号竪穴建物堆積土中に構築されたもので埋没後の遺構と判断した。新旧関係は、171号土坑→A 128号竪穴建物→A 117号竪穴建物→A 124号竪穴建物→A 123号竪穴建物→A 108号竪穴建物→136・153・154・166号土坑、14号炉、2号焼土、B 11号竪穴建物である。

A 108号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されており、平面形は不明である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層とA 123号竪穴建物堆積土を削り出しているが、南側に向かって傾斜しており、IV層の範囲では凹凸が認められる。堆積土はにぶい黄橙～黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝3条と柱穴2個を検出した。周溝は途切れているが、溝1～3は一連のものと考えられる。柱穴は2個のみの検出であり、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した（a 278・279、c 1073）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 117号竪穴建物は、ベルトを残して床面まで掘り下げたところ、多数の周溝と柱穴、さらに3室構造に見える複式炉を検出したが、この時点では1軒の竪穴建物と考えていた。しかし、石囲炉の精査を行ったところ1基の複式炉ではなく新旧関係のある2基の石囲炉であることが判明し、さらに堆積土の断面観察を行って高さの異なる床面が存在することを確認したことから、同一建物内の建て替え・拡張ではなく、同一プラン内に一回り小型の竪穴建物が構築されているものとしてA 124号竪穴建物を認識した。このような経緯で認識した為、本来小さい遺構番号が新期の遺構に付されるべきであるが、この2軒では逆になっている。なお、A 117号竪穴建物については周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形で、壁面は東西壁はほぼ垂直であるが北壁は外傾しながら立ち上がる。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、堆積土の大部分がA 124号竪穴建物に壊されているが、自然堆積と考えられる。

床面施設として中央やや南寄りで複式炉1基を検出した。二室構造の複式炉で、壁面に近い南東側が前室になる。後室はA 124号竪穴建物炉に壊されており、燃焼部のみ残存している。残存する石組は前室が外径85×90cmで、台形に近い長方形であったと考えられるが、前室も南壁の炉石は残存していない。燃焼部焼土は後室で確認されており、石組の内側はほぼ全域に広がっていたと考えられる。53×27cmの方形で、被熱深度は約3cmである。前室では楕円形の掘り方が確認されており、石組はその壁面に炉石を立て並べて構築されている。一方、後室には掘り方は無く、設置する部分のみ掘り込んで炉石を据え付けている。炉内は床面より低い位置にあり、後室よりも前室のほうがさらに低い。その他に周溝13条と柱穴23個を検出した。周溝が壁面に沿って二列に併行することから、北側に向かって少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。構築段階である第一段階に伴う周溝は溝3～5・10・11・12で、床面をほぼ全周していたと考えられるが、北東側はA 124号竪穴建物に壊されており残存していない。柱穴はP 03・07・14～16・19・23が主柱穴であり、不整形な七角形の柱配置になると考えられる。ただし、床面北東側にA 124号竪穴建物に壊された柱穴があったと仮定すれば八角形の柱配置になると考えられる。第二段階に伴う周溝は溝1・2・06～09・13で、削平の為不明確であるが全周はしていなかったと考えられる。この段階の柱配置は不明であるが、床面南東側に柱穴が集中することからこの部分ではP 07と08に、P 03を04にといった柱の立て直しが行われた可能性もある。

遺物は床面直上を中心に出土しており縄文土器4点と石器1点、土器片円盤1点を掲載した（a 392～395、c 1079、g 36）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7b～8b式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 123号竪穴建物は、Ⅲ層を掘り込んでいるA 117号竪穴建物の北東壁の立ち上がりが不明瞭であり、それを確認するためにトレンチを設定して断ち割ったところ、北側で床面と考えられる平坦面を確認したことから竪穴建物と認定した。後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。A 117号竪穴建物堆積土を壊して床面が構築されていることから本遺構のほうが古く、本来小さい遺構番号が新期の遺構に付されるべきであるが、この2軒では逆になっている。平面形は円または楕円形と考えられるが、西壁がⅢ層との判別が困難であることと南側をA 117号竪穴建物精査時に壊してしまった為不明である。床面はⅢ層及びA 117・124号竪穴建物堆積土を

削り出しているが、南側に向かって傾斜しており凹凸も著しい。堆積土は東側はにぶい黄褐色土、西側は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝6条と柱穴3個を検出した。周溝は壁面に沿って二列が併行しており、少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。第一段階に伴う周溝は溝3～5で溝5の西側には周溝の残存と考えられる浅い段差も確認されている。第二段階に伴う周溝は溝1・2で、溝3～5と非常に近接していることから建物規模の変化はほとんど変わっていない。柱穴は検出数が少なく、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器1点、土器片円盤1点を掲載した(a 421, c 1202, g 37)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式古段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 124号竪穴建物は、先述の通りA 117号竪穴建物の同一プラン内で検出された竪穴建物である。A 117号竪穴建物精査中に壁面の大半を壊してしまった為断面観察からの推定になるが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ～Ⅳ層及びA 117号竪穴建物堆積土を平坦に整えているが、中央北側は斜面上方に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土とにぶい黄褐色土が交互に堆積しており、自然堆積である。

床面施設として周溝9条と柱穴3個を検出した。周溝は溝2・3は併行するが、その他は一連のものであったと考えられる。柱穴は西壁付近にのみ分布しており柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器5点を掲載した(a 422, c 16・17・1044・1080・1081)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は地文のみの破片が多いが、A 117・128号竪穴建物との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 128号竪穴建物は、A 117号竪穴建物の床面精査中に黒褐色土やにぶい黄褐色土が斑状に堆積する円形プランとして検出した。大部分を他遺構に壊されているが、平面形は円形と考えられる。壁面がほとんど残存していない為、壁面形状は不明である。堆積土は黒褐色土とにぶい黄褐色土で構成されるが、堆積が薄いため様相は不明である。本遺構に伴う床面施設は検出されなかった。

遺物は床面直上から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 451)。

本遺構は、床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土土器に大木7a式と考えられるものが含まれていることとA 117・124号竪穴建物との重複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えられる。

(村田)

#### A 109号竪穴建物

(第159・130～132図、第224～27・253・258・269・284・325図、写真図版82・83・291～293・462・465・471・477・496)

ⅡA 9v～10wグリッドに位置する。検出面はⅡ層で、暗褐色の円形プランとして検出した。A 172号竪穴建物、18・19号焼土、5号溝と重複関係にあり、新旧関係は18・19号焼土→A 172号竪穴建物→A 109号竪穴建物→5号溝である。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅡ層下位～Ⅲ層を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土と暗褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで複式炉1基を検出した。二室構成の複式炉で、斜面下方にあたる南側



が前室となる。石組は前室が外径70×70cm、後室が外径40×60cmで、台形に近い長方形であるが、前室の西壁は炉石が全体的に大きく動いている。前室の燃焼部焼土は仕切り石付近に位置し、36×17cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。後室の燃焼部焼土は炉内全域に広がり、26×44cmの範囲で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴8個を検出した。北東側に列状に分布するが、柱配置は不明である。

遺物は炉の周辺、床面直上、堆積土中から出土しており、縄文土器40点と石器6点を掲載した（a 280～319、c 9・155・303・1005・1193・1194）。縄文土器のうちa 281・287は円筒土器で、a 281は円筒上層c式、287は円筒上層a式と考えられる。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器に大木8b式や円筒上層c式が含まれ、炉の形態が複式炉であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

### A 110～112号竪穴建物

（第160・132・133図、第227～29・253・297・326・382図、写真図版84・85・293・294・462・483・497・524）

II A 9 t～11 vグリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層で、黒褐色の半円形ブランが連なる形で検出した。東側の検出面がⅢ層下位であり、この部分ではブランが不明瞭であった為、南北のグリッドラインに沿って層位確認トレンチを設定して断面観察を行い新旧関係を確認した。119号土坑、5・11号溝とも重複関係にあり、新旧関係はA 112号竪穴建物→A 111号竪穴建物→A 110号竪穴建物→119号土坑、5・11号溝である。

A 110号竪穴建物は、黒褐色土の不整形ブランとして検出した。斜面下方である南側は削平、東側はⅢ層との判断が難しく、ブランは推定となる。残存部分から推定される平面形は円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層及びA 112号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南東側で複式炉1基を検出した。三室構造の複式炉で、壁面に近い南東側が前室と考えられる。なお、北西側にあたる後室北壁は残存しておらず、さらに炉の上面に重なっている木根が炉石に絡まっており、これを除去すると炉全体が壊れてしまうことから可能な限り根を除去した段階で写真測量により断面図の作成を行った。また、このような状況であったことから平面図の作成はできなかった。断面図から計測できる規模は、前室の外径が72cm、中央室の外径が50cm、後室の外径が50cmである。燃焼部焼土は前室と後室で検出した。いずれも仕切り石付近に位置しており、前室の燃焼部焼土は被熱深度が約2cm、後室の燃焼部焼土は被熱深度が約4cmである。炉内は後室は床面と同じ高さであるが、前室と中央室は床面より低い位置にある。後室は炉石を設置する部分のみ掘り込んでいるが、前室と中央室は石組と同規模の土坑状の掘り方を持ち、壁面に沿って炉石を立て並べている。その他に周溝4条と柱穴8個を検出した。周溝は部分的なものであるが、北壁面に二列併行していることから、建て替え・拡張が行われた可能性がある。柱穴は壁面付近に分布するが、柱配置は不明である。

遺物は炉付近の堆積土を中心に出土しており、縄文土器7点と石器2点、土器片円盤1点を掲載した（a 320～326、c 1074・1195、g 29）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 111号竪穴建物は、暗褐色の不整形ブランとして検出した。斜面下方である南側はA 110号竪

穴建物に壊され、東側はⅢ層との判別が難しく、プランは推定となる。残存部分から推定される平面形は楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅲ～Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄り土坑状の掘り込みを検出した。堆積土から炉石と考えられる板状礫が出土しており、炉の設置痕跡と考えられる。平面形は円形の土坑を連続させる形状で、長軸は1.36 m、南側の土坑部分の短軸は0.95 mである。断面形は半円形で、深さは約18 cmである。なお、南側の土坑部分の底面西側では炉石の据え付け穴の可能性がある浅い長方形の窪みを確認している。その他に周溝3条と柱穴10個を検出した。柱穴は規模の大きいP 01・03・10が主柱穴になる可能性があるが、床面南側が削平されている為柱配置は不明である。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器7点と石器3点、土器片円盤2点を掲載した(a 327～333、c 10・1075・1196、g 30・31)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木7 b～8 a式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 112号堅穴建物は、暗褐色土の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、残存する壁面及び炉・柱穴の配置から平面形は楕円形と考えられ、壁面は若干外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は暗～黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南東側で石囲炉1基を検出した。石組は、外径78×68 cmの楕円形である。燃焼部焼土は炉内のほぼ全域に広がり、56×50 cmの円形で、被熱深度は約2 cmである。炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に土坑1基と柱穴6個を検出した。土坑1は床面北側に位置する円形の土坑で、外径は80×70 cm、深さは16 cmである。柱穴は小型のものが多く、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器6点と石器2点を掲載した(a 334～339、c 11・1076)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木8 a式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

#### A 113・114・154・161・170・180号堅穴建物

(第1-61・62・133・134図、第2-29・30・58・59・258・270・273・284・297・298・302・325・329・376・381図、写真図版86～89・294・295・317・465・471・472・477・484・485・497・498・520・524)

II A 10 w～13 xグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、遺物を含む暗褐色の不整形プランとして検出した。上面では新旧関係が不明瞭であった為、斜面の傾斜方向にあたる北西～南東方向に複数のトレンチを設定して掘り下げ、断面観察によって新旧関係を確認した。なお、北～東側でA 161・170・171・181・190号堅穴建物と重複しているが、A 161・170・171・190号堅穴建物は第1-84～86図に、A 181号堅穴建物は第1-89～91図に個別図を掲載しており、前者は82頁、後者は88頁で記載を行っている。これらの堅穴建物を含めた新旧関係は、A 190号堅穴建物→A 171号堅穴建物・201号土坑→A 170号堅穴建物・200号土坑→A 114号堅穴建物→A 154号堅穴建物→A 180号堅穴建物→A 181号堅穴建物→A 113号堅穴建物→A 161号堅穴建物である。

A 113号堅穴建物は、当初はA 114・180号堅穴建物のプランと合わせて黒～暗褐色の長方形プランとして検出したが、精査によりプランの異なる2軒の建物であることが判明したことから本遺構を

A 113号堅穴建物とした。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は隅丸方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層及びA 171・180号堅穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として東側で石囲炉1基を検出した。石組は外径約40cmの円形と考えられるが、南側は削平のためか炉石が抜けて散逸していた。燃焼部焼土と考えられる褐色の焼土（1層）を検出したが、熱変成は非常に弱い。炉内は床面より低い位置にあり、炉石を設置する範囲を掘り窪めて掘り込みに沿って炉石を設置していたと考えられる。その他に柱穴4個を検出した。北東壁付近に分布しているが、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器6点と石器3点、土製品1点、土器片円盤1点を掲載した（a 340～345、c 304・327・1004、e81、g 32）。縄文土器のうちa 340はA 114号堅穴建物堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木9式新段階主体であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 114号堅穴建物は、先述の通り当初はA 113号堅穴建物と同一と考えていたが、上面プランと異なる方向に周溝が確認された為、別の堅穴建物と認定した。ただし、この時点ではA 180号堅穴建物と合わせて1軒の堅穴建物と考えていたが、周溝や柱穴に切り合いが認められたことから後に2軒に分離した。なお、新旧関係ではA 180号堅穴建物のほうが新しく、本来小さい遺構番号が新期の遺構に付されるべきであるが、この2軒では逆になっている。後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。上面を大幅に削平されているが、平面形は円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がると考えられる。床面はⅢ層を削り出しているが、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央北寄りで石囲炉1基を検出した。石組は外径65×65cmの六角形で、南側の炉石が無く開口している。燃焼部焼土は炉内北側に位置し、40×25cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝3条と柱穴23個を検出した。周溝は北壁面に沿って二列併行しており、少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。柱穴は西側と南東側に集中するが、このうちP 02・10・13・19・23が主柱穴で、五角形の柱配置になると考えられる。また、拡張後にはP 01・11・14・17・22等も壁柱穴として使用された可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器8点と石器4点、土器片円盤2点を掲載した（a 346～353、c 156・1077・1078・1197、g 33・34）。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木8b式新段階主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 154号堅穴建物は、A 114・180号堅穴建物精査中に、層位確認トレンチ（B断面）でA 180号堅穴建物より一段低い位置にある堅穴建物として認識した。後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。斜面下方である南壁は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ層を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央やや南寄りで複式炉1基を検出した。二室構成の複式炉であるが、炉石の抜き取りや崩落が著しく平面形は不明である。後室と考えられる北側の石組内で燃焼部焼土を検出した。燃焼部焼土は17×11cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面と同じく南側に向かって

傾斜しているが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝8条と柱穴13個、埋設土器1基を検出した。周溝は北壁に沿って併行するものや切り合うものがあり、少なくとも2回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。構築段階である第一段階に伴う周溝は溝1～3・6で、当初は円形プランであったと考えられる。第二段階として溝6を切るように溝8が掘削され、第三段階として溝4・5が掘削されて楕円形プランへと変化したと考えられる。柱穴は中央から東側に分布しているが、柱配置は不明である。埋設土器は北壁付近で検出した。溝3の壁面を若干壊して設置されていることと溝8との位置関係から第三段階に伴うものと考えられる。掘り方は土器の直径と同じ大きさに掘り込み、深鉢を正位に設置している。

遺物は埋設土器の他に堆積土中から出土しており、縄文土器3点と石器2点を掲載した(a 628～630、c 1091・1216)。縄文土器のうちa 628が埋設土器の本体、その他は埋設土器内堆積土から出土したものである。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 180号堅穴建物は、先述の通りA 114号堅穴建物から分離した堅穴建物である。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、南側に向かって傾斜しており凹凸も認められる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝5条と柱穴11個を検出した。周溝は途切れているが一連のもので、壁面に沿って巡っていたと考えられる。柱穴は全域に分布しているが、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しているが、縄文土器は摩耗した破片が多く図示できたものは無いが、大木8b～9式土器の破片が含まれている。

本遺構は炉石は確認されていないが住居として使用された堅穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(中村・村田)

#### A 115号堅穴建物

(第1-63図、写真図版90)

II B 3 c グリッドに位置する。検出面はIV層で、II B 4・5 a・b 遺物包含層精査後に黒褐色の方形プランとして検出した。他遺構との重複関係は無い。大部分が調査区外であり、斜面下方である南側も削平されているため平面形は不明である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として土坑1基を検出した。85×73cmの円形で、深さは20cmである。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているのみで、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された堅穴建物の可能性があるが、詳細は不明である。年代についても出土遺物が乏しく詳細は不明であるが、II B 4・5 a・b 遺物包含層との重複関係から中期後葉以前の構築・使用と考えられる。

#### A 116号堅穴建物

(第1-63・134～137図、第2-30～36・253・260・262・325・326・363・366・368・379・382図、写真図版90・295～300・462・466・467・497・513・151・516・523・524)

II B 6 b グリッドに位置する。検出面はIII層下位～IV層で、にぶい黄褐色～暗褐色の円形プランと

して検出した。A 141 号竪穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが古い。南側を A 141 号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられる。壁面は東西壁はほぼ垂直に立ち上がるが、北壁は中位付近まではほぼ垂直に、それより上位は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は真砂土を含むにぶい黄褐色～褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として地床炉 2 基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉 1 は中央やや西寄りに位置し、36 × 36cm の円形で、被熱深度は約 3cm である。炉 2 は炉 1 の東側に隣接し、50 × 46cm の円形で、被熱深度は約 3cm である。その他に柱穴 9 個を検出した。中央から東側に分布しており、P 03・05・09 等が主柱穴になる可能性があるが、南側が削平されている為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から多量に出土しており、縄文土器 39 点と石器 7 点、石製品 3 点、台形土器 1 点、土器片円盤 1 点を掲載した（a 354～391、c 12・13・204・235・1198～1200、d 60・75・82、f 3、g 35）。縄文土器のうち、a 354 は A 122 号竪穴建物堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物が大木 8 b～9 式古段階主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

#### A 118・119 号竪穴建物

（第 164・137 図、第 237 図、写真図版 91・299）

II B 9 h～j グリッドに位置する。検出面は IV 層で、にぶい黄褐色の不整形ブランとして検出した。上面では新旧関係が不明瞭であった為、層位確認トレンチを設定して掘り下げを行ったところ、床面の高さが異なる 2 軒の竪穴建物が重複していることを確認した。22・131 号土坑とも重複関係にあり、新旧関係は 22・131 号土坑→A 119 号竪穴建物→A 118 号竪穴建物である。

A 118 号竪穴建物は、斜面上方に位置する竪穴建物である。大部分が削平されており、平面形は不明である。壁面は、わずかに外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として周溝 1 条と柱穴 9 個を検出した。床面の大部分が失われてしまっている為、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 1 点を掲載した（a 396）。a 396 は本遺構の斜面下位に位置する A 105 号竪穴建物出土破片と接合しているが、本遺構に帰属するものと判断した。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土土器に大木 10 式古段階のものが含まれることから中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 119 号竪穴建物は、斜面下方に位置する竪穴建物である。大部分が削平によって失われており、平面形は不明である。壁面は、わずかに外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝 1 条と柱穴 9 個を検出した。柱穴は北壁面付近に集中しており、P 04・05・07・08 は壁柱穴になる可能性があるが、床面の大部分が失われている為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は炉は確認されていないが A 118 号竪穴建物と同様の特徴を有することから住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は出土遺物が乏しく、A 118 号竪穴建物との重複関係から中期末葉以前に構築・使用されたものと考えておきたい。

（村田）

A 120・121・126・127・132・139・144・148・152・153・159・173・174・177  
・178号竪穴建物

(第165～70・137～139図、第237・41～44・49・52・55・58・60・73・74・238・253・254・256・258・260・262・263・271・272・282・284・299・300・327・329・331・363・364・376・379・382図、写真図版92～103・299～301・304～307・310・311・313・314・317・318・327・328・385・462・464～468・471・472・475・477・484～486・498・499・513・514・520・523・524)

ⅡB9a～12bグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、遺物が多量に出土する暗褐色土の広がりとして検出した。土層確認の為にグリッドラインに沿って南北方向に複数のトレンチ設定して掘り下げたところ、炉や壁面の立ち上がりが確認されたことから複数の竪穴建物が重複していることが判明した。ただし、上面でのプラン把握が困難であったことから、東西方向にも複数のベルトを設定して掘り下げ、床面施設の検出及び断面観察から遺構の認定を行った。なお、この範囲では竪穴建物と判断できたものから遺構番号を付している為、新旧関係と遺構番号の順序は一致していない。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係はA159号竪穴建物→A174号竪穴建物→A178号竪穴建物→A153号竪穴建物→A152号竪穴建物→A121号竪穴建物→A120号竪穴建物→A173号竪穴建物→A144・178・196号竪穴建物→A127号竪穴建物、218号土坑→A126号竪穴建物→A139・158号竪穴建物→A148号竪穴建物、129号土坑→A132・151号竪穴建物、126号土坑である。なお、A159号竪穴建物については第1-83図で個別図を掲載しており、記載は82頁で行っている。

A120号竪穴建物は、ⅡB11a～bグリッドの東西トレンチで土器が多量に出土する暗褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層及びA121号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。床面直上からは炭化物が多量に出土しており、焼失家屋の可能性がある。

床面施設として北壁付近で複式炉1基を検出した。石囲炉と地床炉で構成される複式炉で、石囲炉は北壁と西壁の炉石は残存していないが、石組は外径69×65cmの方形と考えられる。燃焼部焼土は炉内北西側に位置し、48×41cmの円形で、被熱深度は約6cmである。地床炉は石囲炉の南側に位置し、110×80cmの範囲に不整形に広がり、被熱深度は約3cmである。炉内はいずれも床面と同じ高さであり、石囲炉の炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝1条と柱穴10個を検出した。柱穴のうち、P01～07は壁柱穴になる可能性がある。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器1点、石製品1点を掲載した(a397～400、c386、d61)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8a式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A121号竪穴建物は、ⅡB11a～bグリッドの東西トレンチ断面で壁面と考えられる立ち上がりを確認し、A120号竪穴建物床面精査時にその立ち上がりに対応する暗褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は中央に位置する石囲炉で、炉石は大半が失われており平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は72×45cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面と同じ傾斜であり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は北側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は35×20cmの楕円形で、被熱深度は約

2cmである。その他に、六角形の柱配置となる柱穴6個を検出した。

遺物は柱穴内や堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 401）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7 a式であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 126号竪穴建物は、II B10 a・bグリッド内の掘り下げ中に焼土や炭化物を含む暗褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形または楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体であるが、上位には焼土と炭化物が多量に含まれており人為堆積の可能性がある。

床面施設として炉4基を検出した。別の竪穴建物に伴う可能性も考えたが、同一面上にあることから本遺構に帰属するものとした。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は南東側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は77×50cmの楕円形で、被熱深度は約8cmである。炉2は北西側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は18×18cmの円形で、被熱深度は約3cmである。炉3は南西側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は33×26cmの円形で、被熱深度は約3cmである。炉4は北東側に位置する地床炉で、燃焼部焼土33×21cmの楕円形である。断面図の作成を怠ってしまったが、被熱深度は約2cmである。その他に周溝3条と柱穴19個を検出した。柱穴のうち、P 02・05・06・09・11・16・18が主柱穴または壁柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器5点と赤彩が付着した縄文土器2点、石器7点、土製品2点を掲載した（a 438・439・441～443、r 7・8、c 15・18・19・110・111・157・1082、e 49・50）。縄文土器のうち、a 438はA 148号竪穴建物堆積土出土の破片と接合し、a 442・443はA 127号竪穴建物との重複部分から出土している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木8 b式新段階が主体であるが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 127号竪穴建物は、A 126号竪穴建物の北側で暗褐色の半円形プランとして検出した。後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、皿層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土と黒褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として炉3基を検出したが、いずれもA 126号竪穴建物の一部を壊されている。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は南西側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は67×25cmの楕円形、被熱深度は約3cmである。炉2は炉1東側に隣接する地床炉で、燃焼部焼土は31×12cmの円形、被熱深度は約1.5cmである。炉3は中央北寄りに位置する地床炉で、燃焼部焼土は64×21cmの楕円形、被熱深度は約2cmである。その他に周溝6条と柱穴12個を検出した。周溝は途切れているが二列が壁面に併行しており、少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。構築段階にあたる第一段階は溝2・5・6が巡る円形プランで、柱穴はP 03・05が伴い、第二段階は溝1・3・4が巡る円形プランで、柱穴はP 01・06・09・11が主柱穴になると考えられる。また第二段階では壁面に斜めに掘削された柱穴（P 07・10・12）があり、これらは主柱穴を支える支持柱であった可能性がある。炉は位置関係から炉2が第一段階、炉1・3が第二段階に伴うと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器7点と石器4点を掲載した（a 444～450、c 20・205・1007・1203）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木7 a～8 b式であるが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 132号竪穴建物は、II A 9～12 a グリッド中央の南北トレンチで壁面と考えられる立ち上がりを確認し、II B10 a グリッド内を掘り下げたところ炉を伴う床面を検出したことから竪穴建物と認定した。なお、本遺構の堆積土とⅢ層との判別は困難であり、壁面はベルト部分でのみしか確認できなかった。平面形は楕円形で、壁面は大きく外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層と下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土にはぶい黄褐色土や黒褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として中央北寄りで地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は55×33cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。

遺物は堆積土2層を中心に出土しており、縄文土器10点と赤彩が付着した縄文土器1点、台形土器1点を掲載した(a 465～474, r 9, f 4)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式新段階が主体であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 139号竪穴建物は、複数の南北トレンチでの断面観察で壁面と考えられる立ち上がりを確認し、II B 9・10 a グリッド内を掘り下げたところ炉を伴う床面を検出したことから竪穴建物と認定した。なお、本遺構の堆積土とⅢ層との判別は困難であり、壁面はベルト部分でのみしか確認できなかった。平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層と下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。堆積土下位～床面直上から焼土と炭化物が多量に出土しており、焼失家屋の可能性もある。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。石組は、外径68×47cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、75×65cmの円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器3点、石製品1点、土製品1点を掲載した(a 528～531, c 23・159・1085, d 68, e 74)。石器のうちc 1085は炉石として転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 144号竪穴建物は、II B11 a～b グリッドのトレンチ掘削時に炉を検出し、断面観察で床面と考えられる平坦面と壁面の立ち上がりを確認したことから竪穴建物と認定した。上面の大部分が削平されているが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として中央で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は68×41cmの楕円形で、被熱深度は約2.5cmである。なお、焼土西端に直立した礫が1個あることから石囲炉であった可能性もある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器1点を掲載した(a 555, c 26)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 148号竪穴建物は、II A 9～12 a グリッド中央の南北トレンチでA 132号竪穴建物の下位に壁面と考えられる立ち上がりを確認し、II B10 a グリッド内を掘り下げたところ炉を伴う床面を検出したことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側はA 132号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南東側で石囲炉1基を検出した。石組は、外径56×44cmの楕円形である。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。



遺物は炉内や床面直上から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した（a 440・572、c 1088）。石器のうちc 1088は炉石として転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木8b式新段階が主体であるが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 152号竪穴建物は、A 127号竪穴建物精査後に北側で暗褐色の半円形プランとして検出した。西～南側はA 127・151号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は49×37cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器4点を掲載した（a 620～623、c 161・237・252・1215）。石器のうち、c 161・252はA 151号竪穴建物との横断トレンチで出土している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6～7a式主体であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 153号竪穴建物は、ⅡB 9bグリッド内の掘り下げ中に暗褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方にあたる南側は削平されているが、平面形は隅丸方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉3基を検出した。重複関係から炉3より炉2が新しいが、炉1とは直接的な重複関係が無く新旧関係は不明である。炉1は中央に位置する複式炉で、石囲炉と地床炉で構成される。石囲炉の石組は74×51cmの楕円形で、一部に土器片を用いて隙間を充填している。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、60×40cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。地床炉の燃焼部焼土は55×44cmの円形で、被熱深度は約4.5cmである。炉内はいずれも床面と同じ高さであり、石組の炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は北側に位置し、燃焼部焼土は48×34cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。炉3は南側を炉2に壊されているが、燃焼部焼土は直径40cmの円形で、被熱深度は約1.5cmである。その他に主柱穴になると考えられる柱穴3個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器6点、土器片円盤1点を掲載した（a 624～627、c 28・207・253・318・319・1090、g 42）。石器のうち、c 1090は炉石として転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7a式主体であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 173号竪穴建物は、A 126号竪穴建物精査後にA 177号竪穴建物と共に黒褐色の方形プランとして検出した。当初はA 177号竪穴建物と合わせて1軒と考えていたが、断面観察により床面の高さが異なることが判明したことから2軒に分離した。A 177号竪穴建物より古いのが、先に炉を確認したこちらに小さい遺構番号を付した。西～南側は削平及び新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は方形または楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層と下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は19×15cmの円形で、被熱深度は約3cmである。その他に、熱変成は弱いが現地性焼土の可能性のある焼土範囲を2箇所検出した。炉の付近に位置する焼土範囲は50×35cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。南側に位置する焼土範囲は直径43cmの円形で、被熱深度は約2cmである。その他に柱穴8個を検出した。いずれも北壁付近

に位置しており、このうちP 01・03・04・07が壁柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点を掲載した(a 767～769)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 174号堅穴建物は、II B 9～12 a グリッド中央の南北トレンチでの断面観察でA 173号堅穴建物の下位で床面と考えられる平坦面を確認し、II B 11 a グリッド内を掘り下げたところ平坦面と同じ高さで炉を検出したことから堅穴建物と認定した。後述するように炉と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。南側は新期の堅穴建物に壊されているが、平面形は長方形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層を削り出しているが、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉3基を検出した。重複関係から炉1が炉2より新しいが、炉3とは直接的な重複関係が無い為新旧関係は不明である。炉1は中央東寄りに位置する石囲炉で、南壁は炉石が抜き取られた可能性があり残存していないが、石組は外径は64cmの円形と考えられる。燃焼部焼土は炉内北東側に位置し、50×35cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は炉1南西側に隣接する地床炉で、燃焼部焼土は35×34cmの円形で、被熱深度は約3cmである。炉3は南西側に位置する石囲炉であるが、炉石の大半が失われており平面形と規模、構築方法は不明である。燃焼部焼土は87×64cmの不整形で、被熱深度は約2cmである。その他に周溝2条と柱穴10個を検出した。炉と柱穴の位置関係から、少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。構築段階にあたる第一段階は周溝を持たない長方形プランで、柱穴はP 01・03・06が伴い、第二段階は溝1・2が巡る長方形プランで、柱穴はP 02・05・09が伴うと考えられる。炉は炉2が第一段階、炉1・3が第二段階に伴うと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 770)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器は地文のものが多いが、前期に属するものが含まれることと他遺構との重複関係から前期末葉の構築・使用と考えられる。

A 177号堅穴建物は、A 126号堅穴建物精査後にA 173号堅穴建物と共に黒褐色の方形プランとして検出した。当初はA 173号堅穴建物と合わせて1軒と考えていたが、断面観察により床面の高さが異なることが判明したことから2軒に分離した。A 173号堅穴建物より新しいが、炉の検出が遅かった為大きい遺構番号を付した。大部分が新期の堅穴建物に壊されており、平面形は不明である。壁面は外傾しながら立ち上がり、床面はⅢ層と下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土と黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴9個を検出した。配置に規則性が無く、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された堅穴建物の可能性はあるが、詳細は不明である。出土遺物も乏しいが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 178号堅穴建物は、II B 9～12 a グリッド東側の南北トレンチで壁面を確認し、II B 11 a グリッド内を掘り下げたところ黒褐色の楕円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を削り出しているが、若干凹凸が認められる。堆積土はにぶい黄褐色土を含む黒褐色土が主体で、自然堆積である。床面直上から炭化物が多量に出土していることから、焼失家屋の可能性はある。

床面施設として中央北寄りに地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は22×21cmの円形で、被熱深度

は約2cmである。その他に柱穴6個を検出した。このうちP 01・05は壁柱穴、P 02・04は主柱穴になる可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器1点を掲載した（a 786、c 1227）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6式であることから前期末葉の構築・使用と考えられる。

（高橋・村田）

#### A 122号竪穴建物

（第1-71・139・140図、第2-37～39・253・271・327・375図、写真図版104・301～303・462・471・497・520）

II B 6 c グリッドに位置する。検出面はIV層で、褐～黄褐色の円形プランとして検出した。西側壁面でA 116号竪穴建物とわずかに重複関係にあり、本遺構のほうが新しいと判断した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられる。壁面は外方に開きながら立ち上がり、北東壁では中位付近でテラス状の平坦面を形成する。平坦面は幅約35cmで、内側に向かって若干傾斜している。床面はIV層を平坦に整えており、さらに中央より南東側では床面構築土の可能性あるにふい黄褐色土を確認している。堆積土は褐～黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央やや西寄りで石囲炉1基を検出した。南北壁の炉石が確認できなかったが平面形は不明であるが、長軸60cm程度の円または楕円形であったと考えられる。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、42×32cmの範囲で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝3条と柱穴7個を検出した。床面南側で柱穴が検出されていないが柱配置は不明であるが、P 01～03が主柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器19点と石器3点、土製品2点を掲載した（a 402～420、c 15・317・1201、e 49・50）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 a・b式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

#### A 134号竪穴建物

（第1-71・140図、第2-44図、写真図版105・306）

II B 10 c グリッドに位置する。検出面はIV層で、黒褐色の円形プランが連結する範囲として検出した。南北の長軸方向にトレンチを設定して掘り下げた結果、1軒の竪穴建物と2基の土坑が重複していることが判明した。8号溝とも重複関係にあり、新旧関係は8号溝→190・217号土坑→A 134号竪穴建物である。後述するように周溝の配置から建て替え・拡張が行われた可能性がある。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形または隅丸方形と考えられる。壁面は北～西壁は直立気味に立ち上がるが、東壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、若干の凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝6条と柱穴13個を検出した。周溝は、溝1・3・4・6が一連のものであり、溝2と併行している。両者は重複していないが同時存在の可能性もあるが、柱穴も重複するものが多いことから少なくとも1回の建て替え・拡張が行われた可能性がある。柱穴との重複関係から内側の溝2が古く、溝1・3・4・6が新しいと考えられる。ただし、床面南側の柱穴が検出されていないが柱配置は不明である。

出土遺物は217号土坑との重複部分から多く出土している。217号土坑に帰属する可能性もあるが、

本遺構に伴うものとして縄文土器1点を掲載した(a 475)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された堅穴建物であり、出土土器は大木6式が多いが、中期前葉に属する土坑を壊していることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

(村田)

#### A 125・145・146・149・162・175・187～189・191号堅穴建物

(第1-72～74・141～146図、第2-40・41・62～66・78～83・254・258・260～262・267・268・274・275・304・329・330・372・382・図、写真図版106～109・303・304・319～322・332～334・462・465～467・469・470・473・486・498・518・524)

ⅡA 6x～ⅡB 8a グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、遺物が集中する黒褐～暗褐色土の広がりと認識した。周辺の状況から堅穴建物が重複しているものと想定されたが、上面ではプランの把握が困難であったことからグリッドラインに沿って東西・南北方向に複数のベルトを設定し、断面観察を行いながら掘り下げ、炉や硬化範囲等床面と判断できる平坦面が確認された時点で堅穴建物と認定した。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係はA 149・191号堅穴建物→A 188号堅穴建物→A 175号堅穴建物→A 162号堅穴建物→A 129・146・186号堅穴建物→A 189号堅穴建物→A 187号堅穴建物→A 145号堅穴建物→A 125号堅穴建物である。なお、A 145号堅穴建物は第1-75～77図、A 149・175号堅穴建物は第1-81図、A 146号堅穴建物は第1-82図で個別図を掲載しており、それぞれ75・81・82頁で記載を行っている。

A 125号堅穴建物は、暗褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は中央に位置する石囲炉で、石組は外径81×64cmの長方形である。燃焼部焼土は北壁付近に位置し、48×43cmの円形で、被熱深度は約3cmである。掘り方は石組と同規模の土坑状で、さらに炉石を設置する部分を深く掘り込んでいる。炉2は北側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は28×26cmの円形で、被熱深度は約2cmである。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器15点と石器1点を掲載した(a 423～437, c 341)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、床面直上の出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 162号堅穴建物は、遺物を多量に含む暗褐色の広がりとして検出した。当初は沢状地形堆積土であるⅢ層が遺物包含層状になっているものと考えていたが、トレンチを設定して掘り下げたところ壁面と考えられる立ち上がりを検出したことから堅穴建物と認定した。南側は古代以降の遺構及びトレンチ掘削により失われているが、平面形は長方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は砂を含む暗褐～ぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器45点と石器11点、土製品1点、土器片円盤1点を掲載した(a 655～699, c 33・34・164・165・196・281～283・1217～1219, e 1, g 45)。

本遺構は、長軸規模が9mを超えることから大型住居に属する建物と考えられる。出土土器は大木6～7b式が主体であり、前期末葉～中期前葉の構築・使用と考えられる。床面施設は確認されていないが大型住居であるとすれば数回の建て替え・拡張が行われた可能性がある。

A 187号竪穴建物は、ⅡA 7 x グリッド内掘り下げ中に炉を検出し、断面観察で壁面の立ち上がりを確認したことから竪穴建物と認定した。東～南側は削平及びA 125号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層及びA 188号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央西寄りで石囲炉1基を検出した。石組は、外径75×68cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、40×33cmの楕円形で、被熱深度は約2.5cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴3個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器20点と石器2点、土製品1点を掲載した（a 827～846、c 41・1099、e 96）。石器のうちc 1099は炉石として転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 188号竪穴建物は、A 187号竪穴建物精査後にⅢ層を掘り下げたところ、円形の黒褐色プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層を削り出しているが、部分的に凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南西側で石囲炉1基を検出したが、炉石の大半が失われており平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は38×30cmの円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴2個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器17点と石器13点、土製品1点を掲載した（a 847～863、c 42～47・168・223・239・284・285・345・1100）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木5～7a式であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 189号竪穴建物は、A 187号竪穴建物の北壁より北側で壁面の立ち上がりが確認されたことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平及びA 187号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点を掲載した（a 864～867）。

本遺構は床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられ、出土土器は大木8b式新段階が主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 191号竪穴建物は、A 146・189号竪穴建物精査後にそれより下位でにぶい黄褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平及び新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴13個を検出した。柱穴のうちP 01・04・07・11が主柱穴で四角形の柱配置となり、中央の支持柱としてP 13も使用されていた可能性がある。

遺物は柱穴や堆積土中から出土しており、縄文土器5点を掲載した（a 870・871・1213・1215・1216）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6式であることから前期末葉の構築・使用と考えられる。

## A 129・131・136～138・145・192号竪穴建物

(第1-75～77・147～149図、第2-42・43・46～49・52・53・253・258・261～263・369・376図、写真図版110～113・305・306・308～310・313・314・462・463・465・466～468・477・516・520)

II A 7v～8xグリッドに位置する。検出面はⅢ層で、古代の遺構であるB 9号竪穴建物精査後に調査区壁面に沿って設定した土層確認トレンチ(F断面)で竪穴建物と考えられるプランを複数検出した。ただし、上面でのプラン把握が困難であったことから、グリッドラインに沿って複数のベルトを設定して掘り下げ、床面施設の検出及び断面観察から遺構の認定を行った。なお、この範囲では竪穴建物と判断できたものから遺構番号を付している為、新旧関係と遺構番号の順序は一致していない。多数の竪穴建物が重複関係にあり、新旧関係はA 131・188号竪穴建物→A 138・186号竪穴建物→A 172号竪穴建物→A 129号竪穴建物→A 136号竪穴建物→A 193号竪穴建物→A 145号竪穴建物→A 192号竪穴建物→A 155号竪穴建物→A 109・150・187号竪穴建物→A 137号竪穴建物→146号土坑→B 9号竪穴建物である。

A 129号竪穴建物は、B 9号竪穴建物西側で暗褐色の円形プランとして検出した。当初はA 137号竪穴建物と合わせて1軒の竪穴建物と考えていたが、断面観察の結果、A 192号竪穴建物を挟んで上下に分離することが判明した。A 137・192号竪穴建物より古いのが、先に炬を確認したこちらに小さい遺構番号を付した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉1基を検出した。炬石の一部は失われているが、石組は外径80×80cmの方形である。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、43×38cmの円形で、被熱深度は約2cmである。掘り方は石組より一回り大きい土坑状で、壁面より内側に炬石を立て並べている。

遺物は炉内や堆積土中から出土しており、縄文土器5点と石器1点を掲載した(a 452～456、c 251)。なお、本遺構はA 137・192号竪穴建物と同時に掘削していることから、遺物の中にはこれらの竪穴建物に帰属するものが含まれている可能性がある。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 131号竪穴建物は、II A 8vグリッド内掘り下げ中に炬を検出し、断面観察では壁面は確認できなかったが、炬と同一面上で遺物の集中が認められたことから竪穴建物と認定した。堆積土の大部分を掘り下げた時点で認識した為、壁面形状・堆積の様相は不明である。遺物の分布状況から、平面形は円形と考えられる。床面はⅢ層を削り出しており、南側に向かって傾斜している。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。石組は外径57×45cmの方形であるが、北西側の炬石が失われている。燃焼部焼土は炉内北側に位置し、40×30cmの楕円形で、被熱深度は約2.5cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炬石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は床面直上から出土しており、縄文土器4点を掲載した(a 461～464)。また、床面直上から琥珀片が出土しており、分析を行ったが産地は特定できなかった(第Ⅵ章第6節)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6～7a式主体であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 136号竪穴建物は、A 137号竪穴建物の直下で黒褐色の円形プランとして検出した。先述の通りA 137号竪穴建物は当初A 129号竪穴建物と同一と捉えており、両者が分離することが判明する前に本建物を確認したことから、新旧関係と遺構番号が逆になっている。斜面下方である南側は削平さ

れているが、平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は南側に位置する石囲炉で、A 193号竪穴建物構築時に南側が壊されており、北側の炉石も失われていることから平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は54×34cmの不整楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は北側が高くなっており、浅い土坑状の掘り方を掘った後に炉石を設置し、さらに炉内北側は暗褐色土を充填して床面より高くしている。炉2は南東側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は59×50cmの円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴6個を検出した。

遺物は柱穴内や堆積土中から出土しており、縄文土器10点と石器4点、土製品1点を掲載した（a 497～506、c 22・158・222・1009、e 55）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 137号竪穴建物は、先述の通り当初はA 129号竪穴建物と同一と考えていたが、断面観察の結果2軒に分離できることが判明し、A 129号竪穴建物より新しいが炉の検出が遅かった為遺構番号は大きいものを付している。斜面下方である南側は削平、北側は調査区外へと至るが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層及び下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉1基を検出した。石組は、外径73×53cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内には全域に広がり、50×45cmの範囲で、被熱深度は約3cmである。掘り方は石組と同規模の土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。

遺物は床面直上や堆積土中から出土しており、縄文土器19点と石器4点、石製品1点を掲載した（a 507～525、c 206・1010・1084・1206、d 83）。縄文土器のうち、a 525は146号土坑堆積土出土の破片と接合している。また、石器のうちc 1084は炉石に転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木5～9式新段階まで確認できることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 138号竪穴建物は、調査区壁面トレンチ（F断面）の西側でプランを確認し、同一面上で床面施設を検出したことから竪穴建物と認定した。調査区壁面付近の堆積は厚いが、それ以外の部分は大幅に削平されており、床面施設の配置から平面形は楕円形と推定した。壁面は外傾しながら立ち上がり、床面はⅢ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土と暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は40×40cmの円形で、被熱深度は約2cmである。その他に柱穴4個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 526・527）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6～7a式であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 145号竪穴建物は、ⅡA 7w・xグリッド南側の掘り下げ中に炉を検出し、断面観察でそれに対応する床面と壁面の立ち上がりを確認できたことから竪穴建物と認定した。A 129号竪穴建物より新しいが、炉の検出が遅かった為遺構番号は大きいものを付している。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層及び下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央東寄りで炉2基を検出した。2基は隣接するが直接的な重複関係が無く、新旧

関係は不明である。炉1は石囲炉と地床炉で構成される複式炉であるが、石囲炉は北壁と東壁の炉石が失われており平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は60×43cmの楕円形で、被熱深度は約25cmである。炉内はいずれも床面と同じ高さであるが、石囲炉部分の掘り方は石組と同規模の浅い土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。地床炉は石囲炉の南東側に位置し、燃焼部焼土は50×38cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴3個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器6点と石器2点を掲載した(a 556～561、c 27・236)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7 a～8 a式であることと他遺構との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 192号竪穴建物は、A 129・137号竪穴建物堆積土と考えていた黒褐色土中位で炉を検出し、断面観察を行ったところ両者の間に床面と考えられる平坦面を確認したことから竪穴建物と認定した。炉を確認した時点で認識した為、堆積土の大部分を掘り下げてしまい床面と西壁の一部を検出したのみである。北側が調査区外に至るが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉1基を検出した。石組は外径56×55cmの方形であるが、北壁の炉石は失われている。燃焼部焼土は38×34cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴2個を検出した。

遺物は、確実に本遺構に帰属するといえるものは無い。ただし、A 129・137号竪穴建物から出土した遺物の中に本遺構に帰属するものが含まれていると考えられる。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(中村・村田)

#### A 130号竪穴建物

(第1-78・146図、第2-42・327、写真図版114・305・497)

ⅡB 4 a グリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層で、ⅡB 4・5 a・b 遺物包含層の底面付近で炉を検出したことから竪穴建物と認定した。A 182号竪穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが古い。また、ⅡB 4・5 a・b 遺物包含層に上面全体が被覆されている。炉と北東壁が検出されているのみであり、平面形は不明である。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅢ層下位～Ⅳ層を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土の記録を怠ってしまったが、遺物包含層と類似した黒褐色土が主体で、自然堆積と考えられる。

床面施設として調査区壁際で石囲炉1基を検出した。北西側が調査区外に至るため全体を検出することはできなかったが、石組は外径75×68cmの長方形と考えられる。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、54×49cmの範囲で、被熱深度は約3cmである。炉内と床面は同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器1点を掲載した(a 457～460、c 1204)。縄文土器のうちa 457はⅡB 4・5 a・b 遺物包含層出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8 a式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。



### A 143 号堅穴建物

（第 1-78 図、写真図版 114）

II B 8 g グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、にぶい黄褐色の半円形プランとして検出した。160・161 号土坑と重複関係にあり、本遺構のほうが古い。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は長方形または楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。検出範囲は狭いが、床面はⅣ層を平坦に整えていると考えられる。堆積土はにぶい黄褐色～褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として柱穴 1 個を検出した。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された堅穴建物の可能性もあるが、詳細は不明である。年代も出土遺物が乏しく、重複する遺構も年代推定のできる遺物が乏しいことから不明である。

### A 147 号堅穴建物

（第 1-78・149 図、第 2-54 図、写真図版 114・314）

II B 8 h グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、にぶい黄色の半円形プランとして検出した。複数の土坑と重複関係にあり、新旧関係は 186 号土坑→A 147 号堅穴建物→163 号土坑→177 号土坑、7 号溝である。斜面下方である南側は削平と他遺構に壊されているが、平面形は円形である。壁面は東西壁はほぼ直立するが、北壁は内傾しながら立ち上がる。当初は壁面形状から貯蔵穴（フラスコ状土坑）と考えていたが、平面規模が大きいことと床面が平坦であることから堅穴建物と判断した。なお、北壁面の内傾角度は一定ではなく、西側に行くほど鋭角となる。床面はⅣ層を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土はにぶい黄色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴 3 個を検出した。北西側に分布するが、配置に規則性は無い。

出土遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 1 点を掲載した（a 571）。

本遺構は形態はフラスコ状土坑に類似するが、住居として使用された堅穴建物と考えられ、出土土器が木大 8 b 式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

（村田）

### A 135・150・155 号堅穴建物

（第 1-80・149・150 図、第 2-44～46・54・55・59・253・285・299・327・328・367 図、写真図版 114・115・306～309・314・315・318・462・477・484・497・498・515）

II B 6・7 x・7 w グリッドの調査区際位置に位置する。検出面はⅡ層下位～Ⅳ層で、古代の遺構である B 16 号堅穴建物や 1 号鍛冶炉の精査終了後にⅡ層を掘り下げたところ遺物を含む黒～暗褐色の不整形プランとして検出した。プランが不明確であった為、最初に調査区壁面に沿ってトレンチを設定して掘り下げ、断面観察を行ったところ複数の堅穴建物が重複していることが判明した。その後平面的に掘り下げを行い、炉や柱穴が検出された面を床面とみなして最終的に 3 軒の堅穴建物が重複していることを確認した。多数の土坑や柱穴と重複関係にあり、新旧関係は 312 号土坑→A 192 号堅穴建物、224 号土坑→A 155 号堅穴建物→A 150 号堅穴建物→A 135 号堅穴建物→184 号土坑である。

A 135 号堅穴建物は、暗褐色の不整形プランとして検出した。上面では範囲の把握が困難であったが、調査区際トレンチの断面観察で壁面の立ち上がり及び焼土を確認し、平面的に掘り下げたところ焼土と同じ高さで炉を検出したことから堅穴建物と認定した。北側は調査区外に至るが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層及び A 150・155 号堅穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、北東側から流れ込んだ自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、炉の新旧関係は不明である。炉1は床面東寄りに位置する石囲炉で、石組は外径77×47cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、50×33cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は床面中央に位置する地床炉で、北側は調査区外に至る。検出した燃焼部焼土は長軸74cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴3個を検出した。P02・03は壁面上に位置しており、壁柱穴の可能性はある。

遺物は炉の周辺及び堆積土中から出土しており、縄文土器20点と石器4点、石製品1点を掲載した(a477～496、c21・1008・1083・1201、d76)。縄文土器のうちa476はA150号竪穴建物堆積土出土の破片と接合しているが、出土層位からA150号竪穴建物に帰属するものと判断した。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は大木8b式主体であるが、8b～9式も含まれることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A150号竪穴建物は、A135号竪穴建物床面精査中に西側で暗褐色の楕円形プランとして検出した。炉は検出されなかったが、調査区際トレンチの断面観察で明瞭な壁面の立ち上がりを確認した為、竪穴建物と認定した。北側は調査区外に至るが、平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層下位～Ⅳ層を平坦に整えているが、壁面付近には若干の凹凸が認められる。堆積土は黒～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央付近で柱穴1個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器5点と石器2点を掲載した(a476・574～578、c1209・1210)。縄文土器のうちa476はA135号竪穴建物13層から出土した破片と接合しているが、出土層位から本遺構に帰属するものと判断した。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物が大木8b式新段階主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A155号竪穴建物は、A135号竪穴建物床面精査中に床面より低い位置で石囲炉と焼土を検出し、調査区際トレンチでも同じ高さで黒色土の水平堆積を確認したことから竪穴建物と認定した。大部分がA135・150号竪穴建物に壊されており、床面付近のみ残存している。炉と柱穴の配置から平面形は円形と考えられるが、壁面が残存していない為壁面形状は不明である。堆積土は黒色土の水平堆積のみが確認されており、堆積が薄く様相は不明である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は床面中央南寄りに位置する石囲炉で、石組は外径75×65cmの楕円形である。燃焼部焼土は炉内北寄りに位置し、58×45cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。燃焼部焼土の北側は若干窪んでおり、遺構内堆積土が流れ込んでいる。炉2は炉1の南西側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は65×60cmの円形で、被熱深度は約4cmである。その他に柱穴14個を検出した。このうちP01～05が壁柱穴と考えられるが、北側が調査区外である為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a631)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(中村・村田)

#### A140～142・169号竪穴建物

(第1・81・82・151・152図、第2・49～52・69・253・267・275・327・328・359図、写真図版80・81・311～313・324・462・469・473・497・510)

Ⅱ B 7 a～8 c グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、当初 A 140 号堅穴建物のみを検出して精査を開始した。しかし、精査中に A 140 号堅穴建物の外側に黒褐～暗褐色の不整形プランが広がり、加えて南側では炉と焼土が検出された為、堅穴建物が重複している可能性を考えてトレンチを設定して掘り下げを行ったところさらに 3 軒の堅穴建物を確認した。他の遺構とも重複関係にあり、新旧関係は 223 号土坑、13 号焼土→A 142 号堅穴建物→A 169 号堅穴建物→A 141 号堅穴建物→A 140 号堅穴建物→139・140・141・182・20 号土坑、15 号炉、5 号溝である。

A 140 号堅穴建物は、Ⅲ層下位で黒褐色の円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平及び 5 号溝に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層及び A 140 号堅穴建物堆積土を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として東側で石囲炉 1 基を検出した。石組は外径 56 × 56 cm の方形であるが、南壁の炉石は動いており、炉内に落ち込んでいた。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴 1 個を検出した。

遺物は床面直上及び堆積土中から出土しており、縄文土器 14 点と石器 3 点を掲載した (a 532～545、c 24・1207・1208)。縄文土器のうち a 532～534・545 は A 141 号堅穴建物堆積土上位の破片と接合しているが、いずれも本遺構の床面との境界付近 (B 断面 3・6 層上面) から出土しており、床面直上出土の破片と接合することから本遺構出土のものとして掲載した。また、a 533 は Ⅱ B 4・5 a・b 遺物包含層出土の破片とも接合している。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器には大木 6～9 式土器があるが、大木 8 b～9 式古段階が主体であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 141 号堅穴建物は、当初 A 140 号堅穴建物の床面及び北壁面でⅢ層と考えていた層に遺物が含まれていたことから、遺構の存在を想定して A 140 号堅穴建物の断面ラインに沿って層位確認トレンチを設定して掘り下げを行ったところ、遺物の集中や柱穴を検出したことから堅穴建物と認定した。なお、本遺構認定の時点では A 142 号堅穴建物も同一建物と認識していた。南～東側は削平及び A 140 号堅穴建物に壊されており、平面形は不明である。壁面も北壁のみ残存しているが、この範囲ではほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅲ層及び A 142 号堅穴建物堆積土を平坦に整えている。なお、トレンチ掘削時には A 142 号堅穴建物の床面を本建物の一段低い床面と認識していたが、東側で 6 層を除去したところⅢ層に設置された炉が検出されたことから、その面と同じ高さを本遺構の床面と判断した。堆積土は暗褐色～いぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央やや東寄りで地床炉 1 基を検出した。柱穴状に掘り込まれた地床炉で、北西側を A 140 号堅穴建物 P 01 に壊されている。掘り込みは直径 32 cm の円形で、深さは約 7 cm である。掘り込み内は壁面が被熱により変色している。その他に柱穴 4 個を検出した。いずれも北壁付近に位置しているが、床面南側で柱穴が検出されていない為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 9 点と石器 2 点、石製品 1 点を掲載した (a 546～554、c 195・280、d 21)。ただし、層位確認トレンチ掘削時には A 142 号堅穴建物堆積土との区別ができておらず、遺物は堆積土として一括で取り上げている。従って厳密な分離は難しいが、縄文土器のうち a 549・552・554 等は本遺構床面付近出土のものより時期が古いことから A 142 号堅穴建物に帰属する可能性もある。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器には大木 6～9 式土器があるが、大木 8 b 式新段階が主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 142 号堅穴建物は、当初 A 141 号堅穴建物の一段低い床面と認識していた面で炉と焼土が検出されたことから、別の堅穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平され、北側は A 141・169 号堅穴建物に壊されており、壁面と炉の位置から平面形は円形と推定した。壁面はほとんど残存しておらず、形状は不明である。床面はⅢ層を削り出しているが、凹凸が認められる。堆積土にはぶい黄褐色土が主体で、自然堆積と考えられる。

床面施設として南側で地床炉 1 基を検出した。燃焼部焼土は  $56 \times 43\text{cm}$  の楕円形で、被熱深度は約 3cm である。ただし、根の侵食の影響で断面形は不整形である。なお、炉の東側でも焼土の集中を確認しているが、斜面上方から流れ込んだ二次堆積の焼土である。

遺物は堆積土中から出土しており、石器 1 点を掲載した (c 342)。先述の通り A 141 号堅穴建物と一括で取り上げており、A 141 号堅穴建物で掲載したものに本遺構に帰属するものも含まれていると考えられる。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、A 141 号堅穴建物出土土器のうち古い時期のものが本遺構に帰属するとすれば中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 169 号堅穴建物は、A 141 号堅穴建物の床面東側で一段低くなる不整形な範囲を検出し、層位確認トレンチを設定して掘り下げたところ、壁面の立ち上がりを確認でき、さらに南側で炉と焼土が検出されたためこれらを含めた範囲を 1 軒の堅穴建物と認定した。壁面は北壁のみ残存しており、床面は炉を含めた一部が残存している。平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層及び A 142 号堅穴建物堆積土を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐～ぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉 2 基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉 1 は床面南側に位置する石囲炉で、石組は円形または楕円形と考えられるが南側の炉石の大半が失われており、規模は不明である。燃焼部焼土は炉内北側に位置し、 $35 \times 28\text{cm}$  の楕円形で、被熱深度は約 2cm である。炉内は若干掘り窪められているが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉 2 は炉 1 の北側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は  $55 \times 53\text{cm}$  の不整形形で、被熱深度は約 3cm である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 2 点を掲載した (a 729・730)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木 8 式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

#### A 149・175 号堅穴建物

(第 1-81・152 図、第 2-55・73・74・254・262 図、写真図版 119・314・328・462・467)

Ⅱ A 7 y～Ⅱ B 8 a グリッドに位置する。検出面はⅡ～Ⅲ層で、A 125 号堅穴建物精査後にⅡ層を平面的に掘り下げていったところ遺物が集中する範囲を確認した。プランが不明瞭であった為東西方向にトレンチを設定して断面観察を行ったところ、壁面の立ち上がりを確認できたことから堅穴建物と判断して精査を行った。当初は A 175 号堅穴建物と合わせて 1 軒と認識していたが、掘り下げを進めたところ堆積土の中位で遺物が平面的に分布して出土する面 (A 断面 5・6 層下位) を検出し、この面が水平に広がって A 149 号堅穴建物とは異なる地点で壁面が立ち上がることを確認したことから 2 軒に分離した。このような経緯による検出であったため、本来遺構番号は小さいものが上位の遺構に付されるべきであるが、この 2 軒では逆になっている。また、第 1-81 図では図示していないが上下に他の堅穴建物も重複関係にあり、新旧関係は A 149 号堅穴建物→A 175 号堅穴建物→A 162 号堅穴建物→A 125 号堅穴建物である。

A 149号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平及びトレンチ掘削、東側はA 175号竪穴建物に壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～灰黄褐色土で構成され、北西側から流れ込んだ自然堆積である。

床面施設として地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は90×85cmの円形で、被熱深度は約3cmである。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 573）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6式であることから前期末葉の構築・使用と考えられる。

A 175号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平、上面は大部分をA 125号竪穴建物に壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅱ～Ⅲ層の漸移層と考えられる黒褐色土（A断面8層等）及びA 149号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は床面直上から堆積土下位を中心に出土しており、縄文土器6点と石器2点を掲載した（a 771～776、c 36・238）。

本遺構は、床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器には大木4～8a式土器があるが、大木8a式は堆積土上層からの出土であり、床面付近出土の土器が大木6～7a式主体であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

#### A 146号竪穴建物

（第182・153図、第253・54・254・300・301図、写真図版120・313・314・462・485）

ⅡB7aグリッドに位置する。検出面はⅢ層であるが、プランは不明瞭であり炉を検出するまで竪穴建物として認識することができなかった。その為、炉の周辺の床面と北壁の一部しか検出できていない。A 125号竪穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが古い。なお、A 149号竪穴建物とは直接的な重複関係を確認できなかったが、出土土器の年代から本遺構のほうが新しいと考えられる。北壁と炉の位置から平面形は円または楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層を平坦に整えており、南側に向かって傾斜している。堆積土は灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で炉2基を検出した。炉1の南東側と炉2の北西側が重複関係にあり、炉1のほうが新しい。炉1は石囲炉で、石組は外径102×80cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、84×64cmの範囲で、被熱深度は約4cmである。炉内と床面はほぼ同じ高さであるが、石組と同規模の浅い掘り方があり、炉石はその壁面に沿って立て並べられている。炉2は地床炉で、燃焼部焼土は75×60cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。

遺物は床面直上と堆積土下位を中心に出土しており、縄文土器9点と石器6点を掲載した（a 562～570、c 29～32・1086・1087）。縄文土器のうちa 563はA 140号竪穴建物出土の破片と接合しているが、出土層位を考慮して本遺構の帰属とした。また、石器のうちc 1086・1087は炉1の炉石として転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器には大木4～6・8～9式土器があるが、大木8b～9式が主体となることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

（村田）

#### A 151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竪穴建物

（第183～86・153～158図、第255～60・62・63・68～72・82・238・258・263・264・301～304・328～331・359・360・374・376・377・382図、写真図版315～326・333・465・468・485～

487・497～499・510・520・524)

II A 9 x～II B 12 aグリッドに位置する。検出面はⅢ～Ⅳ層で、土層確認用に設定したAトレンチの周辺で遺物が多量に出土する黒～暗褐色土の広がりとして検出した。斜面上方である北側で壁面を考えられる弧状または直線状のプランを検出したことから複数の遺構が重複していることは確認できたが、上面ではプランの把握が困難であったことからAトレンチ及びグリッドラインに沿って設定した複数のベルトでの断面観察で床面と考えられる平坦面を確認することで遺構の認定を行った。多数の遺構が重複関係にあり、把握できた新旧関係は、A 174号堅穴建物→A 159号堅穴建物→A 190号堅穴建物→A 181号堅穴建物→A 170号堅穴建物→A 171号堅穴建物→A 158号堅穴建物→A 179号堅穴建物→A 179号堅穴建物→A 161・166号堅穴建物→A 157・196号堅穴建物→A 167・176号堅穴建物、129号土坑→A 139・163号堅穴建物→A 113・151号堅穴建物である。

A 151号堅穴建物は、範囲の北側で遺物を多量に含む黒褐～暗褐色の円形プランとして検出した。ベルトを残しながら掘り下げたところ同一面上で炉を2基検出したことから堅穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土と暗褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は東側に位置する石囲炉で、石組は外径87×69cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内中央～西側に位置し、48×47cmの円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面より低い位置にあり、炉内にあたる範囲を若干掘り窪めた後に炉石を設置する部分をさらに深く掘り込んでいる。炉2は中央西寄りに位置する石囲炉で、石組は外径51×36cmの長方形で西側の炉石が無く開口している。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、40×28cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉1の南側にも地床炉の可能性のある焼土を検出した。52×42cmの円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴9個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器41点と赤彩が付着した縄文土器1点、石器7点、石製品1点、土製品1点、土器片円盤2点を掲載した(a 579～619, r 10, c 161・252・1089・1211～1214, d 18, e 56, g 40・41)。縄文土器のうちa 579はA 157号堅穴建物堆積土出土の破片と接合し、石器のうちc 161・252はA 152号堅穴建物との横断トレンチで出土している。また、堆積土下位から琥珀片が出土しており、分析を行ったが産地は特定できなかった(第Ⅵ章第6節)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器は多量であるが大木9式新段階のものが含まれることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 157号堅穴建物は、A 151号堅穴建物の床面に達する前に炉が複数検出され、断面観察でも炉に対応する床面が3面確認された為、炉を検出した順にA 157・166・167号堅穴建物と命名した。このような経緯で検出した為、本来遺構番号は小さいものが上位の遺構に付されるべきであるが、この3軒では逆になっている。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。石組は外径75×50cmの長方形で、南東側の炉石が無く開口している。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、52×32cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝2条と柱穴2個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器6点と赤彩が付着した縄文土器1点、石器2点、土器

片円盤1点を掲載した（a 632～637、r 11、c 162・1092、g 43）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式新段階～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 158号竪穴建物は、暗褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、床面残存範囲及び柱穴の配置から平面形は円形と考えられる。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層及びA 159号竪穴建物堆積土を削り出してあり、南側に向かって傾斜している。堆積土は褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。炉1は中央西寄りに位置する石囲炉で、石組は外径62×42cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内北寄りに位置し、28×28cmの円形で、被熱深度は約2cmである。炉2は東壁付近に位置する地床炉で、燃焼部焼土は52×42cmの楕円形で、被熱深度は約1.5cmである。その他に周溝7条と柱穴5個を検出した。周溝は壁面に沿って同じ曲線で複数並行しており、建て替え・拡張が行われた可能性がある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点と石器4点、石製品1点、土器片円盤1点を掲載した（a 638～640、c 163・254・1093・1094、d 17、g 44）。縄文土器のうちa 640は129号土坑堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 159号竪穴建物は、A 158号竪穴建物床面精査時に床面とは異なる褐色の楕円形プランとして検出した。大部分をA 158号竪穴建物に壊されているが、残存する北壁と床面の範囲から平面形は楕円形または隅丸方形と考えられる。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、床面はIV層を平坦に整えている。堆積土は褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南東側で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は24×13cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。その他に柱穴1個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 641・642）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木5～6式であることから前期末葉の構築・使用と考えられる。

A 161号竪穴建物は、黒～黒褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒～黒褐色土が主体で自然堆積である。

床面施設として南側で石囲炉1基を検出した。石組は、外径84×80cmの円形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、65×62cmの範囲で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴7個を検出した。このうちP 01～04・06が壁柱穴になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器2点、土製品1点を掲載した（a 653・654、c 210・1095、e 76）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木4式をはじめ前期に属するものが多いが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 166号竪穴建物は、先述したA 157号竪穴建物の北側のプラン外で炉と考えられる焼土を検出し、それに対応する床面と壁面の立ち上がりを確認できたことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平、東側は新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面はほぼ垂直

に立ち上がる。床面はⅢ層及び下位の遺構堆積土を削り出しているが、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として北側で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は93×50cmの長楕円形で、被熱深度は約2.5cmである。その他に柱穴9個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点、石製品1点を掲載した（a 717・718、c 1222、d 27）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木8b式新段階が主体であるが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 167号竪穴建物は、先述したA 157号竪穴建物の北側のプラン外で炉を2基検出し、それに対応する床面と壁面の立ち上がりが確認できたことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ～Ⅳ層及び下位の遺構堆積土を削り出しており、中央より北側は平坦であるが南側は傾斜している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は東壁付近に位置する石囲炉で、東壁付近はA 139号竪穴建物により壊されているが、石組は長軸72cmの楕円形と考えられる。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、長軸58cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は中央に位置する複式炉で、石囲炉と地床炉で構成される。石囲炉の石組は、外径60×44cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、46×24cmの範囲で、被熱深度は約2cmである。地床炉は石囲炉の西側に位置し、燃焼部焼土は35×25cmの円形で、被熱深度は約1.5cmである。石囲炉の炉内は床面より若干低い位置にあり、炉内にあたる範囲を若干掘り窪めた後に炉石を設置する部分をさらに深く掘り込んでいる。その他に壁柱穴になると考えられる柱穴5個を検出した。

遺物は炉内や堆積土中から出土しており、縄文土器10点と赤彩が付着した縄文土器1点、石器4点、土器片円盤1点を掲載した（a 719～728、r 12、c 255・256・1096・1223、g 46）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 170号竪穴建物は、II A 9～11 y グリッドに設定したトレンチの南側でA 167号竪穴建物床面より一段低い床面を確認し、同一レベルで焼土が検出されたことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平及びA 151号竪穴建物に壊されているが、残存する北壁と炉・柱穴の位置から平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、A 190号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は床面南側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は32×27cmの楕円形で、被熱深度は約1.5cmである。炉2は炉1の北側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は69×66cmの円形で、被熱深度は約2cmである。その他に周溝5条と柱穴2個を検出した。周溝は、溝2～5が一連のものと考えられる。柱穴は検出されなかった部分が多く、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器9点と赤彩が付着した縄文土器1点、石器5点、土製品3点を掲載した（a 731～733・735～738・745、r 13、c 166・1097・1098・1224・1225、e 16・83・85）。縄文土器のうちa 735～737・745はA 171号竪穴建物との重複部分から出土している。また、石器のうちc 1097・1098は炉石として転用されたものである。



本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A171号竪穴建物は、A161号竪穴建物精査後にその直下で暗褐色の半円形プランとして検出した。2軒は同一地点に造られており建て替えの可能性も考慮したが、床面の高さが異なることから別の竪穴建物とした。上面からの遺構範囲の把握が困難であったため、適宜トレンチを入れ、土層断面の観察を行い、本遺構を検出した。斜面下方である南側は削平及び新期の竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央で複式炉1基を検出した。石囲炉と地床炉で構成され、石囲炉の南壁はA161号竪穴建物により壊されているが、石組は74×50cmの長方形である。燃焼部焼土は西壁付近に位置し、39×32cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。地床炉は石囲炉の南側に位置し、燃焼部焼土は45×35cmの楕円形で、被熱深度は約1cmである。炉内は床面と同じ高さであり、石囲炉の炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴5個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器8点を掲載した（a 734・739～744・746）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式新段階であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A179号竪穴建物は、当初B断面9～11層下面をA167号竪穴建物の床面と考えていたが、平面的に掘り下げたところ北西側が楕円形に大きく膨らむことがわかり、再度断面観察を行ったところ10層と11層の境界で本来のA167号竪穴建物の立ち上がりを確認したことから別の竪穴建物と認定した。なお、本遺構を認識する前にA170号竪穴建物の精査を行っていたため、本来小さい遺構番号が新期の遺構に付されるべきであるが、この2軒では逆になっている。平面形は方形に近い楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIII層及び下位の遺構堆積土を平坦に整えており、A167号竪穴建物とほぼ同じ高さである。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は南寄りに位置する石囲炉で、石組は外径75×75cmの方形と考えられるが、炉石はほとんど残存していない。燃焼部焼土は47×38cmの不整形形で、被熱深度は約2cmである。構築方法は不明である。炉2は中央に位置する地床炉で、燃焼部焼土は26×22cmの隅丸方形に近い円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴10個を検出した。北側に集中しているが、規則的ではなく柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器15点と赤彩が付着した縄文土器1点、石器5点を掲載した（a 787～801、r 14、c 37～40・1228）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木5・7・8b式が主体であることと他の竪穴建物との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A190号竪穴建物は、A170号竪穴建物精査後に南側に広がる黒褐色の不整形プランとして検出した。大部分をA170号竪穴建物に壊されているが、残存する北～西壁面と炉の位置から平面形は方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIII～IV層を削り出しているが、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は南側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は30×25cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。炉2は炉1の北側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は69×65cmの円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴7個を検出した。北側に分布しているが、規則性は無く柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と土製品1点を掲載した（a 868・869、e97）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

（中村・高橋・村田）

#### A 156・165号竪穴建物

（第1-87図、写真図版129）

II B 7g～8i グリッドに位置する。検出面はIV層で、斜面の傾斜に伴行するにぶい黄色の長楕円形プランとして検出した。周辺の土坑とも重複関係にあり、新旧関係は187号土坑→A 156号竪穴建物→195・203号土坑→A 165号竪穴建物→186・188号土坑である。

A 156号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられる。壁面は、下位はほぼ垂直だが中位で屈曲して外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄色～灰黄色で、自然堆積である。

床面施設として柱穴4個を検出した。P 01・03が主柱穴になる可能性があるが、床面南側の状況が不明であることから柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は出土遺物が乏しく、重複する遺構も年代推定のできる遺物が乏しいことから不明である。

A 165号竪穴建物は、斜面下方である南側は削平、東側は本根により失われているが、平面形は円または楕円形と考えられる。壁面は、下位はほぼ垂直だが中位で屈曲して外方に開きながら立ち上がる。ただし、203号土坑と重複する部分（B断面）は内傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、細かい凹凸が認められる。堆積土はにぶい黄色～黄灰色で、自然堆積である。

床面施設として柱穴2個を検出した。P 01・02は主柱穴になる可能性があるが、床面南側の状況が不明であることから柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は出土遺物が乏しく、重複する遺構も年代推定のできる遺物が乏しいことから不明である。

#### A 160号竪穴建物

（第1-88・158図、第2-60～62・275・290・480・377図、写真図版130・318・319・473・480・520）

II B 6a グリッドに位置する。II B 4・5a・b 遺物包含層精査後に南側のII層下位～III層を掘り下げたところ炉（17号炉）を検出した為、竪穴建物が存在すると想定して精査を開始した。炉の西側にトレンチを設定して掘り下げを行ったところ、床面と考えられるIII層面を検出した。ただし、この面は炉よりも低い位置にあることから、17号炉は本遺構の床面施設ではなく埋没後に設置された炉と判断した。本遺構としては17号炉よりも下位の床面付近で遺物の集中が見られ、部分的ではあるが壁面の立ち上がりも確認できたことから、その時点で竪穴建物と認定した。平面形は長方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はIII層を削り出しており、中央付近で一段低くなって南側に向かって傾斜している。堆積土はにぶい黄褐色土が主体で、自然堆積である。

先述の通り17号炉を別遺構とした為、本遺構に伴う床面施設は検出されていない。

遺物は堆積土中～下位から出土しており、縄文土器10点と石器2点、土製品1点を掲載した（a

643～652、c 344・1045、e 94）。縄文土器のうち a 643 はⅡB 4・5 a・b 遺物包含層出土の破片と接合している。

本遺構は床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木 7 a～8 b 式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

#### A 168 号竪穴建物

（第 1-88 図、写真図版 134）

ⅡB 7 k グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、にぶい黄橙色の半円形プランとして検出した。198 号土坑と重複しているが、本遺構のほうが古い。斜面下方である南側は削平されており、平面形は不明である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。本遺構周辺のⅣ層は基盤である岩盤層（Ⅴ層）に近く、床面はその面を削り出している為凹凸が著しい。堆積土はにぶい黄橙色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴 12 個を検出した。規模の比較的大きい P 01・05・09 は主柱穴になる可能性があるが、床面南側が検出されていないことから柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。年代は出土遺物が乏しく、重複する遺構も年代推定のできる遺物が乏しいことから不明である。

#### A 163・164・170・176・181・183・185・190 号竪穴建物

（第 1-89～91・159・160 図、第 2-66～68・74・76・77・254・273・274・330～332 図、写真図版 131～133・322・323・328～330・462・472・473・498・499）

ⅡA 9 w～11 y グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、遺物が出土する黒褐～暗褐色土の広がりとして検出した。上面ではプランが不明瞭であった為、グリッドラインに沿って層位確認トレンチを設定して掘り下げを行い、断面観察によって竪穴建物の範囲と重複関係を確認しながら精査を行った。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係は A 190 号竪穴建物→A 170 号竪穴建物→A 181 号竪穴建物→A 183 号竪穴建物→A 185 号竪穴建物→A 164 号竪穴建物→A 179 号竪穴建物→A 176 号竪穴建物→A 163 号竪穴建物である。なお、A 170・179・190 号竪穴建物は南東側でも多数の竪穴建物と重複しているが、それらは第 1-83～86 図で個別図を掲載しており、記載は 82 頁で行っている。

A 163 号竪穴建物は、暗褐色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平、東側は A 151 号竪穴建物に壊されているが、平面形は長方形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層及び A 176 号竪穴建物等の堆積土を削り出しているが、若干の凹凸が認められる。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として北東隅で柱穴 1 個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器 13 点と石器 2 点を掲載した（a 700～712、c 1220・1221）。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器は大木 7 b～8 a 式が主体であるが、先行する A 170・179 号竪穴建物との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 164 号竪穴建物は、暗褐色の円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平や攪乱により失われているが、平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層及び A 185 号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。床面施

設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器1点を掲載した(a 713～716、c 35)。縄文土器のうち a 713は、A 113・114号竪穴建物堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は、床面施設は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 176号竪穴建物は、A 163号竪穴建物精査後に床面より下位で黒褐色の円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は不整形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層（相当する層も含む）及びA 179号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴3個を検出した。P 01・03は壁柱穴になる可能性があるが、その他の地点で柱穴が検出されていないことから柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器9点と石器1点を掲載した(a 777～785、c 343)。なお、本遺構出土石器として掲載したc 1226は鑑定の結果鉄生産関連遺物と判断されており、侵食の作用等で本遺構の堆積土に混入したものと考えられる。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器は大木7～8a式が主体であるが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 181号竪穴建物は、A 164号竪穴建物精査後にA 185号竪穴建物とともに暗褐色の不整形プランとして検出した。B断面の観察から当初はA 185号竪穴建物と合わせて1軒の建物と考えて掘り下げたが、堆積土の途中で炉が検出され、壁面も階段状に二段の平坦面が確認できたことからこの時点で2軒に分離した。このような経緯による検出であった為、本来小さい遺構番号が新期の遺構に付されるべきであるが、この2軒では逆になっている。南側がA 113号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層を削り出しているが、部分的に凹凸や窪みが認められる。堆積土は黒褐～暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は中央やや西寄りに位置する石囲炉で、石組は外径60×39cmの長方形であるが南側がA 183号竪穴建物の柱穴によって壊されており、炉石は残存していない。燃焼部焼土は炉内ほぼ全域に広がり、39×27cmの範囲で、被熱深度は約2cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は炉1の南側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は49×40cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴6個を検出した。炉の周辺に分布しているが、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点と石器2点を掲載した(a 802～804、c 328・1229)。縄文土器のうち、a 802はA 113号竪穴建物出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 183号竪穴建物は、A 181・185号竪穴建物精査中に両建物の間に別の掘り込みを確認し、その底面が平坦となることから別の竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層及びA 113号竪穴建物堆積土を平坦に整えているが、若干の凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴2個を検出した。P 01・02は壁柱穴になる可能性があるが、床面南側が削平されている為柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点を掲載した(a 809～812)。縄文土器のうち、

a 809 はA 164 号竪穴建物出土の破片と接合している。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器は大木7式が主体であるが、A 181 号竪穴建物との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 185 号竪穴建物は、先述の通り当初はA 181 号竪穴建物と合わせて1軒と考えていたが、掘り下げ途中で炉を検出し、炉の検出面が床面であることを確認したことから別の竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、A 181・183 号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は外径55×43cmの長方形であるが、北壁は炉石が無く開口している。燃焼部焼土は炉内のほぼ全域に広がり、38×30cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面とほぼ同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴2個を検出した。P 01・02 は壁面付近に位置することから壁柱穴の可能性があるが、床面南側が削平されているが柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した（a 813・814、c 1230）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8式主体であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

#### A 172・186・193号竪穴建物

（第1-91・92・160～162図、第2-72・73・77・78・332・377図、写真図版129・130・326・327・330・331・499・520）

II A 8 v～9 x グリッドに位置する。検出面はⅢ層で、黒褐～暗褐色土の不整形プランとして検出した。上面では範囲が不明瞭であった為、層位確認トレンチを設定して掘り下げ、断面観察を行ったところ床面と考えられる平坦面と壁面の立ち上がりを複数確認した。また、平面的に掘り下げたところ平坦面では炉や焼土が検出されたことから、竪穴建物が重複しているものと判断して精査を行った。当初はA 172号竪穴建物をA 193号竪穴建物を含めて1軒と認識していたが、掘り下げを進めたところ堆積土の中心で平坦面が確認され、東側ではA 172号竪穴建物とは異なる地点で壁面が確認されたことから別の建物としてA 193号竪穴建物を認識した。このような経緯による検出であった為、本来遺構番号は小さいものが上位の遺構に付されるべきであるがこの2軒では逆になっている。なお、堆積土の掘削中に5号土器埋設遺構が検出されているが、A 172・193号竪穴建物のいずれの床面にも掘削が及んでいなかったことから単独の遺構と判断した。その他の遺構とも重複関係にあり、新旧関係はA 186号竪穴建物→A 172号竪穴建物→A 136号竪穴建物→A 193号竪穴建物→A 163・176号竪穴建物、5号土器埋設遺構である。なお、A 172号竪穴建物とA 186号竪穴建物は直接的な重複関係は無いが、出土土器の年代からA 186号竪穴建物のほうが古いと判断した。

A 172号竪穴建物は、東側をA 193号竪穴建物に壊されているが、壁面は全周する。平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、炉の新旧関係は不明である。炉1は中央に位置する石囲炉で、石組は外径70×65cmの楕円形と考えられるが、南壁の炉石は無く開口している。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、41×41cmの円形で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面より若干低い位置にあり、炉内にあたる範囲を若干掘り窪めた後に炉石を設置する部分をさらに深

く掘り込んでいる。炉2は炉1の南西側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は52×32cmの不整形で、被熱深度は約3cmである。その他に柱穴2個を検出した。南西側でのみ検出されており、柱配置は不明である。

遺物は堆積土(10層)中から多量に出土しており、縄文土器20点と土製品1点を掲載した(a 747～766、e 86)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木7b～8a式主体であることから中期前～中葉の構築・使用と考えられる。

A 186号竪穴建物は、A 172号竪穴建物の東側でトレンチ掘削中に炉を検出し、さらに北側に設定したトレンチで壁面の立ち上がりを確認したことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平及びA 193号竪穴建物によって壊されているが、残存する北壁及び炉の位置から平面形は円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅢ層に相当する黒褐色土(A断面14層)を平坦に整えており、中央が若干窪んでいる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南側に石囲炉1基を検出した。石組は、外径50×43cmの長方形である。北壁は検出されていないが、この部分が若干窪んでおり抜き取りが行われた可能性がある。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、38×26cmの範囲で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面より若干低い位置にあり、炉内にあたる範囲を若干掘り窪めた後に炉石を設置する部分をさらに深く掘り込んでいる。

遺物は堆積土上～中位から出土しており、縄文土器12点と石器1点を掲載した(a 815～826、c 1231)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6～7b式主体であることから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 193号竪穴建物は、先述の通りA 172号竪穴建物のプラン内と考えていた堆積土の中位で床面と考えられる水平堆積を確認したことから竪穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層に相当する黒褐色土(A断面14層)及びA 172号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は、床面施設は少ないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物は乏しいが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(中村・村田)

#### A 182・184号竪穴建物

(第193・162図、第276図、写真図版134・135・330)

ⅡB 4 a～6 bグリッドに位置する。A 182号竪穴建物は、ⅡB 4・5 a・b遺物包含層の底面付近で焼土と柱穴を検出したことから1軒の竪穴建物と認定した。A 184号竪穴建物は、遺物包含層の南東側に設定した層位確認トレンチ(Dトレンチ)で遺物包含層とは異なりプラン外に広がる黒褐色の不整形プランと焼土を検出したことから1軒の竪穴建物と認定した。新旧関係は、A 184号竪穴建物→A 182号竪穴建物→ⅡB 4・5 a・b遺物包含層である。

A 182号竪穴建物は、全体がⅡB 4・5 a・b遺物包含層の下位に位置しており、遺物包含層形成時の斜面上方からの流れ込みによって北～西壁と床面の一部以外は壊されており、平面形は不明である。壁面は、緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を平坦に整えており、南側に向かって若干傾斜している。堆積土はにぶい黄褐色土と灰黄褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として南東側で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は38×36cmの隅丸方形で、被熱深度は約4cmである。また、炉の東側には125×45cmの不整形プランの焼土が検出されているが、熱変成が弱く二次堆積と考えられる。その他に柱穴7個を検出した。南西側で検出されていないため柱配置は不明であるが、P 01・04・07は主柱穴になると考えられる。また、P 01・04では立った状態で使用痕の無い角礫が出土している。

遺物は、本遺構を切るⅡB 4・5 a・b 遺物包含層下層の出土遺物の中にも本遺構に帰属するものがあると思われるが、ここでは堆積土中から出土した縄文土器4点を掲載した（a 805～808）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木6～8 a式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 184号竪穴建物は、ⅡB 4・5 a・b 遺物包含層3層が落ち込む部分で大部分が壊されており、さらに斜面下方である南側が削平されている為平面形は不明である。壁面は、緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として東側で炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1の燃焼部焼土は50×35cmの不整形円で、被熱深度は約3cmである。炉2の燃焼部焼土は70×70cmの円で、被熱深度は約3cmである。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが他遺構との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

#### A 194号竪穴建物

（第194図、写真図版136）

ⅡB 8 g グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、黒褐色の半円形プランとして検出した。172号土坑と重複関係にあり、本遺構のほうが古い。斜面下方である南西側は削平されており、平面形は不明である。壁面は床面からほぼ垂直に立ち上がるが、中でテラス状の平坦面を形成している。平坦面の幅は約20cmである。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土とにぶい黄褐色土で構成され、自然堆積である。

床面施設として周溝2条と柱穴1個を検出した。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物は乏しいが、中期中～後葉に属する172号土坑との重複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えられる。

#### A 195号竪穴建物

（第194図、写真図版136）

ⅡB 9 g グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、土坑と重なり合いにぶい黄褐色の不整形プランとして検出した。多数の土坑と重複関係にあり、新旧関係はA 195号竪穴建物→116号土坑→115・118号土坑→114・123号土坑→29・117号土坑である。西・東・南側は土坑により壊されている為平面形は不明である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土はにぶい黄褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として周溝2条と柱穴3個を検出した。周溝は北壁面に併行する溝1と直交する溝2があり、溝2のほうが古い。残存範囲が少ないため断定はできないが、溝の重複関係から建物の建て替え・

拡張が行われていた可能性がある。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物は乏しいが、他遺構との重複関係から中期中葉の構築・使用と考えられる。

#### A 196 号竪穴建物

(第1-94図、第2-258図、写真図版136・465)

ⅡB9aグリッドに位置する。層序確認用トレンチであるAトレンチ掘削中にA151号竪穴建物の堆積土より下位で焼土を検出し、断面観察により壁面の立ち上がりが確認できたため竪穴建物と認定した。A127・148・151号竪穴建物と重複関係にあり、いずれよりも古い。南側は新しい遺構に壊され、西側はAトレンチ掘削の際に壊してしまったので平面形は不明である。壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土の単層であるが、堆積が薄く様相は不明である。

床面施設として中央で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は75×45cmの楕円形で、被熱深度は約9cmである。

本遺構に伴う遺物として焼土直上から出土した石器1点を掲載した(c169)。ⅡB9aグリッドⅡ層として取り上げた遺物の中に本遺構に帰属するものがあると思われるが、そのみを抽出することができなかった為、ここでは掲載していない。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが他遺構との重複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えられる。

#### A 197・198 号竪穴建物

(第1-94・162図、第2-83図、写真図版136～138・334)

ⅡA21fグリッド付近に位置する。検出面はⅡ層下位～Ⅳ層上面で、黒褐色の不整形円形プランとして検出した。新旧関係は、A198号竪穴建物→A197号竪穴建物である。

A197号竪穴建物は、南西側を木根によって壊されているが平面形は円形と考えられ、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層及びA198号竪穴建物堆積土を平坦に整えている。床面中央付近には炭化物の集中があり、その周辺に比較的大型の炭化物が分布していたことから焼失家屋の可能性が高い。炭化材のうち1点の樹種同定を行ったところ、クリという結果を得ている(第Ⅵ章第3節)。堆積土は黒褐色土が主体で、焼失後の流れ込みによる自然堆積である。

床面施設として中央付近で石囲炉を1基検出した。石組は、外径60×45cmの方形である。燃焼部焼土は炉内北寄りに位置し、16×16cmの円形で、被熱深度は約2cmである。燃焼部焼土上面は床面より2cm程度低く、上面に炭化物層が堆積していた。

遺物は炉の周辺から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a872)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式主体であることと炉内出土の炭化材年代測定結果(第Ⅵ章第1節)から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A198号竪穴建物は、北西側をA197号竪穴建物と木根により壊されているが、平面形は隅丸方形と考えられ、壁面は床面裾から丸みをもって立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は上面に二次堆積焼土もみられるが、ほぼ黒褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。



遺物は堆積土中から土器の細片が出土しているが、図示できるものは無い。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された堅穴建物と考えられる。出土遺物は乏しいが、A 197号堅穴建物との重複関係から中期中葉以前の構築・使用と考えられる。

#### A 199 号堅穴建物

(第195・162図、第283図、写真図版138・139・334)

II A 22 d グリッドに位置する。検出面はIV層で、石囲炉の石組が露出した不整形プランとして検出した。225号土坑と近接するが、直接的な重複関係は無い。石囲炉及びその周辺に残存する床面を確認したのみで、平面形は不明である。床面直上には遺構内堆積土も残存していたが、南側は斜面下方により流出、北側は木根や攪乱によって壁面は残存していないため形状は不明である。床面はIV層を平坦に整えており、周辺のIV層より硬化した範囲を床面とした。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。また、1・2層の境界に二次堆積の火山灰が確認されている。

床面施設として複式炉を1基検出した。建物の全形が不明な為、構築位置は不明である。石組による二室構成の複式炉であり、外形は70×55cmの方形で南東側が開口している。燃焼部焼土は前室仕切り石付近に位置し、18×10cmの楕円形で、被熱深度は約5cmである。掘り方は石組より若干広めの楕円形で、炉内は床面より若干低い位置に構築されている。

遺物は、床面残存範囲内で出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 873)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、炉の形態から中期的構築・使用と考えられる。

(村田)

#### A 201 号堅穴建物

(第195・162・163図、第283・84・382図、写真図版140・334・335・524)

II A 21 e グリッドに位置する。検出面はII層上面で、黒褐色の楕円形プランとして検出した。他遺構との重複関係は無い。斜面下方である東～南側は削平にされており、さらに西側は調査区外となっているが、平面形は楕円形と考えられる。攪乱が多いため壁面の遺存状況は悪いが、若干外方に開きながら立ち上がると考えられる。床面はIV層を平坦に整え、炉の周辺には地山由来の黄褐色土を充填している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南東側で石囲炉1基を検出した。石組は、外径74×66cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、58×52cmの範囲で、被熱深度は約8cmである。炉内は床面より低い位置にあり、掘り方は石組と同規模の長方形の土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。

遺物は堆積土下位(3層)を中心に出土しており、縄文土器8点と土器片円盤1点を掲載した(a 875～882、g 47)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木8 b～9式新段階主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

#### A 200 号堅穴建物

(第196・162図、第283図、写真図版138・139・334)

II A 19 f グリッドに位置する。検出面はII層で、黒褐色の楕円形プランとして検出した。A 198号堅穴建物と重複関係にあり、新旧関係はA 200号堅穴建物→A 198号堅穴建物である。北～東側は削平、さらに西側は調査区外となっているが平面形は楕円形と考えられる。壁面は残存する立ち上がりが高く、壁面形状は不明である。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土と浅黄色砂

で構成され、自然堆積である。

床面施設として西壁調査区際で石囲炉1基を検出した。石組は、外径80×66cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内西壁付近に位置し、46×38cmの不整楕円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面より低い位置にあり、掘り方は石組と同規模の長方形の土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 874)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期後葉頃の構築・使用と考えられる。

#### A 202号竪穴建物

(第197・163図、第284図、写真図版141・335)

II A 21 f グリッドに位置する。検出面はIV層上面で、黒褐色の楕円形プランとして検出した。226号土坑と重複関係にあり、新旧関係はA 202号竪穴建物→226号土坑である。斜面下方である東壁は削平、北壁も木根により一部失われている。平面形は楕円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は西寄りに位置する地床炉で、燃焼部焼土は44×36cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。炉2は中央に位置する地床炉で、燃焼部焼土は34×27cmの楕円形で、被熱深度約3cmである。その他に土坑1基と柱穴4個を検出した。土坑1は平面形が61×54cmの円形で、深さは15cmである。柱穴は床面中央から南西側に位置しているが、配置に規則性はみられない。

遺物は1層からまとも出土しており、縄文土器3点を掲載した(a 883～885)。このうちa 883はA 201号竪穴建物堆積土出土の破片と接合している。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式新段階主体であることから中期後葉頃の構築・使用と考えられる。

(中村・村田)

#### A 203～205・208・212・215・222・224号竪穴建物

(第198・99・163図、第284・85・89・285図、写真図版142～145・335～338・477)

II A 11 r～13 s グリッドに位置する。検出面はIV層上面で、黒～暗褐色土の円形・不整形プランが重複する範囲として検出した。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係は236・237号土坑→A 224号竪穴建物→A 212号竪穴建物→A 208号竪穴建物→A 203号竪穴建物→A 205号竪穴建物→A 204号竪穴建物→A 215号竪穴建物→B 18号竪穴建物→11号溝である。

A 203号竪穴建物は、IV層上面で暗褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として床面北寄りで地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は64×44cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。その他に周溝1条と柱穴13個を検出した。柱穴は、P 05・07・09・10・12の5個が主柱穴であり、五角形の柱配置になると考えられる。また、周溝付近に位置するP 01～03は壁板等を支える壁柱穴の可能性がある。

遺物は1層から出土しており、縄文土器2点を掲載した(a 886・887)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器に大木3式も含まれるが、他遺構との重

複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えられる。

A 204号竪穴建物は、IV層上面で黒色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を平坦に整え、さらに断面図には反映されていないが中央から西側の範囲では厚さ約5cmの黄褐色土を充填している。堆積土は黒褐色土及び暗褐色土で、自然堆積である。

床面施設として西～南側の範囲で柱穴を5個検出した。このうちP 01・03・05が主柱穴になり、他遺構に壊されている北東側に柱穴があったとすれば四角形の柱配置であったと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器1点を掲載した（a 888、c1011）。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器に前期のものも含まれるが、他遺構との重複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えられる。

A 205号竪穴建物は、IV層上面で暗褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平、北西側もA 204・215号竪穴建物により壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を平坦に整えており、床面直上には焼土塊及び炭化物が疎らに分布していた。堆積土は灰黄褐色砂質土と黒色土で構成され、人為堆積と考えられる。

床面施設として周溝2条と柱穴2個を検出した。

遺物は、本遺構に伴う堆積土中からは出土していない。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物が無いため詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えておきたい。なお、炭化材は顕著ではないが、床面直上から焼土や炭化物が検出されており、人為堆積により埋められていることから焼失家屋の可能性もある。

A 208号竪穴建物は、明灰褐色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、中央から南東側は5cm程度低くなっている。堆積土は黄橙色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として柱穴6個を検出した。このうちP 01・02・04～06が主柱穴であり、柱配置は五角形になると考えられる。ただし、床面北西側に既に消失した柱穴があったと仮定すれば六角形の配置になる可能性もある。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点と石器1点を掲載した（a 894・895、c 1012）。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。出土土器には大木4式も含まれるが、中期の土器片が多いことから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 212号竪穴建物は、当初A 208号竪穴建物と同じ建物と考えていたが、A 208号竪穴建物の北壁面が屈曲して北東側に延びていくことが確認されたことから別の竪穴建物と判断した。大部分がA 208号竪穴建物に壊されているが、平面形は円形と考えられ、壁面は若干外方に開きながら立ち上がる。床面残存範囲は少ないが、確認できる範囲ではIV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～褐色土が主体で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物はA 208号竪穴建物との境界付近から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 912）。

本遺構は、炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物と考えられる。地文のみの土器が多く詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中期前～中葉に構築・使用されたものと考えておきたい。

A 215号竪穴建物は、A 204号竪穴建物精査時に重複する暗褐色の不整形プランとして検出した。本遺構のほうが新しいが、A 204号竪穴建物を先行して精査した為A 204号竪穴建物堆積土中に形成

されていた壁面及び床面の一部は本遺構精査以前に掘削してしまっている。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層及びA 204号堅穴建物堆積土を平坦に整えていたと考えられるが、上記の理由により堆積土部分は確認することができなかった。堆積土は暗褐色土及び褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として土坑1基と周溝1条を検出した。土坑1は北壁際に位置し、平面形は楕円形で上面規模は125×50cm、深さは約15cmである。住居内と同じ堆積土であり、同時に埋没したと考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 914)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木8a式であることから中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 222号堅穴建物は、A 208号堅穴建物の床面精査時に床面より低い位置で炉を検出したことから堅穴建物と認定した。A 208号堅穴建物にほとんどを壊されており、炉及び周辺の床面のみ残存していた。削平が著しく平面形・壁面形状・深さは不明である。堆積土にはふい黄褐色土が若干残存しているが、堆積の様相は不明である。

床面施設として複式炉1基を検出した。埋設土器と石囲炉で構成される複式炉で、石組部の南側では前庭部と想定される浅い皿状の窪みを検出した。石組は、外径75×57cmの長方形と考えられるが、北側と西側の石は失われている。燃焼部焼土は石組内中央東寄りに位置し、35×35cmの円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面より低い位置にあり、石組部の掘り方は長方形の土坑状で、壁面に沿って炉石を立て並べている。埋設土器は石組部の北側の一段高い位置に設置されていたが、削平によりほとんど失われており設置方法は不明である。

遺物は埋設土器を含め炉周辺から出土しているが、縄文土器は摩耗しており図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土遺物は乏しいが炉の形態から中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 224号堅穴建物は、A 208号堅穴建物の床面精査時に建物外へ延びる溝を検出したため堅穴建物と認定した。大部分をA 208号堅穴建物に壊されており、床面施設が検出されたのみである。周溝と柱穴の配置から平面形は円形と考えられるが、壁面形状・深さは不明である。床面は炉の周辺で構築土と考えられる黄褐色粘質土が確認されているが、その他の範囲はA 208号堅穴建物に壊されており不明である。堆積土は残存しておらず、堆積の様相は不明である。

床面施設として中央やや南寄りで炉を1基検出したが、削平により炉石1個と炉石据え付け穴2個が残存するのみであった。燃焼部焼土は検出されていない。楕円形の掘り込み内に炉石を設置したものと考えられるが、構築方法は不明である。その他に周溝1条と柱穴8個を検出した。周溝は一連のものであったと考えられるが、途切れていたため2条とした。柱穴はP 04～06・08が柱穴であり、他遺構に壊されている北西側に柱穴があったとすれば五角形の柱配置であったと考えられる。

遺物は炉の周辺から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 940)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中葉頃構築・使用されたと考えられる。

(中村・村田)

#### A 206・207・211・227～230号堅穴建物

(第1・100・101・163・164図、第2・85・87・90・238・254・262・333・369図、写真図版146～149・335・337～339・462・467・499・500・516)

II A 14 p～16 q グリッドに位置する。検出面はⅢ～Ⅳ層上面で、黒褐～灰黄褐色の円形・不整形

プランが重複する範囲として検出した。多数の土坑とも重複関係にあり、新旧関係は249号土坑→A 227号堅穴建物→A 229号堅穴建物→A 211号堅穴建物→A 230号堅穴建物→A 228号堅穴建物→248・252・253号土坑→A 206号堅穴建物→A 207号堅穴建物である。

A 206号堅穴建物は、灰黄褐色の不整形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅳ層及び下位の堅穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は灰黄褐色土と褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴6個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器1点を掲載した（a 889, c 1232）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木8b式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 207号堅穴建物は、当初A 206号堅穴建物の堆積土と考えていた炭化物粒を多く含む暗褐色土の不整形プランについて、断面観察及び周溝などの検出状況から1軒の堅穴建物と認定した。斜面下方である南側は大幅に失われており平面形は不明である。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は、下位の遺構堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として周溝3条と柱穴8個を検出した。周溝は本来は一連のものであったと考えられるが、途切れていたため2条とした。柱穴は不規則に位置しており、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土4点と赤彩が付着した縄文土器1点、石器4点を掲載した（a 890～893, r 15, c 48・1233～1235）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された堅穴建物であり、出土土器は大木8a式が主体であるが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 211号堅穴建物は、A 206・230号堅穴建物精査中にこれらの建物より南側に広がる炭化物を多く含む暗褐色の円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、柱穴の検出状況から平面形は楕円形と判断できる。壁面は、ほぼ垂直に立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、洪水堆積による自然堆積であり全体的に砂質で締りは弱い。

床面施設として中央南寄りの位置で並列する地床炉2基を検出した。2基重なっているが、断面観察でも新旧関係を明確にすることはできなかった。炉1の燃焼部焼土は51×45cmの円形で、被熱深度は約5cmである。炉2の燃焼部焼土は84×48cmの不整形円形で、被熱深度は約3cmである。その他に埋設土器1基、周溝1条、柱穴19個を検出した。埋設土器は床面中央部に位置しており、握え方が焼土の下部に入り込んでいることから住居構築直後に設置されたものと考えられる。床面を土器の直径より約3倍の広さで掘り込み、その中に深鉢を逆位に設置して外側に黒褐色土を充填している。意図的なものかは不明であるが、底部は欠損している。柱穴は、P 02・05・07・13・16・19が主柱穴であり、六角形の柱配置になると考えられる。また、主柱穴配置の外周に位置するP 01・03・04・08～10・12・15・17・18は壁柱穴になると考えられる。

遺物は埋設土器の他に堆積土中（6層）からも出土しており、縄文土器1点と石製品1点を掲載した（a 911, d84）。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、埋設土器が大木8b式新段階のものであることから中期中葉～後葉の構築・使用と考えられる。

A 227号堅穴建物は、Ⅲ層中で土質の異なる黒褐色の楕円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土と暗赤褐色土の互層で、自然堆積である。床面施設は検

出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 945・946）。

本遺構は床面施設は確認されていないが住居として使用された堅穴建物であり、出土土器に大木7b式を含むことから中期前葉の構築・使用と考えられる。

A 228号堅穴建物は、Ⅲ層上面で暗褐色の不整楕円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は長楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。北壁付近のみ残存している為、床面の状況は不明である。堆積土は暗褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、石器1点を掲載した（c 240）。

本遺構は壁面付近しか残存していないため性格は不明である。出土遺物も乏しく詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えておきたい。

A 229号堅穴建物は、Ⅲ層で暗褐色の不整楕円形プランとして検出した。斜面下方である南東側は削平、南西側はA 211・230号堅穴建物により壊されている為平面形は不明である。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅲ～Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は、本遺構に伴う堆積土中からは出土していない。

本遺構は、床面施設は確認されていないが住居として使用された堅穴建物と考えられる。出土遺物が無いため詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中期前～中葉の構築・使用と考えておきたい。

A 230号堅穴建物は、A 206・207号堅穴建物精査後にⅢ層中で土質の異なる黒褐色の半円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形で、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層及びA 211号堅穴建物堆積土を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は、本遺構に伴う堆積土中からは出土していない。

本遺構は床面施設は確認されていないが住居として使用された堅穴建物と考えられる。出土遺物が無いため詳細な年代は不明であるが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えておきたい。

（中村・北田・村田）

#### A 209・210・213・214号堅穴建物

（第1-102・164図、第2-85・86・285・304・333・375図、写真図版150・151・336・337・477・487・499・500・519）

II A 14 r・s グリッドに位置する。検出面はⅣ層で、暗褐色の不整形プランとして検出した。プランの輪郭がはっきりしなかった為、最初に断面観察用にトレンチ（断面A・B）を設定して掘り下げを行い、その結果複数の堅穴建物が重複していることを確認した。新旧関係は、234号土坑→A 210号堅穴建物→A 214号堅穴建物→A 213号堅穴建物→A 209号堅穴建物である。

A 209号堅穴建物は、Ⅳ層で暗褐色の楕円形プランとして検出し、当初はA 213・214号堅穴建物を合わせた1軒と考えていたが、断面観察により床面の高さに違いがあることから、3軒の堅穴建物と認定した。斜面下方にあたる南側は削平されているが、柱穴が残存していたことからここまです堅穴建物の床面範囲とした。平面形は南北に長い楕円形と考えられ、壁面は外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層を削り出しており、北壁付近は南側に向かって若干傾斜している。堆積土はオリブ褐色

土や暗灰黄褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として炉2基を検出した。直接的な重複関係が無く、新旧関係は不明である。炉1は床面中央に位置する石囲炉で、石組は外径48×44cmの円形である。南西側は抜き取り痕が確認できないことから石が設置されていなかった可能性がある。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、36×32cmの範囲で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。炉2は南西側に位置する地床炉で、燃焼部焼土は48×41cmの不整形円で、被熱深度は約4cmである。その他に柱穴を8個検出した。このうちP 01～04・06・07が主柱穴であり、六角形の柱配置になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器5点と石器3点を掲載した（a 896～900、c 1101・1236・1237）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器に大木8b式を含むことから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 210号竪穴建物は、A 209号竪穴建物の検出プランの西側で暗褐色の不整形方形プランとして検出し、断面観察によりA 213号竪穴建物より古い竪穴建物と判断した。なお、A 213・214号竪穴建物のほうが新しい建物であるが、先述の通り当初は両建物をA 209号竪穴建物に含めており、本遺構の命名後に3軒に分離できることが判明した為、遺構名の順序が入れ替わっている。斜面下方である南側は削平、中央から東側は本遺構よりも新しい遺構により壊されているが、平面形は長方形と考えられ、壁面は若干外方に開きながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土は暗灰黄色土とオリブ褐色土の互層堆積で、自然堆積である。

床面施設として北壁付近で柱穴を3個検出した。いずれも壁面と並行しており、主柱穴になると考えられる。

遺物は西側の堆積土を中心に出土しており、縄文土器8点と石器1点を掲載した（a 902～906・908～910、c 1013）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 213号竪穴建物は、当初A 209号竪穴建物の一部として検出したが、床面の高さが異なることから別の竪穴建物として分離した。斜面下方である南側は削平、東側はA 209号竪穴建物により壊されており平面形は不明である。壁面は、やや外傾して立ち上がる。床面はIV層を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土は暗灰黄色土とオリブ褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央付近で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は20×19cmの楕円形で、被熱深度は約5cmである。その他に柱穴7個を検出した。不規則に位置しており、柱配置は不明である。

遺物は堆積土下位から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 901・907）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式新段階のものであることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 214号竪穴建物は、当初はA 209号竪穴建物の一部として検出したが、床面の高さに違いが認められた為分離して1軒の竪穴建物とした。北壁以外はA 209・213号竪穴建物により失われており、平面形は不明である。壁面は、外傾して立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、南側に向かって傾斜している。堆積土は床面付近にオリブ褐色土が確認されているのみであり、堆積の様相は不明である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と土製品1点を掲載した（a 913、e 38）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木8b式新段階であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(高橋・村田)

#### A 216 号堅穴建物

(第1-103・165図、第2-86図、写真図版152・337)

II A 12v グリッドに位置する。235号土坑精査中に土坑の東側で暗褐色の不整形プランとして検出した。周辺遺構との新旧関係は、A 114号堅穴建物→A 216号堅穴建物→206・235号土坑、13号溝である。斜面下方である南～東側は削平により失われており平面形は不明である。壁面は、周溝壁面から外傾しながら立ち上がり、中位付近で一度テラス状の平坦面を形成する。平坦面の幅は約40cmである。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として周溝1条と柱穴6個を検出した。柱穴は西壁付近に不規則に分布しており、柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 915)。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期中後葉の構築・使用と考えられる。

#### A 217 号堅穴建物

(第1-103図、写真図版152)

II A 12 v グリッドに位置する。検出面はIV層で、204・205号土坑を含め黒色の不整形プランとして検出した。周辺遺構との新旧関係は、205号土坑→204号土坑→A 217号堅穴建物→B 21号堅穴建物、P 3129～3134である。南側をB 21号堅穴建物に壊されているが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は暗褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は堆積土中から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は、床面施設は確認されていないが住居として使用された堅穴建物と考えられる。年代は、出土遺物が乏しく他遺構との重複関係も無い為不明である。

(中村・村田)

#### A 225 号堅穴建物

(第1-103・166図、第2-89・306・334・377図、写真図版152・339・487・500・521)

II A 15 s グリッドに位置する。検出面はIV層上面で、黒褐色の不整形プランとして検出した。A 223号堅穴建物と重複関係にあるが、本遺構の方が古い。斜面下方である南側は削平及び土層確認用トレンチの掘削により失われているが、平面形は方形と考えられ、壁面は周溝壁面から直線的に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えており、若干南側に向かって傾斜している。断面図の作成を怠ってしまったが、堆積土は黒褐色土を主体とする自然堆積であった。

床面施設として中央付近で地床炉1基を検出した。燃焼部焼土は34×31cmの円形で、被熱深度は約4cmである。焼土の南側には円形の礫が1個据え付けてあった。その他に周溝1条と柱穴1個を検出した。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器3点と石器2点、土製品1点を掲載した(a 941～943, c 1107・1241, e 98)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中



期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(高橋・村田)

#### A 218～221・223・226号竪穴建物

(第1-104～106・165・166図、第286～89・305・306・334・376・382図、写真図版153～157・337・338・487・500・520・524)

Ⅱ A 15 t～16 wグリッドに位置する。検出面はⅢ～Ⅳ層で、黒褐色の円形プランが複数重なるように検出した。検出時点でも3軒以上の建物が重複していることは把握できたが、上面では新旧関係が不明であったためプランの長軸に合わせてベルト（断面Aライン）を設定して掘り下げを行い、断面観察から新旧関係を確認した。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係はA 221号竪穴建物→A 223号竪穴建物→A 226号竪穴建物→A 219号竪穴建物→A 218号竪穴建物→238・239・247号土坑、22号炉、P 4243→A 220号竪穴建物である。また、A 220・221・223号竪穴建物の西～南側には中央調査区南西遺物包含層があり、これら3軒の建物は遺物包含層と重複関係にある。新旧関係は、A 221号竪穴建物→遺物包含層→A 220・223号竪穴建物である。

A 218号竪穴建物は、Ⅲ～Ⅳ層上面で黒褐色の楕円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は楕円形で、壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はA 221号竪穴建物堆積土を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は外径62×53cmの長方形であるが、南西側の石はA 220号竪穴建物構築の際に抜き取られており残存していない。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、35×30cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面より若干低くなっているが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器3点、土製品1点を掲載した(a 916、c 1102・1103・1238、e 77)。このうちc 1102・1103は炉石に転用されたものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 219号竪穴建物は、A 218号竪穴建物の北東側で黒褐色の円形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は円形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ層及びA 221号竪穴建物堆積土を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は、外径56×51cmの長方形である。燃焼部焼土は炉内全域に広がり、40×31cmの範囲で、被熱深度は約3cmである。炉内は床面より若干低くなっているが、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴5個を検出した。壁際に位置するものが多く、A 221号竪穴建物に伴うとした柱穴に本遺構に伴うものがあると仮定すると、P 01・03とA 221号竪穴建物P 04・44を組み合わせた四角形の柱配置も想定できる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点と石器1点を掲載した(a 917、c 1104)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器の年代は不明であるが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 220号竪穴建物は、Ⅲ層で黒褐色の楕円形プランとして検出した。後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。平面形は円形で、壁面は周溝壁面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ層及びA 221号竪穴建物堆積土を削り出しており、南側に向かって傾斜

している。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として南東側で複式炉を1基検出した。東西方向に長軸方向を取る複式炉で、石囲炉と土器埋設炉で構成される。石囲炉は2つの石組で日の字形に構成されており、土器埋設炉に隣接する西側が後室と考えられる。前室の石組は外径70×70cmの方形、後室の石組は外径48×30cmの長方形である。燃焼部焼土は後室内全域に広がり、36×16cmの範囲で、被熱深度は約6cmである。後室の西側に土器埋設炉があり、燃焼部焼土は32×30cmの円形で、被熱深度は約4cmである。埋設土器は焼土の西寄りに位置し、2個体の深鉢のうち1個体を切断し、三重の入れ子状にして逆位で設置している。埋設土器の外径は24×23cmである。炉は床面より低い位置にあるが、炉内でも段差があり土器埋設炉より石囲炉のほうが低い。前室と後室では底面の差は認められない。石組部は、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。土器埋設炉の掘り方は、土器の直径より若干広い土坑状で、その内側に土器を設置している。その他に周溝2条と柱穴29個を検出した。溝1の西端部と溝2が並行していることから、床面西側では少なくとも1回の建て替え・拡張が行われたと考えられる。柱穴は、P 02・08・11・15・18・19が主柱穴であり、六角形の柱配置になると考えられる。また、P 01・04・13・16・20・22が壁柱穴になると考えられる。西側に拡張を行っているとするれば、P 12・21は拡張前の壁柱穴になる可能性もある。

遺物は炉内埋設土器の他、北東側堆積土中から多量に出土しており、縄文土器9点と石器1点を掲載した(a 919～927, c 1105)。

本遺構は住居として使用された堅穴建物であり、出土土器が太木9式新段階が主体であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 221号堅穴建物は、本遺構の上部に位置するA 218・219・220号堅穴建物の精査時に設定した土層確認トレンチで床面を確認したことから堅穴建物と認定した。斜面下方である南側は削平及び排水作業用の水路により失われているが、平面形は東西が張り出す不整な楕円形である。壁面は、外傾しながら立ち上がる。床面はIV層を削り出してあり、南側に向かって傾斜している。堆積土は暗褐色土が主体で、自然堆積である。後述するように多数の周溝と柱穴を検出してあり、壁面が張り出すなどの状況から複数の堅穴建物が重複している可能性も考えたが、堆積土に分層できるほどの大きな相違が無かったことから同一建物内での拡張・建て替えの結果によるものと判断した。

床面施設として南東部で石囲炉1基を検出した。石組の外径は96×47cmの長方形と考えられるが、石の抜き取りが多く遺存状況は不良である。燃焼部焼土は炉内全体に広がっていたと考えられ、範囲は70×33cm、被熱深度は約3cmである。石組は、北側の炉石のみ半分以上が埋まる程の掘り方を持つが、他の炉石の抜き取り痕跡をみる限り設置する部分のみ若干掘り込んで石を設置していたようである。その他に周溝11条と柱穴84個を検出した。周溝及び柱穴の配置から、本遺構は少なくとも4回の建て替え・拡張が行われていたと考えられる。想定される段階として、構築段階である第一段階は円形プランで溝3・8・10・11が巡り、P 12・14・30・38・47・57が主柱穴で柱配置が六角形となるもの、第二段階は円形プランで溝3・8・9が巡り、P 25・30・63・64・67・70が壁柱穴として配置されるもの、第三段階は楕円形プランで溝3～7が巡り、P 02・14・20・30・56・78・82が主柱穴で柱配置が六または八角形となるもの、第四段階は長楕円形プランで溝4・5が巡り、P 03・27・33・43・44・48・74・77が壁面に沿って配置され、さらに棟持柱としてP 22・37・39・57・64・76が直線的に配置されるもの、第五段階が円形プランで溝1・2が巡り、P 02・14・21・30・55・65・81・84が主柱穴で柱配置が八角形となり、さらにP 01・19・29・32・34・42・72・79が壁柱穴として配置されるものという変遷が考えられる(第1-106図)。なお、炉石の残存状況から検出

された炉は次段階の拡張時に廃絶された可能性があることと床面施設の配置及び重複関係から第三・四段階のいずれかに伴うと考えられる。

遺物は建物の拡張の中心となる床面西側の堆積土中から多量に出土しており、縄文土器9点と石器3点、土器片円盤1点を掲載した（a 918・928～935、c 1106・1239・1240、g 48）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 223号竪穴建物は、Ⅲ層で暗褐色の楕円形プランとして検出した。西側でA 225号竪穴建物及び中央調査区南西遺物包含層と重複関係にあり、両者より本遺構のほうが新しい。斜面下方である南側は削平、東側はA 220号竪穴建物によって壊されているが、平面形は隅丸方形または楕円形と考えられ、壁面は緩やかに外傾しながら立ち上がる。床面はⅣ層及び遺物包含層を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土は暗褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として柱穴20個を検出した。床面の広範囲で検出されているが、規模・配置が不規則であり柱配置は不明である。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器4点を掲載した（a 936～939）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることと他遺構との重複関係から中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 226号竪穴建物は、A 223号竪穴建物精査中に堆積土中位で石囲炉を検出し、断面観察によりA 223号竪穴建物堆積土と土質の異なる範囲を確認した為1軒の竪穴建物と認定した。全体がA 223号竪穴建物内に位置しており、平面形は楕円形である。堆積が浅いため壁面の立ち上がりは不明瞭である。床面はA 223号竪穴建物堆積土を削り出しており、南側に向かって傾斜している。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として南側で石囲炉1基を検出した。石組は59×45cmの長方形で、南壁には石が無く開口している。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、27×26cmの円形で、被熱深度は約4cmである。炉内は床面と同じ高さに位置し、設置する部分のみ掘り込んで角礫を据え付けている。周溝や柱穴は検出されなかった。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器1点を掲載した（a 944）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木8b式主体であるが他遺構との重複関係から中期後葉の構築・使用と考えられる。

（北田・高橋・村田）

#### A 231～234・239・240号竪穴建物

（第1-107～109・166・167図、第2-90・91・254・382図、写真図版158～160・339・340・463・524）

ⅡB 16e～18fグリッドに位置する。検出面はⅢ層下位～Ⅳ層で、黒褐色の円形及び方形プランを複数検出した。このうちA 231～234号竪穴建物は、床面精査の段階まで1軒の竪穴建物として認識していた為、堆積土中での遺物取り上げは全てA 231号竪穴建物として行っている。したがって遺物は4軒の竪穴建物それぞれに帰属するものがあると考えられるが、柱穴内等確実なもの以外はA 231号竪穴建物の出土遺物として掲載した。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係は310号土坑→A 241号竪穴建物→A 240号竪穴建物→294・304号土坑→A 234号竪穴建物→A 239号竪穴建物→A 233号竪穴建物→296・306号土坑→A 232号竪穴建物→A 231号竪穴建物→307号土坑である。この他、297・302・308・309号土坑とも重複しているが、これらとの新旧関係は不明である。なお、

A 241 号竪穴建物は第 1-107・109 図では一部の柱穴のみ図示しており、全体図は第 1-113 図に掲載している。なお、A 231～253 号竪穴建物が分布する範囲（後述する柱穴 P5001 以降が分布）では、調査期間の制約もあり柱穴については、ほとんどのものを下端図面の作成をせず最下点の記録のみにとどめている。

A 231 号竪穴建物は、黒褐色の円形プランとして検出した。先述の通り A 232～234 号竪穴建物と合わせて 1 軒の竪穴建物と認識しており、床面精査の際に床面の高さが異なることと周溝・柱穴の配置から 4 軒の竪穴建物が重複していることが判明した。壁面は北側しか残存していないが、周溝と柱穴の位置から平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ層及び A 232 号竪穴建物堆積土を削り出しているが、床面には若干の凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として中央南西寄りて石囲炉 1 基を検出した。石組は外形 65 × 55cm の長方形と考えられるが、北壁と東壁の炉石は確認できなかった。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に埋設土器 1 基と周溝 1 条、柱穴 15 個を検出した。埋設土器は床面中央やや北寄りに位置し、床面を土器の直径より若干広く掘り込み、その中に深鉢を正位に設置して外側には黄褐色土を充填している。深鉢は器高の約 2/3 が埋められており、口縁部は欠損している。柱穴は、P 01～06 が主柱穴で六角形の柱配置となると考えられる。また、P 07～15 が壁面付近を巡る壁柱穴になると考えられる。

遺物は埋設土器の他、堆積土中から出土しており、縄文土器 3 点と石器 1 点、土器片円盤 2 点を掲載した（a 947～949、c 49、g 49・50）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、埋設土器を含め出土土器が大木 8 b 式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 232 号竪穴建物は、A 231 号竪穴建物床面精査中に高さの異なる床面を検出し、その面で石囲炉が検出されたことから 1 軒の竪穴建物と認定した。壁面は北側しか残存していないが、周溝と柱穴の位置から平面形は円形と考えられ、壁面は周溝壁面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は炉の周辺には薄い暗褐色土を充填しているが、基本的にはⅣ層を平坦に整えている。堆積土には黄褐色土の単層で、自然堆積である。

床面施設として中央付近で石囲炉 1 基を検出した。石組は 65 × 65cm の方形と考えられるが、南・東側の炉石は確認できなかった。燃焼部焼土は炉内中央に位置し、34 × 34cm の円形で、被熱深度は約 2cm である。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に周溝 1 条と柱穴 7 個を検出した。柱穴は、P 01～07 が主柱穴で七角形の柱配置になると考えられる。

遺物は、先述の通り堆積土中のものは A 231 号竪穴建物出土として一括で取り上げている。本遺構の柱穴から出土した土器は小破片であるが、A 231 号竪穴建物と同時期のものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 233 号竪穴建物は、A 232 号竪穴建物精査中に石囲炉を検出し、周溝の東側に A 232 号竪穴建物とは異なるプランの壁面が確認された為 1 軒の竪穴建物と認定した。壁面は北側しか残存していないが、周溝と柱穴の位置から平面形は円形と考えられ、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土の記録を行っていない為、堆積の様相は不明である。

床面施設として中央南寄りで石囲炉 1 基を検出した。石組は外形 65 × 50cm の楕円形と考えられるが、南側の炉石は確認できなかった。燃焼部焼土は炉内西側に位置し、40 × 30cm の円形で、被熱深

度は約3cmである。燃焼面は床面より若干低い位置にあり、炉内にあたる範囲を若干掘り窪めた後に炉石を設置する部分をさらに深く掘り込んでいる。その他に柱穴8個を検出した。P 01～08は主柱穴であり、八角形の柱配置となると考えられる。

遺物は、先述の通り堆積土中のものはA 231号竪穴建物出土として一括で取り上げている。本遺構の柱穴から出土した土器は小破片であるが、A 231号竪穴建物と同時期のものである。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器及び他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 234号竪穴建物は、A 232号竪穴建物床面精査中にプランの南西側で石囲炉と前庭部となる土坑と周溝を検出したことから1軒の竪穴建物と認定した。後述するように周溝と柱穴の配置から建て替え・拡張が行われた建物と考えられる。壁面は北西側しか残存していないが、周溝と柱穴の位置から平面形は円形と考えられ、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土の記録を行っていない為、堆積の様相は不明である。

床面施設として南西側で複式炉を1基を検出した。前庭部を有する複式炉で、石組は外形100×70cmの長方形であるが、南東壁は中央の炉石以外確認できなかった。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。前庭部は石組の掘り方と一連で掘削されており、平面形は150×95cmの楕円形で、深さは約15cmである。石組の構築方法は、前庭部と合わせて浅い土坑状の掘り込みを掘削した後に炉石を設置する部分をさらに深く掘り込んでいる。炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉内と前庭部の底面はほぼ同じ高さである。その他に周溝3条と柱穴19個を検出した。周溝のうち溝1は北側は壁面に沿って巡るが、途中で屈曲して炉の前庭部に壊されている。本建物で建て替え・拡張が行われていたとすれば、炉と溝の重複関係から溝1は旧段階、炉は新段階の床面に伴うものと考えられる。柱穴は、P 01～06が主柱穴で六角形の柱配置になると考えられる。また、P 07～12もP 01～06より外側で六角形の柱配置となる。壁面から遠いことと両者の柱間隔が近いことから、同時存在ではなく建て替え・拡張により柱配置を変更した可能性がある。

遺物は、先述の通り堆積土中のものはA 231号竪穴建物出土として一括で取り上げている。この他、炉の前庭部や周溝から出土しており、縄文土器2点を掲載した(a 950・951)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 239号竪穴建物は、A 231号竪穴建物の西側で黒褐色の方形プランとして検出した。北・西壁しか残存していないが、周溝と柱穴の配置から平面形は円形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として北壁付近で石囲炉1基を検出した。石組は、東側の炉石が検出されていない為平面形と規模は不明である。燃焼部焼土は炉内南側から若干外側に出ており、34×30cmの円形で、被熱深度は約2cmである。炉の全体を覆うように焼土が堆積していたが、周辺から流れ込んだ二次堆積の焼土である。また、炉の東側にも同様の焼土が確認されている。その他に周溝3条と柱穴18個を検出した。周溝は、溝1・2は壁面に沿って巡るが、溝3は床面中央南寄りに位置しており、間仕切り状のものと考えられる。柱穴は、P 01～09が壁柱穴として配置される。また、P 11・12が床面中央に設置された支持柱と考えられる。

遺物は周溝や柱穴及び堆積土から出土しており、縄文土器5点と土器片円盤1点を掲載した(a 961～965, g 55)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中

期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 240号竪穴建物は、A 239号竪穴建物床面精査中にA 239号竪穴建物の周溝とは異なる方向に巡る周溝と炉の可能性のある焼土を検出したことから竪穴建物と認定した。周溝と柱穴の配置から平面形は円形と考えられるが、壁面が残存していない為壁面形状・堆積の様相は不明である。床面はIV層を平坦に整えており、A 239号竪穴建物とはほぼ同じ高さである。

床面施設として周溝1条と柱穴6個を検出した。柱穴は、P 01～06が主柱穴で六角形の柱配置になると考えられる。なお、床面南西側で検出された焼土は、地床炉の可能性もあるが熟変成が非常に弱いため断定はできなかった。

遺物は周溝内から出土しており、縄文土器2点を掲載した(a 966・967)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b～9式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

#### A 235～238・251・252号竪穴建物

(第1-110～112・166・167図、第2-90・91・379・382図、写真図版161～163・339・340・523・524)

II B 17 c～19 dグリッドに位置する。検出面はIII層下位～IV層で、II B 17 c・18 bグリッド西側で石列を検出した為、配石もしくは竪穴建物の可能性を想定して精査を行った。また、その東側についてはA 235号竪穴建物以外は壁面は確認できなかったが、複数の炉が検出された為、竪穴建物が重複しているものと想定して精査を行った。多数の遺構が重複関係にあり、新旧関係はA 252号竪穴建物→A 251号竪穴建物→A 235号竪穴建物→302・305号土坑→A 236号竪穴建物→A 237号竪穴建物→A 238号竪穴建物、282号土坑である。その他、A 237・238号竪穴建物は255～258号土坑とも重複しているが、これらとの新旧関係は不明である。

A 235号竪穴建物は、III層下位～IV層で黒褐色の円形プランとして検出した。平面形は円形で、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐～褐色土が主体で、自然堆積である。

床面施設として西壁付近で複式炉1基を検出した。前庭部を有する複式炉で、石組の外径は75×55cmの長方形である。炉内には燃焼部焼土は検出されなかった。前庭部は石組の掘り方と一連で掘削されており、東壁は若干壁面より外側に出ている。前庭部は平面形が110×65cmの長方形で、深さは約24cmである。石組の構築方法は、前庭部と合わせて浅い土坑状の掘り込みを掘削した後に壁面より若干内側に炉石を立て並べている。炉内は床面より若干低い位置にあるが、炉内と前庭部の底面はほぼ同じ高さである。その他に周溝3条と柱穴5個を検出した。周溝のうち溝3は壁面から床面中央に向かって伸びており、間仕切り状となっている。柱穴は、P 01～05が主柱穴で五角形の柱配置になると考えられる。

遺物は床面直上、柱穴、堆積土中から出土しており、縄文土器4点と石器2点、台形土器1点、土器片円盤4点を掲載した(a 952～955、c 1242・1243、f 5、g 51～54)。なお、床面直上北側で大型の板石が出土しているが、使用痕は無く用途については不明である。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階～10式古段階主体であることから、中期後～末葉の構築・使用と考えられる。

A 236号竪穴建物は、A 235号竪穴建物の西側で石列を検出し、周辺を精査した結果石列を有する竪穴建物と認定した。石列周辺の壁面が若干残存しているのみであるが、柱穴の配置から平面形は

楕円形と考えられ、後述するように複数の柱配置が考えられることから建て替え・拡張を行っていた可能性がある。壁面は、石列の背面では緩やかに外傾しながら立ち上がる。石列周辺に残る堆積土は黒褐色土であるが、堆積の様相は不明である。

床面施設として柱穴 19 個を検出した。柱配置は 3 案が想定されることから少なくとも 2 回の建て替え・拡張が行われていた可能性がある。南西方向に規模を拡張していったと考ええると、構築段階である第一段階は最も規模が小さい P 01～05 で、五角形の柱配置となる。第二段階は P 06～12 で、七角形の柱配置となる。第三段階は P 02・09・10・12～16 で壁面付近を巡る八角形の柱配置になると考えられる。その他に石列 1 列を検出した。壁面に沿って 6 個の板状礫・角礫が北東-南西方向に直線的に並べられており、石は直立あるいは内側に傾斜している。石列は位置関係から第二段階または第三段階の柱配置に伴うものであり、壁面を保護する目的で設置されたと考えられる。使用された石材は、花崗岩と頁岩である。

遺物は柱穴と堆積土中から出土しており、縄文土器 2 点を掲載した（a 956・957）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木 8 b 式新段階を主体とするが、先行して構築されている A 235 号竪穴建物との重複関係から中期後～末葉の構築・使用と考えられる。

A 237 号竪穴建物は、Ⅲ層下位～Ⅳ層で 2 列の石列が併行した状態で検出されたため、その周辺の精査を行った結果石列を有する竪穴建物であると判断した。精査中は A 238 号竪穴建物の石列も本遺構に伴うと考えていたが、室内整理の段階で接地面の高さが異なることと柱配置から 2 軒に分離した。壁面が存在したと考えられる石列の北西側も堆積土と同時に掘り下げてしまったため、石列と柱穴配置からの推定になるが、平面形は円形と考えられる。壁面は残存していないが、石列の背面の状況から外方に開きながら立ち上がっていたと考えられる。床面は、Ⅳ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体であるが、堆積の様相は不明である。

床面施設として柱穴 6 個を検出した。P 01～06 は主柱穴で、六角形の柱配置になると考えられる。その他に石列 1 列を検出した。壁面に沿って 8 個の大型の板状礫・角礫が北東-南西方向にわずかに弧状に並べられており、石は直立あるいは壁面側に傾斜している。礫の隙間には裏込めと考えられる小型の礫も検出されている。A 236 号竪穴建物の石列と同じく、壁面を保護する目的で設置されたと考えられる。使用された石材は、花崗岩と頁岩である。

遺物は柱穴と堆積土中から出土しており、縄文土器 3 点を掲載した（a 958～960）。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木 8 b 式を主体とするが、先行する竪穴建物との重複関係から中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 238 号竪穴建物は、大部分が A 237 号竪穴建物に壊されており、壁面が存在したと考えられる石列の北西側も堆積土と同時に掘り下げてしまったため、石列と柱穴配置からの推定になるが、平面形は円形と考えられる。壁面は残存していないが、壁面形状は不明である。床面はⅣ層を平坦に整えており、A 237 号竪穴建物よりも本遺構のほうが若干高い位置にある。石列付近に残存していた堆積土は黒褐色土であるが、堆積の様相は不明である。

床面施設として柱穴 12 個を検出した。このうち P 01～03・05～08・10～12 が壁面際を巡る壁柱穴になると考えられる。なお、P 03・04、P 09・10 が隣接しており、この部分では柱の取り換えを行っていた可能性がある。その他に石列 1 列を検出した。壁面に沿って 9 個の大型の板状礫・角礫が北東-南西方向に直線的に並べられており、石は直立あるいは内側に傾斜している。礫の隙間には裏込めと考えられる小型の礫も検出されている。A 236・237 号竪穴建物の石列と同じく壁面を保護

する目的で設置されたと考えられるが、石は床面より浮いた位置で検出されていることから設置方法は不明である。使用された石材は、花崗岩と頁岩である。

遺物は柱穴と堆積土中から出土しており、石器1点を掲載した（c 1244）。出土土器は縄文土器の小破片のみであるが、A 237号竪穴建物とはほぼ同時期のものである。

本遺構は炉は確認されていないが住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが、先行するA 237号竪穴建物との重複関係から中期末葉の構築・使用と考えられる。

A 251号竪穴建物は、A 235～237号竪穴建物の精査中に炉を検出し、柱穴の検出状況から竪穴建物と認定した。炉を中心とした柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は、IV層を平坦に整えている。

床面施設として中央で石囲炉1基を検出した。石組は外径95×60cmの長方形と考えられるが、東壁は小型の礫のみであり、西壁では炉石は確認できなかった。炉内中央で柱穴を1個検出したが、炉との新旧関係は不明である。また、炉内で燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴13個を検出した。このうちP 01～05・08・11が主柱穴で、七角形の柱配置になると考えられる。なお、P 08とP 11にはそれぞれ3個の柱穴が重複関係にあり、この部分では柱の取り換えが行われていた可能性がある。

遺物は炉周辺の堆積土中から出土しており、縄文土器1点と土器片円盤1点を掲載した（a 970、g 56）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後～末葉の構築・使用と考えられる。

A 252号竪穴建物は、A 251号竪穴建物の東側で炉を検出し、柱穴の分布状況から竪穴建物と認定した。炉を中心とした柱穴配置から平面形は円形と考えられる。北壁面がわずかに残存しているのみで、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は、IV層を平坦に整えている。

床面施設として中央やや北寄りで石囲炉1基を検出した。石組は外径70×45cmの長方形であるが、南壁は炉内に倒れ込んでおり、南西・南東側の炉石は確認できなかった。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉の周辺には黒褐色土等を充填しており、炉内は床面より若干高い位置にある。その他に柱穴を6個検出した。P 01～06は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが主柱穴で六角形の柱配置になると考えられる。

遺物は堆積土中から出土しており、縄文土器2点を掲載した（a 973・974）。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木8b式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

#### A 241・253号竪穴建物

（第1-113図、写真図版165）

II B 17 d～18 f グリッドに位置する。検出面はIV層で、周辺の竪穴建物の精査中に石囲炉を検出し、柱穴の検出状況から竪穴建物と認定した。複数の土坑と重複関係にあり、新旧関係はA 253号竪穴建物→A 235号竪穴建物、310号土坑→A 240号竪穴建物→A 234号竪穴建物、299・301号土坑である。この他、302・308号土坑とも重複しているが、これらとの新旧関係は不明である。

A 241号竪穴建物は、A 234号竪穴建物南西側で検出された炉を中心とし、柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は、IV層を平坦に整えている。



床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は外径53×40cmの長方形であるが、南・北壁は炉内に倒れ込んでおり、西壁の炉石は確認できなかった。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉の周辺には暗褐色にぶい黄褐色土を充填しており、炉内は床面より若干高い位置にある。その他に柱穴を11個検出した。P 01・02・04～06・08～10を主柱穴とする八角形と、P 02・03・06・07・10・11を主柱穴とする六角形の柱配置が考えられ、建て替え・拡張が行われた可能性がある。ただし、いずれの柱配置でも規模がほとんど変わらない為先後関係は不明である。

遺物は柱穴や炉周辺の堆積土中から少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 253号竪穴建物は、A 235号竪穴建物南東側で検出された炉を中心とし、柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は、IV層を平坦に整えている。

床面施設として中央やや東寄りで石囲炉1基を検出したが、石組の西側はA 241号竪穴建物構築時に壊されており遺存状況は悪い。石組は、長軸70cmの楕円形と考えられる。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。その他に柱穴6個を検出した。P 01～06は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが主柱穴で六角形の柱配置になると考えられる。

遺物は柱穴から少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが、他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

#### A 242・243号竪穴建物

(第1-114・167図、第2-91図、写真図版165・166・340)

II A 20 x ~ 21 y グリッドに位置する。検出面はII～III層で、石囲炉と周溝を検出したことから竪穴建物として認定した。この範囲はII層が厚く、両建物ともII層を掘り込んで構築されていたと考えられる。ただし、明瞭な壁面が確認できなかったことから周辺のII層とともに堆積土を床面付近まで掘り下げたため、堆積土の記録ができなかった。新旧関係はA 243号竪穴建物→A 242号竪穴建物である。この他、259・262号土坑とも重複しているが、これらとの新旧関係は不明である。

A 242号竪穴建物は、炉と周溝・柱穴の配置から平面形は円形と考えられる。壁面は西壁がわずかに残存しているのみで、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面はIV層を平坦に整えており、南東側に向かって若干傾斜している。なお、A 243号竪穴建物の床面と高低差はほとんど無い。

床面施設として南東側で複式炉1基を検出した。二室構造の複式炉で、壁面に近い南東側が前室になる。石組は前室が外径65×50cm、後室が外径45×45cmで、数字の8の字に近い形状の長方形であるが、前室の南東壁は炉石が確認できなかった。前室・後室とも燃焼部焼土は検出されなかった。前室の掘り方は浅い楕円形で、壁面に炉石を立て並べている。一方、後室には掘り方は無いが、設置する部分を掘り込んで炉石を設置した後に内部に黒褐色土を充填して床面と同じ高さになっている。その他に周溝1条と柱穴6個を検出した。柱穴のうちP 01～06は主柱穴で、六角形の柱配置になると考えられる。

遺物は炉の周辺と柱穴から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 968)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後～末葉の構築・使用と考えられる。

A 243号竪穴建物は、炉と周溝・柱穴の配置から平面形は東西に長い楕円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面はIV層を平坦に整えており、南東側に向かって若干傾斜している。

床面施設として南東側で複式炉1基を検出した。二室構造の複式炉で、壁面に近い南東側が前室になる。石組は前室が外径70×83cmの長方形、後室が外径50×70cmで北壁側が弧状となる。中央の仕切り石は後室に向かって傾いていた。炉内では燃焼部焼土は検出されていないが、後室では中央で埋設土器1基を検出した。掘り方は楕円形の土坑状プランとして確認したが、前室では先に南壁を設置する部分を深く掘り込み、その後で後室にかけて掘り込んでいる。後室は前室より一段深く掘り込まれており、底部を切断した深鉢を正位で設置している。炉内は底面に段差があり、前室は建物床面と同じ高さであるが後室は一段高くなっている。なお、北壁の炉石は掘り方の上面に設置されていることから、後室は当初土器埋設炉であったものを後に石囲炉に作り替えた可能性がある。

遺物は複式炉の後室と柱穴から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 969)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいがA 242号竪穴建物との重複関係から中期後～末葉の構築・使用と考えられる。

#### A 244～247号竪穴建物

(第1-115・167図、第291図、写真図版166・167・340)

II A 19 x～II B 19 aグリッドに位置する。検出面はIV層で、石囲炉を複数検出したことから竪穴建物が重複していると想定して精査を行った。この範囲はII層が厚く、いずれの建物もII層を掘り込んで構築されていたと考えられる。ただし、明瞭な壁面が確認できなかったことからII層とともに堆積土を床面付近まで掘り下げてしまった為、堆積土の記録ができなかった。複数の土坑と重複関係にあり、新旧関係は283号土坑→A 247号竪穴建物→A 246号竪穴建物→A 245号竪穴建物→A 244号竪穴建物、311号土坑である。

A 244号竪穴建物は、II A 19 xグリッドで検出した炉を中心とし、柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は、IV層を平坦に整えている。

床面施設として中央北東寄り石囲炉1基を検出した。石組は長軸75cmの楕円形と考えられるが、南半部の炉石は確認できなかった。また、炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉の周辺には暗褐～にぶい黄褐色土を充填しているが、明確な掘り方は無い。その他に柱穴6個を検出した。P 01～06は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが主柱穴で六角形の柱配置になると考えられる。

遺物は炉の周辺と柱穴から出土しており、縄文土器1点を掲載した(a 970)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器が大木9式新段階であることから中期後葉の構築・使用と考えられる。

A 245号竪穴建物は、II A 19 yグリッド西側で検出した炉を中心とし、柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は、IV層を平坦に整えている。

床面施設として中央南寄りで石囲炉1基を検出した。石組は外径55×55cmの方形と考えられるが、南・西側の炉石は確認できなかった。また、炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。なお、炉石の確認できなかった部分は不整形に掘り込まれており、抜き取りが行われた可能性もある。その他に柱

穴7個を検出した。P 01～07は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが主柱穴で七角形の柱配置になると考えられる。

遺物は柱穴から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 246号竪穴建物は、II A 19 y グリッド東側で検出した炉を中心とし、柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面はIV層を削り出し、炉の周辺は黒褐色土を15cm程度充填して構築している。なお、炉の南東側は緩やかに傾斜している。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は外径58×55cmの方形と考えられるが、西・東側の炉石は確認できなかった。燃焼部焼土は炉内北壁付近に位置し、19×12cmの楕円形で、被熱深度は約2cmである。その他に柱穴6個を検出した。P 01～06は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが主柱穴で六角形の柱配置になると考えられる。

遺物は柱穴から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 247号竪穴建物は、II A 19 y グリッド南側で検出した炉を中心とし、柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面は、IV層を平坦に整えている。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は大型の石材が使用されているが、炉内に倒れ込んでおり平面形と規模は不明である。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。石の直下には不整形な掘り込みが確認されているが、これが掘り方になるかは不明である。その他に柱穴7個を検出した。P 01～07は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが主柱穴で七角形の柱配置になると考えられる。

遺物は柱穴から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが、大木7b式土器が出土した283号土坑を切り、大木9式新段階の土器が出土したA 244号竪穴建物に切られることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

#### A 248～250号竪穴建物

(第1-116・167図、第2-91図、写真図版168・169・340)

II A 17 x～II B 18 a グリッドに位置する。検出面はIV層で、石囲炉を複数検出したことから竪穴建物が重複していると想定して精査を行った。この範囲はII層が厚く、いずれの建物もII層を掘り込んで構築されていたと考えられる。ただし、明瞭な壁面が確認できなかったことからII層とともに堆積土を床面付近まで掘り下げてしまった為、堆積土の記録ができなかった。多数の土坑や柱穴と重複関係にあり、新旧関係は285・288・292号土坑、P 5371・5372・5432・5433→A 250号竪穴建物→A 249号竪穴建物→A 248号竪穴建物→289号土坑、P 5318・6495・6520・6526である。このうちA 249号竪穴建物とA 250号竪穴建物は直接的な重複関係が無い為、時期は同時あるいは逆になる可能性もある。なお、A 250号竪穴建物は17・18号溝と重複関係にあるが、これらとの新旧関係は不明である。

A 248号竪穴建物は、II A 18 x グリッド南側で検出した炉を中心とし、柱穴配置から平面形は楕円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面はIV層を平坦に整えており、南東側に向かって若干傾斜している。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は、外径70×63cmの不整形長方形である。燃焼部焼土は炉内中央やや南寄りに位置し、26×26cmの円形で、被熱深度は約2cmである。ただし、熱変成は弱く焼土の色調は暗い。掘り方は炉石の設置部分を深く掘り込んでいるが、平面・断面形とも不整形である。炉石は掘り方底面より若干高い位置に据えられ、地山由来のふい黄褐色土を充填している。その他に柱穴7個を検出した。P 01～07は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが主柱穴で七角形の柱配置になると考えられる。

遺物は炉や柱穴から出土しており、縄文土器2点を掲載した(a 971・972)。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土土器は大木8 b式主体であることから中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

A 249号竪穴建物は、II A 18 x グリッド北側で検出した炉を中心とし、柱穴配置から平面形は楕円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面はIV層を平坦に整えているが、北側の柱穴付近では微弱な段差が確認されている。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は、外径95×77cmの楕円形である。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。炉内は床面と同じ高さであり、炉石を設置する部分のみ掘り込んでいる。その他に柱穴7個を検出した。P 01～07は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが主柱穴で七角形の柱配置になると考えられる。

遺物は、柱穴や炉内堆積土から縄文土器の破片が出土している。図示できたものは無いが、A 248号竪穴建物と同じく大木8 b式の破片が確認できる。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが、大木8 a式土器が出土した288号土坑を切り、大木8 b式土器が出土したA 248号竪穴建物に切られることから、中期中葉の構築・使用と考えられる。

A 250号竪穴建物は、II A 17 y グリッド南東側で検出した炉を中心とし、柱穴配置から平面形は円形と考えられる。壁面が残存していない為、壁面形状・堆積の様相は不明である。床面はIV層を平坦に整えているが、床面中央付近では微弱な段差がある。

床面施設として中央付近で石囲炉1基を検出した。石組は外径62×60cmの楕円形であるが、南東側の炉石が無く開口している。炉内では燃焼部焼土は検出されなかった。掘り方は炉石の設置部分を深く掘り込んでいるが、平面・断面形とも不整形である。南東側開口部付近では掘り方底面付近で水平に設置された礫が検出されているが、炉に直接伴うものかは不明である。その他に柱穴7個を検出した。P 01～07は壁面に沿って巡るが、建物の規模が小さいことからこれらが主柱穴で七角形の柱配置になると考えられる。

遺物は炉や柱穴から縄文土器の破片が少量出土しているが、図示できたものは無い。

本遺構は住居として使用された竪穴建物であり、出土遺物は乏しいが他遺構との重複関係から中期中～後葉の構築・使用と考えられる。

(村田)

第4表 堅穴建物 (縄文時代) 一覧 (1)

遺構名	グロッド	時期	規模(m)			仰・段上	土器		出土遺物重量(g)		台形	円盤
			長軸	短軸	深さ		土器	石器	石製品	土製品		
A1号堅穴建物	ⅡB24k	中期後葉	4(0)	2.7	0.65	石階×1	49,369.6	1,833.2	0.0	0.0	0.0	145.5
A2号堅穴建物	ⅡB24i	中期中～後	(2.6)	(0.8)	0.35	(無し)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A3号堅穴建物	ⅡE00	中期後葉	(4.6)	3.0	0.30	石階×1	17,150	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A4号堅穴建物	ⅡE20k	中期後葉	(4.5)	(0.8)	0.40	石階×1	2,524.6	3.4	0.0	4.4	0.0	0.0
A5号堅穴建物	ⅡB16l	中期中～後	(5.8)	(2.6)	0.25	石階×1	18,778.5	2,812.7	0.0	0.0	0.0	0.0
A6号堅穴建物	ⅡE23k	中期中葉	(4.1)	0.0	0.45	石階×1	6,434.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A7号堅穴建物	ⅡE23i	中期中葉	(4.7)	(3.9)	0.25	(無し)	417.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A8号堅穴建物	ⅡB17i	中期中葉	(2.4)	(2.0)	0.25	(無し)	1,411.5	158.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A9号堅穴建物	ⅡB16j	中期後葉	(5.5)	(2.5)	0.25	石階×1	371.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.2
A10号堅穴建物	ⅡB17k	中期後葉	(5.0)	3.4	0.40	地床×1 (石階×1)	4,384.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A11号堅穴建物	ⅡB17j	中期末	(4.3)	(3.5)	0.30	儀式中(石籠)×1	1,288	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A12号堅穴建物	ⅡB18j	中期中葉	4.2	3.2	0.20	石階×1	300.5	966.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A13号堅穴建物	ⅡB15k	不明	(4.5)	(4.4)	-	石階×1	1,852.1	32.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A14号堅穴建物	ⅡB18h	中期中以前	(6.8)	(6.2)	0.20	石階×1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A15号堅穴建物	ⅡE21i	前期	(2.1)	(1.6)	0.25	(無し)	1,169	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A16号堅穴建物	ⅡB21k	前期末	(4.5)	(1.6)	0.30	(無し)	11,139	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A17号堅穴建物	ⅡE00j	前期末～中期前	(6.7)	(4.0)	0.25	(無し)	29,436	1,135.7	0.0	0.0	0.0	0.0
A18号堅穴建物	ⅡE21j	中期中～後	(5.6)	(4.0)	0.30	石階×1	991.8	4,216.7	0.0	0.0	0.0	0.0
A19号堅穴建物	ⅡE21k	中期中～後	5.1	(4.1)	0.30	(無し)		0.0	0.0	0.0	0.0	7.7
A20号堅穴建物	ⅡE21a	中期中～後	(5.5)	4.2	0.40	地床×2	3,497.2	3,306.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A21号堅穴建物	ⅡB17i	中期末以降	(3.3)	(2.9)	0.20	石階×1 (儀式中)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A22号堅穴建物	ⅡE22i	不明	(3.4)	(0.7)	0.10	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A23号堅穴建物	ⅡE23i	中期中葉	(1.4)	(1.0)	0.13	(無し)	300.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A24号堅穴建物	ⅡE23k	中期中葉	4.0	(2.6)	0.25	(無し)	296.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A25号堅穴建物	ⅡB16k	中期後葉	(4.2)	(3.9)	0.15	石階×2	1,532.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A26号堅穴建物	ⅡB16g	中期中以前	(2.5)	(2.2)	0.20	儀式中(石籠)×1	330.1	827.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A27号堅穴建物	ⅡB15h	中期末	(5.0)	(3.7)	0.50	儀式中(石籠)×1	8,680.4	0.8	0.0	15.4	0.0	26.6
A28号堅穴建物	ⅡB15i	中期末	(2.1)	(1.9)	0.15	石階×1	41,680	0.0	0.0	0.0	0.0	16.5
A29号堅穴建物	ⅡB15j	中期中葉	(3.5)	(2.9)	0.40	(無し)	296.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A30号堅穴建物	ⅡB19i	中期後葉	(6.0)	(5.6)	0.15	石階×1	801.3	833.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A31号堅穴建物	ⅡB19j	中期中以前	(4.5)	(4.4)	0.18	石階×1	39.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A32号堅穴建物	ⅡB13i	中期中	(3.3)	(3.1)	0.50	石階×1	9,189.6	16.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A33号堅穴建物	ⅡB16h	中期末	(3.2)	(3.2)	0.15	石階×1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.8
A34号堅穴建物	ⅡB13k	中期後～末	(5.2)	(3.2)	0.90	石階×1	14,287.4	10,297.0	0.0	52.3	0.0	0.0
A35号堅穴建物	ⅡB44	中期中～後	(3.7)	4.9	1.20	石階×1	16,367.4	31,365.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A36号堅穴建物	ⅡB15g	中期後葉	4.2	(3.0)	0.40	石階×1	24,462.1	494.1	0.0	0.5	0.0	15.2
A37号堅穴建物	ⅡB14g	中期末	(4.6)	(2.8)	0.55	石階×1	14,962.2	3,886.2	0.0	0.5	0.0	13.4
A38号堅穴建物	ⅡB13j	中期後葉	(3.2)	(3.0)	0.35	石階×1	4,272.9	0.0	0.0	0.0	0.0	17.0
A39号堅穴建物	ⅡB13i	中期中～後	(3.1)	(1.9)	0.15	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A40号堅穴建物	ⅡB15f	中期後葉	(4.3)	(3.7)	0.25	石階×1	2,581.6	2,966.8	0.0	39.7	0.0	0.0
A41号堅穴建物	ⅡB15e	中期後葉	(4.7)	(4.5)	0.40	石階×1	5,107.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A42号堅穴建物	ⅡB14g	中期中～後	(7.0)	(6.0)	0.75	石階×2	55,440.2	70,927.6	41.8	0.0	0.0	0.0
A43号堅穴建物	ⅡB15g	中期中葉	(3.0)	(3.0)	-	地床×2		0.0	0.0	0.0	0.0	13.8
A44号堅穴建物	ⅡB15g	中期後葉	(4.4)	(3.6)	0.45	石階×2	47,182	5,042.2	13,409.4	52.3	383.7	6.0
A45号堅穴建物	ⅡB15g	中期中～後	(4.9)	(0.7)	-	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A46号堅穴建物	ⅡB15g	中期末以降	(1.7)	(1.2)	0.23	(無し)	9,192.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A47号堅穴建物	ⅡB14i	中期中葉	(1.2)	(1.0)	0.45	(無し)	1,131.6	9,630	0.0	21.6	0.0	10.6
A48号堅穴建物	ⅡB14a	中期後葉	(4.4)	(3.2)	0.45	(無し)	3,836.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A49号堅穴建物	ⅡE7c	中期中～後	(4.0)	(2.0)	0.60	(無し)	230.5	2,545.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A50号堅穴建物	ⅡB7i	後新石器	2.1	(1.7)	0.75	石階×1	2,302.1	472.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A51号堅穴建物	ⅡB4i	中期後葉	(3.6)	(2.2)	0.50	(無し)	31,789	4,220.0	792.0	0.0	0.0	0.0
A52号堅穴建物	ⅡB4j	中期後以前	(2.7)	(0.7)	0.28	(無し)	1,257.3	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0
A53号堅穴建物	ⅡB15i	中期後葉	(4.2)	(3.9)	0.32	石階×1	17,800.0	3,380.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A54号堅穴建物	ⅡB4h	中期後葉	(3.9)	(2.4)	0.45	地床×1	3,721.1	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0
A55号堅穴建物	ⅡB4h	中期後葉	(5.1)	(3.6)	0.65	石階×1	1,552.7	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A56号堅穴建物	ⅡB14j	中期中～後	(3.9)	(3.7)	0.83	地床×2	3,383.9	35.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A57号堅穴建物	ⅡB15i	中期後葉	(3.3)	(2.5)	0.40	石階×1	187.7	0.0	0.0	94.6	0.0	0.0
A58号堅穴建物	ⅡB14f	中期中葉	5.6	3.8	0.45	石階×1	5,173.3	43,829.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A59号堅穴建物	ⅡB15f	中期末	(3.4)	(3.3)	0.40	石階×1	640.3	228.4	4.0	0.0	0.0	0.0
A60号堅穴建物	ⅡB14h	中期中葉	(3.4)	(2.9)	0.30	(無し)	3,093.4	142.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A61号堅穴建物	ⅡB13d	中期中～後	(3.2)	(1.8)	0.25	(無し)	533.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A62号堅穴建物	ⅡB15e	前期末	(4.5)	(3.0)	0.30	(無し)	784.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A63号堅穴建物	ⅡB15f	前期末以前	(2.5)	(0.8)	0.40	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A64号堅穴建物	ⅡB14e	中期中以前	2.4	(2.2)	0.41	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A65号堅穴建物	ⅡB14i	中期中以前	(2.5)	(0.7)	0.33	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

検出遺構との重複関係(右側が新しい)	備考	本文 頁	平面 No.
A2号型穴建物→○	一部調査区外へ見びる	25	13
○→A1号型穴建物	一部調査区外へ見びる	25	13
A4・15-16-20号型穴建物→○→1号土坑		25	14
A15-16-17-19-20号型穴建物→○→A3号型穴建物		25	14
A8号型穴建物→○		28	18
A7-24号型穴建物→○		29	19
○→A6-24号型穴建物	A22-23号型穴建物の新旧関係は不明	29	19
○→A5-10号型穴建物, 1号溝	A10号型穴建物との新旧関係は不明	28	18
A10号型穴建物→○→A11号型穴建物		30	21
A8-25号型穴建物→○→A9号型穴建物	機土両側の石積み取り方の可能性ある穴あり	30	21
A9-10号型穴建物→○→A21号型穴建物	A12号型穴建物との新旧関係は不明	30	21
A14-31号型穴建物→○→A12号型穴建物	A11号型穴建物との新旧関係は不明	31	24
A25号型穴建物→○→1号溝		32	25
A31号型穴建物→○→A12-30号型穴建物	A11-21号型穴建物との新旧関係は不明	31	24
○→A3・4・16-20号型穴建物, 1号土坑	建て替え・拡張の可能性有	25	14
A15号型穴建物→○→A3・17-20号型穴建物	建て替え・拡張の可能性有	25	14
A16号型穴建物→○→A4・20号型穴建物	建て替え・拡張の可能性有	25	14
A19-20号型穴建物→○	建て替え・拡張の可能性有	25	14
A20号型穴建物→○→A18号型穴建物		25	14
A16-17号型穴建物→○→A3・4・18-19号型穴建物	北壁と西壁に石列, 建て替え・拡張の可能性有	25	14
A11号型穴建物→○	A14号型穴建物との新旧関係は不明	30	21
A7-23号型穴建物と重複するが新旧関係は不明		29	19
A7-22-24号型穴建物と重複するが新旧関係は不明		29	19
A7号型穴建物→○→A6号型穴建物	A29号型穴建物との新旧関係は不明	29	19
○→A9-10-13号型穴建物, 1号溝		30	21
○→3号土坑		33	26
A28-33号型穴建物→○		33	26
A27-29号型穴建物→○		33	26
○→A28号型穴建物		33	26
A14-31号型穴建物→○		34	28
○→A14-30号型穴建物		34	28
A29-65号型穴建物, 35-53号土坑→○→A28号型穴建物		35	29
○→A27号型穴建物, 3号土坑, 2号溝		33	26
A54-60-65号型穴建物, 28-31号土坑→○→11号土坑		36	29
54-56-58-60-62-64-65号土坑→○→A6号型穴建物, 12号印		37	30
○→A27号型穴建物		38	31
A42号型穴建物→○		38	32
A29-56-80号型穴建物→○→A32号型穴建物		35	29
35-53号土坑→○→A32-38号型穴建物	A65号型穴建物との新旧関係は不明	35	29
A41-42-38-59-62-63号型穴建物→○		38	32
A42-43-44-45-63-22号型穴建物→○→A36-40-39-22号型穴建物		38	32
A43-58-62号型穴建物, 47-64号土坑→○→A37-40-41-44号型穴建物		38	32
○→A41-42-44号型穴建物		38	32
A42-43-45号型穴建物→○→A41-59号型穴建物, 3-34-39-40号土坑		38	32
○→A36-41-44-59号型穴建物, 34-39-40号土坑		38	32
A44-45号型穴建物→○		38	32
57号土坑→○		38	32
A35号型穴建物→○→A58号型穴建物		37	30
41号土坑→○→A50号型穴建物		42	37
A49号型穴建物, 41号土坑→○		42	37
A52-56-65-66号型穴建物→○→A53-57-60号型穴建物, 55号土坑		43	38
○→A51-53-56-57号型穴建物		43	38
A51-55-57号型穴建物, 55号土坑→○→A29-36号型穴建物, 13号溝, 1号土塀施設遺構		43	38
A42-56号型穴建物→○→A60号型穴建物		45	40
A54号型穴建物→○→A36号型穴建物	A42号型穴建物の新旧関係は不明	45	40
A52-66号型穴建物, 50号土坑→○→A38-51号型穴建物, 34号土坑		43	38
A51-527号型穴建物→○→A33号型穴建物, 55号土坑		43	38
A62号型穴建物→○→A40-42号型穴建物, 47号土坑		38	32
A41-44-45-22号型穴建物→○→A36-40-22号型穴建物		38	32
A60号型穴建物→○→A54-55号型穴建物	埋設土器×1	45	40
63号土坑→○→89-106-108号土坑		43	37
A63号型穴建物→○→A40-42-58号型穴建物, 52号土坑		38	32
○→A42-62号型穴建物		38	32
65号土坑→○→58号土坑		37	30
A66号型穴建物→○→A51-54号型穴建物		43	38

第4表 堅穴建物 (縄文時代) 一覧 (2)

遺構名	グランド	時期	規模(m)			仰・竪上	出土遺物重量(g)					
			長軸	短軸	深さ		土器	石器	石製品	土製品	合計	内訳
A66号堅穴建物	B114	中期中以前	1.8	0.9	0.42	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A67号堅穴建物	B113m	中期中～後	7.5	5.9	0.41	石円形×1	7,333.3	31.5	75.1	0.0	0.0	0.0
A68号堅穴建物	B113	中期中～後	3.5	2.1	0.50	(無し)	6,070.4	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A69号堅穴建物	B113	中期中～後	5.5	4.9	0.45	楕円形×1	2,078.6	530.4	11.1	0.0	0.0	0.0
A70号堅穴建物	B113a	中期中～後	5.9	4.9	0.53	楕円形×1	9,135.1	1,068.7	0.0	0.0	0.0	0.0
A71号堅穴建物	B113	中期中～後	2.4	0.7	0.63	(無し)	575.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A72号堅穴建物	B113a	中期中～後	4.4	3.0	0.38	(無し)	15,077.2	1,750.8	0.0	0.0	0.0	8.1
A73号堅穴建物	B113m	中期中～後	5.2	4.4	0.63	楕円形×1	1,213.9	85.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A74号堅穴建物	B113m	中期中葉	3.9	3.4	0.44	楕円形×1	2,437.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A75号堅穴建物	B113	中期中～後	2.9	2.8	0.46	石円形×1 楕円形×1	6,857.4	891.3	0.0	19.4	0.0	0.0
A76号堅穴建物	B113a	中期中～後	6.1	5.1	0.49	石円形×1	11,787.7	1,314.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A77号堅穴建物	B113a	中期中～後	4.2	2.6	0.21	石円形×1	6,375.9	0.0	165.0	0.0	0.0	0.0
A78号堅穴建物	B113a	中期中～後	5.2	2.8	0.37	石円形×1	7,936.5	322.2	29.0	0.0	0.0	0.0
A79号堅穴建物	B113a	中期前葉	1.8	1.5	0.27	(無し)	2,265.7	318.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A80号堅穴建物	B113a	中期前葉	4.2	2.3	0.29	(無し)	1,573.2	316.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A81号堅穴建物	B113a	中期中～後	4.6	3.6	0.16	石円形×1	776.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A82号堅穴建物	B112b	中期後葉	4.5	3.2	0.30	楕円形(石籠・土器)×1	811.3	1,877.5	0.0	0.5	0.0	0.0
A83号堅穴建物	B113c	中期後～末	2.7	2.6	0.63	石円形×1	4,438.1	1,386.5	0.0	35.9	0.0	0.0
A84号堅穴建物	B112d	中期中～後	4.4	3.6	0.60	石円形×1	5,248.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A85号堅穴建物	B112b	中期中～後	6.5	5.8	0.61	(無し)	28,252.8	3,621.1	0.0	16.7	0.0	0.0
A86号堅穴建物	B112c	中期中～後	4.6	3.6	0.45	石円形×1	9,212.5	0.0	989.6	0.0	0.0	0.0
A87号堅穴建物	B112c	中期中～後	3.7	3.2	0.25	楕円形×1	8,815.9	12,264.0	41.7	0.0	0.0	0.0
A88号堅穴建物	B112c	中期中～後	5.4	4.3	0.37	石円形×2			0.0	0.0	0.0	0.0
A89号堅穴建物	B112c	中期中～後	3.8	3.6	-	楕円形×1			0.0	7.8	0.0	0.0
A90号堅穴建物	B113b	中期中～後	6.3	4.7	0.25	(無し)	11,861.2	307.2	0.0	6.7	0.0	0.0
A91号堅穴建物	B114c	中期中葉	3.1	2.2	0.29	楕円形×1	3,017.7	1,479.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A92号堅穴建物	B114a	中期	3.5	2.8	0.35	(無し)	447.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A93号堅穴建物	B115a	中期	4.5	4.1	0.62	石円形×1	2,484.3	14,267.9	0.0	0.0	0.0	9.5
A94号堅穴建物	B113d	前期末	3.2	2.9	-	(無し)	432.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A95号堅穴建物	B114c	中期中葉	2.6	2.5	0.38	石円形×1	3,671.0	863.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A96号堅穴建物	B115a	中期	4.5	3.2	0.28	楕円形×1	454.0	0.0	101.9	0.0	0.0	0.0
A97号堅穴建物	B114c	中期中葉	2.5	2.5	0.26	石円形×1	2,679.6	1,972.4	0.0	13.2	0.0	8.8
A98号堅穴建物	B112y	不明	3.2	1.7	0.15	楕円形×1	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A99号堅穴建物	B113b	中期中～後	6.3	5.8	0.35	(無し)	14,163.3	3,286.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A100号堅穴建物	B114c	中期中葉	2.5	1.6	0.43	(無し)	3,587.2	5,216.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A101号堅穴建物	B114c	中期後葉	3.6	1.7	0.18	(無し)	2,637.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A102号堅穴建物	B114b	中期後葉	2.5	1.3	0.17	(無し)	1,156.1	4,488.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A103号堅穴建物	B114c	中期中以前	3.1	0.9	0.16	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A104号堅穴建物	B112b	中期中葉	3.9	1.4	0.16	(無し)	355.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A105号堅穴建物	B110a	中期末	5.6	5.0	0.63	楕円形(石籠)×1	6,330.3	8,230.2	0.0	0.0	0.0	17.9
A106号堅穴建物	B110a	中期末以前	3.7	1.0	0.30	(無し)	2,764.9	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0
A107号堅穴建物	B10c	中期末	4.5	3.4	0.50	(無し)	5,010.1	3,549.0	2.6	2.1	0.0	0.0
A108号堅穴建物	B10d	中期末	6.2	2.3	0.55	(無し)	2,689.1	17,876.1	0.0	0.0	0.0	3.9
A109号堅穴建物	B10c	中期中～後	7.7	6.5	0.70	楕円形(石籠)×1	59,183.9	6,200.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A110号堅穴建物	B110f	中期中葉	4.8	4.5	0.50	楕円形(石籠)×1	13,015.9	5,859.8	0.0	0.0	0.0	16.3
A111号堅穴建物	B10c	中期中葉	4.9	3.2	0.60	不明×1	36,655.8	5,089.4	0.0	0.0	0.0	45.2
A112号堅穴建物	B110a	中期中葉	5.7	5.0	0.35	石円形×1	17,119.5	5,784.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A113号堅穴建物	B111w	中期後葉	4.4	3.7	0.25	石円形×1	70,154.0	11,220.5	0.0	6.4	0.0	15.4
A114号堅穴建物	B112w	中期中葉	4.8	4.3	0.20	石円形×1	61,362.1	27,317.9	53.6	0.0	0.0	23.4
A115号堅穴建物	B113c	中期後以前	2.2	1.9	0.18	(無し)	318.1	323.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A116号堅穴建物	B10b	中期中～後	6.0	4.5	0.68	楕円形×2	165,518.9	3,965.5	1,587.1	0.0	114.5	53.9
A117号堅穴建物	B10c	中期中～後	7.1	6.3	0.55	楕円形(石籠・土器)×1	19,890.8	4,325.6	0.0	0.0	0.0	17.4
A118号堅穴建物	B10f	中期末	5.0	1.5	0.50	(無し)	4,877.7	888.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A119号堅穴建物	B10f	中期末以前	5.1	1.6	0.30	(無し)	336.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A120号堅穴建物	B112b	中期中葉	3.9	3.3	0.35	楕円形(石籠・土器)×1	6,578.6	4,365.9	1,983.6	0.0	0.0	0.0
A121号堅穴建物	B112b	中期前葉	3.5	3.3	0.56	石円形×1 楕円形×1	845.3	663.6	0.0	0.0	0.0	0.0
A122号堅穴建物	B10c	中期中葉	4.4	4.0	0.60	石円形×1	67,391.0	2,061.1	32.1	38.4	0.0	0.0
A123号堅穴建物	B10d	中期後葉	6.0	3.0	0.38	(無し)	5,396.4	1,741.1	0.6	0.0	0.0	6.6
A124号堅穴建物	B10c	中期中～後	5.9	5.4	0.70	石円形×1	8,878.0	1,806.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A125号堅穴建物	B10c	中期中～後	5.3	3.8	0.57	石円形×1 楕円形×1	36,651.1	18,720.4	0.0	0.0	0.0	27.2
A126号堅穴建物	B110b	中期中～後	6.2	4.9	0.52	楕円形×4	22,221.1	1,847.7	25.7	2.3	0.0	0.0
A127号堅穴建物	B110b	中期中～後	6.2	3.9	0.78	楕円形×3	37,912.5	4,086.7	11.1	10.6	0.0	0.0
A128号堅穴建物	B10d	中期前～中	2.5	2.3	0.06	(無し)	1,117.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A129号堅穴建物	B10w	中期中葉	5.5	5.0	0.40	石円形×1	7,062.9	1,788.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A130号堅穴建物	B10a	中期中葉	5.2	2.9	0.46	石円形×1	2,421.1	91.1	0.0	0.0	0.0	0.0

検出構との重複関係(右側が新しい)	備考	本文 No.	平面 No.
○→A32-51-56-65号型穴建物		43	38
A68-69-70-73-74号型穴建物→○		46	41
A71号型穴建物→○→A67-69号型穴建物		46	41
A68-71-73-75号型穴建物→○→A67-76-77号型穴建物		48	44
○→A67号型穴建物		46	41
A78号型穴建物→○→A68-69号型穴建物		48	44
A79号型穴建物,71号土坑→○→A78号型穴建物		48	44
A74号型穴建物→○→A67号型穴建物	A75号型穴建物との新旧関係は不明	46	41
○→A67-74号型穴建物		46	41
A81号型穴建物→○→A75-76-77号型穴建物	A81号型穴建物の造り替え後か	48	44
A69-75-80-81号型穴建物→○→A77号型穴建物		48	44
A76-80-81号型穴建物→○		48	44
A72-79-80号型穴建物,73号土坑→○→A71号型穴建物,71号土坑		48	44
A80号型穴建物→○→A72-78号型穴建物,73号土坑		48	44
○→A37-76-77-78-79号型穴建物		48	44
74号土坑→○→A75-76-77号型穴建物	A75号型穴建物の造り替え前か	48	44
A85-90-99-104号型穴建物→○		50	47
A85-88-94号型穴建物→○		52	49
A87-88-94号型穴建物,93-100-102号土坑→○→A86号型穴建物		52	49
A86-88-90-99号型穴建物→○→A82号型穴建物		50	47
A84-87-88-89号型穴建物→○→A83-85号型穴建物		52	49
A88-89号型穴建物→○→A86号型穴建物		52	49
A94号型穴建物→○→A83-84-85-86-87号型穴建物	同一地点での造り替え	52	49
A94号型穴建物,100号土坑→○→A83-84-86-87号型穴建物	A88号型穴建物との新旧関係は不明	52	49
A99号型穴建物→○→A82-85号型穴建物,92号土坑		50	47
A95-97号型穴建物,P3071→○→103号土坑		55	51
○→96号土坑,P3038		55	51
A90号型穴建物,97号土坑→○		56	52
○→A83-84-88-89号型穴建物		52	49
A92号型穴建物→○→A91号型穴建物,P2041-2042-2052-2053		55	51
○→A93号型穴建物,P8053-6169-6171		56	52
112号土坑→○→A90-95号型穴建物,P2041-2042-2052-2053		55	51
(無し)		52	48
119号土坑→○→A82-80-90-102号型穴建物,92-107号土坑		50	47
A101-103号型穴建物→○→56-109号土坑,P2056-3077-3078		57	53
A100-103号型穴建物→○→56号土坑,P2056-3077		57	53
A99号型穴建物→○		57	53
○→A100-101号型穴建物,56号土坑,P2078		57	53
○→A82号型穴建物		50	47
A106号型穴建物,118-138-145号土坑→○→36号土坑		58	54
○→A105号型穴建物		58	54
142-167号土坑→○		59	55
A123号型穴建物→○→136-166号土坑,14号中,2号機上		59	56
18-19号機上,A172号型穴建物→○→5号溝		61	59
A111-112号型穴建物→○→119号土坑,5-11号溝		62	60
○→A110号型穴建物		62	60
○→A110号型穴建物		62	60
A120-171-180-181-190号型穴建物→○→A161号型穴建物		63	61
○→A154-180号型穴建物		63	61
(無し)		65	63
○→A122号型穴建物		65	63
A128号型穴建物,171号土坑→○→A124号型穴建物,B11号型穴建物,130-154号土坑		58	56
A119号型穴建物,131号土坑→○		66	64
22号土坑→○→A118号型穴建物		66	64
A121-178号型穴建物→○→A144号型穴建物	焼失原因か	67	65
○→A120-144号型穴建物		67	65
A116号型穴建物,109号土坑→○		72	71
A117-124号型穴建物,171号土坑→○→A108号型穴建物		58	56
A117号型穴建物→○		58	56
A146-149-162-175-188号型穴建物→○		73	72
A127-173-174-177号型穴建物→○→A132-139-148号型穴建物		67	65
A127-152-153-173-177-196号型穴建物→○→A126-132-139-148号型穴建物	建て替え・拡張	67	65
○→A117号型穴建物		58	56
A188号型穴建物→○→A136-137-145-187-192号型穴建物		75	75
○→A182号型穴建物		77	78



第4表 堅穴建物 (縄文時代) 一覧 (3)

遺構名	グリード	時期	規模(m)			仰・段上	土器		出土遺物重量(g)		台形	円盤
			長軸	短軸	深さ		土器	石器	石製品	土製品		
A131号堅穴建物	E A8v	中期前期	3.8	3.8	0.18	石製×1	5,302	4631	0.0	0.0	0.0	0.0
A132号堅穴建物	E B10a	中期後葉	3.8	2.8	0.68	床土×1	36,805	6,266.1	0.0	0.0	803.3	17.8
A133号堅穴建物	E B10g	中期末葉	4.3	1.9	-	(無し)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A134号堅穴建物	E B10d	前期末	5.1	2.6	0.30	(無し)	3,077.4	6,068.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A135号堅穴建物	E A6x	中期～後	7.1	2.7	0.50	石製×1	27,329.9	35,796.7	51.0	0.0	0.0	0.0
A136号堅穴建物	E A7v	中期中葉	5.0	4.0	0.30	床土×2	19,612.3	1,893.6	0.0	1.2	0.0	0.0
A137号堅穴建物	E A7v	中期後葉	6.4	4.3	0.50	石製×1	30,833.2	21,821.2	67.3	0.0	0.0	0.0
A138号堅穴建物	E A8u	中期前期	4.5	3.2	0.50	床土×1	11,347.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A139号堅穴建物	E B10a	中期～後	6.4	3.6	0.20	石製×1	15,387.5	7,094.5	417.4	1.36	0.0	0.0
A140号堅穴建物	E B7b	中期後葉	5.0	4.5	0.35	床土×1	25,292.3	1,288.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A141号堅穴建物	E B8b	中期～後	4.0	2.6	0.50	(無し)	24,829.7	2,414.7	8.2	0.0	0.0	0.0
A142号堅穴建物	E B8b	中期前期	4.5	4.4	0.18	床土×2		73.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A143号堅穴建物	E B8g	不明	2.9	1.9	0.30	(無し)	43.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A144号堅穴建物	E B11a	中期～後	4.4	2.8	0.14	床土×1	1,394.4	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A145号堅穴建物	E A7w	中期中葉	3.6	3.0	0.30	甌式(石籠・床土)×1 床土×1	21,936.3	528.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A146号堅穴建物	E B7a	中期～後	4.2	3.5	0.35	石製×1	11,915.7	7,332.6	0.0	0.0	0.0	0.0
A147号堅穴建物	E B8	中期～後	2.3	2.2	0.55	(無し)	29,476	1,961.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A148号堅穴建物	E B10a	中期～後	3.2	3.1	0.44	石製×1	10,312.6	2,410.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A149号堅穴建物	E A7y	前期末	4.2	2.9	0.40	床土×1	726.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A150号堅穴建物	E A5x	中期～後	3.7	1.4	0.67	(無し)	7,499.5	2,575.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A151号堅穴建物	E A9x	中期後葉	7.5	6.5	0.60	石製×2	108,283.5	21,162.2	95.4	4.3	0.0	71.1
A152号堅穴建物	E B9a	中期前期	4.6	2.2	0.43	床土×1	10,458.1	618.8	0.0	6.6	0.0	0.0
A153号堅穴建物	E B9b	中期前期	4.5	4.2	0.42	甌式(石籠・床土)×1 床土×2	5,574.4	4,644.1	0.0	0.0	0.0	21.8
A154号堅穴建物	E A12w	中期中葉	6.3	4.7	0.48	甌式(石籠・土器)×1	6,801.9	3,989.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A155号堅穴建物	E A5x	中期～後	5.7	3.0	0.30	石製×1, 床土×1	851.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A156号堅穴建物	E B7g	不明	4.1	1.5	0.80	(無し)	641.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A157号堅穴建物	E A10y	中期～後	6.5	3.9	0.35	石製×1	22,119.6	5,527.4	0.0	0.0	0.0	7.3
A158号堅穴建物	E A11y	中期～後	6.8	3.0	0.32	石製×1, 床土×1	13,075.0	3,667.7	8.2	0.0	0.0	16.4
A159号堅穴建物	E A11y	前期末	3.2	2.4	0.18	床土×1	15,497.1	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A160号堅穴建物	E B9a	中期～後	5.8	4.4	0.45	石製×1?	21,562.2	3,522.0	0.0	41.1	0.0	0.0
A161号堅穴建物	E A10x	中期～後	3.9	2.6	0.30	石製×1	6,532.1	7,444.2	0.0	188.4	0.0	0.0
A162号堅穴建物	E A8y	前期末～中 期前	9.5	4.0	0.60	(無し)	36,554.9	4,273.9	0.0	863.5	0.0	14.5
A163号堅穴建物	E A9w	中期～後	6.7	2.3	0.60	(無し)	26,593.2	1,409.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A164号堅穴建物	E A10x	中期～後	3.9	3.4	0.50	(無し)	14,034.7	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A165号堅穴建物	E B7b	不明	3.3	2.1	0.90	(無し)	3,333.7	498.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A166号堅穴建物	E A10y	中期～後	5.2	3.6	0.45	床土×1	5,188.8	1,440.1	189.2	0.0	0.0	0.0
A167号堅穴建物	E A9x	中期～後	6.5	5.2	0.35	甌式(石籠・床土)×1 石製×1	32,082.9	3,668.1	0.0	0.0	0.0	17.5
A168号堅穴建物	E B7m	不明	4.8	3.4	0.65	(無し)	77.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A169号堅穴建物	E B7b	中期～後	4.5	4.3	0.35	石製×1	8,103.0	5,449.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A170号堅穴建物	E A10x	中期中葉	6.5	4.9	0.50	床土×2	61,232.8	11,300.2	25	127.1	0.0	0.0
A171号堅穴建物	E A10x	中期中葉	4.1	2.4	0.10	甌式(石籠・床土)×1		2,547.0	0.0	37	0.0	0.0
A172号堅穴建物	E A8w	前期前～中	5.4	4.5	0.45	石製×1, 床土×1	12,932.1	5,247.3	0.0	28.9	0.0	0.0
A173号堅穴建物	E B10a	中期～後	4.3	3.3	0.30	床土×1	7,642.7	1,088.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A174号堅穴建物	E B11a	前期末	4.0	3.0	0.20	石製×2, 床土×1	2,472.8	14.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A175号堅穴建物	E A7y	中期前期	4.5	2.1	0.45	(無し)	9,299.0	626.8	0.0	0.0	0.0	0.0
A176号堅穴建物	E A9w	中期～後	6.0	3.8	0.30	(無し)	9,514.4	1,296.3	0.0	0.0	0.0	0.0
A177号堅穴建物	E B10a	中期～後	1.7	0.8	0.15	(無し)	1,671.5	18.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A178号堅穴建物	E B11a	前期末	2.6	2.9	0.37	床土×1	1,382.3	1,311.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A179号堅穴建物	E A10x	中期～後	5.7	3.8	0.60	床土×2	37,037.0	8,192.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A180号堅穴建物	E A11w	中期～後	4.8	4.5	0.55	(無し)	4,011.6	3,969.9	0.0	0.0	0.0	0.0
A181号堅穴建物	E A10w	中期中葉	4.6	4.5	0.40	石製×1, 床土×1	7,576.4	3,214.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A182号堅穴建物	E B4a	中期中葉	6.2	5.2	0.20	床土×1	3,822.5	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0
A183号堅穴建物	E A10x	中期中葉	4.4	2.3	0.45	(無し)	4,597.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A184号堅穴建物	E B5b	中期中葉	2.4	2.0	0.35	床土×2	351.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A185号堅穴建物	E A10v	中期中葉	6.9	2.0	0.25	石製×1	2,962.0	2,209.5	0.0	0.0	0.0	0.0
A186号堅穴建物	E A8w	中期前期	4.5	3.7	0.55	石製×1	12,466.6	581.4	0.0	0.0	0.0	0.0
A187号堅穴建物	E A6x	中期～後	4.4	4.0	0.24	石製×1	26,084.0	10,670.3	0.0	25.5	0.0	0.0
A188号堅穴建物	E A6x	中期前期	4.5	4.1	0.25	石製×1	43,100.2	7,055.2	0.0	1.0	0.0	0.0
A189号堅穴建物	E A6x	中期中葉	3.4	2.4	0.30	(無し)	5,779.6	2,227	0.0	0.0	0.0	0.0
A190号堅穴建物	E A10x	中期中葉	4.8	4.2	0.22	床土×2	5,962.8	2,397.3	0.0	50.6	0.0	0.0
A191号堅穴建物	E A6y	前期末	4.5	4.1	0.23	(無し)	2,501.1	312.2	0.0	0.0	0.0	0.0
A192号堅穴建物	E A7v	中期～後	4.9	3.2	0.45	石製×1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A193号堅穴建物	E A8x	中期～後	6.2	4.7	0.35	(無し)	15,717.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A194号堅穴建物	E B8g	中期前～中	2.6	1.9	0.50	(無し)	336.5	625.3	0.0	0.0	0.0	0.0

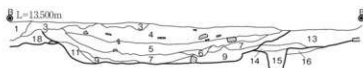
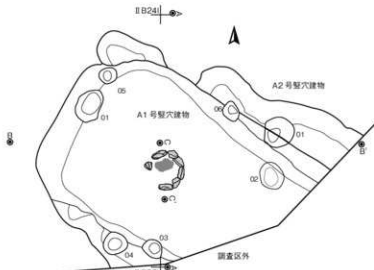
検出遺構との重複関係(右側が新しい)	備考	本文 頁	平面 No.
A136-138号型穴建物→○	横船出上(華官庫第6番)	75	75
A139-148号型穴建物→○		67	65
○→150号土坑		58	54
190-217号土坑→○		72	71
A190号型穴建物,184号土坑→○→B16号型穴建物,1号鎮治印	建て替え・拡張の可能性有	78	79
A129-131-172号型穴建物→○→A137-193号型穴建物		75	75
A129-136-192号型穴建物→○→B9号型穴建物,146号土坑,17号礎土		75	75
○→B9号型穴建物,17号礎土		75	75
A126-127-157-173-177号型穴建物→○→A132-148号型穴建物	焼失家屋か	67	65
A141-142-169号型穴建物,223号土坑→○→15号印,5号溝	今は土器埋没印の抜き取り後のものか	79	80
A142-149号型穴建物→○→A140号型穴建物,139-141号土坑		79	80
223号土坑,13号礎上→○→A140-141-169号型穴建物,15号印,5号溝		79	80
○→160-161号土坑		78	78
A130-121-173-178号型穴建物→○	定額写真無し	67	65
A129号型穴建物→○→A187-188号型穴建物		75	75
○→A125号型穴建物,8-9-10号礎上		82	82
186号土坑→○→163-177号土坑,7号溝		78	78
A126-127-139号型穴建物→○→A132号型穴建物		67	65
○→A125-162-175号型穴建物		81	81
224-312号土坑→○→A135号型穴建物,B16号型穴建物,1号鎮治印		78	79
A127-139-157-166-167-179号型穴建物→○	横船出上(華官庫第6番)	82	83
A153号型穴建物→○→A127-151号型穴建物		67	65
○→A127-152号型穴建物		67	65
A114号型穴建物,200-201号土坑→○→A180号型穴建物		63	61
A194号型穴建物,4号礎上→○→A139-150号型穴建物		78	79
187号土坑→○→A165号型穴建物,188号土坑		87	87
A166-167-170-171号型穴建物→○→A151-161号型穴建物		82	83
A169号型穴建物→○→A157号型穴建物		82	83
○→A158号型穴建物		82	65
○→A189号型穴建物	17号印は埋藏土中に設置された屋外か	87	88
A157-171号型穴建物→○		82	61
221号土坑→○→A149号型穴建物,5号溝	大塚住居の可能性有	73	72
A164-170-176-179号型穴建物→○		88	89
A181-183-185号型穴建物→○→A163号型穴建物		88	89
A156号型穴建物,195-203号土坑→○→186号土坑		87	87
A190号型穴建物→○→A151-157-167号型穴建物		82	83
A157-166-170-190号型穴建物→○→A151号型穴建物		82	83
196号土坑→○		88	88
A142号型穴建物→○→A140-141号型穴建物,139-141-162-202号土坑,5号溝		79	80
A171-180-190号型穴建物→○→A133-161号型穴建物		82	89
A181-190号型穴建物→○→A157-161-179号型穴建物		82	83
○→A109-136-193号型穴建物		90	92
A174号型穴建物→○→A126-177号型穴建物		67	65
○→A173号型穴建物		67	65
A149号型穴建物→○→A125-162号型穴建物		81	81
A170-171-190号型穴建物→○→A163号型穴建物		88	89
A173号型穴建物→○→A136-139号型穴建物		67	65
○→A120-144-173号型穴建物	焼失家屋か	67	65
A170-171-190号型穴建物→○→A151-167号型穴建物		82	83
A114-154号型穴建物→○→A113-181号型穴建物		63	61
○→A170-171-190号型穴建物		88	89
A184号型穴建物→○		91	93
A181号型穴建物→○→A164号型穴建物		88	89
○→A182号型穴建物		91	93
A181号型穴建物→○		88	89
○→A109-180号型穴建物		90	92
A129-188-189号型穴建物→○→A145号型穴建物		73	72
○→A129-188号型穴建物		73	72
A191号型穴建物→○→A187号型穴建物		73	72
○→A170-171-179号型穴建物		82	83
○→B8号型穴建物		73	72
A129号型穴建物→○→A137-150号型穴建物,189号型穴建物		75	75
A136-172-186号型穴建物→○→A163-176号型穴建物,5号土器埋没遺構		90	92
○→172号土坑		92	94

第4表 堅穴建物 (縄文時代) 一覧 (4)

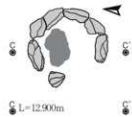
遺構名	グランド	時期	規模(m)			仰・竪上	出土遺物重量(g)						
			長軸	短軸	深さ		土器	石器	石製品	土製品	合計	円盤	
A195号堅穴建物	B195g	中期	(2.3)	(1.6)	0.12	(無し)	426	0	0	0	0	0	0
A196号堅穴建物	B196a	中期～後	(1.4)	(1.1)	0.12	地床 <sup>中</sup> ×1	0	7.6	0	0	0	0	0
A197号堅穴建物	B197a	中期～後	26	22	0.10	石圍 <sup>中</sup> ×1	1,374.8	0	0	0	0	0	0
A198号堅穴建物	B198a	中期	3.2	3.2	0.30	(無し)	212.0	1.6	0	0	0	0	0
A199号堅穴建物	B199d	中期	(1.9)	(1.9)	0.08	竊式 <sup>中</sup> (石籠)×1	383.2	0	0	0	0	0	0
A200号堅穴建物	B199f	中期	(5.9)	5.0	0.12	石圍 <sup>中</sup> ×1	89.4	0	0	0	0	0	0
A201号堅穴建物	B199g	中期～後	4.6	4.4	0.30	石圍 <sup>中</sup> ×1	149,333	0	0	0	0	0	7.3
A202号堅穴建物	B199h	中期	6.2	4.7	0.41	地床 <sup>中</sup> ×2	21,163	0	0	0	0	0	0
A203号堅穴建物	B199i	中期前～中	66.0	33.0	0.41	地床 <sup>中</sup> ×1	237.2	434.2	0	0	0	0	0
A204号堅穴建物	B199j	中期前～中	35	22.9	0.35	(無し)	4,888.0	238.1	0	0	0	0	0
A205号堅穴建物	B199k	中期前～中	(4.5)	(2.0)	0.25	(無し)	0	0	0	0	0	0	0
A206号堅穴建物	B199l	中期前～後	(4.5)	1.7	0.45	(無し)	3,997.9	1,481.2	0	0	0	0	0
A207号堅穴建物	B199m	中期～中	(3.9)	(3.9)	0.20	(無し)	20,499.4	6,947.1	0	0	0	0	0
A208号堅穴建物	B199n	中期	(4.3)	(3.1)	0.55	(無し)	5,749.8	2,600	0	0	0	0	0
A209号堅穴建物	B199o	中期～後	3.4	2.2	0.80	石圍 <sup>中</sup> ×1, 地床 <sup>中</sup> ×1	14,830.7	2,882.1	0	0	0	0	0
A210号堅穴建物	B199p	中期～後	(3.5)	(1.7)	0.70	(無し)	7,411.2	89.7	0	0	0	0	0
A211号堅穴建物	B199q	中期～中	5.9	5.0	0.56	地床 <sup>中</sup> ×2	15,090.4	0	4.5	0	0	0	0
A212号堅穴建物	B199r	中期前～中	(3.5)	(3.5)	0.45	(無し)	712.5	0	0	0	0	0	0
A213号堅穴建物	B199s	中期～後	(2.2)	(2.1)	0.70	地床 <sup>中</sup> ×1	28.1	0	0	0	0	0	0
A214号堅穴建物	B199t	中期～後	(1.9)	(1.9)	0.64	(無し)	1,322.4	0	0	4.3	0	0	0
A215号堅穴建物	B199u	中期	(3.2)	(2.9)	0.55	(無し)	1,273.2	0	0	0	0	0	0
A216号堅穴建物	B199v	中期後葉	(3.5)	(2.1)	0.60	(無し)	1,943.7	11,663.7	0	0	0	0	0
A217号堅穴建物	B199w	不明	(3.4)	(1.0)	0.40	(無し)	103.5	0	0	0	0	0	0
A218号堅穴建物	B199x	中期～後	4.0	3.5	0.20	石圍 <sup>中</sup> ×1	7,193.8	8,388.2	0	0	47.3	0	0
A219号堅穴建物	B199y	中期～後	(4.0)	3.8	0.30	石圍 <sup>中</sup> ×1	3,399.1	3,068.8	0	0	0	0	0
A220号堅穴建物	B199z	中期後葉	5.7	4.2	0.60	竊式 <sup>中</sup> (石籠・土器)×1	35,638.6	11,922.4	17.9	0	0	0	0
A221号堅穴建物	B199aa	中期～後	6.3	(4.3)	0.60	石圍 <sup>中</sup> ×1	22,480.5	5,316.4	0	0	0	0	14.5
A222号堅穴建物	B199ab	中期中葉	(1.6)	(1.3)	-	竊式 <sup>中</sup> (石籠・土器)×1	300.0	0	0	0	0	0	0
A223号堅穴建物	B199ac	中期後葉	(5.0)	(4.2)	0.20	(無し)	6,477.0	918.7	0	0	0	0	0
A224号堅穴建物	B199ad	中期前～中	(4.1)	(3.0)	-	石圍 <sup>中</sup> ?×1	532.3	0	0	0	0	0	0
A225号堅穴建物	B199ae	中期～後	(3.1)	2.9	0.20	(無し)	13,110.7	843.0	0	0	0.4	0	0
A226号堅穴建物	B199af	中期～中	3.6	2.4	0.10	石圍 <sup>中</sup> ×1	477.7	0	0	0	0	0	0
A227号堅穴建物	B199ag	中期前葉	4.1	(1.8)	0.82	(無し)	344.4	0	0	0	0	0	0
A228号堅穴建物	B199ah	中期前～中	(5.6)	(2.0)	0.97	(無し)	0	4.3	0	0	0	0	0
A229号堅穴建物	B199ai	中期前～中	(5.9)	(2.7)	0.92	(無し)	0	0	0	0	0	0	0
A230号堅穴建物	B199aj	中期～後	3.8	(1.5)	0.65	(無し)	0	0	0	0	0	0	0
A231号堅穴建物	B199ak	中期～後	(5.8)	(5.8)	0.25	石圍 <sup>中</sup> ×1	4,804.2	0	0	0	0	0	14.5
A232号堅穴建物	B199al	中期～後	(4.9)	(4.3)	0.10	石圍 <sup>中</sup> ×1		1,284.4	0	0	0	0	0
A233号堅穴建物	B199am	中期～後	(5.1)	(4.8)	0.22	石圍 <sup>中</sup> ×1	18,272.7	0	0	0	0	0	0
A234号堅穴建物	B199an	中期～後	(6.2)	(5.7)	0.26	石圍 <sup>中</sup> ×1		2,229.3	0	0	0	0	0
A235号堅穴建物	B199ao	中期後～末	4.3	3.8	0.30	竊式 <sup>中</sup> (石籠・土坑)×1	23,865.9	2,723.8	0	0	0	136.2	54.9
A236号堅穴建物	B199ap	中期後～末	(5.9)	(4.4)	0.20	(無し)	790.0	4,989.3	0	0	0	0	0
A237号堅穴建物	B199aq	中期末	(6.3)	(6.0)	0.20	(無し)		0	0	0	0	0	0
A238号堅穴建物	B199ar	中期末	(7.2)	(6.5)	-	(無し)	1,524.6	1,706.3	0	0	0	0	0
A239号堅穴建物	B199as	中期～後	(7.0)	(4.9)	0.43	石圍 <sup>中</sup> ×1	2,999.9	337.4	0	0	0	0	10.7
A240号堅穴建物	B199at	中期～後	(4.7)	(4.4)	-	地床 <sup>中</sup> ×1?	2,500.3	8.0	0	0	0	0	0
A241号堅穴建物	B199au	中期～後	(5.7)	(5.7)	-	石圍 <sup>中</sup> ×1	832.3	1,890	0	0	0	0	0
A242号堅穴建物	B199av	中期後～末	(4.9)	(4.7)	0.09	竊式 <sup>中</sup> (石籠)×1	497.4	0	0	0	0	0	0
A243号堅穴建物	B199aw	中期後～末	(5.7)	(5.0)	-	竊式 <sup>中</sup> (石籠)×1	1,860.7	0	0	0	0	0	0
A244号堅穴建物	B199ax	中期後葉	(4.0)	(3.7)	-	石圍 <sup>中</sup> ×1	894.5	0	0	0	0	0	0
A245号堅穴建物	B199ay	中期～後	(3.6)	(3.2)	-	石圍 <sup>中</sup> ×1	141.1	0	0	0	0	0	0
A246号堅穴建物	B199az	中期～後	(3.8)	(3.8)	-	石圍 <sup>中</sup> ×1	534.2	0	0	0	0	0	0
A247号堅穴建物	B199ba	中期～後	(3.4)	(2.9)	-	石圍 <sup>中</sup> ×1	228.1	0	0	0	0	0	0
A248号堅穴建物	B199bb	中期～後	(3.6)	(3.2)	-	石圍 <sup>中</sup> ×1	1,966.8	5.9	0	0	0	0	0
A249号堅穴建物	B199bc	中期～後	(4.8)	(4.2)	-	石圍 <sup>中</sup> ×1	1,292.3	0	0	0	0	0	0
A250号堅穴建物	B199bd	中期～後	(5.2)	(4.9)	-	石圍 <sup>中</sup> ×1	355.4	876.6	0	0	0	0	0
A251号堅穴建物	B199be	中期後～末	(3.9)	(3.6)	-	石圍 <sup>中</sup> ×1	1,147.6	0	0	0	0	0	13.5
A252号堅穴建物	B199bf	中期～後	(3.2)	(3.2)	-	石圍 <sup>中</sup> ×1	990.8	0	0	0	0	0	0
A253号堅穴建物	B199bg	中期～後	(3.2)	(3.2)	-	石圍 <sup>中</sup> ×1	182.6	0	0	0	0	0	0

検出遺構との重複関係(右側が新しい)	備考	本文 頁	平面 No.
○→29-114-116-117号土坑	建て替え・拡張の可能性有	92	94
A198号整穴建物→○→A127-151-167号整穴建物		93	94
A198号整穴建物→○	焼失原因か、炭化材年代測定・炭種測定(準Ⅴ準Ⅰ-3節)	93	94
○→A197号整穴建物		93	94
(無し)		94	95
○→A198号整穴建物		94	96
(無し)		94	95
○→239号土坑		95	97
○→11号溝		95	98
A200号整穴建物、237号土坑→○→A215号整穴建物	A200号整穴建物との新旧関係は不明	95	98
A208-224号整穴建物→○→A204-215号整穴建物、B18号整穴建物、11号溝	A215号整穴建物との新旧関係は不明	95	98
A228-229号整穴建物→○→A207号整穴建物		97	100
A206-211-229-230号整穴建物→○		97	100
A212-222-224号整穴建物、206号土坑→○→A200号整穴建物、B18号整穴建物、11号溝		95	98
A213-214号整穴建物→○		99	102
○→A213-214号整穴建物、234号土坑		99	102
A229号整穴建物→○→A230号整穴建物、248号土坑	構造土器×1(女使用以前に埋め込み)	97	100
○→A208号整穴建物、11号溝		95	98
A214号整穴建物→○→A209号整穴建物		99	102
A210号整穴建物→○→A209-213号整穴建物、234号土坑		99	102
A204-205号整穴建物、237号土坑→○		95	98
○→206号土坑、13号溝	A114号整穴建物との新旧関係は不明	101	103
204号土坑→○→B21号整穴建物		101	103
A219号整穴建物→○→A220号整穴建物		102	104
A221号整穴建物→○→A218号整穴建物		102	104
A218号整穴建物→○	建て替え・拡張	102	104
○→A218-219-220号整穴建物、238-247号土坑、P400	建て替え・拡張	102	104
A214号整穴建物→○→A208号整穴建物、B18号整穴建物		95	98
○→A210-216号整穴建物	A226号整穴建物の柱穴との別開掘ならぬ多く一組で計測	102	104
○→A205-208-222号整穴建物	かど溝周辺のみ検出、石抜き取り	95	98
○→A223号整穴建物		101	103
A223号整穴建物→○→22号軒		102	104
249号土坑→○	A228号整穴建物との新旧関係は不明	97	100
○→A206号整穴建物、252-253号土坑	A227号整穴建物との新旧関係は不明	97	100
○→A206-207-211-230号整穴建物		97	100
A211-229号整穴建物→A206-207号整穴建物		97	100
A232-233-234-239号整穴建物、294-296-309号土坑→○→307号土坑	308号土坑との新旧関係は不明、床面施設出土土器866.0g	104	107
A233-234-239号整穴建物、294-296-309号土坑→○→A231号整穴建物、307号土坑	床面施設出土土器309.8g	104	107
A234号整穴建物、294-296-309号土坑→○→A231-232号整穴建物、307号土坑	床面施設出土土器106.5g	104	107
A260号整穴建物、294-304号土坑→○→A231-233-239号整穴建物、306-307-309号土坑	308-310号土坑との新旧関係は不明、建て替え・拡張、床面施設出土土器163.7g	104	107
○→A236号整穴建物、282-302-305号土坑	A251-253号整穴建物との新旧関係は不明	107	110
A265号整穴建物、302号土坑→○→A217-228号整穴建物、282号土坑	北西側に石河、建て替え・拡張、A251号整穴建物との新旧関係は不明	107	110
A236-251号整穴建物→○→A238号整穴建物	北西側に石河、255-256-257号土坑と14号溝との新旧関係は不明	107	110
A236-237-251号整穴建物→○	北西側に石河、A237号整穴建物の造り替えか	107	110
A234-240号整穴建物、304号土坑→○→A231-232号整穴建物、301-306-307号土坑	A233号整穴建物と297-310号土坑との新旧関係は不明	104	107
○→A231-234-239号整穴建物、301-304-306号土坑	297-310号土坑との新旧関係は不明	104	107
310号土坑→○→A234号整穴建物	A240号整穴建物-310号土坑との新旧関係は不明	109	113
A243号整穴建物→○	259-282号土坑との新旧関係は不明	110	114
○→A242号整穴建物	259-282号土坑との新旧関係は不明	110	114
A245-247号整穴建物→○		111	115
A246号整穴建物→○→A244号整穴建物	A247号整穴建物との新旧関係は不明	111	115
A247号整穴建物→○→A245号整穴建物、311号土坑		111	115
283号土坑→○→A244-246号整穴建物		111	115
A249号整穴建物→○→269号土坑		112	116
288-292号土坑→○→A248号整穴建物		112	116
285号土坑→○	17-18号溝との新旧関係は不明	112	116
○→A236-237-238号整穴建物	A235-232号整穴建物との新旧関係は不明	107	110
○→A251号整穴建物		107	110
○→A235号整穴建物、290号土坑	A241号整穴建物との新旧関係は不明	109	113

A1・2号竪穴建物



A1号竪穴建物



A1・2号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1. I0V R2-1 黒色シルト しまりやや密、粘性やや強 混和物ひとんど無し
  2. I0V R3-3 暗褐色砂質シルト 粘性やや強 潜水地点に深い砂層部に堆積
  3. I0V R2-1-2/2 黒一帯褐色シルト しまりやや密、炭・真砂土少量、土器碎片出土 4層より深い
  4. I0V R3-3 暗褐色シルト しまりやや強 炭・真砂土少量、褐色シルト少量、土器碎片出土
  5. I0V R3-1-2/2 黒褐色シルト 粘性やや強 炭・焼土少量、真砂土少量 本層上に土器等集中廃棄物出土 (調査区外に遺棄)
  6. 75Y R3-2-3/3 黒褐一帯褐色粘質シルト 粘性強 炭少量、焼土やや多い
  7. I0V R1-1-2/2 黒褐色シルト 粘性やや強 5層に類似
  8. I0V R3-2-4/2 黒褐一帯褐色粘質シルト しまりやや強、粘性やや強 炭少量
  9. I0V R3-3 暗褐色砂質シルト 地山砂含む
  10. I0V R2-2 黒褐色シルト 粘性やや強 9層より深い
  11. I0V R3-3-4/3 暗褐一帯褐色粘質シルト 硬面堆積土
  12. I0V R4-4-5/6 褐一帯褐色砂 地山上を使用した掘り方障土
  13. I0V R3-3 暗褐色シルト
  14. I0V R2-2-3/2 暗褐色シルト 炭少量 13層より深い
  15. I0V R3-3 暗褐色シルト しまりやや強、粘性やや強 A2号竪穴建物内堆積土
  16. 75Y R3-3-3/4 暗褐色砂 しまりやや強、粘性強 地山上を使用した床面構築土
  17. I0V R3-3 暗褐色シルト しまりやや強 11層に炭土が真砂土多い
  18. I0V R2-2 黒褐色シルト しまりやや密 真砂土少量 地山砂層層の上に堆積する層
- ※4～12層がA1号竪穴建物、13～16層がA2号竪穴建物堆積土

A1号竪穴建物 (C-C')

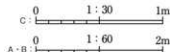
1. I0V R2-3 黒褐色粘質シルト しまりやや強、粘性強
2. 75Y R3-4-4/3 暗褐一帯褐色粘質シルト しまりやや強、粘性強 炭少量 炭性焼土だが熱変成弱い
3. I0V R2-2-3/3 黒褐一帯褐色粘質シルト 粘性やや強 6号掘り方障土

A1号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
PO1	36.9
PO2	18.7
PO3	19.9
PO4	32.0
PO5	20.6
PO6	49.0

A2号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
PO1	74.4



第13図 A1・2号竪穴建物

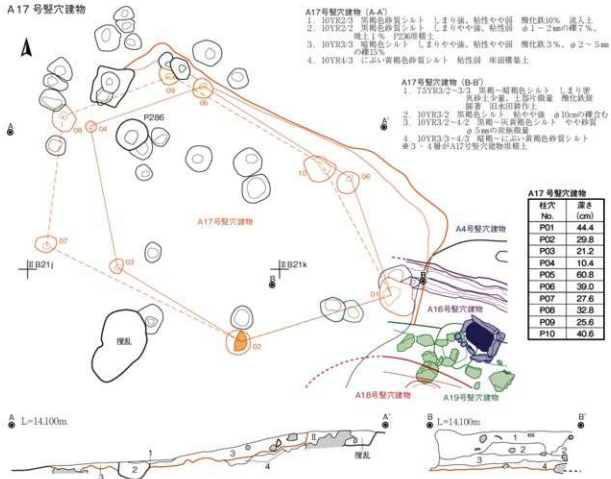




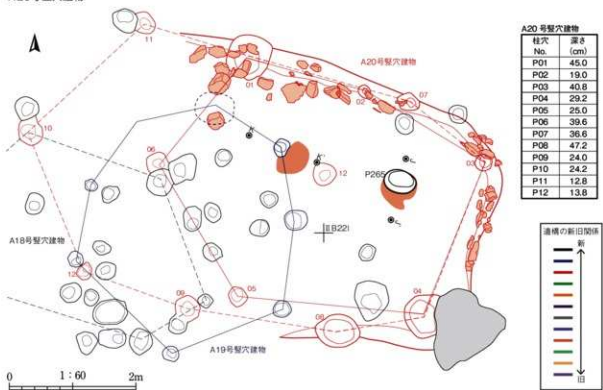




A17号堅穴建物

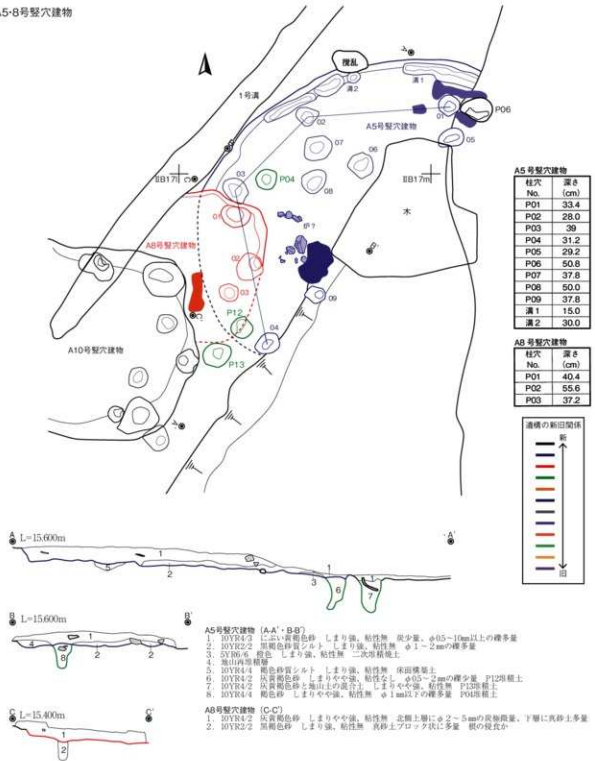


A20号堅穴建物



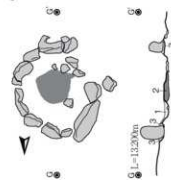
第17図 A3・4・15~20号堅穴建物(4)

A5・8号竪穴建物



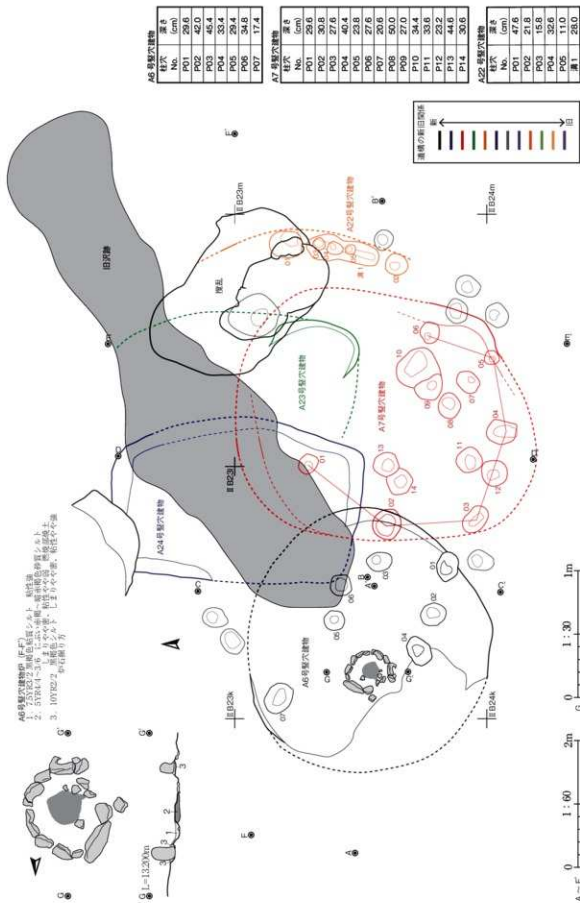
第18図 A5・8号竪穴建物

## A 6・7・22～24号堅穴建物



- 6号堅穴建物(北方向)  
 1. 53782.2 赤褐色瓦葺シタ上、柱状溝  
 2. 53781.4～3.6 1.2mの半圓形環状溝(赤褐色砂質土層)  
 3. 103782.2 赤褐色シタ上、1.1m四方の穴、板状の穴溝  
 4. 53781.4～3.6 赤石積り方

第19図 A 6・7・22～24号堅穴建物(1)



A6号堅穴建物	
柱穴 No.	高さ (cm)
P01	29.6
P02	42.0
P03	45.4
P04	33.4
P05	29.4
P06	34.6
P07	17.4

A7号堅穴建物	
柱穴 No.	高さ (cm)
P01	29.6
P02	30.8
P03	27.6
P04	40.4
P05	23.8
P06	27.6
P07	25.0
P08	50.0
P09	27.0
P10	34.4
P11	33.6
P12	23.2
P13	44.6
P14	30.6

A22号堅穴建物	
柱穴 No.	高さ (cm)
P01	47.6
P02	21.6
P03	15.8
P04	32.6
P05	11.0
溝1	28.0



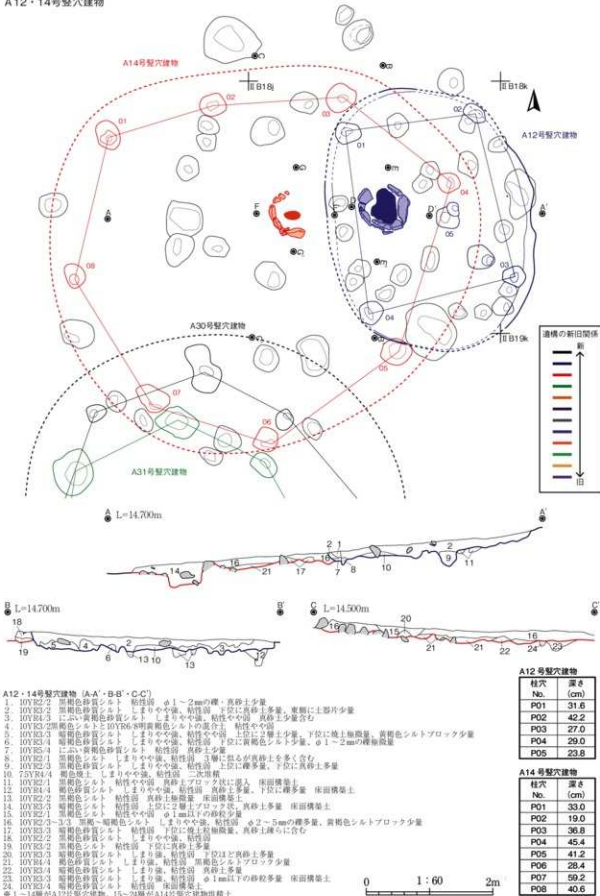








A12・14号竪穴建物

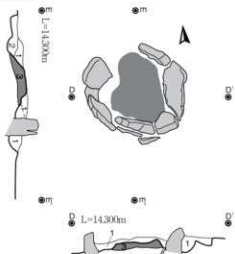


第24図 A12・14号竪穴建物(1)



2 堅穴建物 (縄文時代)

A12号堅穴建物跡



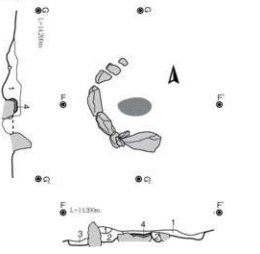
A12号堅穴建物跡 (D-D'・E-E')

1. 10YR3/2 黒褐色砂質シルト しまりやや強、粘性やや弱  $\phi$  5~10mmの黄褐色シルト 1%、 $\phi$  1mmの真砂土粒 10%
2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱  $\phi$  1mm以下の真砂土粒 5%
3. 7.5YR4/4 褐色土 しまりやや強、粘性弱 焼成部焼土 被熱弱い 1層土を採状に5%

A14号堅穴建物跡 (F-F'・G-G')

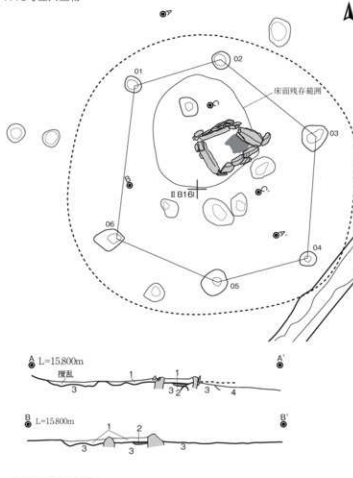
1. 10YR2/2 黒褐色砂質シルト 粘性やや弱  $\phi$  2~5mmの真砂土粒 30%
2. 10YR3/2 暗褐色砂質シルト しまりやや強、粘性やや弱  $\phi$  1~2mmの礫 15%、 $\phi$  1mm以下の真砂土粒 25%
3. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 粘性弱  $\phi$  1mm以下の真砂土粒 15%
4. 5YR3/4 暗赤褐色土 しまりやや強、粘性弱 焼成部焼土だが遺存状況不直

A14号堅穴建物跡



0 1:30 1m

A13号堅穴建物



A13号堅穴建物 (A-A'・B-B')

1. 10YR3/4 暗褐色土シルト 2層上の境界に真砂土粒少量
2. 5YR4/6 赤褐色土シルト 5%の焼成部焼土
3. 10YR3/1 黒褐色土シルト しまりやや強、粘性やや弱 真砂土粒・礫多量
4. 10YR6/6 明黄褐色土砂 粘性弱 真砂土

A13号堅穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
PD1	9.8
PD2	11.4
PD3	26.6
PD4	22.0
PD5	32.2
PD6	41.6

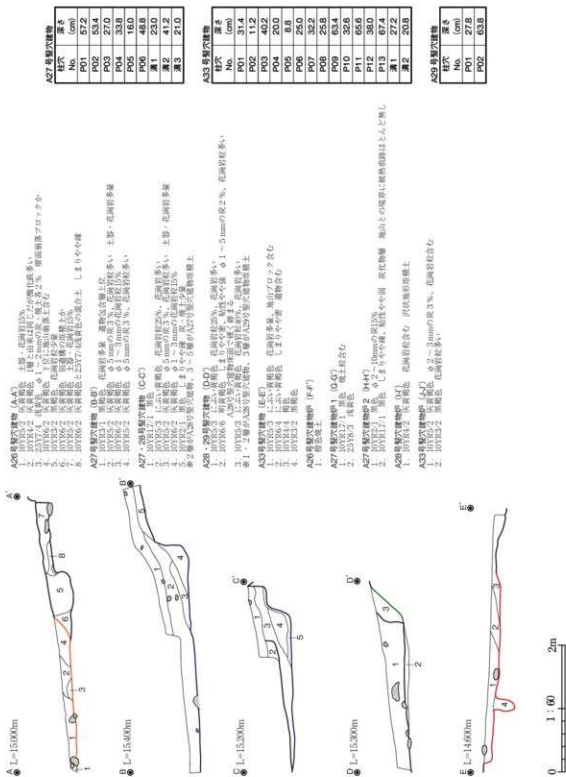
A13号堅穴建物跡 (C-C')

1. 10YR2/2-3 黒褐色シルト
2. 5YR4/6 赤褐色シルト焼土 焼成部焼土
3. 10YR2/3 暗褐色砂質シルト しまりやや強 卵石の混り方
4. 10YR2/1 黒色シルト しまりやや強 真砂土少量含む雨痕状の古い沢
5. 10YR4/6-5/4 黄~黄褐色砂 真砂土層 地山

A・B: 0 1:60 2m C: 0 1:30 1m

第25図 A12・14号堅穴建物(2)、A13号堅穴建物





## A26号堅穴建物 (A-A)

1. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・花綱管5%。  
 2. 10YR4/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 3. 10YR6/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。背面側溝がプロットか。  
 4. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 5. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 6. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 7. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 8. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。

## A27号堅穴建物 (B-B)

1. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 2. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 3. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 4. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。

## A27・28号堅穴建物 (C-C)

1. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 2. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 3. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 4. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 5. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 6. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 7. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 8. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。

## A28・29号堅穴建物 (D-D)

1. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 2. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 3. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 4. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 5. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 6. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 7. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 8. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。

## A30号堅穴建物 (E-E)

1. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 2. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 3. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 4. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。

## A30号堅穴建物 (F-F)

1. 棕色粘土

## A27号堅穴建物① (G-G)

1. 10YR1/1 黒色 硬土粘含有

## A27号堅穴建物② (H-H)

1. 10YR1/1 黒色 硬土粘含有  
 2. 10YR1/1 黒色 硬土粘含有  
 3. 10YR1/1 黒色 硬土粘含有

## A28号堅穴建物 (I-I)

1. 10YR1/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 2. 10YR1/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。

## A30号堅穴建物 (J-J)

1. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。  
 2. 10YR5/2 灰黄褐色 土壁・土床は同じものが覆いかぶさる。

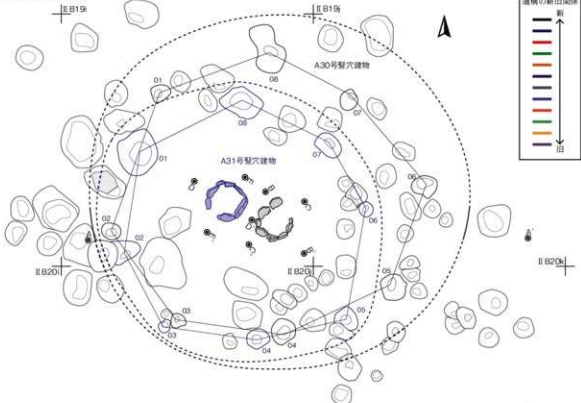
坑次	深さ (cm)
P01	57.2
P02	53.4
P03	27.0
P04	33.8
P05	16.0
溝1	48.8
溝2	23.0
溝3	21.0

坑次	深さ (cm)
P01	31.4
P02	11.2
P03	40.2
P04	20.0
P05	8.8
P06	25.0
P07	23.6
P08	63.4
P10	32.6
P11	66.6
P12	38.0
P13	67.4
溝1	27.2
溝2	20.8

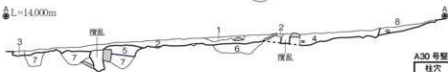
坑次	深さ (cm)
P01	27.8
P02	63.8

第27図 A 26 ~ 29・33号堅穴建物 (2)

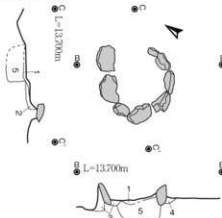
## A30・31号竪穴建物



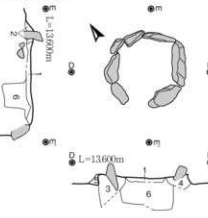
● L=14.000m



## A30号竪穴建物伊



## A31号竪穴建物伊



## A30号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	24.0
P02	29.8
P03	26.4
P04	39.0
P05	36.6
P06	66.0
P07	31.6
P08	56.0

## A31号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	66.2
P02	31.4
P03	26.8
P04	39.8
P05	40.8
P06	28.4
P07	36.4
P08	71.8

## A30・31号竪穴建物 (A-A')

1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや強、粘性强  $\phi 2-5\text{mm}$ の真砂土粒3%
2. 10YR2/1 黒褐色 しまりやや強、粘性强  $\phi 2-5\text{mm}$ の炭1%、 $\phi 1-2\text{mm}$ の焼土3%
3. 10YR3/2 黒褐色 しまり強、粘性强  $\phi 1\text{mm}$ 以下の糞5%
4. 10YR3/2 黒褐色 しまり強、粘性强  $\phi 1-2\text{mm}$ の真砂土粒3%
5. 10YR3/3 暗褐色 しまり土質(3層)暗褐色シルトの混合土 しまりやや強、粘性やや弱  $\phi 2-5\text{mm}$ の糞5%
6. 10YR2/1 黒褐色 しまりやや強、粘性やや弱  $\phi 1-2\text{mm}$ の焼土1%、 $\phi 1-2\text{mm}$ の糞3%
7. 10YR2/2 黒褐色 粘性やや弱  $\phi 2-5\text{mm}$ の炭1%
8. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや強、粘性强  $\phi 2-5\text{mm}$ の真褐色シルト3%

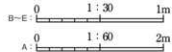
● 1-4層がA30号竪穴建物、5層がA31号竪穴建物用土、6-7層はいつれかの建物の床面積層土。

## A31号竪穴建物伊(D-D'・E-E')

1. 7.5YR3/2 黒褐色 しまりやや強、粘性强  $\phi 1-2\text{mm}$ の焼土5%
2. 7.5YR3/4 暗褐色 しまりやや強、粘性强  $\phi 1\text{mm}$ 以下の焼土3% 砂石混入方積土
3. 7.5YR3/2 黒褐色 しまり強、粘性强  $\phi 1\text{mm}$ 以下の真砂土粒1%
4. 10YR3/4 暗褐色 しまりやや強、粘性やや弱  $\phi 1-2\text{mm}$ の真砂土粒2% 砂石混入方積土
5. 10YR2/3 黒褐色 しまり強、粘性强  $\phi 1\text{mm}$ 以下の糞1%
6. 10YR2/2 黒褐色 しまり強、粘性强  $\phi 1\text{mm}$ 以下の糞1%

## A30号竪穴建物伊(B-B'・C-C')

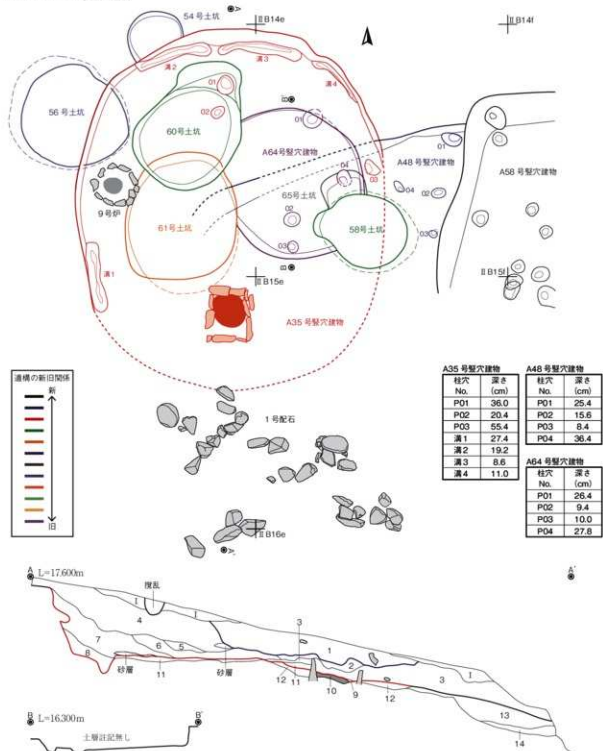
1. 10YR2/2 黒褐色 しまり強、粘性强  $\phi 1-2\text{mm}$ の焼土5%、 $\phi 1\text{mm}$ 以下の真砂土粒7%
2. 10YR2/3 黒褐色 しまりやや強、粘性强  $\phi 1\text{mm}$ 以下の真砂土粒1%
3. 7.5YR2/2 暗褐色 しまりやや強、粘性强  $\phi 1\text{mm}$ 以下の焼土3%
4. 7.5YR3/2 黒褐色 しまり強、粘性强  $\phi 2-5\text{mm}$ の焼土5% 砂石混入方積土
5. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや強、粘性强 真砂土粒3%



第28図 A30・31号竪穴建物



A35・48・64号竪穴建物

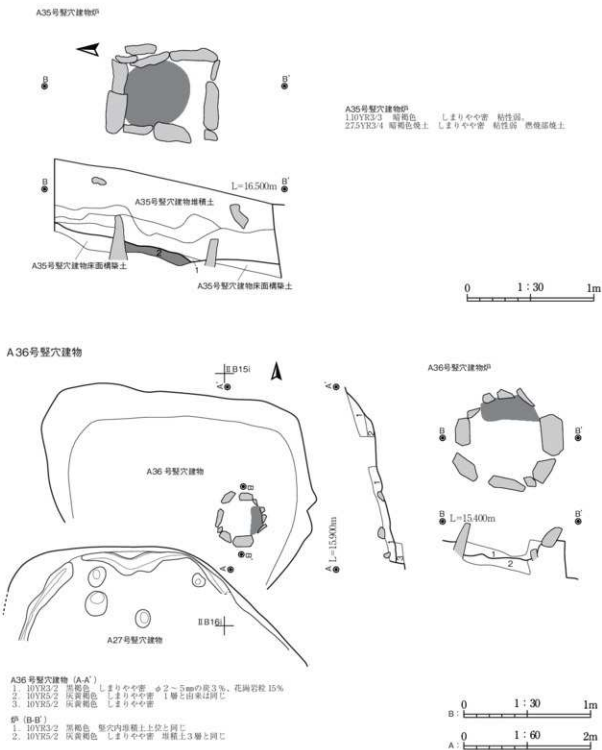


## A35・48号竪穴建物 (A-A')

- 10YR5/1 黒褐色 砂・泥炭粉 25%
  2. 10YR2/2 に近い黄褐色 土層片含む
  3. 10YR6/4 に近い黄褐色 土層片含む
  4. 10YR4/2 に近い黄褐色 しまりやや密、粘性やや強 φ2~10mmの炭・花崗岩物各15% 土器片多量
  5. 10YR2/2 黒褐色 花崗岩粉5%
  6. 10YR5/4 に近い黄褐色 φ1~5mmの炭5% 面積ほど膨大さ
  7. 10YR6/6 明赤褐色 しまりやや密 花崗岩粉多量 基底面層
  8. 10YR2/3 黄褐色と10YR6/2 黄褐色の混合土 地山或人土
  9. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、粘性弱
  10. 7.5YR3/4 暗褐色 しまりやや密、粘性弱 炭粒部露出
  11. 7.5YR7/8 黄褐色粘質土 しまり密、粘性やや強 φ2~5mmの炭2%
  12. 10YR4/2 黄褐色 しまりやや密 φ2~5mmの炭3%、稀少量 上面硬く締まる 炭屑層等
  13. 10YR4/2 黄褐色 しまりやや密 φ2~5mmの炭3%、稀少量 上面硬く締まる 炭屑層等
  14. 10YR5/4 に近い黄褐色 しまりやや密 花崗岩粉3%
- ※1層がA48号竪穴建物、2~12層がA35号竪穴建物堆積土

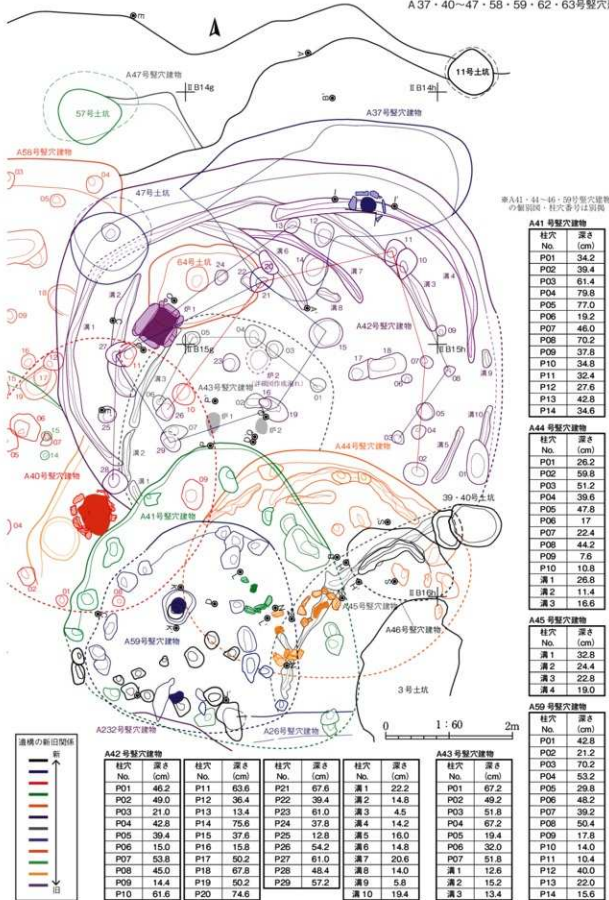
第30図 A35・48・64号竪穴建物 (1)

2 竪穴建物（縄文時代）



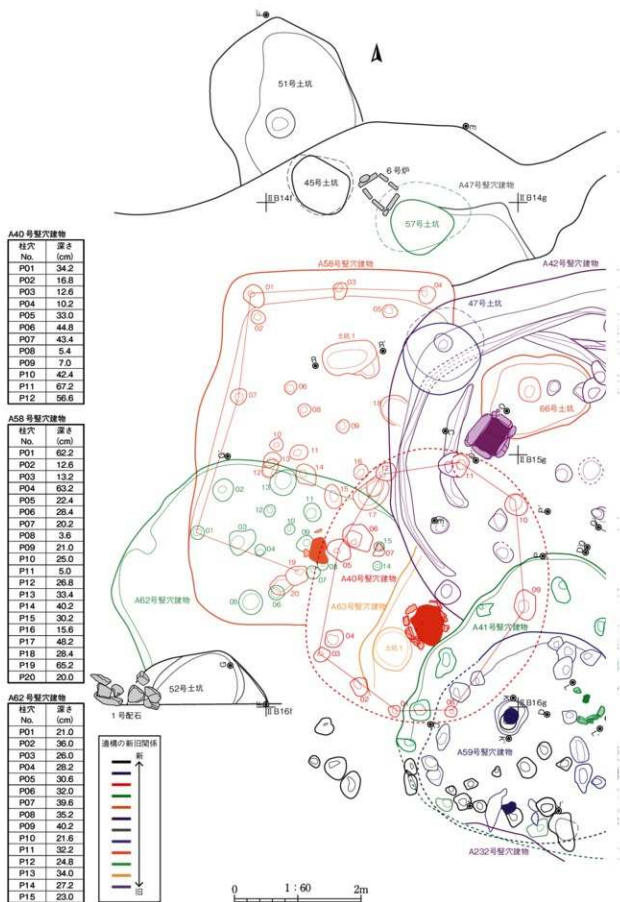
第31図 A35・48・64号竪穴建物(2)、A36号竪穴建物

A37・40~47・58・59・62・63号竪穴建物



第32図 A37・40~47・58・59・62・63号竪穴建物(1)

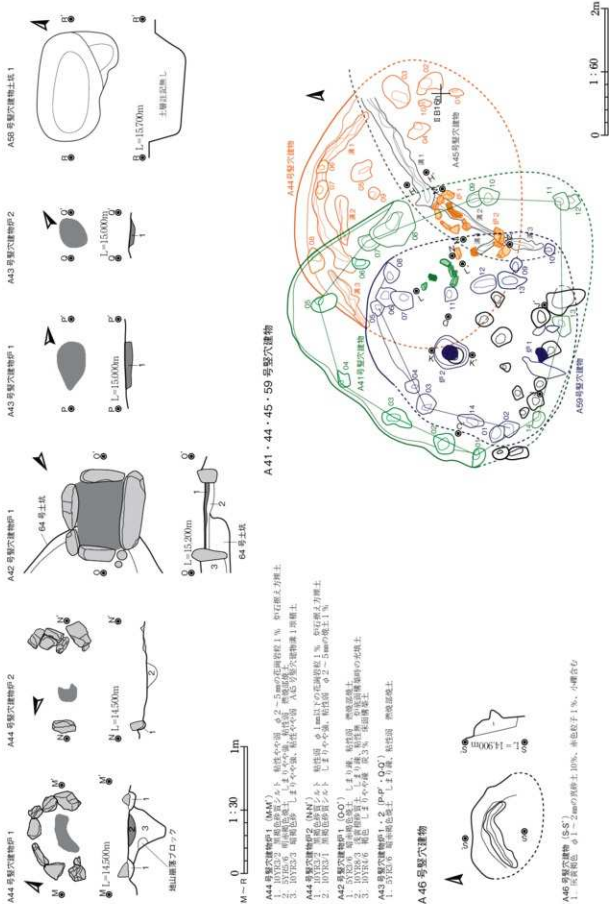




第33図 A 37・40～47・58・59・62・63号竪穴建物(2)



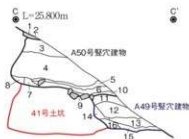
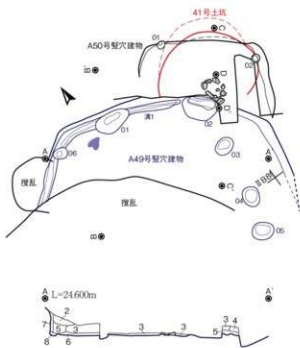




第36図 A 37・40～47・58・59・62・63号竪穴建物(5)

2 堅穴建物 (縄文時代)

A49・50号堅穴建物



A49号堅穴建物 (A-A'・B-B')

1. 25V6/2 灰黄色細砂～粗砂 粘性弱 粗砂～細砂20%
2. 10YR4/1 黒褐色シルト～粘細砂 粘性弱 粗砂～細砂5%, φ5～20mmの炭7%, φ5～10mmの土いり黄褐色焼土ブロック5%
3. 25V6/2 灰黄色細砂～中砂 粘性弱 粗砂～細砂5%, φ5mmの炭1%
4. 25V7/2 灰黄色細砂～中砂 粘性弱 粗砂～細砂2%
5. 10YR3/1 黒褐色シルト～粘細砂 粘性弱 粗砂～細砂1%, φ5～20mmの炭7%, φ5～10mmの灰黄色細砂ブロック10%
6. 25V6/2 灰黄色細砂～中砂 粘性弱 粗砂～細砂2%
7. 10YR3/1 黒褐色シルト～粘細砂 粘性弱 粗砂～細砂1%
8. 25V6/2 灰黄色細砂～中砂 粘性弱 粗砂～細砂2%
9. 7.5YR6/6 棕色シルト 粘細砂～中砂5%, 炭土

A50号堅穴建物 (C-C')

1. 10YR3/1 黒褐色シルト～粘細砂 しまり泥, 粘性弱 粗砂～細砂2%
  2. 10YR8/4 浅黄褐色シルト～粘細砂 粘性弱 粗砂～細砂2%, φ5～10mmの黒褐色シルトブロック3%
  3. 25V6/2 灰黄色細砂～中砂 粘性弱 粗砂～細砂5%, φ5mmの炭1%
  4. 25V7/1 灰白色細砂～中砂 粘性弱 粗砂～細砂7%, φ5mmの炭2%
  5. 10YR6/1 赤灰色粘細砂～中砂 粘性弱 粗砂～細砂2%, φ5～10mmの炭5%
  6. 25V6/2 灰黄色粘細砂～中砂 粘性弱 粗砂～細砂2%
  7. 25V7/3 浅黄色シルト～粘細砂 粘性弱 粗砂～細砂1%
  8. 25V6/3 土いり黄褐色細砂～中砂 粘性弱 粗砂～細砂7%
  9. 10YR3/1 黒褐色シルト～粘細砂 粘性弱 粗砂～細砂3%, φ5～20mmの炭7%, φ5～10mmの炭1%
  10. 25V6/2 灰黄色細砂～粘細砂 粘性弱 粗砂～細砂7%
  11. 25V6/2 灰黄色粘細砂～中砂 粘性弱 粗砂～細砂5%, φ10mmの炭1%
  12. 25V6/2 灰黄色粘細砂～中砂 粘性弱 粗砂～細砂5%, φ5mmの炭1%
  13. 25V6/2 灰黄色粘細砂～中砂 粘性弱 粗砂～細砂5%, φ5mmの炭1% A49号堅穴建物3層と同じ
  14. 25V7/2 灰黄色細砂～粘細砂 粘性弱 粗砂～細砂7%
  15. 10YR3/1 黒褐色シルト～粘細砂 粘性弱 粗砂～細砂1%, φ5～20mmの炭7%, φ5～10mmの灰黄色細砂ブロック10% A49号堅穴建物5層と同じ
  16. 25V6/2 灰黄色粘細砂～中砂 粘性弱 粗砂～細砂7%, φ5mmの炭5%
- ※1・2層が近現代の堆積土, 3～10層がA50号堅穴建物, 11～16層がA49号堅穴建物堆積土

A50号堅穴建物D



A50号堅穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	27.4
P02	17.6

A49号堅穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	83.0
P02	54.4
P03	28.6
P04	33.6
P05	27.0
P06	22.4
溝1	8.4

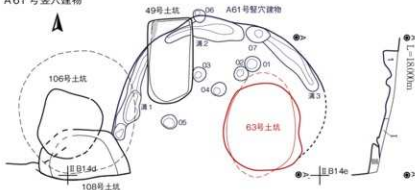


A50号堅穴建物D (D-D')

1. 10YR3/1 黒褐色シルト～粘細砂 粘性弱 粗砂～細砂5%, φ5mmの炭1%



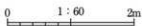
A61号堅穴建物



A61号堅穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	37.6
P02	46.8
P03	49.0
P04	36.4
P05	25.6
P06	32.6
P07	43.0
溝1	23.4
溝2	36.4
溝3	27.8

A61号堅穴建物 (A-A')

1. 10YR5/2 灰黄褐色 花崗岩粒堆積

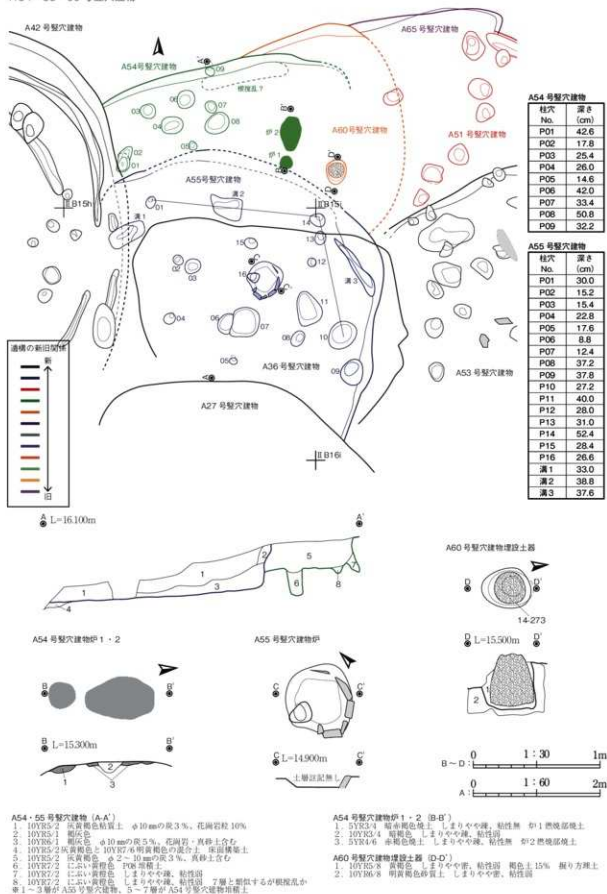


第37図 A49・50号堅穴建物、A61号堅穴建物



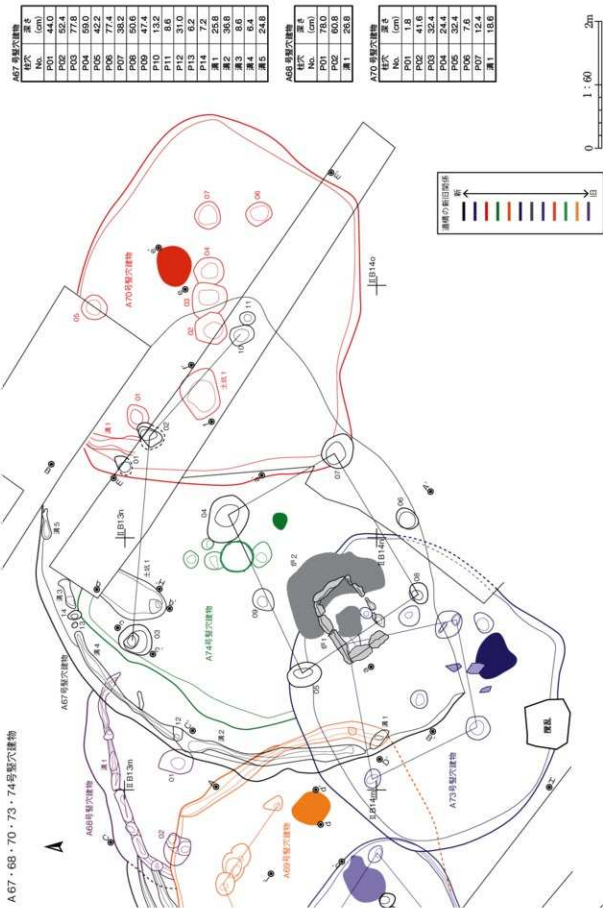


## A54・55・60号竪穴建物

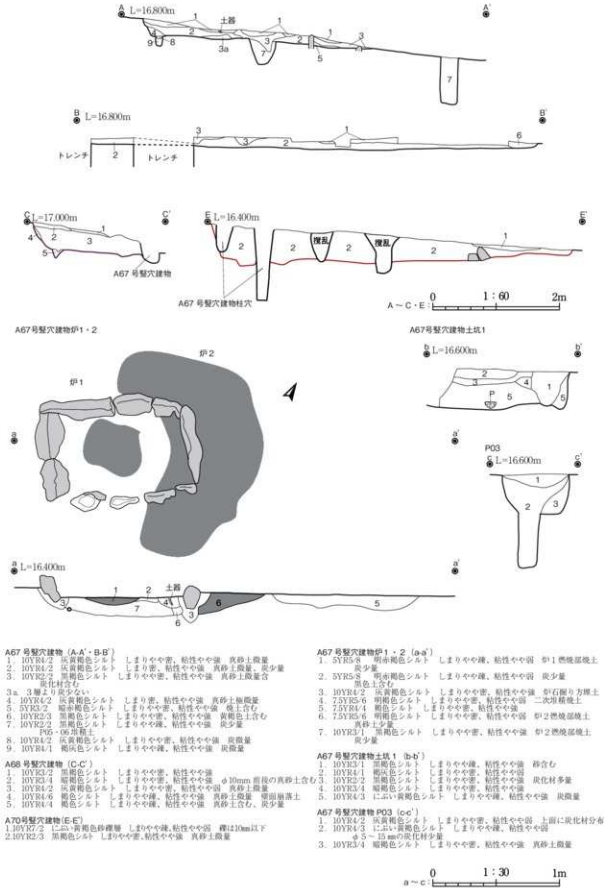


第40図 A54・55・60号竪穴建物

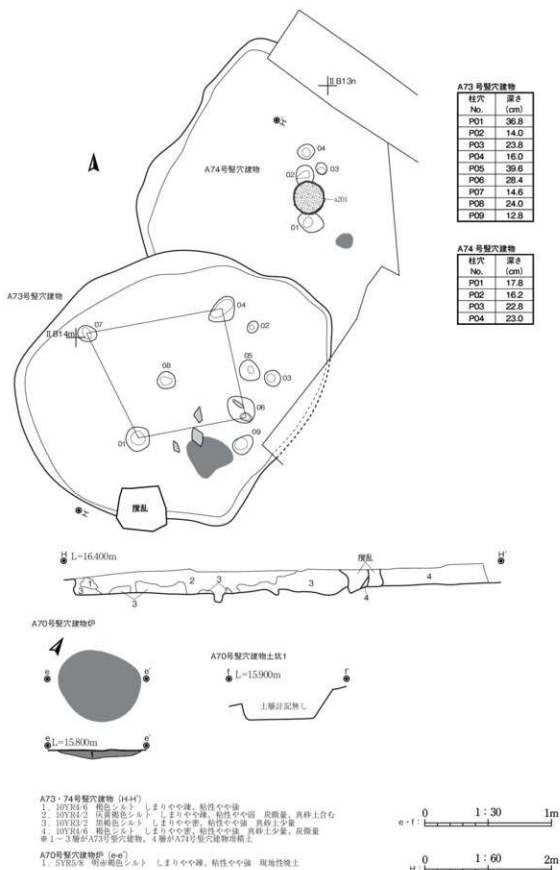




第41図 A 67・68・70・73・74号堅穴建物 (1)

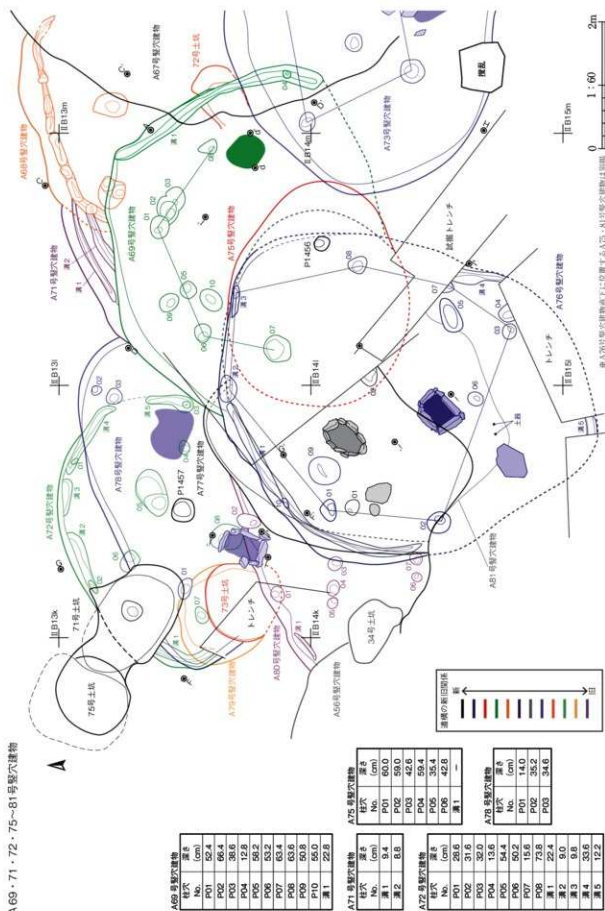


第42図 A 67・68・70・73・74号壺穴建物(2)

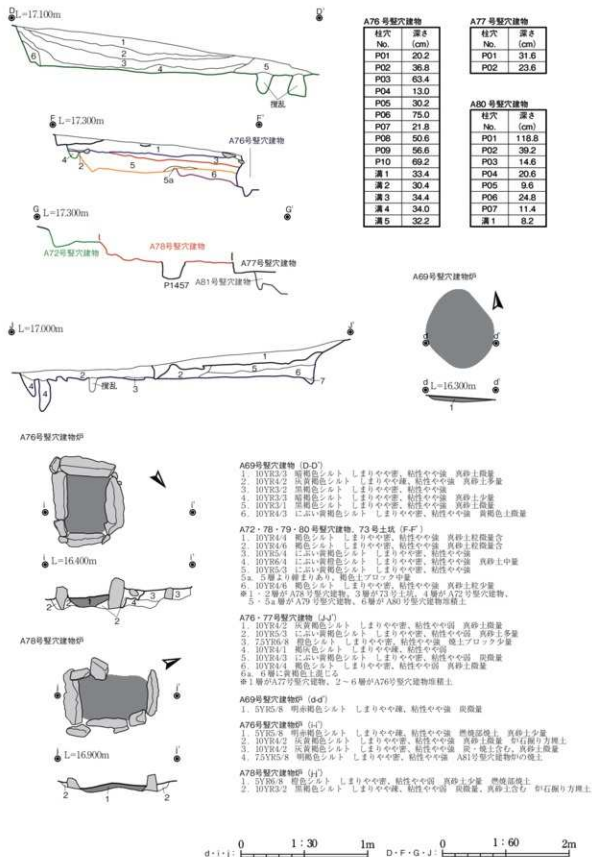


第43図 A 67・68・70・73・74号竪穴建物(3)

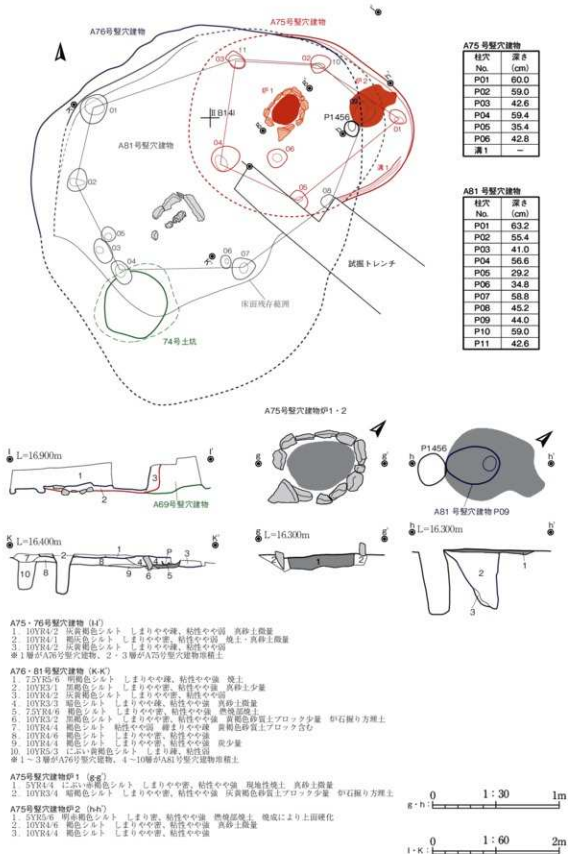
A 69・71・72・75～81号型穴建物



第44図 A 69・71・72・75～81号型穴建物(1)

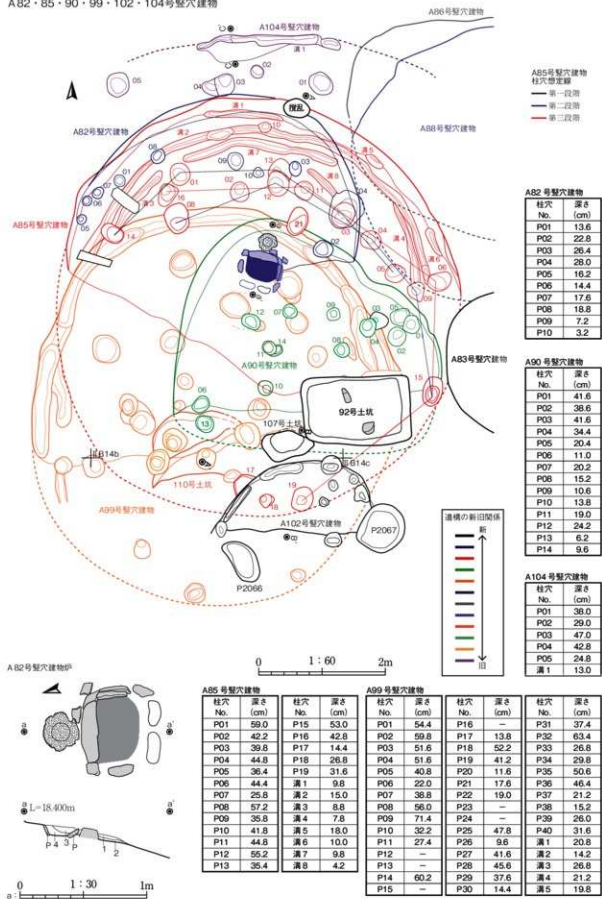


第45図 A 69・71・72・75～81号竪穴建物(2)



第46図 A 69・71・72・75～81号壱穴建物(3)

A82・85・90・99・102・104号竪穴建物

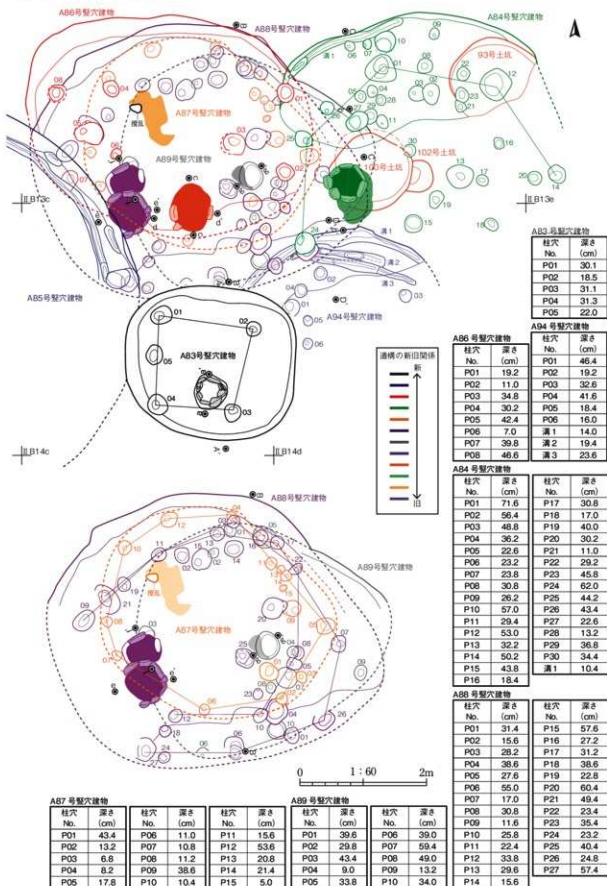


第47図 A82・85・90・99・102・104号竪穴建物(1)

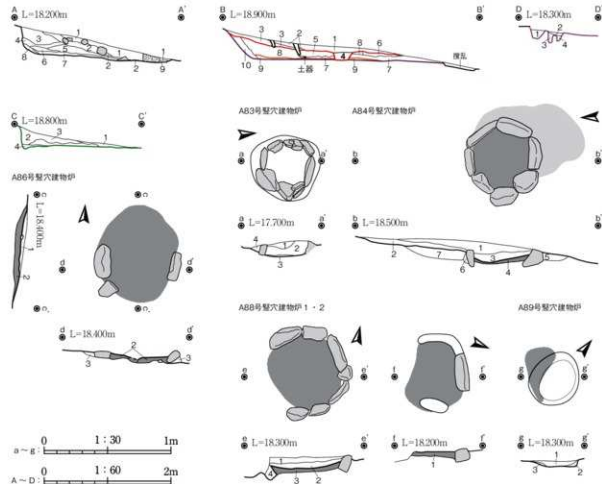




A83・84・86～89・94号竪穴建物



第49図 A83・84・86～89・94号竪穴建物(1)



## A83号竪穴建物 (A-A')

1. 10YR4-3 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 炭1~2%、花崗岩粒含む
2. 10YR2-2 黒褐色シルト しまりやや中、粘性無 炭1~2%、花崗岩粒含む
3. 10YR4-3 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 にふい黄褐色土炭灰を含む、花崗岩粒含む
4. 10YR4-3 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 炭1~2%、花崗岩粒含む
5. 10YR6-3 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 にふい黄褐色土炭灰を含む、花崗岩粒含む
6. 10YR4-3 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 にふい黄褐色土炭灰を含む、花崗岩粒含む
7. 10YR4-2 灰黄褐色真砂土 粘性無 にふい黄褐色真砂土との混合物 本成堆積
8. 10YR4-3 にふい黄褐色真砂土 粘性無 花崗岩粒含む
9. 10YR5-4 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 灰黄褐色土層7~10%

## A86・87・88号竪穴建物 (B-B')

1. 10YR5-4 にふい黄褐色シルト しまりやや中、粘性無 にふい黄褐色真砂土小塊15~20%、炭3~5%、真砂土1~2%、黒褐色土7%
2. 10YR2-1 黒色シルト しまり粘性無 炭とにふい黄褐色真砂土との混合物
3. 10YR4-3 にふい黄褐色真砂土 粘性無 にふい黄褐色真砂土小塊15~20%、炭・真砂土各1~2%
4. 10YR5-2 灰黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 炭5~7%、黒褐色シルトとの混合物 10% 面積上
5. 10YR4-2 灰黄褐色真砂土 粘性無 炭7~10%、黒褐色土層10%
6. 10YR5-4 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 にふい黄褐色真砂土小塊5~7%、炭1~2%、真砂土と炭に灰白色真砂土小塊1%を含む
7. 10YR4-3 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 にふい黄褐色真砂土小塊7~10%、炭・灰白色真砂土各2~3%
8. 10YR5-4 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 にふい黄褐色真砂土小塊15~20%、炭1~2%、灰白色真砂土2~3%
9. 7.5YR5-4 にふい黄褐色シルト 粘性無 にふい黄褐色真砂土小塊7~10%、炭1~2%、灰白色真砂土小塊2~3%
10. 10YR5-3 にふい黄褐色真砂土 粘性無 灰白色真砂土層3~5%、炭2~3%、にふい黄褐色真砂土小塊5~7%

※1~4層がA86号竪穴建物、※5~10層がA87・88号竪穴建物層積上

※9層土がA87号竪穴建物床面

## A84号竪穴建物 (C-C')

1. 10YR5-3 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 にふい黄褐色真砂土含む
2. 10YR4-4 褐色シルト 粘性無 炭・花崗岩粒3~5%、にふい黄褐色真砂土層7%
3. 10YR4-3 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 褐色土との混合物
4. 10YR7-3 にふい黄褐色真砂土 しまり 粘性共に無 にふい黄褐色真砂土層15~20%

## A84号竪穴建物 (D-D')

1. 10YR5-3 にふい黄褐色真砂土 粘性無 灰白色小塊2~3%
2. 7.5YR4-4 褐色真砂土 粘性無
3. 10YR5-3 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 灰白色粒1~2%
4. 10YR5-3 にふい黄褐色真砂土 しまり 粘性共に無 灰白色小塊7~10%

## A83号竪穴建物伊

## A84号竪穴建物伊

## A86号竪穴建物伊1・2

## A87号竪穴建物伊

## A88号竪穴建物伊 (a-a')

## A89号竪穴建物伊 (b-b')

## A83号竪穴建物伊 (a-a')

1. 10YR5-3 にふい黄褐色真砂土 しまり 粘性共に無
2. 7.5YR3-1 暗褐色シルト 粘性無 褐色土小塊7~10%、花崗岩粒含む
3. 10YR6-3 にふい黄褐色真砂土 しまり 粘性共に無 にふい黄褐色真砂土小塊10~15%
4. 10YR4-2 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 花崗岩粒含む 中石の埋り方土

## A86号竪穴建物伊 (c-c', d-d')

1. 7.5YR3-4 暗褐色シルト 粘性無 黒褐色土小塊2~3%、花崗岩粒10%
2. 5YR4-3 にふい黄褐色土 粘性無 炭1% 燃焼部焼土
3. A88号竪穴建物埋積土

## A84号竪穴建物伊 (b-b')

1. 10YR4-4 褐色真砂土 粘性無 炭1~2%、花崗岩粒含む
2. 10YR6-4 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無
3. 10YR4-3 にふい黄褐色真砂土 しまり 粘性共に無 炭1%、花崗岩粒含む
4. 5YR3-3 暗赤褐色土 粘性無 燃焼部焼土
5. 7.5YR4-4 褐色土 しまりやや中、粘性無 炭面が炭焼により変色
6. 10YR3-4 暗褐色真砂土 粘性無 にふい黄褐色土との混合物 中石埋り方土
7. 10YR4-2 にふい黄褐色真砂土 しまりやや中、粘性無

## A88号竪穴建物伊 (a-a')

1. 10YR3-3 暗褐色真砂土 粘性無 炭1%、花崗岩粒含む
2. 10YR4-2 にふい黄褐色真砂土 粘性無 にふい黄褐色土小塊10~15%、炭土小塊3~7%
3. 5YR3-4 暗赤褐色土 粘性無 燃焼部焼土
4. 10YR3-4 暗褐色真砂土 しまりやや中、粘性無 花崗岩粒含む 中石土取り方土

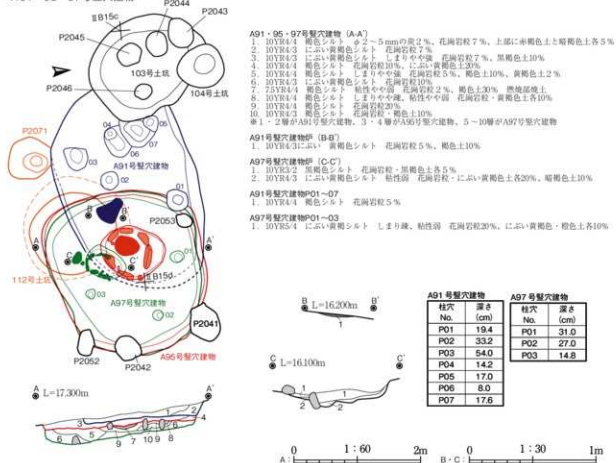
## A88号竪穴建物伊2 (a-a')

1. 5YR3-4 暗赤褐色土 粘性無 燃焼部焼土

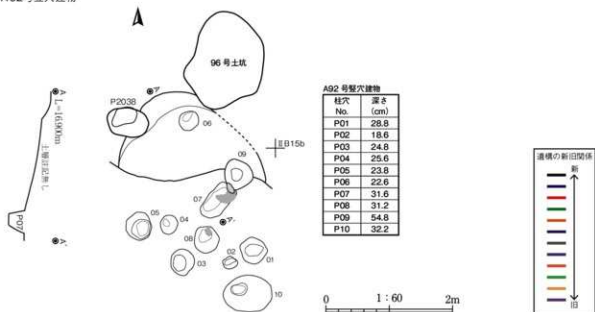
## A89号竪穴建物伊 (b-b')

1. 10YR4-2 にふい黄褐色シルト 粘性やや中 褐色土小塊2~3%、花崗岩粒含む
2. 10YR2-2 暗褐色シルト しまり 粘性共にやや中 褐色土小塊1%
3. 10YR5-4 にふい黄褐色 しまり 粘性共に無 土層との混合物

A91・95・97号堅穴建物

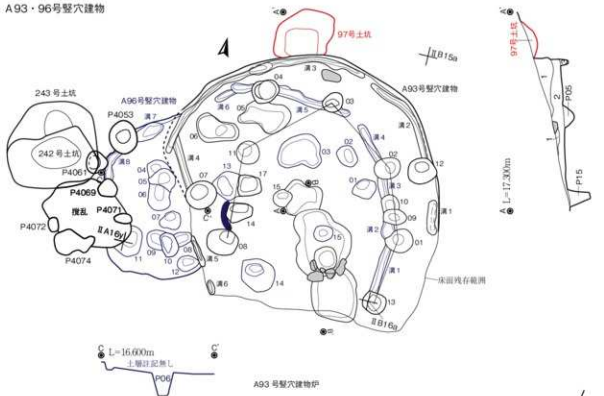


A92号堅穴建物

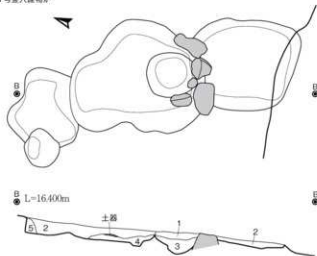


第51図 A91・95・97号堅穴建物、A92号堅穴建物

## A93・96号竪穴建物



A93号竪穴建物伊



A96号竪穴建物		A93号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)
P01	46.2	P01	61.4
P02	21.2	P02	53.4
P03	21.0	P03	47.4
P04	26.0	P04	23.4
P05	37.0	P05	19.0
P06	38.8	P06	38.6
P07	52.6	P07	55.2
P08	14.0	P08	60.4
P09	28.6	P09	21.0
P10	19.6	P10	42.4
P11	22.0	P11	36.2
P12	33.8	P12	59.2
P13	25.6	P13	24.8
P14	43.2	P14	36.2
P15	22.8	P15	31.8
P16	33.8	P16	欠番
P17	25.6	P17	47.6
P18	14.0	P18	14.2
P19	12.0	P19	18.6
P20	16.4	P20	31.2
P21	14.4	P21	19.6
P22	14.4	P22	11.0
P23	13.6	P23	7.2

## A93号竪穴建物 (A-A)

- 10YR3/2 黒褐色シルト 花崗岩粒・褐色土各10%、重母7%
- 10YR3/3 黒褐色シルト 花崗岩粒10%、黒褐色土3%
- 10YR4/4 褐色 10YR4/20%、花崗岩粒15% 溝3内堆積土

## A93号竪穴建物伊 (B-B)

- 10YR3/3 褐色シルト 花崗岩粒10%、褐色土30%、A層面2層と同J
- 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまりや中強 φ2mmの炭2%、花崗岩粒15%
- 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト φ2mmの炭2%、花崗岩粒・褐色土各10%
- 10YR3/2 黒褐色シルト 花崗岩粒7%、黒褐色土各20%
- 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト しまり強 花崗岩粒20%、にぶい黄褐色土10%

## A93号竪穴建物PO1~15・17

- 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや弱 花崗岩粒20%、褐色土10%、重母3cm前後

## A96号竪穴建物堆積土

- 7.5YR4/4 褐色シルト しまり強、粘性弱 花崗岩粒20%、褐色土10%、重母3cm前後

## A96号竪穴建物PO1・02・13・14

- 10YR4/4 褐色シルト しまりや中強 花崗岩粒20%、にぶい黄褐色土5%

## A96号竪穴建物PO3

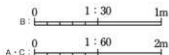
- 10YR4/3 褐色シルト しまりや中強 花崗岩粒20%、にぶい黄褐色土10%、黒色土2%

## A96号竪穴建物P15

- 10YR4/4 褐色シルト φ2mmの炭2%、花崗岩粒20%

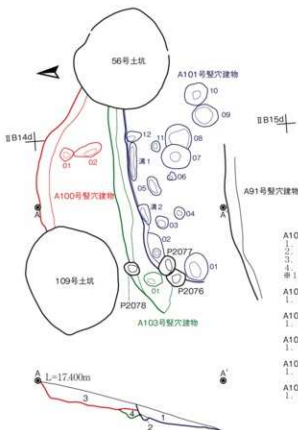
## A96号竪穴建物溝1~8

- 10YR4/4 褐色 しまりや中強 花崗岩粒15%



第52図 A93・96号竪穴建物

## A100・101・103号竪穴建物



A100号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	15.6
P02	31.6

A103号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	49.0

A101号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	55.4
P02	23.2
P03	15.4
P04	20
P05	17.2
P06	15.8
P07	36.8
P08	20.6
P09	18.6
P10	27.4
P11	11.6
P12	25.8
溝1	7.8
溝2	8.2

## A100・101・103号竪穴建物 (A-A')

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 花崗岩粒5%
2. 10YR4/4 褐色シルト 花崗岩粒2%
3. 10YK3/3 暗褐色シルト φ2-3mmの炭2%、黒褐色土・花崗岩粒各5%
4. 10YR4/4 褐色シルト 粘質腐 暗褐色土30%

※1・2層がA101号竪穴建物、3層がA100号竪穴建物、4層がA103号竪穴建物堆積土

## A100号竪穴建物P01・02

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘質腐 花崗岩粒2%

## A101号竪穴建物P01・07・09

1. 10YR3/2 黄褐色シルト 暗褐色土30%、花崗岩粒2%

## A101号竪穴建物P02・05・08・10

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 花崗岩粒5%

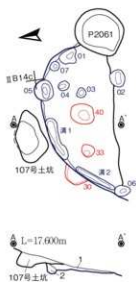
## A101号竪穴建物溝1・2

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘質腐 暗褐色土10%、にぶい黄褐色土20%

## A103号竪穴建物P01

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 花崗岩粒5%

## A102号竪穴建物



A102号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	12.6
P02	32.0
P03	14.4
P04	16.8
P05	16.4
P06	17.6
溝1	10.0
溝2	22.2
溝3	12.4



## A102号竪穴建物 (A-A')

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 花崗岩粒10%
2. 10YR3/4 暗褐色シルト 花崗岩粒5%、燧湾内堆積土

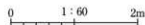
## A102号竪穴建物P01

1. 10YR3/4 暗褐色シルト 暗褐色土・花崗岩粒各5%

## A102号竪穴建物P02・03・04

1. 10YR3/4 暗褐色シルト 花崗岩粒2%

※赤字はA99号竪穴建物の柱穴番号

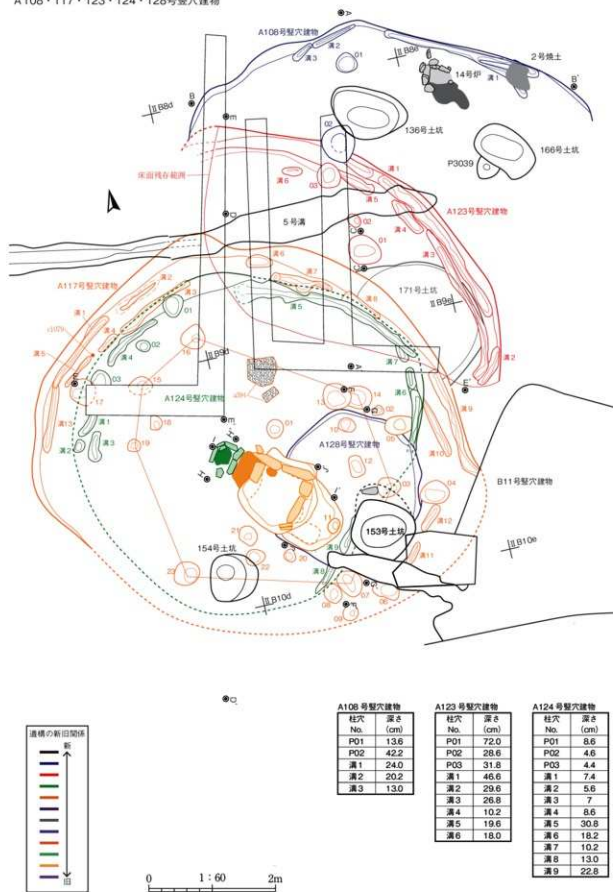


第53図 A100・101・103号竪穴建物、A102号竪穴建物





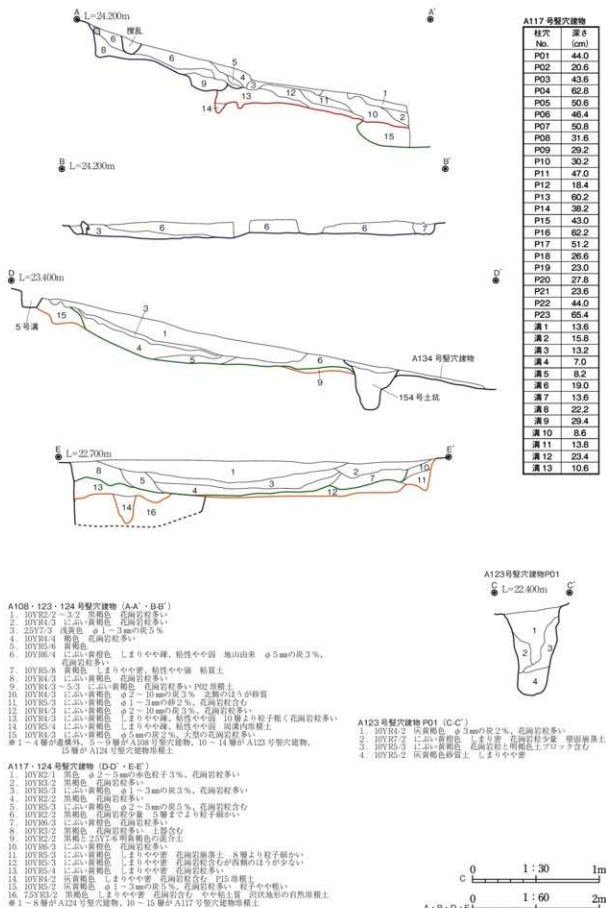
A108・117・123・124・128号竪穴建物



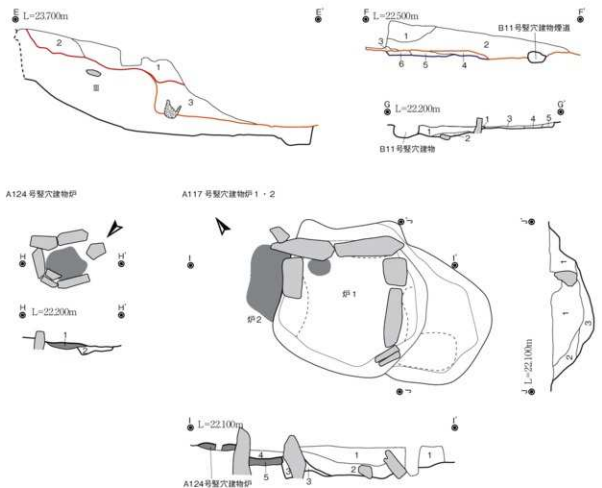
第56図 A108・117・123・124・128号竪穴建物(1)



2 堅穴建物（縄文時代）



第57図 A108・117・123・124・128号堅穴建物 (2)



A124号壱穴建物伊

A117号壱穴建物伊1・2

- A117・123号壱穴建物 (E-E')**
1. 10YR2/2 黒紫～3/3黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱  $\phi$  5mmの炭2%、花崗岩粒多い
  2. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、粘性やや弱、花崗岩粒多い
  3. 10YR6/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱  $\phi$  5～10mmの炭5%、花崗岩粒多い
- ※1・2層がA123号壱穴建物、3層がA117号壱穴建物堆積土

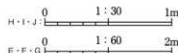
- A117・128号壱穴建物 (F-F')**
1. 10YR2/2 黒褐色 花崗岩粒多い
  2. 10YR3/3 にふい黄褐色  $\phi$  2～4mmの炭・焼土各5%、花崗岩粒多い
  3. 10YR4/3 にふい黄褐色 2層より粒子細かく炭粒物含まない
  4. 10YR4/3 にふい黄褐色 2層より粒子細かく炭粒物含まない
  5. 7.5YR4/2 灰褐色 しまりやや密、花崗岩粒物多量
  6. 10YR7/3 浅灰褐色と7.5YR4/2灰褐色の混合土
- ※1～3層がA117号壱穴建物、4～6層がA128号壱穴建物堆積土

- A128号壱穴建物・153号土坑 (G-G')**
1. 10YR4/2 灰黄褐色  $\phi$  5mmの赤色粒子3%、花崗岩粒多い
  2. 10YR2/1 紫色 炭化物層?
  3. 10YR3/2 黒褐色  $\phi$  1～2mmの赤色粒子2%
  4. 10YR6/4 にふい黄褐色 砂状土で炭屑土層土上含む
  5. 10YR6/4 にふい黄褐色と2.5YR4/2浅灰褐色の混合土 しまりやや密、粘性有
- ※1・2層が153号土坑、3～5層がA128号壱穴建物堆積土

- A124号壱穴建物伊 (H-H')**
1. 5YR6/8 棕色焼土 しまりやや密 花崗岩粒、黒色土少量 焼炭部焼土
  2. 10YR4/2 灰黄褐色 細り方またはA117号壱穴建物床面堆積土

- A117号壱穴建物伊1・2 (H')**
1. 10YR3/2 灰黄褐色  $\phi$  1～3mmの炭3%、花崗岩粒含む
  2. 10YR2/1 紫色 花崗岩粒多い
  3. 10YR2/2 黒紫～5/3にふい黄褐色 花崗岩粒多い 伊1如石版り方層土
  4. 10YR2/1 紫色  $\phi$  1～5mmの炭15%
  5. 5YR6/8 棕色焼土 しまりやや密 花崗岩少量 伊2焼炭部焼土

- A117号壱穴建物伊1掘り方 (J-J')**
1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや弱  $\phi$  2～5mmの炭3%、花崗岩粒多い
  2. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや弱 5YR6/8褐色フロック多量、花崗岩粒含む
  3. 10YR7/3 浅灰褐色 しまりやや密、粘性弱 灰砂土の再堆積土

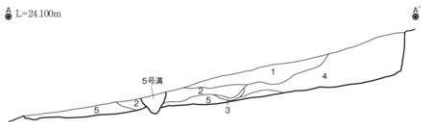
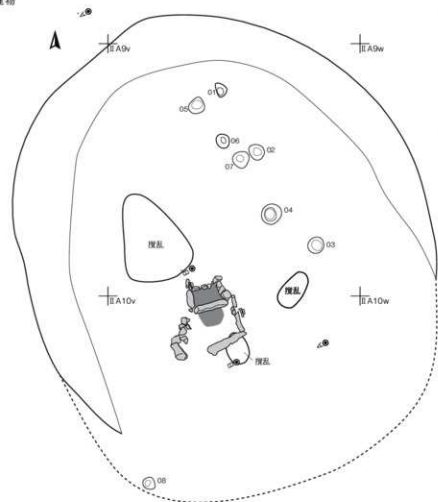


第58図 A 108・117・123・124・128号壱穴建物 (3)

A109号堅穴建物

A109号堅穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	48.2
P02	25.4
P03	28.8
P04	57.8
P05	37.6
P06	21.6
P07	24.0
P08	54.6

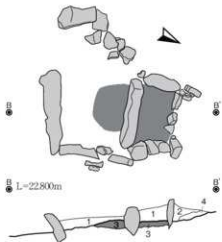


A109号堅穴建物 (A-A')

- 10YR3/3 暗褐色 しまりや中硬、粘性弱 4:深い黄褐色土10%、花崗岩粒5%
- 10YR2/3 灰褐色 しまりや中硬、粘性無 花崗岩粒3%
- 7.5YR3/4 暗褐色壤土と10YR2/3黒褐色土の混合土 炭1%
- 10YR2/2 灰褐色 しまりや中硬、粘性弱 花崗岩粒3%
- 10YR3/4 暗褐色 しまりや中硬、粘性弱 花崗岩粒3%

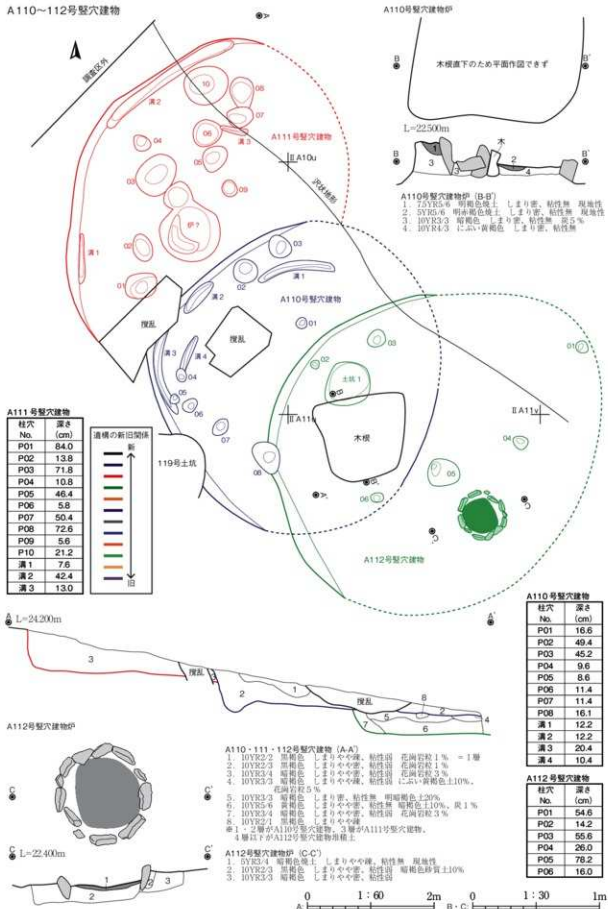
A109号堅穴建物伊 (B-B')

- 10YR2/1 黒色 しまりや中硬、粘性無
- 10YR4/6 褐色 しまりや中硬、粘性無
- 7.5YR3/4 暗褐色壤土、しまりや中硬、粘性無 現地性
- 10YR2/3 灰褐色 しまりや中硬、粘性無



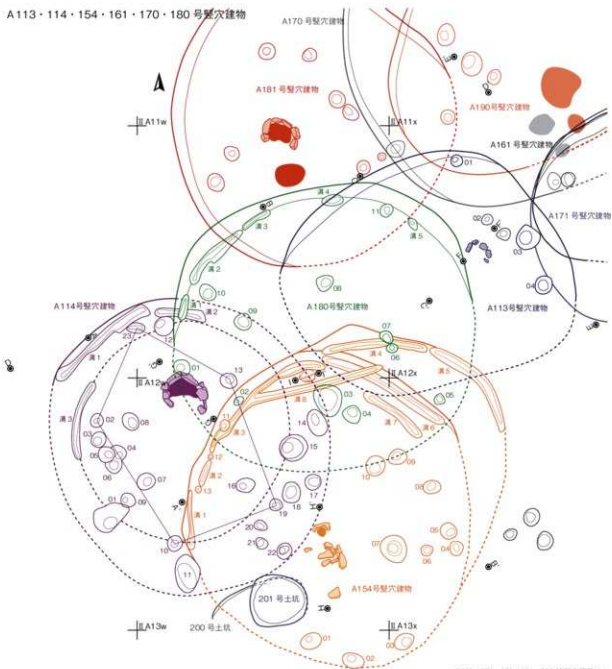
第59図 A109号堅穴建物

A110~112号竪穴建物



第60図 A110~112号竪穴建物

A113・114・154・161・170・180号竪穴建物



※161・170・171・181・180号竪穴建物の  
新掘削。柱穴一室は別図面



0 1:60 2m

A113号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	36.6
P02	22.6
P03	38.0
P04	47.4

A114号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	58.4
P02	22.2
P03	20.2
P04	35.2
P05	44.0
P06	32.6
P07	33.4
P08	46.6
P09	33.6
P10	15.8
P11	82.0
P12	25.6
P13	26.6

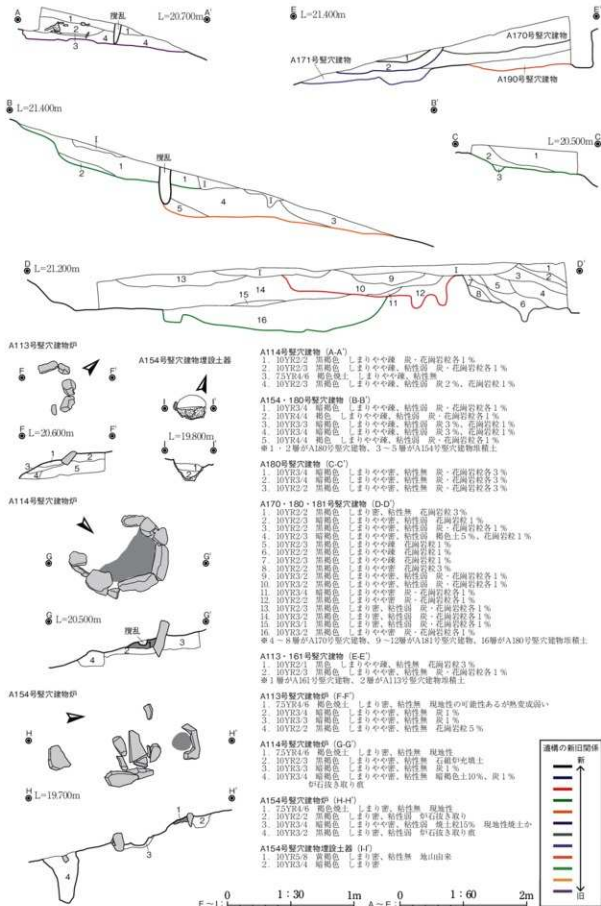
A114号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P14	42.0
P15	33.0
P16	40.8
P17	27.2
P18	32.2
P19	22.8
P20	33.0
P21	32.8
P22	44.0
P23	10.2
溝1	49.0
溝2	27.2
溝3	12.0

A154号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	18.4
P02	29.0
P03	11.0
P04	20.4
P05	13.4
P06	12.4
P07	46.4
P08	26.4
P09	53.6
P10	44.4
P11	21.6
P12	5.4
P13	12.6

A154号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
溝1	4.2
溝2	5.2
溝3	27.4
溝4	11.2
溝5	20.4
溝6	13.4
溝7	17.8
溝8	19.6

A180号竪穴建物	
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	55.6
P02	14.4
P03	20.8
P04	36.6
P05	11.2
P06	19.4
P07	32.4
P08	40.8
P09	26.6
P10	34.4
P11	13.0
溝1	11.8
溝2	21.4
溝3	16.8
溝4	7.2
溝5	4.8

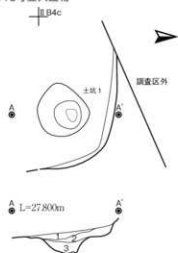
第61図 A113・114・154・161・170・180号竪穴建物(1)



第62図 A113・114・154・161・170・180号竪穴建物(2)

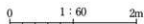
2 竪穴建物 (縄文時代)

A115号竪穴建物

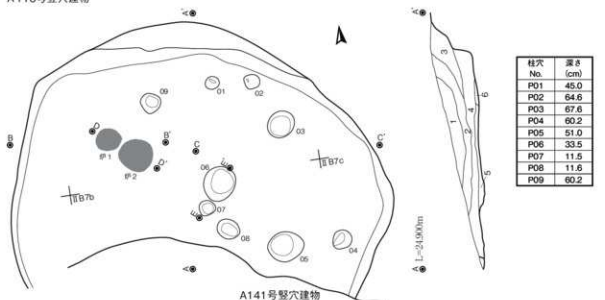


A115号竪穴建物

1. 10YR2/3 暗褐色 しまり密、粘性强 全体に黄砂土粒、下位に褐色土ブロック多量
2. 10YR2/3 暗褐色 しまり密、粘性强 全体に黄砂土粒
3. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性强 全体に黄砂土粒 (1・2層より少量)、中位に褐色土ブロック

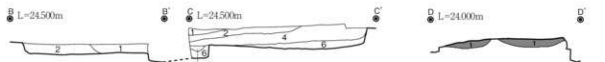


A116号竪穴建物



柱穴 No.	深さ (cm)
PO1	45.0
PO2	64.6
PO3	67.6
PO4	60.2
PO5	51.0
PO6	33.5
PO7	11.5
PO8	11.6
PO9	60.2

A141号竪穴建物



A116号竪穴建物 (A-A'・B-B'・C-C')

1. 10YR5/3 に近い黄褐色砂質土 しまり密、粘性强 全体に白色粒子含む
2. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性强 全体に白色粒子含む、斜面上方に土層多い、灰多量
3. 10YR4/4 褐色 しまり密、粘性强 斜面上方に黄褐色砂質土、全体に白色粒子含む
4. 10YR4/4 褐色 しまり密、粘性强 全体に白色粒子含む、灰少量
5. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性强 全体に白色粒子含む
6. 10YR2/1 黒色 しまり密、粘性强 灰多量 床面構築土か

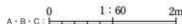
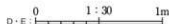
IP1・2 (D-D')

1. 7.5YR4/4 褐色 しまり疎、粘性强 現地性粘土

PO6・07 (E-E')

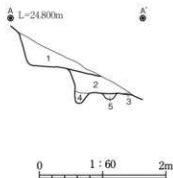
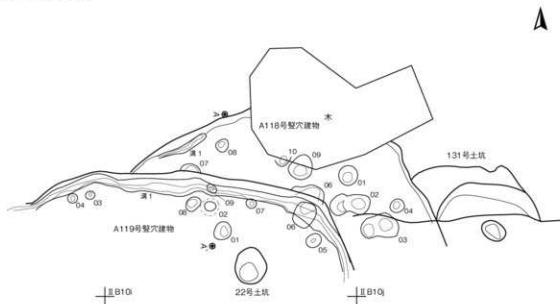
1. 10YR2/3 暗褐色 しまり密、粘性强 全体に白色粒子含む
2. 10YR4/4 褐色 しまり疎、粘性强 灰少量
3. 10YR2/3 暗褐色 しまり疎、粘性强 白色粒子含む
4. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性强 灰少量

層1～3層がPO6、4層がPO7層上



第63図 A115号竪穴建物、A116号竪穴建物

## A118・119号竪穴建物



## A118・119号竪穴建物 (A-A')

1. 10YR5/4 にふい・黄褐色 しまりややぶ 粘性ややぶ 花崗岩が多い
  2. 10YR6/4 にふい・黄褐色 しまりややぶ 粘性ややぶ  $\phi$ 1~3mmの炭5%、花崗岩を含む
  3. 5YR6/6 褐色 しまりややぶ 二次堆積土 花崗岩を含む
  4. 10YR5/3 にふい・黄褐色 しまりややぶ 粘性ややぶ 厚層内原積土
- ※1層がA118号竪穴建物、2~4層がA119号竪穴建物堆積上。

## A118号竪穴建物 P01

1. 10YR5/3 にふい・黄褐色  $\phi$ 1~3mmの炭3%

## A118号竪穴建物 P02

1. 10YR6/3 にふい・黄褐色 花崗岩を含む
2. 10YR5/3 にふい・黄褐色 花崗岩を含む

## A118号竪穴建物 P05・06

1. 10YR5/3 にふい・黄褐色 花崗岩が多い

## A118号竪穴建物 P09・10

1. 10YR5/3 にふい・黄褐色 しまりややぶ 粘性ややぶ  $\phi$ 1~3mmの炭2%

## A118号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	55.2
P02	48.6
P03	45.0
P04	18.2
P05	欠番
P06	28.2
P07	19.0
P08	13.0
P09	48.6
P10	43.0
溝1	17.8

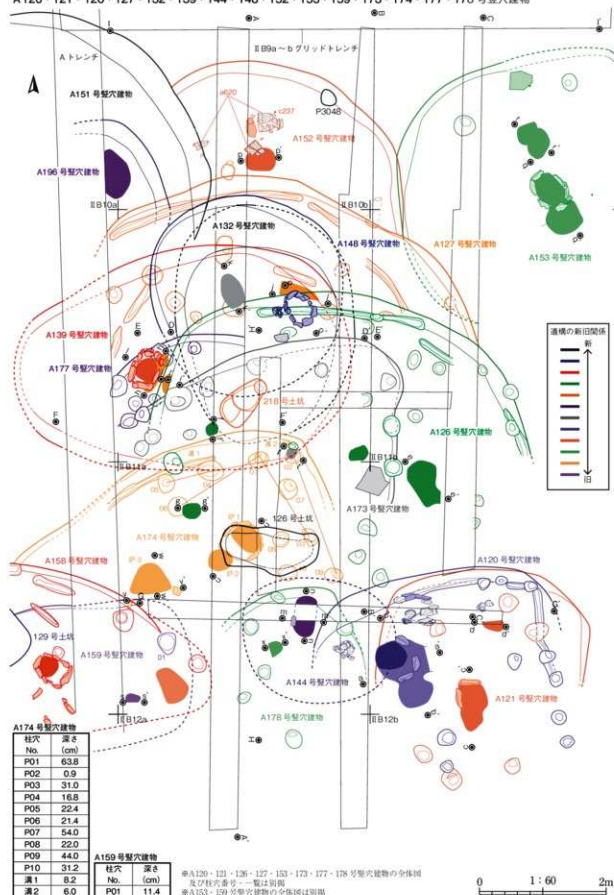
## A119号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	13.8
P02	17.2
P03	15
P04	27.6
P05	21.8
P06	39.8
P07	21.6
P08	10.4
P09	18.8
溝1	31.0

第64図 A118・119号竪穴建物



A120・121・126・127・132・139・144・148・152・153・159・173・174・177・178号竪穴建物

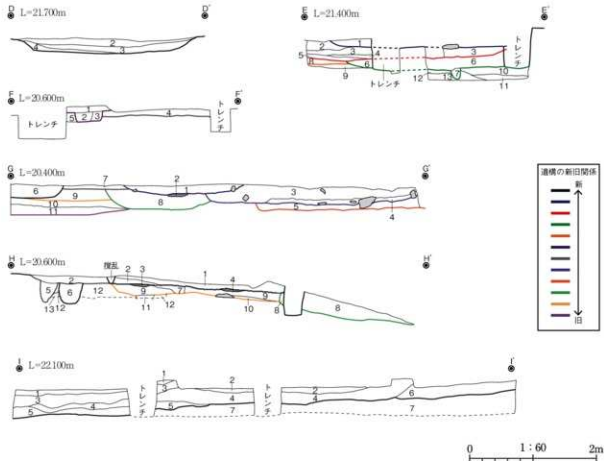


第65図 A120・121・126・127・132・139・144・148・152

・153・159・173・174・177・178号竪穴建物（1）



2 堅穴建物 (縄文時代)



- A120・121・126・153号堅穴建物 (C-C')**
1. 10YR3/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭・花崗岩粒各3%
  2. 10YR2/2 黒褐色 しまり漆、粘性腐 明黄褐色土15%、炭3%、花崗岩粒1%
  3. 10YR3/4 暗褐色 しまり中々砂、粘性腐 炭2%、機土30%、花崗岩粒1%
  4. 10YR4/3 に近い黄褐色 しまり漆、粘性腐 炭3%、花崗岩粒5%
  5. 10YR3/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭3%、花崗岩粒5%
  7. 10YR3/3 暗褐色 しまり中々砂、粘性腐 炭5%、花崗岩粒1%
  8. 10YR3/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭5%、花崗岩粒1%
  9. 10YR4/3 に近い黄褐色 =G断面3層
  10. 10YR2/2 暗褐色 =G断面4層
  11. 10YR3/3 暗褐色 =G断面5層
  12. 10YR2/2 暗褐色 しまり漆、炭5%、機土1%、花崗岩粒3%
  13. 10YR2/2 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭2%、花崗岩粒7%
  14. =I断面4層
- ※1-5層がA120号堅穴建物。6・7層がA126号堅穴建物。  
9-10層がA126号堅穴建物。11層がA121号堅穴建物直上。

- A126・127・139・148号堅穴建物 (E-E')**
1. 10YR3/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭・花崗岩粒各2%
  2. 10YR2/2 黒褐色 しまり漆、粘性腐 炭5%、花崗岩粒3%
  3. 10YR3/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭5%、花崗岩粒2%
  4. 10YR3/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭5%、花崗岩粒2%
  5. 10YR2/2 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭25%、花崗岩粒3%
  6. 10YR3/2 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭・花崗岩粒各1%
  7. 10YR2/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭1%、P18層機土
  8. 10YR3/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭・花崗岩粒各3%
  9. 10YR2/1 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭・黄褐色土(火山灰?)2%  
I断面4層中3層
  10. 10YR2/1 黒色 =B断面29層
  11. 10YR3/2 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭・P18層機土
  12. 10YR2/3 暗褐色 しまり漆、炭1%、花崗岩粒2%
  13. 10YR2/2 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭・花崗岩粒・酸化鉄各3%  
I断面4層中3層
- ※1層がA148号堅穴建物。2-5層がA139号堅穴建物。  
6-7層がA126号堅穴建物。8層がA127号堅穴建物直上。

- A173・177号堅穴建物 (F-F')**
1. 10YR3/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭1%、花崗岩粒3%
  2. 10YR3/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭1%、花崗岩粒2%  
P09層直上
  3. 2層と同じ P08層直上
  4. 10YR2/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭2%
  5. 10YR2/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭2%、花崗岩粒3%
- ※1-3層がA177号堅穴建物。4層がA173号堅穴建物直上。

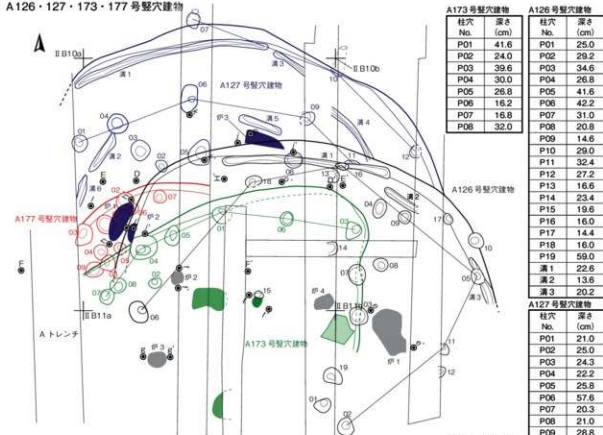
- A120・121・144・157・173・174・178号堅穴建物 (G-G')**
1. 10YR4/2 灰黄褐色 しまり漆、炭7%、花崗岩粒1%
  2. 7.5YR5/6 明褐色 しまり漆、粘性腐 炭
  3. 10YR4/3 に近い黄褐色 しまり漆、炭5%、花崗岩粒3%
  4. 10YR2/2 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭50%、花崗岩粒2%
  5. 10YR3/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭2%、花崗岩粒3%
  6. A157号堅穴建物直上
  7. 10YR3/3 暗褐色 =H断面1層
  8. 10YR2/2 暗褐色 =H断面8層
  9. 10YR3/3 暗褐色 =H断面9層
  10. A158号堅穴建物直上
  11. A159号堅穴建物直上
  12. 10YR2/2 暗褐色 =G断面4層
- ※1-2層がA144号堅穴建物。3-4層がA120号堅穴建物。  
5層がA121号堅穴建物。6層がA157号堅穴建物。7層がA173号堅穴建物。  
8層がA178号堅穴建物。9層がA174号堅穴建物。10・11層がA159号堅穴建物直上。

- A173・174・A178号堅穴建物 (H-H')**
1. 10YR3/2 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭・花崗岩粒各2%
  2. 10YR2/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭・花崗岩粒各2%
  3. 7.5YR3/4 暗褐色 しまり中々砂 炭1%、砂1機機土
  4. 7.5YR4/6 暗褐色 しまり中々砂、粘性腐 炭1%、砂1機機土
  5. 10YR3/2 暗褐色 しまり中々砂、粘性腐 炭2%、花崗岩粒1% P01層機土
  6. 218号土坑埋積土
  7. 10YR3/2 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭・花崗岩粒各3%、  
花崗岩粒1%
  8. 10YR3/3 暗褐色 しまり中々砂、粘性腐 炭・花崗岩粒各1%、  
花崗岩粒1%
  9. 10YR3/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭・花崗岩粒各1%
  10. 10YR3/3 暗褐色 しまり中々砂、粘性腐 炭・花崗岩粒各2%
  11. 10YR3/3 暗褐色 しまり中々砂、粘性腐 P01層機土
  12. 10YR2/2 暗褐色 しまり漆、炭2%、花崗岩粒1%
  13. 10YR2/2 暗褐色 しまり漆、炭5%、花崗岩粒1%
- ※1-5層がA173号堅穴建物。6層がA178号堅穴建物。  
9-11層がA174号堅穴建物直上。

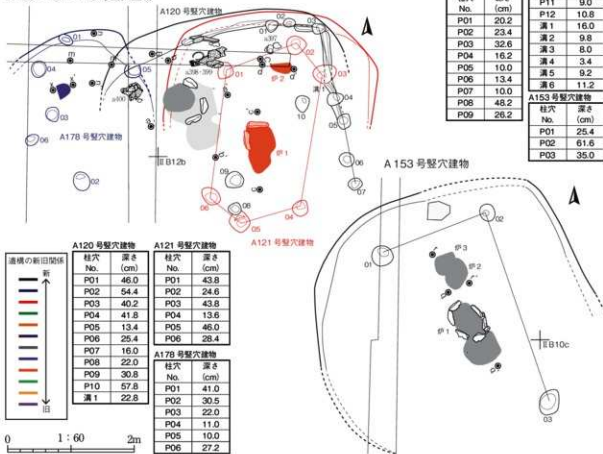
- DB0a~bブリッドトレンチ (Bz)**
1. 10YR3/3 暗褐色 しまり中々砂、粘性腐 炭3%
  2. 10YR4/3 に近い黄褐色 しまり中々砂、粘性腐 炭5%、機土10%
  3. 10YR2/2 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭3%
  4. 10YR3/3 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭2% 酸化鉄混在に含み、  
西側に土質腐
  5. 10YR2/2 暗褐色 しまり漆 白色土フロック (ToCuナワ?)3%
  6. 10YR2/2 暗褐色 しまり漆 機土2% (地山)
  7. 10YR2/2 暗褐色 しまり漆、粘性腐 炭・花崗岩粒10% (地山)

第67図 A 120・121・126・127・132・139・144・148・152

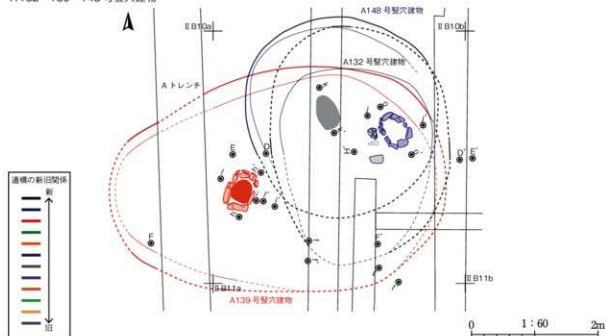
A126・127・173・177号竪穴建物



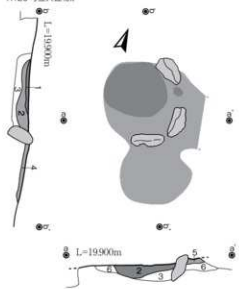
A120・121・178号竪穴建物

第68図 A 120・121・126・127・132・139・144・148・152  
・153・159・173・174・177・178号竪穴建物(4)

A132・139・148 号堅穴建物



A120号堅穴建物



A120号堅穴建物伊1 (a-a'・b-b')

- 10YR2/3 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 炭10%
- 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまりやや密 花崗岩粒2%
- 10YR3/3 暗褐色 しまりやや疎、粘性無 炭1%、焼土2%  
花崗岩粒1%
- 7.5YR4/6 褐色焼土 しまり密、粘性弱 炭1%
- 7.5YR4/4 褐色焼土 しまりやや疎、粘性無
- 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性弱 炭1%、花崗岩粒3%

A121号堅穴建物伊1 (c-c')

- 10YR3/3 暗褐色 しまり疎、粘性無 炭1% 炉石設置痕小
- 7.5YR3/3 暗褐色焼土 しまり密、粘性弱 炭1%、  
花崗岩粒2%
- 7.5YR4/6 褐色焼土 しまり密、粘性弱 炭1%
- 7.5YR4/4 褐色焼土 しまり密、粘性無

A121号堅穴建物伊2 (d-d')

- 7.5YR4/4 褐色焼土 しまり密、粘性無

A126号堅穴建物伊1 (e-e')

- 5YR5/8 褐色焼土 しまりやや密、粘性無

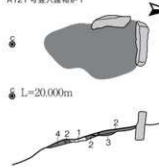
A126号堅穴建物伊2 (f-f')

- 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまり密、粘性無 炭1%

A126号堅穴建物伊3 (g-g')

- 7.5YR2/3 暗褐色焼土 しまり密 炭1%

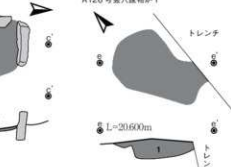
A121号堅穴建物伊1



A121号堅穴建物伊2



A126号堅穴建物伊1



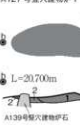
A126号堅穴建物伊2



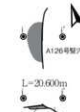
A126号堅穴建物伊3



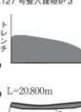
A127号堅穴建物伊1



A127号堅穴建物伊2



A127号堅穴建物伊3



A127号堅穴建物伊石

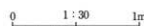
- 7.5YR4/6 褐色焼土 しまりやや密、粘性弱
- 7.5YR4/4 褐色焼土 しまり密、粘性弱

A127号堅穴建物伊2 (h-h')

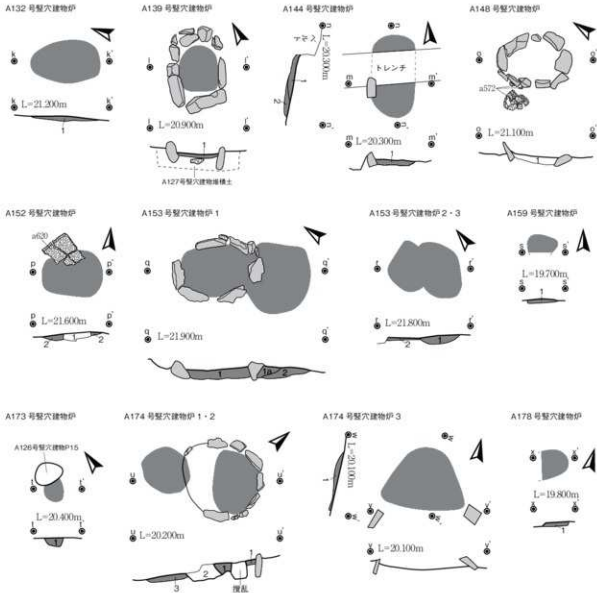
- 7.5YR4/6 褐色焼土 しまりやや密、粘性弱
- 7.5YR4/4 褐色焼土 しまり密、粘性弱

A127号堅穴建物伊3 (j-j')

- 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまりやや密、粘性無



第69図 A 120・121・126・127・132・139・144・148・152



A132 号竪穴建物伊 (k'k')

1. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまりやや密、粘性無

A139 号竪穴建物伊 (k')

1. 10YR3/3 暗褐色焼土 しまり密、粘性無 炭1%

A144 号竪穴建物伊 (m'm'・n'n')

1. 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまりやや密、粘性無

A148 号竪穴建物伊 (o'o')

1. 7.5YR3/4 暗褐色 しまり密、粘性弱 炭2%、花崗岩粒1%

A152 号竪穴建物伊 (p'p')

1. 7.5YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性弱 炭2%
2. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまりやや密、粘性弱

A153 号竪穴建物伊 1 (q'q')

1. 7.5YR3/1 暗褐色焼土 しまりやや密、粘性弱 炭3%
- 1a. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまりやや密、粘性弱 炭3%
2. 7.5YR5/6 黄褐色焼土 しまり密、粘性無 炭2%

A153 号竪穴建物伊 2・3 (r'r')

1. 7.5YR5/8 明褐色焼土 しまり密、粘性無
2. 7.5YR5/4 に近い明褐色焼土 しまり密、粘性無

※1層が伊2、2層が伊3の燃焼部焼土

A159 号竪穴建物伊 (s's')

1. 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまり密、粘性無

A173 号竪穴建物伊 (k')

1. 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまり密、粘性無 炭1%

A174 号竪穴建物伊 1・2 (u'u')

1. 7.5YR4/4 褐色焼土 しまりやや密、粘性無 炭1%
2. 10YR4/3 に近い黄褐色 しまり密、粘性無 炭1%
3. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまり密、粘性無 炭1%

※1層が伊1、3層が伊2の燃焼部焼土

A174 号竪穴建物伊 3 (v'v'・w'w')

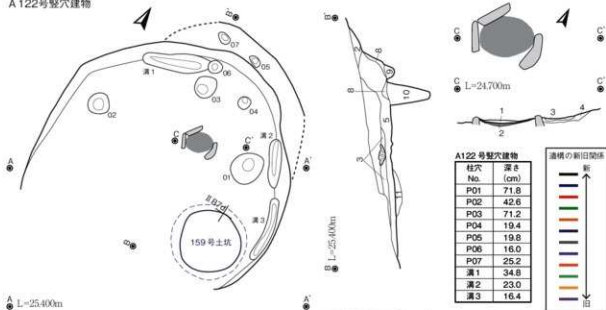
1. 7.5YR3/4 暗褐色焼土 しまり密、粘性弱 炭1%

A178 号竪穴建物伊 (x'x')

1. 7.5YR5/6 明褐色焼土 しまりやや密、粘性無 炭2%

0 1:30 1m

A122号堅穴建物

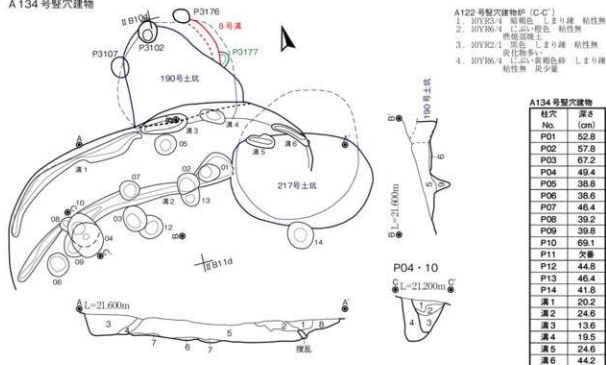


A122号堅穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	71.8
P02	42.6
P03	71.2
P04	19.4
P05	19.8
P06	16.0
P07	25.2
溝1	34.8
溝2	23.0
溝3	16.4

- A122号堅穴建物 (A-A'・B-B')
1. 10YR4/4 褐色 しまり密 粘性無 真砂土少体少量
  2. 10YR4/3 に近い黄褐色 しまり密 粘性無 真砂土少量 下位に土器多量
  3. 10YR5/6 黄褐色 しまり弱 下位に土器のまじり 真砂土少量
  4. 10YR5/4 に近い黄褐色 しまりやや弱 粘性無
  5. 10YR4/3 に近い黄褐色 しまり密 粘性無 真砂土やや多量 炭少量
  6. 10YR7/6 明黄褐色 しまり強 粘性無 真砂土ブロック (厚面崩落か) 含む
  7. 10YR4/4 褐色 しまりやや弱 粘性やや有 真砂土少量
  8. 10YR3/4 暗褐色 しまり密 粘性やや有
  9. 10YR2/3 黒褐色 しまり密 粘性やや有 真砂土少量
  10. 10YR3/4 暗褐色 しまり密 粘性やや有 P10 埋土
  11. 10YR4/3 に近い黄褐色 しまり密 粘性無 床面埋土

A134号堅穴建物



- A122号堅穴建物群 (C-C')
1. 10YR2/4 暗褐色 しまり密 粘性無
  2. 10YR6/4 に近い橙色 粘性無 炭粒混入
  3. 10YR2/1 黒色 しまり密 粘性無 炭化物多い
  4. 10YR6/4 に近い黄褐色 しまり密 粘性無 炭少量

A134号堅穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	52.8
P02	57.8
P03	67.2
P04	49.4
P05	38.6
P06	38.6
P07	46.4
P08	39.2
P09	39.8
P10	69.1
P11	変量
P12	44.8
P13	46.4
P14	41.8
溝1	20.2
溝2	24.6
溝3	13.6
溝4	19.5
溝5	24.6
溝6	44.2

- A134号堅穴建物 (A-A'・B-B')
1. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩含む
  2. 25Y8/2 灰白色 しまりやや強 粘性やや弱 黒褐色土含む 地山風化砂層
  3. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや強 粘性やや強 花崗岩粒多い
  4. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや強 粘性やや強 花崗岩ブロック多い
  5. 10YR3/2 暗褐色 しまりやや強 粘性やや強 φ1-3mmの炭2%
  6. 10YR5-3 に近い黄褐色と25Y8-2 灰白色砂の混合土
  7. 25Y7/3 浅黄色 しまりやや強 粘性やや弱 炭含む
  8. 25Y7/3 浅黄色 しまりやや強 粘性やや弱 地山崩落土
  9. 10YR1/4 褐色 しまりやや強 粘性やや弱 φ2-5mmの炭2% 地山崩落土少量

- A134号堅穴建物 P04・10 (C-C')
1. 10YR2-2 黒褐色 しまりやや強 粘性やや弱 φ1-10mmの炭10%
  2. 10YR4-2 黄褐色 粘性やや弱 花崗岩粒含む
  3. 25Y8-3 浅黄色粗砂 しまり強 粘性無
  4. 10YR4-2 灰黄褐色 粘性やや弱 2層より花崗岩粒 少ない
- ※1-3層がP04, 4層がP10埋土



第71図 A122号堅穴建物、A134号堅穴建物







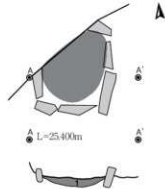








A130号竪穴建物



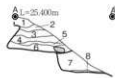
伊 (A-A')  
1. 7SVK3/4 前期色焼土 しまり硬 粘性強 現地性

0 1:30 1m

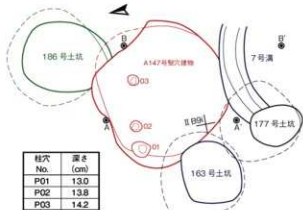
A143号竪穴建物



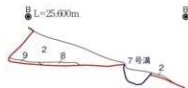
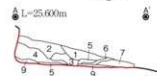
柱穴 No.	深さ (cm)
PO1	46.4



A147号竪穴建物



柱穴 No.	深さ (cm)
PO1	13.0
PO2	13.8
PO3	14.2



A143号竪穴建物・160号土坑 (A-A')

- 10V36/4 に近い黄褐色 地山ブロック多い
- 10V37/2 に近い黄褐色 しまりやや硬 地山土多い
- 10V37/2 に近い黄褐色 φ1~3mmの炭2%
- 10V37/2 に近い黄褐色 φ5mmの炭3% 地山ブロック含む
- 10V37/2 に近い黄褐色 φ10V37/1黒色の混合土
- 10V37/2 に近い黄褐色 φ1~3mmの炭2%
- 10V37/2 に近い黄褐色 φ5mmの炭3% 地山ブロック含む
- 7SV35/4 に近い褐色 しまりやや硬
- 1~6層が160号土坑、7~8層がA143号竪穴建物堆積土

A147号竪穴建物 (A-A'・B-B')

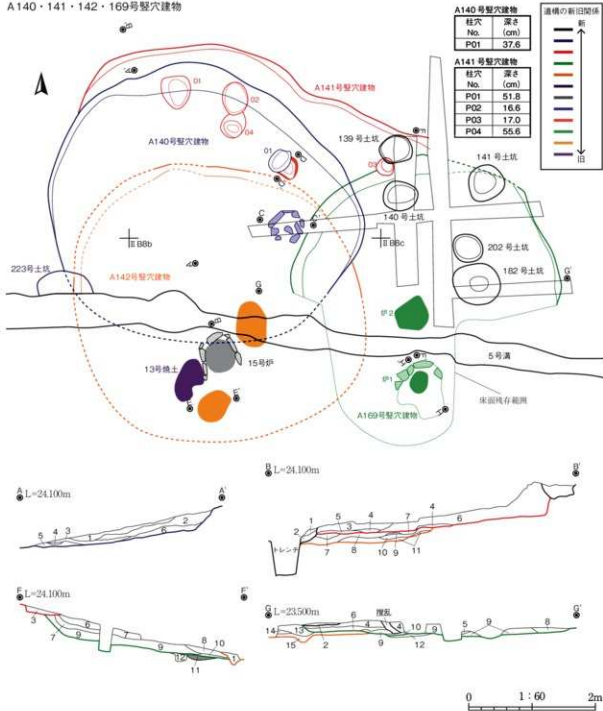
- 2SV6/4 に近い黄褐色 φ1~3mmの炭2%
- 2SV6/4 に近い褐色 しまりやや硬 地山土多い
- 2SV6/4 に近い黄褐色 しまりやや硬
- 2SV6/4 に近い黄褐色 しまりやや硬 φ2~5mmの炭5% 地山土含む
- 10V32/2 前期色 φ2~20mmの炭10%
- 2SV6/4 に近い黄褐色と地山土の混合土
- 10V25/4 に近い黄褐色 しまりやや硬 φ1~3mmの炭1%
- 10V25/2 灰黄褐色焼土 しまりやや硬 粘性やや強 花崗岩粒多い
- 7SV14/4 褐色 しまりやや硬 粘性強 花崗岩粒含む

0 1:60 2m

第78図 A130号竪穴建物、A143号竪穴建物、A147号竪穴建物



A140・141・142・169号竪穴建物

**A140号竪穴建物 (A-A')**

1. 10YR3/1 黒褐色 φ2~30mmの炭10%、土砂多量 人為堆積
2. 10YR3/2 黒褐色 φ2~30mmの炭10% 人為堆積
3. 7.5YR4/3 褐色 しまりやや密 φ2~5mmの炭少量 人為堆積
4. 10YR8/6 黄褐色 しまりやや密、粘性やや密 畑山崩れ土
5. 10YR3/2 黒褐色 φ2~30mmの炭3%
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 花崗岩粒少量

**A141・142号竪穴建物 (B-B')**

1. 10YR3/3 黒褐色 粘性やや密
  2. 2.5Y1/1 淡褐色 しまりやや密、粘性やや密
  3. 10YR3/2 黒褐色 φ2~10mmの炭3%
  4. 7.5YR5/4 にぶい褐色
  5. 10YR3/2 黒褐色
  6. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性やや密 花崗岩粒多い
  7. 7.5YR5/4 にぶい褐色
  8. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性やや密
  9. 砂層
  10. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 花崗岩粒少量
  11. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや密
  12. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや密
- ※1・2層が遺骨以外の土層上、3~6層がA141号竪穴建物。  
7~11層がA142号竪穴建物堆積土。

**A169号竪穴建物 (F-F'・G-G')**

1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密、粘性やや密
2. 10YR3/1 黒褐色 φ2~30mmの炭10% 人為堆積
3. 10YR1/3 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性やや密 花崗岩粒多い
4. 10YR3/1 黒褐色 しまりやや密 φ1~3mmの炭・焼土粒各5%
5. 2.5Y8/4 淡黄砂 しまりやや密
6. 10YR4/2 黄褐色 しまりやや密 花崗岩粒多い
7. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 φ1~3mmの炭3%、花崗岩粒多い
8. 10YR3/1 黒褐色 しまりやや密 φ1~3mmの炭・焼土粒各5%
9. 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまりやや密、粘性やや密 花崗岩粒多い
10. 5YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性やや密
11. 5YR6/6 棕色焼土 しまりやや密、粘性やや密 伊2の燃焼土
12. 10YR6/4 にぶい黄褐色 床面構築土
13. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 φ1~3mmの炭3%、花崗岩粒多い
14. 10YR5/3 にぶい黄褐色 φ1~3mmの炭3%、花崗岩粒多い
15. 10YR5/3 にぶい黄褐色 φ1~3mmの炭3%、花崗岩粒多い

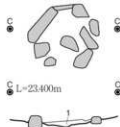
- ※1層が5号溝、2層がA140号竪穴建物、3層がA141号竪穴建物、4~12層がA169号竪穴建物、13~15層がA142号竪穴建物堆積土。

第80図 A140~142・169号竪穴建物 (1)



2 竪穴建物（縄文時代）

A140号竪穴建物伊



A140号竪穴建物伊 (C-C')

1. 75YR3/4 暗褐色 しまり密 真砂土少量

A141号竪穴建物伊 (D-D')

1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 花崗岩粒多い
2. 棕色焼土

A142号竪穴建物伊 (E-E')

1. 棕色焼土

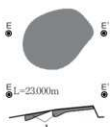
A169号竪穴建物伊1 (H-H')

1. 5YR5/2 灰褐色 しまり密 棕色焼土ブロック含む 焼熟により変化した砂の積層上
2. 75YR6/4 に近い褐色 しまりやや密 焼熟による変色範囲
3. 赤褐色焼土

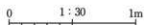
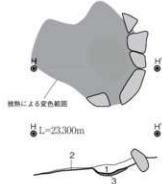
A141号竪穴建物伊



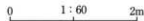
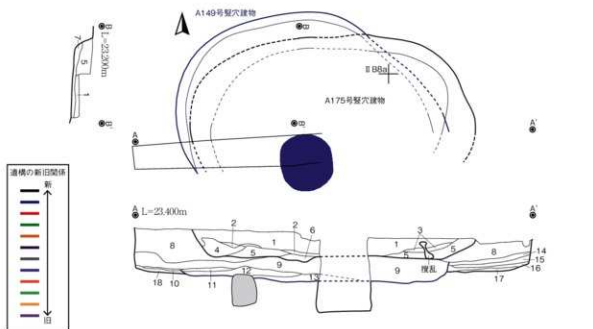
A142号竪穴建物伊



A169号竪穴建物伊1



A149・175号竪穴建物



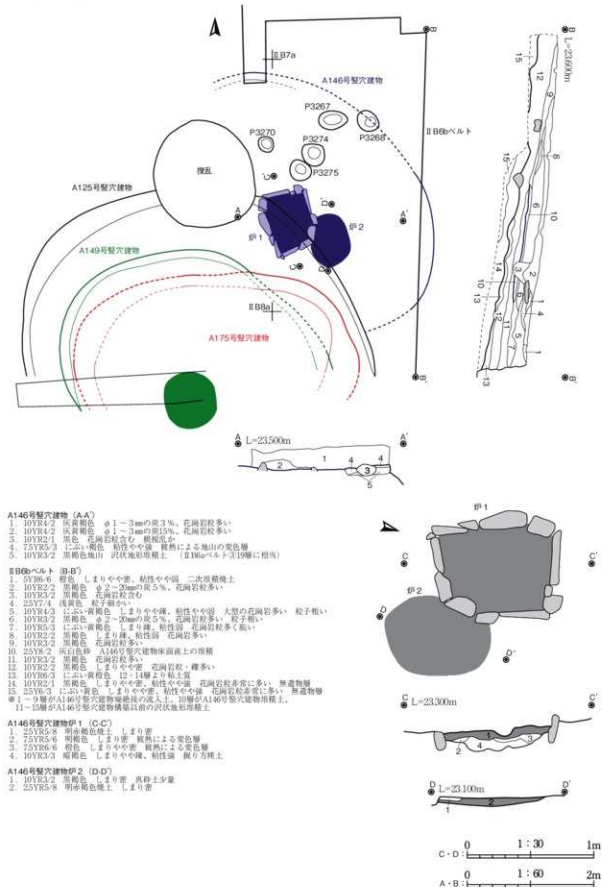
A149・175号竪穴建物 (A-A' - B-B')

1. 10YR2/2 黒褐色 粘性やや弱 φ2~3mmの粒15%、空隙に多い
2. 75YR6/6 褐色 粘性やや弱 焼土の流入土
3. 10YR2/1 黒色 しまりやや疎
4. 10YR5/3 に近い暗褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩粒多い
5. 10YR3/2 黒褐色 φ2~5mmの粒5%、花崗岩粒含む
6. 10YR5/3 に近い暗褐色 赤色粒子含む
7. 10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱
8. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 花崗岩粒多い
9. 10YR4/2 灰黄褐色 花崗岩粒含む
10. 10YR3/2 黒褐色 10YR5/4成黄褐色土含む

11. 10YR3/2 黒褐色
  12. 75YR4/3 褐色 粘性やや強 φ5~10mmの粒5%
  13. 10YR6/3 に近い黄褐色 しまり疎、粘性やや弱 焼土ブロック、花崗岩粒多量
  14. 10YR5/2 暗褐色 10YR5/4成黄褐色土含む
  15. 10YR3/2 黒褐色
  16. 10YR3/1 黒褐色 φ2~10mmの粒3%
  17. 10YR3/2 黒褐色 φ2~10mmの粒3%
  18. 10YR3/1 黒褐色 φ2~10mmの粒3%
- ※1~7層がA175号竪穴建物、9・11~13層がA149号竪穴建物埋積土。  
その他の層は重層的埋分層

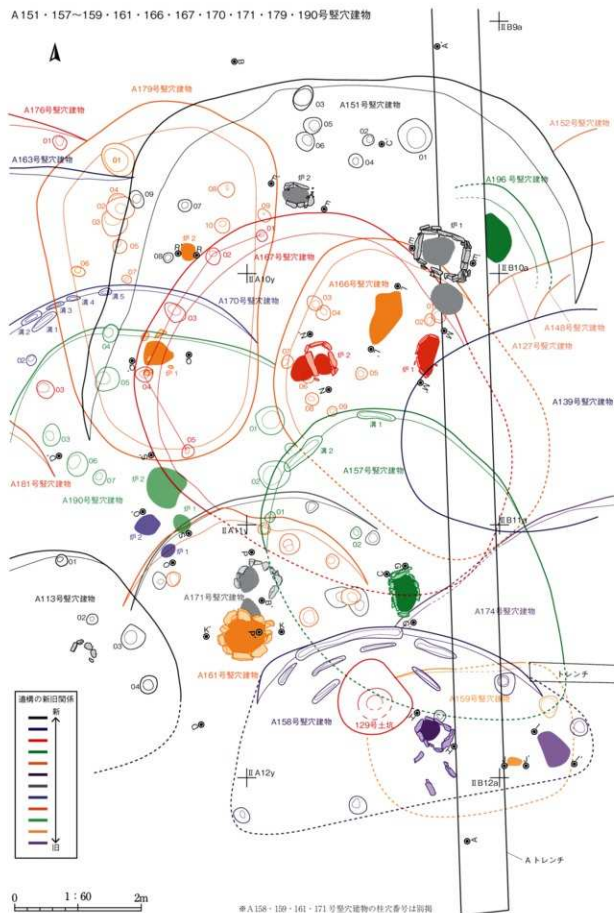
第81図 A140~142・169号竪穴建物(2)、A149・175号竪穴建物

A146号竪穴建物

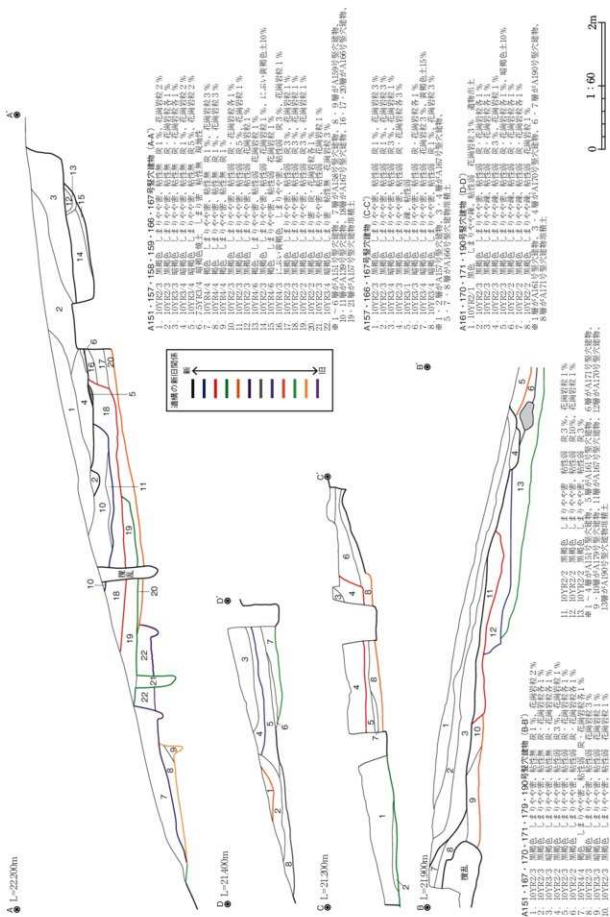


第82図 A146号竪穴建物

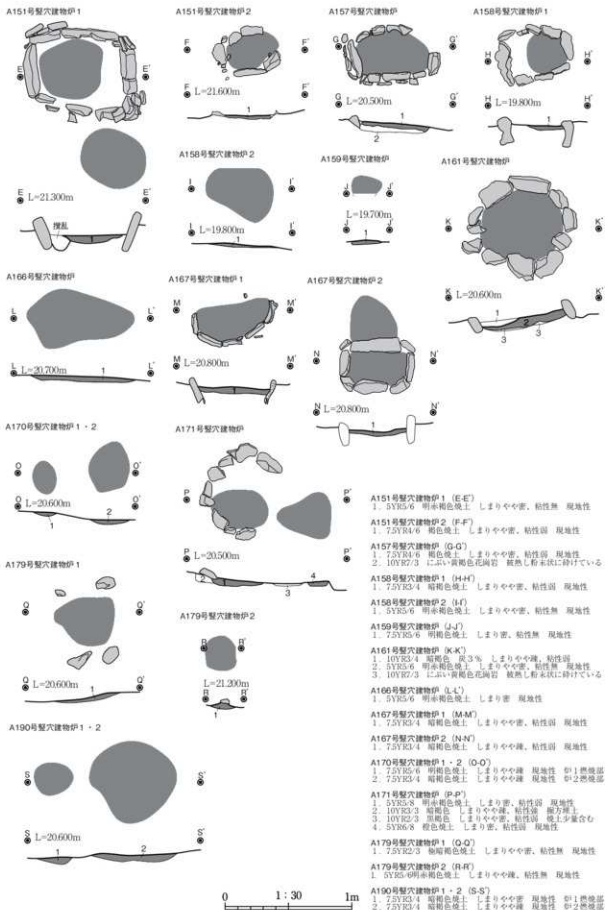
A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竪穴建物



第83図 A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竪穴建物（1）



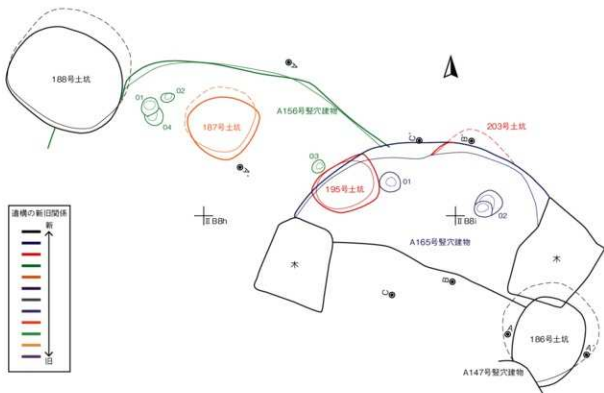
第84図 A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竪穴建物(2)



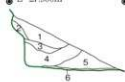
第85図 A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竪穴建物(3)



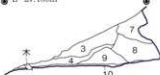
## A156・165号竪穴建物



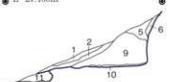
A L=27,900m



B L=27,400m



C L=27,400m



## A156号竪穴建物 (A-A')

- 25V6/3 にんい黄色 地山崩落土多い
- 25V6/4 にんい黄色砂質土 φ1-2mmの炭2%
- 25V6/2 黄褐色 地山崩落土含む
- 25V6/3 にんい黄色 地山崩落土少量
- 25V6/3 にんい黄色砂質土
- 75V R4/3 褐色粘質土 しまり密 粘性強

## A156号竪穴建物P01・03・04

- 25V7/3 浅黄色

## A156号竪穴建物P02

- 25V7/3 にんい黄色 しまりやや疎、粘性弱

## A165号竪穴建物 (B-B'・C-C')

- 10YR2/2 黒褐色
- 25V6/3 にんい黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ5-20mmの花崗岩多い
- 25V6/3 にんい黄色 φ1-2mmの炭3%
- 25V6/1 黄褐色 φ1-2mmの炭2%
- 25V6/3 黄褐色 しまりやや密 灰色地山崩落土含む
- 25V6/3 にんい黄色 φ1-2mmの炭3%
- 25V6/3 黄褐色 しまりやや密 灰色地山崩落土含む
- 25V6/3 にんい黄色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ5-20mmの花崗岩多い
- 25V6/3 にんい黄色 φ1-2mmの炭3%
- 75V R6/4 にんい褐色 しまりやや密、粘性やや強
- 25V7/4 浅黄色砂 しまりやや疎、粘性弱 下部の再堆積層

## A165号竪穴建物P01・02

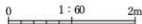
- 25V6/3 にんい黄色砂質土

## A156号竪穴建物

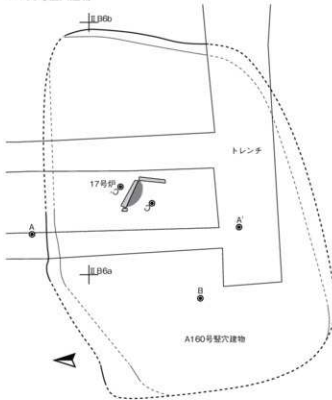
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	44.2
P02	13.2
P03	8.6
P04	24.2

## A165号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	46.6
P02	49.4



## A160号竪穴建物



## A160号竪穴建物 (A-A')

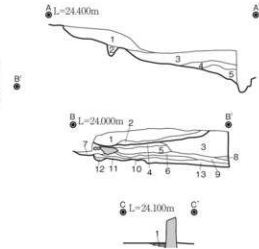
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまりやや硬、粘性やや弱  $\phi$ 1~10mmの
2. 10YR2/2 暗褐色 花崗岩粒多し
3. 10YR3/3 にぶい黄褐色 しまりやや硬、粘性やや弱 花崗岩粒多し
4. 10YR2/2 暗褐色 しまりやや硬、粘性やや弱 花崗岩粒多し
5. 10YR3/3 にぶい黄褐色 しまりやや硬、粘性やや弱 花崗岩粒多し

## A160号竪穴建物 (B-B')

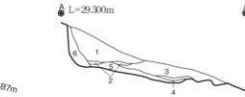
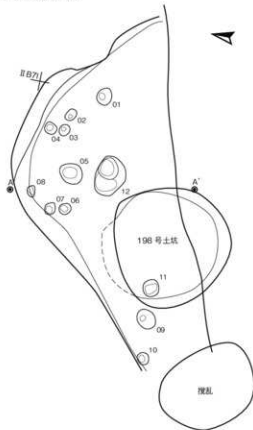
1. 10YR2/2 にぶい黄褐色 しまりやや硬、粘性やや弱  $\phi$ 1~10mmの
  2. 10YR2/2 暗褐色 しまりやや硬、粘性やや弱 花崗岩粒多し
  3. 10YR3/3 にぶい黄褐色 しまりやや硬、粘性やや弱 花崗岩粒多し
  4. 10YR3/3 にぶい黄褐色 浅黄色砂含む
  5. 7.5YR5/3 にぶい褐色
  6. 10YR2/2 暗褐色 花崗岩粒多し
  7. 7.5YR5/3 にぶい褐色
  8. 10YR2/2 暗褐色 しまりやや硬、粘性やや弱 花崗岩粒多し
  9. 10YR2/2 暗褐色 しまりやや硬、粘性やや弱 花崗岩粒含む
  10. 7.5YR5/3 にぶい褐色
  11. 棕色硬土
  12. 10YR3/3 にぶい黄褐色
  13. 10YR3/3 にぶい黄褐色 浅黄色砂含む
- ※1、2層がA160号竪穴建物層上。3層以下はA166号竪穴建物  
層の埋積土。

## 17号伊 (C-C')

1. 棕色硬土



## A168号竪穴建物



## A168号竪穴建物

1. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまりやや硬 粘性やや強  $\phi$ 5~20mmの灰5%、  
花崗岩ブロック含む
2. 10YR8/3 浅黄褐色 地山崩落土
3. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまりやや硬 粘性やや強  $\phi$ 2~20mmの灰3%
4. 10YR6/3 にぶい黄褐色 しまりやや硬 粘性やや強
5. 10YR7/3 にぶい黄褐色 しまりやや硬 粘性やや強  $\phi$ 1~5mmの灰3%
6. 10YR3/2 暗褐色 花崗岩少量

## A168号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)
P01	38.0	P07	22.4
P02	50.4	P08	7.5
P03	24.2	P09	43.4
P04	13.8	P10	19.8
P05	27.6	P11	20.4
P06	26.0	P12	47.6



第88図 A160号竪穴建物、A168号竪穴建物



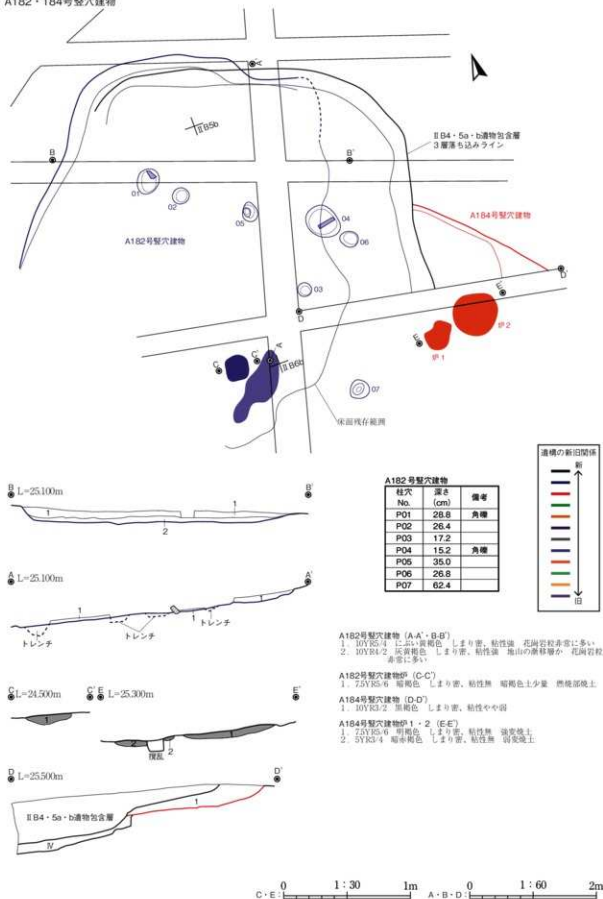






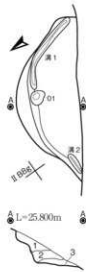


A182・184号竪穴建物

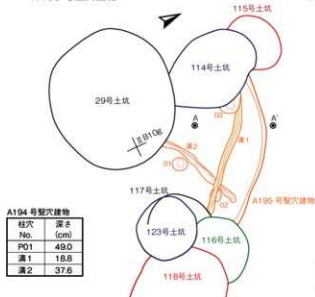


第93図 A182・184号竪穴建物

A 194 号竪穴建物

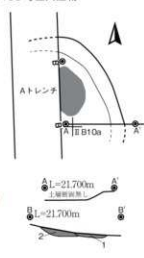


A 195 号竪穴建物



柱穴 No.	深さ (cm)
PO1	49.0
溝 1	16.8
溝 2	37.6

A 196 号竪穴建物



A 196 号竪穴建物 (A-A')

1: 黒褐色土

A 196 号竪穴建物横土 (B-B')

1: 2.5YR5/6 明褐色土、しまり密、粘性無

2: 7.5YR4/3 褐色、しまりやや密、炭 2%

A 194 号竪穴建物 (A-A')

1: 10YR2/2 黒褐色、にぶい黄褐色土を含む

2: 10YR4/3 にぶい黄褐色、花崗岩粒を含む

3: 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質土、腐食

PO1

1: 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土、しまり疎、粘性やや弱、珪砂より柔らかい



A 195 号竪穴建物

1: 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土

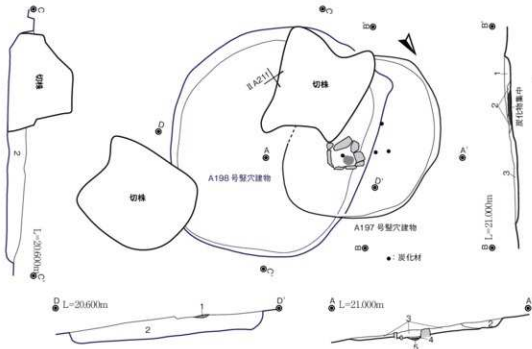
φ 1-2mm の炭 2%

A 195 号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
PO1	34.0
PO2	24.8
溝 1	16.8
溝 2	26.2



A 197・198 号竪穴建物



A 197 号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1: 10YR4/2 灰黄褐色、しまりやや疎

2: 10YR2/2 黒褐色、φ 10mm 前後の炭・焼土多量、炭は焼失した器底部材の可能性もあるが形状は不明

3: 10YR3/2 黒褐色、粘性やや弱、φ 2-5mm の炭・焼土少量、器底部材焼後の成土

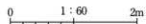
4: 10YR3/1 黒褐色、粘性やや弱、炭多量、黄褐色焼土を含む

5: 5YR7/6 褐色、しまりやや疎、粘性やや弱、焼成後成土が上面の硬化認められず、根の侵食により上位の黒褐色土混入

A 198 号竪穴建物 (C-C'・D-D')

1: 5YR7/6 褐色土、10YR3/1 黒褐色の混合土、断面上方から流れ込んだ二次用器焼土

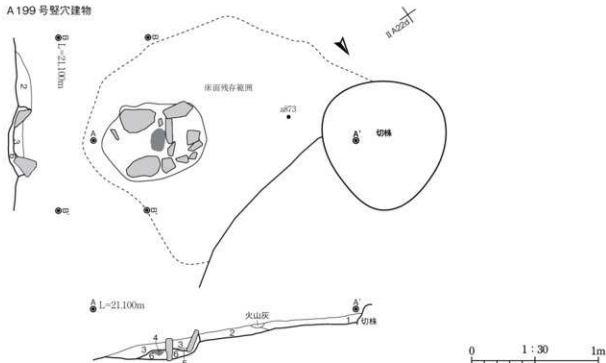
2: 10YR3/1 黒褐色、にぶい黄褐色土と明黄褐色土プロック各 15%、花崗岩粒多い



第 94 図 A 194 号竪穴建物、A 195 号竪穴建物、A 196 号竪穴建物、A 197・198 号竪穴建物

2 竪穴建物（縄文時代）

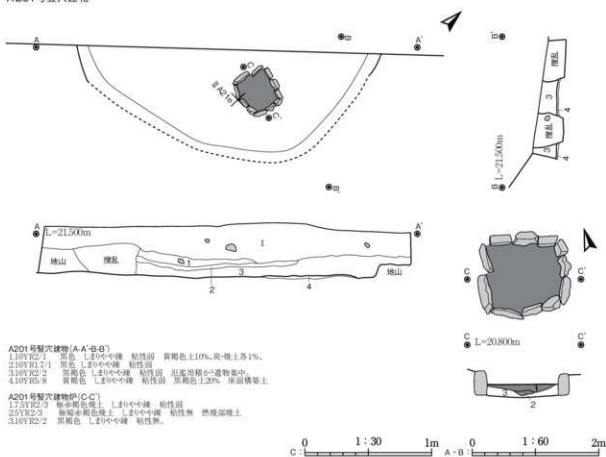
A199号竪穴建物



A199号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1. 10YR3/2 黒褐色 粒径2-10mmの花崗岩粒3%、夾層に火山灰ブロック含む 2層より粒子細かい遺物出土
2. 10YR3/2 黒褐色 粒径5-10mmの花崗岩粒10%
3. 10YR3/2 黒褐色 70%に焼土粒混入 2層より粒子細かい山菜は同じ
4. 7.5YR2/6 褐色 しまりやや硬、粘性やや弱 規整性焼土
5. 10YR2/1 黒褐色 しまり硬、粘性弱 炭化物層 木灰の細片多量、直下に極薄い焼土層があることから焼成時に形成されたと考えられる
6. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや硬、粘性やや弱、石を振り方角の上及び底面構築上。

A201号竪穴建物



A201号竪穴建物 (A-A'・B-B')

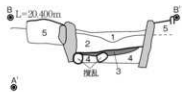
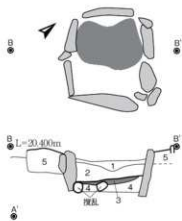
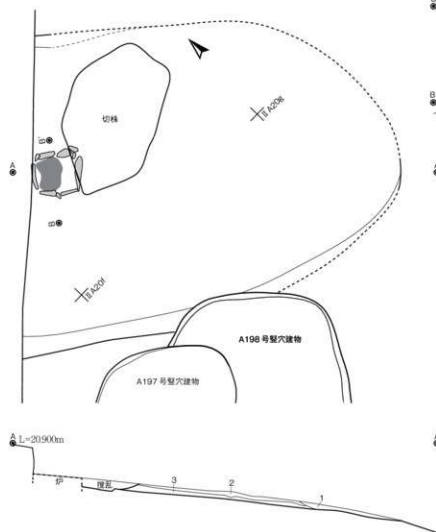
1. 10YR2/1 黒色 しまりやや硬 粘性弱 黄褐色土10%、灰・焼土各1%
2. 10YR1.7/1 黒色 しまりやや硬 粘性弱
3. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや硬 粘性弱 紅土層の中遺物集中
4. 10YR2/8 黄褐色 しまりやや硬 粘性弱 黒褐色土20% 床面構築上

A201号竪穴建物 (C-C')

1. 7.5YR2/3 黄赤褐色焼土 しまりやや硬 粘性弱
2. 2.5YR2/3 極暗赤褐色焼土 しまりやや硬 粘性無 微炭層焼土
3. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや硬 粘性無

第95図 A199号竪穴建物、A201号竪穴建物

## A 200 号竪穴建物

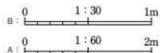


## A200 号竪穴建物 [A-A']

1. 10YR5/2 黒褐色と 2.5Y7/4 浅黄色の混合土 しまりやや疎、粘性やや弱
2. 2.5Y7/4 浅黄色砂 しまり疎、粘性弱 花崗岩が多い
3. 10YR5/1 黒褐色 浅黄色砂 30%

## 戸 [B-B']

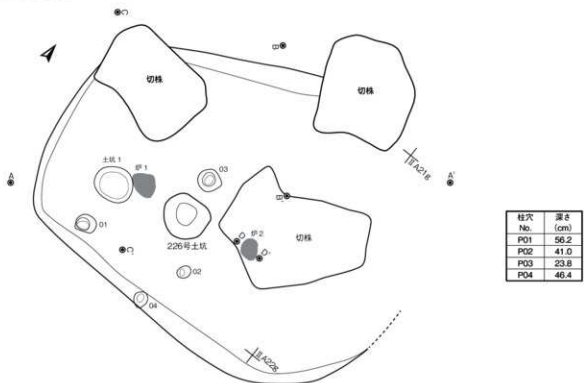
1. 10YR2/1 黒色  $\phi 10 - 20$  mm の屑 5%、焼土ブロッケ含む 住居層粘土より灰・焼土多い
2. 7.5YR5/4 に近い褐色  $\phi 5$  mm の焼土ブロッケ含む
3. 5YR4/8 赤褐色焼土 しまりやや疎粘性弱
4. 10YR2/1 黒色 しまりやや疎、粘性弱
5. 10YR4/6 褐色粘質土 しまりやや密、粘性無 黒色土・黒褐色土各 10% 礫石の埋入方礫土



第 96 図 A 200 号竪穴建物



A202号竪穴建物



柱穴 No.	深さ (cm)
P01	56.2
P02	41.0
P03	23.8
P04	46.4



A202号竪穴建物 (A-A'・B-B'・C-C')

1. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや雑、粘性やや弱 黄色土山ゾック2%、遺物多量包含  
 2. 10YR2/1 黒色 しまりやや雑、粘性やや弱 遺物多量包含する流入土

伊1

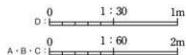
1. 5YR3/6 暗赤褐色土 しまり雑、粘性弱 炭灰部焼土

伊2 (D-D')

1. 5YR3/6 暗赤褐色土 しまりやや雑、粘性弱 炭灰部焼土

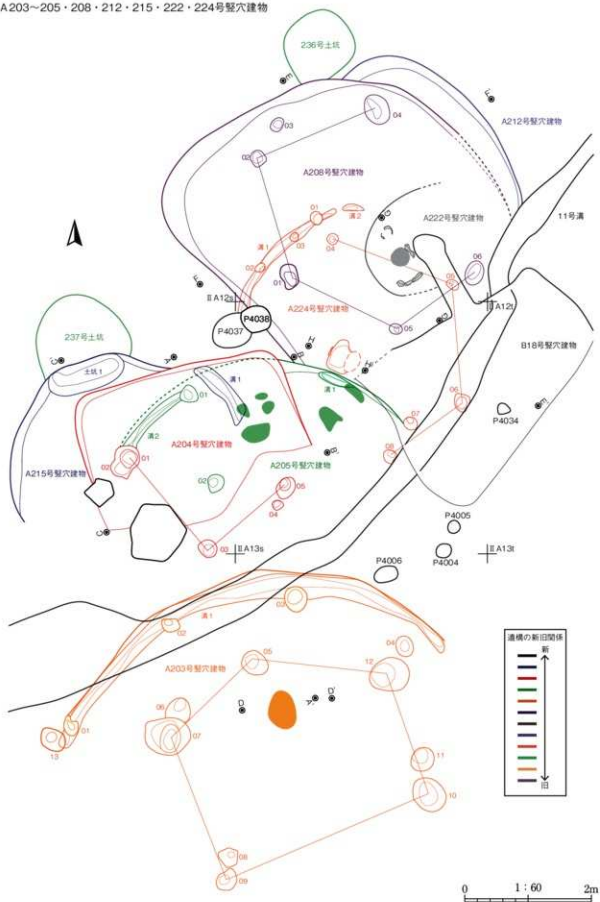
土坑1

1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや雑、粘性弱



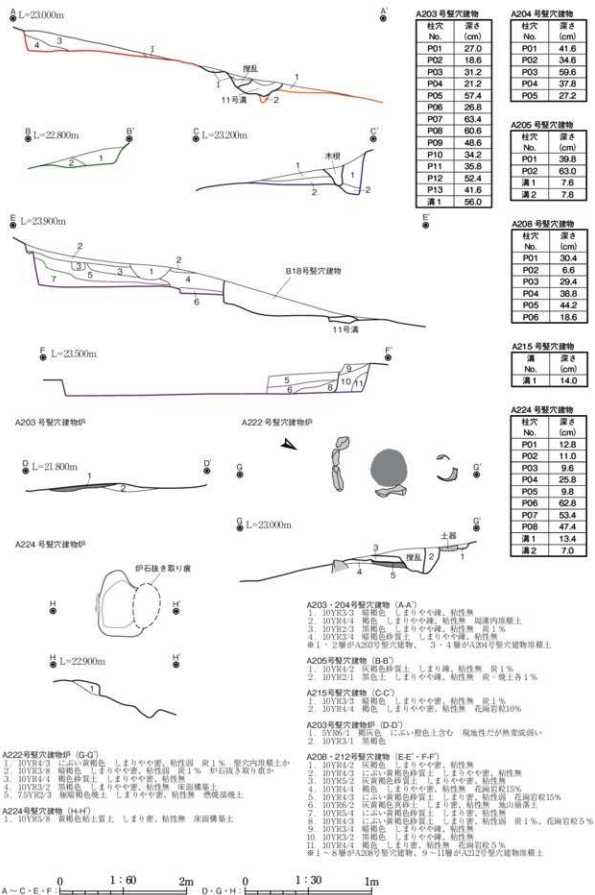
第97図 A202号竪穴建物

A203~205・208・212・215・222・224号竪穴建物



第98図 A203~205・208・212・215・222・224号竪穴建物 (1)

2 竪穴建物 (縄文時代)

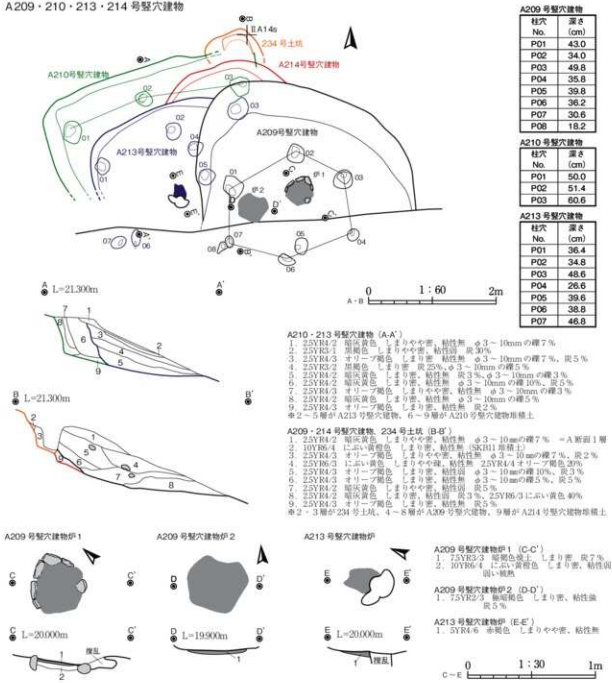


第99図 A 203～205・208・212・215・222・224号竪穴建物 (2)





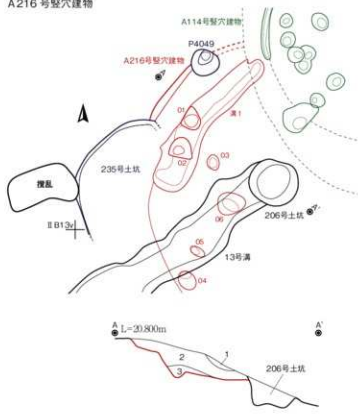
A209・210・213・214号竪穴建物



第102図 A209・210・213・214号竪穴建物

2 堅穴建物（縄文時代）

A216号堅穴建物



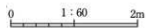
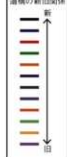
A216号堅穴建物 (A-A')

1. 10YR2/1 黒色 しまりややせ、粘性無 表土
2. 10YR3/2 黒褐色 しまりややせ、粘性無 花崗岩粒 15%
3. 10YR4/4 褐色 しまりややせ、粘性無 花崗岩粒 10%

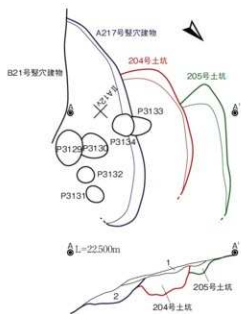
A216号堅穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
PO1	56.4
PO2	25.6
PO3	21.6
PO4	38.9
PO5	21.3
PO6	29.3
溝1	36.1

遺構の新旧関係



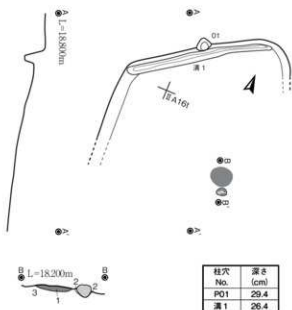
A217号堅穴建物



A217号堅穴建物 (A-A')

1. 10YR2/1 黒色 しまりややせ、粘性無L 花崗岩粒 1%
  2. 10YR3/4 暗褐色 しまりややせ、粘性無L 炭・花崗岩粒各 1%
- ※ 1層は表土、2層がA217号堅穴建物築造土

A225号堅穴建物



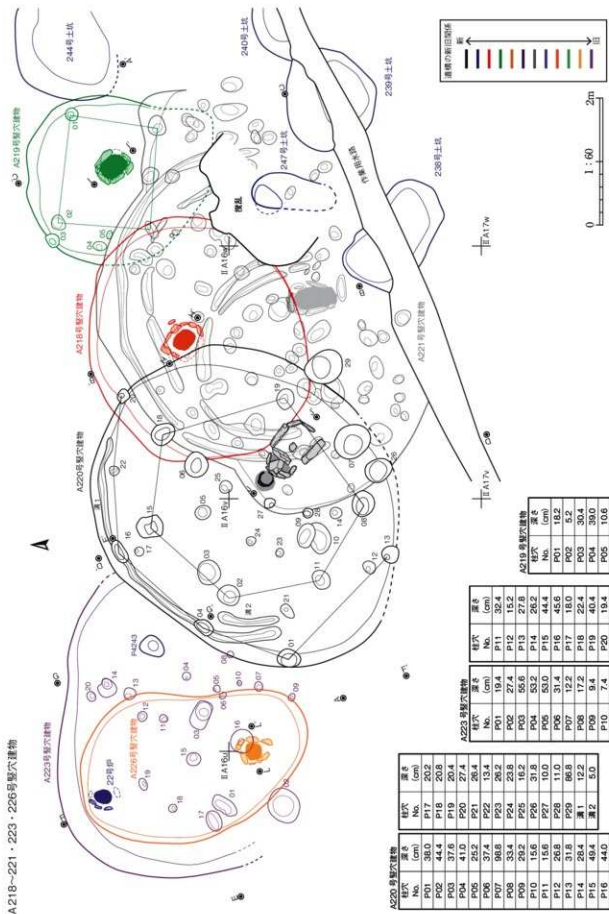
A225号堅穴建物(B-B')

1. 25YR4/8 赤褐色黄砂混シロト しまりややせ、粘性やや弱 強燻焼土
2. 10YR2/3 黒褐色黄砂混シロト しまりややせ、粘性やや弱 中石層り方理土
3. 10YR3/4 暗褐色黄砂混シロト しまりややせ、粘性やや弱 中央調査区高西側-北ト6層と同じ強燻焼土層

柱穴 No.	深さ (cm)
PO1	29.4
溝1	26.4

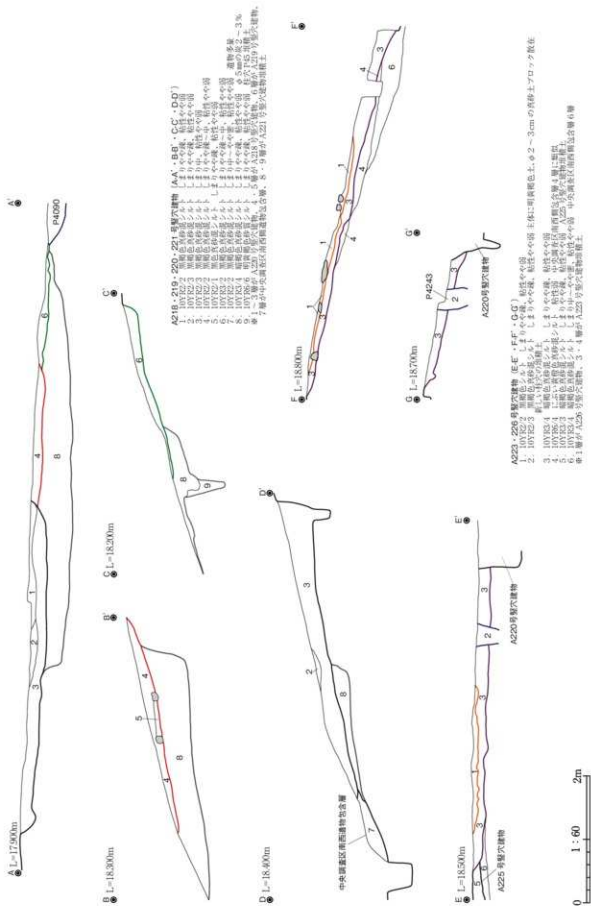


第103図 A216号堅穴建物、A217号堅穴建物、A225号堅穴建物



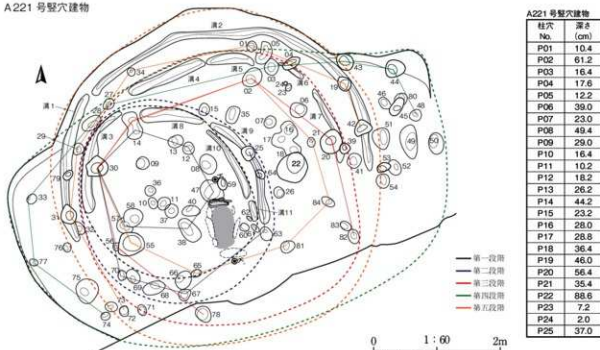
第104図 A 218～221・223・226号竪穴建物(1)





第105図 A 218 ~ 221・223・226号竪穴建物(2)

A221 号竪穴建物

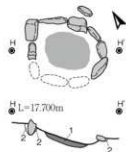


A221 号竪穴建物

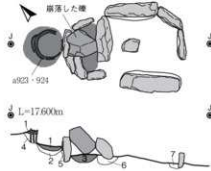
柱穴 No.	深さ (cm)
P01	10.4
P02	61.2
P03	16.4
P04	17.6
P05	12.2
P06	39.0
P07	23.0
P08	49.4
P09	29.0
P10	16.4
P11	10.2
P12	18.2
P13	26.2
P14	44.2
P15	23.2
P16	28.0
P17	28.8
P18	36.4
P19	46.0
P20	56.4
P21	35.4
P22	88.6
P23	7.2
P24	2.0
P25	37.0

柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)	柱穴 No.	深さ (cm)
P26	8.6	P36	18.8	P46	17.2	P56	20.6	P66	45.6	P76	7.8
P27	14.0	P37	10.6	P47	70.4	P57	33.2	P67	49.0	P77	21.6
P28	10.6	P38	28.4	P48	17.2	P58	64.4	P68	19.6	P78	41.6
P29	22.2	P39	14.0	P49	66.0	P59	27.8	P69	17.4	P79	20.0
P30	34.8	P40	49.0	P50	52.4	P60	14.8	P70	16.6	P80	19.8
P31	32.6	P41	17.4	P51	50.4	P61	10.0	P71	17.8	P81	29.4
P32	10.2	P42	15.6	P52	18.2	P62	6.0	P72	17.2	P82	13.6
P33	30.4	P43	31.6	P53	14.2	P63	35.2	P73	17.6	P83	16.0
P34	8.6	P44	31.2	P54	23.6	P64	13.6	P74	20.6	P84	23.0
P35	13.4	P45	64.4	P55	65.2	P65	25.2	P75	27.2	P85	25.8

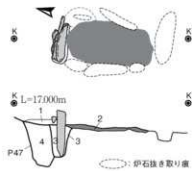
A218 号竪穴建物伊



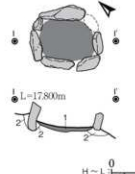
A220 号竪穴建物伊



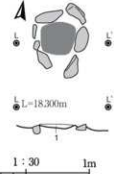
A221 号竪穴建物伊



A219 号竪穴建物伊



A226 号竪穴建物伊



A218 号竪穴建物伊 (H-H')

1. 5YR3/6 暗赤褐色真砂混シルト しまりや中硬～中、粘性や中弱

2. 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中弱 礫石混り方

A219 号竪穴建物伊 (I-I')

1. 5YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまりや中硬、強変質土

2. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルト しまりや中硬、粘性や中弱 礫石混り方

A220 号竪穴建物伊 (J-J')

1. 5YR4/6 赤褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中弱 強変質土

2. 5YR4/8 赤褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中弱 1層の下部細砂層

3. 5YR4/8 赤褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中弱 強変質土

4. 10YR4/4 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬～中、粘性や中弱 薄層上段層り方

5. 10YR2/3 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬～中、粘性や中弱 礫石混り方

6. 10YR3/3 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬～中、粘性や中弱 礫石混り方

7. 10YR2/3 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬～中、粘性や中弱 礫石混り方

A221 号竪穴建物伊 (K-K')

1. 10YR8/6 黄褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中弱 礫石混り方

2. 5YR2/6 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中弱 礫石混り方

3. 10YR4/4 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中弱 礫石混り方

4. 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中弱 PG堆積土

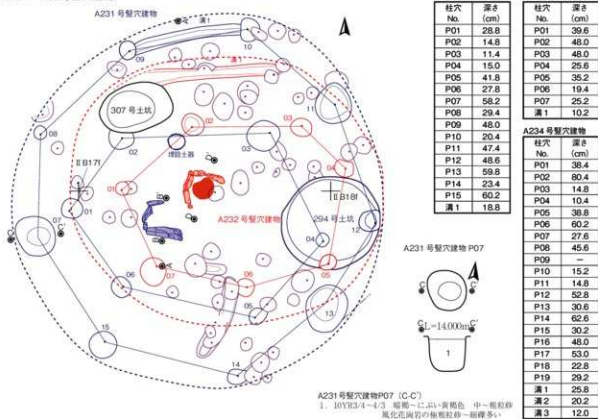
A226 号竪穴建物伊 (L-L')

1. 7.5YR4/6 暗褐色土 しまりや中硬、粘性や中弱 炭7%

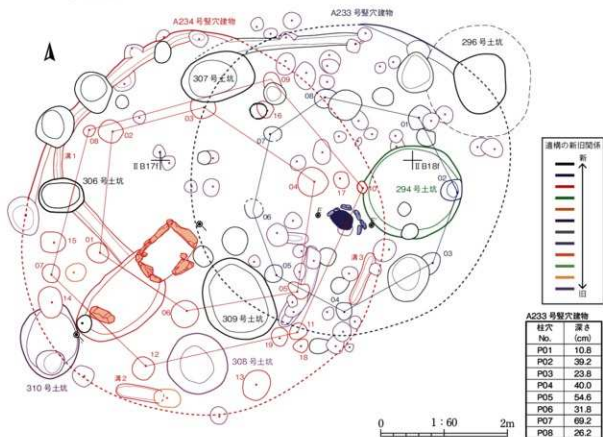
第 106 図 A 218～221・223・226 号竪穴建物 (3)



## A231・232号竪穴建物

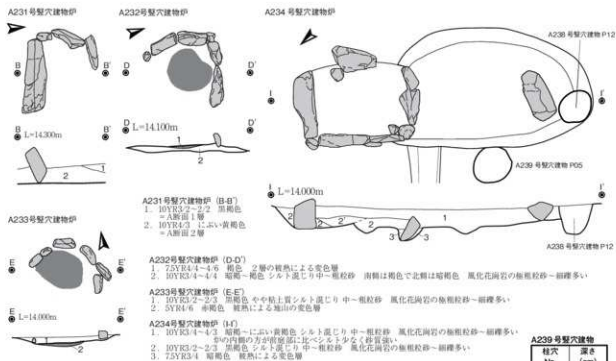


## A233・234号竪穴建物

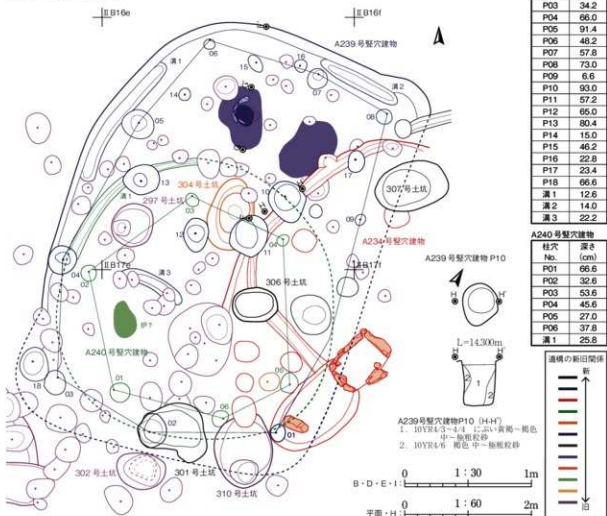


第108図 A231～234・239・240号竪穴建物(2)

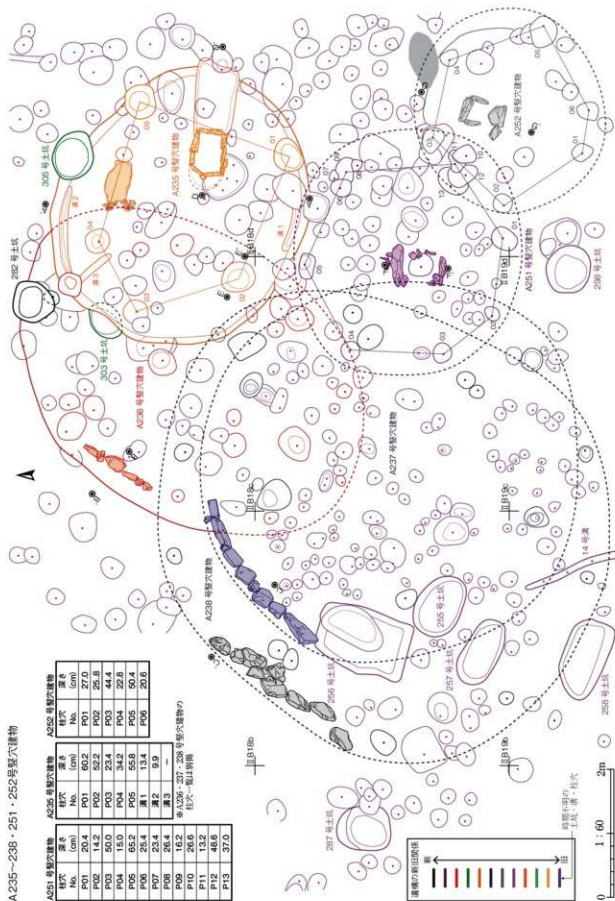
2 竪穴建物 (縄文時代)



A239・240号竪穴建物



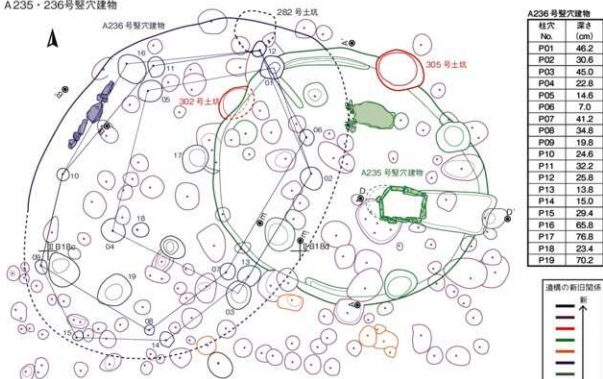
第 109 図 A 231～234・239・240号竪穴建物 (3)



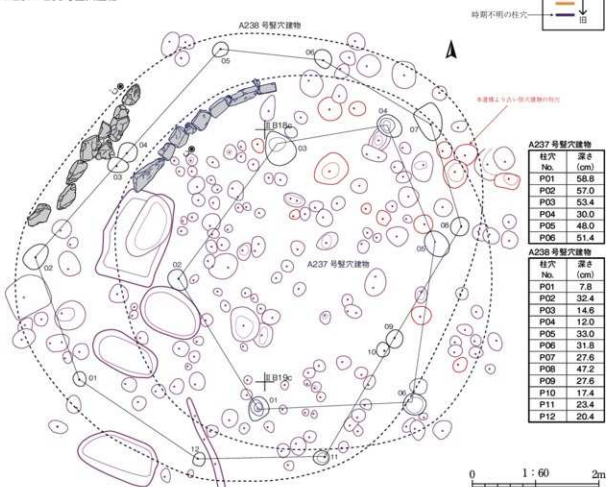
第110図 A 235~238・251・252号竪穴建物(1)



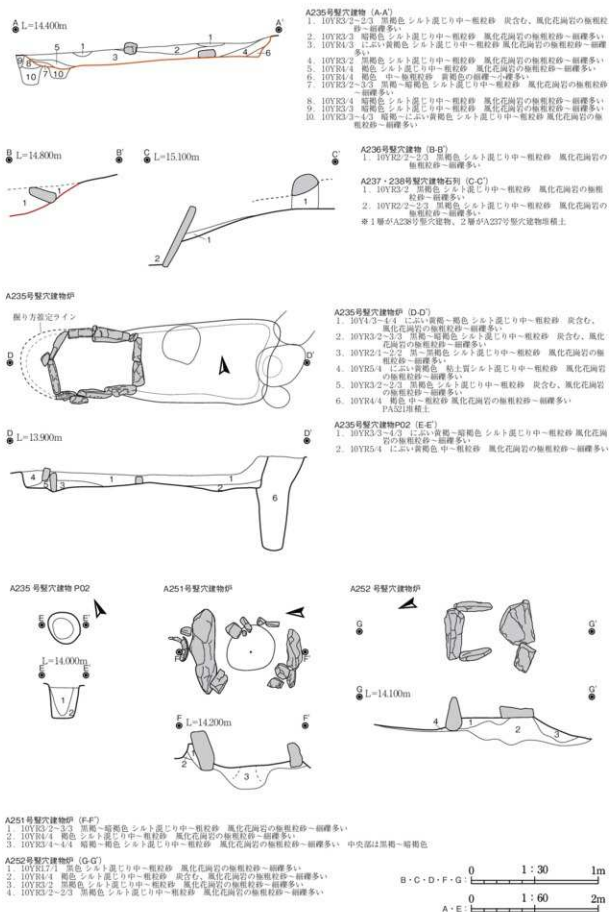
A235・236号竪穴建物



A237・238号竪穴建物



第111図 A235～238・251・252号竪穴建物(2)

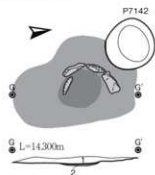


第 112 図 A 235～238・251・252 号壱穴建物 (3)



## 2 竪穴建物（縄文時代）

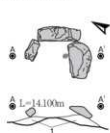
A239号竪穴建物伊



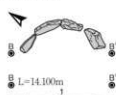
A239号竪穴建物伊 (G-G')

1. 753E33/4-4/3 扇形～扇形 シルト若干混じる 中～粗粒砂
2. 5Y3/3/6-4/6 扇形～扇形 黄褐色 自然による風山黄褐色

A241号竪穴建物伊



A253号竪穴建物伊

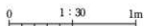


A241号竪穴建物伊 (A-A')

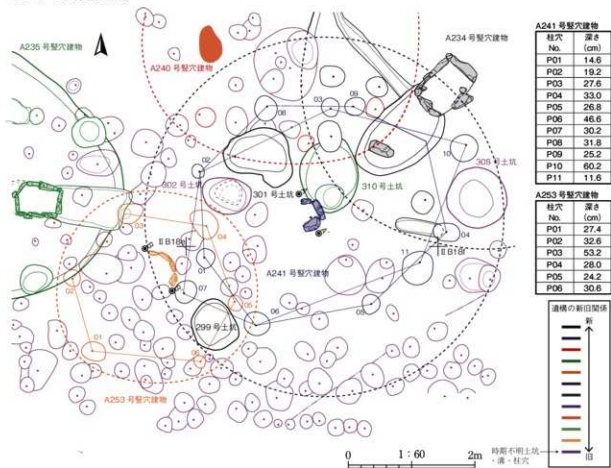
1. 10Y3/3/4-4/3 扇形～にぶい黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細粒多い

A253号竪穴建物伊 (B-B')

1. 10Y3/3/3 扇形色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の極粗粒砂～細粒多い

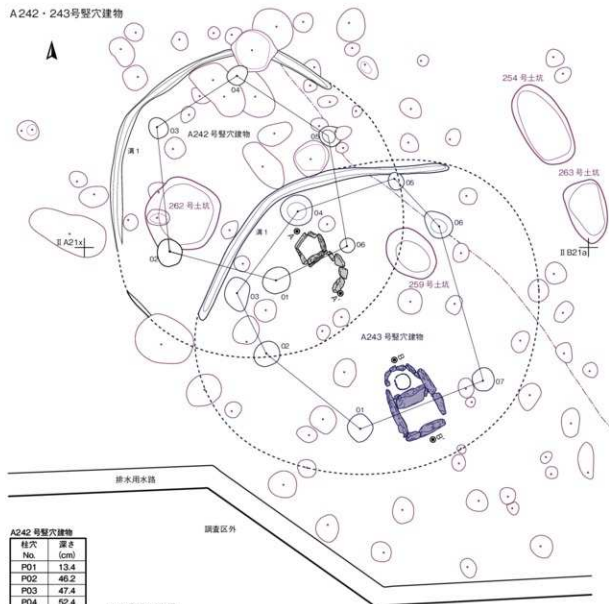


A241・253号竪穴建物



第 113 図 A 239 号竪穴建物、A 241・253 号竪穴建物

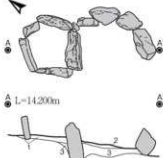
A242・243号竪穴建物



A242号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	13.4
P02	46.2
P03	47.4
P04	52.4
P05	39.6
P06	19.2
溝1	27.6

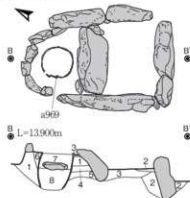
A242号竪穴建物印



A243号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	10.4
P02	30.0
P03	16.4
P04	39.0
P05	37.2
P06	52.2
P07	17.4
溝1	32.4

A243号竪穴建物印



A242号竪穴建物印 (A-A')

1. 10YR2/2 黒褐色シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～粗礫多い
2. 10YR2/3 黒褐色シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～粗礫多い
3. 10YR4/3 に近い黄褐色中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～粗礫多い

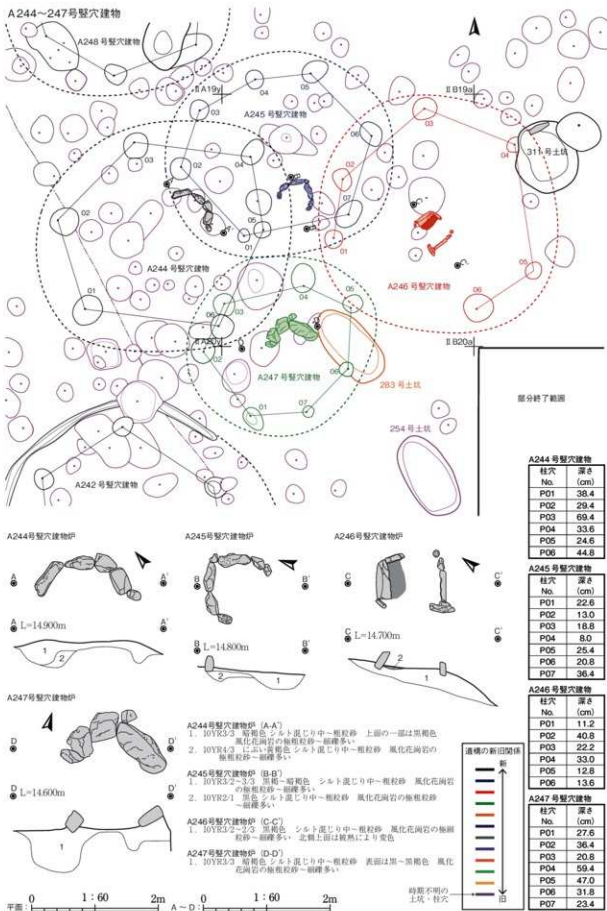
A243号竪穴建物印 (B-B')

1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～粗礫多い
2. 10YR2/2 黒褐色シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～粗礫多い
3. 10YR2/1 黒色シルト 風化花崗岩の粗粒粒砂含む
4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～粗礫多い
5. 7.5YR2/2-3/3 灰黒～暗褐色シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～粗礫多い
6. 10YR2/4 に近い黄褐色中～粗粒粒砂
7. 10YR2/2 黒褐色シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～粗礫多い
8. 10YR2/1 黒色砂質シルト

A-B 0 1:30 1m

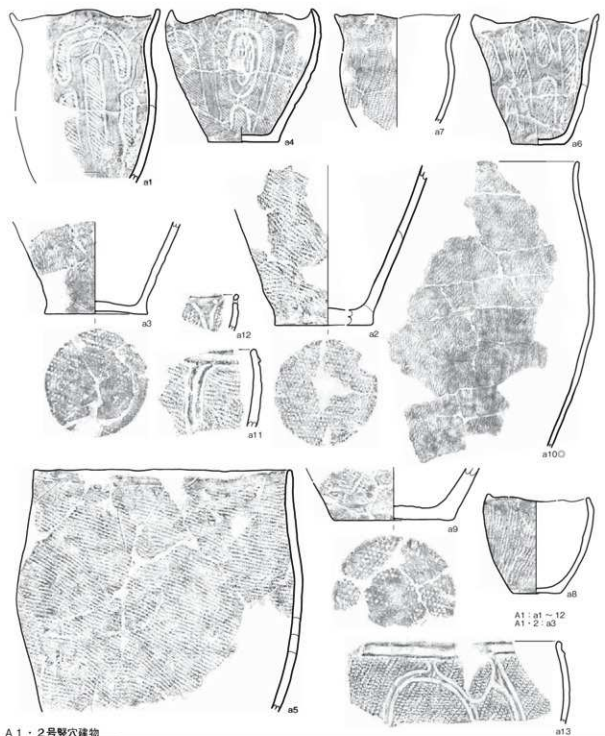
平面 0 1:60 2m

第114図 A242・243号竪穴建物



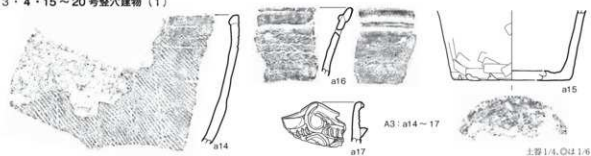
第 115 図 A 244 ~ 247 号竪穴建物





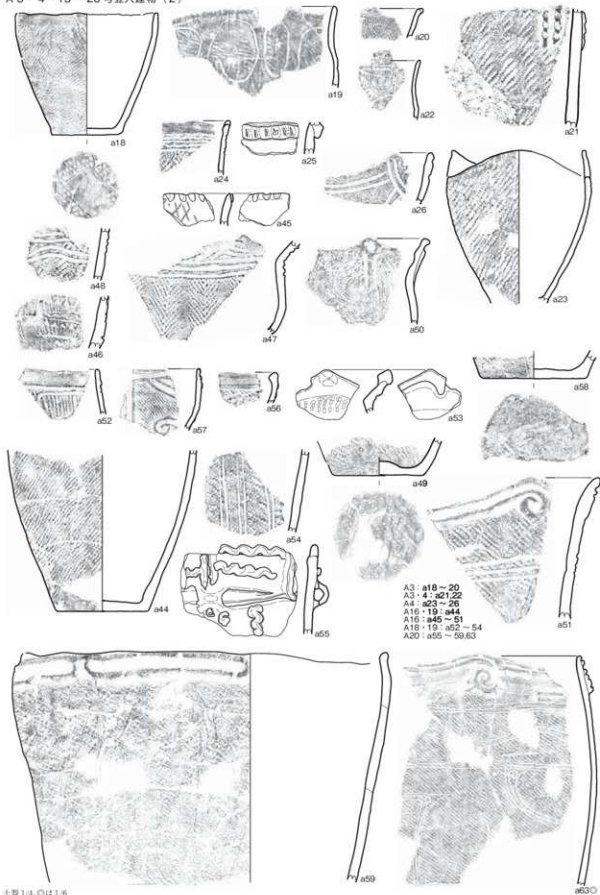
A1・2号竪穴建物

A3・4・15～20号竪穴建物(1)



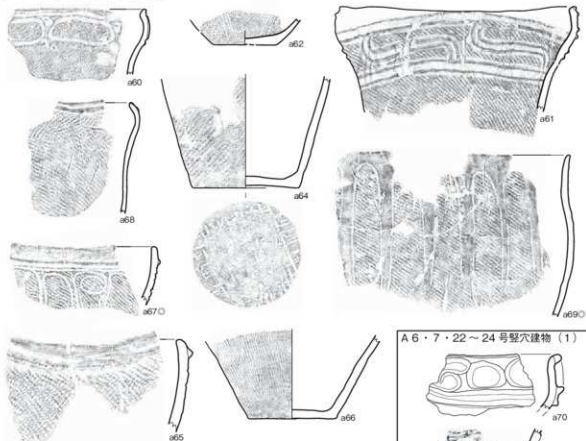
第117図 竪穴建物出土土器集成図(1)

A3・4・15～20号竪穴建物(2)

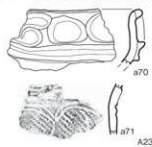


第118図 竪穴建物出土土器集成図(2)

A 3・4・15～20号竪穴建物 (3)

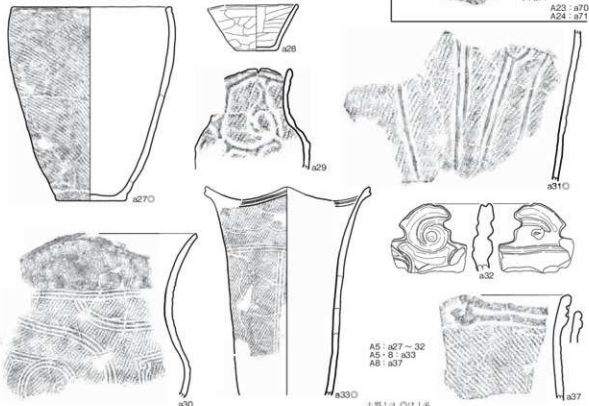


A 6・7・22～24号竪穴建物 (1)



A20 : a60 ~ 62, 64 ~ 69

A 5・8号竪穴建物



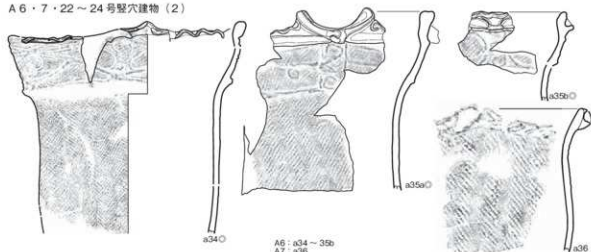
A5 : a27 ~ 32  
A5・8 : a33  
A8 : a37

1:5 1/4, 0.4 1/6

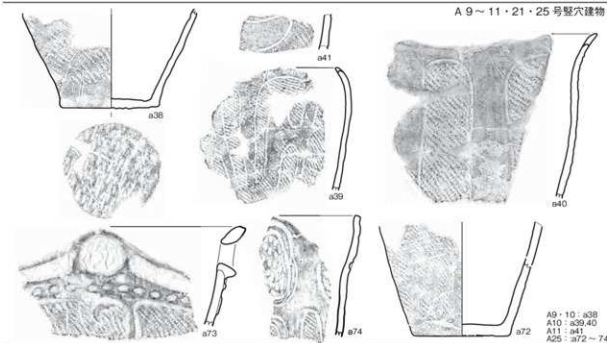
第 119 図 竪穴建物出土土器集成図 (3)



A 6・7・22～24号鬘穴建物(2)



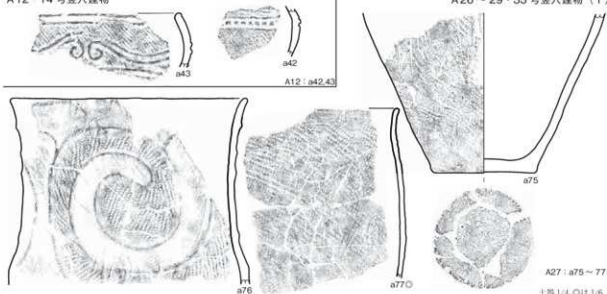
A 9～11・21・25号鬘穴建物



A12・14号鬘穴建物



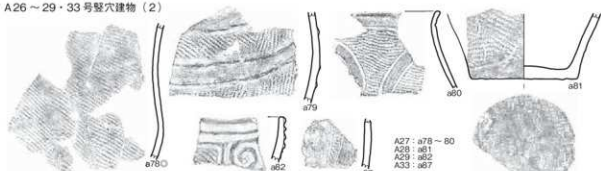
A26～29・33号鬘穴建物(1)



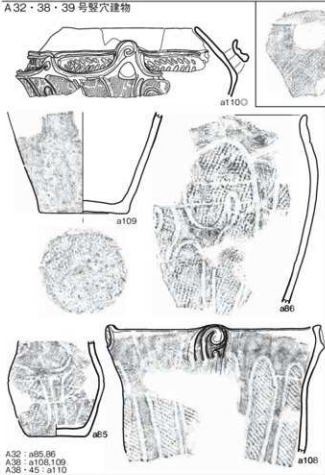
第120図 鬘穴建物出土土器集成図(4)



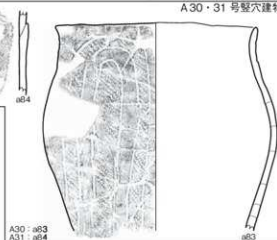
A26 ~ 29・33号竖穴建物 (2)



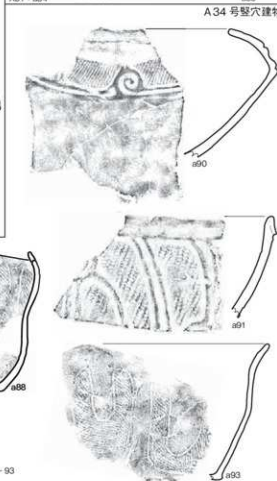
A32・38・39号竖穴建物



A30・31号竖穴建物

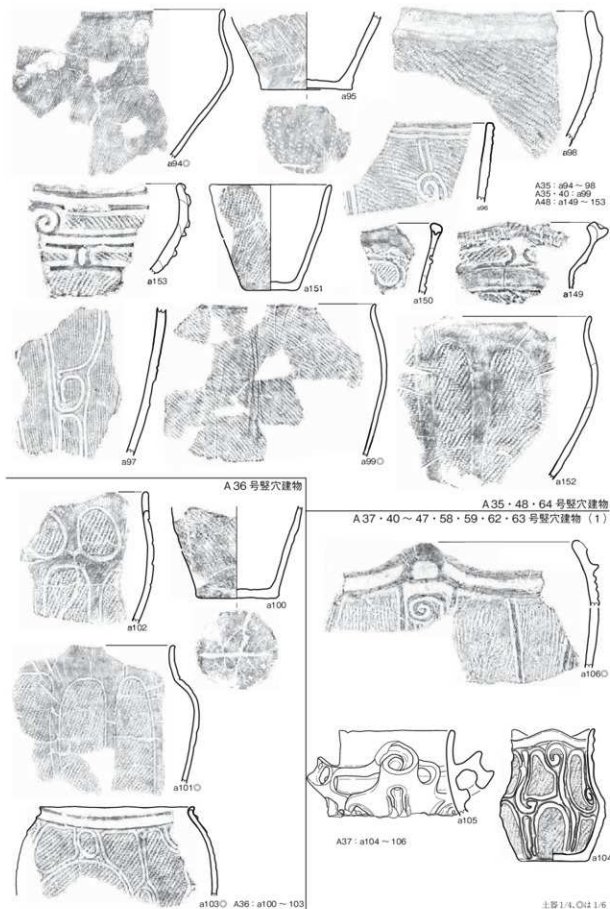


A34号竖穴建物



上図 1/4, O14 1/6

第121图 竖穴建物出土土器集成图(5)



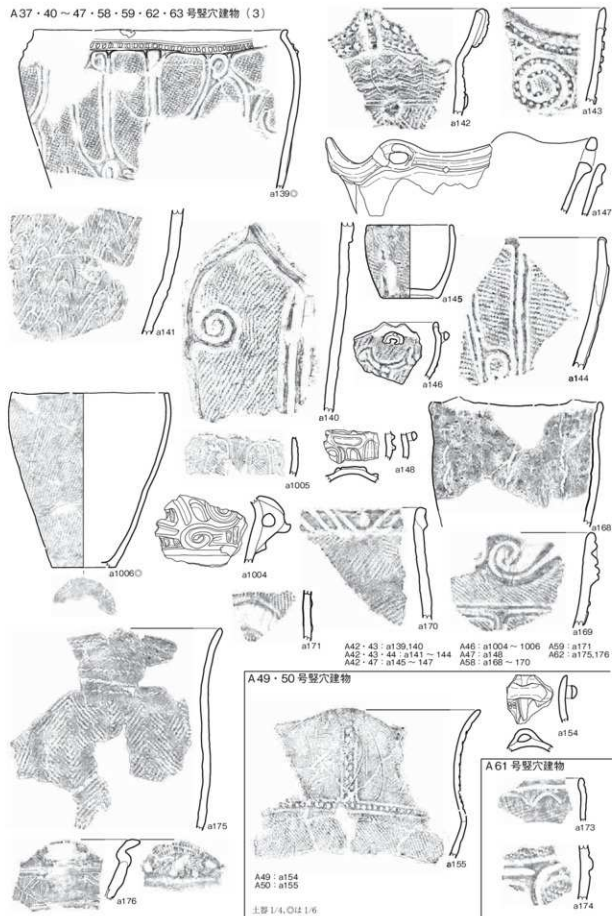
第 122 図 竪穴建物出土土器集成図 (6)

A37・40～47・58・59・62・63号竖穴建物 (2)

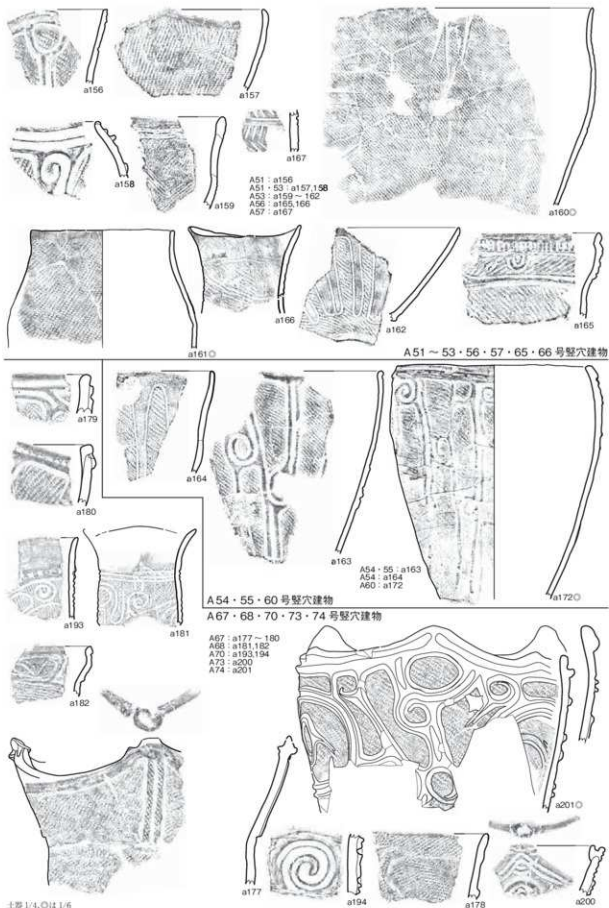


第123図 竖穴建物出土土器集成図 (7)

## A37・40～47・58・59・62・63号竪穴建物(3)

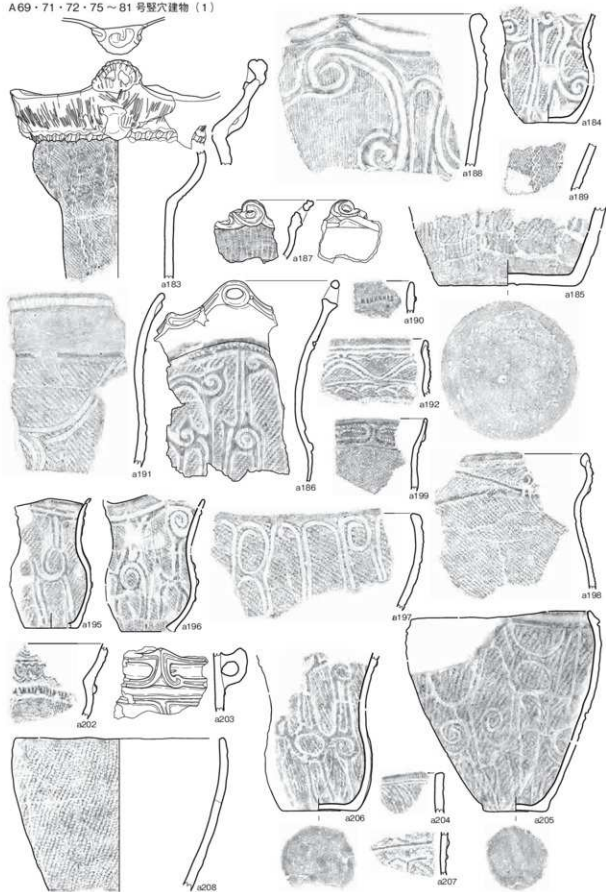


第124図 竪穴建物出土土器集成図(8)



第125図 竪穴建物出土土器集成図(9)

A69・71・72・75～81号竪穴建物(1)



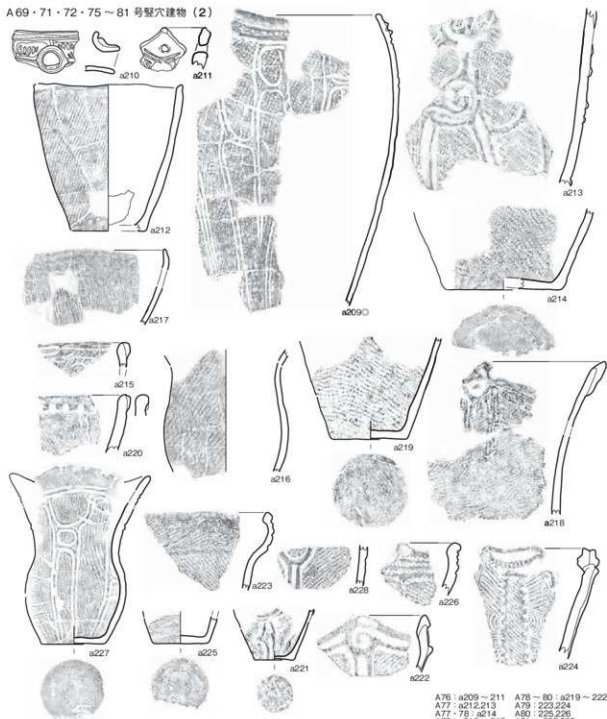
土器1/4.011 1/6

A69・a183・185～192 A69・75:a184 A72・78:a195～199 A75:a202,203 A75・77:a204 A76:a205～208

第126図 竪穴建物出土土器集成図(10)

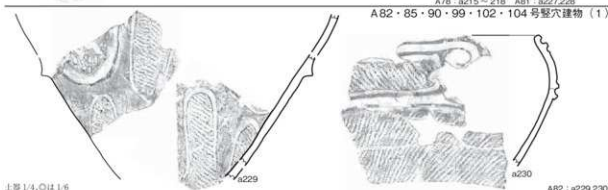


A 69・71・72・75～81号竖穴建物 (2)



A76 : a209 ~ 211    A78 ~ 80 : a219 ~ 222  
 A77 : a212, 213    A79 : 223, 224  
 A77・78 : a214    A80 : 225, 226  
 A78 : a215 ~ 218    A81 : a227, 228

A 82・85・90・99・102・104号竖穴建物 (1)

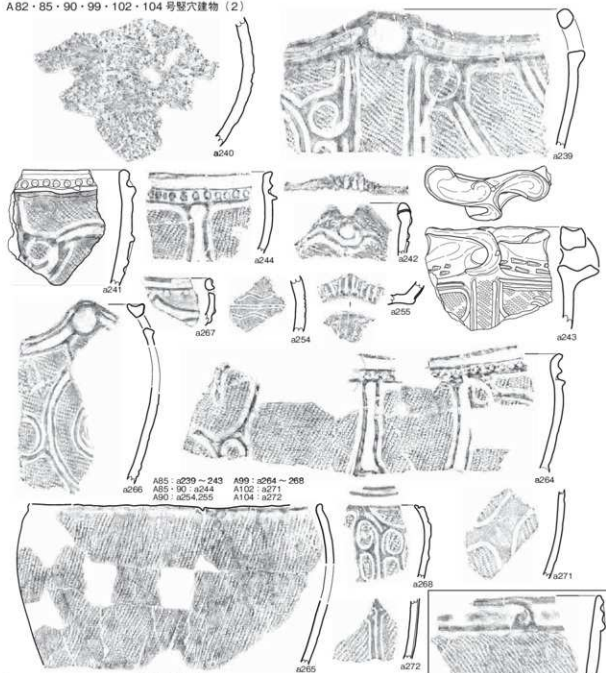


上: 1/4, 下: 1/6

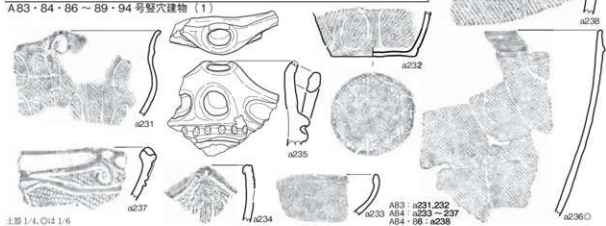
A82 : a229, 230

第 127 图 竖穴建物出土土器集成图 (11)

A82・85・90・99・102・104号竪穴建物(2)



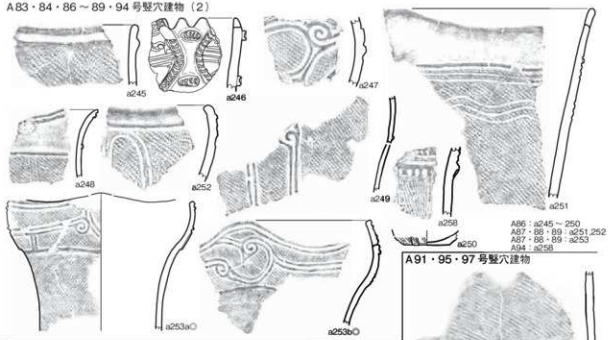
A83・84・86～89・94号竪穴建物(1)



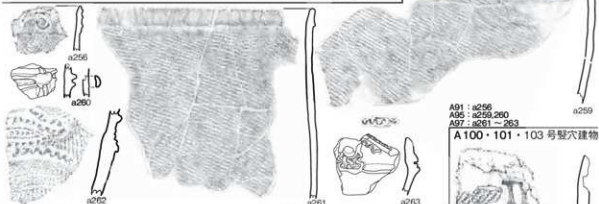
第128図 竪穴建物出土土器集成図(12)



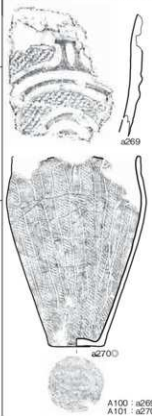
A83・84・86～89・94号竖穴建物(2)



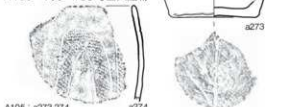
A91・95・97号竖穴建物



A100・101・103号竖穴建物



A105・106・133号竖穴建物



A105: a273, 274

A102号竖穴建物



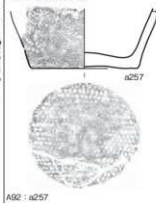
A102: a271

A107号竖穴建物(1)



1:3 1/4, 0.4 1/6

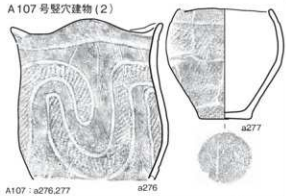
A92号竖穴建物



A92: a257

第129图 竖穴建物出土土器集成图(13)

A107号竪穴建物(2)



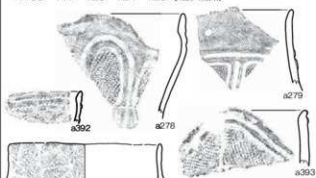
A107 : a276,277

a276



a395

A108・117・123・124・128号竪穴建物

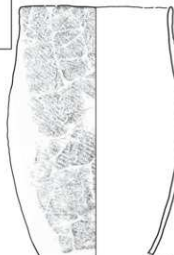


a392

a278

a279

a393



a394



a421



a422



a451

A108 a278,279  
 A117 a392~395  
 A123 a421  
 A124 a422  
 A128 a451

A109号竪穴建物(1)



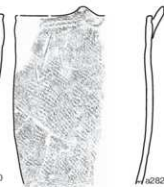
a284



a287



a280



a282



a285



a281



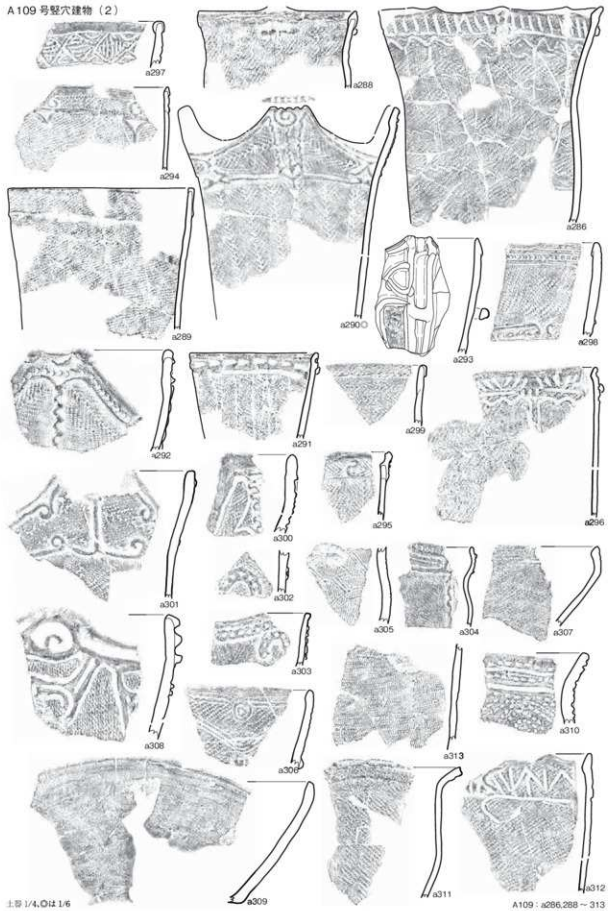
a283

土器 1/4, Oは 1/6

A109 : a280 ~ 285,287

第130図 竪穴建物出土土器集成図(14)

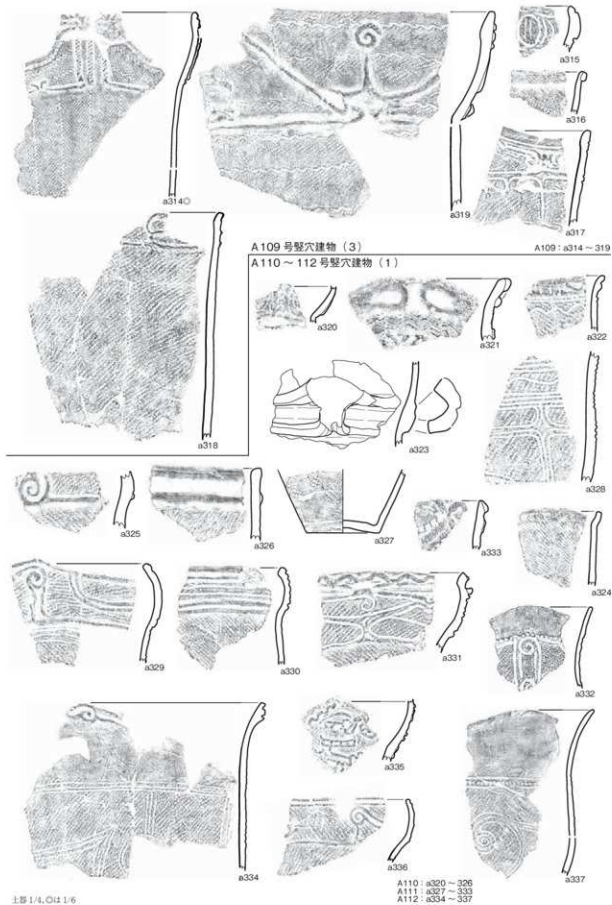
A109 号竖穴建物（2）



土器 1/4, 0.4 1:6

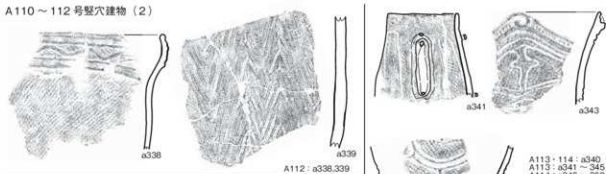
A109 : a286, 288 ~ 313

第 131 图 竖穴建物出土土器集成图 (15)

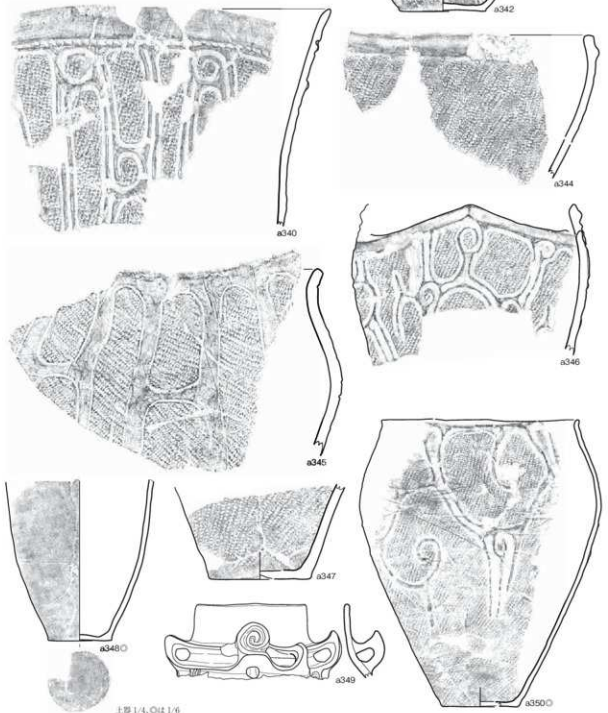


第132図 竪穴建物出土土器集成図(16)

A110～112号竪穴建物（2）

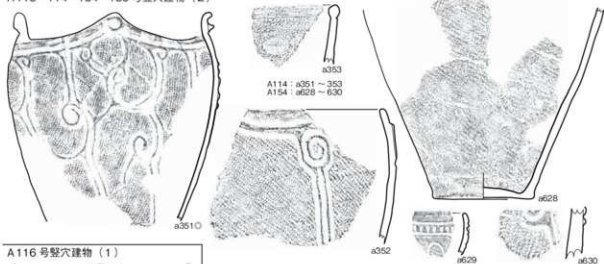


A113・114・154・180号竪穴建物（1）



第133図 竪穴建物出土土器集成図（17）

A113・114・154・180号竪穴建物 (2)



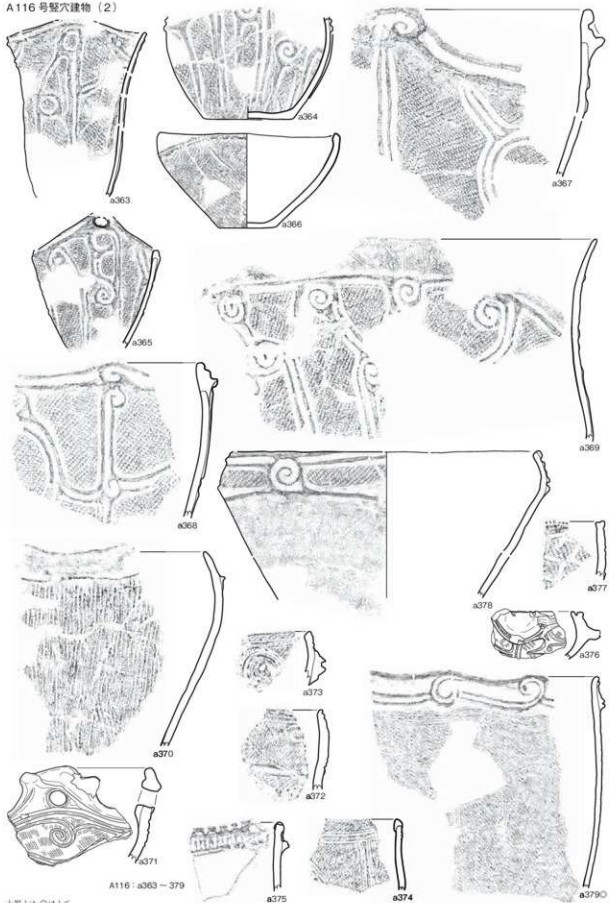
A116号竪穴建物 (1)



第134図 竪穴建物出土土器集成図 (18)

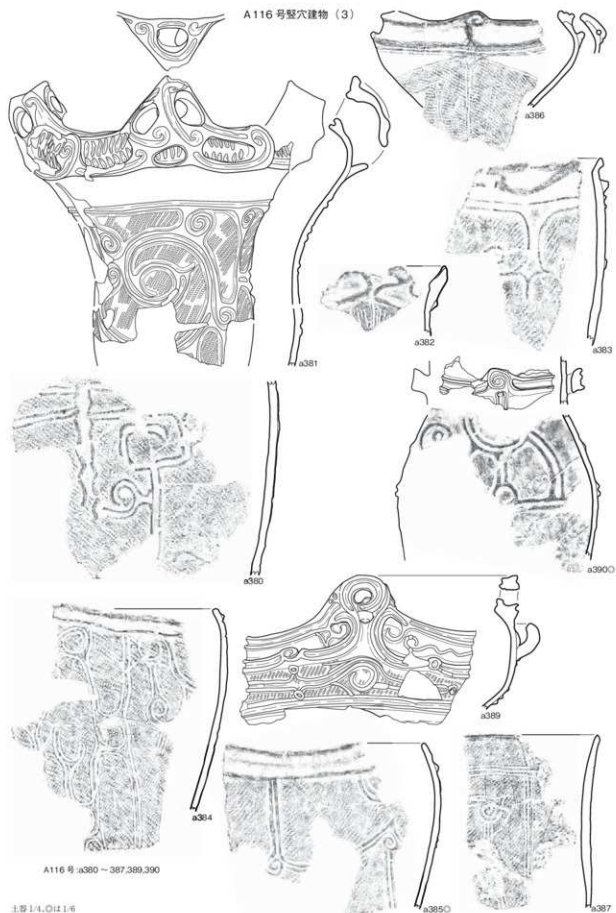


A116号竖穴建物 (2)



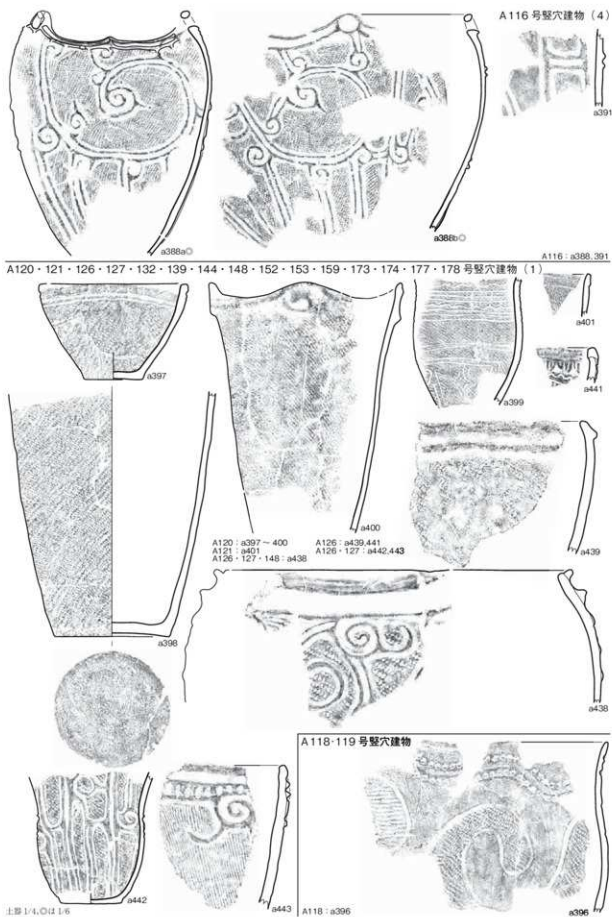
土器 1/4, O4.1.6

第 135 图 竖穴建物出土土器集成图 (19)



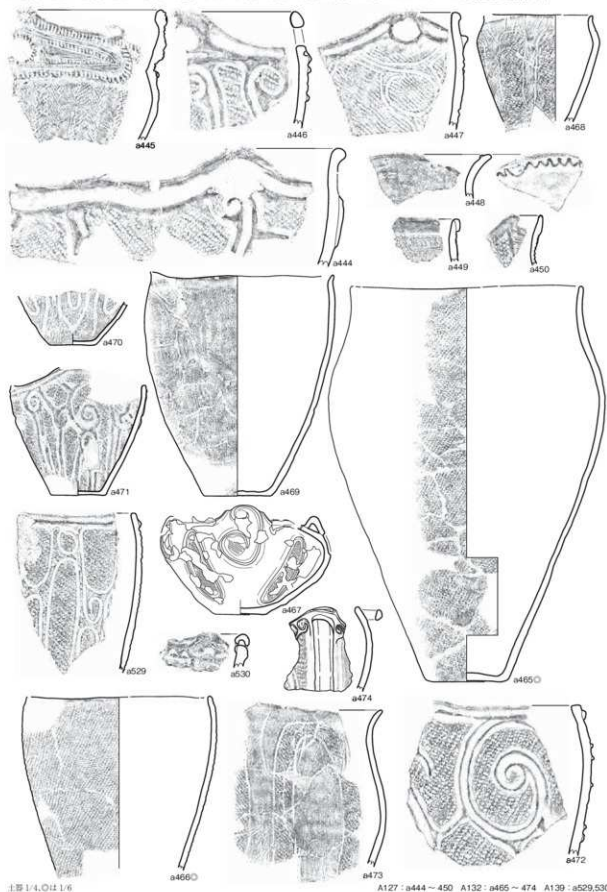
第136図 竪穴建物出土土器集成図(20)





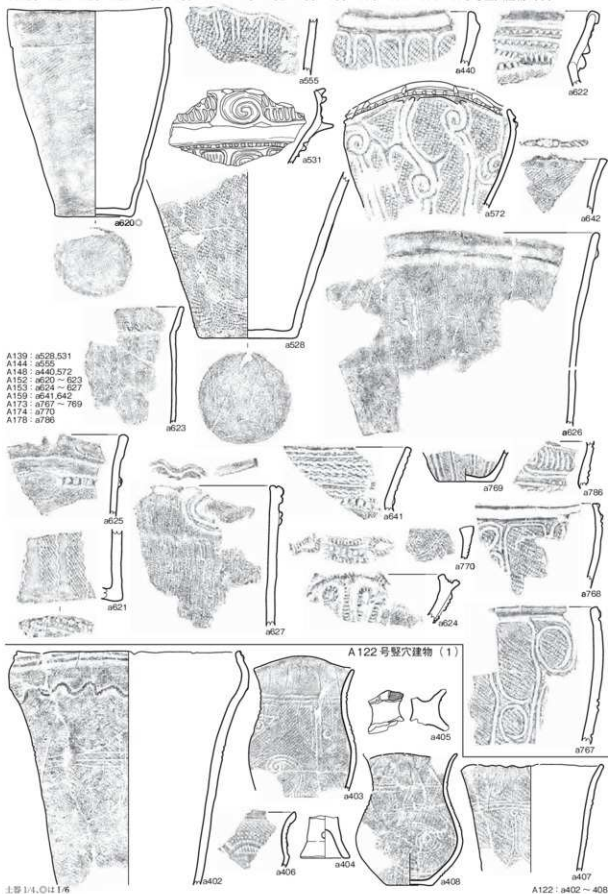
第137图 竖穴建物出土土器集成图(21)

A 120・121・126・127・132・139・144・148・152・153・159・173・174・177・178号竪穴建物(2)



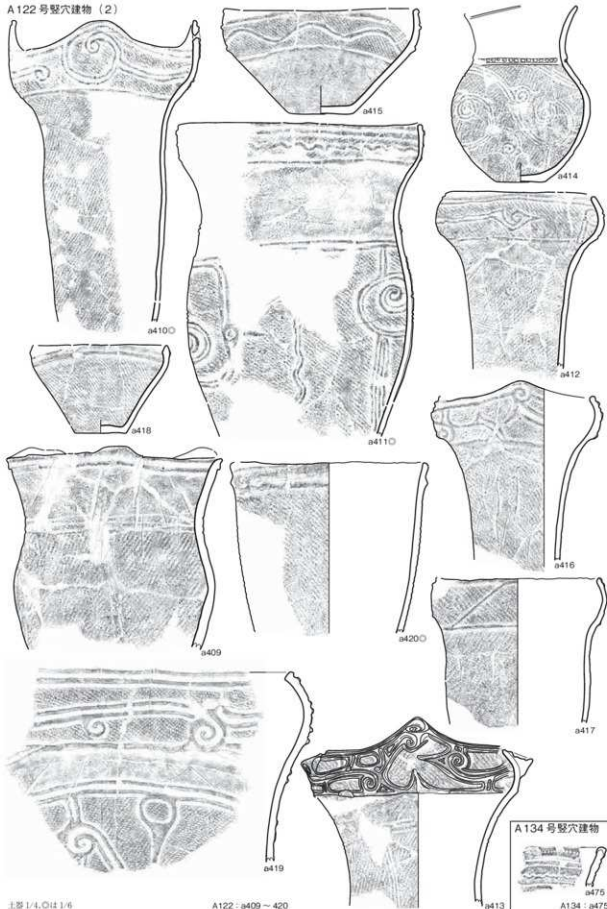
第138図 竪穴建物出土土器集成図(22)

A120・121・126・127・132・139・144・148・152・153・159・173・174・177・178号竖穴建物（3）



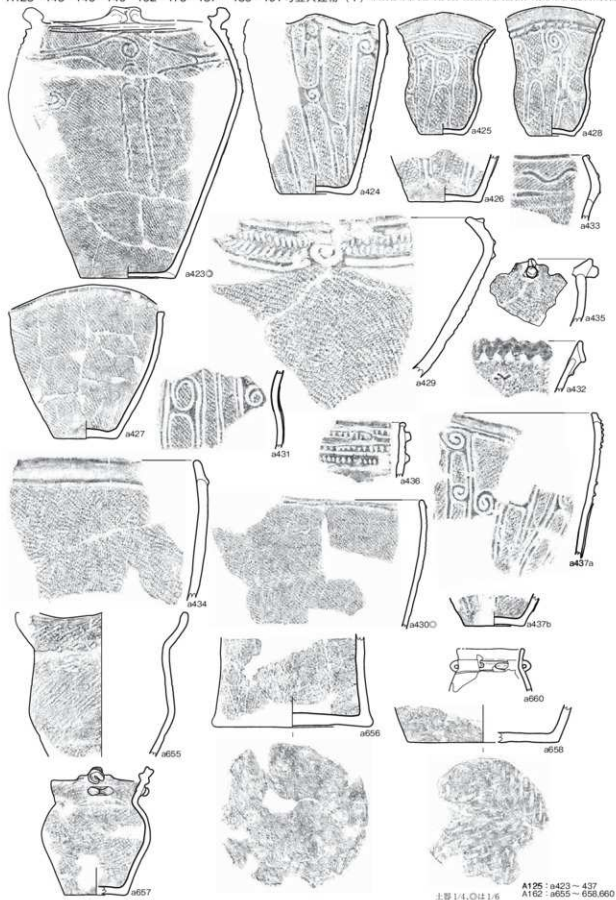
第139图 竖穴建物出土土器集成图（23）

A122号竪穴建物(2)



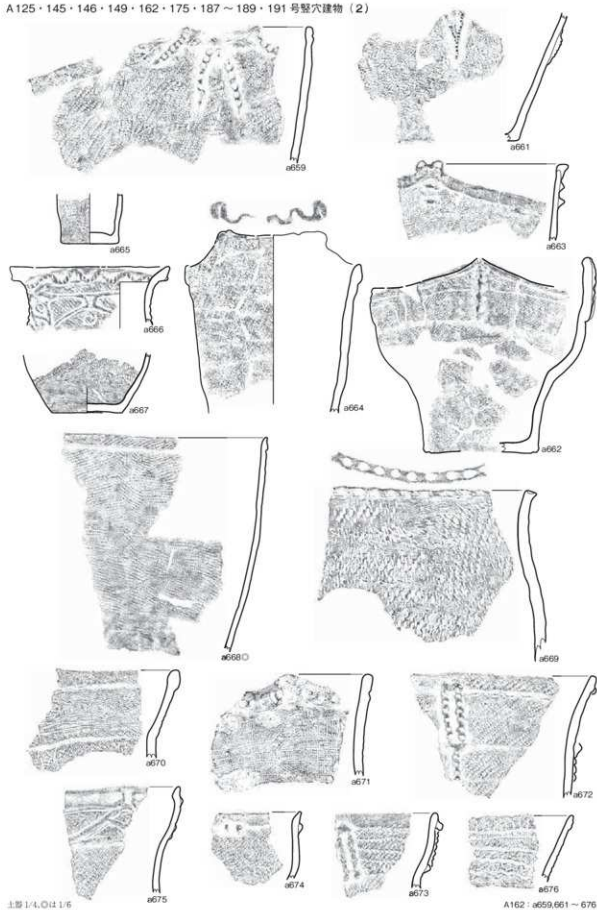
第140図 竪穴建物出土土器集成図(24)

A125・145・146・149・162・175・187・189・191号竖穴建物（1）※A145は第148・149回、A166は第153回、A175は第152回に掲載



第141图 竖穴建物出土土器集成图(25)

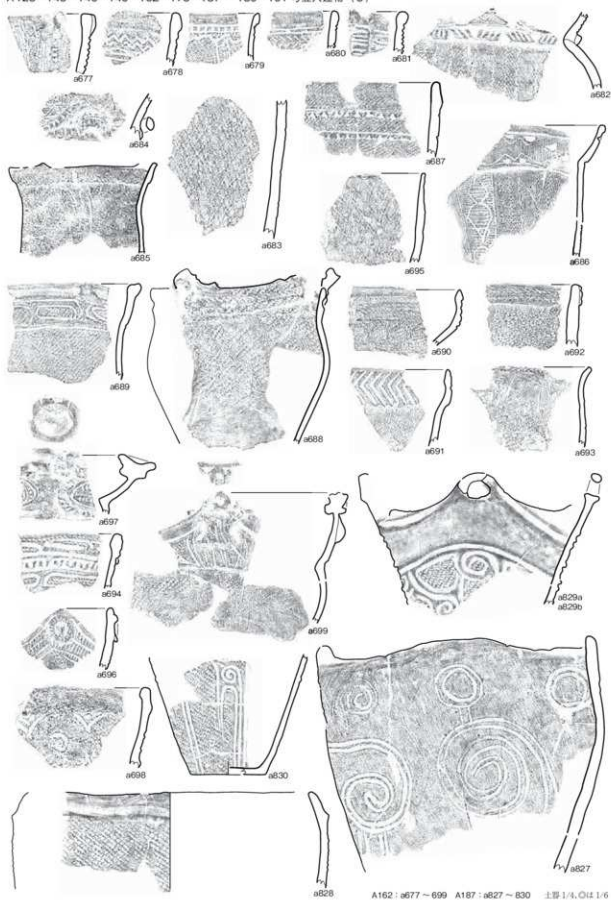
A125・145・146・149・162・175・187～189・191号竪穴建物(2)



第142図 竪穴建物出土土器集成図(26)



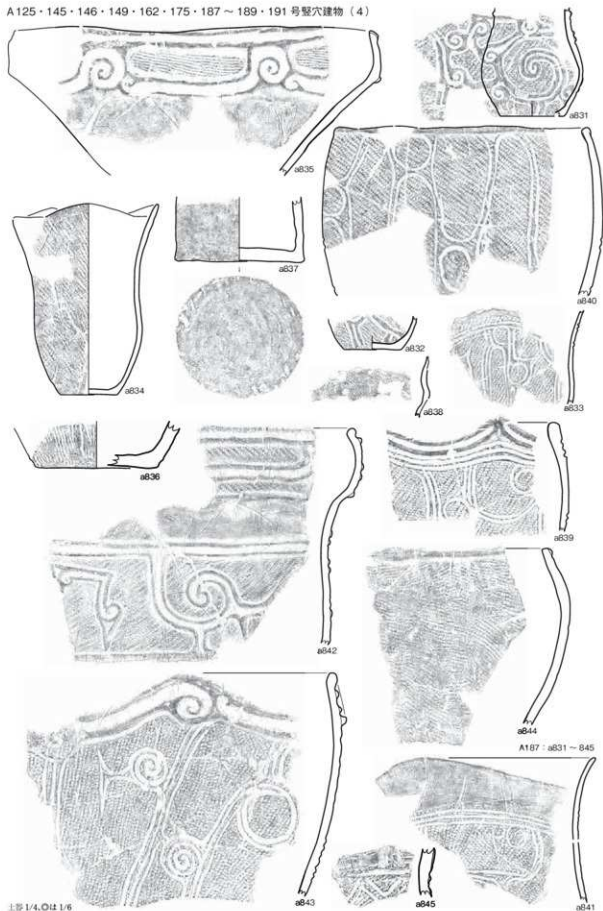
A125・145・146・149・162・175・187～189・191号竖穴建物（3）



A162 : a677 ~ 699 A187 : a827 ~ 830 土厚 1/4, C14 1/6

第143图 竖穴建物出土土器集成图(27)

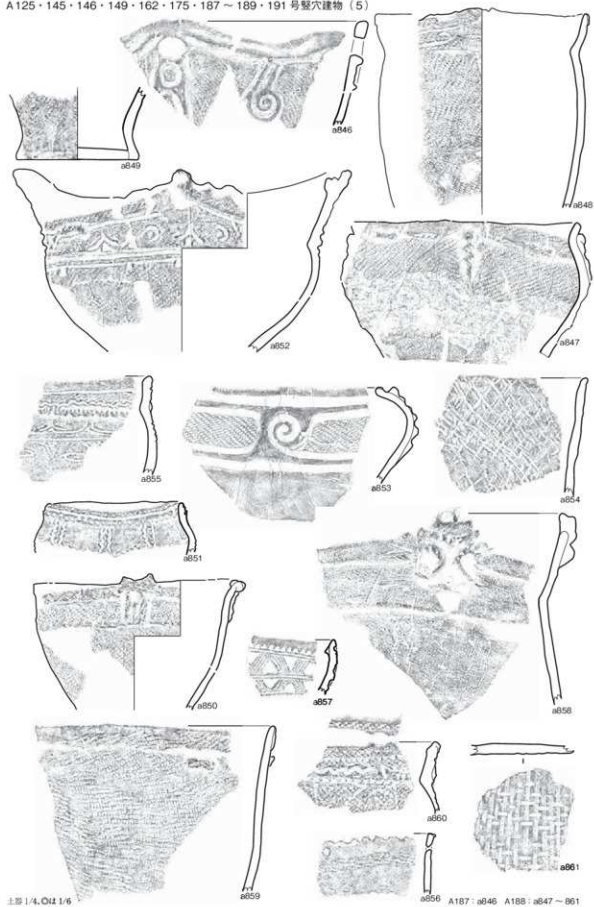
A125・145・146・149・162・175・187～189・191号竪穴建物(4)



第144図 竪穴建物出土土器集成図(28)

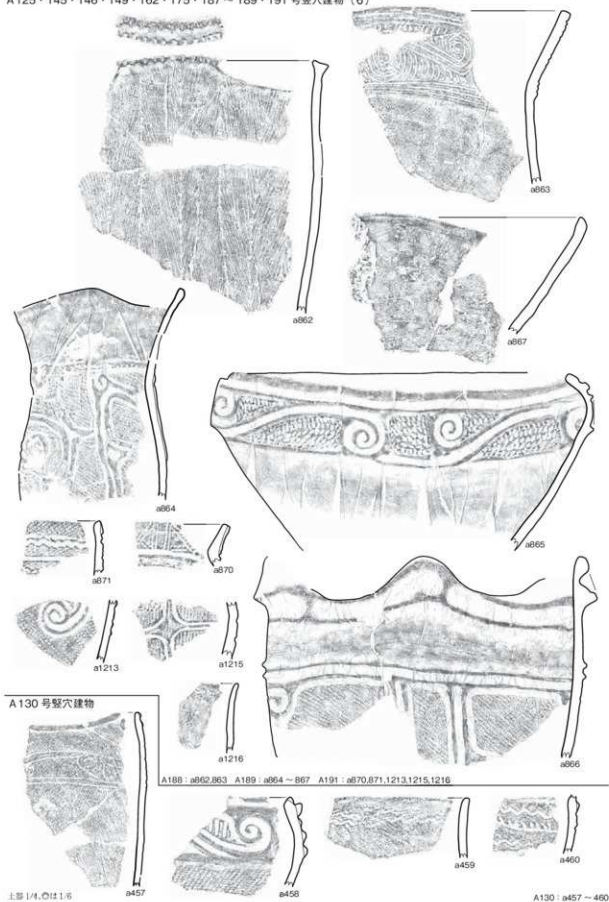


A125・145・146・149・162・175・187～189・191号竖穴建物(5)



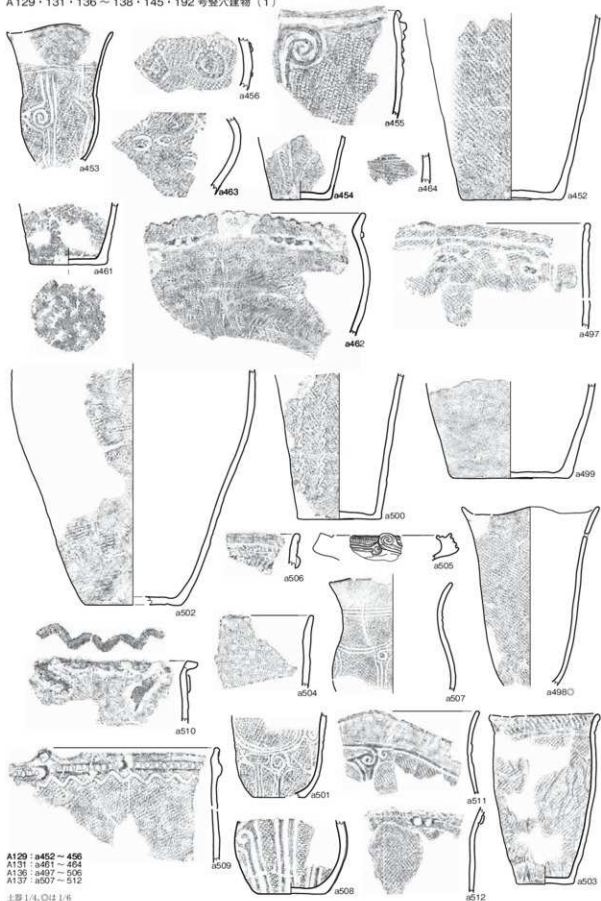
第 145 图 竖穴建物出土土器集成图(29)

## A125・145・146・149・162・175・187・189・191号竖穴建物(6)



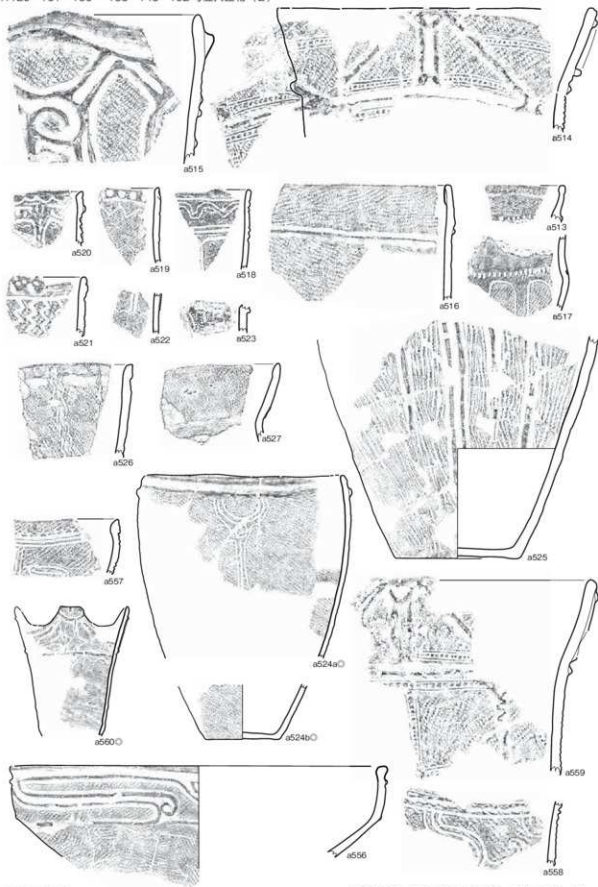
第146図 竖穴建物出土土器集成図(30)

A129・131・136～138・145・192号竖穴建物（1）



第 147 图 竖穴建物出土土器集成图 (31)

A129・131・136～138・145・192号竪穴建物(2)

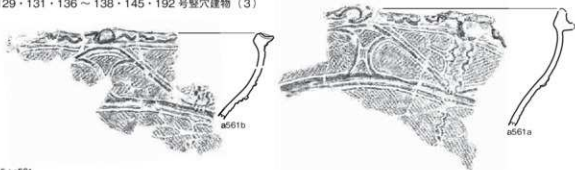


上図 1/4, O: 1/6

A137: a513～525 A138: a526, 527 A145: a556～560

第148図 竪穴建物出土土器集成図(32)

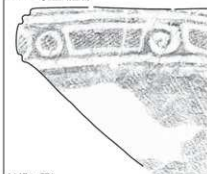
A129・131・136～138・145・192号竖穴建物(3)



A145 : a561

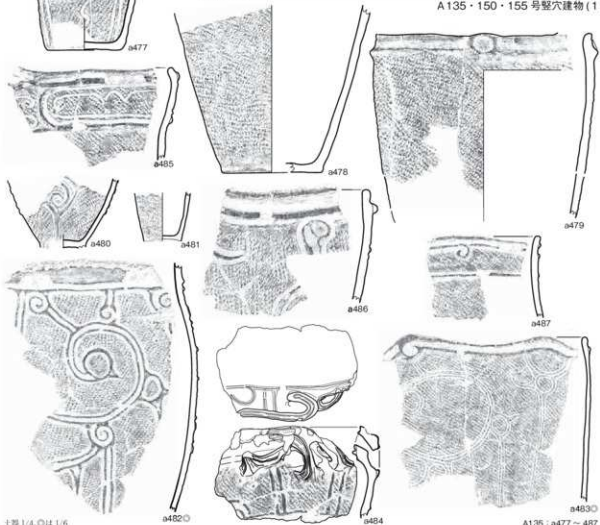


A147号竖穴建物



A147 : a571

A135・150・155号竖穴建物(1)

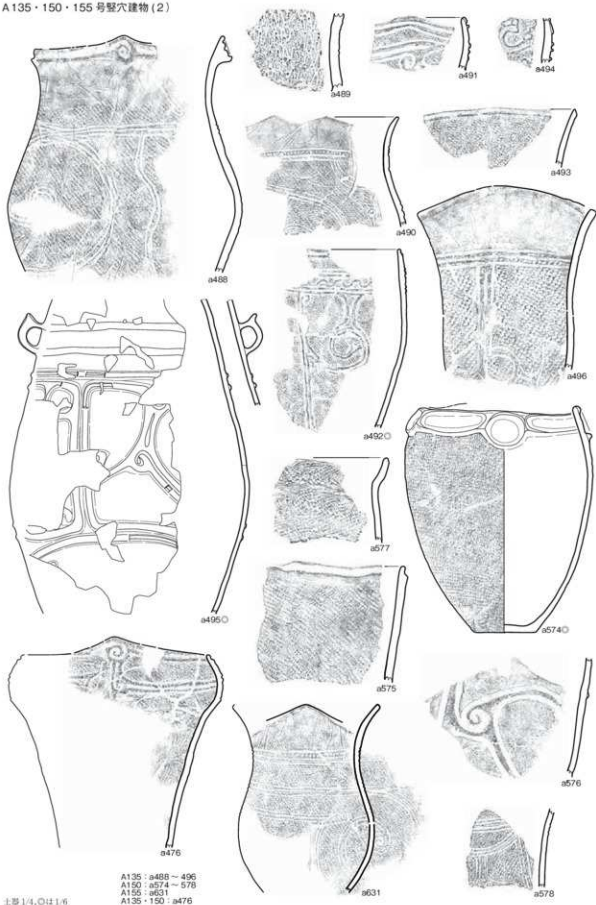


上層 1/4, O: 1/6

A135 : a477 ~ 487

第149図 竖穴建物出土土器集成図(33)

A135・150・155号竪穴建物(2)



第150図 竪穴建物出土土器集成図(34)



A140 ~ 142・169号竖穴建物(1)

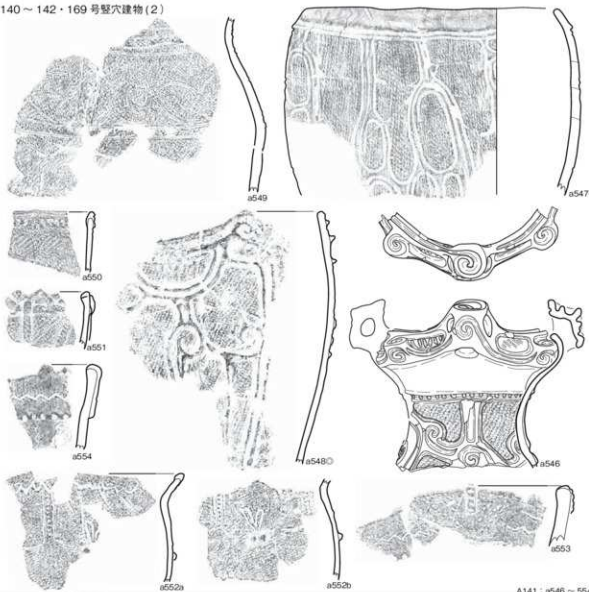


土器 1/4, O11 1/6

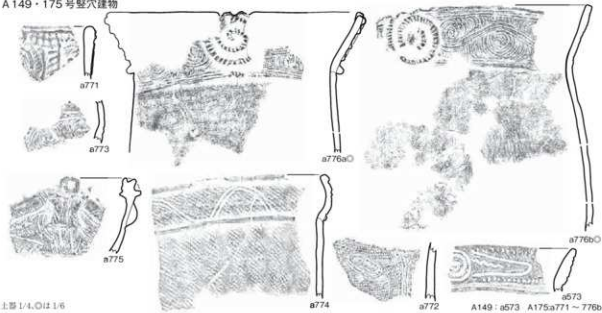
A140・141 : a532 ~ 534,545 A140 : a535 ~ 544 A169 : a729,730

第151図 竖穴建物出土土器集成图(35)

A140 ~ 142・169号竪穴建物(2)



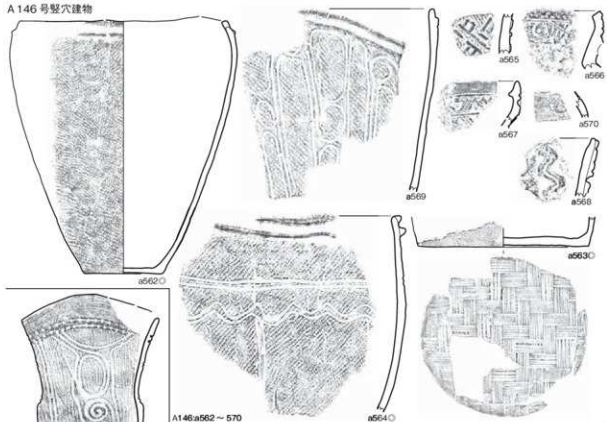
A149・175号竪穴建物



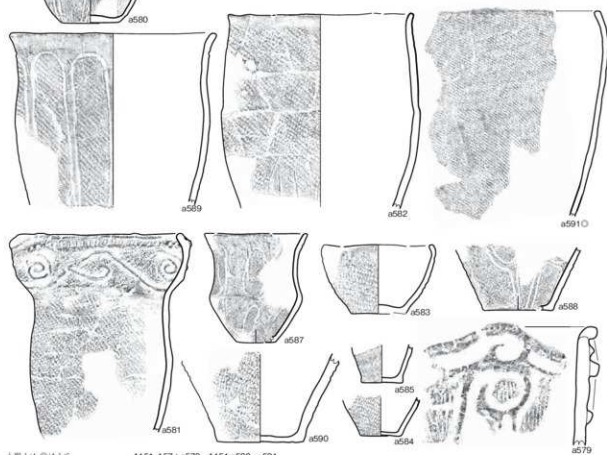
第152図 竪穴建物出土土器集成図(36)



A146号竖穴建物



A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竖穴建物 (1)

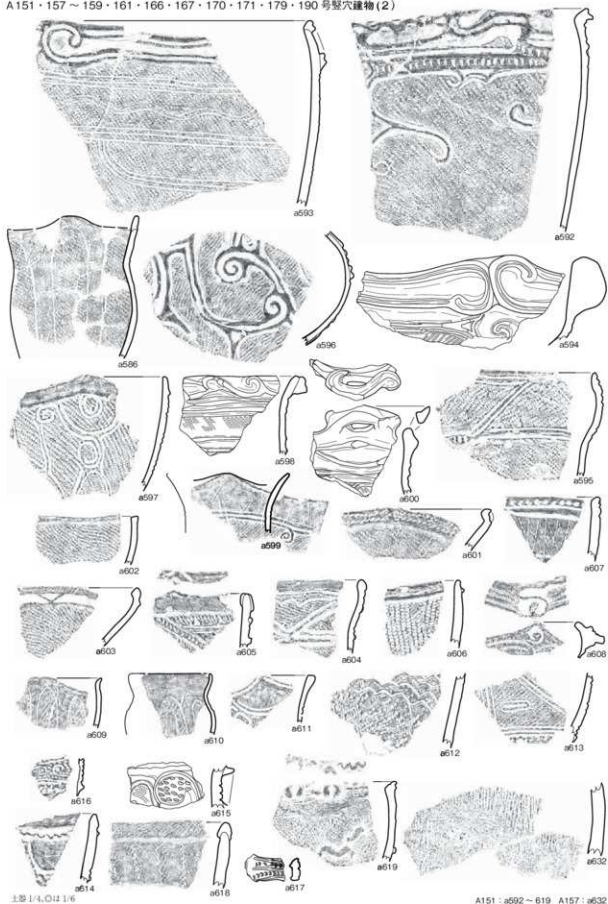


土器1/4.04 1/6

A151・157: a579 A151:a580～591

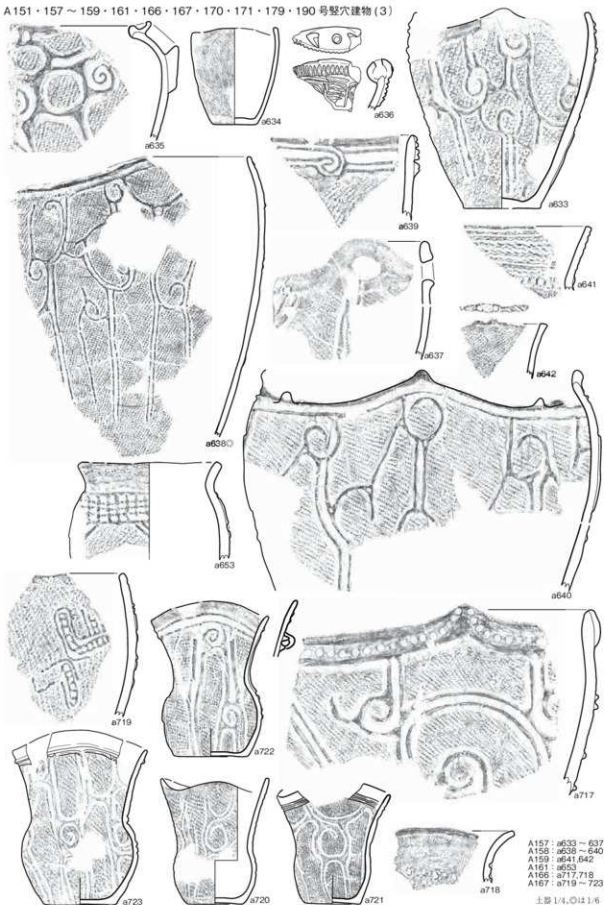
第153图 竖穴建物出土土器集成图 (37)

A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竪穴建物(2)



第154図 竪穴建物出土土器集成図(38)

A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竪穴建物(3)

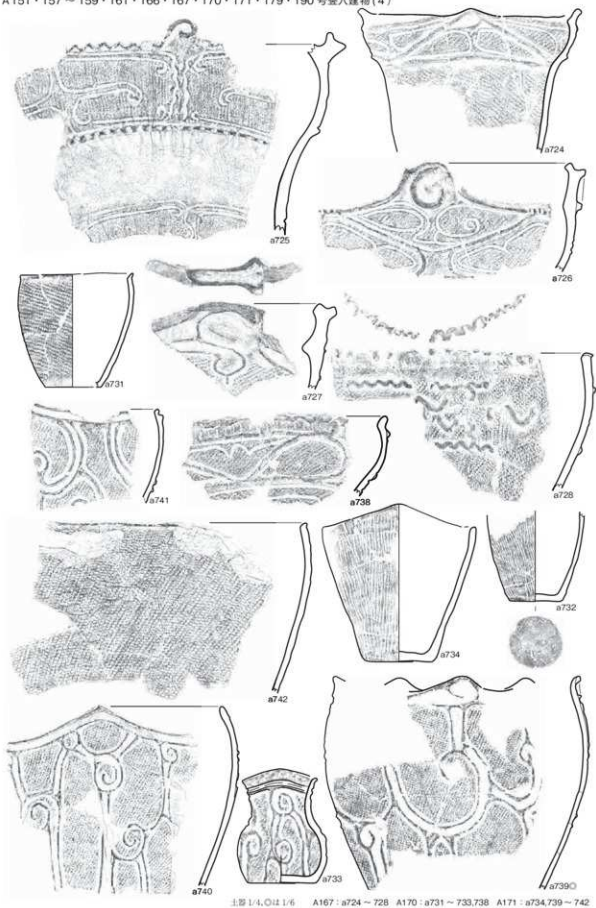


A151: a633 ~ 637  
 A158: a638 ~ 640  
 A159: a641, 642  
 A161: a653  
 A166: a717, 718  
 A167: a719 ~ 723

土器 1/4, Oは 1/6

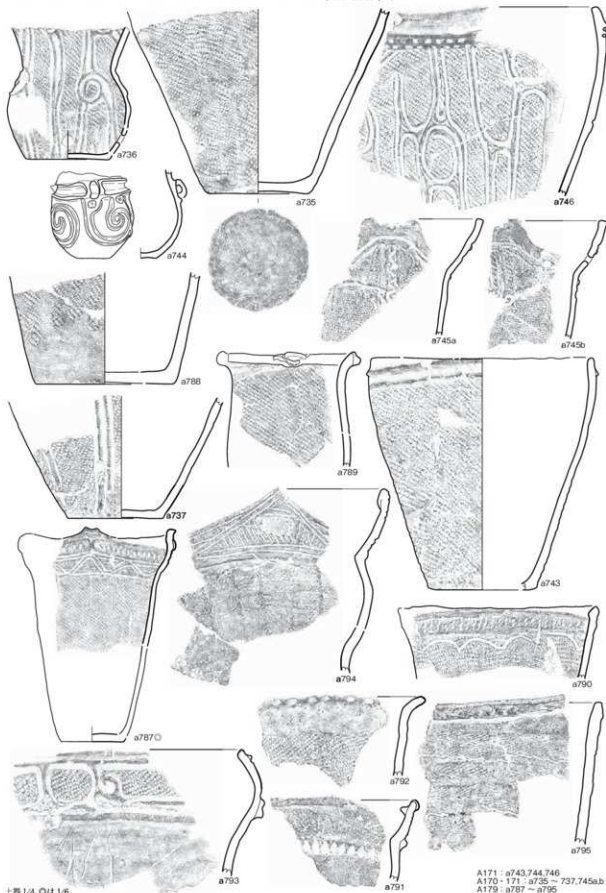
第155図 竪穴建物出土土器集成図(39)

A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竪穴建物(4)



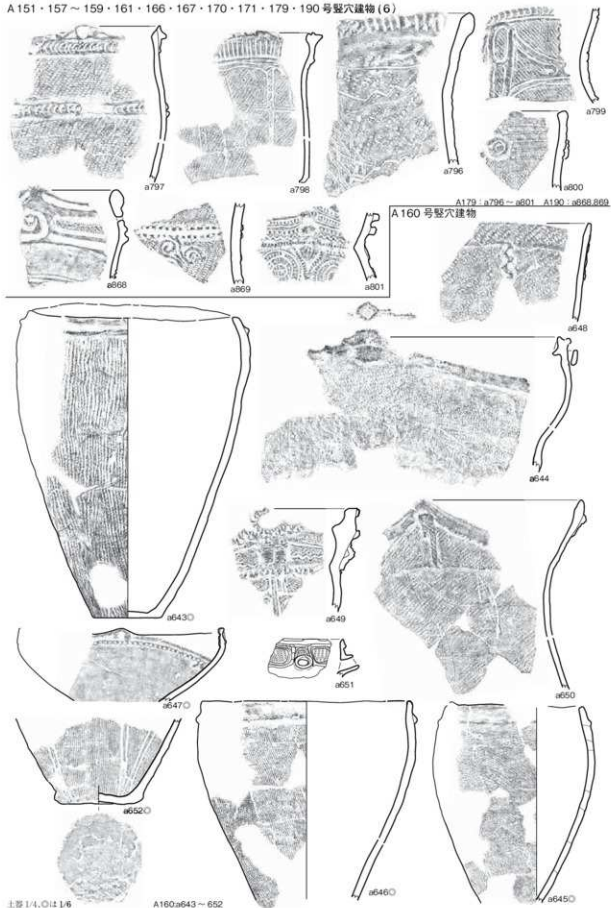
第156図 竪穴建物出土土器集成図(40)

A151・157～159・161・166・167・170・171・179・190号竖穴建物（5）



第157图 竖穴建物出土土器集成图(41)

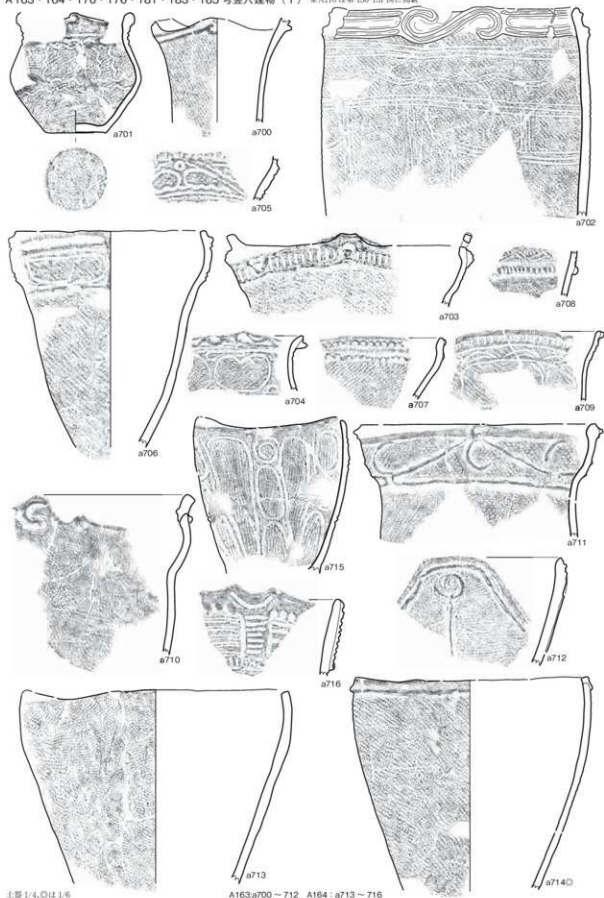
A 151・157～159・161・166・167・170・171・179・190 号竪穴建物(6)



第 158 図 竪穴建物出土土器集成図 (42)

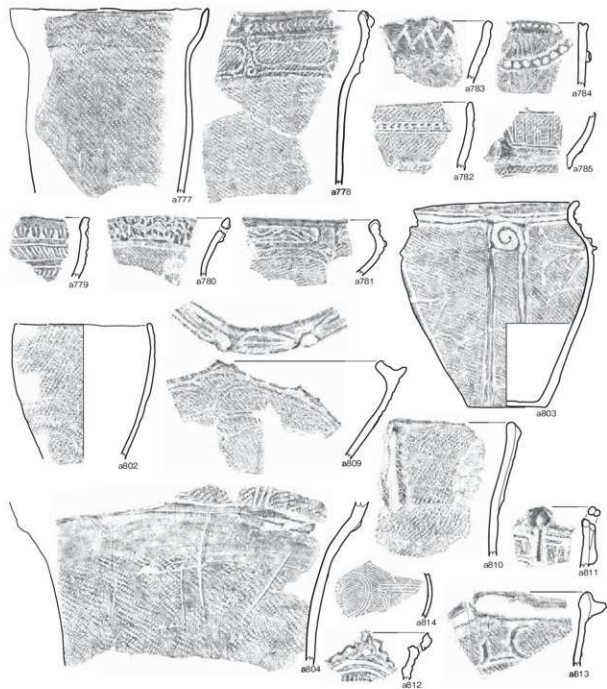


A163・164・170・176・181・183・185号竖穴建物（1）※A170は第156-157頁に掲載



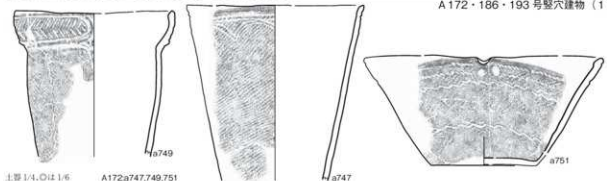
第159図 竖穴建物出土土器集成図(43)

## A 163・164・170・176・181・183・185号竪穴建物(2)



A176a777~785 A181a802~804 A183a809~812 A185a813,814

## A 172・186・193号竪穴建物(1)



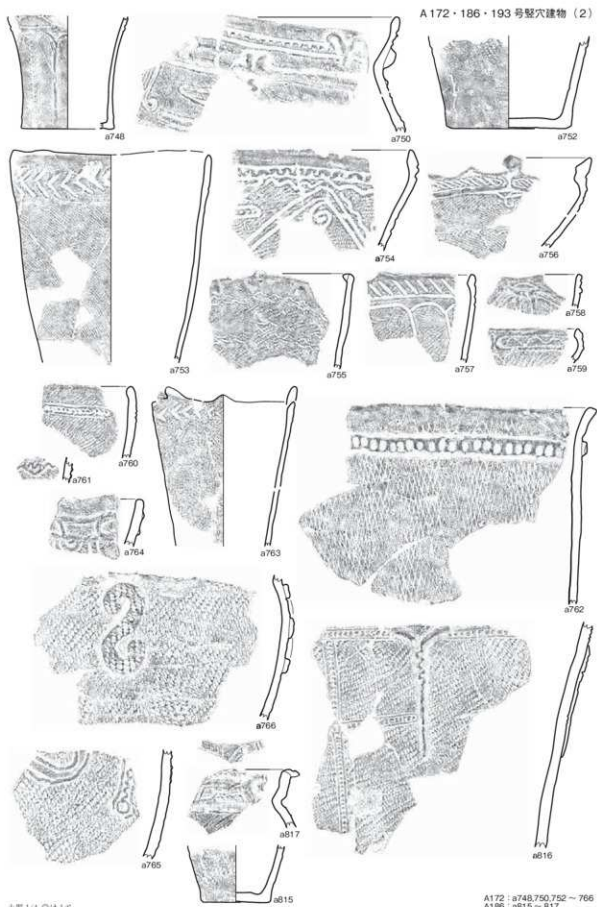
1:4, Oは 1:6

A172a747,749,751

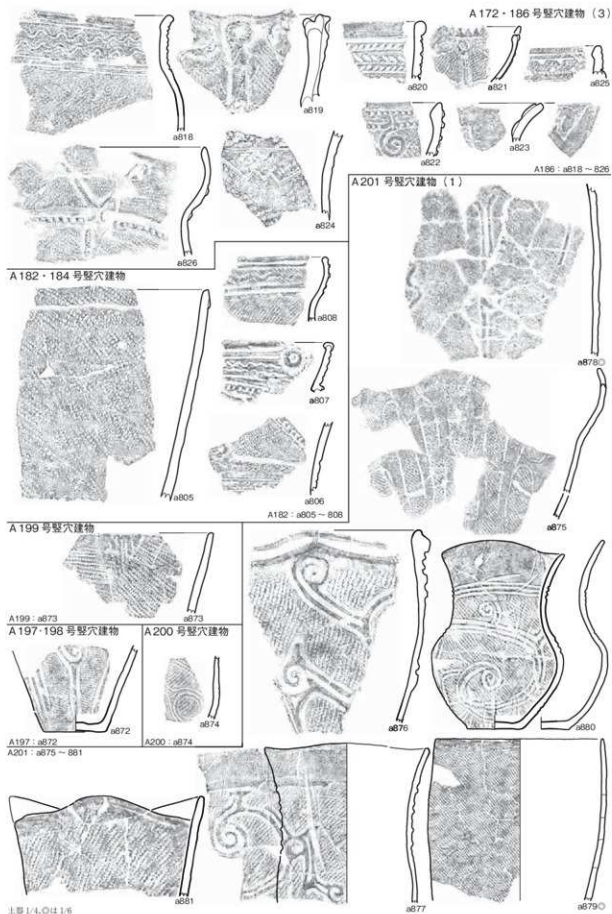
a747

第160図 竪穴建物出土土器集成図(44)





第161图 竖穴建物出土土器集成图(45)



第162图 豎穴建物出土土器集成图 (46)

A201 号竪穴建物 (2)



a883○

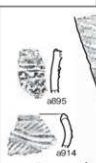


a882

A201 : a882 A201-202 : a883



a888



a895

a914



a886

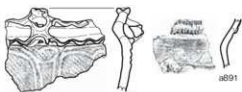


a912



a940

A203 ~ 205 · 208 · 212 · 215 · 222 · 224 号竪穴建物  
A206 · 207 · 211 · 227 ~ 230 号竪穴建物 (1)



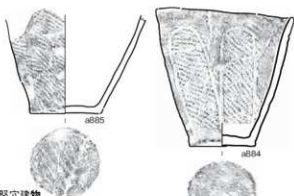
a890

a891



a892

A202 号竪穴建物

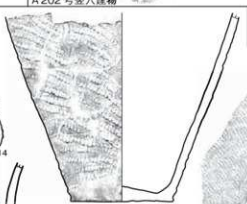


a885

a884



A202 : a884,885



a894



a887○

A203 : a886,887 A212 : a912  
A204 : a888 A215 : a914  
A208 : a894,895 A224 : a840



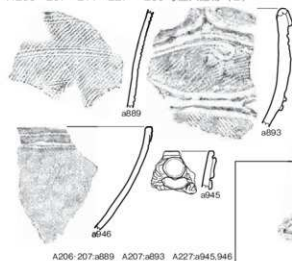
a911○

A207 : a890 ~ 892 A211 : a911

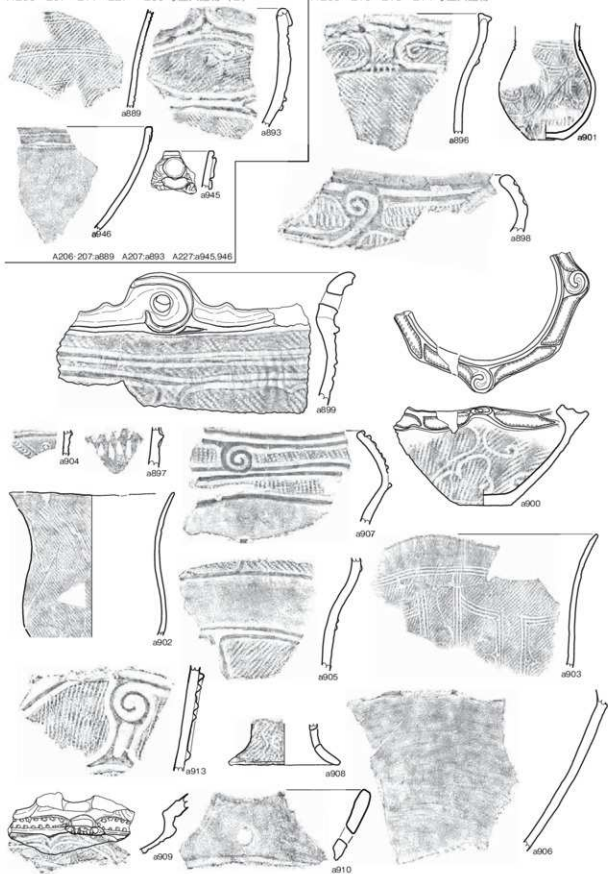
上図 1/4, 下図 1/6

第 163 図 竪穴建物出土土器集成図 (47)

A206・207・211・227～230号豎穴建物(2)



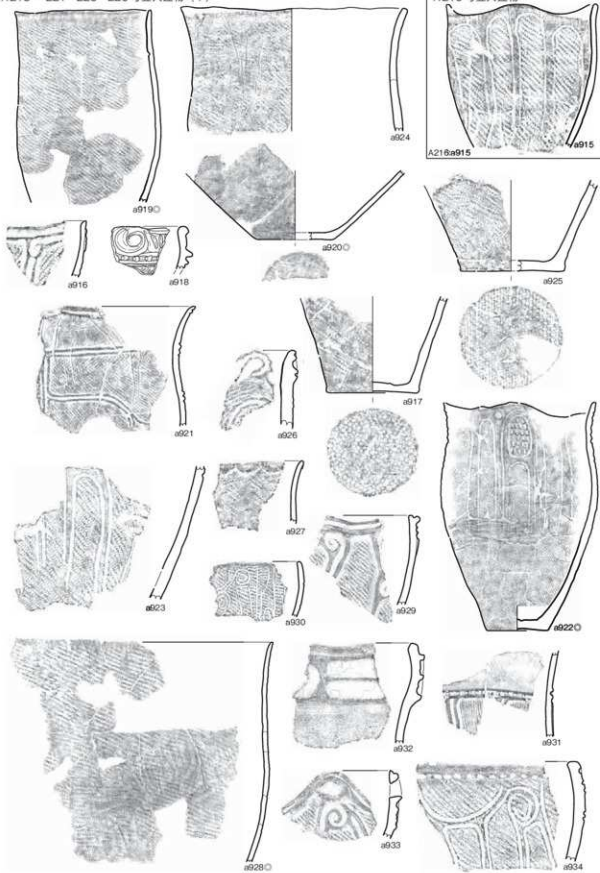
A209・210・213・214号豎穴建物



土器 1/4, Ch1 1/6 A209・a896～900 A209・213・a901 A209・210・213・a902 A210・213・a903 A210・a904～906・908～910 A213・a907 A214・a913

第164图 豎穴建物出土土器集成图(48)

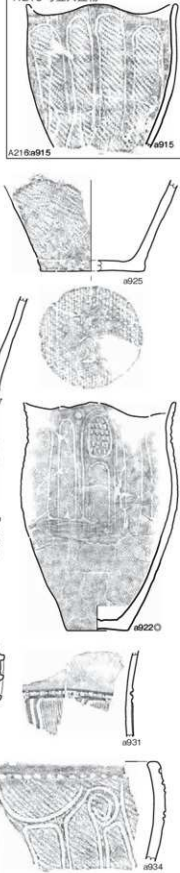
A218 ~ 221・223・226号竖穴建物（1）

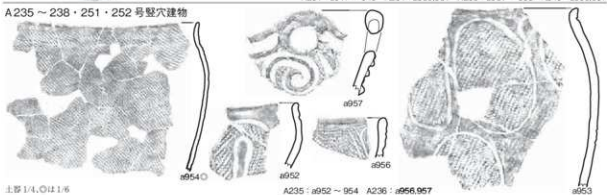
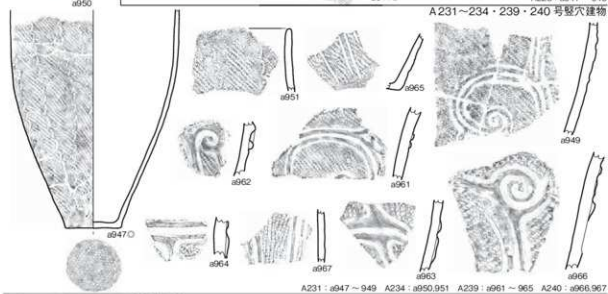
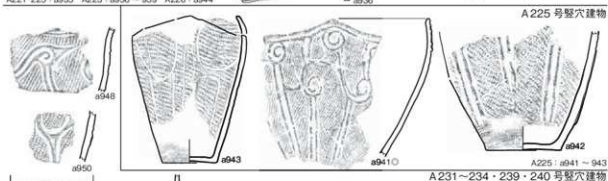
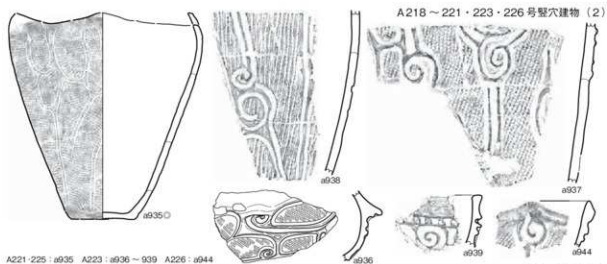


1/4, 1/6

A218 : a916 A219 : a917 A220 : a919 ~ 927 A221 : a918, 929, 930, 934 A222・221 : a928

A216号竖穴建物





第166図 竪穴建物出土土器集成図(50)

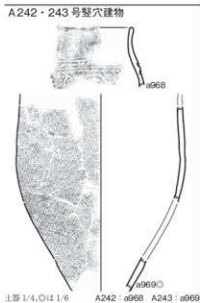


2 竪穴建物（縄文時代）

A235～238・251・252号竪穴建物（2）



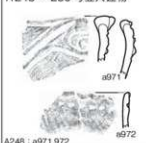
A242・243号竪穴建物



A244～247号竪穴建物



A248～250号竪穴建物



第 167 図 竪穴建物出土土器集成図 (51)

第 5 表 竪穴建物（古代）一覧

遺構名	グリッド	平面形	規模 (m)			主軸方位	コマド						伴出施設		
			長軸	短軸	深さ		構築材	位置	構造様	ピット	柱状	煙道	貯蔵穴	炉	
B1 号竪穴建物	I B18f	方形	(3.50)	(1.25)	0.45	N90°-W	石	西壁南	B	×	不明	-	-	-	-
B2 号竪穴建物	I B16m	方形	3.16	3.01	0.27	N48°-W	石 + 地山土	西壁中央	B	×	○	-	○	-	
B3 号竪穴建物	I B23f	方形	4.45	(3.50)	0.95	N119°-W	石	西壁南	A	×	×	-	-	○	
B4 号竪穴建物	I B25e	方形	6.10	(1.50)	0.57	N90°-W	石	西壁中央	A	×	×	○	-	-	
B5 号竪穴建物	II B5o	不明	(2.46)	(1.30)	0.37	N90°-W	石 + 削出し	不明	A?	不明	不明	-	-	-	
B6 号竪穴建物	II B2h	方形	(2.65)	2.60	0.13	N1°-W	不明	北壁中央	B	×	×	-	-	-	
B7 号竪穴建物	II A7w	方形	4.95	(3.30)	0.60	N107°-W	削出し	西壁中央	B	×	×	○	-	-	
B8 号竪穴建物	II A6y	方形	5.00	(2.85)	0.33	N2°-W	石 + 地山土	北壁東	B	×	×	○	○	-	
B9 号竪穴建物	II A7v	方形	5.30	(3.55)	0.20	N37°-W	1.不明 2.石 + 地山土	西壁中央 西壁北	不明 不明	不明 不明	○ ×	-	○ -	-	
B10 号竪穴建物	II B11f	方形	4.23	(2.95)	0.13	N94°-E	不明	北壁東	B	×	不明	-	-	-	
B11 号竪穴建物	II B10e	方形	5.92	(4.20)	0.50	N40°-W	不明	西壁中央	B	○	×	-	-	○	
B12 号竪穴建物	II B4c	方形	4.90	(3.05)	0.37	N52°-W	石	西壁中央	B	不明	不明	○	-	-	
B13 号竪穴建物	II B4c	方形	(3.16)	(1.35)	0.27	N25°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	
B14 号竪穴建物	II A9y	方形	7.28	(3.96)	0.40	N67°-W	-	-	-	-	-	○	-	-	
B15 号竪穴建物	II B8a	方形	(5.13)	(3.01)	0.35	N97°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	
B16 号竪穴建物	II A6x	円形	3.05	(2.00)	0.50	N40°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	
B17 号竪穴建物	II A4q	方形	(4.25)	(3.38)	0.50	N52°-W	石 + 地山土	西壁中央	A	×	不明	-	-	-	
B18 号竪穴建物	II A11a	方形	(3.46)	(2.75)	0.47	N32°-W	不明	西壁北	B	×	不明	-	-	-	
B19 号竪穴建物	II A12a	方形	(2.65)	(2.45)	0.40	N27°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	
B20 号竪穴建物	II A13a	方形	(3.20)	(2.72)	0.30	N27°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	
B21 号竪穴建物	II A12a	方形	(3.78)	(1.87)	0.17	N27°-W	-	-	-	-	-	-	-	-	
B22 号竪穴建物	II A14v	方形	2.76	(1.76)	0.10	N61°-W	石 + 地山土	西壁中央	B	×	不明	-	-	-	
B23 号竪穴建物	I B15f	円形	4.63	(3.20)	0.20	N30°-E	×	×	×	×	×	-	-	○	

※コマド構造様様の「A」は上昇型、「B」は水平型、「C」は下降型を示す。

※コマド柱状構の「○」は別り抜き式、「×」は覆り込み式を示す。

## 3 竪穴建物（古代）

23軒検出した。検出位置・規模等は第5表の通りである。以下では表中に記載されていない事項を中心に各建物について記す。

## B1号竪穴建物

(第1-168図、第2-244図、写真図版170・457)

Ⅱ層上面に設定したトレンチの断面で現地性焼土を検出したことから、遺構の可能性を考慮し精査を行った。削平が著しく全体形状は不明だが、推測される平面形は隅丸方形で、壁面下部は内弯し、上部は外傾して立ちあがる。床面はⅡ層を平坦に整えることで形成しており、カマド周辺は硬化が著しい。堆積土は黒褐色土を主体とし、3層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として西壁でカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右袖石据え付け穴、煙道外端部である。燃焼部焼土は50×50cmの円形で、被熱深度は約4cmである。焼土上面は床面よりも約4cm低く皿状に凹んでいる。燃焼部焼土の直上には焼骨細片を多量に含む薄い灰層が堆積していた。煙道は西壁から直交方向に約1.4m水平に延び、屈曲してほぼ垂直に立ち上がる。煙道は幅0.3m、深さは1.3m程度である。その他の床面施設は検出されなかった。

遺物は土器が350.9g出土しており、1点を掲載した(b1)。

本遺構は、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。年代は、カマド燃焼部から出土した炭化材の年代測定結果(第Ⅵ章第1節)と出土遺物から平安時代(9世紀前半)と考えられる。

図載遺物 ( )は掲載番号	遺構との重複関係 (右欄が新しい)	備考
土器 (b1)	無し	炭化材年代測定(第Ⅵ章第1節)
土器 (b2~4)	無し	
土器 (b5・6)、支脚 (b1)、鉄滓 (j16)	○→2号土坑	西壁外側にテラス状施設、カマド上面に貝層分布(第Ⅵ章第4節)
土器 (b7~11)、金属 (i1・2)、鉄滓 (j14・15)	無し	鉄滓分析(第Ⅵ章第8節)
土器 (b12)、甕口 (j1)	無し	カマド付近のみ残存
無し	無し	
土器 (b13・14)、鉄滓 (j16・17)	無し	焼失家屋、炭化材年代測定(第Ⅵ章第1節)、樹種同定(第Ⅵ章第3節)
土器 (b15~41)、金属 (i3~9)、甕口 (j2)	A190号竪穴建物→○	焼失家屋、炭化材年代測定(第Ⅵ章第1節)、樹種同定(第Ⅵ章第3節)
土器 (b42~48)、金属 (i10~12)、甕口 (j3・4)	A137・138号竪穴建物→○→17号焼土	埋設土器×1、炭化材年代測定(第Ⅵ章第1節)
土器 (b49・50)	132・134・144号土坑→○	
土器 (b51~59)	A107・117号竪穴建物→○	
土器 (b60~62)	B13号竪穴建物→○	
土器 (b63~65)	○→B12号竪穴建物	
土器 (b66~69)、鉄滓 (j19・20)	B15号竪穴建物、121号土坑→○	
土器 (b70~72)、金属 (i13)	○→B14号竪穴建物	
無し	A135・150号竪穴建物、1号銅治印→○	
土器 (b73・74)	無し	
無し	A232号竪穴建物→○→11号溝	
鉄滓 (j21・22)	B20・21号竪穴建物→○→2号切土整地	鉄滓分析(第Ⅵ章第8節)
金属 (i14)、鉄滓 (j23~25)	○→B19号竪穴建物、2号切土整地	
無し	A217号竪穴建物→○→B19号竪穴建物	
無し	無し	カマド燃焼部掘り方内に埋積
土器 (b75・76)	無し	竪穴内中央に掘り込み、竪穴内に現地性焼土

※図載遺物は縄文土器等を除き古代に帰属するもののみ記載



**B 2号竪穴建物**（第1-168図、第2-244図、写真図版171・457）

Ⅱ層の暗褐色土中で黒褐色の方形プランとして検出した。平面形は隅丸方形で、壁面はやや外傾しつつ直線的に立ち上がる。底面全面には竪穴本体を掘削した際の鋤痕とみられる凹部が斑状に広がり、ここに黒色土を敷き均して床面を構築している。床面はほぼ平坦で、弱い硬化が認められる。堆積土は黒色土を主体とし、2層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として西壁中央でカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右袖土下部、左右袖石、天井石、支脚、煙道、煙出しである。燃焼部焼土は35×30cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。焼土上面は床面より約3cm低く皿状に凹む。焚口からみて左奥に相当する現地性焼土西端部には支脚の可能性がある長さ15cmほどの礎が据えられていた。煙道は、西壁から直交方向に約1.1m水平に延びたところで屈曲し外傾して50cm程度立ち上がり煙出しへと連続する。煙道の幅は1.2m、深さは0.23m程度である。その他の床面施設として柱穴と土坑を計5個検出した。このうちカマド北側に位置するP 05は貯蔵穴と考えられる。南東隅が調査区外の為断定はできないが、P 01・02・03を使用した4本柱の可能性も考えられる。

遺物は土器が2948.9g出土しており、3点を掲載した（b 2～4）。

本遺構は、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀前半）と考えられる。

**B 3号竪穴建物**

（第1-169図、第2-244・380図、写真図版172・173・458・529・531）

Ⅱ層の暗褐色土中で黒褐色の方形プランとして検出した。削平の影響により全体形は不明だが、推定される平面形は隅丸方形で、壁面は大きく外傾しながら立ち上がる。床面はⅡ層を平坦に整えており、全体に硬化が認められる。堆積土は黒褐色土を主体とし、床面構築土を含めて8層に分層した。このうち5層下端と6層下端で硬化が認められたことから、本遺構では床面の造り替えが行われており、6層下端を古段階の床面、5層下端を新段階の床面としていたと考えられる。堆積の様相は自然堆積で、5層上位では貝片の集中が認められた。

床面施設として西壁南寄りでカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右袖石、天井石、土製支脚、煙道である。燃焼部焼土は45×35cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。焼土上面は床面より3cmほど低く浅皿状に凹む。焚口正面奥に相当する燃焼部焼土西端部には円柱状の土製支脚が直立した状態で出土した。煙道は西壁から直交方向に約1m上り勾配で延び、後述の張出部底面に至る。煙道幅は0.45mである。その他の床面施設として床面中央部で地床炉を1基検出した。燃焼部焼土は46×34cmの楕円形で、被熱深度は4cm程度である。本遺構については周辺の堆積土から鉄滓（精練滓）が出土していることから、鍛冶炉の可能性を考えておきたい。また、西壁外側の位置で幅約1mのテラス状の範囲を検出した。この範囲の床面は竪穴本体の床面よりも約0.45m高く、平坦に整い弱く硬化している。竪穴本体から延びるカマド煙道がテラス状遺構床面のピットに連続している可能性がある。

遺物は土器が1055.5g出土しており、2点を掲載した（b 5・6）。この他、支脚が850.2g、鉄生産関連遺物が99.8g出土しており、支脚1点と鉄滓1点を掲載した（h 1、j 18）。また、動物遺存体として5層上位で検出された貝類は、アサリを主体としてイソシジミ類を伴うという分析結果を得ている（第Ⅵ章第4節）。

本遺構はカマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物であるが、鍛冶炉と考えら

れる地床炉も検出されていることから、建物内で鍛冶作業も行っていたと考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀代）と考えられる。

#### B 4号竪穴建物

（第1-170図、第2-244・245・388図、写真図版174・458・529・530）

Ⅱa層下位で黒褐色の長方形プランとして検出した。斜面上方である西壁の一部が残存するのみで、全体形は不明である。平面形は方形又は長方形で、壁面はやや外傾しつつ直線的に立ち上がる。床面はⅡ～Ⅲ層を平坦に整えており、カマド周辺から床面中央部にかけて硬化が著しい。堆積土は黒褐色土が主体で、5層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として西壁でカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右袖石、天井石、土製支脚、煙道である。燃焼部焼土は50×42cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。焼土上面は床面より2cm程低く皿状に凹んでいた。焚口からみて左奥に相当する燃焼部焼土西南端には円柱状の土製支脚（長さ20cm・径10cm程）が直立した状態で残存していた。ただし、この支脚は2次被熱が著しく脆弱で、取上げの際に崩壊した。また、焚口付近の床面から精練滓（2類）に属する碗形滓が出土している。煙道は西壁から直交方向に上り勾配で約1.2m延びるところまで確認できたが、煙出しを検出できずその先が不明となっている。その他の床面施設として西壁直下で壁溝を1本検出した。壁溝は幅12cm、深さ4cmである。

遺物は土器が3,107.4g出土しており、5点を掲載した（b7～11）。この他、金属製品数点と鉄生産関連遺物1,901.4gが出土しており、刀子2点と鉄滓2点を掲載した（i1・2、j14・15）。なお、鉄滓のうちj15は分析の結果、製錬滓と推定される（第VI章第8節）。

本遺構はカマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物であるが、カマド周辺から鉄滓が出土していることから、炉は検出されていないが建物内で鍛冶作業も行っていた可能性がある。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀代）と考えられる。

#### B 5号竪穴建物

（第1-171図、第2-245・389図、写真図版175・458・529・530）

尾根部端急斜面部でカマド構築材とみられる角礫の集中を確認したことから、竪穴建物の一部である可能性を考慮し検出を行った。東側が後年の削平により失われており、全体形は不明である。残存する壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面で部分的に硬化面が認められたが、多くの部分において根掘乱の影響を受けている。堆積土は黒褐色土を主体とし、堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として西壁でカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右袖石、土製支脚である。燃焼部焼土は50×46cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。焼土上面は床面よりも約4cm低く皿状に凹んでいる。焚口からみて奥側に相当する燃焼部焼土西端には円柱状の土製支脚（長さ不明・径8cm程）が直立した状態で残存していた。ただし、この支脚は2次被熱が著しく取上げ時に崩壊してしまった。また支脚の基部を覆うように土師器小形甕が倒立した状態で出土した。

遺物は土器が471.1g出土しており、1点掲載した（b12）。この他、鉄生産関連遺物が579.6g出土しており、羽口1点を掲載した（j1）。

本遺構は全体形は不明であるが、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。出土遺物は乏しいが、年代は平安時代（9世紀代）と考えられる。

（村上・村田）

## B 6号竪穴建物

(第 1-171 図、写真図版 176)

屋根頂部のⅣ a 層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。西側は木根により壊されており、全体形は不明である。平面形は方形で、残存する壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はⅣ a 層を平坦に整え、部分的にぶい黄橙色土を充填して構築されているが、硬化範囲は確認できない。堆積土は煙道内のもも含めて 8 層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として北壁中央付近でカマド 1 基を検出した。残存部位は、煙道のみである。煙道は北壁から直交方向に約 0.75 m 水平に延びたところでオーバーハングしながら立ち上がる。煙道の幅は 0.25 m、深さは 0.15 m である。

遺物は古代の土器が 336.9 g 出土しているが、細片の為図示していない。

本遺構は、カマドを有することから住居として使用された竪穴建物と考えられる。竪穴の形態から古代に属すると考えられるが、出土遺物が乏しいため詳細な年代は不明である。

(酒井・村田)

## B 7号竪穴建物

(第 1-172 図、第 2-245・268・306・335 図、写真図版 177・178・458・529・530)

Ⅱ層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平により失われているが、平面形は隅丸方形と考えられ、壁面はやや外傾して立ち上がる。床面は、Ⅱ層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、6 層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。焼失家屋であり、床面北西側では炭化材と焼土が残存し、直上の堆積層にも小型の炭と焼土ブロックを多量に含む。カマド南側の壁面付近では羽口の破片が 4 個体分出土したが、非常に脆く遺物として実測することができなかった。なお、床面直上で出土した炭化材 4 点（炭 1～4）について樹種同定を行ったところ、いずれもコナラ節であるとの分析結果を得ている（第 VI 章第 3 節）。

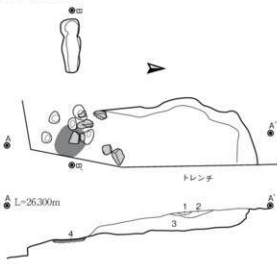
床面施設として西壁中央でカマド 1 基を検出したが、土砂の斜面上方からの流れ込みによる上部の消失や根擾乱により遺存状況は悪い。残存部位は、燃焼部焼土、左袖底部付近、煙道、煙出しである。燃焼部焼土は 48 × 48 cm の円形で、被熱深度は約 8 cm である。煙道は途中で擾乱されているが、煙道は西壁から直交方向に約 1.4 m 水平に延びて煙出しへと至る。煙道の幅は約 0.4 m、深さは約 0.45 m である。なお、煙出しには大礫が 4 個入れられており、廃絶時に煙出しを塞いだ可能性が考えられる。その他の床面施設として床面北東隅で柱穴 1 個、東壁～北壁東側で壁溝を 1 条検出した。壁溝は長さ 5.2 m、幅 15 cm、深さ 10 cm で、堆積土は竪穴内と同じく黒褐色土が主体である。

遺物は土器が縄文土器 12,806.6 g 出土しているが、大半が斜面上方から流れ込んだ縄文土器であり（a 1444～1446 等）、古代の土器は 2 点掲載できたのみである（b 13・14）。この他、古代の遺物として鉄生産関連遺物が 3,277.5 g 出土しており、鉄滓 2 点を掲載した（j 16・17）。また、縄文時代の遺物として石器 3 点を掲載した（c 286・1108・1246）。

本遺構はカマドを有することから住居として使用された竪穴建物であるが、鉄生産関連遺物が多量に出土していることから、炉は検出されていないが建物内で鍛冶作業も行っていた可能性がある。年代は、カマド燃焼部から出土した炭化材の年代測定結果（第 VI 章第 1 節）と出土遺物から平安時代（9 世紀前半）と考えられる。

(高橋・村田)

## B1号竪穴建物



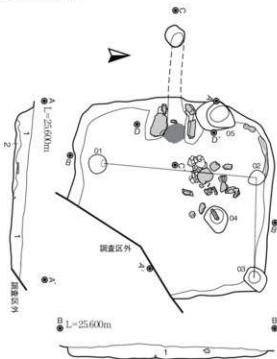
## B1号竪穴建物 (A-A')

1. 10YR2/1 黒色シルト 粘性やや強、炭粒粉少量、程度小
2. 10YR5/6 黄褐色粘土質シルトアブロック等、半色小ブロック（焼土?）少量、程度小
3. 10YR2/2 黒褐色シルト、しまりやや密、粘性やや強
4. 7.5YR4/6 褐色粘土質シルト、焼土、炭骨細片多く含む

## カマド (B-B')

1. 10YR2/2 黒褐色シルト、しまり弱、炭粒部付近は炭化物多量
2. 7.5YR4/3 ~4/4 褐色粘質シルト、しまりやや密、粘性やや強、炭骨細片多量
3. 5YR5/8 明赤褐色~4/8赤褐色粘質シルト、焼土、しまり密、粘性やや強、地山の葉色層

## B2号竪穴建物



## B2号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1. 10YR2/1 黒色シルト、しまりやや密、炭粒粉少量
2. 10YR3/1 ~2/2 黒褐色シルト、地山黄褐色土及び暗褐色土塊やや多量

## カマド (C-C'・D-D')

1. 10YR2/2 ~2/3 黒褐色シルト、しまりやや密、炭粒土少量、地山黄褐色土アブロック少量、崩落により流入した自然物積層
2. 7.5YR5/8 明褐色~4/6褐色シルト、しまりやや強、構造天井部である地山黄褐色土の崩落層
3. 10YR2/1 黒色~2/2黒褐色シルト、しまり密、構造内部への流入土
4. 7.5YR5/8 明褐色~4/6褐色シルト、多量土塊が混在
5. 10YR3/4 暗褐色シルトアブロック、しまりやや強、地山黄褐色土アブロック多量、カマド天井崩落層
6. 10YR2/3 ~3/4 暗褐色シルト、しまり密、粘性やや強
7. 10YR2/1 黒褐色~2/2暗褐色シルト、しまり密、粘性やや強、下面に炭小片、焼土粒やや多い
8. 10YR4/4 褐色~3/4暗褐色粘質シルト、しまり密、炭粒少量、炭粒粉少量
9. 10YR2/3 黒褐色シルト、しまり強、上面硬化著しい、床面構築土

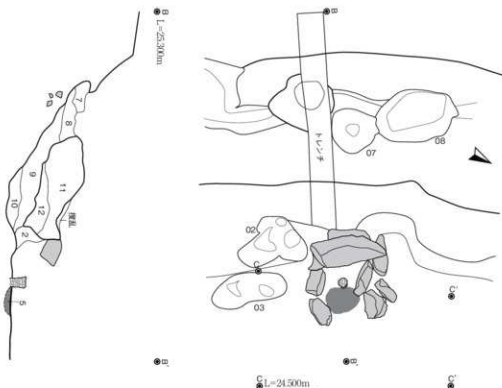
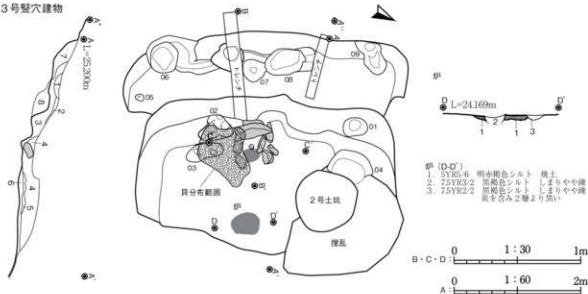
## B2号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	35.6
P02	—
P03	39.6
P04	10.6
P05	48.2

第168図 B1・2号竪穴建物

### 3 堅穴建物（古代）

#### B 3号堅穴建物



#### B 3号堅穴建物（A-A'）

- 10YR2/2 黒褐色シルト しまりやや礫、粘性やや礫
- 10YR2/2 2-3 黒褐色シルト しまりやや礫、粘性やや礫
- 10YR3/3 3-4 暗褐色粘質シルト しまりやや礫、粘性やや礫 真砂土層少量
- 10YR2/2 2 黒褐色シルト 真砂土含まない
- 10YR2/3 3 暗褐色シルト しまりやや礫、粘性やや礫 褐色砂全体に含む砂質
- 10YR3/3 3 暗褐色-7.5YR3/3 暗褐色シルト しまりやや礫 灰少量 上下面に硬化面
- 10YR4/4 褐色-3/4 暗褐色シルト 真砂土層・花崗岩細片少量 地山褐色土に類似する両項積層
- 10YR3/4 暗褐色シルト しまりやや礫 黒色土プロック含む 上段強出部底面の構築土

#### カマド（B-B'・C-C'）

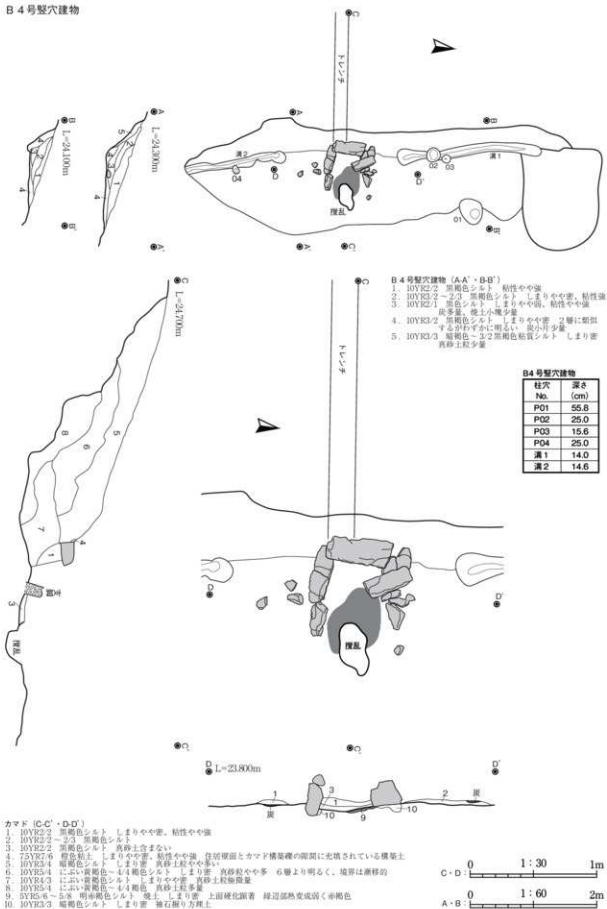
- 10YR4/4 褐色-7.5YR4/4 褐色シルト しまり礫 地山黄褐色土及び赤紫プロックの混合層 細部天井崩落土
- 10YR3/3 2-3 黒褐色シルト しまりやや礫、粘性やや礫
- 7.5YR2/3 暗褐色シルト しまりやや礫 焼土を含み全体に赤みがかる
- 10YR3/3 3-4 暗褐色シルト しまりやや礫 赤紫土プロック少量 両層崩落土か
- 5YR4/8 赤褐色-4/4 に近い赤褐色シルト 熟焼部焼土 上面が焼境面に硬化 縁部部は熱変成面
- 10YR3/3 3 暗褐色シルト しまりやや礫 褐色土プロック少量 焼石振り万理土
- 10YR2/2 2 黒褐色シルト しまりやや礫 灰少量
- 10YR4/4 褐色-3/4 暗褐色シルト しまりやや礫 真砂土層
- 10YR4/4 4-6 褐色シルト しまりやや礫 真砂土少量 崩落流入土層か
- 10YR4/3 5 に近い黄褐色シルト 4/4 暗褐色シルト しまりやや礫 分層しまりやや礫層あり
- 10YR3/3 3-4 暗褐色シルト 地山黄褐色土プロック散在みわすかに黄味 テラス状の段の底面をつくる人為層か
- 10YR4/3 5 に近い黄褐色シルト しまりやや礫 真砂土少量

#### B 3号堅穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
PO1	27.2
PO2	43.0
PO3	23.8
PO4	25.2
PO5	18.0
PO6	25.0
PO7	37.2
PO8	28.8
PO9	31.6

第 169 図 B 3号堅穴建物

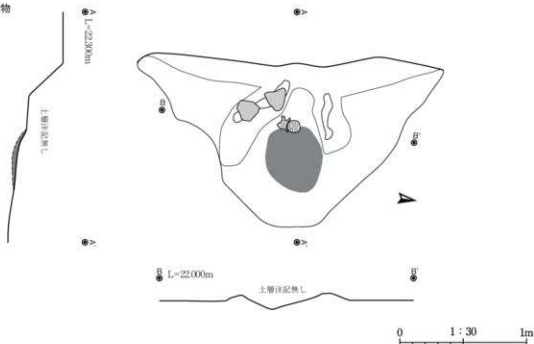
B 4 号竪穴建物



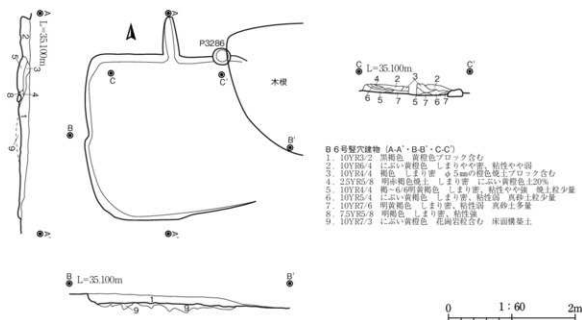
第 170 図 B 4 号竪穴建物

3 竪穴建物 (古代)

B 5号竪穴建物



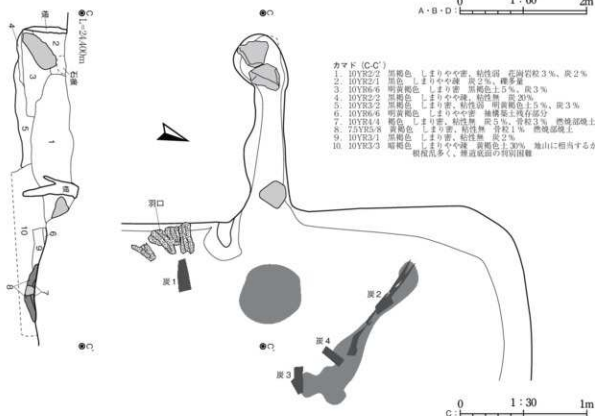
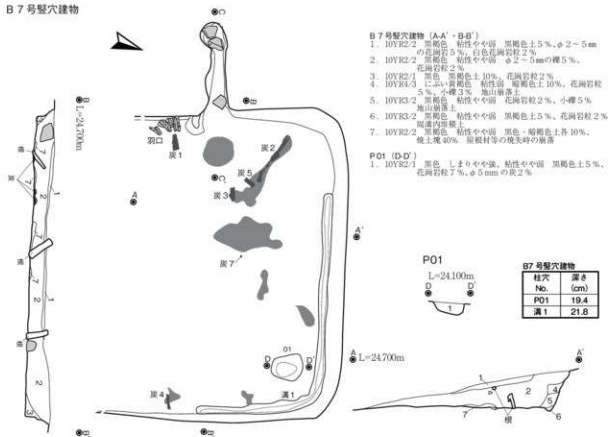
B 6号竪穴建物



- B 6号竪穴建物 (A-A'・B-B'・C-C')
- 1 10YR3/2 黒褐色 黄褐色アロックス含む
  - 2 10YR6/4 に近い黄褐色 しまり密、粘性やや弱
  - 3 10YR4/4 褐色 しまり密、φ3mmの褐色脱土アロックス含む
  - 4 2.5YR5/8 明赤褐色 しまり密、に近い黄褐色L20%
  - 5 10YR1/4 暗～6明黄褐色 しまり密、粘性やや弱、焼土粒少量
  - 6 10YR5/4 に近い黄褐色 しまり密、粘性弱、真砂土粒少量
  - 7 10YR7/6 明黄褐色 しまり密、粘性弱、真砂土多量
  - 8 7.5YR5/8 明褐色 しまり密、粘性弱
  - 9 10YR7/3 に近い黄褐色 花崗岩粒含む、床面焼硬土

第 171 図 B 5・6号竪穴建物

B 7号竪穴建物



第172図 B 7号竪穴建物



## B 8号竪穴建物

(第1-173図、第2-245～248・388・389図、写真図版179・180・458・459・529・530)

Ⅱ層上面で黒褐色の長方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平により消失している。平面形は長方形で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はカマド付近のみ地山由来の黒褐～暗褐色土を使用するが、その他の部分ではⅡ層を平坦に整えている。堆積土は黒～黒褐色土を主体とし、壁溝内堆積土を含め4層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。焼失家屋であり、床面直上では状態の良い炭化材と焼土の分布範囲が検出されている。なお、床面直上で出土した炭化材5点について樹種同定を行ったところ、クリとコナラ節であるとの結果を得ている(第Ⅵ章第3節)。

床面施設として北壁東寄りでカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右両袖構築土及び芯材礫、煙道、煙出しである。燃焼部焼土は37×27cmの楕円形で、被熱深度は約6cmである。燃焼部焼土右袖付近には支脚に転用された羽口が1点直立した状態で出土した。また、焚口付近には天井部に使用されたと考えられる板石が落ち込んでいた。煙道は北壁と直交方向に床面より一段高い位置から掘り込まれ、約1.5m水平に延びて煙出しへと至る。煙道の幅は約0.65m、深さは約0.5mである。なお、煙道は上面が削平されており構築方法は不明である。その他の床面施設として土坑1基と壁溝1条を検出した。土坑1はカマド東側に隣接する方形の土坑で、平面規模は1.2×0.6mである。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、西壁は底面から垂直に立ち上がりカマド左袖に連続する。床面からの深さは0.4mである。出土遺物が多く、3層上面から完形の土師器・須恵器が多量に出土した。壁溝は壁面北～北西隅で確認されており、幅は約0.2m、深さは約0.1mである。

遺物は土器が17,518.3g出土しているが、斜面上方から流れ込んだ縄文土器も多い(a1447～1452等)。古代の土器は先述の土坑1を中心に出土しており、27点を掲載した(b15～41)。その他、床面付近から金属製品や鉄生産関連遺物も出土しており、金属製品7点(鈴帯金具・馬具・鎌・刀子)と羽口1点を掲載した(i3～9、j2)。

本遺構は全体形は不明であるが、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。年代は、床面直上から出土した炭化材の年代測定結果(第Ⅵ章第1節)と土坑1内出土土器、金属製品の年代観から平安時代(9世紀前半)と考えられる。

(中村・村田)

## B 9号竪穴建物

(第1-174図、第2-248・249・388～390図、写真図版181・182・458・459・529・530)

Ⅱ層上面で大型の礫が複数露出する黒褐色の不整形プランとして検出した。北西側は調査区外へ延び、南東側は削平されている為全体形は不明である。残存する範囲から平面形は隅丸方形と考えられ、壁面は外傾して立ち上がる。床面は、Ⅱ層を平坦に整えている。堆積土は斜面上方から流れ込んだ黒褐色土が主体であり、2層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として北壁中央やや西寄り及び北壁東寄りでカマドを各1基検出した。西側のものをカマド1、東側のものをカマド2とし、カマド2のほうが新しい。カマド1の残存部位は、燃焼部焼土、煙道である。燃焼部焼土は72×42cmの円形で、被熱深度は約3cmである。袖部はカマド2を構築する際に壊されたものと考えられ残存していない。煙道は、直ちに調査区外へと至るため全容は不明であるが、断面形をみる限り割り抜き式と考えられる。カマド2の残存部位は、燃焼部焼土、左右両袖構築土及び芯材礫、天井構築礫である。燃焼部焼土は58×48cmの円形で、被熱深度は約9cm、燃焼面中央部で羽口を転用した支脚が直立した状態で出土している。カマド2は燃焼部付近の袖は壊れているが、煙道開始部分は天井部も含め良好に残存していた。袖及び天井部の構築方法をみると、

まず長さ20～50cmの板状礫を立て並べて芯材とし、被覆土として黒褐色土と黄褐色土ブロックを含む明黄褐色土を使用している。天井部の被覆状況は不明であるが、袖部構築後に芯材より幅広い板状礫を並べて構築していたと考えられる。なお、カマド構築土には土器・羽口の破片も混入していた。その他の床面施設として土坑1基と柱穴5個、埋設土器1基を検出した。土坑1はカマド2東側に位置する楕円形プランの土坑で、平面規模は0.7×0.36m、深さは0.21mである。堆積土は黒褐色土が主体であり、4層中から羽口が出土している。柱穴は床面残存範囲より外側でも検出されているが、配置は不規則である。埋設土器は、カマド1西側で検出した。土器器蓋の口縁部から胴部を逆位に埋設したもので(b46)、土器内の堆積土には焼土ブロックや褐灰色土が含まれる。

遺物は土器が11,627.2g出土しているが、斜面上方から流れ込んだ縄文土器も多い(a1453・1454等)。古代の土器はカマド周辺を中心に出土しており、7点を掲載した(b42～48)。このうち須恵器瓶(b47)は、カマド1の床面構築土から出土している。その他、床面直上で出土した金属製品3点と支脚として転用された物を含む羽口2点を掲載した(i10～12、j3・4)。

本遺構は全体形は不明であるが、カマドを有することから住居として構築・使用された堅穴建物と考えられる。年代は、床面直上から出土した炭化材の年代測定結果は7世紀後半～8世紀中葉とされるが(第VI章第1節)、カマド2内で出土した土器にロクロ成形の土師器杯が含まれることから平安時代(9世紀前葉)と考えておきたい。

(高橋・佐藤・村田)

#### B 10号堅穴建物

(第1-175図、第2-249図、写真図版183・460)

IV層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。南壁は削平のため消失しているが、平面形は方形と考えられ、壁面は若干外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土の単層で、堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として東壁中央付近でカマドを1基検出した。残存部位は、燃焼部焼土と煙道である。燃焼部焼土は24×21cmの円形で、被熱深度は約3cmである。煙道は、東壁と直交方向に掘り込まれ、住居床面から約0.85m水平に掘削されて煙出しへと至る。煙道の幅は約0.5m、深さは約0.1mである。その他の床面施設として西壁付近で柱穴を1個検出した。

遺物は土器が82g出土しており、2点を掲載した(b49・50)。

本遺構は、カマドを有することから住居として構築・使用された堅穴建物と考えられる。年代は、出土遺物から平安時代(9世紀代)と考えられる。

#### B 11号堅穴建物

(第1-175図、第2-249図、写真図版184・460)

IV層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。南側が大幅に削平されているが平面形は方形と考えられ、壁面はわずかに外方に開きながら立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒褐色土が主体で、9層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として西壁中央付近でカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、煙道、煙出しであるが、煙道部は後世の攪乱の為、約1/3が失われている。燃焼部焼土は38×35cmの円形で、被熱深度は約3cmである。袖部は消失しており、構築方法は不明である。煙道は、西壁と直交方向に約2.0m水平に延びて煙出しへと至る。煙道の幅は約0.38m、深さは約0.3mである。煙出しは柱穴状に掘り込まれており、上面は25×25cmの円形、検出面からの深さは約0.95mである。その他の

床面施設として床面中央付近で焼土1基、床面全域で柱穴を8個検出した。焼土1は95×55cmの楕円形で、被熱深度は約5cmである。周辺から鉄滓（精錬滓主体）が出土していることから鍛冶炉の可能性もある。柱穴配置は床面の約半分が失われている為不明であるが、P02・03・06等が主柱穴の北側列になる可能性もある。

遺物は土器が3,451.2g出土しており、9点を掲載した（b51～59）。その他、鉄生産関連遺物が224.4g出土している。

本遺構は、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀代）と考えられる。

### B12・13号竪穴建物

（第1-176図、第2-249・250図、写真図版185・186・460）

Ⅱ層上面で黒褐色の不整形プランとして検出した。当初は1軒の竪穴建物と考えて精査を開始したが、掘り下げを行ったところ主軸の異なる2軒の建物が重複していることが判明した。B12号竪穴建物が新しく、B13号竪穴建物の大部分を壊している。

B12号竪穴建物は、全体形は不明であるが平面形は方形と考えられ、壁面はわずかに外方に開きながら立ち上がる。床面はⅢ層を平坦に整え、カマド周辺のみ黒褐色土を充填して構築している。堆積土は黒褐色土が主体で、3層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として西壁中央付近でカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右両袖、煙道であるが、煙道は焚口付近の一部が残存するのみである。燃焼部焼土は44×30cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。袖部は遺存状況が悪いが、残存部分によると芯材に長さ20～30cmの角礫を立て、その周囲に地山由来の褐色土を積み上げて構築しているようである。煙道は、西壁と直交方向に焚口より若干高い位置で掘削されており、約0.5m外側に延びる。残存する煙道の幅は0.5m、深さは0.15mである。その他の床面施設として、壁溝1条と柱穴1個を検出した。壁溝は北壁際～北西コーナー部にかけて検出され、上面幅は約0.3mである。

B13号竪穴建物は、平面形は方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はB12号竪穴建物より一段高い位置にあり、Ⅲ層を平坦に整えている。

床面施設として壁面南東側で柱穴を1個検出した。

遺物はB12号竪穴建物で土器が15,207.0g、B13号竪穴建物で2,024.5g出土しているが、大半が斜面上方から流れ込んだ縄文土器で（a1455～1460等）、古代の土器はそれぞれの建物で3点ずつ掲載した（b60～65）。古代の土器のうち、b61は口縁部に沈線が巡る擦文土器と考えられる土器器甕である。

B12号竪穴建物は、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀前葉）と考えられる。B13号竪穴建物はカマドは検出されていないが、重複関係と出土遺物からB12号竪穴建物に先行する（9世紀初頭か）住居として使用された竪穴建物と考えられる。

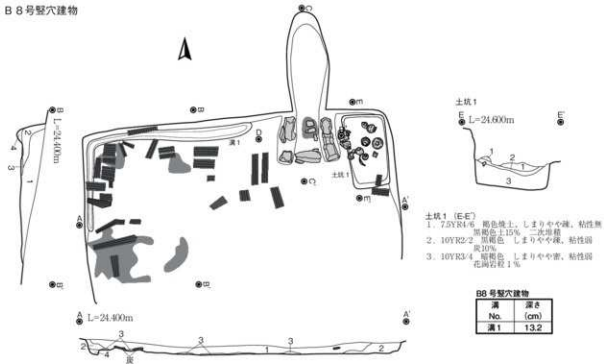
（村田）

### B14号竪穴建物

（第1-177図、第2-250図、写真図版187・188・460・531）

Ⅱ層上面で黒色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は長方形と考えられ、壁面はやや外傾して立ち上がる。床面は、Ⅱ層及び縄文時代竪穴建物の堆積土を

B 8号壁穴建物

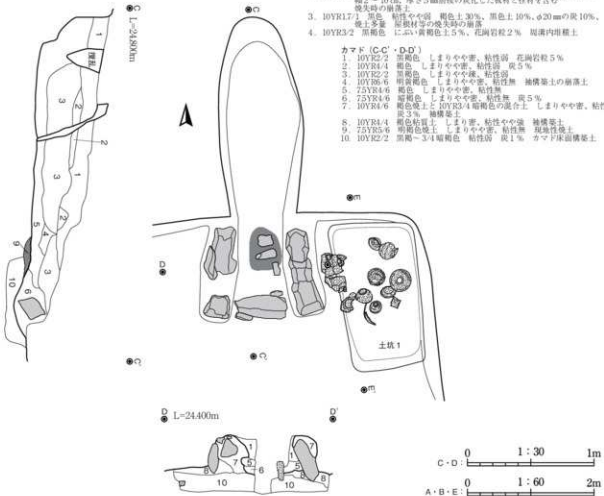


## B 8号壁穴建物 (A-A'・B-B')

- 10YR2.1 黒色 粘性や中密 黒褐色土20%、花崗岩粒3%、 $\phi$ 5mmの炭2%、 $\phi$ 2-5mmの小礫5%
- 10YR2.2 黒褐色 粘性や中密 黒褐色土5%、花崗岩粒5%、炭化物10% 幅2-10cm、厚さ5mm前後の炭化した板材と柱材を含む 焼失時の崩落土
- 10YR1.7 黒色 粘性や中密 褐色土30%、黒色土10%、 $\phi$ 20mmの炭10%、炭土多量 炭化した板材等の焼失時の崩落土
- 10YR3.2 黒褐色 粘性や中密土5%、花崗岩粒2% 周囲内用土

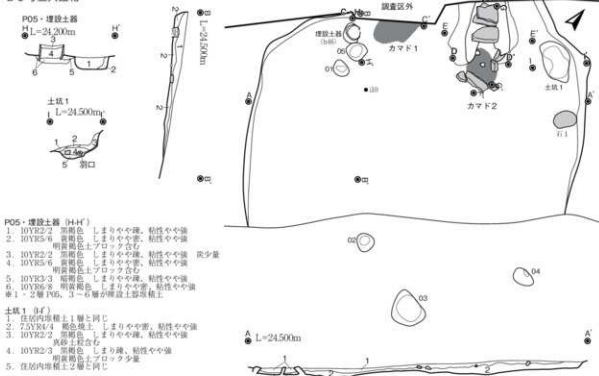
## カマド (C-C'・D-D')

- 10YR2.2 黒褐色 しまりや中密、粘性弱 花崗岩粒5%
- 10YR4.4 褐色 しまりや中密、粘性弱 炭5%
- 10YR2.2 黒褐色 しまりや中密、粘性弱 炭5%
- 10YR6.6 明褐色 しまりや中密、粘性無 焼損基土の崩落土
- 7.5YR4.6 褐色 しまりや中密、粘性無 炭5%
- 7.5YR4.6 明褐色 しまりや中密、粘性無 炭5%
- 10YR4.6 褐色炭土と10YR3.4 褐色色の混合土 しまりや中密、粘性無 炭3% 焼損基土
- 10YR4.4 褐色炭土 しまり密、粘性や中密 焼損基土
- 7.5YR5.6 明褐色炭土 しまりや中密、粘性無 現地性炭土
- 10YR2.2 黒褐色 しまりや中密、粘性弱 炭1% カマド床面積土



第173図 B 8号壁穴建物

B 9 号竪穴建物



POS・埋設土器 (94H)

1. 10YR2/2 黒褐色 しまりや中硬、粘性やや強
2. 10YR3/6 黄褐色 しまりや中硬、粘性やや強  
明黄褐色土ブロック含む
3. 10YR2/2 黒褐色 しまりや中硬、粘性やや強 灰少量
4. 10YR3/6 黄褐色 しまりや中硬、粘性やや強  
明黄褐色土ブロック含む
5. 10YR3/3 暗褐色 しまりや中硬、粘性やや強
6. 10YR3/6 黄褐色 しまりや中硬、粘性やや強  
※1・2層 POS、3・6層が埋設土器埋植土

土坑1 (9F)

1. 住居内埋植土1層と同L
2. 7.5YR3/4 暗褐色土 しまりや中硬、粘性やや強
3. 10YR2/2 黒褐色 しまりや中硬、粘性やや強  
真砂土を含む
4. 10YR2/3 黒褐色 しまりや中硬、粘性やや強  
明黄褐色土ブロック少量
5. 住居内埋植土2層と同L

B 9 号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1. 10YR2/2 黒褐色 しまりや中硬、粘性やや強
2. 10YR2/2 黒褐色 しまりや中硬、粘性やや強 黄褐色土ブロック少量

カマド1 (C-C')

1. 10YR3/1 黒褐色 しまりや中硬、粘性やや強 暗灰色土ブロック、黄褐色土含む
2. 5YR5/6 暗赤褐色 しまりや中硬、粘性やや強 黄褐色土少量、埋土ブロック含む
3. 10YR2/2 黒褐色 しまりや中硬、粘性やや強 住居内埋植土1層

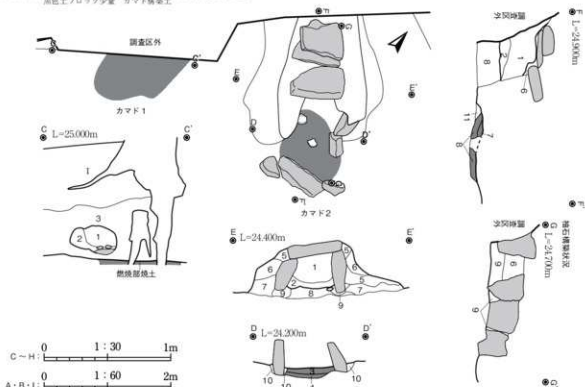
カマド2 (D-D'・E-E'・F-F'・G-G')

1. 10YR3/1 黒褐色 しまりや中硬、粘性やや強 灰1%、焼土・花崗岩粒各3%
2. 7.5YR3/2 黒褐色 しまり硬、粘性やや強 焼土含む
3. 5YR5/6 暗赤褐色 しまり硬、粘性やや強 焼燻部焼土土器 骨片散在
4. 5YR5/6 暗赤褐色 しまりや中硬、粘性やや強 焼燻部焼土土器 上面硬化
5. 10YR5/5 暗黄褐色 しまりや中硬、粘性やや強 黄褐色土少量、黒色土ブロック少量、カマド埋植土

6. 10YR3/1 黒褐色 しまりや中硬、粘性やや強  
黄褐色土ブロック少量 焼燻部土
7. 10YR3/1 黒褐色 しまりや中硬、粘性やや強  
黄褐色土ブロック少量
8. 10YR3/3 暗褐色 しまりや中硬、粘性やや強  
灰黄褐色砂質土ブロック含む 掘り方
9. 10YR3/1 暗褐色 しまりや中硬、粘性やや強  
黄褐色土・灰色土ブロック少量 掘り方
10. 10YR3/3 暗褐色 しまりや中硬、粘性やや強  
黄褐色土ブロック少量 焼燻部付近焼熱
11. 10YR2/2 黒褐色 しまり硬、粘性無  
基本層序B層相当

B 9 号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
PO1	22.4
PO2	51.0
PO3	20.2
PO4	18.8
PO6	15.4



第174図 B 9号竪穴建物

## B10号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1. 10YR2/2 黒褐色と10YR6/3に多い黄褐色の混合土
2. 10YR2/2 黒褐色 厚砂土の薄層土含む
3. 2.5YR7/3 淡赤褐色焼土(しまり織、粘性弱) 焼燼部焼土  
132号土坑直上上面に形成

## B11号竪穴建物 (A-A'・B-B')

1. 10YR2/2 黒褐色 花崗岩粒20%
- 1b. 10YR2/2 黒褐色 花崗岩粒40%
- 1c. 10YR2/2 黒褐色 焼土粒20%
- 1d. 10YR2/2 黒褐色 花崗岩粒10%
2. 2.5Y7/4 黄褐色(しまりや中織、粘性やや弱) 地山砂の再厚積層 炭燼量
3. 10YR2/1 黒色 花崗岩粒含む
4. 10YR6/1 灰褐色 やや粘土質で灰白色の灰含む
5. 10YR1/7 紫色(しまりや中織) 地山由来の黄褐色土含む
6. 10YR7/1 灰白色粘板上 粘性やや強 粘土の再厚積層
7. 10YR3/1 黒褐色(しまりや中織、粘性やや弱) 花崗岩粒量含む
8. 10YR3/2 黒褐色 焼土粒・炭燼3%
9. 2.5Y8/3 淡黄色(しまり織、粘性弱) 地山由来 厚面積土の流れ込みか

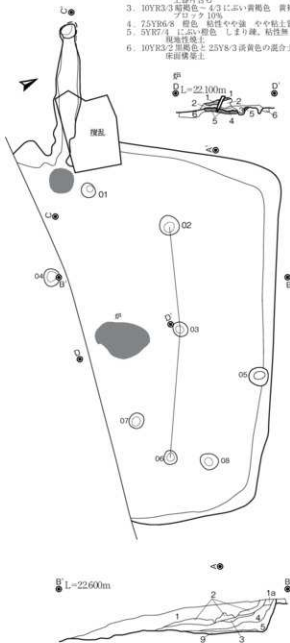
## カマド (C-C')

1. 10YR2/2 黒褐色(しまりやや強) 地山厚積土含む
2. 10YR2/2 黒褐色 焼土プロット灰内
3. 10YR2/1 黒色(しまりや中織、粘性やや弱) 花崗岩粒含む
4. 7.5YR7/8 黄褐色 地山再厚積土
5. 5YR7/4 に多い褐色(しまり織、粘性無) 厚砂土面に形成された現地性焼土

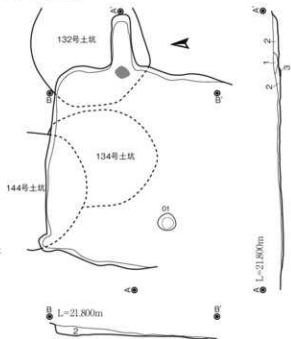
## B11号竪穴建物

## 伊 (D-D')

1. 5YR6/8 褐色焼土 黒褐色土含む二次厚積
2. 10YR3/2 黒褐色 φ2-5mmの屑3%  
土型片含む
3. 10YR3/3 暗褐色-黒に多い黄褐色 黄褐色土  
プロット10%
4. 7.5YR6/8 褐色 粘性やや強 やや粘土質
5. 5YR7/4 に多い褐色(しまり織、粘性無)  
現地性焼土
6. 10YR3/2 黒褐色と2.5Y8/3 淡黄色の混合土  
厚面積土



## B10号竪穴建物



## B10号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	27.6
P02	70.6
P03	21.8
P04	20.2
P05	45.8
P06	17.4
P07	21.2
P08	18.2

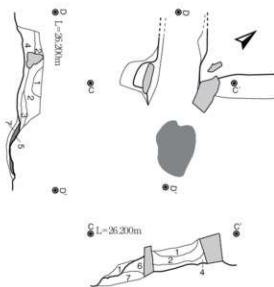
## B11号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	27.6
P02	70.6
P03	21.8
P04	20.2
P05	45.8
P06	17.4
P07	21.2
P08	18.2



第175図 B10・11号竪穴建物

B12・13号竪穴建物

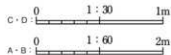


B12・13号竪穴建物 (A-A'・B-B')

- 1. 10YR2-2 灰褐色 しまり密、粘性無 黄砂土粉散層
- 2. 10YR2-3 灰褐色 しまり密、粘性無 黄砂土ブロック10%
- 3. 10YR3-3 灰褐色 しまり密、粘性無 黄砂土ブロック30%
- 4. 10YR3-4 灰褐色 しまり密、粘性無 黄砂土散層
- 5. 10YR2-2 灰褐色 しじりやや疎、粘性弱
- 6. 10YR3-3 灰褐色 しまり密、粘性無 φ50～60mmの黄褐色ブロック30%
- ※1～3層がB12号竪穴建物、4～6層がB13号竪穴建物層積上

B12号竪穴建物カマド (C-C'・D-D')

- 1. 10YR3-2 灰褐色 しまり密、粘性弱
- 2. 10YR4-4 褐色 しまり密、粘性弱 黄褐色土ブロック、灰白色粘土、ブロック下に多量
- 3. 7.5YR4-6 褐色 しまりやや疎、粘性弱 焼土粒やや多量
- 4. 10YR2-2 灰褐色 しまりやや疎
- 5. 5YR4/6 赤褐色焼土 しまり密、粘性無 焼後層焼土
- 6. 10YR4-4 褐色 しまり密、粘性無 焼後層焼土
- 7. 10YR2-3 灰褐色 しまりやや疎、粘性弱 黄砂土粒少量 床面焼土



第176図 B12・13号竪穴建物

平坦に整えている。堆積土は黒色土が主体で、2層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として壁溝1条と柱穴3個を検出した。壁溝は北壁際中央やや西寄りに位置し、長さは約3m、上面幅は約0.25mである。堆積土は黒色土である。柱穴は北壁際で等間隔に配置されており、屋根材を支える支柱穴になるものと考えられる。

遺物は土器が13,362.0g出土しているが、大半が斜面上方から流れ込んだ縄文土器であり（a 1461～1474等）、古代の土器としては4点を掲載した（b 66～69）。その他、鉄生産関連遺物が730.6g出土しており、鉄滓2点を掲載した（j 19・20）。

本遺構は、炉や焼土は検出されていないが鉄生産関連遺物が出土していることから工房として使用された堅穴建物と考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀後半）と考えられる。

#### B 15号堅穴建物

（第1-177図、第2-250・388図、写真図版187・188・460・529）

II層上面で黒色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平により失われており全体形は不明であるが、平面形は長方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、II層及び縄文時代堅穴建物の堆積土を平坦に整えている。堆積土は黒色土が主体で、2層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は土器が7,694.5g出土しているが、大半が斜面上方から流れ込んだ縄文土器である（a 1475・1476等）。古代の土器としては3点を掲載した（b 70～72）。その他、北西側の床面直上から鉄製馬具（鍔吊金具、i 13）が出土している。

本遺構は、床面施設が検出されていないがB14号堅穴建物との形態の類似性からB14号堅穴建物に先行して構築された工房の可能性が考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀後半）と考えられる。

（高橋・村田）

#### B 16号堅穴建物

（第1-178図、写真図版188）

II層で暗褐色の不整形プランとして検出したが、範囲の把握が困難であった為、プランの中央をトレンチ掘削し、断面観察により範囲を確認してから精査を行った。全体形は不明であるが、平面形は楕円形と考えられ、壁面は外方に開きながら立ち上がる。床面はA 135号堅穴建物の堆積土を削り出しているが、凹凸が認められる。堆積土は黒褐色土を主体とし、3層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は、土器が8,571.6g出土しているが、大半が斜面上方から流れ込んだ縄文土器であり（a 1477～1485等）、古代の土器は細片の為図示できなかった。

本遺構は古代の土器片の出土と縄文時代の遺構との重複関係から古代に属するものとしたが、性格や時期については不明である。

（中村・村田）

#### B 17号堅穴建物

（第1-178図、第2-250図、写真図版189・460・461）

IV層上面で黒褐色の三角形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平により失われ、西壁周辺も攪乱により上面が壊されている。削平と攪乱により全体形は不明であるが、平面形は隅丸方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土は黒色土が主



体であり、2層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として西壁中央でカマド1基を検出した。残存部位は、燃焼部焼土、左右両袖、煙道、煙出しである。燃焼部焼土は38×31cmの不整形で、被熱深度は約7cmである。袖部は角礫を芯材とし、黄褐色土と黒褐色土を積み上げて構築されている。また、燃焼部付近で天井石と考えられる大型の礫を検出した。煙道は、西壁と直交方向に緩やかに上昇しながら約1.0m延びて煙出しへと至る。煙道の規模は焚口付近と煙出し付近で異なり、焚口付近では幅約0.35m、深さ約0.3m、煙出し付近では幅約0.1m、深さ約0.25mである。煙出しの上面は柱穴状であるが、底面は煙道と連続する。その他の床面施設として壁溝1条と柱穴1個を検出した。壁溝は北壁～西壁北寄りで検出しており、長さは3.5m、幅は約0.13mである。堆積土は暗褐色土である。

遺物は、古代の土器が422.3g出土しているが接合率は悪い。このうち、外面に赤彩が施された土師器甕2点を掲載した（b 73・74）。

本遺構は、カマドを有することから住居として構築・使用された竪穴建物と考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（9世紀前半）と考えられる。

（高橋・村田）

### B 18号竪穴建物

（第1-179図、写真図版190）

縄文時代の竪穴建物であるA 212号竪穴建物の床面精査時に本遺構の煙道を検出し、その南側で黒褐色の方形プランを検出した。検出面はIV層上面である。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、岩盤層が露出している為凹凸が著しい。北壁～カマド付近のみ床面構築土と考えられる明灰褐色粘質土が約3cmの厚さで分布していた。堆積土はほとんど残存しておらず、煙道内堆積土を3層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として北壁東寄りでカマド1基を検出した。残存部位は、煙道、煙出しである。袖部は芯材の据え付け穴が残存するのみである。煙道は、西壁と直交方向に若干上昇しながら約1.2m延びて煙出しへと至る。煙道の幅は約0.36m、深さは約0.3mである。煙出しの上面は柱穴状であるが、底面は煙道と連続する。

遺物は古代の土器が188.1g出土しているが、細片の為図示できなかった。

本遺構は遺存状況は悪いが、カマドを有することから住居として使用された竪穴建物と考えられる。竪穴の形態から古代に属するが、出土遺物が乏しいため詳細な年代は不明である。

### B 19号竪穴建物

（第1-179図、第2-391図、写真図版191・531）

II b層下位～IV層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形で、残存する北壁は外方に、東西壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は北壁付近では構築土と考えられる白色粘質土が分布していたが、その他の部分はIV～V層を削り出して形成しているが、V層は岩盤層であり木根の侵食も多いため凹凸が著しい。堆積土は黒褐色土とぶい黄褐色土で構成され、2層に分層した。堆積の様相は自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は古代の土器が21.2g出土しているが、細片の為図示できなかった。この他、鉄生産関連遺物が176.0gと陶磁器1点が出土しており、鉄滓2点と陶磁器1点を掲載した（j 21・22、k 3）。なお、鉄滓のうち1点は鉄塊系遺物である（第VI章第8節）。

本遺構は、床面施設が検出されていないが鉄生産関連遺物が出土していることから工房の可能性が考えられる。年代は、出土遺物から平安時代（12世紀代か）と考えられる。

#### B 20号竪穴建物

（第1-179図、第2-389図、写真図版191・529・531）

II b層下位で黒褐色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平、東側はB 19号竪穴建物により壊されているが、平面形は方形と考えられ、壁面は大きく外方に開きながら立ち上がる。床面はII層最下位を平坦に整えており、IV層を床面とするB 19号竪穴建物より凹凸は少ない。堆積土は黒褐色土の単層で、自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は古代の土器が252.4 g出土しているが、細片の為図示できなかった。この他、金属製品数点と鉄生産関連遺物709.2 gが出土しており、鉄素材の可能性のある不明鉄製品1点と鉄滓3点を掲載した（i 14・j 23～25）。

本遺構は、床面施設が検出されていないが鉄生産関連遺物が出土していることから工房の可能性が考えられる。年代は、出土遺物から平安時代と考えられる。

#### B 21号竪穴建物

（第1-179図、第2-249図、写真図版191）

II b層下位～IV層上面で黒褐色の方形プランとして検出した。斜面下方である南側は削平、西側はB 19号竪穴建物により壊されている。削平等により全体形は不明であるが、平面形は長方形と考えられ、壁面は大きく外方に開きながら立ち上がる。床面はIV層を削り出しているが、部分的に岩盤層であるため凹凸が見られる。堆積土は黒褐色土の単層で、堆積の様相は自然堆積である。床面施設は検出されなかった。

遺物は土器が1,667.4 g出土しているが、大半が斜面上方から流れ込んだ縄文土器であり（a 1486等）、古代の土器は細片の為図示できなかった。

本遺構は、床面施設が検出されていないが隣接する竪穴建物との類似性から工房の可能性が考えられる。年代は、出土遺物から平安時代と考えられる。

（中村・村田）

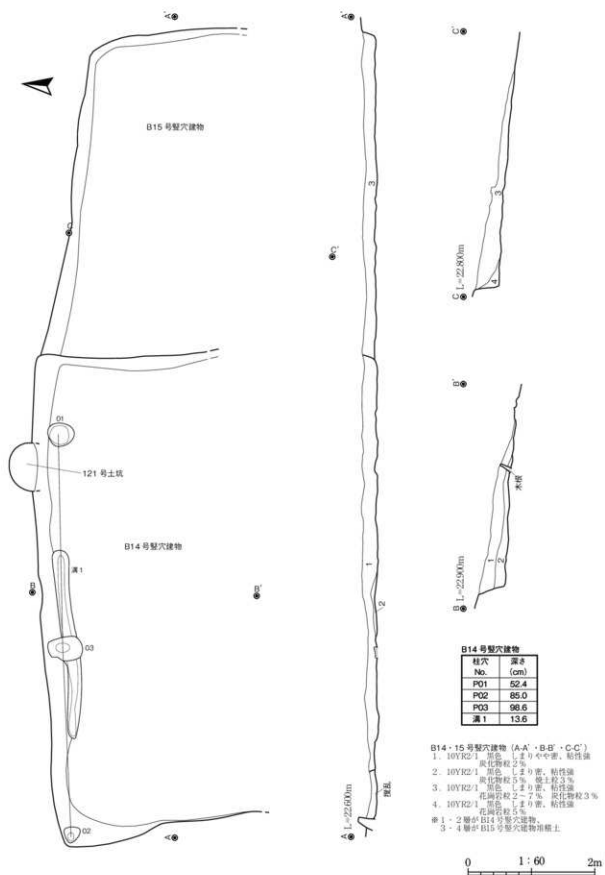
#### B 22号竪穴建物

（第1-180図、写真図版192）

IV層上面で黒褐色の長方形プランとして検出した。同所は調査前現況が作業道であり、かつ今回の調査でも重機道として使用したことから、著しく削平・改変を受けており、本遺構も検出時点で床面が露出する状況であった。斜面下方である南側は削平されているが、平面形は方形と考えられ、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。床面は、IV層を平坦に整えている。堆積土はわずかに残る部分を見る限り黒褐色土が主体である。残存する堆積土が薄いため堆積の様相は不明である。

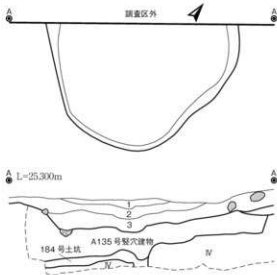
床面施設として西壁中央でカマド1基を検出した。残存部位は燃焼部焼土、左右袖芯材据え付け穴、煙道、煙出しである。燃焼部焼土は45×35cmの楕円形で、被熱深度は約3cmである。燃焼部焼土直下は浅い皿状に掘り込まれており、内部には板状の扁平礫が3個敷設されていた。遺跡内で類例は無いが、これはカマドの内部を平坦に保つ工夫と考えられる。袖部は芯材礫の据え付け穴のみが残存しており、構築方法は不明である。煙道は、西壁から直交方向に若干下降しながら約1.2m延びて煙出しへと至る。煙道の幅は約0.25m、深さは不明である。煙出しの上面は不明であるが、底面は煙

B14・15号竖穴建物



第177图 B14・15号竖穴建物

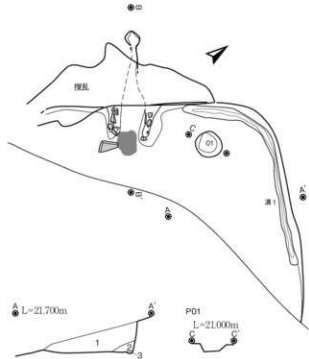
B16号竪穴建物



B16号竪穴建物 (A-A')

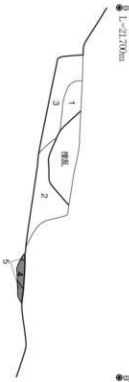
1. 10YR2/2 黒褐色 しまり密、粘性無 花崗岩粉1%
2. 10YR2/3 黒褐色 黄褐色11.5%、灰・花崗岩粉各1%
3. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 花崗岩粉1% 遺物集中

B17号竪穴建物



A L=21.700m

P01 L=21.000m



B17号竪穴建物 (A-A')

1. 10YR2/1 黒色 しまりやや密、粘性強  $\phi$  2-5mmの礫10%
2. 10YR3/1 黒褐色 しまり密、粘性強 に近い黄褐色土3%
3. 10YR3/3 黒褐色 しまりやや密、粘性強 厚層内層粘土

カマド (B-B')

1. 10YR3/1 黒褐色 しまり密 褐色土20%
2. 10YR2/1 黒色 しまりやや密、粘性強
3. 10YR2/1 黒色 しまりやや密 に近い黄褐色10%、焼土2% 腐乱による崩落土
4. 10YR4/4 褐色焼土 しまりやや密 焼成硬焼土
5. 5YR4/8 赤褐色焼土 しまりやや密 粘性弱 焼成硬焼土

B17号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	14.0
溝1	15.6

B17号建物B-B' 0 1:30 1m

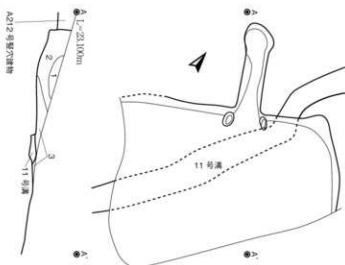
B16・17号建物 0 1:60 2m

第178図 B16・17号竪穴建物

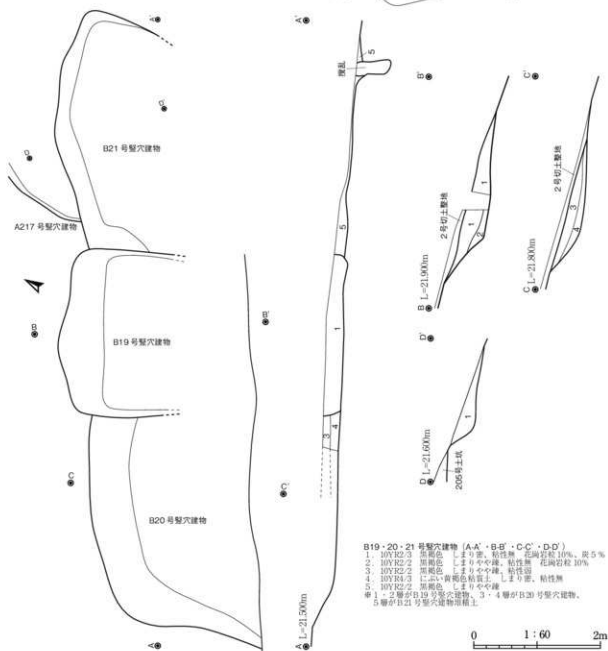
3 竖穴建物 (古代)

B18号竖穴建物

- B18号竖穴建物 (A-A')  
 1. 10YR2/2 灰褐色 しまり密、粘性無 土に赤・黄褐色土 10%  
 2. 10YR2/2 灰褐色 しまり密、粘性無 焼土粒 1%  
 3. 10YR2/2 灰褐色 しまり密、粘性弱 埋出しに炭産物集中

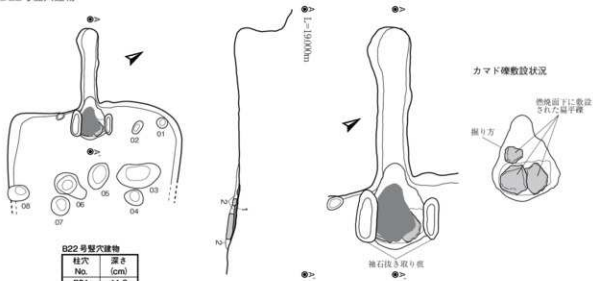


B19・20・21号竖穴建物



第179图 B18~21号竖穴建物

## B22号竪穴建物



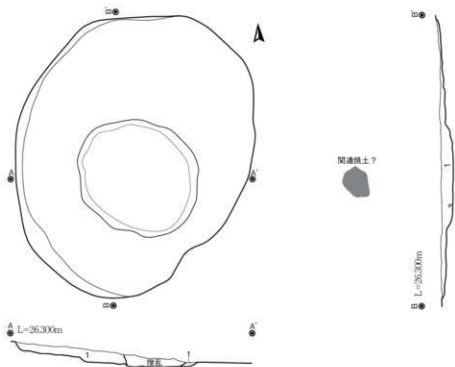
## B22号竪穴建物

柱穴 No.	深さ (cm)
P01	11.0
P02	17.0
P03	28.0
P04	20.0
P05	13.6
P06	34.0
P07	13.6
P08	31.2

## B22号竪穴建物カマド (A-A)

- 1: 0Y3C/4 明褐色砂質シルト硬土、しまりやや硬、粘性やや弱、現地性の過密硬土。
- 2: 10YR3/3 暗褐色砂質シルト、しまりやや硬、粘性やや弱、敷設礎の掘り方硬土。

## B23号竪穴建物



## B23号竪穴建物 (A-A・B-B)

- 1: 10YR2/1 灰色～2/2 暗褐色シルト、しまりやや密、黄砂土段極微量

B22号建物 A-A: 0 1:30 1m

B22号建物平面・B23号建物: 0 1:60 2m

道と連続する。その他の床面施設として柱穴8個を検出した。堅穴の規模に対して数が多く、配置と大きさも多様であることから、本遺構に伴わない柱穴も含んでいると考えられる。

遺物は古代の土器が58.1g出土しているが、細片の為図示できなかった。

本遺構は遺存状況は悪いが、カマドを有することから住居として使用された堅穴建物と考えられる。堅穴の形態から古代に属するが、出土遺物が乏しいため詳細な年代は不明である。

(北田・村田)

#### B 23号堅穴建物

(第1-180図、第2-250図、写真図版192・461)

Ⅱ層下位で黒褐色の楕円形プランとして検出した。上面を削平されている為全容は不明であるが、平面形は円形又は楕円形と考えられ、壁面は下部がやや内弯し、上部は外傾して立ち上がる。床面はⅣ層を平坦に整えており、全体に硬化している。堆積土の主体は黒褐色土の単層である。堆積の様相は自然堆積である。

床面施設として中央部で上面規模2.0×1.7mの楕円形、深さ約10cmの土坑状の掘り込みを1基検出した。堅穴内と一連で黒褐色土が堆積していることから本遺構に伴う施設といえるが、性格については不明である。また、堅穴部東端から1.7m東側で現地性焼土を1基検出した。検出状況からみると、この焼土は本来本遺構の床面で形成されていたものが削平の為下部のみ残存したものである可能性がある。焼土は50×40cmの楕円形で、被熱深度は約4cmである。

遺物は古代の土器が110.8g出土しており、このうち須恵器2点を掲載した(b75・76)。

本遺構は出土遺物から古代の遺構と考えられるが、平面形態や床面施設は遺跡内で他に類似は無く、前述の焼土が本遺構に伴う炉であるとすれば長楕円形プランの工房であった可能性もある。年代は、出土遺物から平安時代(9世紀代か)と考えられる。

(村上・村田)

## 4 土 坑

(第1-181～208図、第2-91～111・239・250・254・258・264・268・280・285・286・307～311・335～338・358・362・364・373・376・377・382・391・392図、写真図版193～252、340～354・461・463・464・468・470・476・477・488～490・500～502・509・512・514・518・520・521・525・531)

312基検出した。検出位置・規模等は第6表の通りで、ここでは全体的な傾向について記載する。分布状況には偏りがあり、沢状地形に向かって張り出した尾根の頂部から南側の急斜面部とそれに面する沢状地形である南側の低位部の2箇所集中している。縄文時代の貯蔵穴は急斜面部、浅い方形・長楕円形の土坑は低位部に多く分布する(第1-7～11図)。特に急斜面部は貯蔵穴が2～3基重複するものが多く、低位部より乾燥したこの範囲を貯蔵用のエリアとして繰り返し利用していたことがわかる。この他、微高地となっている中央緩斜面西側や西端区では古代以降の土坑も検出されているが、前述の2地点に比べて分布密度は低い。また、尾根北側斜面及び北端区では検出されていない。

年代は、出土遺物及び他遺構との重複関係から縄文時代294基、古代(以降)5基、近世3基、近世以降1基、時期不明9基である。

縄文時代の土坑は、出土遺物と他遺構との重複関係から前期初頭、前期後葉～中期末葉に属すると考えられる。形状から性格が推定できるものとして最も多いのは貯蔵穴で、可能性があるものを含め

第6表 土坑一覧

遺構名	グリッド	時代	性格	断面形	計測値 (m)			出土遺物	備考 (重要: 石標が新しい)
					長軸	短軸	深さ		
1号土坑	E B21m	近世以降	墓?	箱形	1.00	0.68	0.46	土器 1368.2g (a975) 石器 735.3g 陶器片 (a. 5・14・20)	底面に木板。(A15号型穴建物→C)
2号土坑	I B22m	古代以降	不明	箱形	(1.30)	(0.86)	0.06		I13号型穴建物→C
3号土坑	E B16g	縄文	不明	半円形	2.72	1.64	0.44	土器 5237.6g (a970) 土器片内数 7.7g (g57)	(C→A36・27・33号型穴建物)
4号土坑	E B13b	中期後葉	不明	箱形	1.78	1.72	0.13	土器 801.1g (a977 ~ 979)	(無し)
5号土坑	E B13a	縄文	不明	箱形	0.72	0.64	0.12		(無し)
6号土坑	E B13c	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.06	0.85	0.46	土器 106.8g、石器 725.6g	(7号土坑→C)
7号土坑	E B13d	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.70	1.62	0.5	土器 548.7g、石器 1880.3g	(C→6号土坑)
8号土坑	E B13e	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.36	1.22	0.77	土器 2084.6g (a201・980)	(無し)
9号土坑	E B19g	縄文	不明	不整形	1.04	1.01	0.59	土器 253.4g	(268号土坑、P1366→C)
10号土坑	E B13f	縄文	不明	箱形	0.67	0.56	0.10		(無し)
11号土坑	E B13h	中期後葉	貯蔵穴	フラスコ	0.72	0.70	1.10	土器 1867.7g (a981 ~ 984) 石器 237.4g (c1014・1248) 石製品 57.9g (a69) 土器片内数 29.6g (g26)	(無し)
12号土坑	E B11i	縄文	貯蔵穴?	台形	2.18	1.38	0.56	土器 95.6g	フラスコ状土坑の底部か。(無し)
13号土坑	E B12a	縄文	貯蔵穴?	台形	1.64	0.83	0.33		フラスコ状土坑の底部か。(無し)
14号土坑	E B12b	中期前葉	貯蔵穴?	台形	1.94	0.98	0.38	土器 1266.7g (a985・986)	フラスコ状土坑の底部か。(無し)
15号土坑	E B12g	縄文	不明	箱形	0.86	0.76	0.13		
16号土坑	E B13g	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.47	1.31	0.94	土器 3307.4g (a987 ~ 990) 石器 734.1g (c1249)	(C→21号土坑)
17号土坑	E B12d	縄文	貯蔵穴?	フラスコ	1.44	1.14	0.84	動物遺存体 (試料 K-8)	(無し)
18号土坑	E B13f	縄文	不明	箱形	1.58	(0.87)	0.06		竇穴2。(C→P1008)
19号土坑	E B10f	縄文	貯蔵穴?	台形	2.13	1.54	0.25		フラスコ状土坑の底部か。(無し)
20号土坑	E B9h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.52	1.16	1.33	土器 2615.3g (a991)	
21号土坑	E B13g	縄文	不明	箱形	0.84	0.79	0.09		(16号土坑→C)
22号土坑	E B8a	縄文	不明	逆台形	0.57	0.49	0.43		(無し)
23号土坑	E B9g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.74	(1.04)	0.88		(無し)
24号土坑	E B13i	中期中→後	貯蔵穴	フラスコ	0.88	0.72	1.00	土器 1335.7g	(無し)
25号土坑	E B8g	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.1	1.02	0.92	土器 3118.2g (a992) 石器 213.0g (c1368)	(42号土坑→C)
26号土坑	E B8f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.42	(1.05)	0.76	土器 2145.5g (a993)	(C→37・45号土坑)
27号土坑	E B14g	中期中葉?	不明	逆台形	3.02	(1.48)	0.65	土器 1616.6g	(C→33号土坑)
28号土坑	E B14f	前期末	貯蔵穴	フラスコ	1.74	1.31	0.75	土器 3997.6g (a994・995) I17 736.0g	(C→A34号型穴建物)
29号土坑	E B10g	縄文	貯蔵穴	箱形	2.22	1.95	2.21	土器 4534.4g (a996 ~ 999) 石器 0.1g	(C→115号土坑)
30号土坑	E B12e	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.60	1.48	0.42	土器 98.2g	(無し)
31号土坑	E B14b	前期末	貯蔵穴	箱形	1.48	1.51	0.59	土器 4891.3g (a1000・1001)	(C→A34号型穴建物)
32号土坑	E B12c	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.26	0.90	1.12	土器 1309.1g (a1002)	(無し)
33号土坑	E B13g	中期末	不明	箱形	3.27	(1.72)	0.29	土器 401.8g (a1003) 石器 259.8g	(27号土坑→C)
34号土坑	E B14d	縄文	不明	逆台形	1.07	0.67	0.67		(A56号型穴建物→C)
35号土坑	E B13h	中期中葉	貯蔵穴	フラスコ	0.77	0.70	1.30	土器 1185.2g (a1007)	竇穴無し。(A32号型穴建物→C)
36号土坑	E B10g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.38	1.30	1.82	土器 1215.2g 石器 3474.3g (c1112・1113・1250)	(無し)
37号土坑	E B8f	中期末	貯蔵穴	フラスコ	2.02	1.63	1.59	土器 1697.8g (a1008)	(26・44号土坑→C)
38号土坑	E B9h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.62	1.45	0.54	土器 295.7g	(43号土坑→C)
39号土坑	E B10h	縄文	不明	箱形	0.69	0.34	0.17	土器 35.0g	(A41号型穴建物、40号土坑→C)
40号土坑	E B10h	縄文	不明	箱形	0.82	0.63	0.23	土器 245.5g	(C→39号土坑)
41号土坑	E B7f	中期中→後	貯蔵穴	フラスコ	1.62	(1.00)	0.80	土器 99.4g (a1009)	(C→A49号型穴建物)
42号土坑	E B9g	中期後葉	貯蔵穴	フラスコ	1.28	0.96	1.45	土器 632.9g (a1010・1011)	(C→25号土坑)
43号土坑	E B9h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.18	(0.71)	0.11		(C→38号土坑)
44号土坑	E B8f	中期末	貯蔵穴	フラスコ	1.74	1.27	0.90	土器 12016.8g (a1012 ~ 1016) 石器 182.4g	(C→37号土坑)
45号土坑	E B12d	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.00	0.83	(1.42)	土器 3610.1g (a1017・1018)	竇穴無し。(無し)
46号土坑	E B16b	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.42	1.03	0.61		(C→A33号型穴建物)
47号土坑	E B14f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.23	1.13	0.95	土器 (a147) 石器 275.0g	竇穴1。遺物は A42・47号型穴建物と一緒に取り上げ。(C→A42・43号型穴建物)
48号土坑	E B14e	中期中葉	貯蔵穴	フラスコ	1.92	1.50	1.16	土器 4300.0g (a1019) 土製品 1344.2g (a45)	竇穴無し。(C→A35号型穴建物)
49号土坑	E B13d	縄文	墓?	箱形	1.42	0.70	0.31		(A61号型穴建物→C)
50号土坑	E B14f	前期末	不明	逆台形	1.54	1.50	0.78	土器 662.1g (a1020) 石器 4761.0g	(C→A56号型穴建物)
51号土坑	E B12f	中期中→後	陥し穴?	不整形	(2.71)	(2.48)	0.56	土器 2666.6g (a1021)	竇穴1。(無し)
52号土坑	E B15e	縄文	不明	逆台形	2.00	(0.87)	0.38	土器 1123.4g	(C→1号型石遺構)
53号土坑	E B13h	中期後葉	貯蔵穴	フラスコ	1.30	1.03	1.60	土器 6918.1g (a1022 ~ 1027) 石器 25600.0g (c1114) 動物遺存体 (試料 K-9)	竇穴・写真無し。(C→A32・38号型穴建物)
54号土坑	E B14d	縄文	不明	箱形	0.92	(0.68)	0.58		竇穴無し。(C→A35号型穴建物)
55号土坑	E B14f	縄文	不明	逆台形	0.64	(0.30)	0.40	土器 160.0g 石器 0.9g (c50)	(C→A53号型穴建物)
56号土坑	E B14d	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	1.71	1.56	1.38	土器 3668.0g (a1028 ~ 1030)	(C→A35号型穴建物)



## 4 土坑

遺構名	グリッド	時代	性格	断面形	口周囲 (m)			出土遺物	備考 (遺構・石積が新しい)
					長軸	短軸	深さ		
57号土坑	B14f	前期末	野藏穴	フラスコ	0.90	0.84	0.81	土器 5747.6g (a1031・1032)	(C)→A47号整穴建物
58号土坑	B14e	前期末	野藏穴	フラスコ	1.48	1.12	1.04	土器 1025.8g (a1033・1034) 石器 588.3g (c1202)	(A64号整穴建物、65号土坑→C)→A35号整穴建物
59号土坑	B13c	前期末	野藏穴	フラスコ	1.15	0.96	0.69	土器 1042.6g (a1035・r36)	(無し)
60号土坑	B14d	縄文	野藏穴	筒形	2.02	1.74	0.51		61号土坑→C)→A25号整穴建物
61号土坑	B14d	縄文	野藏穴	フラスコ	2.18	1.52	0.68		(C)→A35号整穴建物、60号土坑
62号土坑	B15e	前期 শেষ	陥し穴	筒形	2.02	1.88	0.31	土器 4519.8g (a1038・1039・1037・r17)	副穴1、(C)→A35・62・63号整穴建物、1号整穴遺構
63号土坑	B13M	縄文	野藏穴	フラスコ	1.43	1.31	0.79		(C)→A61号整穴建物
64号土坑	B14g	縄文	陥し穴?	逆台形	1.80	1.25	0.25		(C)→A42・43号整穴建物
65号土坑	B14e	縄文	不明	逆台形	0.70	(0.48)	0.30	土器 137.7g	副穴無し。(58号土坑→C)→64号土坑
66号土坑	B11p	不明	不明	逆台形	1.16	1.12	0.33	土器 1337.9g	(無し)
67号土坑	B10p	縄文	不明	逆三角形	1.20	1.16	1.04		(無し)
68号土坑	B11m	近世	不明	逆三角形	2.54	2.03	0.82	土器 906.8g (a1038・1039) 石器 264.5g、石製品 1409.7g	69号土坑→C)→3号溝
69号土坑	B11j	近世	不明	逆台形	3.58	2.28	0.81	土器 11756.2g (a1040) 鉄器	(C)→A35号整穴建物、60号土坑
70号土坑	B12	近世	不明	筒形	1.00	0.78	0.28	土器 906.1g	69号土坑→C)
71号土坑	B13j	中期中～後	野藏穴	フラスコ	2.02(2)	1.40	1.43	土器 5387.8g (a1041・1046)	(C)→A72号整穴建物、75号土坑
72号土坑	B13m	縄文	野藏穴	フラスコ	(0.90)	0.62	0.30		(A72・78号整穴建物→C)→A75号整穴建物
73号土坑	B13k	中期前～中	整穴?	逆台形	1.60	1.42	0.52	土器 121.6g (a1047)	副穴1、(A80号整穴建物→C)→A78号整穴建物、71号土坑
74号土坑	B14k	中期 শেষ	野藏穴	フラスコ	1.04	0.98	0.80	土器 1989.2g (a1048) 石器 6041.3g (c1115)	(C)→A76号整穴建物
75号土坑	B13h	中期中～後	野藏穴	フラスコ	1.36	1.08	1.04	土器 2325.3g (a1049・1050) 石器 25798.0g (c1116・1253・1256)	(71号土坑→C)
76号土坑	B13i	中期中～後	野藏穴	逆台形	(1.84)	(1.66)	0.90	動物遺存体 (試料 K2) 土器 1600.4g (a1051)、石器 0.2g 動物遺存体 (試料 K-3・4・10・11)	(77・79・80号土坑→C)
77号土坑	B13h	中期 শেষ	野藏穴	フラスコ	1.42	(1.18)	0.82	土器 960.5g (a1052・1053)、石器 6.9g 動物遺存体 (試料 K4・5・11・12)	副穴1 (98cm)、(80号土坑→C)→76号土坑
78号土坑	B13i	中期中～後	陥し穴	筒形	1.86	1.54	1.02	土器 1320.1g (a1054) 石器 499.1g (c 281・1257)	副穴1、(無し)
79号土坑	B13j	中期 শেষ	不明	逆台形	0.96	0.73	0.39	土器 127.4g (a1055)	副穴・写真無し。(C)→76号土坑
80号土坑	B13j	縄文	野藏穴	フラスコ	1.36	1.20	0.98		(C)→76・77号土坑
81号土坑	B4d	縄文	野藏穴	フラスコ	2.28	1.64	0.64	土器 126.3g	(無し)
82号土坑	B4e	縄文	不明	筒形	0.92	0.86	0.53		(無し)
83号土坑	B4b	縄文	不明	逆台形	1.76	(0.68)	0.25		(無し)
84号土坑	B3c	縄文	陥し穴?	筒形	(2.14)	(1.73)	0.43		副穴1 (21.0cm)、(無し)
85号土坑	B4d	縄文	野藏穴	逆台形	2.07	1.79	0.63		(無し)
86号土坑	B5k	縄文	野藏穴	フラスコ	2.06	1.84	1.63		(無し)
87号土坑	B5c	古代	不明	逆台形	2.06	1.88	0.82	土器 17.4g、石製品 36.2g、鉄器	(無し)
88号土坑	B6f	縄文	陥し穴	筒形	1.74	1.24	1.00		副穴1、(無し)
89号土坑	B6f	縄文	不明	不整形	2.40	(1.60)	0.81		(無し)
90号土坑	B5h	縄文	野藏穴?	台形	1.64	(0.91)	0.42		フラスコ状土坑の底部分、(無し)
91号土坑	B6k	縄文	野藏穴	フラスコ	1.73	1.64	1.18		(無し)
92号土坑	B13c	古代以降	墓?	筒形	1.71	1.08	0.46	土器 1262.6g (a1056) 鉄器 (27)	(無し)
93号土坑	B12d	中期 শেষ	不明	筒形	1.42	1.04	0.16	土器 5696.6g (a1057)	(C)→A84号整穴建物
94号土坑	B15b	縄文	不明	筒形	1.32	0.70	0.61	土器 322.3g	(無し)
95号土坑	B14a	中期中～後	野藏穴?	不整形	3.36	1.00	0.76	土器 4081.4g (a1058) 石器 228.1g、石製品 8.7g 土器片内数 18.1g (g29)	(101号土坑→C)→A99号整穴建物
96号土坑	B14a	縄文	不明	不整形	1.54	1.20	0.71	土器 901.5g	(101号土坑→C)
97号土坑	A15y	縄文	不明	筒形	1.08	0.76	0.27		(C)→A93号整穴建物
98号土坑	A14y	縄文	不明	逆台形	1.64	0.84	0.30	土器 114.9g	(無し)
99号土坑	A14y	縄文	不明	逆台形	1.46	(0.35)	0.12	土器 29.9g	(P2003→C)
100号土坑	B12d	中期 শেষ	野藏穴	フラスコ	1.28	1.20	0.62	土器 3188.6g (a1059・1060)	(102号土坑→C)→A84号整穴建物
101号土坑	B14a	中期中～後	不明	不整形	(0.70)	(0.40)	0.27	土器 191.2g (a1061)	(102号土坑→C)→95・96号土坑
102号土坑	B12d	縄文	不明	円形?	0.52	0.40	0.34	土器 65.2g、石製品 1097.0g	(C)→A84号整穴建物、100号土坑
103号土坑	B14c	中期前～末	不明	筒形	1.29	1.22	0.33	土器 1519.6g (a1062)	(A83号整穴建物→C)→104号土坑
104号土坑	B14c	縄文	不明	筒形	0.73	0.68	0.84	土器 35.2g	(103号土坑→C)
105号土坑	B13c	中期中～後	不明	不整形	(0.74)	(0.22)	-	土器 544.2g (a1063) 石器 266.7g	(C)→A83・90号整穴建物
106号土坑	B13d	前期末	野藏穴	フラスコ	1.10	1.02	1.09	土器 5634.7g (a1064・1069) 石器 2.6g	(C)→A83号整穴建物、108号土坑
107号土坑	B13b	縄文	不明	筒形	0.82	0.44	0.34	土器 82.8g	(無し)
108号土坑	B13d	中期	不明	逆台形	1.44	0.80	0.26	土器 657.3g (a1064)	(106号土坑→C)→A83号整穴建物
109号土坑	B14c	縄文	野藏穴	フラスコ	1.72	1.45	0.37		(A100号整穴建物→C)
110号土坑	B14c	縄文	不明	不整形	(1.28)	(1.17)	0.19	土器 152.2g	(C)→A99号整穴建物
111号土坑	B15d	中期 শেষ	野藏穴	フラスコ	1.22	1.17	1.39	土器 610.3g (a1070) 石器 915.2g (c1259)	(P2074→C)

遺構名	グリッド	時代	性格	断面形	計測値 (m)			出土遺物	備考 (重複し 石積が新し)
					長軸	短軸	深さ		
112号土坑	Ⅱ B15c	中期中以前	貯蔵穴	フラスコ	1.36	1.28	1.04	土器 1339.4g (a1071) 石器 1578.3g (c1117)	(P3072・3073→A97号貯蔵穴建物)
113号土坑	Ⅱ B10b	中期末	貯蔵穴	フラスコ	1.65	1.52	0.66	土器 5742.0g (a1072・1703)	(無し)
114号土坑	Ⅱ B9f	中期	貯蔵穴	フラスコ	0.92	0.48	0.85	土器 428.5g	(A196号貯蔵穴建物、115号土坑→○)
115号土坑	Ⅱ B9f	中期	貯蔵穴	フラスコ	(1.54)	1.12	0.86	土器 1302.0g (a1074) 石器 5498.6g	(29号土坑→○→114号土坑)
116号土坑	Ⅱ B9g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.06	0.72	-	土器 42.6g	(A196号貯蔵穴建物→○→117・123号土坑)
117号土坑	Ⅱ B9g	中期末以降	不明	扇形	(0.98)	(0.48)	0.36	土器 1114.4g	(116・123号土坑→○)
118号土坑	Ⅱ B10g	中期中葉	貯蔵穴	フラスコ	(1.86)	1.72	0.60	土器 4702.0g (a1075・1076) 石器 14.4g (c288)	(116号土坑→○→A105号貯蔵穴建物、123号土坑)
119号土坑	Ⅱ A11h	中期前葉	貯蔵穴	フラスコ	2.28	1.96	0.81	土器 2965.4g (a1077・1080) 石器 34.0g (c288)	(120号土坑→○)
120号土坑	Ⅱ A11h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.96	1.81	0.52		(○→119号土坑)
121号土坑	Ⅱ B8a	古代	不明	半円形	0.76	(0.44)	0.22	土器 398.5g	(○→B14号貯蔵穴建物)
122号土坑	Ⅱ A8c	古代以降	不明	半円形	0.62	0.56	0.23		(A136号貯蔵穴建物→○)
123号土坑	Ⅱ B10e	中期後～末	貯蔵穴	フラスコ	1.00	0.94	1.73	土器 1985.19g (a1072・1081・1084) 土製品 (e99)	(A196号貯蔵穴建物、116・118号土坑→○→117号土坑)
124号土坑	Ⅱ B8f	縄文	貯蔵穴?	不整形	3.02	0.82	0.48		フラスコ状土坑の底部から、(125号土坑→○)
125号土坑	Ⅱ B8f	中期中葉	貯蔵穴	フラスコ	1.64	1.42	0.41	土器 260.8g (a1080)	(○→124号土坑)
126号土坑	Ⅱ B11a	中期前葉	不明	逆台形	1.54	0.72	0.22	土器 580.3g (a1086)	(A174号貯蔵穴建物)
127号土坑	Ⅱ B8a	不明	不明	扇形	0.84	0.70	0.21	土器 135.2g	(5号溝→○)
128号土坑	Ⅱ B12a	不明	不明	不整形	0.55	0.32	0.22	土器 142.5g	(無し)
129号土坑	Ⅱ A11y	縄文	陥穴	逆台形	1.16	1.14	0.69	土器 1579.5g (a640)	掘穴1、(A158号貯蔵穴建物→○)
130号土坑	Ⅱ B11c	前期末	不明	不整形	1.11	0.72	0.44	土器 1934.3g (a1087) 石器 1573.6g (c1118)	(無し)
131号土坑	Ⅱ B9a	不明	用器?	不整形	2.00	0.90	0.71	土器 534.1g (a1088)	(○→A118号貯蔵穴建物)
132号土坑	Ⅱ B10f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.98	1.94	0.45	土器 379.8g、910.7g	(○→B10号貯蔵穴建物)
133号土坑	Ⅱ B10e	縄文	不明	逆三角形	0.98	0.84	0.82	土器 62.9g	遺物は134号土坑と一緒に取り上げ、(○→134号土坑)
134号土坑	Ⅱ B10e	中期末以降	不明	扇形	1.80	(1.58)	0.22		(133・144号土坑→○)
135号土坑	Ⅱ B10f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.56	1.54	1.11	土器 194.9g 石器 41000.0g (c1122)	(○→B11号貯蔵穴建物)
136号土坑	Ⅱ B8d	縄文	不明	扇形	1.22	0.78	0.68	土器 2651.8g	(A108号貯蔵穴建物→○)
137号土坑	Ⅱ B11c	縄文	不明	扇形	(1.27)	1.01	0.44		(無し)
138号土坑	Ⅱ B11b	縄文	不明	不整形	1.76	1.03	0.44		(○→A105号貯蔵穴建物)
139号土坑	Ⅱ B7c	不明	不明	扇形	0.50	0.44	0.10	土器 111.2g 土器片7種 21.4g (p60)	(A143号貯蔵穴建物→○)
140号土坑	Ⅱ B7c	不明	不明	逆台形	1.10	0.96	0.34	土器 121.7g、石器 0.4g	(A169号貯蔵穴建物→○)
141号土坑	Ⅱ B7c	不明	不明	逆台形	0.60	0.54	0.21	土器 150.3g	(A169号貯蔵穴建物→○)
142号土坑	Ⅱ B9f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.48	1.30	0.96	土器 1880.1g (b77) 石器 619.2g	(○→A107号貯蔵穴建物)
143号土坑	Ⅱ B11c	縄文	不明	逆台形	0.74	0.60	0.28	土器 120.2g	(無し)
144号土坑	Ⅱ B10e	中期末	貯蔵穴	フラスコ	2.06	1.88	1.16	土器 2796.8g (a1089) 石器 1503.3g (c 1119・1200・1261) 石製品 4.8g、土製品 (e100)	断面に炭化層、(○→134・152号土坑)
145号土坑	Ⅱ B11b	縄文	不明	逆台形	2.34	(1.01)	0.62	土器 178.9g	
146号土坑	Ⅱ A7v	中期後葉	不明	逆台形	1.62	1.27	0.46	土器 14182.1g (s625・1090・1097) 石器 61.3g	(A137・192号貯蔵穴建物→○)
147号土坑	Ⅱ B11b	中期前以降	不明	逆台形	1.13	0.66	0.42	土器 212.5g、石器 1.3g	(149号土坑→○)
148号土坑	Ⅱ B11b	中期前以降	不明	不整形	(0.88)	(0.79)	0.42	土器 96.7g	(A121号貯蔵穴建物、149号土坑→○)
149号土坑	Ⅱ B11b	中期前葉	不明	不整形	(1.14)	(0.60)	0.30	土器 698.1g (a1090) 石器 6.4g	(○→147・148号土坑)
150号土坑	Ⅱ B11f	縄文	不明	逆台形	2.00	1.80	0.32	石器 21400.0g	(A133号貯蔵穴建物→○→151号土坑)
151号土坑	Ⅱ B11f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.54	1.05	1.12	土器 1279.7g	(150号土坑→○)
152号土坑	Ⅱ B10e	中期末以降	貯蔵穴	フラスコ	1.59	1.48	0.91	土器 2251.3g (a1099)	(144号土坑→○→B11号貯蔵穴建物)
153号土坑	Ⅱ B9d	縄文	不明	扇形	1.02	0.90	0.16	土器 15.0g	(A117・124・128号貯蔵穴建物→○→B11号貯蔵穴建物)
154号土坑	Ⅱ B9d	縄文	不明	逆三角形	0.81	0.76	0.79	土器 40.1g	(A124号貯蔵穴建物→○)
155号土坑	Ⅱ B6d	縄文	不明	逆台形	(2.06)	1.18	0.35		(156・157号土坑→○)
156号土坑	Ⅱ B6d	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.70	1.40	0.50	土器 1096.6g	(○→155号土坑)
157号土坑	Ⅱ B6d	縄文	不明	逆台形	1.98	1.68	0.49		(○→155・162号土坑)
158号土坑	Ⅱ B7d	縄文	貯蔵穴?	台形	1.58	1.36	0.30	土器 14.6g	フラスコ状土坑の底部から、(無し)
159号土坑	Ⅱ B7d	縄文	貯蔵穴	フラスコ	0.98	0.97	1.02	土器 799.6g、石器 8.3g	(○→A122号貯蔵穴建物)
160号土坑	Ⅱ B8b	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.58	(0.62)	0.39	土器 536.2g	(A143号貯蔵穴建物→○)
161号土坑	Ⅱ B8g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.30	1.12	1.07	土器 421.4g、石器 9400.0g	(A143号貯蔵穴建物→○)
162号土坑	Ⅱ B9e	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.28	0.68	1.00	土器 4967.2g	(152号土坑→○)
163号土坑	Ⅱ B8b	中期中以前	貯蔵穴	フラスコ	0.97	0.90	1.19	土器 2216.4g (a1100)	(○→A147号貯蔵穴建物)
164号土坑	Ⅱ B7f	縄文	貯蔵穴	扇形	1.58	1.25	0.55	土器 217.8g、石器 48.8g	(無し)
165号土坑	Ⅱ B7f	中期中～末	貯蔵穴	フラスコ	1.36	1.08	0.98	土器 9766.5g (a1075・1101・1103) 石器 4317.1g	(無し)
166号土坑	Ⅱ B8e	縄文	不明	扇形	1.00	0.54	0.62	土器 34.2g	(○→A108号貯蔵穴建物)
167号土坑	Ⅱ B8e	中期中～末	貯蔵穴	フラスコ	1.94	1.14	1.74	土器 1882.3g (a1104) 石器 1116.1g (c1262)	(○→A107号貯蔵穴建物)

## 4 土坑

遺構名	グリッド	時代	性格	断面形	計測値 (m)		深さ	出土遺物	備考 (重積・石積が新しい)
					長軸	短軸			
168号土坑	E17f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.54	1.52	0.81	土器 1470.1g	(無し)
169号土坑	E18f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.86	1.53	1.13	土器 5417g	(無し)
170号土坑	E18f	中期後段	貯蔵穴	フラスコ	1.63	1.25	1.62	土器 6160g	(185号土坑→O→16号中)
171号土坑	E20c	縄文	壺? 箱形		2.17	1.00	0.42	土器 419.0g	(O→A117・123号貯蔵穴)
172号土坑	E17g	中期～後	貯蔵穴	フラスコ	1.48	1.06	1.47	土器 4182.5g (al105・1106) 石器 7.42kg (cl283)	(A194号貯蔵穴→O)
173号土坑	E18f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.73	1.43	0.84	土器 76.4g	(174号土坑→O)
174号土坑	E18f	縄文	不明	箱形	1.46	0.88	0.30		(O→173・181・189号土坑)
175号土坑	E18h	中期後段	貯蔵穴	フラスコ	1.20	0.69	1.05	土器 2200.4g (al107・1108) 石器 952.9g (cl284)	(無し)
176号土坑	E18f	中期～後	貯蔵穴	フラスコ	1.46	0.87	1.47	土器 3005.1g (al109～1112)	(O→181号土坑)
177号土坑	E18f	中期～後	貯蔵穴	フラスコ	0.82	0.62	1.47	土器 4049.9g (al103・1104)	(7号溝→O)
178号土坑	E17f	縄文	不明	扇形	1.24	0.84	0.45	土器 431.6g	(179・194号土坑→O→164・172号土坑)
179号土坑	E17f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.50	1.28	0.59	土器 162.2g	(180号土坑→O→178号土坑)
180号土坑	E17f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.50	1.08	0.62	土器 203.0g	(O→179号土坑)
181号土坑	E18f	中期～後	貯蔵穴	フラスコ	1.20	1.08	1.55	土器 3679.8g (al109～1112)	(174・176号土坑→O)
182号土坑	E18c	不明	不明	半円形	0.76	0.66	0.22	土器 304.7g	(A169号貯蔵穴→O)
183号土坑	E18c	縄文	貯蔵穴	フラスコ	2.12	0.91	0.55		(無し)
184号土坑	E16c	縄文	不明	不整形	1.76	1.60	0.32		(O→A135号貯蔵穴)
185号土坑	E18f	中期～後	貯蔵穴	フラスコ	1.48	0.98	2.03	土器 2033.0g (al115・1116)	(無し)
186号土坑	E18f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.42	1.12	1.00	土器 803.1g	(O→A147号貯蔵穴)
187号土坑	E17h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.13	0.98	0.77		(O→A156号貯蔵穴)
188号土坑	E17g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.84	1.55	1.10	土器 124.2g	(A156号貯蔵穴, 194号土坑→O)
189号土坑	E18f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.30	1.21	1.30	土器 162.2g	(174号土坑→O)
190号土坑	E18d	中期後段	貯蔵穴	フラスコ	1.76	1.46	0.91	土器 766.2g (al117)	(A134号貯蔵穴→O→8号溝)
191号土坑	E16f	中期後段	貯蔵穴	フラスコ	1.88	1.62	0.98	土器 (al120)	遺物A192号貯蔵穴と一緒に取り上げ、(192・193号土坑→O)
192号土坑	E16f	中期～後	不明	半円形	1.72	0.62	0.84	土器 4517.8g (al118)	折蓋無し、(O→191号土坑)
193号土坑	E16f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	2.82	1.24	0.42	土器 69.9g	(O→191号土坑)
194号土坑	E17g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.74	1.51	0.74	土器 158.9g	(O→178・188号土坑)
195号土坑	E17h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.05	0.92	0.42	石器 112.2g	(A165号貯蔵穴→O)
196号土坑	E17f	中期～後	貯蔵穴	台形	1.90	1.19	0.80	土器 667.4g (al119)	(無し)
197号土坑	E18c	中期後段	貯蔵穴	フラスコ	1.80	1.58	1.02	土器 257.9g (al120)	(無し)
198号土坑	E17f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.94	1.86	0.52		(O→A168号貯蔵穴)
199号土坑	E17f	縄文	不明	箱形	1.86	0.73	0.54		(無し)
200号土坑	E12a	縄文	不明	不整形	1.50	0.62	-	土器 273.9g	(201号土坑→O→A154号貯蔵穴)
201号土坑	E12a	縄文	不明	扇形	0.90	0.80	0.09		(O→A154号貯蔵穴, 200号土坑)
202号土坑	E18c	縄文	不明	箱形	0.49	0.43	0.20	土器 25.2g	(A169号貯蔵穴→O)
203号土坑	E17f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	-	-	0.40		(O→A165号貯蔵穴)
204号土坑	E11a	縄文	不明	不整形	2.00	0.82	0.44	土器 38.5g	(205号土坑→O→A217号貯蔵穴, P333・334)
205号土坑	E11a	縄文	不明	不整形	2.06	0.58	0.25	土器 67.1g	(O→A217号貯蔵穴, 204号土坑)
206号土坑	E12a	不明	不明	進台形	0.76	0.70	0.49		(A216号貯蔵穴, 13号溝→O)
207号土坑	E17h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.46	1.03	1.06		(308号土坑→O)
208号土坑	E17h	中期後段	貯蔵穴	フラスコ	1.22	0.56	0.37	土器 3200.4g (al121・1122)	(O→207号土坑)
209号土坑	E17h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	0.74	0.52	0.97		(無し)
210号土坑	E17f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.12	0.92	1.26	土器 75.3g	(無し)
211号土坑	E16f	縄文	貯蔵穴	進台形	1.20	1.10	0.94		(O→219号土坑)
212号土坑	E16a	縄文	貯蔵穴	扇形	1.08	0.99	1.81		折蓋・断面無し、(無し)
213号土坑	E16a	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.18	1.16	1.52	土器 591.7g	(無し)
214号土坑	E16a	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.46	0.44	0.33		(無し)
215号土坑	E16g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	2.28	1.10	1.11		(無し)
216号土坑	E17f	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.04	0.94	1.67	土器 54.0g	(O→219号土坑)
217号土坑	E18d	中期後段	貯蔵穴	フラスコ	2.26	1.49	0.55	土器 9101.3g (al123～1125) 土器 383.9g 石器 1.7g (cl170)	(O→A134号貯蔵穴) 新田通か
218号土坑	E18a	縄文	不明	不整形	0.85	0.46	0.26		(O→A139号貯蔵穴)
219号土坑	E17g	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.76	1.37	0.86		(211・216号土坑→O)
220号土坑	E16h	縄文	貯蔵穴	フラスコ	1.42	0.94	1.34		(無し)
221号土坑	E18y	前期末	壺? 扇形	(2.33)	2.32	0.30	土器 4548.8g (al126～1129)	(O→A162号貯蔵穴)	
222号土坑	E17A	縄文	貯蔵穴	フラスコ	0.69	0.55	1.30		(無し)
223号土坑	E18a	中期～後	不明	フラスコ	0.84	0.36	0.74	土器 361.5g (al130・1131)	(O→A162号貯蔵穴) 新田通か
224号土坑	E16c	縄文	不明	進台形	0.91	0.84	0.21		(O→A150号貯蔵穴, 312号土坑→O)
225号土坑	E123a	中期～後	不明	扇形	1.88	1.20	0.28	土器 270.6g (al132)	(無し)
226号土坑	E12H	縄文	不明	進台形	0.74	0.68	0.54	土器 21.9g 石器 3444.2g (cl120)	(A202号貯蔵穴→O)
227号土坑	E116f	縄文	不明	箱形	0.90	0.88	0.30	土器 49.1g	(O→P4002)
228号土坑	E13r	縄文	陥L穴	進台形	1.22	0.57	0.47	土器 575.2g	陥穴1、(229号土坑→O)
229号土坑	E13r	中期後段	不明	進台形	0.84	0.40	0.27	土器 591.1g (al134)	(231号土坑→O→228号土坑)
230号土坑	E14a	中期	陥L穴	進台形	1.17	0.42	0.46	土器 752.8g (al135)	陥穴1、(232号土坑→O)
231号土坑	E13a	縄文	不明	扇形	0.78	0.23	0.15	土器 735.4g	(O→229号土坑)
232号土坑	E14a	縄文	不明	進台形	1.30	0.34	0.36	土器 2697.2g	(223号土坑→O→230号土坑)
233号土坑	E14a	縄文	不明	進台形	0.70	0.32	0.31	土器 44.3g	(O→232・231号土坑)
234号土坑	E14a	縄文	不明	扇形	0.88	0.48	0.46		(A210・214号貯蔵穴, 233号土坑→O)
235号土坑	E12v	縄文	不明	扇形	0.86	0.73	0.44	土器 154.1g, 石器 187.5g	(無し)
236号土坑	E10a	中期末	貯蔵穴	フラスコ	1.08	1.02	1.42	土器 1604.4g (al136・1137)	(O→A208号貯蔵穴) 新田通か

遺構名	グリッド	時代	性格	断面形	計測値 (m)			出土遺物	備考 (重要: 石積が新しい)
					長軸	短軸	深さ		
237号土坑	E A12a	中期後葉	貯蔵穴	フラスコ	1.58	1.50	1.70	土器 4667.9g (a1138) 石部 15.4g (c 257・258) 土製土 (c7)	(O→A215号壺穴建物) 前田透小
238号土坑	E A16a	縄文	墓?	箱形	1.85	0.90	0.46	(無し)	(無し)
239号土坑	E A16a	縄文	不明	逆台形	1.50	0.61	0.50	土器 154.6g	(240号土坑→O)
240号土坑	E A16a	中期後葉	不明	平円形	1.52	0.41	0.26	土器 2281.1g (a1139・1140)	(246号土坑→O→239号土坑)
241号土坑	E A16a	縄文	不明	箱形	(1.28)	(0.56)	0.32	土器 60.0 g 石部 3610.0g (c1121)	(無し)
242号土坑	E A15a	中期前葉	不明	不整形	1.40	0.90	0.45	土器 597.1g (a1141)	遺物は 243号土坑と一緒に取り上げ、(243号土坑→O)
243号土坑	E A15a	中期前葉	不明	箱形	1.32	(0.52)	0.58	土器 (a1141)	(O→242号土坑)
244号土坑	E A15a	中期中～後	不明	逆台形	(2.04)	(1.50)	0.30	土器 1217.0g (a1142)	(O→245号土坑)
245号土坑	E A15a	中期中～後	不明	逆台形	(1.20)	(0.98)	0.23	土器 2977.0g (a1143)	計測無し。(241号土坑→O→216号土坑)
246号土坑	E A16a	中期中～後	不明	不整形	(1.92)	1.78	0.62	土器 6233.9g (a1143～1146) 石部 3201.6g	(245号土坑→O→240号土坑)
247号土坑	E A16a	縄文	不明	不整形	1.00	(0.56)	0.60	土器 1707.1g	杭痕小。(A221号壺穴建物→O)
248号土坑	E A15r	縄文	不明	箱形	1.68	1.30	0.37	(無し)	(A211号壺穴建物→O)
249号土坑	E A15p	縄文	不明	箱形	1.22	(1.00)	0.45	石部 11445.7g	(O→A227号壺穴建物)
250号土坑	E A15a	中期前葉	不明	逆台形	1.16	(0.52)	0.38	土器 1758.8g (a1147・1148)	(無し)
251号土坑	E A17a	中期中葉	不明	箱形	0.66	(0.35)	0.44	土器 46.6g 石部 11.8g (c1015)	(O→A228号壺穴建物)
252号土坑	E A14p	縄文	不明	不整形	0.85	0.70	1.11	土器 191.1g	(O→A228号壺穴建物)
253号土坑	E A14p	縄文	不明	不整形	0.70	0.68	0.85	土器 111.0g	(無し)
254号土坑	E A20y	縄文	不明	箱形	1.36	0.72	0.49	土器 111.0g	(無し)
255号土坑	E B18b	縄文	不明	箱形	1.00	0.71	0.20	(無し)	(無し)
256号土坑	E B18b	縄文	不明	逆台形	1.46	1.01	0.27	土器 13.9g	(無し)
257号土坑	E B18b	縄文	不明	逆台形	1.08	0.53	0.27	土器 28.3g	(無し)
258号土坑	E B19b	縄文	不明	箱形	1.28	0.68	0.17	(無し)	(無し)
259号土坑	E A20y	縄文	不明	逆台形	0.88	0.66	0.27	土器 26.5g	計測無し。(無し)
260号土坑	E B19b	中期前葉	不明	逆台形	0.75	(0.55)	0.16	土器 27.9g (a1150)	計測無し。(O→261号土坑)
261号土坑	E B19b	縄文	不明	逆台形	1.04	0.72	0.13	土器 83.1g	計測無し。(260号土坑→O)
262号土坑	E A20a	縄文	不明	箱形	1.18	1.14	0.16	(無し)	(無し)
263号土坑	E A20y	縄文	不明	逆台形	0.98	0.60	0.25	土器 45.7g	計測無し。(無し)
264号土坑	E B19b	中期後葉	不明	箱形	1.30	1.01	0.14	土器 137.5g (a1151)	(O→P503・503a)
265号土坑	E B16c	縄文	不明	平円形	1.29	1.21	0.32	(無し)	(O→P5136・5127)
266号土坑	E B19c	縄文	不明	逆台形	(1.26)	1.62	0.10	土器 40.5g	計測無し。(無し)
267号土坑	E B19c	縄文	不明	逆台形	0.83	(0.80)	0.14	土器 13.9g	計測無し。(無し)
268号土坑	E B19r	縄文	不明	箱形	0.64	(0.34)	0.12	土器 32.1g	(O→9号土坑)
269号土坑	E B19c	縄文	不明	箱形	1.10	0.81	0.41	土器 10.1g	(無し)
270号土坑	E A17v	中期後葉	不明	箱形	2.34	0.89	0.39	土器 5369.7g (a1152・1153) 土器片内数 130g (g61)	(O→P5245)
271号土坑	E B16a	中期中～後	不明	逆台形	0.85	0.76	0.18	土器 36.8g (a1154) 土器 1.8g (c61)	(無し)
272号土坑	E A16y	縄文	不明	逆台形	1.01	0.80	0.29	土器 31.5g	計測無し。(無し)
273号土坑	E A16a	中期中～後	不明	平円形	1.28	1.00	0.32	土器 276.6g (a1155)	(O→P5273)
274号土坑	E A20w	縄文	不明	逆台形	1.10	1.02	0.60	(無し)	(無し)
275号土坑	E A17x	中期後葉	不明	箱形	1.33	(1.18)	0.53	土器 388.2g (a1156)	(O→P5306・6480)
276号土坑	E A18r	縄文	不明	箱形	1.19	1.15	0.60	土器 152.3g	(O→P5613)
277号土坑	E A17v	中期後～末	不明	箱形	1.94	1.82	0.70	土器 765.3g (a1157)	(O→P5247・5249・5290・6377・6378・6498)
278号土坑	E B17b	縄文	不明	不整形	1.08	0.62	0.39	(無し)	(無し)
279号土坑	E B19b	縄文	不明	不整形	1.05	0.78	0.35	(無し)	計測・断面図無し。(無し)
280号土坑	E B19b	縄文	不明	不整形	1.42	0.92	0.46	(無し)	計測・断面図無し。(無し)
281号土坑	E B19c	縄文	不明	逆台形	1.13	0.55	0.13	(無し)	計測無し。(無し)
282号土坑	E B17c	縄文	不明	逆台形	0.66	0.62	0.23	土器 37.1g	(A216号壺穴建物、P5156・5190・7150→O)
283号土坑	E A19y	中期前葉	墓?	箱形	1.34	0.67	0.81	土器 120.8g (a1158)	計測無し。(O→P5331)
284号土坑	E B17a	前期末	不明	逆台形	0.68	0.64	0.20	土器 298.8g (a1159)	計測無し。(O→P5328)
285号土坑	E B17a	縄文	墓?	逆台形	1.68	0.64	0.38	土器 82.4g	計測無し。(O→P6528・6582)
286号土坑	E B17a	縄文	不明	箱形	0.60	0.55	0.66	土器 65.9g	(無し)
287号土坑	E B18a	縄文	不明	不整形	0.83	0.66	0.24	土器 97.1g	北側に段差有り。(無し)
288号土坑	E A18r	中期中葉	墓?	逆台形	1.28	0.75	0.34	土器 108.5g (a1160)	計測無し。(O→P6610)
289号土坑	E A18x	縄文	不明	逆台形	0.88	0.72	0.78	土器 18.8g	(無し)
290号土坑	E A18r	縄文	不明	箱形	0.84	0.83	0.69	土器 30.7g	(O→P5362)
291号土坑	E A16a	縄文	不明	箱形	1.54	1.54	0.14	(無し)	計測無し。(O→P5250・6366・6368・6456・6457)
292号土坑	E A17y	縄文	不明	逆台形	1.50	0.66	0.41	(無し)	計測無し。(O→P6904・6905)
293号土坑	E A18w	縄文	不明	逆台形	0.83	0.55	0.20	(無し)	計測無し。(O→P6521)
294号土坑	E B16f	縄文	不明	箱形	1.54	1.46	0.37	土器 27.8g	(O→A231号壺穴建物、P7136)
295号土坑	E A19r	前期前葉	不明	箱形	0.82	0.79	0.62	土器 538.2g (a1161)	(無し)
296号土坑	E B16g	中期中葉	貯蔵穴	フラスコ	0.89	0.82	-	土器 1967.9g (a1162・1163)	溝水・前溝に2号裏面付付録。 (O→P5531)
297号土坑	E B16e	縄文	不明	箱形	0.66	0.64	0.50	土器 12.3g	(P7074→O)
298号土坑	E B19c	中期前葉	不明	箱形	0.76	0.67	0.36	土器 65.7g (a1165)	(無し)
299号土坑	E B18e	縄文	不明	箱形	0.77	0.70	0.30	土器 18.9g	(無し)
300号土坑	E B18e	縄文	不明	逆台形	0.62	0.60	0.24	土器 31.4g	掘穴1。(O→P7144)

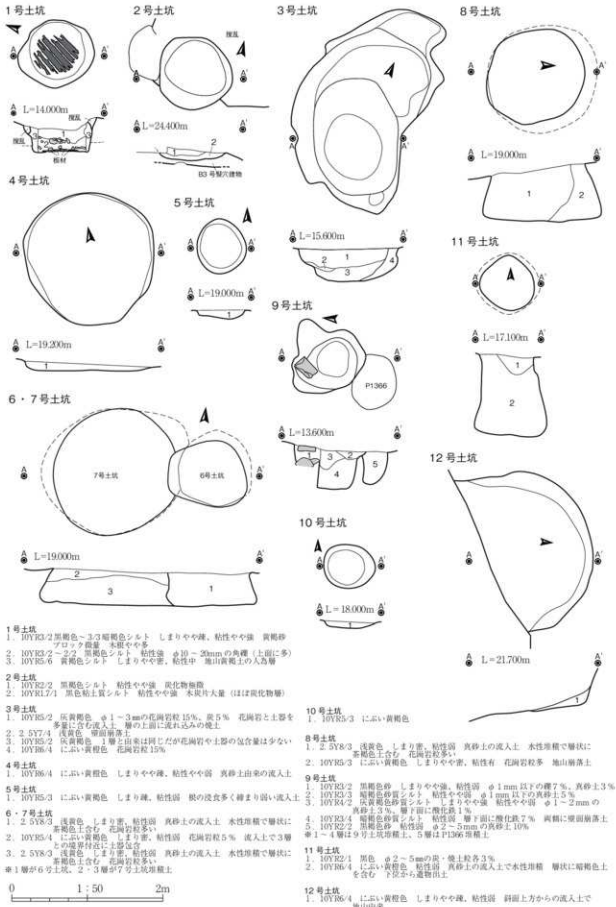
遺構名	グリッド	時代	性格	断面形	計測値 (m)			出土遺物	備考 (重複・石積が新しい)
					長軸	短軸	深さ		
301号土坑	Ⅱ B17e	中期中～後	不明	箱形	1.08	0.84	0.51	土器 1801g (al166)	(A29号壺穴建物→○)
302号土坑	Ⅱ B17e	縄文	不明	筒形	0.74	0.56	0.65		二段階に掘り込み、(無し)
303号土坑	Ⅱ B17e	縄文	不明	不整形	0.58	0.28	0.22	土器 944g	直竪無し。(○→ A235号壺穴建物)
304号土坑	Ⅱ B16e	縄文	不明	筒形	1.13	0.67	0.67	土器 2306.5g	二段階に掘り込み。(○→ P5491・S512・716)
305号土坑	Ⅱ B17d	縄文	不明	逆台形	0.88	0.62	0.29	土器 42.3g	直竪無し。(A235号壺穴建物→○)
306号土坑	Ⅱ B17e	縄文	不明	逆台形	0.71	0.54	0.15	土器 75.7g	(A234号壺穴建物→○)
307号土坑	Ⅱ B16f	中期後葉	不明	箱形	1.16	0.75	0.82	土器 1112.9g (al167)	(無し)
308号土坑	Ⅱ B17f	中期中～後	不明	半円形	0.95	0.94	0.38	土器 31.9g (al168)	(無し)
309号土坑	Ⅱ B17f	縄文	不明	箱形	1.32	1.06	0.64	土器 343.4g	(無し)
310号土坑	Ⅱ B17e	縄文	不明	箱形	1.16	0.93	0.40		(○→ P7156・7215)
311号土坑	Ⅱ B19a	縄文	墓?	逆台形	1.12	0.98	0.52	土器 175.8g	北壁付近に板石。(○→ P5330)
312号土坑	Ⅱ A6a	縄文	不明	逆台形	0.72	0.66	0.18	土器 734.2g	南側に礎土伴う。(231号土坑→○→ A150号壺穴建物)

127基確認した。いわゆるフラスコ状土坑と呼ばれるもので、断面形が逆台形又はハの字形になる。壁面の角度も底部から直線的になるものと中位付近で屈曲するものがある。貯蔵穴の次に多いのは陥し穴であるが、可能性のあるものを含め9基と貯蔵穴より圧倒的に少ない。平面形が円形、断面形が筒形になるもので、底面中央付近に副穴を持つ。ただし、性格不明とした土坑のうち52・54・83・184号土坑等は、検出面からの深さが浅く副穴も持たないが、陥し穴と形状が類似していることから本来は陥し穴であった可能性もある。この他、平面形が長方形又は長楕円形、断面形が箱形又は逆台形となる6基(49・238・283・285・288・311号土坑)は、出土遺物に乏しいが形態から墓の可能性が考えられる。また、平面形が円形で、底面が平坦で副穴(柱穴)を有する等の特徴を持った3基(73・171・221号土坑)は、規模の小さい壺穴建物であった可能性が考えられる。縄文時代の土坑では、220基で遺物の出土が確認されているが、主体は土器・石器類である。縄文土器は前期初葉、大木2～10式、円筒下層d式、円筒上層a式の土器が出土しているが、なかでも大木6式の出土量が比較的多い。その他、貯蔵穴5基(17・53・75～77号土坑)から動物遺存体が出土している(第Ⅵ章第4節)。75～77号土坑ではアサリを主体とした貝類やスズキ等の魚類、ニホンジカ等の獣類、17号土坑ではアシカ、53号土坑ではニホンジカが確認されている。

古代(以降)の土坑は、縄文時代のものと同じく平面形が長方形、断面形が箱形のもの1基(92号土坑)が墓と考えられる。その他の4基は出土遺物や他遺構との重複関係からこの時期としたが、性格については不明である。

近世とした3基(68～70号土坑)は、同一地点で掘削された土坑である。検出時には黒褐色土が広範囲に分布する不整形プランとして認識しており、掘り下げの結果、3基の土坑が重複していることが判明した。いずれも平面形・断面形ともに不整形である。69号土坑からは鉄滓と炭化物が出土しており、隣接する3号溝と同じく鉄生産関連遺物の廃棄場であった可能性がある。

近世以降とした1基(1号土坑)は、平面形が円形で、底面には幅約20cm・厚さ2cm程度の板材が敷き並べられていた。敷板は径120cmの範囲に並列し、各板材の端部は範囲の周縁に沿って弧状に加工されている。底面の敷板は一見して桶底様であり、遺構内部に側板らしい板材は遺存していないが、敷板範囲の周縁に側板の下端と考えられる痕跡が認められることから、木桶を埋設した墓の可能性が考えられる。なお、堆積土3層は土坑と容器外部との空隙を埋める充填土と考えられる。



第181図 1～12号土坑

13号土坑



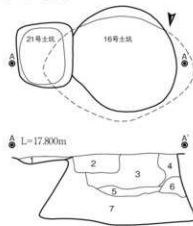
L=20600m

14号土坑



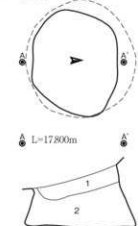
L=18500m

16・21号土坑



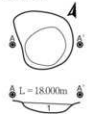
L=17800m

17号土坑



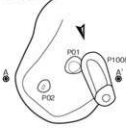
L=17800m

15号土坑



L=18000m

18号土坑



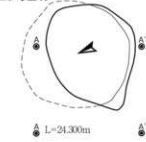
L=19200m

19号土坑



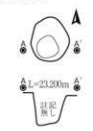
L=23000m

20号土坑



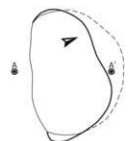
L=21300m

22号土坑



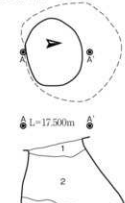
L=23200m

23号土坑



L=24400m

24号土坑



L=17500m

16・21号土坑

1. 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘性やや弱 花崗岩粒多い
2. 10YR4/2 灰黄褐色 粘性やや弱  $\phi$ 1~3mmの炭2% 人為堆積
3. 2.5Y7/3 灰黄色砂質シルト しまり密、粘性弱  $\phi$ 10~20mmの花崗岩片3%、炭2%
4. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまり密、粘性弱 花崗岩粒40% 礫面崩壊土
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土 粘性弱 炭10%
6. 礫面崩壊土 右側がフローウ
7. 2.5Y7/2 灰黄色 粘性弱 礫い砂質土 水成堆積にぶい黄褐色土層状に含む
- ※1層は21号土坑、2~7層は16号土坑堆積土

16号土坑

1. 10YR5/2 灰黄褐色 P10R 堆積土
2. 10YR6/4 にぶい黄褐色 しまりやや弱、粘性やや弱 真砂土由来の流入土

19号土坑

1. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱

20号土坑

1. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱
2. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱
3. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱  $\phi$ 10mmの真砂土10%
4. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性弱  $\phi$ 5mmの真砂土1%
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱  $\phi$ 10mmの炭1%
6. 10YR3/3 黄褐色シルト しまり密  $\phi$ 10mmの炭1%
7. 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト しまり密、粘性やや弱  $\phi$ 5mmの真砂土1%
8. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性やや弱 真砂土アロワックが礫状に堆積
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト しまり密、粘性やや弱

23号土坑

1. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱
2. 2.5Y7/3 灰黄色砂質シルト しまりやや弱、粘性弱
3. 2.5YR/3 灰黄色砂質シルト しまりやや弱、粘性弱  $\phi$ 10mmの真砂土15% 礫面崩壊土
4. 10YR7/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性やや弱  $\phi$ 10mmの真砂土5%
5. 10YR7/2 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱
6. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱

24号土坑

1. 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまり密  $\phi$ 5~10mmの花崗岩粒と土器片含む 斜面上方からの流入土
2. 2.5Y7/4 灰黄色 しまりやや弱、粘性やや弱 真砂土の流入土で水性堆積 礫面崩壊
3. 10YR4/2 灰黄褐色 花崗岩粒と遺物を含む 流入土

13号土坑

1. 10YR6/4 にぶい黄褐色 しまりやや弱、粘性やや弱 真砂土由来の流入土

14号土坑

1. 10YR6/4 にぶい黄褐色 しまりやや弱、粘性弱 斜面上方からの流入土で地山由来 西壁付近に遺物集中

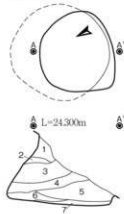
15号土坑

1. 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまり密、粘性弱 礫の段状多量堆積あり

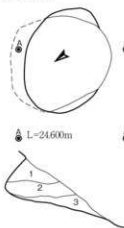
17号土坑

1. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや弱  $\phi$ 1~3mmの炭5%、花崗岩粒10% 人為堆積
2. 2.5YR/3 灰黄色 しまり密、粘性弱 真砂土の流入土 水性堆積で礫状に茶褐色土含む 花崗岩粒多い

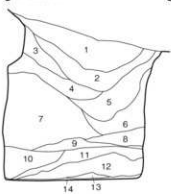
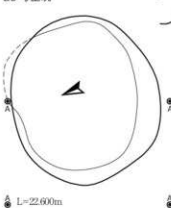
25号土坑



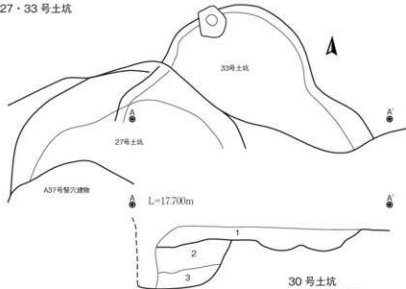
26号土坑



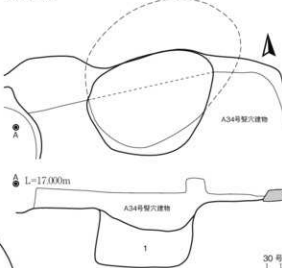
29号土坑



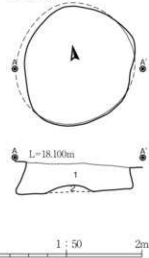
27・33号土坑



28号土坑



30号土坑



30号土坑

1. 10YR5/2 灰黄褐色細砂 しまりやや強、粘性弱  
真砂土成分に20%  
2. 花崗岩屑（地山か）

25号土坑

1. 10YR7/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり有、粘性弱  
2. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまりやや弱、粘性弱 φ50mmの真砂土ブロック10%  
3. 10YR5/2 灰黄褐色シルト しまり密、粘性弱 φ1mmの炭1%  
4. 10YR4/4 褐色砂質シルト 粘性弱  
5. 2.5Y7/3 浅黄色砂質シルト しまりやや弱、粘性弱  
6. 10YR7/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまりやや弱、粘性弱 φ5~10mmの炭1%  
7. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱

26号土坑

1. 10YR7/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱  
2. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱 φ100~150mmの真砂土ブロック20%、φ10mmの炭1%  
3. 10YR7/2 にぶい黄褐色砂質シルト しまりやや強、粘性弱

27・33号土坑

1. 2.5Y6/3 にぶい黄色 しまり密、粘性やや弱 10YR4/2 灰褐色土30%  
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色 しまり密、粘性弱 花崗岩粒5% 或土で3層との境界付近に土部包含  
3. 10YR7/4 にぶい黄褐色 しまりやや弱、粘性やや弱 硬面層土  
※1層は33号土坑、2・3層は27号土坑埋積土

28号土坑

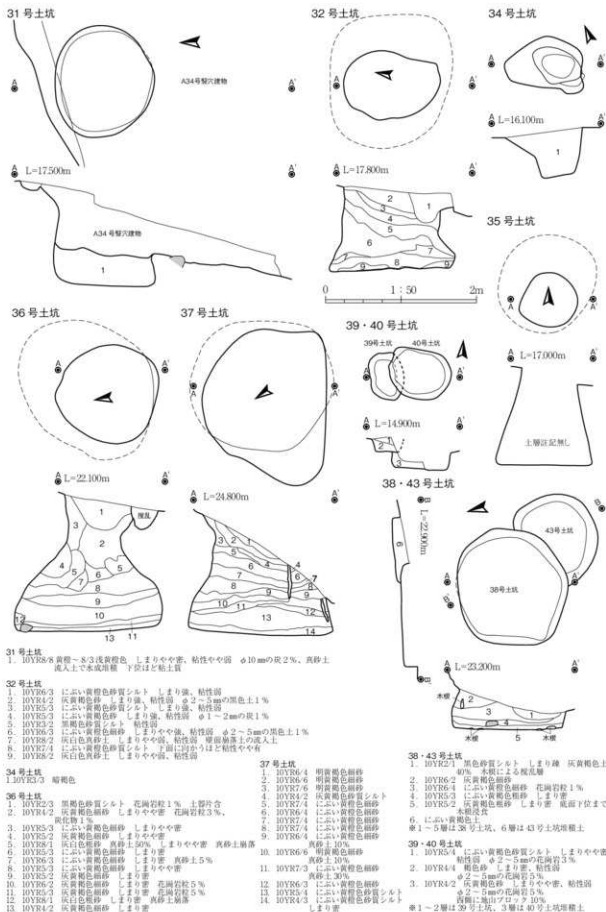
1. 10YR6/6 にぶい黄褐色 しまりやや弱、粘性やや弱 φ10~20mmの炭3% 流入土と崩落土の混合

29号土坑

1. 10YR2/3 黒褐色シルト しまり密、粘性弱 φ2mmの真砂土15%、φ5mmの炭1%  
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり密、粘性弱 φ2mmの真砂土10%  
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト しまり密、粘性弱 φ3mmの真砂土5%  
4. 10YR5/2 灰黄褐色シルト しまり密、粘性弱 φ20mmの真砂土30%  
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト しまり密、粘性弱 φ2mmの真砂土3%  
6. 2.5Y7/3 浅黄色シルト 粘性弱 φ10~20mmの真砂土30%  
7. 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト 粘性弱 真砂土と互層で堆積  
8. 10YR7/2 にぶい黄褐色砂質シルト しまりやや弱、粘性弱 池山埋積層  
9. 10YR6/2 灰黄褐色砂質シルト しまり密、粘性弱 φ10mmの真砂土1%  
10. 10YR7/3 にぶい黄褐色粗砂 真砂土 しまりやや弱  
11. 10YR6/4 にぶい黄褐色粗砂 真砂土の崩壊土 しまり密  
12. 10YR7/3 にぶい黄褐色粗砂 真砂土 しまりやや弱  
13. 10YR6/4 にぶい黄褐色細砂 真砂土の崩壊土 しまり密  
14. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質粘土 しまり密

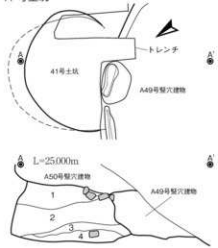
第183図 25~30・33号土坑



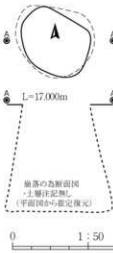


第184図 31・32・34～40・43号土坑

41号土坑



45号土坑



41号土坑

1. 10YR5/2 灰白色シルト-粘細砂 粘性弱 粗砂-細礫 10%
2. 5YR/2 灰黄色粘細砂-細砂 粘性弱 粗砂-細礫 25%
3. 2.5Y/1 黄灰色粘細砂-粘砂 粘性弱 粗砂-細砂 5%
4. 10YR7/2 黄灰色シルト-粘細砂 しまりや中密 粘性弱 粗砂-細礫 10%

42号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色シルト しまり強 本根合
2. 10YR3/4 暗褐色砂質シルト 本根合
3. 10YR5/4 に近い黄褐色砂質シルト 炭1%
4. 10YR6/4 に近い黄褐色粘砂 本根合 炭1%
5. 10YR1/4 褐色粘砂シルト 炭化物1%
6. 10YR5/3 に近い黄褐色土と10YR8/2灰白色の混合粘砂 しまり密 黄砂土上に近い黄褐色土が噴出
- 6a. 10YR5/3に近い黄褐色土と10YR8/2灰白色の混合粘砂 しまり密 に近い黄褐色土15%
- 6b. 10YR5/3に近い黄褐色土と10YR8/2灰白色の混合粘砂 しまり密 に近い黄褐色土5%
- 6c. 10YR5/3に近い黄褐色土と10YR8/2灰白色の混合粘砂 しまり密 に近い黄褐色土40%、炭5%
- 6d. 10YR5/3に近い黄褐色土と10YR8/2灰白色の混合粘砂 しまり密 に近い黄褐色土30%
- 7a. 10YR6/4 に近い黄褐色粘砂 本根合
- 7b. 10YR6/4 に近い黄褐色粘砂 本根合
- 7c. 10YR6/4 に近い黄褐色粘砂 本根合
- 7d. 10YR6/4 に近い黄褐色粘砂 本根合
- 7e. 10YR5/4 に近い黄褐色粘砂 本根合
8. 10YR2/2 黒褐色土と10YR5/4に近い黄褐色の混合シルト に近い黄褐色土10%、炭5%
9. 10YR1/2 灰黄色粘砂質シルト
10. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂 本根合 土層片含む
11. 10YR5/4 に近い黄褐色粘砂 本根合
12. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂 本根合
13. 10YR5/3 に近い黄褐色粘砂 本根合
14. 10YR6/4 黄褐色粘土 しまり密

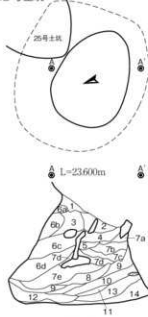
47号土坑

1. 7.5YR6/4 に近い褐色  $\phi$ 1~3mmの炭2% やや粘土質
2. 10YR7/3 に近い黄褐色粘砂質土 しまりや中密、粘性や中間  $\phi$ 1~3mmの炭2%
3. 7.5YR6/4 に近い褐色粘土 しまりや中密、粘性弱 水成用積の粘土層
4. 7.5YR6/4 に近い褐色  $\phi$ 1~3mmの炭2% やや粘土質
5. 10YR7/3 に近い黄褐色粘砂質土 しまりや中密、粘性や中間  $\phi$ 1~3mmの炭2%
6. 7.5YR6/4 に近い褐色  $\phi$ 1~3mmの炭2% やや粘土質

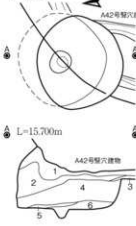
46号土坑

1. 10YR5/2 灰黄色土 黄褐色土質 山黄褐色ブロック 10%
2. 10YR5/2 灰黄色土 山黄褐色ブロック、部分炭に炭含む
3. 10YR1/2 灰黄色土 炭質粘砂少量 遺物出土

42号土坑



47号土坑



47号土坑

1. 灰黄色土 炭質粘砂 15%

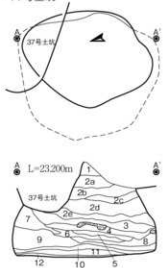
49号土坑

1. 黒褐色土 確含む

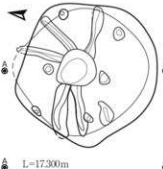
44号土坑

1. 10YR8/1 灰白色粘砂土 しまり密
- 2a. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2b. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2c. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2d. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2e. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2f. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2g. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2h. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2i. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2j. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2k. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2l. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2m. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2n. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2o. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2p. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2q. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2r. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2s. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2t. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2u. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2v. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2w. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2x. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2y. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
- 2z. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
3. 10YR6/4 に近い黄褐色粘砂 しまりや中密
4. 10YR3/4 暗褐色シルト 炭化物1%
5. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂 炭化物1%
6. 10YR3/2 暗褐色シルト
7. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂
8. 10YR2/2 黒褐色土と10YR5/4に近い黄褐色土10%
9. 10YR5/4 に近い黄褐色土 しまり密
10. 10YR6/2 灰黄色粘砂質シルト 炭化物3%
11. 10YR6/3 に近い黄褐色粘砂 しまり密
12. 10YR6/6 黄褐色粘土 しまり密 火山灰起源の土

44号土坑



48号土坑



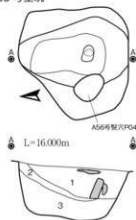
48号土坑



49号土坑

1. 黒褐色土 確含む

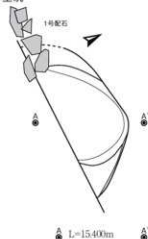
50号土坑



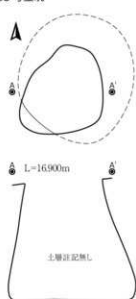
51号土坑



52号土坑



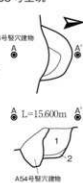
53号土坑



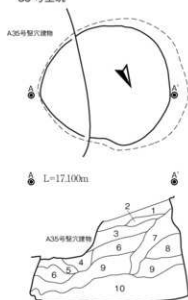
54号土坑



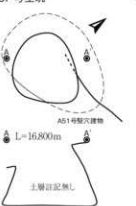
55号土坑



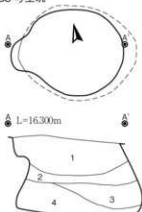
56号土坑



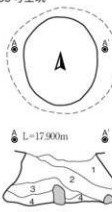
57号土坑



58号土坑



59号土坑



50号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色 しまりややぶ、粘性無 取2%、花崗岩粒3%
2. 10YR4/4 褐色 しまりや、粘性無 花崗岩粒3%
3. 10YR3/3 暗褐色 しまりや、粘性弱 花崗岩粒3%

51号土坑

1. 10YR4/1 褐色と10YR5/2灰黄褐色の混合土 しまりややぶ 後置の人為堆積
2. 2.5YR-3 浅黄色砂 しまりや、粘性弱

55号土坑

1. 10YR3/1 黒褐色 しまりややぶ、粘性無 取3%、花崗岩粒2%
2. 10YR4/3 に深い黄褐色 しまりややぶ、粘性無 取2%、花崗岩粒3%

56号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色 しまりややぶ、粘性弱
2. 2.5YR-4 浅黄色と10YR3/1黒褐色の混合土
3. 10YR5-8 黄褐色 しまりややぶ、粘性弱 10YR3/3暗褐色20%
4. 10YR6/4 に深い黄褐色砂質土 しまりややぶ、粘性弱

59号土坑

1. 10YR5/2 灰黄褐色 しまりややぶ、粘性弱
2. 2.5YR-4 浅黄色と10YR3/1黒褐色の混合土
3. 2.5YR-3 浅黄色 しまりややぶ、粘性弱
4. 10YR3/2 黒褐色 混合土 水成堆積

52号土坑

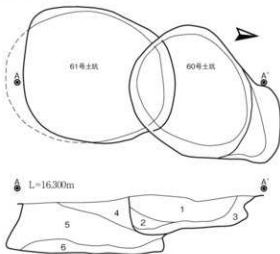
1. 10YR4/2 灰黄褐色 花崗岩粒少量

56号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色  $\phi 1-3$ mmの炭2%
2. 2.5YR-6 褐色 しまりややぶ、粘性弱
3. 10YR2/1 灰褐色 粘性弱ややぶ 壁土の流入層少
4. 10YR2/1 灰褐色 花崗岩粒多い
5. 10YR2/2 黒褐色 花崗岩粒多い
6. 10YR3/1 暗褐色 地山崩落アロク含む
7. 10YR2/2 暗褐色 やや砂質 縦横乱立
8. 10YR3/1 暗褐色 地山崩落アロク多い
9. 10YR2/1 暗褐色
10. 2.5YR-3 浅黄色 しまりや、粘性弱 地山崩落土

0 1:50 2m

60・61号土坑



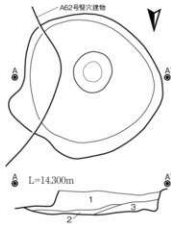
64号土坑



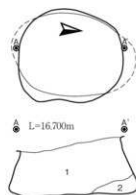
65号土坑



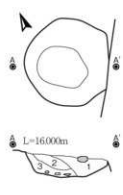
62号土坑



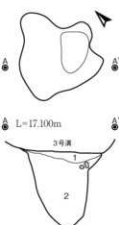
63号土坑



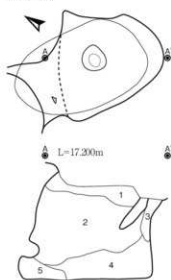
66号土坑



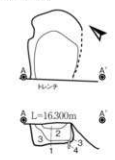
67号土坑



71号土坑



72号土坑



## 60・61号土坑

1. 10YR5/2 灰黄褐色 層状に黒土(灰?)を含む流入土
2. 2.5YR/3 淡黄色 しまりやや雑、粘性や弱 真砂上の流入土 粒子粗い
3. 10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや雑、粘性やや弱 2層より粒子細かい
4. 10YR3/2 黒褐色
5. 10YR4/2 灰黄褐色 花崗岩粒多し
6. 10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや雑 粒子細かい、流入土

## 62号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色 花崗岩粒多し 1号配石1層と同質
2. 7.5YR6/6 褐色 花崗岩粒含む 粒子細かいが硬土ではない
3. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒含む

## 63号土坑

1. 10YR5/2 灰黄褐色 真砂土の流入土、水成層積
2. 10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや雑、粘性やや弱 真砂土の崩落土

## 64号土坑

1. 10YR4/6 褐色 しまりやや雑 灰3%、A42号壁穴建物床面硬質土
2. 10YR5/4 近い灰黄褐色砂質土 しまりや、粘性弱

## 66号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや強  $\phi 100 \sim 200\mu\text{m}$ の裡少量 黄褐色土
2. 10YR4/4 暗色砂質シルト しまりやや雑、粘性やや弱 真砂土直じりの細砂層
3. 10YR2/3 暗褐色シルト しまりやや雑、粘性やや強 黒色土プロック少量

## 67号土坑

1. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト しまりやや雑、粘性やや弱 粒子の粗い真砂土主体
2. 10YR7/2 近い黄褐色砂質シルト しまり雑、粘性やや弱 粒子の粗い真砂土主体 粒子細い真砂土、 $\phi 50 \sim 100\mu\text{m}$ の裡少量

## 71号土坑

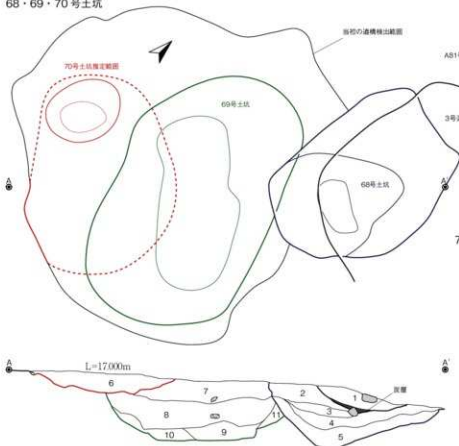
1. 10YR6/2 灰黄褐色シルト しまりやや雑、粘性やや弱 真砂土主体
2. 10YR6/3 近い黄褐色シルト しまりやや雑 粘性やや弱 真砂土主体
3. 10YR4/4 褐色シルト しまりやや雑、粘性やや強 真砂土主体
4. 10YR4/3 近い黄褐色シルト しまりやや雑、粘性やや強 真砂土主体
5. 10YR7/1 灰白色シルト しまりやや雑、粘性やや弱 真砂土主体

## 72号土坑

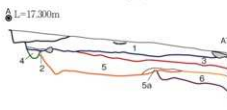
1. 10YR4/3 近い黄褐色シルト しまりやや雑、粘性やや強 田・真砂土間層
2. 10YR5/8 黄褐色シルト しまり雑、粘性弱、黄褐色土プロック少量、真砂土間層
3. 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまりやや雑、粘性やや強 真砂土プロック少量、真砂土間層
4. 10YR5/6 黄褐色シルト しまりやや雑、粘性やや強 黄褐色土直じり

第187図 60～67・71・72号土坑

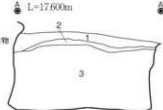
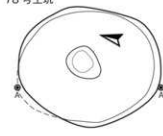
## 68・69・70号土坑



## 73号土坑



## 78号土坑



## 68・69・70号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強 真砂土少量
  2. 10YR4/3 濃い黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 φ100mm 前後の  
花崗岩粒がラミ状に網めに含まれる
  3. 10YR5/3 黒褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強
  4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強
  5. 10YR5/4 濃い黄褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強 φ10mm 前後の  
花崗岩粒、灰黄褐色土ブロック中量
  6. 10YR2/3 黒褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 黄褐色・灰黄褐色土  
ブロック中量
  7. 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 黄褐色・灰黄褐色土  
ブロック中量
  8. 10YR5/3 濃い黄褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強 真砂土、明黄褐色・  
灰黄褐色土ブロック少量
  9. 10YR4/1 灰褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 灰黄褐色土・黒褐色土  
ブロック少量
  10. 10YR3/4 暗褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強 黒褐色土ブロック少量
  11. 10YR2/3 暗褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土少量
- ※1層が3号溝。2～5層が68号土坑。6層が70号土坑。7～11層が69号土坑埋積土

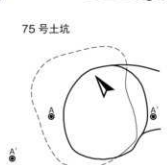
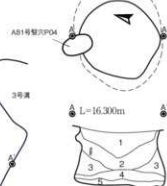
## 73号土坑

1. 10YR4/4 褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土粒間層含  
褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強 真砂土粒間層含
  2. 10YR5/4 濃い黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土粒間層含
  3. 10YR5/4 濃い黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土中量
  4. 10YR5/3 濃い黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土中量
  5. 10YR5/3 濃い黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土中量
  6. 10YR4/6 褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土粒少量
- ※1・2層がA78号壱穴建物。3層が73号土坑。4層がA72号壱穴建物。  
5・5a層がA79号壱穴建物。6層がA80号壱穴建物埋積土

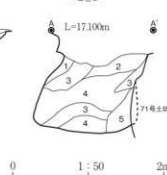
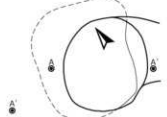
## 74号土坑

1. 10YR4/3 濃い黄褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強 真砂土少量  
黄褐色土層1区
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土少量  
黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土少量
3. 10YR2/3 暗褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土少量
4. 10YR4/3 濃い黄褐色シルト しまりやや密、粘性やや強 真砂土中量
5. 10YR3/4 暗褐色シルト しまりやや疎、粘性やや強

## 74号土坑



## 75号土坑



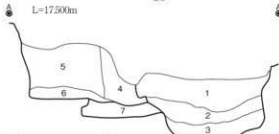
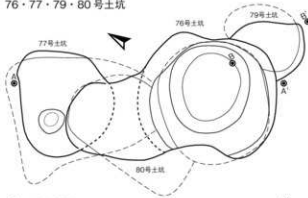
## 75号土坑

1. 10YR4/4 褐色砂質土 しまりやや疎、  
粘性弱
2. 10YR2/3 暗褐色 しまりやや疎  
褐色砂質土、花崗岩各10%、  
灰3%
3. 10YR7/3 黄褐色・黄褐色砂質土  
堆山腐葉土
4. 10YR4/6 褐色砂質土 しまりやや密、  
粘性弱
5. B層再埋積土

## 78号土坑

1. 10YR5/6 黄褐色砂質土 しまりやや疎、  
粘性強
2. 10YR3/4 黄褐色 しまりやや密、  
粘性強
3. 10YR4/6 褐色砂質土 しまりやや疎、  
粘性弱

76・77・79・80号土坑



L=16800m

土層注記無し

76号土坑

82号土坑

L=34400m

L=33500m

L=34000m

L=33500m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

L=34000m

82号土坑

1. 10YR7/3 に赤い黄褐色 黒褐色土を散状に含む

2. 10YR7/2 に赤い黄褐色 φ2-5mmの炭1%

76・77・79・80号土坑

1. 10YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性弱

2. 10YR7/3 に赤い黄褐色 花崗岩粒 しまりやや密、粘性弱

3. 10YR5/6 黄褐色 しまりやや密、粘性弱 花崗岩粒30%

4. 10YR7/2 に赤い黄褐色花崗岩粒 しまりやや密、粘性弱 10YR4/6褐色土30%

5. 10YR4/6 褐色 しまりやや密、粘性弱

6. 10YR3/4 黄褐色 しまりやや密、粘性弱 10YR4/6褐色土10%

7. 10YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性弱 10YR4/6褐色土15%、炭1%

※1-3層が76号土坑、4-6層が77号土坑、7層が80号土坑埋植土

81号土坑

1. 10YR5/2 灰黄褐色 花崗岩粒少量、φ2-10mmの炭5%

2. 10YR6/3 に赤い黄褐色 花崗岩粒少量、φ2-10mmの炭2%

3. 10YR7/4 に赤い黄褐色 しまりやや密、花崗岩多量

4. 10YR6/2 灰黄褐色 花崗岩粒多量、φ10-50mmの炭15%

5. 2.5YR7/4 に赤い黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱

86号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色と2.5Y6/3に赤い黄褐色の混色土

2. 2.5Y6/3 に赤い黄褐色 壁面植土・黄砂土の残れ込み

3. 10YR6/3 に赤い黄褐色-6.5に赤い黄褐色

4. 10YR6/4 に赤い黄褐色 灰白・黒色土ブロック少量

5. 2.5YR2/2 灰白色 しまり密、粘性やや弱 地山植土

6. 10YR2/2 黒褐色

7. 2.5YR2/2 灰白色 しまり密、粘性やや弱 地山植土ブロック含む

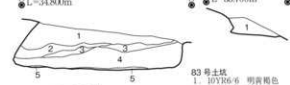
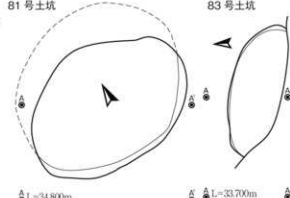
8. 2.5Y6/3 に赤い黄褐色 地山植土含む

9. 2.5YR2/2 灰白色 しまり密、粘性やや弱 地山植土

10. 2.5YR2/2 灰白色 しまり密、粘性やや弱 地山植土

11. 10YR2/2 黒褐色と10YR4/4褐色の混色土

81号土坑



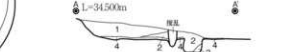
L=33700m

83号土坑

83号土坑 明黄褐色

1. 10YR6/6 しまり密、粘性弱

84号土坑



L=34500m

84号土坑

1. 2.5YR6/3 に赤い黄褐色 花崗岩粒含む

2. 10YR3/2 黒褐色-4.5に赤い黄褐色、しまりやや密、粘性やや弱

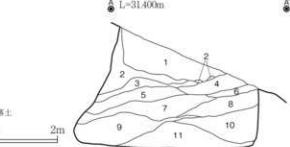
3. 2.5YR7/3 浅黄色 しまりやや密、粘性やや弱

4. 7.5YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性やや弱

地山植土

地山植土上で赤い黄褐色土含む

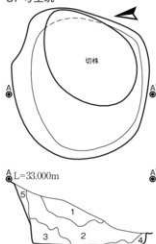
86号土坑



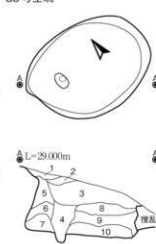
L=31400m

第189図 76・77・79・80～86号土坑

87号土坑



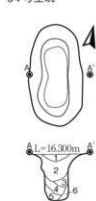
88号土坑



89号土坑



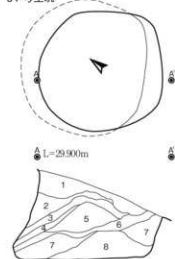
94号土坑



90号土坑



91号土坑



92号土坑



93号土坑



90号土坑

1. 25Y6/3 に近い褐色 しまりや中硬、粘性やや弱

95号土坑



96号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色シルト 10YR3/2 黒褐色土40%,  $\phi$ 2-3mmの炭2%, 花崗岩7%  
 2. 10YR5/6 黄褐色シルト 7. 5YR1/6 褐色土20%, 10YR3/3 暗褐色土10% 地山崩落土  
 3. 10YR3/3 に近い黄褐色シルト 10YR4/1 褐色土10%,  $\phi$ 2-5mmの炭2%, 花崗岩10%  
 4. 10YR5/4 黄褐色シルト しまりや中硬、粘性やや弱、地山崩落土  
 5. 10YR4/4 暗褐色シルト  
 6. 10YR5/6 暗褐色シルト しまりや中硬、粘性やや弱、地山崩落土  
 7. 3YR5/6 明褐色シルト 粘性やや弱 10YR4/4 褐色土5% 地山崩落土か  
 8. 10YR4/4 褐色シルト 花崗岩10%

87号土坑

1. 10YR5/3 に近い黄褐色  $\phi$ 10-20mmの黄褐色土  
 2. 10YR2/2 黒褐色  $\phi$ 30mmの炭3%, 地山崩落土  
 3. 10YR7/6 明黄褐色 しまりや中硬、地山崩落土  
 4. 10YR6/3 に近い黄褐色砂質土 しまりや中硬  
 5. 10YR7/3 に近い黄褐色 地山崩落土

88号土坑

1. 2. 5Y7/3 浅黄～5/2暗黄褐色砂  
 2. 10YR5/2 灰黄褐色砂  $\phi$ 10mmの炭3%  
 3. 10YR5/2 灰黄褐色 花崗岩を含む  
 4. 10YR5/2 灰黄褐色 浅黄褐色土を含む  
 5. 10YR5/2 灰黄褐色土と 5YR4/4 黄褐色の混合土  
 しまりや中硬、粘性やや弱  
 6. 10YR3/2 黒褐色  
 7. 2. 5YR4/4 褐色地山土と10YR5/2 灰黄褐色の混合土  
 8. 10YR4/1 褐色 花崗岩を含む  
 9. 10YR4/1 褐色 しまりや中硬 花崗岩・地山崩落土を含む  
 10. 2. 5Y7/3 浅黄褐色 しまりや中硬、粘性やや弱  
 褐色土を層状に含む

89号土坑

1. 2. 5Y7/3 浅黄褐色 しまりや中硬、粘性やや弱  
 粘性土を含む  
 2. 2. 5YR/2 灰白色 地山崩落土  
 3. 2. 5Y7/3 浅黄褐色 しまりや中硬、粘性やや弱  
 地山崩落土  
 4. 2. 5Y7/3 浅黄と 2. 5YR/2 灰白色の混合土 しまりや中硬、粘性やや弱

91号土坑

1. 10YR7/3 に近い黄～5/2 灰黄褐色砂質土 しまりや中硬、粘性やや弱、厚さ2cm以上地山崩落土を含む  
 2. 2. 5YR/2 灰白色 しまりや中硬、粘性やや弱 地山崩落土  
 3. 2. 5YR/3 に近い褐色～5/1 黄灰色 脆土プロックを含む  
 地山崩落土

92号土坑

4. 2. 5Y4/1 黄褐色  
 5. 2. 5Y7/2 黄褐色 しまりや中硬、粘性やや弱 地山崩落土  
 6. 2. 5Y6/3 に近い黄褐色 地山土少量  
 7. 2. 5YR/2 灰白色と 10YR7/3 に近い黄褐色の混合土  
 8. 10YR5/3 に近い黄褐色  $\phi$ 1-5mmの炭2%、花崗岩少量

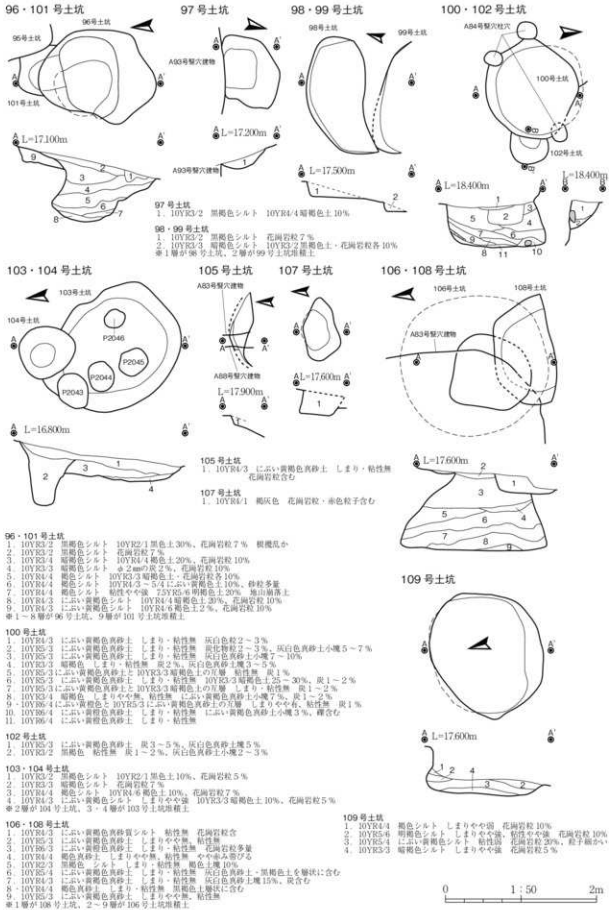
93号土坑

1. 10YR2/2 暗褐色シルト しまりや中硬、粘性無 真砂土を層状に5-7%  
 2. 10YR2/2 暗褐色シルト しまりや中硬、粘性無 真砂土を層状に2-3%、花崗岩を含む  
 3. 2. 5Y4/6 オリーブ褐色真砂土、粘性無 暗褐色シルト7%  
 4. 2. 5Y4/6 オリーブ褐色真砂土、粘性無  
 5. 2. 5Y4/6 オリーブ褐色真砂土、粘性無  
 6. 2. 5Y4/6 オリーブ褐色真砂土 しまりや中硬、粘性無 暗褐色シルトとの混合層 褐色土5-7%

94号土坑

1. 10YR3/3-5/6 に近い黄褐色～黄褐色真砂土 しまりや粘性無に炭1%、自然堆積  
 2. 10YR7/3 に近い黄褐色真砂土 しまりや中硬、粘性無に炭 黄褐色土1-2%、炭1% 硬面崩落土  
 3. 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性無 褐色土2-3%、炭3-5%  
 4. 10YR4/4 に近い黄褐色シルト しまりや中硬、粘性無 暗褐色土、土壌の長方塊 硬面崩落土  
 4. 10YR4/2 灰黄褐色シルト しまりや中硬、粘性無 灰白色真砂土2-3%  
 5. 10YR5/6 暗褐色シルト しまりや中硬、粘性無 暗褐色土10-15% 硬面崩落土  
 6. 10YR5/6 暗褐色シルト 粘性無 暗褐色土3-5% 硬面崩落土

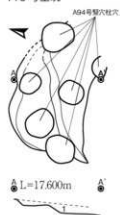
第190図 87～95号土坑



第191図 96~109号土坑

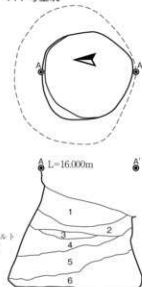


110号土坑

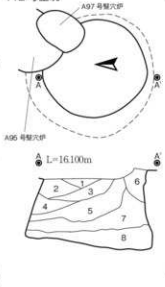


110号土坑  
1. 10YR2/2 灰青褐色黄砂質シルト  
粘性無 花崗岩粒含

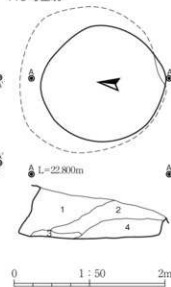
111号土坑



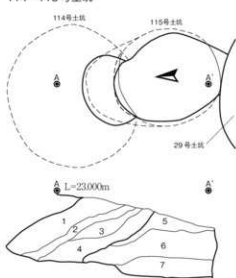
112号土坑



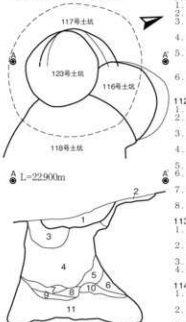
113号土坑



114・115号土坑



116・117・123号土坑



111号土坑  
1. 10YR4/4 褐色シルト 花崗岩粒 5%  
2. 10YR3/3 暗褐色シルト 花崗岩粒 10%  
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 粘性弱  
花崗岩粒 2% 粒子細かい  
4. 10YR3/2 暗褐色シルト 10YR3/3 暗褐色土  
20% 花崗岩粒 2%  
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 10YR5/4  
にぶい黄褐色砂がクマナ状に入る  
花崗岩粒 2%  
6. 10YR3/3 暗褐色シルト 10YR4/6 褐色土を  
層状に 20% 花崗岩粒 20%

112号土坑  
1. 10YR4/4 褐色 しまり密、粘性弱  
2. 10YR5/6 黄褐色 しまり密、粘性弱  
10YR4/4 褐色土 15% 花崗岩粒 10%  
3. 10YR5/8 黄褐色 しまり密、粘性弱  
炭 1%  
4. 10YR5/8 黄褐色 しまり密、粘性弱  
10YR4/4 褐色土 10% 花崗岩粒 15%  
5. 10YR3/4 暗褐色 しまり密、粘性弱  
6. 10YR3/3 暗褐色 しまり密、粘性弱  
炭 3%  
7. 10YR6/8 明黄褐色 しまり密、粘性弱  
炭 3%  
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色 しまり密、粘性弱

113号土坑  
1. 2. 5YR/3 浅黄褐色 しまりや中密、  
粘性や中弱 礫面層土含む  
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色 しまりや中密、粘性  
や中弱 φ1-3mmの花崗岩粒 30%  
3. 2. 5YR/3 浅黄褐色シルト 礫面層土上  
4. 2. 5YR/3 にぶい黄褐色 しまりや中密、  
粘性や中弱 φ1-3mmの炭 3%

114・115号土坑  
1. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質土 φ1-2mm  
の炭 2%  
2. 10YR3/2 暗褐色 φ1-3mmの炭 3%  
3. 10YR5/3 にぶい黄褐色 φ2-5mmの炭 10%  
4. 10YR6/3 にぶい黄褐色シルト 花崗岩粒少量  
5. 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘性や中弱  
6. 10YR6/3 にぶい黄褐色 砂質土  
7. 礫面層土上

118号土坑



121号土坑



122号土坑



5. 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘性や中弱  
6. 10YR6/3 にぶい黄褐色 砂質土  
7. 礫面層土上

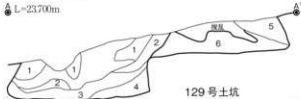
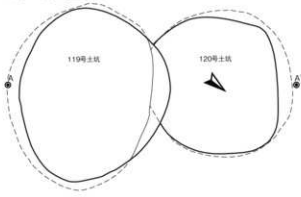
117・123号土坑  
1. 10YR6/3 にぶい黄褐色 しまり密、粘性や中弱  
2. 10YR6/3 にぶい黄褐色 しまり密、粘性や中弱 花崗岩粒多い  
3. 10YR3/2 暗褐色 花崗岩粒多い  
4. 10YR6/3 にぶい黄褐色 φ2-10mmの炭 5% 1層より粒子粗い  
5. 10YR5/3 にぶい黄褐色 地山ブロック含む  
6. 10YR4/2 灰青褐色 φ2-5mmの炭 5% 土砂混合  
7. 10YR3/2 暗褐色 花崗岩粒含む  
8. 10YR5/3 にぶい黄褐色  
9. 10YR3/2 暗褐色 花崗岩粒含む  
10. 礫面層土上  
11. 10YR4/2 灰青褐色 φ2-5mmの炭 5%  
※1層が117号土坑、2-11層が123号土坑地層土  
※断面図には無いが、116号土坑は1層と地層土でしまりや中弱

118号土坑  
1. 10YR3/3 にぶい黄褐色 しまりや中密、粘性や中弱 φ1-3mmの花崗岩粒  
10%、炭 5%  
2. 10YR6/3 にぶい黄褐色 粘性や中弱 φ1-3mmの花崗岩粒 15%

121号土坑  
1. 10YR2/1 黒色 しまりや中密 花崗岩粒 2%、炭 1%  
122号土坑  
1. 10YR2/1 黒色 しまりや中密 花崗岩粒 2%

第 192 図 110 ~ 118・121 ~ 123号土坑

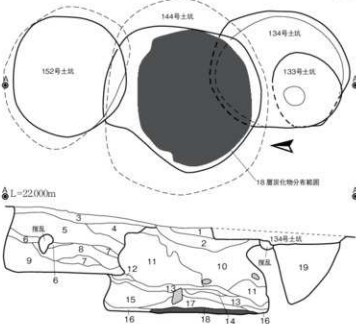
119・120号土坑



127号土坑



133・134・144・152号土坑

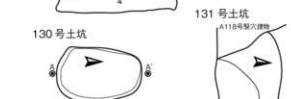
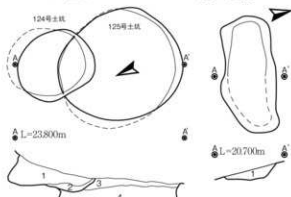


124・125号土坑

1. 10YR7/3 に近い黄褐色 しまり密 φ1~3mmの炭化物10%
2. 10YR7/3 に近い黄褐色と10YR2/1茶色の混在土、しまり密 1層と炭化物の混在層
3. 10YR6/3 に近い黄褐色 1層より粒多し
4. 10YR6/3 に近い黄褐色 3層より粒多し

●1・2層が124号土坑、3・4層が125号土坑堆積土

124・125号土坑



130号土坑



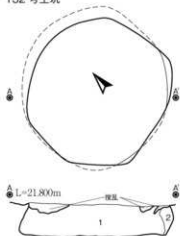
- 126号土坑  
1. 10YR2/2 黒褐色 花崗岩粒含む
- 127号土坑  
1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや密 炭2%
- 129号土坑  
1. 10YR2/1 黒色 花崗岩・土器多量  
2. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒5%
- 130号土坑  
1. 10YR4/3 に近い黄褐色 粘性やや弱
- 131号土坑  
1. 2. 5Y7/3 浅黄赤砂

- 119・120号土坑  
1. 10YR7/4 に近い黄褐色 しまり密、粘性弱 10YR3/4暗褐色土20%、花崗岩粒15%
2. 10YR7/4 に近い黄褐色、しまり密、粘性弱 10YR3/4暗褐色土30%、花崗岩粒15%
3. 10YR3/4 暗褐色、しまり密、粘性弱 10YR7/4に、近い黄褐色土20%、花崗岩粒10%
4. 10YR7/4 に近い黄褐色、しまりやや密 10YR3/4暗褐色土30%、花崗岩粒15%
5. 10YR7/6 暗褐色、しまり密、粘性弱 花崗岩粒3%
6. 10YR7/4 に近い黄褐色、しまり密、粘性弱 10YR3/4暗褐色土、花崗岩粒30%
- ※1~4層が119号土坑、5・6層が120号土坑堆積土

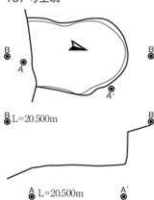
- 133・134・144・152号土坑  
1. 10YR2/2 黒褐色 花崗岩粒多し  
2. 10YR4/2 浅黄褐色 φ2~5mmの炭3% 1層より粒子細かい  
3. 10YR6/3 に近い黄褐色 黒褐色土層に含む 111号型穴遺物床面構築土  
4. 10YR7/3 に近い黄褐色、しまりやや密、粘性やや弱  
粘性弱で花崗岩粒含む、粒子少ない  
5. 10YR6/3 に近い黄褐色、しまりやや密、粘性やや弱  
色調以外は4層と同じ  
6. 10YR4/3 に近い黄褐色 花崗岩粒少量  
7. 10YR5/1 灰褐色、しまりやや密、粘性やや弱  
8. 10YR5/3 に近い黄褐色 炭3%からの硬土  
9. 10YR5/3 に近い黄褐色 褐色土含む、内容は8層と同じ  
10. 10YR6/3 に近い黄褐色 粘性やや弱 φ1~5mmの炭5%、花崗岩粒10%含む  
11. 2. 5YR2/2 灰白色、しまり密 地山崩落土で部分的に近い黄褐色土含む  
12. 10YR6/2 灰褐色赤砂質土、しまりやや密、粘性やや弱  
13. 10YR2/2 黒褐色、しまりやや密、粘性弱 φ5~30mmの炭5%  
14. 2. 5YR2/2 灰白色と10YR6/3に近い黄褐色の混在土、しまりやや密、粘性やや弱  
15. 10YR6/3 に近い黄褐色 φ5~30mmの炭5%、地山ブロック多量  
16. 10YR5/4 に近い黄褐色 粘性やや弱 粘質土で混和物ほとんど無し  
17. 10YR6/3 に近い黄褐色砂質土、しまりやや密、粘性やや弱  
18. 10YR5/4 に近い黄褐色 粘性やや弱 大型の炭化物含む  
19. 2. 5YR2/2 灰白色、しまり密 に近い黄褐色土少量  
地山崩落土
- ※1~3層は111号型穴遺物、4・5層が152号土坑、10~18層が144号土坑、19層が133号土坑堆積土  
●134号土坑は灰褐色赤色の堆積土であったのが確認され

第193図 119・120・124~131・133・134・144・152号土坑

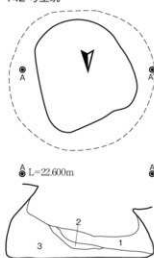
132号土坑



137号土坑



142号土坑



132号土坑

1. 10YR5/3 に近い黄褐色、 $\phi$ 1~3mmの炭3%
2. 10YR5/3 に近い黄褐色と2.5Y7/4浅黄色の混合土、粘性やや弱、浅黄色土は壁面剥落上。

136号土坑

1. 10YR5/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~5mmの炭3%、花崗岩粒含む
2. 10YR6/3 に近い黄褐色砂質土、壁面剥落ブロック含む、砂質土
3. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~5mmの炭3%、1層より深い
4. 10YR6/3 に近い黄褐色砂質土
5. 10YR6/3 に近い黄褐色砂質土、壁面剥落ブロック含む、4層より粒子粗い

137号土坑

1. 10YR5/3 に近い黄褐色、花崗岩粒含む

138号土坑

1. 10YR6/3 灰黄褐色、 $\phi$ 5mmの炭3%
2. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~5mmの炭3%
3. 10YR5/3 に近い黄褐色、 $\phi$ 2~5mmの炭3%

139号土坑

1. 10YR5/3 に近い黄褐色、 $\phi$ 2~5mmの炭3%
2. 10YR6/3 灰黄褐色、 $\phi$ 5mmの炭3%
3. 10YR5/3 に近い黄褐色、 $\phi$ 2~5mmの炭3%

140号土坑

1. 10YR5/3 に近い黄褐色、 $\phi$ 2~5mmの炭3%
2. 10YR6/3 灰黄褐色、 $\phi$ 5mmの炭3%
3. 10YR5/3 に近い黄褐色、 $\phi$ 2~5mmの炭3%

141号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭5%、赤色粒10%、人馬排泄物

142号土坑

1. 10YR5/3 に近い黄褐色、やや砂質、壁面近くには砂土含む
2. 7.5YR5/4 に近い黄色、花崗岩粒含む
3. 10YR5/3 に近い黄褐色、 $\phi$ 2~5mmの炭3%、1層より花崗岩粒多い

143号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

144号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

145号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

146号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

147号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

148号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

149号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

150号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

151号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

152号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

153号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

154号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

155号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

156号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

157号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

158号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

159号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

160号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

161号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

162号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

163号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

164号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

165号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

166号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

167号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

168号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

169号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

170号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

171号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

172号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

173号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

174号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

175号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

176号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

177号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

178号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

179号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

180号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

181号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

182号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

183号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

184号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

185号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

186号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

187号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

188号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

189号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

190号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

191号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

192号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

193号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

194号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

195号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

196号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

197号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

198号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

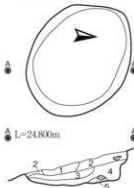
199号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

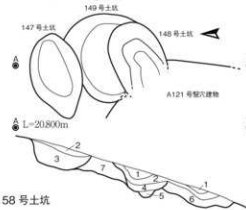
200号土坑

1. 10YR4/2 灰黄褐色、 $\phi$ 2~10mmの炭2%

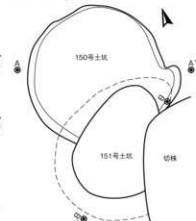
146号土坑



147・148・149号土坑



150・151号土坑



153号土坑



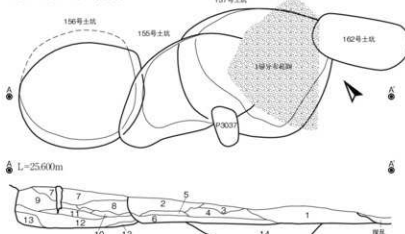
158号土坑



154号土坑



155・156・157号土坑



- 146号土坑  
 1. IOYR3-3 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭1%、花崗岩粒2%  
 2. IOYR4-3 濃い黄褐色 しまりやや疎、粘性無 炭2%、炭・花崗岩粒各1%  
 3. IOYR3-1 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭・花崗岩粒各3%  
 4. IOYR3-3 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭1%、花崗岩粒3%  
 5. IOYR4-3 濃い黄褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭1%、花崗岩粒3%  
 6. IOYR3-2 暗褐色 しまりやや疎、炭1%、花崗岩粒5%  
 7. IOYR4-3 濃い黄褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭1%、花崗岩粒3%  
 ※1・2層は雑草の成土、3層が147号土坑、4・5層が148号土坑、6層がA121号壁穴遺物、7層が149号土坑堆積土
- 150号土坑  
 1. IOYR4-2 灰黄褐色
- 151号土坑  
 1. IOYR2-1 黒・2-2 黒褐色  
 2. IOYR6-1 黄褐色 炭・7-1 灰白色  
 3. IOYR6-1 黄褐色 炭・7-1 灰白色  
 4. IOYR2-2・3-2 黒褐色  
 5. IOYR3-1・6-1 黄褐色  
 地山崩落土含む
- 153号土坑  
 1. IOYR4-2 灰黄褐色 φ5mmの赤色粒子3%、花崗岩粒多い  
 2. IOYR2-1 黒色 炭化物層か

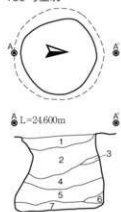
- 147・148・149号土坑  
 1. IOYR3-3 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭1%、花崗岩粒2%  
 2. IOYR4-3 濃い黄褐色 しまりやや疎、粘性無 炭2%、炭・花崗岩粒各1%  
 3. IOYR3-1 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭・花崗岩粒各3%  
 4. IOYR3-3 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭1%、花崗岩粒3%  
 5. IOYR4-3 濃い黄褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭1%、花崗岩粒3%  
 6. IOYR3-2 暗褐色 しまりやや疎、炭1%、花崗岩粒5%  
 7. IOYR4-3 濃い黄褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭1%、花崗岩粒3%  
 ※1・2層は雑草の成土、3層が147号土坑、4・5層が148号土坑、6層がA121号壁穴遺物、7層が149号土坑堆積土

- 154号土坑  
 1. IOYR2-2 暗褐色 φ2~10mmの炭10%  
 2. IOYR3-2 暗褐色 φ2~10mmの炭10% φ1~3mmの赤色粒子5% 下部に遺物含む  
 3. IOYR4-3 濃い黄褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭1%、花崗岩粒3%、花崗岩含む  
 4. 2. SY7-6 明黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 礫面崩落土

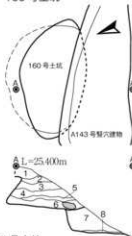
- 158号土坑  
 1. IOYR4-3 濃い黄褐色 φ10mmの炭3%、花崗岩粒多い  
 2. 2. SY7-4 浅黄褐色 しまり疎、粘性弱 濃い黄褐色土含む 地山崩落土  
 3. IOYR4-3 濃い黄褐色 φ10mmの炭3%、花崗岩粒多い

- 155・156・157号土坑  
 1. 2. SY6-2 灰黄褐色 しまり疎、粘性弱 黒褐色 濃い黄褐色土含む  
 2. IOYR4-3 濃い黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 φ2~10mmの炭3%  
 3. IOYR3-2 暗褐色 しまりやや疎、粘性やや弱  
 4. 2. SY6-2 灰黄褐色 しまり疎、粘性弱 1層と類似するが地山ブロックを層状に含む  
 5. IOYR4-3 濃い黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山ブロック・大型の炭を含む  
 6. 浅砂土崩落土 色調暗るい  
 7. IOYR3-2 暗褐色 φ2~5層と比べて粒子細かい 下部に2. SYR5-4 濃い黄褐色土に含む  
 8. IOYR6-2 灰黄褐色 炭色少量 やや粘土質  
 9. IOYR3-3 暗褐色とIOYR2-1 黒色の混合土  
 10. IOYR3-3 灰黄褐色 しまり疎、粘性弱 地山崩落土  
 11. IOYR6-2 灰黄褐色 炭色少量 やや粘土質  
 12. IOYR5-2 灰黄褐色 黒色土、花崗岩を層状に含む  
 13. IOYR7-1 濃い黄褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 地山崩落土  
 14. 浅砂土崩落土 石層2.5色調暗い  
 ※1層は雑草の成土、2~6層が155号土坑、7~13層が156号土坑、14層が157号土坑堆積土  
 ※7~13層は人為堆積か

159号土坑



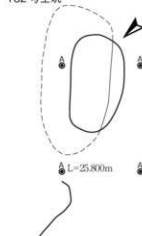
160号土坑



161号土坑



162号土坑



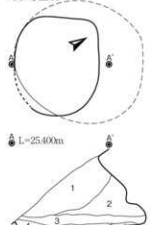
163号土坑



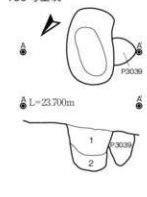
164号土坑



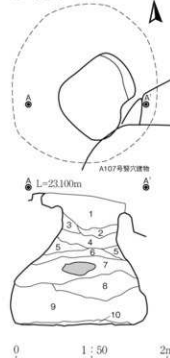
165号土坑



166号土坑



167号土坑



159号土坑

- 10YR5/4 にふい黄褐色 しまり密、粘性無し 真砂土少量、炭酸鈣
- 10YR4/4 褐色 しまりやや疎、粘性無し 真砂土少量
- 10YR5/6 黄褐色 しまり疎、粘性無し 礫面崩落土か
- 10YR5/4 にふい黄褐色 しまり疎、粘性無し 真砂土少量
- 10YR4/4 褐色 しまり疎、粘性無し
- 10YR6/4 にふい黄褐色 しまり疎、粘性無し 花崗岩粒含む礫面崩落土
- 10YR4/3 にふい黄褐色 しまりやや疎、粘性やや有

160号土坑・A143号竪穴建物

- 10YR6/4 にふい黄褐色
- 10YR7/2 にふい黄褐色 地山ブロッカ多い
- 10YR7/2 にふい黄褐色  $\phi 1 \sim 3$ mmの炭2%
- 10YR7/2 にふい黄褐色  $\phi 5$ mmの炭3%、地山ブロッカ含む
- 10YR7/2 にふい黄褐色と10YR2/4 紫色の炭合土
- 10YR7/2 にふい黄褐色  $\phi 1 \sim 5$ mmの炭2%
- 10YR7/2 にふい黄褐色  $\phi 5$ mmの炭3%、地山ブロッカ含む
- 7.5YR5/4 にふい褐色 しまりやや密
- 1-6層が160号土坑、7-8層がA143号竪穴建物埋積土

161号土坑

- 10YR6/4 にふい黄褐色 花崗岩粒少量
- 10YR6/4 にふい黄褐色  $\phi 10 \sim 30$ mmの炭10%
- 10YR7/4 にふい黄褐色 1層より花崗岩粒多く、白みがかかる

162号土坑

- 10YR7/6 明黄褐色 しまりやや疎、粘性やや有  $\phi 5 \sim 20$ mmの炭3%、中に礫粒を含む
- 10YR7/6 明黄褐色 しまりやや疎、粘性やや有  $\phi 5 \sim 20$ mmの炭3%、花崗岩粒多い
- 10YR8/6 黄褐色 しまり疎、粘性有 礫面崩落土

163号土坑

- 10YR7/4 にふい黄褐色 5YR6/6 褐色地山ブロッカ含む
- 10YR5/1 褐色
- 10YR6/4 にふい黄褐色  $\phi 1 \sim 3$ mmの炭5%
- 10YR6/4 にふい黄褐色 地山崩落土多い
- 10YR5/2 灰黄褐色砂質土  $\phi 1 \sim 2$ mmの炭3%

164号土坑

- 2.5Y7/2 灰黄色 しまり密、粘性やや有 花崗岩粒多
- 10YR6/2 灰黄褐色 しまりやや有  $\phi 5 \sim 10$ mmの炭3%、花崗岩粒含む 自然堆積
- 10YR5/2 灰黄褐色 しまりやや有 花崗岩粒含む 自然堆積

165号土坑

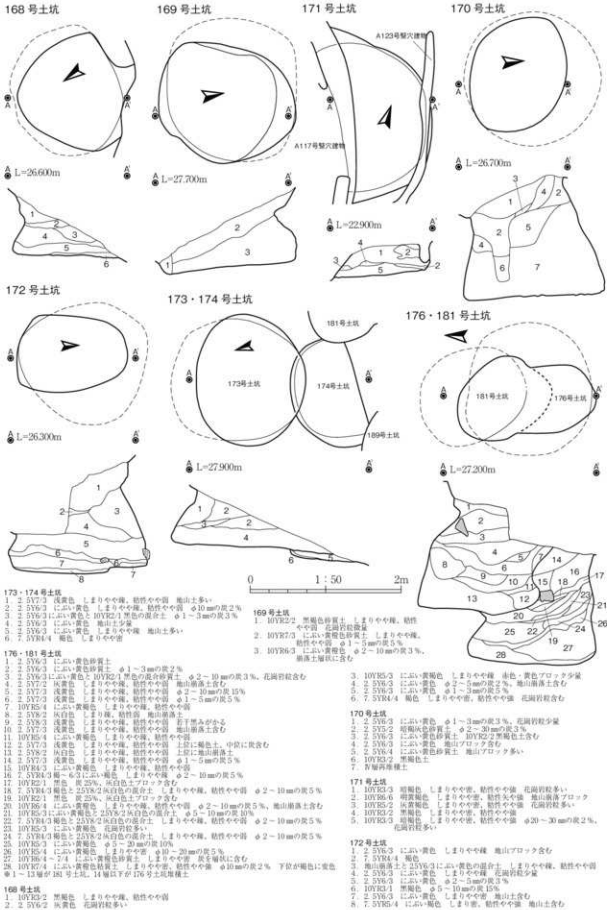
- 10YR7/3 にふい黄褐色 しまりやや密、粘性やや有 花崗岩粒多
- 10YR6/3 にふい黄褐色砂質土 しまりやや有 花崗岩粒少量 しまりやや密  $\phi 10 \sim 30$ mmの炭5%、花崗岩粒含む
- 10YR4/3 にふい黄褐色 しまりやや密
- 7.5YR5/4 にふい褐色 しまりやや密  $\phi 1 \sim 2$ mmの炭2%
- 10YR3/2 黄褐色 しまりやや密 黄褐色土ブロッカ含む

166号土坑

- 10YR6/2 灰黄褐色 花崗岩粒含む 粒子粗い
- 10YR6/4 にふい黄褐色砂質土 しまりやや密、粘性やや有

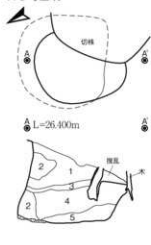
167号土坑

- 10YR5/2 灰黄褐色 粘性やや有  $\phi 1 \sim 5$ mmの炭2%
- 10YR3/1 黒褐色  $\phi 5 \sim 20$ mmの炭15%
- 10YR5/2 灰黄褐色 花崗岩粒含む
- 10YR5/3 にふい黄褐色  $\phi 2 \sim 10$ mmの炭3%、花崗岩粒含む
- 10YR2/1 黒色 花崗岩粒含む
- 10YR6/3 明黄褐色 花崗岩粒含む
- 7.5YR5/4 にふい黄褐色 中央に $\phi 10 \sim 30$ mmの炭5%
- 10YR5/4 にふい黄褐色砂質土、しまりやや疎、粘性やや有 炭化アロッカ含む
- 10YR5/3 にふい黄褐色砂質土 しまりやや疎、粘性やや有  $\phi 1 \sim 10$ mmの炭10%
- 7.5YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性やや有 花崗岩粒少量

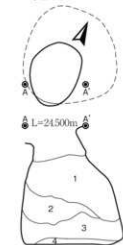


第197図 168～174・176・181号土坑

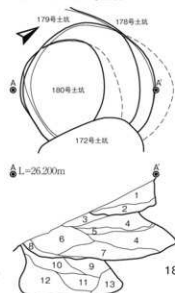
175号土坑



177号土坑



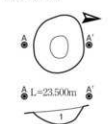
178・179・180号土坑



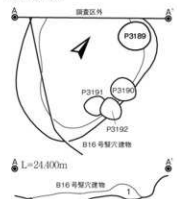
183号土坑



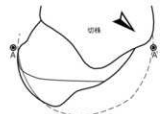
182号土坑



184号土坑



185号土坑



186号土坑



187号土坑



175号土坑

1. 2. 5V6/3 におい黄色砂質土 しまりや中硬、粘性や中弱  $\phi 1 \sim 3$ mmの炭2%
2. 2. 5V6/3 におい黄色と地山崩落土の混合土 しまりや中硬、粘性や中弱
3. 10YR3/1 黒褐色 しまりや中硬、粘性や中弱
4. 2. 5V6/3 におい黄色 しまりや中硬、粘性や中弱 1層より締まり強い
5. 2. 5V6/3 におい黄色 しまりや中硬、粘性や中弱 花崗岩含む

177号土坑

1. 2. 5V7/3 浅黄色 しまり強、粘性弱  $\phi 5$ mmの炭2%、花崗岩粒多量
2. 2. 5V6/3 におい黄色 しまりや中硬、粘性や中弱  $\phi 1 \sim 3$ mmの炭2%、花崗岩粒含む
3. 2. 5V6/3 におい黄色 しまりや中硬、粘性や中弱 花崗岩粒少量
4. 7. 10YR4/4 褐色 しまりや中硬

178～180号土坑

1. 10YR6/4 におい黄褐色 しまりや中硬、粘性や中弱 花崗岩含む
2. 10YR6/4 におい黄褐色砂質土
3. 10YR6/1 黒褐色  $\phi 2 \sim 10$ mmの炭5%
4. 10YR6/4 におい黄褐色 地山崩落土多い
5. 10YR6/3 におい黄褐色砂質土
6. 10YR6/4 におい黄褐色 花崗岩粒少量
7. 10YR6/4 におい黄褐色 花崗岩粒多い
8. 10YR7/3 浅黄色砂質土 しまりや中硬、粘性や中弱 地山崩落
9. 10YR6/4 におい黄褐色 地山崩落土多い
10. 10YR6/4 におい黄褐色 しまりや中硬、粘性や中弱 花崗岩粒少量
11. 10YR7/3 浅黄色砂質土 しまりや中硬、粘性や中弱 地山崩落
12. 10YR5/2 淡黄褐色 しまりや中硬、粘性や中弱 花崗岩粒少量
13. 2. 5YR5/3 淡黄褐色 しまりや中硬、粘性や中弱 地山崩落土

183号土坑

1. 10YR4/3 におい黄褐色 しまりや中硬、粘性や中弱
2. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒少量
3. 2. 5V6/3 におい黄色 しまり強、粘性弱 地山崩落土
4. 10YR5/3 におい黄褐色 しまりや中硬、粘性や中弱 花崗岩含む

185号土坑

1. 10YR4/4 黒褐色 しまりや中硬、粘性や中弱 木の根多い
2. 10YR5/6 黄褐色 しまりや中硬、粘性や中弱  $\phi 2 \sim 30$ mmの炭3%、腐葉土含む
3. 10YR7/4 におい黄褐色 しまりや中硬、粘性や中弱 地山崩落土含む
4. 10YR7/4 におい黄褐色 しまりや中硬、粘性や中弱  $\phi 2 \sim 10$ mmの炭2%
5. 10YR17/1 黒～7/4におい黄褐色 しまり強、粘性弱 炭化物多
6. 2. 5Y7/4 浅黄色 しまりや中硬、粘性や中弱 地山崩落土含む

187号土坑

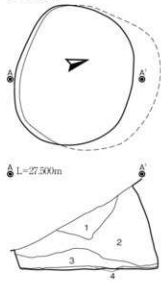
1. 2. 5V8/3 淡黄色 しまり強、粘性弱 地山崩落土
2. 2. 5V7/3 淡黄色 しまりや中硬、粘性や中弱 地山崩落土多い
3. 10YR7/4 におい黄褐色 しまりや中硬、粘性や中弱 地山崩落土多い
4. 10YR7/4 におい黄褐色砂質土  $\phi 30$ mmの炭1%

186号土坑

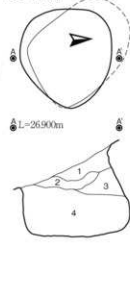
1. 10YR7/3 淡黄色 しまりや中硬、粘性や中弱 地山崩落土多い
2. 10YR7/3 淡黄色 しまりや中硬、粘性や中弱  $\phi 10 \sim 30$ mmの炭15%
3. 10YR7/8 黄褐色粘土 しまり強、粘性強 花崗岩含む
4. 2. 5YR/2 灰白色 しまり強、粘性弱 地山崩落土
5. 2. 5Y7/4 淡黄色 しまりや中硬、粘性や中弱 地山崩落土含む
6. 10YR7/3 淡黄色 しまりや中硬、粘性や中弱  $\phi 1 \sim 3$ mmの炭5%
7. 10YR7/2 淡黄色 しまりや中硬、粘性や中弱 花崗岩崩落
8. 2. 5V7/2 灰白色 しまりや中硬、粘性や中弱 地山崩落土多い
9. 2. 5V6/2 灰黄～6/4におい黄色 しまりや中硬、粘性や中弱
10. 10YR5/1 黒褐色 しまりや中硬、粘性や中弱  $\phi 2 \sim 30$ mmの炭5%
11. 2. 5YR/3 におい黄褐色 花崗岩含む
12. 10YR5/6 黄褐色 しまりや中硬、粘性や中弱

第198図 175・177～180・182～187号土坑

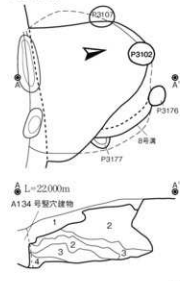
188号土坑



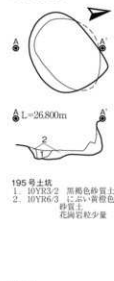
189号土坑



190号土坑

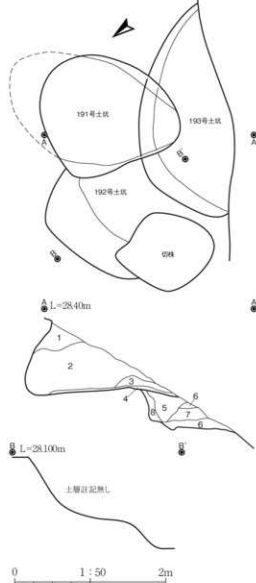


195号土坑

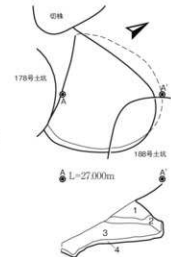


195号土坑  
1. 10YR3/2 黒褐色砂質土  
2. 10YR6/3 に近い黄褐色  
砂質土  
花崗岩粒少量

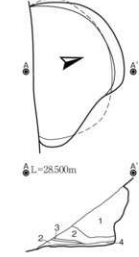
191・192・193号土坑



194号土坑



196号土坑



188号土坑

1. 2. 5Y7/4 浅黄色粘質土 しまりやや密、粘性強 花崗岩粒多い
2. 2. 5Y7/4 浅黄色 しまりやや密、粘性やや強 地山崩落土多量
3. 2. 5Y6/2 灰黄色 しまり強、粘性やや弱 花崗岩粒含む
4. 7. 5YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性やや強

189号土坑

1. 2. 5Y6/3 に近い黄褐色 しまりやや強、粘性やや弱 地山崩落砂多い
2. 10YR3/2 -2/2 黒褐色 花崗岩粒少量
3. 2. 5Y6/2 灰黄色 しまり強、粘性やや弱 黄褐色土
4. 2. 5Y6/3 に近い黄褐色 地山崩落砂を層状に含む

190号土坑

1. 10YR3/2 黒褐色 4/3 に近い黄褐色 しまりやや強、粘性やや弱  $\phi$  5~30mm の炭 3%、花崗岩粒含む 炭灰の混入品
2. 2. 5Y7/3 黄褐色 しまり強、粘性強 地山崩落土で粗い砂 炭化物ブロック含む
3. 10YR3/2 黒褐色 花崗岩粒含む
4. 2. 5Y8/3 淡黄緑砂と 10YR3/2 黒褐色の混合土 しまりやや密  $\phi$  5mm の炭 2%

191・193号土坑

1. 10YR6/3 に近い黄褐色 しまりやや強、粘性やや弱 花崗岩粒含む
2. 10YR6/3 に近い黄褐色と 10YR8/4 黄褐色地山土の混合土 しまりやや強、粘性やや弱
3. 10YR5/1 黄褐色 粘性やや強 花崗岩粒含む
4. 7. 5YR4/4 に近い褐色 しまりやや強、粘性やや弱 花崗岩粒多い
5. 10YR8/4 浅黄褐色 しまりやや強、粘性やや弱 地山崩落土
6. 10YR3/2 黒褐色 灰白色土少量
7. 10YR7/4 に近い黄褐色 しまり強、粘性強 地山崩落土
8. 10YR7/4 に近い黄褐色 しまりやや密 地山崩落土含む

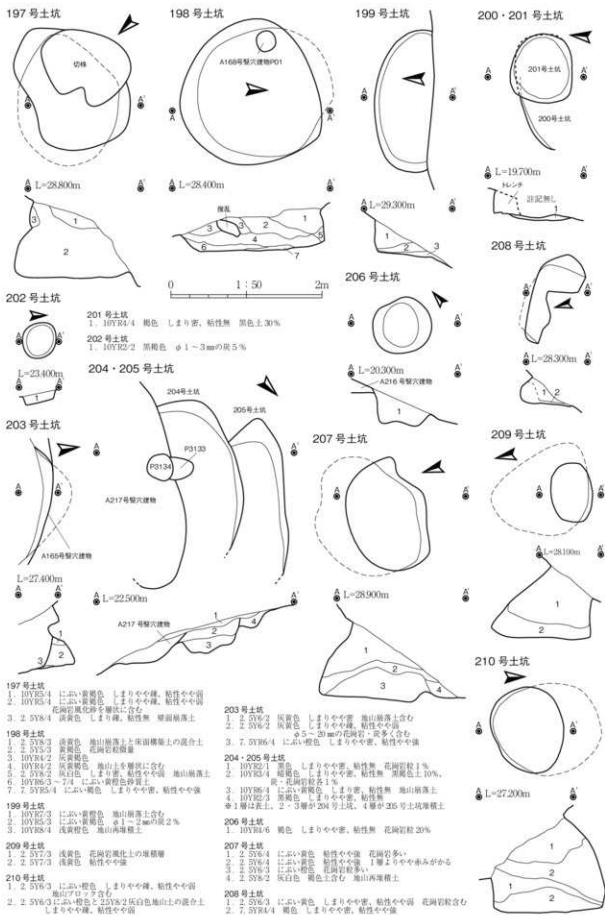
194号土坑

1. 10YR7/6 明黄褐色  $\phi$  5mm の炭 1%、花崗岩粒少量
2. 10YR7/2 に近い黄褐色 しまりやや強、粘性やや弱 花崗岩粒少量
3. 10YR7/3 に近い黄褐色 しまりやや密  $\phi$  2~5mm の炭 2%、花崗岩粒含む
4. 7. 5YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性やや強

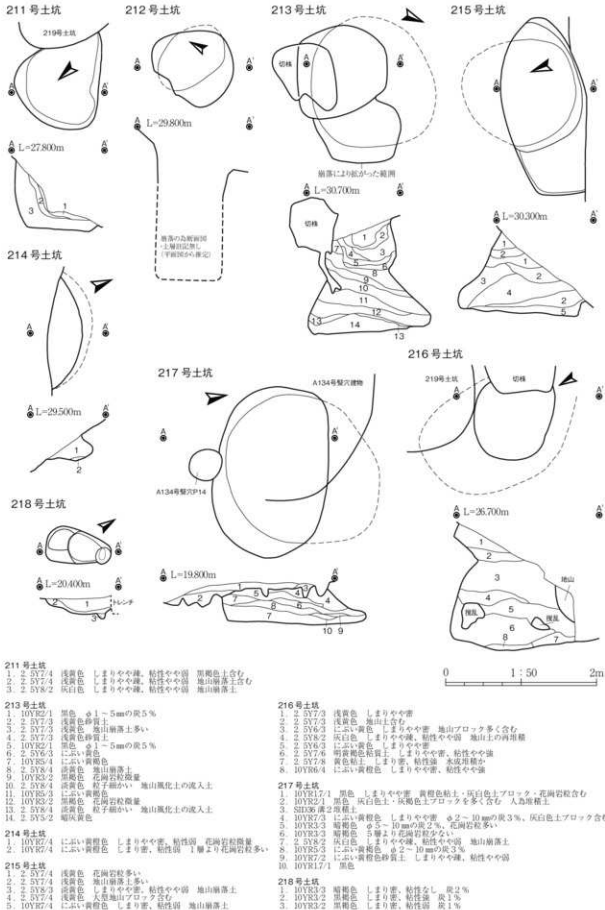
196号土坑

1. 10YR7/3 に近い黄褐色 地山崩落土含む
2. 10YR7/3 に近い黄褐色砂質土 花崗岩粒少量
3. 10YR2/2 黄褐色
4. 7. 5YR4/4 褐色 しまりやや密、粘性やや強

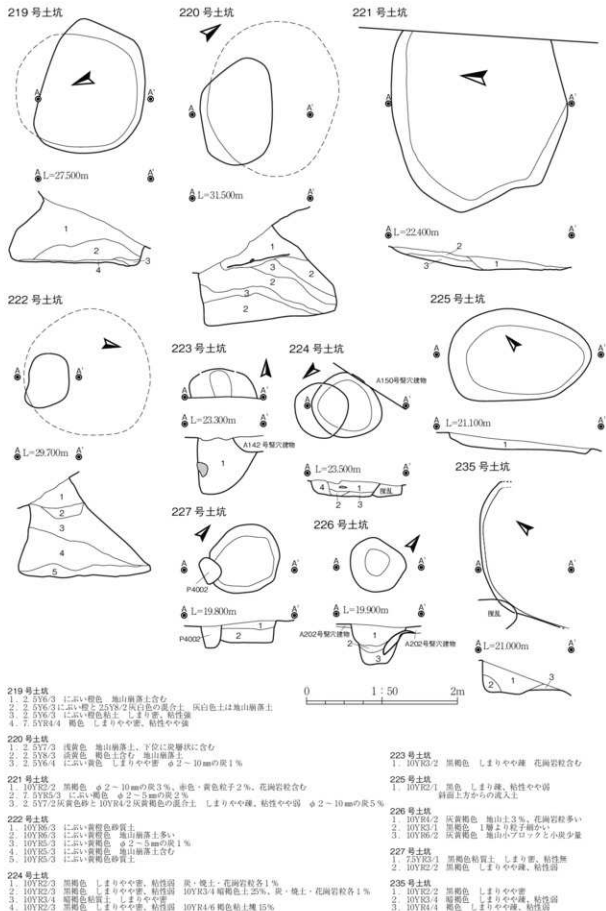




第200図 197～210号土坑

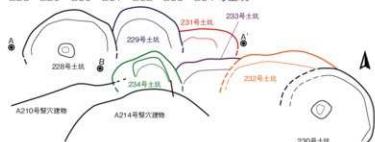


第201図 211～218号土坑

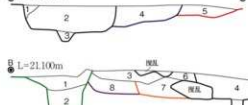


第202図 219～227・235号土坑

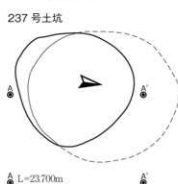
228・229・230・231・232・233・234号土坑



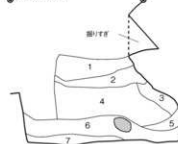
A L=21,500m



B L=21,100m



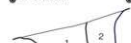
A L=23,700m



242・243号土坑



A L=17,000m



238号土坑



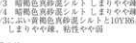
A L=16,700m



241号土坑



A L=16,600m



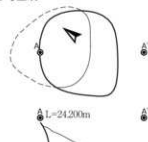
239・240号土坑



A L=16,800m



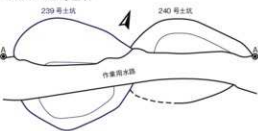
236号土坑



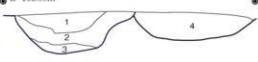
A L=24,200m



239・240号土坑



A L=16,800m



228-229-231号土坑(A-A')

1. 2. 5YR4/2 暗灰黄色 しまりや中硬、粘性無 φ3-10mmの礫15%
2. 10YR4/3 土赤・黄褐色 しまりや中硬、粘性無 φ3-10mmの礫15%
3. 10YR4/2 灰黄褐色 しまりや中硬、粘性無
4. 10YR4/4 灰黄褐色 しまりや中硬、粘性無 φ3-10mmの礫10%
5. 2. 5YR5/3 黄褐色 しまりや中硬、粘性無

※1-3層が228号土坑、4層が229号土坑、5層が231号土坑埋積土。

230-232-233-234号土坑(B-B')

1. 2. 5YR5/3 黄褐色 しまりや中硬、粘性無 φ3-10mmの礫5%
2. 5YR4/3 土赤・黄褐色 しまりや中硬、粘性無 φ3-10mmの礫7%
3. 5YR6/3 土赤・黄褐色 しまりや中硬、粘性無 φ3-10mmの礫5%
4. 2. 5YR4/2 暗灰黄色 しまりや中硬、粘性無 φ3-10mmの礫10%、灰2%

5. 2. 5YR4/3 土赤・黄褐色 しまりや中硬、粘性無 灰1%
6. 2. 5YR5/3 黄褐色 しまりや中硬、粘性無 φ3-10mmの礫5%
7. 10YR5/3 土赤・黄褐色 しまりや中硬、粘性無 灰2%
8. 2. 5YR4/2 暗灰黄色 しまりや中硬、粘性無 灰2%

※1-2層が234号土坑、4-5層が230号土坑、6-7層が232号土坑、

8層が233号土坑埋積土。

236号土坑

1. 2. 5YR6/1 暗灰色砂質土 しまりや中硬、粘性無 花崗岩粒15%
2. 2. 5YR5/2 灰褐色 しまりや中硬、粘性無 花崗岩粒15%
3. 2. 5YR6/1 暗灰色砂質土 しまりや中硬、粘性無 花崗岩粒15%
4. 10YR5/1 暗灰色砂質土 しまりや中硬、粘性無 花崗岩粒7%
5. 10YR5/6 褐色 しまりや中硬、粘性無 灰1%、花崗岩粒10%
6. 10YR5/4 土赤・黄褐色砂質土 しまりや中硬、粘性無 花崗岩粒20%

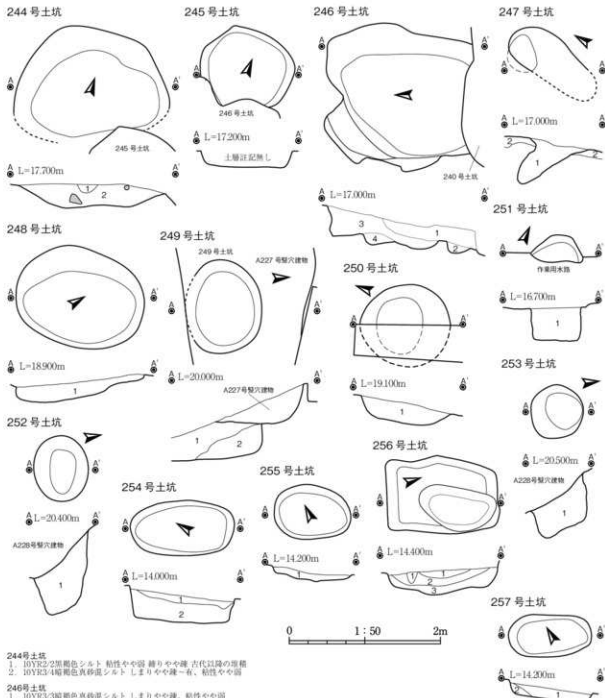
241号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色真砂混シルト 粘性やや弱

242・243号土坑

1. 10YR2/3 暗褐色真砂混シルト 粘性やや弱
2. 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト 粘性やや弱

第203図 228～234・236～243号土坑



## 244号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性や中硬 餅りや中硬 古代以降の埋積
2. 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬～粘、粘性や中硬

## 246号土坑

1. 10YR2/3 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中硬
2. 10YR4/4 褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中硬 におい黄褐色真砂土含む
3. 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中硬
4. 10YR4/4 褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中硬 明黄褐色真砂土含む

## 247号土坑

1. 10YR4/4 褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中硬
  2. 10YR4/4 褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中硬 φ5mmの炭1%
- ※2層はA221号竪穴建物埋土

## 248号土坑

1. 10YR2/2 黒褐色真砂混シルト 粘性や中硬

## 249号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中硬 自然浮遊層含 249号土坑より南でS1039より南の浮遊層
2. 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中硬

## 250号土坑

1. 10YR3/2 黒褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中硬 φ5mmの炭3%

## 251号土坑

1. 10YR5/4 におい黄褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中硬

## 252・253号土坑

1. 10YR4/3 におい黄褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中硬 φ5mmの炭2% 斜面上部からの流入上

## 254号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂砂～細粒多し、におい黄褐色真砂混シルトの混雑含む
2. 25Y5/4 黄褐色 細～粗粒砂 におい黄褐色真砂混シルトの混雑含む

## 255号土坑

1. 10YR3/2～3/3 黒褐～暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 炭少量、風化花崗岩の粗粒砂砂～細粒多し

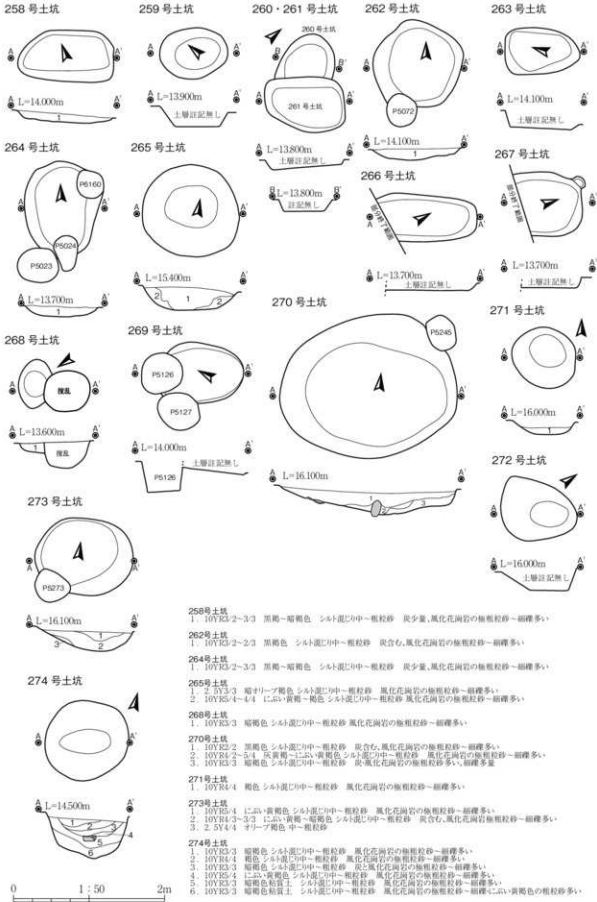
## 256号土坑

1. 10YR3/2～3/3 黒褐～暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 炭少量、風化花崗岩の粗粒砂砂～細粒多し
2. 10YR5/3～5/4 におい黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂砂～細粒多し
3. 10YR4/3 におい黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂砂～細粒多し

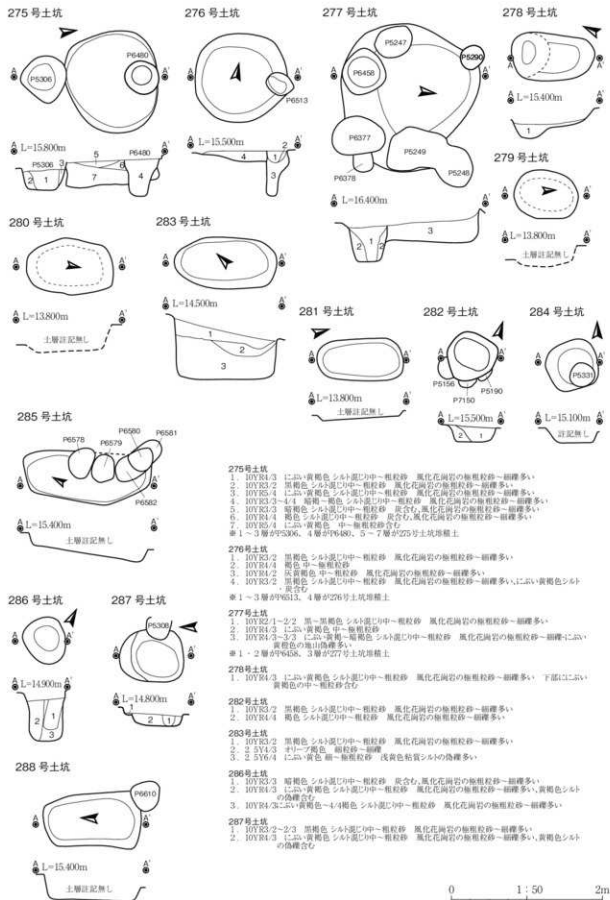
## 257号土坑

1. 10YR3/2～3/3 黒褐～暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 炭少量、風化花崗岩の粗粒砂砂～細粒多し
2. 10YR5/3～4/3 におい黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 炭少量、風化花崗岩の粗粒砂砂～細粒多し

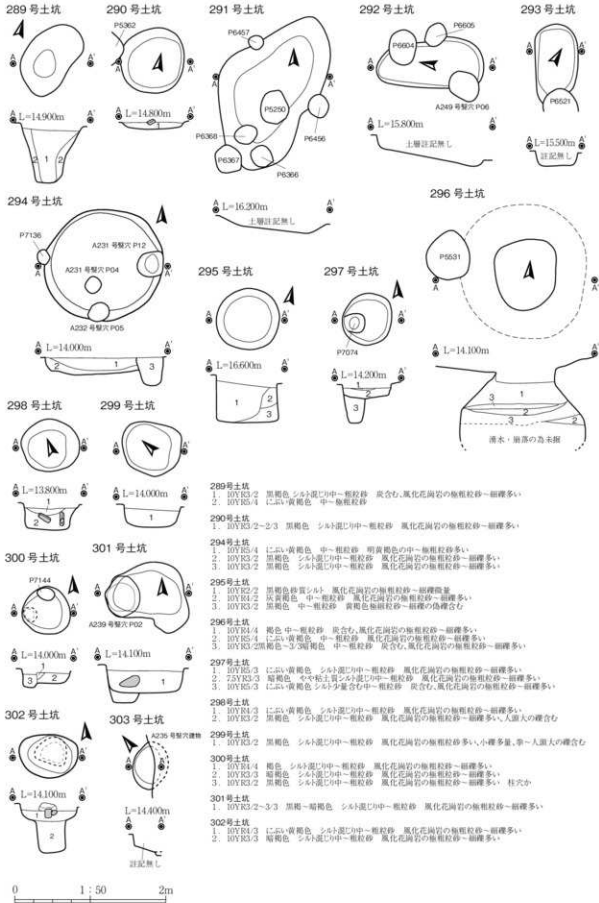
第204図 244～257号土坑



第205図 258～274号土坑



第 206 図 275 ~ 288 号土坑



289号土坑  
1. 01YR3.2/2 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 灰含む、風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い  
2. 01YR5/4 に近い黄褐色 中～粗粒砂

290号土坑  
1. 01YR3.2/2-2/3 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い

294号土坑  
1. 01YR5/4 に近い黄褐色 中～粗粒砂 明黄褐色の中～粗粒砂多い  
2. 01YR3.2/2 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い  
3. 01YR3.2/2 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い

295号土坑  
1. 01YR2/2 黒褐色 砂質シルト 風化花崗岩の粗粒砂～細粒少量  
2. 01YR4/2 に近い黄褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い  
3. 01YR3.2/2 黒褐色 中～粗粒砂 黄褐色粗粒砂～細粒の塊を含む

296号土坑  
1. 01YR4/4 褐色 中～粗粒砂 灰含む、風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い  
2. 01YR5/4 に近い黄褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い  
3. 01YR3.2/2 黒褐色 中～粗粒砂 灰含む、風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い

297号土坑  
1. 01YR5/3 に近い黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い  
2. 2.5YR3.3/3 暗褐色 少～粘土質シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い  
3. 01YR5/3 に近い黄褐色 シルト少量含む中～粗粒砂 灰含む、風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い

298号土坑  
1. 01YR4.3/2 に近い黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い  
2. 01YR3.2/2 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い、人頭大の礫含む

299号土坑  
1. 01YR3.2/2 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂多い、小礫多量、準～人頭大の礫含む

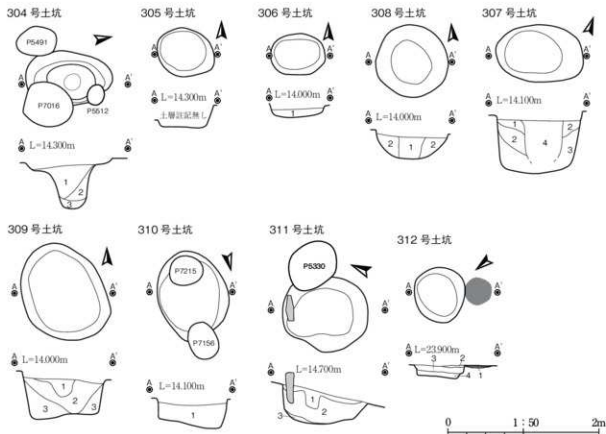
300号土坑  
1. 01YR5/3 褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い  
2. 01YR4/4 暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い  
3. 01YR3.2/2 黒褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い、柱穴小

301号土坑  
1. 01YR3.2/2-3/3 黒褐色 暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い

302号土坑  
1. 01YR4.3/2 に近い黄褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い  
2. 01YR3.3/3 暗褐色 シルト混じり中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒砂～細粒多い

第207図 289～303号土坑



**304号土坑**

1. 10YR4/4 褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～細粒多い
2. 10YR5/4 に近い黄褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～細粒多い
3. 10YR3/4 暗褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～細粒多い

**306号土坑**

1. 10YR4/3～3/4 に近い黄褐色～暗褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～細粒多い

**307号土坑**

1. 10YR4/3 に近い黄褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～細粒多い
2. 10YR4/4 褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～細粒多い
3. 10YR2/2～2/3 黒褐色～暗褐色 中～粗粒砂 炭を含む、風化花崗岩の粗粒粒砂～細粒多い
4. 10YR2/2～3/3 黒褐色～暗褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～細粒多い

**308号土坑**

1. 10YR2/1～2/2 黒～黒褐色 空層との境界は層状面
2. 10YR2/2～3/3 黒褐色～暗褐色 中～粗粒砂 炭を含む、風化花崗岩の粗粒粒砂～細粒多い

**309号土坑**

1. 10YR2/2～2/3 暗褐色 中～粗粒砂 炭を含む、風化花崗岩の粗粒粒砂～細粒多い
2. 10YR4/3～4/4 に近い黄褐色～褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～細粒多い
3. 10YR3/4 暗褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～細粒多い

**310号土坑**

1. 10YR4/3～4/4 に近い黄褐色～褐色 中～粗粒砂 風化花崗岩の粗粒粒砂～細粒多い

**311号土坑**

1. 10YR2/1 黒褐色 しまりやや密、粘性弱
2. 10YR5/4 に近い黄褐色 しまりやや密、粘性無 炭2%、φ20～50mmの近い黄褐色土15% 人為堆積
3. 10YR4/2 灰黄褐色 しまりやや密、粘性弱 人為堆積

**312号土坑**

1. 5YR5/6 明赤褐色粘土 しまりやや密、粘性無
2. 5YR4/6暗褐色粘土層と10YR2/1暗褐色粘土層との混合土 しまり密、粘性無
3. 7.5YR4/6暗褐色粘土質土と10YR3/1黒褐色粘土質土との混合土 しまり密、粘性無
4. 10YR5/3 に近い黄褐色粘土質土 しまり密、粘性無

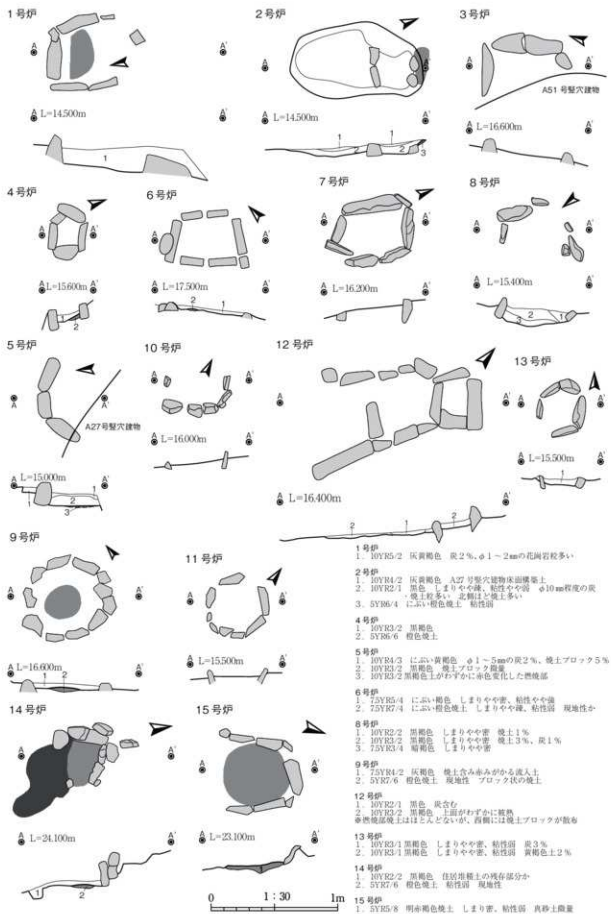
## 5 炉・焼土

(第1-209～211図、第2-111・112・310図、写真図版252～262・354・355・489)

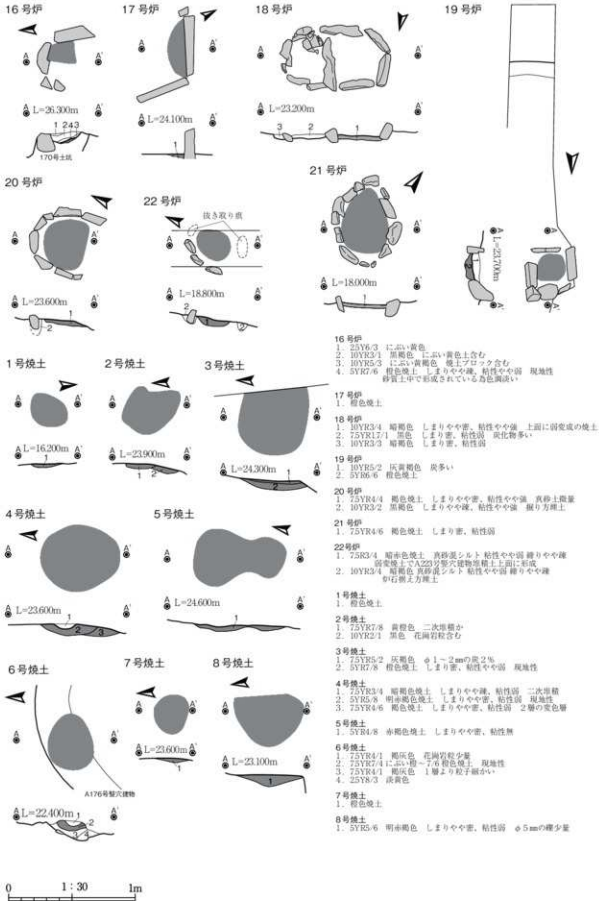
竪穴建物への帰属が不明なものとして石囲炉23基、焼土19基を登録した。規模・形状等は第7表の通りである。石囲炉は石が全周するもの、1箇所が開口するもの、複式炉と3型式に分類できる。構築方法は、掘り方を持たず炉石部分のみ掘り込んで構築するA型、土坑状の掘り方を持ち壁面又はやや内側に立て並べるB型、遺存状況が悪く不明なものをC型とした。年代は、縄文時代竪穴建物の掘り込み面より上位で検出した17号焼土を除いていずれも縄文時代に属すると考えられる。なお、後述する4号土器埋設遺構は炉の機能を持つが、今回は土器を使用する点を考慮して土器埋設遺構に分類した。

第7表 炉・焼土一覧

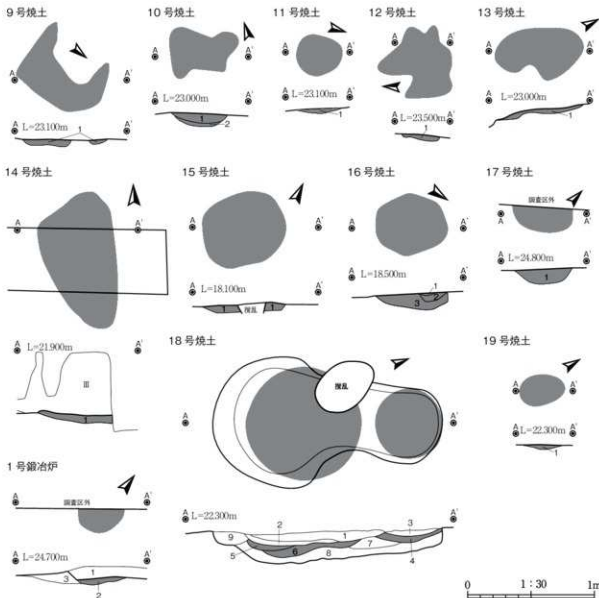
遺構名	グリッド	時代	種類	平面形	設置方法	規模 (cm) 平面	特徴	附属遺物	備考 (重要・右欄が新しい)
1号炉	E B16b	縄文	石囲炉	長方形	A	53×42	1		焼地層の熱変成層。(無し)
2号炉	E B16a	縄文	石囲炉	楕円形	B	107×60	2		前庭部有り。(A33号竪穴建物→C→A27号竪穴建物)
3号炉	E B14c	縄文	石囲炉	長方形	A	72×(43)	1		焼地層の熱変成層。(C→A51号竪穴建物)
4号炉	E B15a	縄文	石囲炉	方形	A	47×30	3	土器1000.4g	(C→A36号竪穴建物)
5号炉	E B15b	縄文	石囲炉	楕円形?	B	70×23	1.5	土器2337g	(C→A36号竪穴建物)
6号炉	E B13a	縄文	石囲炉	長方形	A	67×46	2		(45・57号土坑→C)
7号炉	E B14d	縄文	石囲炉	長方形	A	65×56	1	土器2185.8g (a1169)、石器951.1g	(A51号竪穴建物→C)
8号炉	E B15d	縄文	石囲炉	不明	B	68×(55)	1	土器632g (a1170)	(C→A29号竪穴建物)
9号炉	E B14d	縄文	石囲炉	円形	A	73×68	4		(A36号竪穴建物→C)
10号炉	E B15c	縄文	石囲炉	不明	A	52×(34)	1	石器(c1124)、石器673.4g	(A57号竪穴建物→C)
11号炉	E B15e	縄文	石囲炉	円形	A	53×51	1		(A57号竪穴建物→C)
12号炉	E B15e	縄文	複式炉	台形	A	134×85	1	土器1407.1g、石器6024.6g	(A35号竪穴建物→C)
13号炉	E B15d	縄文	石囲炉	方形	B	44×39	1	土器12561g (a1171)	(A53号竪穴建物→C)
14号炉	E B8e	縄文	石囲炉	方形?	B	(52)×(50)	3	石器2069.2g	遺存状況不良。(A108号竪穴建物→C)
15号炉	E B8b	縄文	石囲炉	台形	A	67×64	5	土器27.0g、石器1000.6g	A142号竪穴建物に伴うかか。(無し)
16号炉	E B8i	縄文	石囲炉	方形?	A	(52)×(46)	2	石器896.2g	(120号土坑→C)
17号炉	E B6a	縄文	石囲炉	不明	A	(75)×(41)	4		(A160号竪穴建物→C)
18号炉	E A8y	縄文	複式炉	楕円形	A	90×52	4	土器653.2g (a1172・1173)	(C→A125号竪穴建物)
19号炉	E B6a	縄文	石囲炉	方形	A	42×42	7		竪穴建物の中央。北側に可能性のある立ち上がり部あり。(A160号竪穴建物→C)
20号炉	E B6a	縄文	石囲炉	楕円形?	A	(62)×58	4	土器25.1g、石器3835.5g (c1255)	A160号竪穴建物に伴うかか。(無し)
21号炉	E A17a	縄文	石囲炉	楕円形	A	74×53	3		(無し)
22号炉	E A15e	縄文	石囲炉	楕円形?	A	50×(40)	6	土器(a1174)	(C→A223号竪穴建物)
23号炉	E A7c	縄文	石囲炉	円形	A	-	-	土器3340.9g	写真のみ掲載
1号焼土	E B14d	縄文	焼土	円形	-	29×24	3	土器313.2g	(無し)
2号焼土	E B8e	縄文	二次焼土?	不整形	-	40×38	4		(A108号竪穴建物→C)
3号焼土	E B7c	縄文	焼土	楕円形	-	53×(50)	8	土器323.9g	(無し)
4号焼土	E A6a	縄文	焼土	円形	-	62×41	9		(C→A155号竪穴建物)
5号焼土	E A5y	縄文	焼土	瓢形	-	72×44	4	土器12333.8g (a1175～1181) 石器193.5g	(無し)
6号焼土	E A9a	縄文	焼土	円形	-	44×36	8		(A163号竪穴建物→C)
7号焼土	E A7a	縄文	焼土	円形	-	30×27	4		(無し)
8号焼土	E B7a	縄文	焼土	楕円形	-	54×(30)	10		A146号竪穴建物に伴うかか。(無し)
9号焼土	E B7a	縄文	焼土	不整形	-	68×53	5		A146号竪穴建物に伴うかか。(C→A125号竪穴建物)
10号焼土	E B7a	縄文	焼土	不整形	-	52×40	11	土器52g	A146号竪穴建物に伴うかか。(A175号竪穴建物→C)
11号焼土	E A7y	縄文	焼土	円形	-	35×32	4		A146号竪穴建物に伴うかか。(A175号竪穴建物→C)
12号焼土	E A6y	縄文	焼土	不整形	-	58×56	4		(A160号竪穴建物→C)
13号焼土	E B8b	縄文	焼土	不整形	-	68×40	5	土器319.9g	(C→A142号竪穴建物)
14号焼土	E A9y	縄文	焼土	楕円形	-	108×60	6		(無し)
15号焼土	E A17e	縄文	焼土	円形	-	65×56	6	土器1210.6g	(無し)
16号焼土	E A16e	縄文	焼土	円形	-	58×56	13	土器209.3g	(無し)
17号焼土	E A8a	古代以降	焼土?	円形?	-	47×(19)	12		(無し)
18号焼土	E A10a	縄文	焼土	楕円形	B	183×104	9		掘り方有り。(C→A109号竪穴建物)
19号焼土	E A10a	縄文	焼土	楕円形	-	35×24	4		(C→A109号竪穴建物)
1号竪穴建物	E A6w	古代	竪穴炉	円形	-	36×(19)	5	土器162.4g (a2013)	(A135・130号竪穴建物→C→B16号竪穴建物)



第209図 1~15号炉



第210図 16~22号炉、1~8号焼土



9号焼土  
1. 5YR5-8 明赤褐色焼土 しまり密、粘性弱

10号焼土  
1. 5YR5-8 明赤褐色焼土 しまりやや密、粘性や中弱  
2. 7.5YR6-6 褐色焼土 しまりやや密、粘性弱 真砂土・炭微量

11号焼土  
1. 5YR5-8 明赤褐色焼土 しまりやや疎、粘性弱 真砂土微量、土器片含む

12号焼土  
1. 5YR6-6 褐色焼土

13号焼土  
1. 5YR5-8 明赤褐色焼土 しまりやや密、粘性弱

14号焼土  
1. 5YR6-6 褐色焼土 しまり密、粘性や中弱 現地性

15号焼土  
1. 7.5YR5-6 明褐色 しまりやや密、粘性弱

16号焼土  
1. 7.5YR2-3 暗褐色 しまり密、粘性強 炭2%  
2. 7.5YR3-3 暗褐色 しまり密、粘性無 炭5%  
3. 5YR6-6 褐色焼土

17号焼土  
1. 7.5YR5-6 明褐色焼土 しまり密、粘性無

18号焼土  
1. 7.5YR3-3 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 暗赤褐色焼土5%、炭10%、花崗岩粒1%

2. 5YR2-3 暗赤褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭2%、花崗岩粒1%

3. 5YR2-4 暗赤褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭2%、花崗岩粒1%

4. 5YR5-6 明赤褐色 しまりやや疎、粘性無 現地性

5. 5YR5-6 明赤褐色 しまりやや疎、粘性無 現地性

6. 5YR5-6 明赤褐色 しまりやや疎、粘性無 現地性

7. 7.5YR5-4 に近い褐色 しまりやや疎、粘性無 4層・6層からの焼熱による変色層

8. 10YR4-2 灰青褐色 しまりやや疎

9. 7.5YR3-4 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 暗赤褐色焼土5%、炭10%、花崗岩粒1%

19号焼土  
1. 5YR2-3 暗赤褐色 しまりやや疎、粘性無

1号鍛冶炉  
1. 10YR5-4 暗褐色 しまりやや疎、粘性弱 に近い暗褐色砂質土30%、炭・花崗岩粒各1%

2. 5YR6-6 褐色焼土 しまりやや疎、粘性無 現地性

3. 10YR3-3 暗褐色 しまりやや疎、粘性無 炭土粒10%

## 6 鉄生産関連炉

## 1号鍛冶炉(第1-211図、写真図版262・457)

北側が調査区外に延びるため全体形は不明であるが、円形プランの地床炉と考えられる。燃燒部焼土の上面は1cm程度浅くレンズ状に窪み、上面には炭化物が集中する。周辺に鉄滓が少量散布していた。出土遺物は縄文土器(a2613)のみであるが、周辺に鉄滓が少量散布していたことと他遺構との重複関係を考慮して古代に属する鍛冶炉と判断した。なお、焼土面直上から出土した炭化物の年代測定結果は縄文時代中期であるが、本遺構はA135・150号堅穴建物堆積土を掘り込んで構築されていることから、これらから混入した炭化物を採取・分析した可能性がある(第VI章第1節)。

## 7 溝

(第1-212～214図、第2-112・113・291・310・338・389・390図、写真図版263～266・355・356・480・489・502・529～532)

19条検出した。規模・形状は第8表の通りである。このうち5・11号溝と16・17号溝は同一の遺構の可能性がある。ここでは3・4号溝について記載する。

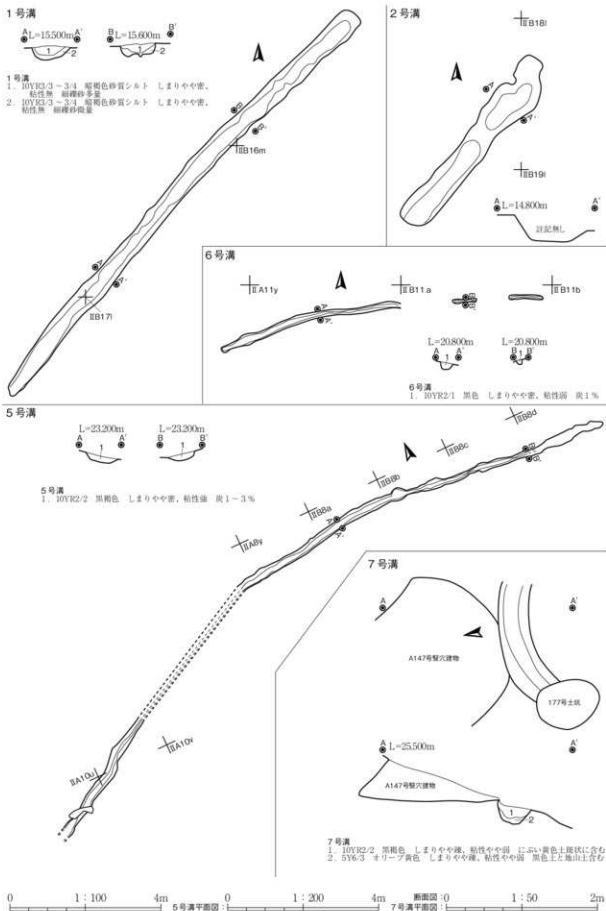
3・4号溝(第1-213図、第2-112・113・291・310・389・390図、写真図版263・264・355・356・480・489・529～532)

中段田区東側のIV層上面でぶい黄褐色土のL字状プランとして検出した。当初は1条の溝と考えていたが、断面観察の結果同一地点で2条の溝が重複していることを確認した。69号土坑と重複関係にあり、3・4号溝のほうが新しい。3号溝は4号溝堆積土中に掘削されており、調査区北東壁から直線的に南西方向に約17m延びるが、そこから南側では堆積土が確認されなくなる。断面形は、逆台形又は皿形である。堆積土は真砂土を多量に含むぶい黄褐色土が主体で、2層に分層した。遺物は土器が5.9176g、石器が31.4g、鉄生産関連遺物が3.6844g出土しており、縄文土器2点を掲

第8表 溝一覧

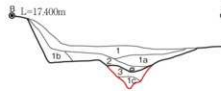
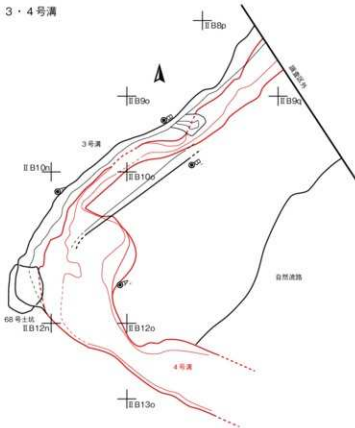
遺構名	グリッド名	時代	主軸方向	長(m)	幅 幅(m)	深さ(cm)	掲載遺物	備考 (重複・右欄が新しい)
1号溝	B105m-k	古代以降	N42°E	13.55	0.5	16~19		(無し)
2号溝	B108k	古代以降	N39°E	5.5	0.95	36	土器5917.6g(a1182-1183) 石器49.8g	(無し)
3号溝	B10p-13o	近世	N50~148°E	29.85	2.3~2.6	37~55	土器5917.6g(a1182-1183) 石器49.8g	(67-68号土坑→4号溝→O)
4号溝					1.4~6.1	30~72	土器43284.3g(a1184~1191) 石器2332.7g(c1046-1123)	(67-68号土坑→O→3号溝)
5号溝	B10a- B10d	古代	N57~94°E	(28.41)	0.35~0.6	7~9	土器4162.9g(a1192)・石器1.9g	11号溝と一連のもの、(A109-162号堅穴建物→O)
6号溝	B11w- B11a	古代以降	N70~91°E	(6.68)	0.08~0.31	5~9	土器1286.5g	(A157-161-174号堅穴建物→O)
7号溝	B191	縄文	N90°E	1.45	0.43	23		(A147号堅穴建物→O→177号土坑)
8号溝	B10d	縄文	N64°E	0.87	(0.12)	20		(O→190号土坑)
9号溝	B16a	縄文	N89°E	0.98	0.15	4	土器116.3g	堅穴建物の周縁か、(O→F0368)
10号溝	B13p-r	古代以降	N68°E	5.5	0.27~0.47	8		(無し)
11号溝	B11t-12r	古代	N34~76°E	20.75	0.2~1.3	10~38	土器1820g	5号溝と一連のもの、(A203-204号堅穴建物→O→B18号堅穴建物)
12号溝	B13o	縄文	N101°E	30.7	0.44	10	土器54.9g	(無し)
13号溝	B12v-15r	古代	N48°E	12.55	0.74~1.16	9~29	石器948.3g(c1265)	(O→A216号堅穴建物)
14号溝	B109c	縄文	N19°W	1.70	0.11	20		(無し)
15号溝	B17b	縄文	N66°E	0.66	0.21	11		(O→F0595-6096)
16号溝	B17b	縄文	N73°E	2.15	0.18	8		17号溝と一連のもの、(19号溝→O→284号土坑)
17号溝	B17a	縄文	N71°E	0.86	0.16	16		16号溝と一連のもの、(O→F0578)
18号溝	B17a	縄文	N72°E	0.88	0.13	6		(O→F0673)
19号溝	B17b	縄文	N17°W	(1.00)	0.11	26		(O→16号溝、F5363)

※規模欄の( )付は中間が途切れているものの残存部



第212図 1・2・5~7号溝

## 3・4号溝



## 3・4号溝B-B'

1. 10YR6/3 に近い黄褐色頁砂土。しまりやや疎、粘性弱  
0.5~1.0mmの風化花崗岩粒少量
- 1a. 1層に黒色土層じる
- 1b. 1層20粒子の細かい頁砂土
- 1c. 1a・b層の混合土
2. 10YR4/6 褐色砂質シルト。しまりやや疎、粘性やや弱  
頁砂土少量
3. 10YR3/2 暗褐色シルト。しまりやや疎、粘性やや強  
粒子の細かい頁砂土ブロック少量

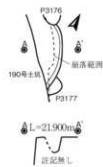
※ 1a・b・2層が3号溝, 1c・3層が4号溝埋積土

## 3・4号溝A-A'

1. 10YR6/3 に近い黄褐色砂礫シルト。しまりやや疎、粘性弱  
0.6mmの風化花崗岩主体
2. 10YR6/4 に近い黄褐色砂質シルト。しまりやや疎、粘性  
やや弱。頁砂土主体。黒色土ブロック少量
3. 10YR3/4 暗褐色シルト。しまりやや疎、粘性やや強
4. 10YR6/3 に近い黄褐色砂礫シルト。しまりやや疎、粘性弱  
0.30mmの風化花崗岩主体
5. 10YR8/2 灰白色シルト。しまりやや疎、粘性やや弱  
頁砂土埋積土
6. 10YR4/1 暗灰色シルト。しまりやや疎、粘性やや強  
頁砂土ブロック含
7. 10YR6/4 に近い黄褐色砂礫シルト。しまりやや疎、粘性やや  
弱。0.50mmの風化花崗岩主体

※ 1・2層が3号溝, 3層以下が4号溝埋積土

## B号溝



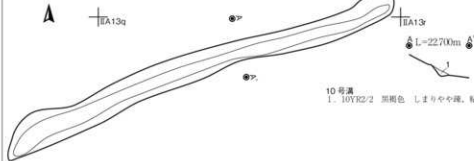
## 9号溝



## 9号溝

1. 10YR6/3 に近い黄褐色

## 10号溝



## 10号溝

1. 10YR2/2 黒褐色。しまりやや疎、粘性弱

## 12号溝



## 12号溝

1. 10YR4/3 に近い黄褐色砂質土。しまりやや疎、粘性弱

断面図: 0 1:50 2m

8~12号溝平面図: 0 1:200 4m

3・4号溝平面図: 0 1:200 4m



## 11号溝

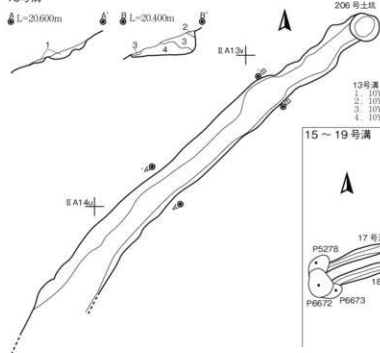
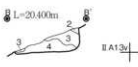
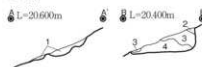


## 11号溝

1. 10YB2/2 黒褐色 しまりや中硬、粘性弱  $\phi$  5-10mmの礫 10%  
 2. 10YB3/2 黒褐色 しまりや中硬、粘性弱 有機物量 1-15%  
 3. 10YB4/2 灰黄褐色 しまりや中硬、粘性無 汎水保積



## 13号溝



## 13号溝

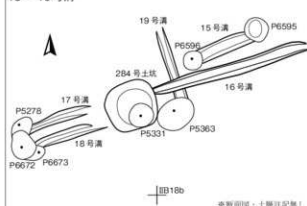
1. 10YB2/2 黒褐色真砂混シルトしまりや中硬、粘性やや弱  
 2. 10YB7/4 灰黄色真砂混シルトしまりや中硬、粘性やや弱  
 3. 10YB3/3 黒褐色真砂混シルトしまりや中硬、粘性やや弱  
 4. 10YB8/6 黄褐色真砂混シルト粘性やや弱 礫面崩落土

## 14号溝



※断面図・土層記載無し

## 15～19号溝



※断面図・土層記載無し

11・13号溝平面図: 0 1:100 4m 断面図・14～19号溝平面図: 0 1:50 2m

第214図 11・13～19号溝

載した (a1182・1183)。この他、動物遺存体が 3124 g 出土している (第VI章第4節)。

4号溝は、調査区北東壁から若干蛇行しながら南西方向に約 16 m 延び、II B 11n グリッド付近で南東方向に約 90° 角度を変え、10 m 程度延びて自然流路の上面で消滅する。上面幅は一定ではなく、直線部の狭い部分で 1.4m、屈曲部の広い部分で 6.1m である。断面形は直線部では逆三角形、屈曲部では逆台形である。堆積土にはぶい黄褐色土が主体で、5層に分層した。4号溝より真砂土の混入量は少ないが、屈曲部付近では大型の礫を多量に含む。遺物は3号溝と一括で取り上げたものを含むが、土器 45,284.3 g、石器 4,176.4 g、鉄生産関連遺物 172,934.5 g、金属製品が出土しており、縄文土器 8点 (a 1184～1191)、石器 1点 (c 1123)、金属製品 1点 (i 15)、鉄生産関連遺物 14点 (j 5・6・28～33・35～40) を掲載した。鉄滓のうち2点は成分分析を行っている (第VI章第8節)。

両遺構は、出土遺物からいずれも近世あるいはそれ以降に掘削された溝と考えられる。性格は周辺で明確な遺構は確認されていないが、鉄生産関連遺物を多量に含むことから鉄生産関連炉に伴う廃棄施設として掘削された可能性がある。

## 8 配石遺構

### 1号配石遺構 (第1-215図、第2-113図、写真図版 267・355)

II B 15 d グリッドで検出した。検出面はII層中で、東西 3.5 m、南北 2.5 m の範囲内に直線的に並ぶ石列を確認した。A 19・237・238号堅穴建物と同じく堅穴内の石列の可能性も考えたが、明瞭なプランが確認できなかったことから配石遺構として登録した。A 35・62号堅穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが新しい。一部の石は失われているが、北東-南西方向及び北西-南東方向に石が並んでおり、本来は井桁状の配置であったと考えられる。使用された石材は頁岩及び花崗岩であり、全て自然礫で石器の転用品は無い。また、石を設置する際の掘り込みは確認できなかった。遺物は周辺から縄文土器が 1,950.2 g 出土しており、このうち1点を掲載した (a 1193)。他遺構との重複関係と出土遺物から縄文時代中期に構築されたものと考えられる。

## 9 土器埋設遺構

明確に堅穴建物に伴うと判断される埋設土器を除き、7基を検出した。

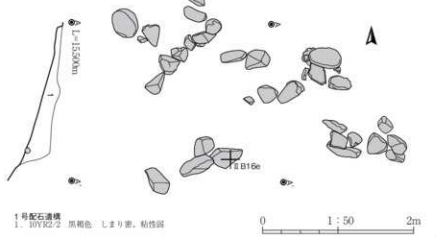
### 1号土器埋設遺構 (第1-215図、第2-113図、写真図版 267・356)

II B 15 j グリッドに位置する。A 53号堅穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが新しい。A 53号堅穴建物堆積土及び床面を若干掘り込んで深鉢を逆位に設置している。意図的なものかは不明であるが、底部は欠損している。内部にはA 53号堅穴建物堆積土と同じ暗褐色土が堆積していた。土器 (a 1194) は大木9式新段階のものであり、縄文時代中期後葉に設置されたと考えられる。

### 2号土器埋設遺構 (第1-215図、第2-113図、写真図版 267・356)

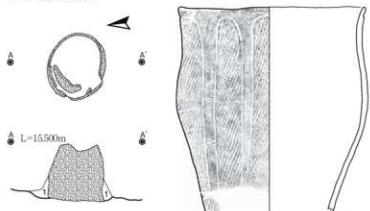
II B 5a グリッドに位置する。A 182号堅穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが新しい。A 182号堅穴建物の堆積土を土器の直径より約3倍の広さで掘り込み、内部に暗褐色土を充填してその上位に深鉢を逆位に設置している。意図的なものかは不明であるが、底部は欠損している。内部には黒褐色土が堆積していた。土器 (a 1195) は大木8a式新段階のものであり、縄文時代中期中葉に設置されたと考えられる。

1号配石遺構



1号配石遺構  
1. 10YR2/2 黒褐色、Lまり密、粘性弱

1号土器埋設遺構

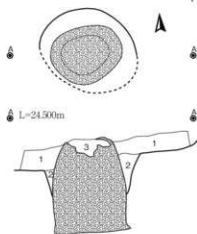


1号土器埋設遺構  
1. 10YR3/3 黒褐色、Lまり密、粘性無 灰・花崗岩粒各3%  
※AS3号型欠底物B断面3層L対応

2号土器埋設遺構



3号土器埋設遺構



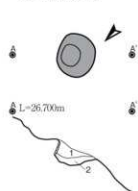
2号土器埋設遺構  
1. 10YR2/3 黒褐色、Lまり疎、粘性弱  
2. 10YR3/3 黒褐色、Lまり密、粘性無 白色粒全体に含む

3号土器埋設遺構  
1. 10YR2/3 黒褐色、Lまり密、粘性弱 白色粒子全体に含む  
2. 10YR2/3 黒褐色、Lまり密、粘性弱 φ30-50mmの礫含む  
3. 10YR2/2 黒褐色、Lまり疎、粘性弱

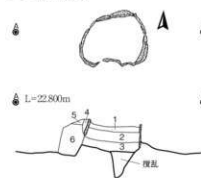
0 1:20 1m 土器 1/6, ○は 1/8

第215図 1号配石遺構、1~3号土器埋設遺構

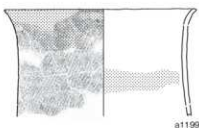
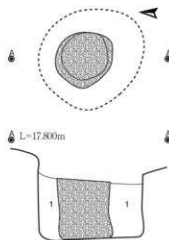
## 4号土器埋設遺構



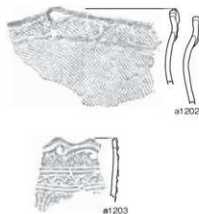
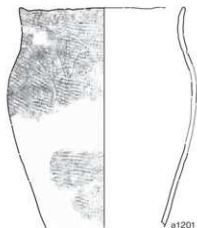
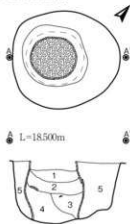
## 5号土器埋設遺構



## 6号土器埋設遺構



## 7号土器埋設遺構



## 7号土器埋設遺構

1. 10YR7/4 土赤・黄褐色真砂質シルト 粘性やや弱
2. 10YR6/4 土赤・黄褐色真砂質シルト 粘性やや弱  $\phi$  5mmの炭1%
3. 10YR8/4 浅黄褐色真砂質シルト 粘性やや弱
4. 10YR6/4 土赤・黄褐色真砂質シルト 粘性やや弱  $\phi$  5mmの炭2% 2層と類似
5. 10Y2R/6 明黄褐色真砂質シルト しまりやや密、粘性やや弱 張り方弱上

## 4号土器埋設遺構

1. 10YR17/1 灰色 しまりやや密、粘性強 炭化物弱
2. 2.5YR5/8 明赤褐色 しまりやや疎、粘性弱 真砂土の被熱層

## 5号土器埋設遺構

1. 10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性弱 炭15%
2. 10YR1/6 黒色粘土 しまりやや密、粘性強
3. 10YR2/3 黒褐色 しまりやや疎、粘性弱 花崗岩粒1%
4. 10YR4/6 褐色粘土 しまり密、粘性強
5. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、粘性無 炭5%
6. 10YR3/3 暗褐色 しまりやや密、粘性無

## 6号土器埋設遺構

1. 10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎 土器外部の土色

土器 1/6 0 1:20 1m

第216図 4～7号土器埋設遺構

### 3号土器埋設遺構

(第1-215図、第2-113・254・279・360図、写真図版267・356・463・476・511)

ⅡB 5a グリッドに位置する。A 182号堅穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが新しい。A 182号堅穴建物堆積土及びⅣ層を土器の直径より少し広く掘り込み、深鉢を逆位に設置している。意図的なものかは不明であるが、底部は欠損している。内部にはⅡ層由来の黒褐色土が堆積しており、石鏃と異形石器、三角埴形石製品が各1点出土している(c 52・378、d 28)。土器(a 1196)は大木8a式新段階のものであり、縄文時代中期中葉に設置されたと考えられる。

### 4号土器埋設遺構 (第1-216図、第2-114図、写真図版268・355)

ⅡB 7 f グリッドに位置する。214号土坑の西側に位置するが、直接的な新旧関係は無い。Ⅳ層を土坑状に掘り込み、壁面に深鉢の破片を並べて内部で燃焼行為を行っている。掘り込みの底面は赤褐色に変色しており、被熱深度は約4cmである。内部には炭化物層である黒色土が堆積していた。土器(a 1197)は大木8式のものであり、縄文時代中期中葉に設置された屋外炉と考えられる。

### 5号土器埋設遺構 (第1-216図、第2-114図、写真図版268・356)

ⅡA 9 w グリッドに位置する。他遺構との重複関係は無い。Ⅱ層中で検出しているが、検出時に土器の大部分が露出している。土器の外側に充填土と考えられる暗褐色土(6層)が確認されたことから、掘り込みがあったと考えられる。使用された土器は深鉢で、口縁部側を逆位にして設置しているが、口縁部・底部ともに欠損している。内部には黒褐色土と褐色粘土が互層に堆積していた。土器(a 1198)は地文のみで詳細な時期は不明であるが、縄文時代中期に設置されたと考えられる。

### 6号土器埋設遺構 (第1-216図、第2-114図、写真図版268・356・357)

ⅡA 17 r グリッドに位置する。他遺構との重複関係は無い。Ⅱ層を土器の直径の約2倍の広さで掘り込み、深鉢2個体を入れ子にして逆位に設置している。意図的なものかは不明であるが、底部は2個体とも欠損している。掘り方内には黒褐色土を充填しており、内部にはⅡ層由来の黒褐色土が堆積している。土器(a 1199・1200)は2個体とも地文のみであるが、器形の特徴から大木8式と考えられ、縄文時代中期中葉に設置されたと考えられる。

### 7号土器埋設遺構 (第1-216図、第2-114図、写真図版268・357)

ⅡA 17 r グリッドに位置する。他遺構との重複関係は無い。Ⅳ層を土器の直径の約2倍の広さで掘り込み、深鉢を逆位にして設置している。意図的なものかは不明であるが、底部は欠損している。掘り方内にはⅣ層由来の黄褐色土が充填され、内部にはⅢ～Ⅳ層由来のふい黄橙色土が主体となって堆積していた。埋設土器(a 1201)は地文のみであるが、内部から出土した土器が大木8a式であることから、縄文時代中期中葉に設置されたと考えられる。

## 10 遺物包含層

遺物は調査区全域で出土しているが、特にまとまって出土した2箇所を遺物包含層とみなした。

### ⅡB 4・5a・b 遺物包含層

(第1-12・217・218図、第2-116～138・185・241・255・256・263・271～273・277・279・281・

287・315・316・345～347・359・361・369・375・377・379・384、写真図版 270～272・358～375・463・467・471・472・474～476・478・492・503～505・510・511・516・520・521・523・526)

II B 5 b グリッドを中心に、表土直下で遺物を多量に含む黒～黒褐色土の広がりとして確認した。本遺構の南側では黒褐色土中で遺構（竪穴建物）重複が多数確認されており、本遺構も当初は周辺の状況と同じく遺構（竪穴建物）が複数重複している可能性を考慮してベルトを4本設定して掘り下げ断面観察を行ったところ、この範囲の中央は窪んでおり遺物を含む土層は斜面上方からその窪地に流れ込んだ洪水堆積層であることを確認した。また、遺構は A 181 号竪穴建物が本遺構に壊されているほかは堆積土中では遺構は確認できなかったことから、遺構の重複ではなく窪地を中心とした範囲に形成された遺物包含層であると判断した。北西側が調査区外へ至るため全容は不明であるが、検出範囲は南北 6.3 m、東西 4.5 m である。深さは最も深い SPNo.B3 付近で約 1.1 m であり、この地点を中心として東西方向に楕円状に土層が堆積していた。

堆積土は、大きく8層に分層した。このうち5層は無遺物層でⅢ層に相当し、8層は柱状の窪地に流れ込んだ二次堆積の焼土であることから、包含層としての堆積土は1～4・6・7層の6層となる。なお、1～4層についてはさらに混和物により細分している。いずれも自然堆積であり、最初に4層が北東方向から流れ込み、その後3・6・7層が北西方向から流れ込んで窪地を形成する。その窪地に最も堆積の厚い2層が複数回流れ込むことで窪地がほとんど埋まり、最終的に古代以降の旧表土と考えられる1層が被覆して包含層が形成されていることが判明した。

遺物の大半は2層からの出土であり、次いで1層からの出土が多い。下位層にあたる3・4・6・7層からの出土量は少ない。旧表土である1層からは土師器片や鉄生産関連遺物等古代以降の遺物も含まれるが、2層以下は縄文時代前～中期の遺物のみとなる。前述の通り自然に堆積した包含層であり、各層の遺物は時期が混在している。種別は土器が主体で、1,067,097.2 g 出土しており、縄文土器 180 点を掲載した (a 1249～1424・1968・1970、r 49)。大木 5～9 式古段階のものが出土しているが、半数以上は大木 8 a 式である。次いで後続する大木 8 b 式が多いが、一方で先行する大木 7 b 式は明確なものは出土していない。その他、石器・石製品 78,158.6 g、土製品 469.2 g、鉄生産関連遺物 154.7 g が出土しており、石器 36 点、石製品 4 点、土製品 3 点、台形土器 1 点、土器片円盤 1 点を掲載した (c 80～88・245・311・324・332・367・368・379・384・385・1026・1140～1143・1298～1311、d 23・37・85・86、e 42・108・109、f 8、g 81)。

本遺構は旧表土（1層）に古代以降の遺物を含むが、2層以下は縄文時代前～中期後葉の遺物しか出土しないことから、縄文時代中期後葉以降に堆積を開始したと考えられる。斜面上方からの流れ込みによる自然堆積であり、人為的に形成された捨て場ではない。

#### 中央調査区南西遺物包含層

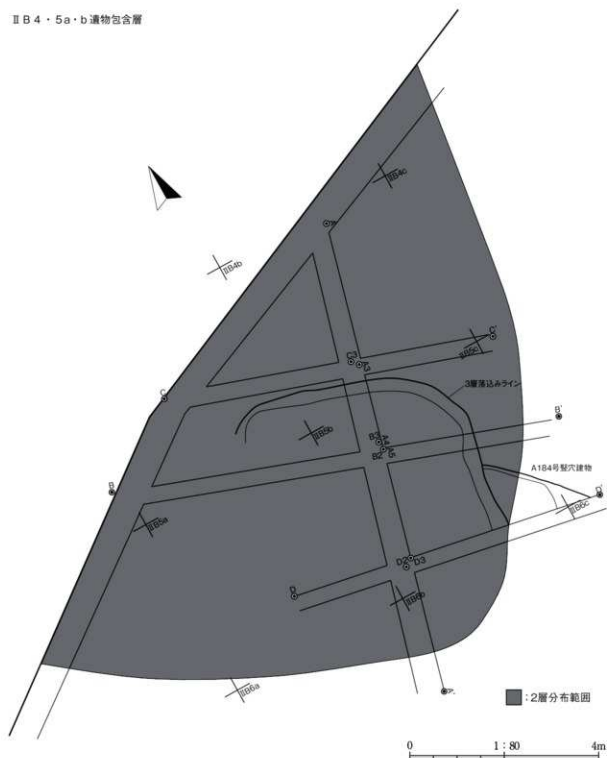
(第 1-12・218 図、第 2-138～140・233・234・236・237・240・242・274・288～290・357・361・362・378・382、写真図版 272・375・376・453～456・459・460・473・479・480・508・509・511・512・522・525)

中央緩斜面裾部から南西に広がる旧沢跡内、II A 16 t・17 s・t・18 t グリッドの範囲内に位置する。この一帯は調査時には湿地状となっており土色がはっきりしなかった為、層位確認の為に試掘トレンチ中央南 T 1～4 設定して掘り下げたところ、遺物が集中する黒褐色土を確認した。その為、T 1～4 を拡張して平面の範囲を、また、T 2～4 の中に 5 本のトレンチ (T 5～9) を設定して深さの確認を行った。その結果、T 2・3 を中心に東西約 12 m、南北約 8 m の範囲で広がる遺物包含層であり、

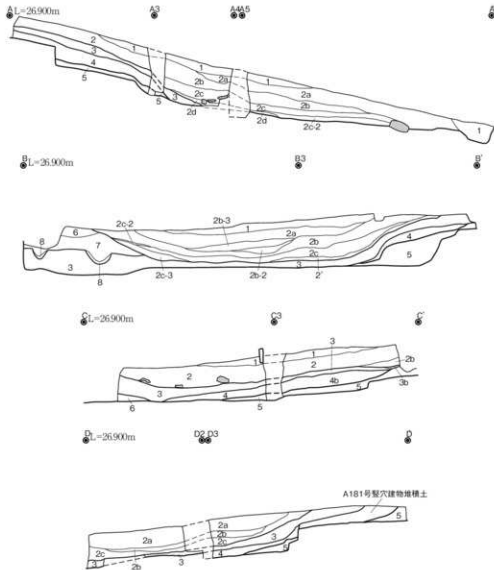
深さは最も深い南側で約1.0 mであることを確認した。なお、後述する遺物出土層である1～6層上位までの層厚は0.7 m前後である。

堆積土は斜面上方から流れ込んだⅡ～Ⅲ層由来の黒褐色土・暗褐色土が主体で、地山面を含め8層に分層した。上位層である1～3層までに遺物が多量に含まれるが、4～6層上位では疎らになり、6層下位以下では出土していない。なお、1・2層上面では十和田中振火山灰と考えられる灰白色の火山灰が散布していた。

#### ⅡB4・5a・b 遺物包含層



第217図 遺物包含層(1)

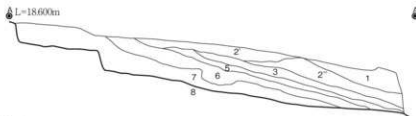


ⅡB4・5a・b遺物包含層 (A-A'・B-B'・C-C'・D-D')

1. 10YR2/1 黒色 しまりや中硬、粘性無 高砂土少 土器多量  
 2a. 10YR2/2 黒褐色 しまりや中硬、粘性無 高砂土少量、土器非常に多量  
 下に炭化物・灰土ブロックの集積有  
 2b. 10YR3/2 黒褐色 しまりや中硬、粘性無 高砂土少量、土器多量  
 2b-3. 10YR2/1 黒色 しまりや中硬、粘性弱 真砂土少量 灰少量  
 2c. 10YR3/3 黒褐色 しまりや中硬、粘性無 土器多量  
 2c-2. 10YR2/1 黒色 しまりや中硬、粘性弱  
 2d. 10YR2/3 黒褐色 しまり密、粘性弱 高砂土多量 土器含む  
 2' . 10YR3/4 濃い黄褐色砂 しまりや中硬、粘性無 遺物少量

- 3' . 10YR3/3 黒褐色 しまりや中硬、粘性や中強 断面図には無い  
 3. 10YR3/4 黒褐色 しまり密、粘性無  
 3' . 10YR3/3 黒褐色 しまり密、粘性無  
 4. 10YR3/2 黒褐色 しまり密、粘性や中弱  
 4' . 10YR3/3 黒褐色 しまり密、粘性無  
 5. 10YR4/2 灰黄褐色 しまり密、粘性無 無遺物層 基本層序互層に相当  
 6. 10YR3/2 黒褐色 しまりや中硬、粘性弱 褐色砂混状 真砂土少量  
 7. 10YR2/2 黒褐色 しまりや中硬、粘性弱 下に土層区に分布  
 8. 7.5YR3/2 黒褐色 しまりや中硬、粘性やや 二次堆積灰土含む

中央調査区南西遺物包含層



中央調査区南西遺物包含層 (A-A')

1. 10YR2/2 黒褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中弱 遺物多量  
 2'. 10YR3/3 暗褐色真砂混シルト 粘性や中弱 遺物多量  
 2' . 10YR3/4 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬、粘性や中弱 遺物多量  
 3. 10YR3/2 暗褐色真砂混シルト 粘性や中弱 シミ状混入 遺物多量  
 4. 10YR3/4 濃い黄褐色砂質シルト しまりや中硬、粘性や中弱 断面図には無い  
 5. 10YR3/3 暗褐色真砂混シルト 粘性や中弱  
 6. 7.5YR3/2 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬 地山崩落土 下位には遺物含まない  
 7. 7.5YR2/2 暗褐色真砂混シルト しまりや中硬 地山崩落土 遺物無し  
 8. 7.5YR6/6 橙色真砂土 基本層序互層に相当する地山

0 1 : 80 4m

第218図 遺物包含層 (2)



遺物の取り上げは本遺構名の他に各トレンチ名でも行っており、観察表の「中央調査区南西 T5 T5～6間、T5～8間、T8～9間」及び「湿地エリアT2」は本遺構内に含まれる。遺物は縄文時代前～中期のもののみで、斜面上方から流れ込んだものであるため各層の遺物は時期が混在している。土器は116.357.7 g出土しており、34点掲載した（a 1425～1443・2556～2565・2584～2593・2599、r 43・44・50）。大木3～9式古段階のものが出土しているが、前期に属する大木3・4・6式が比較的多く出土している。この他、石器・石製品が37.627.1 g、土製品が348.7 g出土しており、石器12点、石製品2点、土製品2点、土器片円盤1点を掲載した（c 335・336・1035～1038・1043・1360～1364、d 33・49、e 140・141、g 63）。

本遺構は、出土土器のうち最も新しいものは大木9式であることから縄文時代中期後葉に堆積した遺物包含層と考えられる。斜面上方からの流れ込みによる自然堆積であり、人為的に形成された捨て場ではない。なお、本遺構はA 221号堅穴建物（中期中～後葉）の南端部を被覆し、A 220号堅穴建物（中期後葉）にわずかに切られていることから（第1-105図断面D）、中期後葉になり比較的短期間で形成された遺物包含層と考えられる。

## 11 整地

3箇所（切土2箇所、盛土1箇所）検出した。いずれも古代以降の造成と考えられる。

### 1・2号切土整地（第1-219図、写真図版264）

比較的斜面の傾斜が強い地点で検出されたことから、傾斜を緩やかにする目的で行われた整地と考えられる。1号切土整地は、II A 14 o グリッドに位置する。他遺構との重複関係は無い。IV層を斜面に直交するように東西方向に掘り込んでおり、残存範囲は7.5 m × 2.1 mである。周辺地形より遺物は土器が337.4 g出土しているが、いずれも細片であり図示していない。2号切土整地は、II A 12t～13u グリッドに位置する。B 19・20号堅穴建物と重複関係にあり、本遺構のほうが新しい。IV層を斜面に直交するように北東-南西方向に掘り込んでおり、残存範囲は5.8 × 5.5 mである。遺物は出土していない。

### 1号盛土整地（第1-219図、第2-382図、写真図版262・525）

II A 16 j グリッドに位置する。他遺構との重複関係は無い。北西-南東方向に長い楕円形プランで、本遺構の位置する一帯は湿地状になっていることから、湿地を埋めるための盛土と考えられる。規模は5.8 × 3.5 mで北西側は調査区外へと至る。黒褐色粘土と明黄褐色土の混合土を用いており、検出面から0.4 m以上盛られているが、それより下位は湧水が激しく計測できなかった。遺物は土器が1.616.1 g出土しており、土器片円盤1点を掲載した（g 62）。

## 12 性格不明遺構

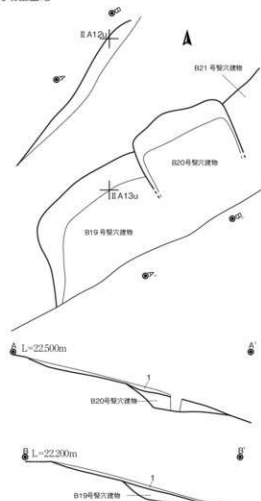
### 1号性格不明遺構（第1-219図、写真図版269）

I B 11 o グリッドに位置する。検出面はIV層で、黒褐色土の扇形プランとして検出した。他遺構との重複関係は無い。東部は崩落、北部は調査区外に延びているため全体形は不明である。確認された規模は4.2 × 2.1 m、深さは約50 cmである。全体が堅穴状の掘り込みとなっており、内部の壁直下には幅60～90 cm、深さ20～25 cmの周溝状の溝を持つ。さらに内側にもこれに並走する溝が多重に巡

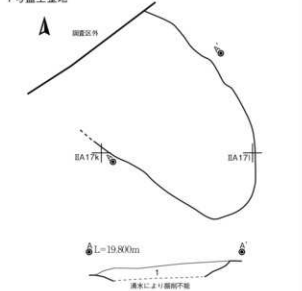
1号切土整地



2号切土整地



1号盛土整地



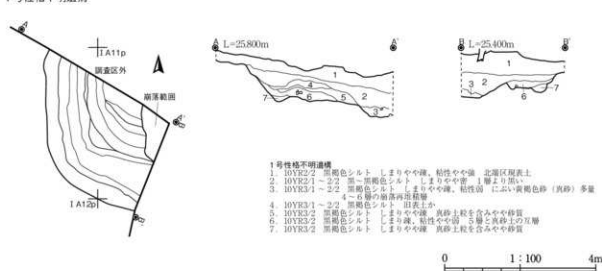
1号盛土整地

1. 10YR3/1 黒褐色粘土と 10YR6/6 明黄褐色の混成土。しまり密、粘性弱

2号切土整地

1. 10YR3/4 暗褐色。しまりやや密、粘性無。花崗岩粒5%。泥炭層

1号性格不明遺構



1号性格不明遺構

1. 10YR2/2 黒褐色シルト。しまりやや疎、粘性やや強。北層区埋土。
2. 10YR2/1 ~ 2/2 黒~明褐色シルト。しまりやや密。土層より深い。
3. 10YR3/1 ~ 2/2 黒褐色シルト。しまりやや疎、粘性弱。にぶい黄褐色砂(真砂)多量。
4. 10YR3/1 ~ 2/2 暗褐色シルト。地表土か。
5. 10YR3/2 黒褐色シルト。しまりやや疎。真砂土粒を含むやや砂質。
6. 10YR3/2 黒褐色シルト。しまり疎、粘性やや弱。5層と真砂土の互層。
7. 10YR3/2 黒褐色シルト。しまりやや疎。真砂土粒を含むやや砂質。

0 1:100 4m

第219図 1・2号切土整地、1号盛土整地、1号性格不明遺構

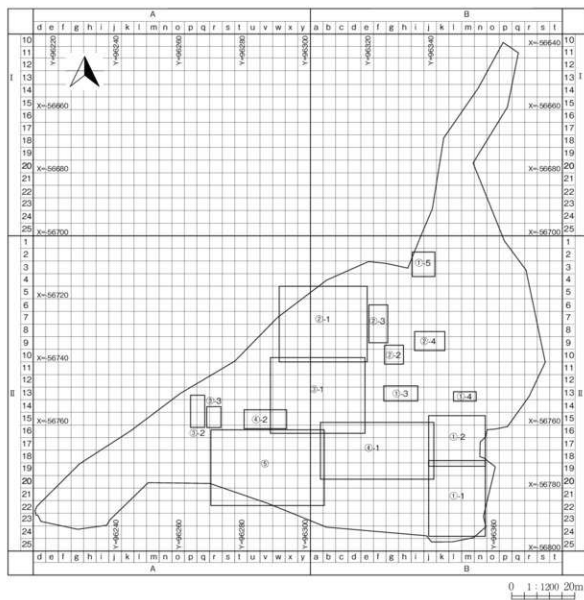
ており、底面は凹凸が目立つ。堆積土は現土を含め7層に分層した。斜面上方から流れ込んだ自然堆積であり、真砂土を含む黒褐色土が主体である。出土遺物は無く、年代は不明である。

## 13 柱 穴

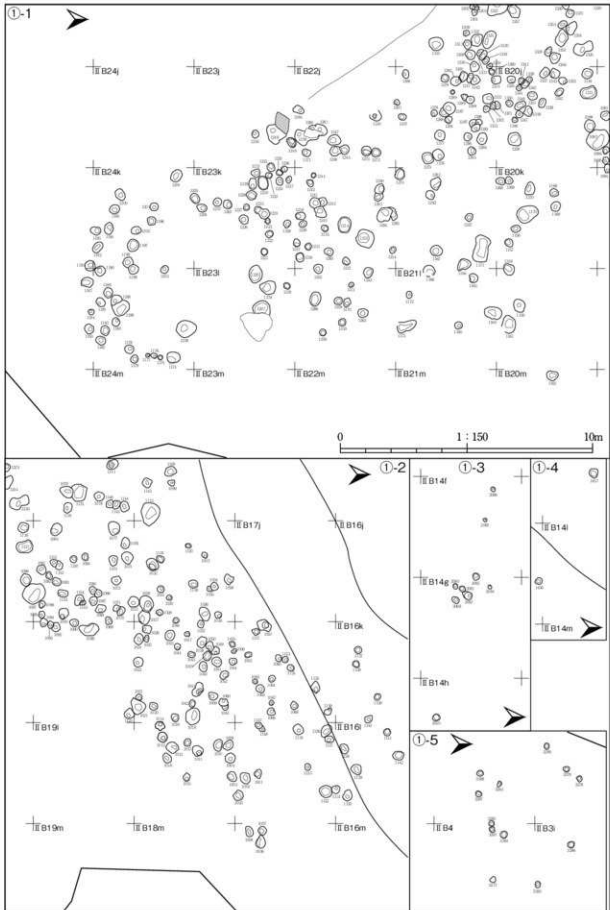
(第1-220～225図、第2-114～116・239・250・258・286・310・311・339・340・359・362図、写真図版357・358・461・465・478・489～491・501・502・510・512)

2805個を柱穴として登録したが、木の根による疑似柱穴も含んでいると考えられる。なお、調査中に遺構内柱穴として登録したものの他に、図面整理によって481個を遺構内柱穴として認定した。地点・遺構の帰属等は第9表の通りである。なお、P 5001以降の柱穴については調査期間の制約もあり下端図面の作成を行わず、最下点のみ記録したものがほとんどである。

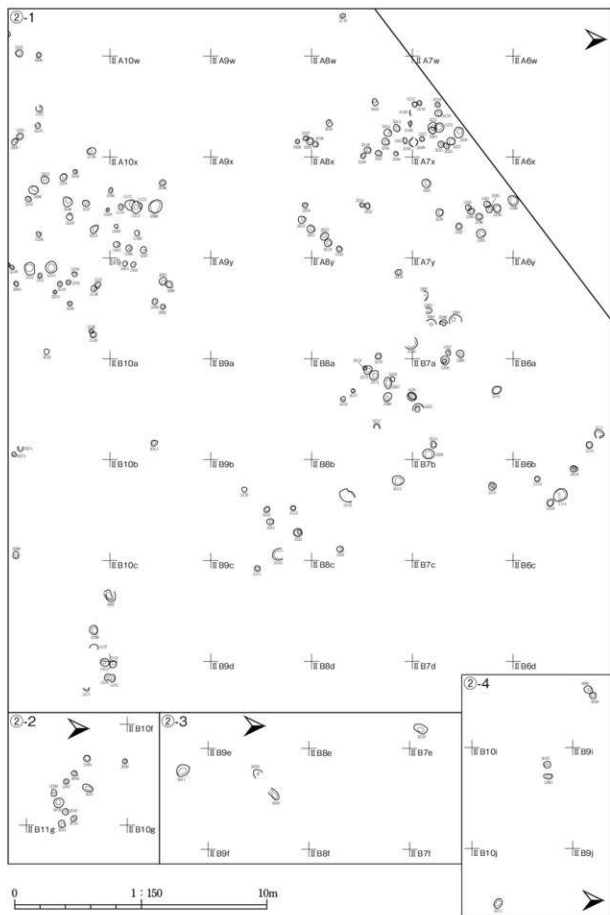
(村田)



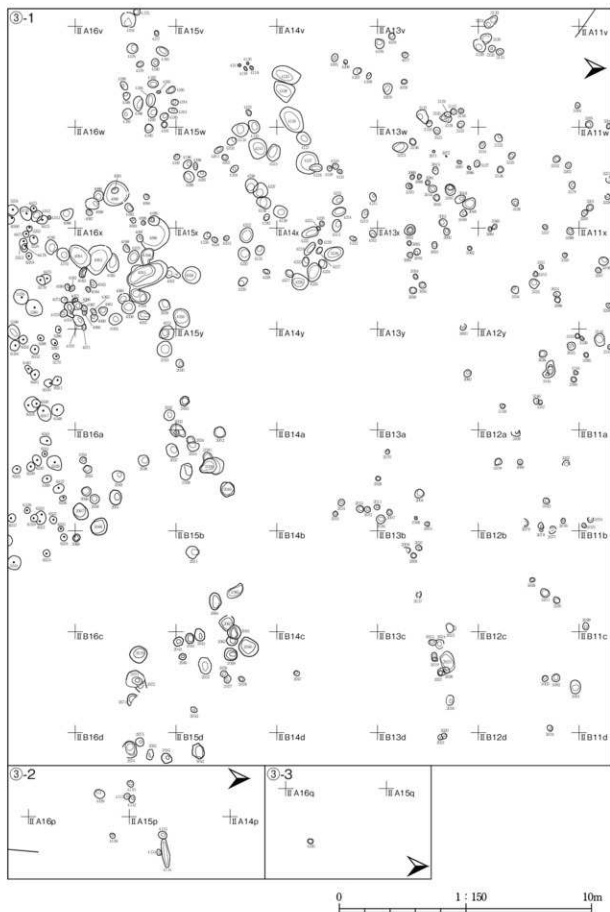
第220図 柱穴分布位置図



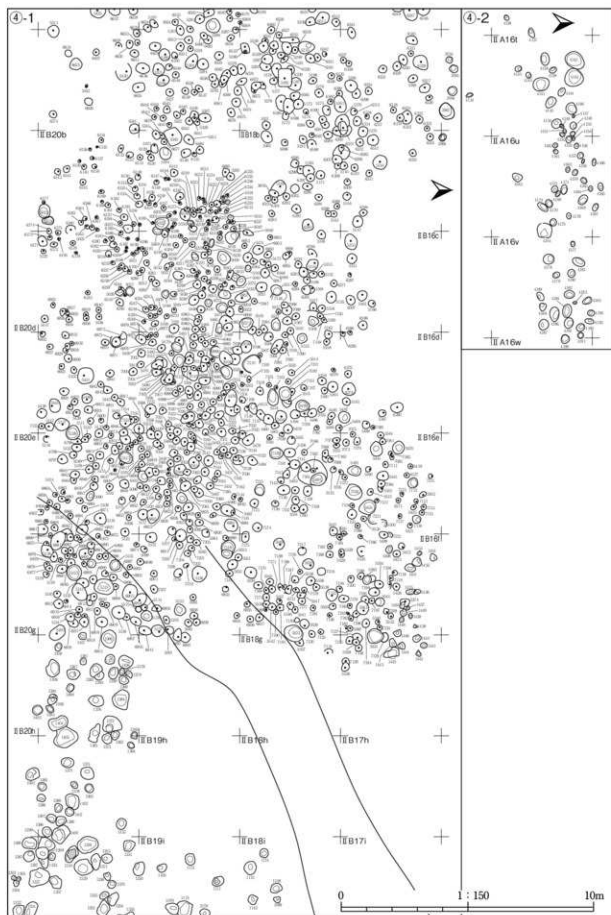
第221図 柱穴分布図(1)



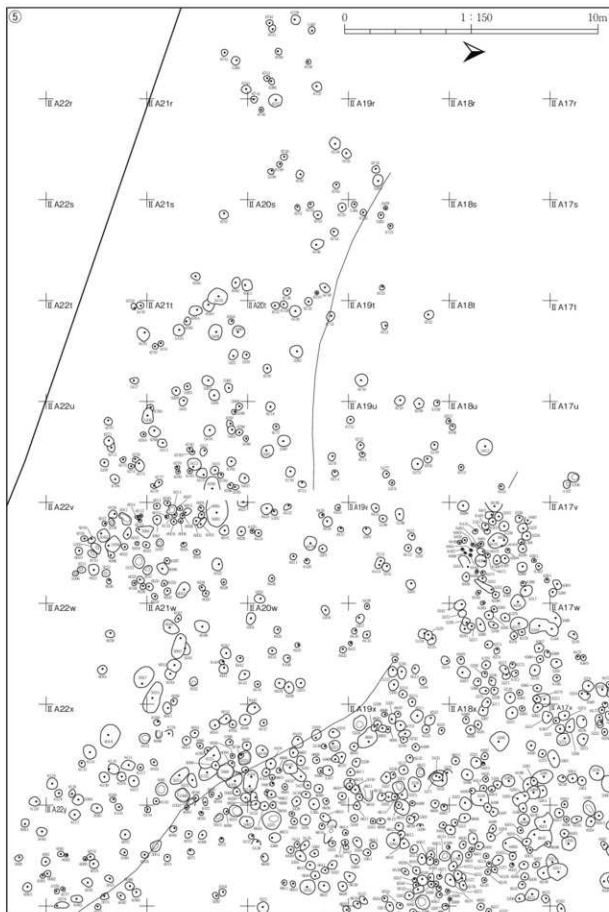
第 222 图 柱穴分布图 (2)



第223図 柱穴分布図(3)



第224图 柱穴分布图(4)



第225図 柱穴分布図(5)

















No.	グリッド	遺構 No.	種類	遺構名(遺構数, 遺長等)	No.	グリッド	遺構 No.	種類	遺構名(遺構数, 遺長等)	No.	グリッド	遺構 No.	種類	遺構名(遺構数, 遺長等)
P630	E A17c	114			P640	E A19c	206			P676	E A17a	686		
P630	E A17c	82			P640	E A19c	182			P676	E B16a	640	A200	伊勢湾岸防
P636	E A17c	214			P640	E A19c	274			P676	E B16a	674		
P637	E A17c	100			P640	E A19c	126			P676	E B16a	206		
P638	E A17c	138			P640	E A17c	208			P676	E B16a	306		
P639	E A17c	686			P640	E A17c	198			P676	E B17a	284		
P639	E A19c	180			P640	E A17c	308			P676	E B17a	182		
P639	E A17c	60			P640	E A17c	434			P676	E B17a	680		
P639	E A17c	168			P640	E A17c	384			P676	E B17a	660		
P639	E A17c	132			P640	E A17c	360	A2	伊勢湾岸防	P676	E B17c	222		
P639	E A17c	114			P640	E A17c	112			P676	E B17c	182		
P639	E A17c	276			P640	E A17c	360	A2	伊勢湾岸防	P676	E B17c	178		
P636	E A17c	188			P640	E A17c	120			P676	E B17c	180		
P637	E A17c	204			P640	E A17c	360			P676	E B17c	138		
P638	E A17c	124			P640	E A17c	200			P676	E B17c	102		
P639	E A17c	200			P640	E A17c	508	A2	伊勢湾岸防	P676	E B17c	258		
P640	E A17c	228			P640	E A17c	604			P676	E B17c	92		
P641	E A17c	214			P640	E A17c	192			P676	E B17c	544		
P642	E A17c	288			P640	E A17c	276			P676	E B17c	314		
P643	E A17c	144			P640	E A17c	216			P676	E B17c	138		
P643	E A17c	204			P640	E A17c	516			P676	E B17c	140		
P645	E A17c	420			P640	E A17c	254			P676	E A17c	214		
P648	E A17c	144			P640	E A17c	182			P676	E A17c	78		
P648	E A17c	162			P640	E A17c	256			P676	E A17c	106		
P648	E A17c	270			P640	E A17c	308			P676	E A17c	206		
P649	E A17c	134			P640	E A17c	126			P676	E A17c	140		
P649	E A17c	360			P640	E A17c	618			P676	E A17c	290		
P641	E A19c	258			P640	E A17c	618			P676	E A17c	130		
P642	E A19c	138			P640	E A17c	892			P676	E A17c	140		
P643	E A19c	234			P640	E A17c	48	A2	伊勢湾岸防	P676	E A17c	144		
P643	E A19c	312			P642	E A17c	674			P676	E A17c	114		
P643	E A19c	362			P642	E A19c	60			P676	E A17c	188	A200	伊勢湾岸防
P643	E A19c	422			P642	E A19c	630			P676	E A19c	242		
P643	E A19c	618			P642	E A19c	234			P676	E A19c	284		
P649	E A19c	630			P646	E A17c	116			P676	E A19c	608		
P649	E A19c	624			P647	E A17c	304			P676	E A19c	670	A200	伊勢湾岸防
P649	E A19c	234			P648	E A17c	48			P676	E A19c	180		
P649	E A19c	202			P649	E A17c	316			P676	E A19c	510		
P649	E A19c	334			P649	E A17c	150			P676	E A19c	182		
P649	E A19c	366			P649	E A19c	61			P676	E A19c	134		
P649	E A19c	144			P649	E A19c	430			P676	E A19c	236		
P649	E A19c	176			P649	E A19c	62	A2	伊勢湾岸防	P676	E A19c	198		
P647	E A19c	168			P649	E A19c	196			P676	E A19c	616	A200	伊勢湾岸防
P648	E A19c	236			P649	E A19c	614			P676	E A19c	514		
P649	E A19c	314			P649	E B17a	188			P676	E A17c	678		
P649	E A19c	362			P649	E B17a	132			P676	E B17c	128	A200	伊勢湾岸防
P643	E A19c	128			P649	E B17a	316			P676	E B19c	-		
P642	E A19c	132			P649	E B17a	206			P676	E B19c	-		
P643	E A19c	52			P649	E B17a	210			P676	E B19c	-		
P643	E A19c	364			P649	E B17a	192			P676	E B19c	-		
P645	E A19c	312			P649	E B17a	310			P676	E B19c	230	A200	伊勢湾岸防
P646	E A19c	280			P649	E B17a	162			P676	E B19c	240		
P647	E A19c	228			P649	E B17a	614			P676	E B19c	286		
P648	E A19c	30			P649	E B17a	40			P676	E B19c	136		
P649	E A19c	510			P649	E B17a	190			P676	E B19c	262		
P649	E A19c	232			P649	E B17a	120			P676	E A19c	234		
P641	E A19c	366			P649	E B17a	200			P676	E B19c	316		
P642	E A19c	198			P649	E B17a	132			P676	E B19c	324		
P643	E A19c	218			P649	E B17a	60			P676	E A19c	190		
P644	E A19c	288			P649	E B17a	132			P676	E A19c	232	A200	伊勢湾岸防
P645	E A19c	612			P649	E B17a	114			P676	E A19c	68		
P646	E A19c	30			P649	E B17a	270			P676	E A19c	198		
P647	E A19c	182			P649	E B17a	214			P676	E A19c	136		
P648	E A19c	204	A2	伊勢湾岸防	P649	E B17a	210			P676	E A19c	288		
P649	E A19c	314	A2	伊勢湾岸防	P649	E B17a	272			P676	E A19c	112		
P650	E A19c	362			P649	E B17a	214			P676	E A19c	128		
P651	E A19c	182			P649	E B17a	388			P676	E A19c	138		
P652	E A19c	338			P649	E B17a	270			P676	E A19c	232		
P653	E A19c	232			P649	E B17a	60			P676	E A19c	210		
P654	E A17c	196			P651	E B17a	116			P676	E A19c	670	A200	伊勢湾岸防
P655	E A17c	362			P652	E B17a	228			P676	E A19c	112	A200	伊勢湾岸防
P656	E A19c	90			P653	E A19c	288			P676	E A19c	332		
P657	E A19c	318			P654	E A19c	60			P676	E A19c	136		
P658	E A17c	362			P655	E A19c	310			P676	E A19c	246	A200	伊勢湾岸防
P659	E A17c	134			P656	E A19c	126			P676	E A19c	238	A200	伊勢湾岸防
P660	E A17c	112			P657	E A19c	284			P676	E A19c	214		
P661	E A17c	66			P658	E A19c	66			P676	E A19c	238	A200	伊勢湾岸防
P662	E A17c	96			P659	E A19c	218			P676	E A19c	238		
P664	E A17c	50			P660	E A19c	96			P676	E A19c	188	A200	伊勢湾岸防
P665	E A17c	60			P661	E A19c	278			P676	E A19c	364	A200	伊勢湾岸防
P666	E A17c	52			P662	E A19c	672			P676	E A19c	384		
P667	E A17c	60			P663	E A19c	126			P676	E A19c	182		
P668	E A17c	672	A200	伊勢湾岸防	P664	E A19c	284			P676	E A19c	66		
P669	E A17c	150			P665	E A19c	290			P676	E A19c	214		
P670	E A17c	66			P666	E A19c	238			P676	E A19c	238	A200	伊勢湾岸防
P671	E A17c	108			P667	E A19c	302			P676	E A19c	122		
P672	E A19c	384			P668	E A19c	60			P676	E A19c	92		
P673	E A19c	192			P669	E A19c	114			P676	E A19c	108		
P674	-	-		P685	I1-1の遺文書	P671	E A19c	216		P676	E A19c	104		
P675	E A19c	284			P672	E A17c	324			P676	E A19c	166		
P676	E A19c	308			P673	E A17c	614			P676	E A19c	238		
P677	E A19c	120			P674	E A19c	250	A200	伊勢湾岸防	P676	E A19c	212		
P678	E A19c	270			P675	E A17c	508			P676	E B17a	688		
P679	E A17c	240			P676	E A17c	862			P676	E B17a	242		
P680	E A17c	202			P677	E A17c	314			P676	E B17a	74		





No.	グリッド	高さ (m)	種類	遺構の種類・遺存性	No.	グリッド	高さ (m)	種類	遺構の種類・遺存性	No.	グリッド	高さ (m)	種類	遺構の種類・遺存性
P060	E10M	25.0			P060	E10M	12.0			P100	E10M	10.1	A200号機穴内	
P062	-	-			P062	E10M	10.8			P102	E10M	7.6		
P064	E10M	30.8			P064	E10M	12.8			P104	E10M	23.2		
P066	-	-			P066	E10M	8.8			P106	E10M	11.1		
P070	E10M	14.8			P070	E10M	8.8			P108	E10M	23.0		
P071	E10M	42.6			P072	E10M	8.8			P110	E10M	7.8		
P072	E10M	-			P074	E10M	18.2			P112	E10M	6.8	A200号機穴内	
P074	E10M	12.2			P076	E10M	4.8			P114	E10M	12.0		
P075	E10M	51.8			P078	E10M	20.0			P116	E10M	22.8		
P076	E10M	20.1	A201号機穴内		P082	E10M	8.6			P118	E10M	19.1		
P077	E10M	21.1			P084	E10M	42.4			P120	E10M	22.8	A200号機穴内	
P078	E10M	20.1			P086	E10M	57.0			P122	E10M	11.8	A200号機穴内	
P079	E10M	25.8			P090	E10M	30.8			P124	E10M	23.4	A200号機穴内	
P080	E10M	30.8			P092	E10M	21.0			P126	E10M	29.1		
P081	E10M	20.8			P094	E10M	12.2			P128	E10M	15.8	A200号機穴内	
P082	E10M	11.6	A201号機穴内		P096	E10M	11.4			P130	E10M	13.0	A200号機穴内	
P082	E10M	22.8			P098	E10M	41.0			P132	E10M	14.2		
P083	E10M	10.0			P100	E10M	75.0			P134	E10M	17.4	A200号機穴内	
P084	E10M	14.1			P102	E10M	67.0			P136	E10M	25.2		
P085	E10M	30.8	A201号機穴内		P104	E10M	36.0			P138	E10M	24.8		
P086	E10M	15.0			P106	E10M	22.2			P140	E10M	41.6		
P087	E10M	30.0			P108	E10M	60.0			P142	E10M	45		
P088	E10M	21.1	A201号機穴内		P110	E10M	8.1			P144	E10M	21.2		
P089	E10M	30.1	A201号機穴内		P112	E10M	7.0			P146	E10M	18.1		
P090	E10M	30.1	A201号機穴内		P114	E10M	55.8	A200号機穴内		P148	E10M	18.0	A200号機穴内	
P091	E10M	13.9			P116	E10M	20.2			P150	E10M	28.4	A200号機穴内	
P092	E10M	14.1			P118	E10M	23.4	A200号機穴内		P152	E10M	21.2		
P093	E10M	20.1			P120	E10M	13.1			P154	E10M	30.8	A200号機穴内	
P094	E10M	60.1			P122	E10M	7.0	A200号機穴内		P156	E10M	27.2		
P095	E10M	27.1	A201号機穴内		P124	E10M	4.1			P158	E10M	4.6		
P096	E10M	25.1			P126	E10M	7.0			P160	E10M	11.4		
P097	E10M	21.1			P128	E10M	20.8			P162	E10M	60.0	A200号機穴内	
P098	E10M	20.8			P130	E10M	8.6			P164	E10M	-		
P099	E10M	4.8			P132	E10M	30.0			P166	E10M	22.8		
P100	E10M	4.8			P134	E10M	36.0			P168	E10M	12.2		
P101	E10M	8.8			P136	E10M	11.8			P170	E10M	28.2	A200号機穴内	
P102	E10M	25.8	A202号機穴内		P138	E10M	8.1			P172	E10M	9.6		
P103	E10M	20.8	A201号機穴内		P140	E10M	20.0			P174	E10M	9.6		
P104	E10M	40.1	A201号機穴内		P142	E10M	22.8			P176	E10M	47.2		
P105	E10M	21.2			P144	E10M	34.2			P178	E10M	18.0	A200号機穴内	
P106	E10M	41.1	A202号機穴内		P146	E10M	4.6			P180	E10M	49.2	A200号機穴内	
P107	E10M	12.1			P148	E10M	9.2			P182	E10M	13.1		
P108	E10M	22.8			P150	E10M	28.2			P184	E10M	20.1		
P109	E10M	11.0			P152	E10M	13.1			P186	E10M	13.1		
P110	E10M	21.1			P154	E10M	20.6			P188	E10M	13.8		
P111	E10M	27.1			P156	E10M	16.8			P190	E10M	13.8		
P112	E10M	30.0			P158	E10M	13.6			P192	E10M	13.6		
P113	E10M	25.8			P160	E10M	6.2			P194	E10M	21.8		
P114	E10M	26.2			P162	E10M	61.8			P196	E10M	16.8		
P115	E10M	11.7			P164	E10M	60.0			P198	E10M	21.4		
P116	E10M	57.2	A201号機穴内		P166	E10M	21.4			P200	E10M	11.8		
P117	E10M	20.8			P168	E10M	13.8			P202	E10M	22.8		
P118	E10M	35.1			P170	E10M	11.8			P204	E10M	19.2		
P119	E10M	30.7			P172	E10M	16.8	A200号機穴内		P206	E10M	19.6		
P120	E10M	10.8			P174	E10M	11.1			P208	E10M	19.6		
P121	E10M	13.0			P176	E10M	25.0			P210	E10M	-		
P122	E10M	12.6			P178	E10M	9.0			P212	E10M	31.8	A200号機穴内	
P123	E10M	36.1			P180	-	-			P214	E10M	35.8	A200号機穴内	
P124	E10M	13.8			P182	-	-			P216	E10M	36		
P125	E10M	17.4			P184	E10M	21.0			P218	E10M	34.4		
P126	E10M	10.2			P186	E10M	81.4			P220	E10M	21.0		
P127	E10M	11.2			P188	E10M	65.6	A201号機穴内-A200号機穴内		P222	E10M	22.8	A200号機穴内	
P128	E10M	14.8			P190	E10M	25.6	A200号機穴内						
P129	E10M	13.2			P192	E10M	36.6							
P130	E10M	21.0			P194	E10M	19.8	A200号機穴内						
P131	E10M	30.1	A201号機穴内		P196	E10M	15.0							
P132	E10M	33.6			P198	E10M	-							
P133	E10M	20.1			P200	E10M	32.2	A200号機穴内						
P134	E10M	14.8	A201号機穴内		P202	E10M	35.1	A200号機穴内						
P135	E10M	20.1			P204	-	-							
P136	E10M	27.0			P206	E10M	20.4							
P137	E10M	31.8			P208	E10M	39.2	A201号機穴内-A200号機穴内						
P138	E10M	10.8			P210	E10M	15.0	A201号機穴内						
P139	E10M	30.8			P212	E10M	18.2	A200号機穴内						
P140	E10M	19.2	A201号機穴内		P214	E10M	16.8							
P141	E10M	46.6	A201号機穴内		P216	E10M	22.2							
P142	E10M	13.8			P218	E10M	32.1							
P143	E10M	20.1			P220	E10M	20.6							
P144	E10M	17.8			P222	E10M	31.8	A201号機穴内						
P145	E10M	10.2			P224	E10M	30.8							
P146	E10M	10.2			P226	E10M	37.8	A200号機穴内						
P147	E10M	30.1			P228	E10M	29.2							
P148	E10M	13.2			P230	E10M	30.6							
P149	E10M	30.6	A201号機穴内		P232	E10M	16.2							
P150	E10M	23.8			P234	E10M	11.0							
P151	E10M	10.0			P236	E10M	28.1							
P152	E10M	10.0			P238	E10M	-							
P153	E10M	12.8			P240	E10M	25.8	A200号機穴内						
P154	E10M	12.8			P242	E10M	21.0							
P155	E10M	17.8			P244	E10M	4.8							
P156	E10M	11.0			P246	E10M	50.1	A200号機穴内						
P157	E10M	12.6			P248	E10M	27.2							
P158	E10M	20.1			P250	E10M	9.0							
P159	E10M	10.0			P252	E10M	62.6	A200号機穴内						
P160	E10M	14.0			P254	E10M	27.6	A201号機穴内-A200号機穴内						
P161	E10M	16.2			P256	E10M	30.2	A200号機穴内						
P162	E10M	7.8			P258	E10M	25.2	A201号機穴内						

## V 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、土器（縄文土器・土師器・須恵器）、石器（剥片石器・礫石器）、石製品、土製品、台形土器、土器片円盤、支脚、金属製品、鉄生産関連遺物（羽口・鉄滓・炉壁）、陶磁器・ガラス製品、動物遺存体等多岐にわたる。以下では、各種別の分類基準について記す。なお、遺物実測図の縮尺は各図版中に付したスケールの通りである。実測図の表現方法は第2分冊の凡例図に提示した。遺物写真図版は約2/3～1/3を基本とし、大型の縄文土器では1/4～1/6としたものもある。

### 1 縄文土器（第10表、第1-226～235図、第2-1～237図、写真図版273～457）

最も出土量が多く、大コンテナ750箱分（総重量約11,261,228.9g）出土している。出土時期は早期・前期・中期・後期で、早期は後葉、前期は初頭～末、中期は初頭～末、後期は初頭～前葉のものが出土している。前・中期のものは主として大木式土器及び円筒土器に分類されるものである。以下では時期ごとの特徴をみていくが、最初に分類基準と記載方法について記載しておく。

#### 分類基準

本報告書での分類は「総覧 縄文土器」（小林達雄編2008）を基本とし、下記の文献を参考に行った。以下では各分類の概要について記すが、詳細については各文献及びその他の参考文献（474～476頁）を参照して頂きたい。

- 阿部昭典 2008 「東日本の中期末葉から後期前葉の土器様式」『縄文時代の社会変動論』  
今村啓爾 2006 「大木6式土器の諸系統と変遷過程」『東京大学考古学研究室研究紀要』第20号  
神原雄一郎 2004 「渦巻文様の展開 - 盗岡の縄文時代中期の土器 -」『縄文の彩華 - 中期の技と美 -』  
須原 拓 2018 「V 出土遺物の分類」『浜川目沢田1遺跡発掘調査報告書』岩文振第679集  
須原 拓 2019 「岩手県沿岸地域の大木8a式土器について - 浜川目沢田1遺跡の資料から」『紀要』第38号  
早瀬亮介 2018 「第8章 総括 第1節 土器・土製品」『中沢遺跡』石巻市教育委員会  
松田光太郎 2003 「大木6式土器の変遷とその地域性」『神奈川考古』第39号

#### 記載方法

土器の型式及び年代は第10・11表の時期欄に記載しているが、記載方法は以下の通りである。

- ・大木式 → 「大○」、円筒下層式 → 「円下○」、円筒上層式 → 「円上○」
- ・同一型式のなかで新古不明なもの → 単に「大2」又は「大7b」等
- ・前後の型式の特徴を有し、いずれに帰属するか判別が難しいもの → 「大6～7a」等
- ・土器型式は不明だが、大別時期がわかるもの → 「中期」等
- ・大別時期も不明なもの → 「不明」

#### (1) 早期（第1-226図）

##### 早期後葉

器種は深鉢と考えられるが、全形がわかる資料は無い。1点掲載した。地文は単節斜行縄文と考えられるが、ナデにより不明である。胎土に繊維はほとんど含まれず、内外面及び断面いずれも色調は黒色である。

## (2) 前期 (第1-226～228・235図)

大木2 a・b式を前葉、大木3式と円筒下層b式を中葉、大木4・5式を後葉、大木6式と円筒下層d式を末葉とした。また、型式は特定できないが初頭～前葉と考えられる資料も確認されており、これらを一括した。

## 初頭～前葉

大木2式の特徴を持たないもので、中には大木1式を含む可能性もある。8点掲載した。器種は深鉢のみと考えられるが、全形がわかる資料は無い。口縁部は平縁で、胴部から直線的に立ち上がるものと外方に屈曲するものがある。地文は単節斜行縄文・結束羽状縄文・組紐で、胎土に繊維を含むものもある。前期初頭と考えられるa 577は末端環付の単節斜行縄文が施文される。

## 大木2 a式

器種は深鉢のみと考えられるが、全形がわかる資料は無い。2点掲載した。口縁部形態は不明である。地文は結束羽状縄文で、胎土に繊維を含む。

## 大木2 b式

器種は深鉢のみと考えられるが、全形がわかる資料は無い。17点掲載した。口縁部は平縁と小波状口縁があり、いずれも胴部から直線的に立ち上がる。上面や端部が指押さえにより花卉状となるものが多い。地文は単節斜行縄文の他、結節縄文・結節回転文・単軸絡条体1 A類・組紐等があり、内面に施文するものも一定量ある。2 a式と異なり胎土に繊維は含まない。a 978のように口縁部付近に横位隆帯を1条巡らせ、さらに押圧や刺突を施すものもある。なお、後述する大木5式にも同様の横位隆帯を有するものがあるが、隆帯の幅が狭く、胎土が他の大木2 b式と類似しているものは本型式に含めた。

## 大木3式

深鉢のみ出土しており、可能性があるものを含めて55点掲載した。全形がわかる資料は1点のみである(a 2067)。口縁部は外反するものと内湾するものがあり、いずれも胴部と口縁部の境界は不明瞭である。胴部は直線的に立ち上がるものと丸みを持つものがある。地文は単節斜行縄文が大半で、結節縄文・単軸絡条体・多軸絡条体は少量である。また、胴部には地文を施文した後に沈線による円文、細沈線貼付+キザミ、沈線+爪形文等が施文される。

## 大木4式

深鉢のみ出土しており、全形がわかる資料は無い。56点掲載した。口縁部は平縁で、外反するものと内湾するものがあり、大きく外反するものは内外面に粘土紐や沈線による円形・山形文が施文される。胴部は丸みを持つものが大半である。地文は単節斜行縄文が大半で、結節縄文・単軸絡条体1 A類等は少量である。また、胴部には地文を施文した後に細い粘土紐による円形・山形・格子・梯子文等、多様な貼付文が施文される。

## 大木5式

深鉢のみ出土しており、91点掲載した。口縁部から底部まで完存する資料は無いが、器形の推定は可能である。口縁部は平縁のものは外反または内湾、波状口縁のものは胴部から直線的に立ち上がる。口縁端部にキザミが施されるものもある。胴部は丸みを持つものが多いが、底部から直線的に立ち上がり、胴部中位から丸みを持つ球胴形に近い形態のものもある。地文は単節斜行縄文と単軸絡条体が主体で、無節斜行縄文・結節縄文・多軸絡条体は少量である。単軸絡条体は1 A類と5類(いわゆる網目状捻糸文)がある。胴部には地文を施文した後に粘土紐による横位隆帯の他、S字・逆V字

状等の貼付文が施文される。また、粘土紐には押圧や刺突、斜行縄文が施文される。

#### 大木6式

松田 2003・今村 2006 に従って分類した。深鉢のみ出土しており、188 点掲載した。口縁部から底部まで完存する資料は少ないが、長胴形と球胴形に分類できる（球胴形については第 10 表で「球胴深鉢」とした）。口縁部は平縁と 2～4 単位の波状口縁があり、長胴形・球胴形ともに外反するものが大半である。地文は単節斜行縄文が大半で、無節斜行縄文・複節縄文・結節縄文・結束縄文・単軸絡条体は少量である。文様は口縁部に施文されるものがほとんどで、粘土板によるボタン状・橋状の貼付文（突起）、粘土紐による隆帯を施した後に斜め方向の短沈線や半裁竹管による押し引き、竹管による刺突等が施される。長胴形の胴部は若干丸みを持つが、胴部最大径を持つ位置は上～下位まで多様である。球胴形の胴部は大きく丸みを持ち、頸部の屈曲が強いものと弱いものがある。胴部への施文は長胴形には山形・併行沈線文を施すものが少量確認されるが、球胴形には無い。

なお、本型式は後続する 7 a 式との判別が困難なことが多いことから、判別基準として①口縁部の波状の高低差が小さいまたは突起・貼付で形成、②球胴タイプで胴部下半の直線部が相対的に短い、③前述の貼付文+短沈線・押し引きを施文、という 3 基準のいずれかを満たす場合は本型式に含めた。ただし、ボタン状貼付文に 7 a 式で主体となる細沈線を施す等、両型式の特徴を有するものもあり、これらについては大木 6～7 a 式とし、89 点掲載した。

#### 円筒下層 b 式

本型式の可能性のある深鉢の口縁部破片を 1 点掲載した。地文は単節斜行縄文で、口縁部には原体側面圧痕と横位隆帯が施文される。

#### 円筒下層 d 式

深鉢のみ出土しているが、全形がわかる資料は無い。可能性のあるものを含めて 6 点掲載した。d 1 式と d 2 式があるが、出土数が少ないため一括した。口縁部は平縁と小波状口縁があり、胴部から直線的に立ち上がる。地文は、単節斜行縄文・羽状縄文・単軸絡条体 1 A 類がある。単軸絡条体 1 A 類にはいわゆる木目状捩糸文も含まれる。口縁部付近には原体側面圧痕が施され、さらに爪形刺突が施されるものもある。胴部に地文以外が施文されるものは無い。なお、文様構成は本型式であるが、後続する円筒上層 a 式に近い口縁部が外反する器形のものも出土しており、これらは円筒下層 d～上層 a 式とし、3 点掲載した。

### (3) 中期 (第 1-228～235 図)

大木 7 a 式と円筒上層 a 式を初頭、大木 7 b 式と円筒上層 c 式を前葉、大木 8 a・b 式中葉、大木 9 式を後葉、大木 10 式を末葉とした。

#### 大木 7 a 式

神原 2004 に従って分類した。深鉢と浅鉢が出土しており、307 点掲載した。本型式は二段階に細分されているが、判別できないものも多く本書では細分していない。

深鉢は、6 式と同じく長胴タイプと球胴タイプがある。口縁部は平縁と 2～4 単位の波状口縁（突起）があり、長胴タイプは直線的に立ち上がるものと内湾するもの、球胴タイプは外方に開きながら立ち上がるものがある。長胴タイプの胴部は、底部から直線的に立ち上がるものと胴部中央が膨らむものがある。また、大型化した波状口縁を持つものが確認されるようになる。地文は単節斜行縄文が主体であるが、無節斜行縄文・結節縄文・結束羽状縄文・単軸絡条体 1 A 類等も一定量確認できる。本型式では頸部に横位隆帯や沈線を巡らせて口縁部と胴部の文様帯を区画している。文様帯には細い隆帯

による三叉・弧状等の貼付文や沈線による渦巻・円形・弧状・波状文等が施され、さらに細沈線・刺突・キザミ・押圧等が施される。球胴タイプは口縁部文様帯にのみ施文され、中空突起や橋状突起が2個一対で施される。浅鉢は、胴部が直線的に外方に立ち上がる形態である。地文に単節斜行縄文を用いるものもあるが、ナデ調整のみのものが多く、隆帯や貼付文・突起等を施している。

#### 大木7b式

深鉢と浅鉢が出土しており、158点掲載した。深鉢は、口縁部は平縁と2～4単位の波状口縁で、直線的に立ち上がるものと頸部～口縁部が丸みを持つものがあり、後者はいわゆるキャリバー形である。胴部は底部から直線的に立ち上がるものと胴部中央が膨らむものがあり、後者には器高が低く壺型に近い器形もある。地文は単節斜行縄文が大半で、複節縄文・結節縄文・羽状縄文・単輪絡条体1A類等は少量である。7a式と同じく頸部に横位隆帯や沈線を巡らせて口縁部と胴部の文様帯を区画しているが、胴部へ施文されるものは少量である。口縁部文様帯には単独の原体側面圧痕や両脇に原体側面圧痕を施した隆帯による文様が施文されており、後続する8a式の器形となるものを除いて原体側面圧痕が施文されているものは本型式に含めた。浅鉢は、胴部が直線的に立ち上がるものと丸みを持つものがある。7a式と異なりナデ調整のみのものは無く、地文に無節・単節・複節の縄文を用い、口縁部には2～4個の突起、深鉢と同様の原体側面圧痕を施文している。

#### 大木8a式

蒲原2004、須原2018・2019に従って分類した。二段階に細分されている。深鉢と浅鉢が出土しており、291点掲載した。細分可能な資料が一定量あることから古段階と新段階に分けて記載する。

古段階の深鉢は、口縁部は平縁と2～4単位の波状口縁があり、内湾するものがほとんどである。胴部はキャリバー形と長胴形があり、胴部中央が膨らむものと直線的なものがある。地文は単節斜行縄文が大半で、複節縄文と単輪絡条体1A類等は少量である。大木7式と同じく頸部に隆帯を巡らせて口縁部と胴部の文様帯を区画しているが、胴部へ施文されるものは極少量である。口縁部文様帯には隆帯や沈線、隆沈線による波状文が主体となるが、本型式の器形で7b式に特徴的な原体側面圧痕を施すものも少量確認されている。浅鉢は、7b式で見られた器形の他に胴部中で屈曲して口縁部が直線的に立ち上がるものが出現する。地文は単節斜行縄文が大半で、口縁部に突起を付けるものが多い。その他の文様構成は深鉢と同様である。また、大型の浅鉢も確認できるようになる。

新段階の深鉢は基本的な特徴は古段階と同様であるが、口縁部文様帯に隆沈線が増加し、波状文だけではなく曲線状文やクランク文、S字状文等が施される。また、8b式に繋がるような立体的な波状口縁や隆帯を持つものが出現する。浅鉢は資料数が少ないが、古段階と同様の器形に加えて口径と底径の比率が小さいもの小壺形も確認される。文様帯の特徴は深鉢と同様であるが、胴部に縦方向の曲線文を施すものもある。

なお、新段階の資料の中には榎林式古段階と考えられる、口縁部と胴部の境界が不明瞭で平行沈線による直線・波状・進弧文が施されるものも含まれている。榎林式土器は青森県を中心に岩手県では沿岸北部で一定の出土量が確認されているが、現在の研究では大木式土器の地方型式と捉えられており、今回は基本的に榎林式古段階は8a式新段階、榎林式新段階は8b式の中に含め、該当するものは第10表の備考に「可能性有」と記載した。

#### 大木8b式

蒲原2004、須原2018に従って分類した。深鉢・脚付深鉢・浅鉢・壺・注口土器が出土しており、全型式の中で最も器種構成が豊富である。441点掲載した。細分可能な資料が多いことから、本書では須原の分類に従い古段階と新段階に分けて記載する。

古段階の深鉢は、口縁部は平縁と波状口縁があり、内湾するものと直線的に立ち上がるものがある。平縁が主体となり、波状口縁も以前の型式までと比べて小型化している。器形はキャリバー形が大半で、胴部は中央付近が膨らむものと直線的に立ち上がるものがある。地文は単節斜行縄文が主体で、口縁部と胴部で回転方向が異なるものも少量確認される。また、8a式よりも複節縄文の割合が高くなっている。口縁部文様帯には隆帯や隆沈線による横位直線と連続する渦巻文を施し、さらに渦巻の先端に有縄文が組み合わされる。また、口縁部には大形の中空突起が付けられるものがある。胴部文様帯を施すものは2～3条の平行沈線による直線・曲線文や渦巻・有縄文が主体であるが、一条の隆帯により渦巻・有縄文を施すものも少量確認される。浅鉢は底径が狭くなり、口径と底径の比率が大きいものが主体となる。口縁部は平縁で、胴部は直線的に立ち上がり口縁部付近で内湾する。口縁部・胴部とも文様構成は深鉢と同様である。

新段階の深鉢は、古段階と大きく器形が変化する。また、中～大型と小型で特徴が異なるようになる。中～大型の口縁部は平縁と4～8単位の波状口縁があり、内湾するものが多い。4単位の波状口縁には中空突起を付けるものがある。小型の口縁部は2～3単位の波状口縁が大半で、胴部は丸みを持つが、中～下位で屈曲して外反しながら口縁部へと至る。胴部は、中～大型は胴部上半～口縁部付近に最大径を持つものとキャリバー形、小型は胴部中位が膨らみ頸部が括れるものがある。地文は古段階と同じく単節斜行縄文が主体で、複節縄文も少量確認される。本段階でも隆帯により口縁部と胴部の文様帯と区画するが、頸部に無文帯を持つものが出現する。口縁部文様帯は、頸部に無文帯を持つものは隆沈線による渦巻文が横方向に施され、無文帯を持たないものは端部に2条の隆帯を巡らせ波状口縁の頂部に小さい渦巻文を施している。また、隆帯に沿って刺突を列状に施すものもある。胴部文様帯には隆沈線による複数の渦巻文が施され、渦巻文には短い直線・曲線の隆帯や縦方向の直線的な隆帯が連結する。小型のものでは沈線で表現されるものもある。浅鉢は、器形は古段階と同じであるが、口縁部文様帯に横方向の渦巻文が施され、胴部がナデ調整のみのものが主体となる。

本型式から出現する器種として脚付深鉢・壺・注口土器がある。脚付深鉢は、胴部が球形に近い器形で、口縁部形態や文様構成は深鉢と同じである。脚部は直線的に外方に開き、地文以外に隆沈線が及ぶものもある。壺は底径と口径がほぼ同じで、胴部下半が丸みをもつ器形である。口縁部は平縁で、内傾気味に立ち上がる。地文を施文するものがほとんど無く、ナデ調整が主体である。口縁部は無文であり、頸部には隆沈線と4単位の突起が付けられる。突起は中空突起または橋状突起で、中空突起の中央には渦巻文が施される。胴部文様帯には深鉢と同様の文様が施される。注口土器は浅鉢型で、口縁部直下に斜め上方に向けた注口が1個付けられる。

#### 大木8b新～9式古段階

須原2018に従って分類した。小破片で8b式新段階か9式古段階の判別が困難なものと及び以下の特徴を有する土器が少量認められたため設定した（第10表では「大8b～9」と記載）。深鉢と壺が出土しており、214点掲載した。8b式新段階と同じく胴部上半から口縁部付近に最大径を持つ器形に、8b式新段階と9式古段階の両者の特徴の文様を有するものを本型式とした。口縁部は平縁と2単位の波状口縁があり、口縁部には8b式のような幅広の文様帯を持たず、横位に沈線や連続刺突文が施される。また、頸部無文帯は無くなる。胴部には沈線による円形文・楕円形文・渦巻文が複数描かれ、それらを直線的な沈線で連結している。磨消技法はほとんど認められない。なお、隆帯による渦巻文または楕円文になる円形文様が施されるが、判別が困難なものは本型式に含めた。

#### 大木9式

阿部2008に従って分類した。二段階に細分されている。深鉢・浅鉢・脚付深鉢・壺が出土しており、

257 点掲載した。細分可能な資料が多いことから古段階と新段階に分けて記載する。

古段階の深鉢は、8 b 式新段階と同じく中～大型と小型では特徴が異なる。中～大型の口縁部は平縁と2～4単位の波状口縁があり、内湾するものが多い。小型の口縁部は外反するものが多い。胴部は、中～大型は胴部上半～口縁部付近に最大径を持つものとキャリパー形、小型は胴部中位が膨らみ頸部が括れて口縁部が開くものがある。新段階と異なり最大径は頸部～胴部にあり、プロポーションは大きく異なる。地文は単節斜行縄文が主体であるが、複節縄文と単軸絡条体1A類も一定量確認される。口縁部と胴部の文様帯の区別が曖昧になり、口縁部から胴部まで連続する文様構成となる。口縁部には8 b 式新段階のような幅広の文様帯を持たず、横位に沈線や連続刺突文が施される。胴部には上半から下半にかけて縦方向に隆帯による懸垂文が施され、それらが連結して楕円区画化するものもある。区画内は縄文施文後に磨消技法が施される。浅鉢は胴部が直線的に外方に開き口縁部付近で内湾するものが主体であり、8 b 式新段階と比べて胴部が丸みを持つ。

新段階の深鉢は、古段階と異なり中～小型の特徴が類似してくる。口縁部は平縁と2～4単位の波状口縁があり、内湾するものと外反するものがある。胴部は器高に対して口径が小さいものが多く、頸部～口縁部に最大径を持つものが大半となる。地文は単節斜行縄文が主体であるが、複節縄文の割合が古段階より多くなっている。文様は、口縁部に隆沈線による渦巻文や楕円形文が施されるものもあるが、文様帯の区別が曖昧になり、口縁部から胴部まで連続して沈線による逆U字文や楕円文等の区画文が縦方向に施され、区画内は縄文施文後に磨消技法が施される。浅鉢は、基本的には古段階と同形態で、文様構成が深鉢と同じものとなる。

その他の器種として、脚付深鉢と壺がある。脚付深鉢は脚部の破片のみで全形がわかる資料は無い。地文施文後に隆帯貼付や磨消技法が施され、穿孔も確認される。壺は、器高に対して口径が小さいもので、最大径が胴部にあるものと口縁部にあるものがある。文様構成は深鉢と同じであるが、胴部下半がナデ調整のものや中位に橋状突起を付けるものもある。

#### 大木 10 式

阿部 2008 に従って分類した。三段階に細分されている。深鉢・浅鉢・壺が出土しており、36 点掲載した。資料数は少ないが、各段階で特徴が異なるため分けて記載する。

古段階の資料は深鉢のみである。口縁部は平縁と波状口縁があるが、前者が主体である。胴部中位付近に最大径を持ち、頸部が若干括れて口縁部が外方に開く。口縁部はナデによる無文帯を基本として、円形の刺突文が横位に施されるものもある。口縁部から胴部にかけて「C」「S」「U」等アルファベット状の区画帯を巡らせ、区画内には縄文が充填技法で施文される。また、充填後に沈線を引き直すものもある。

中段階の深鉢は、口縁部は平縁と波状口縁があり、前者が主体である。胴部は古段階とほぼ同形態である。口縁部文様帯は無くなり、胴部上半に古段階より幅広の曲線状区画が描かれ胴部下半の字文と連結する。区画内には縄文が充填技法で施文される。

新段階の資料は深鉢の胴部破片が出土しているのみで、全形がわかる資料は無い。文様は、微隆起線文による無文帯が施される。

#### 円筒上層 a 式

深鉢のみ出土しており、全形がわかる資料は無い。可能性があるものを含めて5点掲載した。口縁部は平縁で、外方に開きながら立ち上がる。胴部は円筒下層 d 式より丸みを持つ。地文は結節・結束縄文と単軸絡条体1A類である。口縁部には地文を施文した後に隆帯を直線・弧状に貼り付け、原体側面圧痕・刺突・キザミ等が施される。



### 円筒上層c式

深鉢のみ出土しており、全形がわかる資料は無い。可能性のあるものを含めて3点掲載した。口縁部は平縁と波状口縁があり、外方に開きながら立ち上がる。胴部は円筒上層a式と類似している。地文は単節斜行縄文と結節縄文である。口縁部には地文を施文した後に直線・弧状の隆帯を貼り付けて原体側面疔痕や刺突を施すもの、原体側面疔痕のみ施すものがある。

#### 中期前葉（五領ヶ台式?）

細隆帯と細沈線で文様を施すもので、関東地方の五領ヶ台式土器の影響を受けたと考えられるものである。深鉢のみ出土しており、全形がわかる資料は無い。3点掲載した。細隆帯や沈線で区画した後に内部に斜め方向の細沈線と交互刺突が施される。

#### (4) 後 期 (第1-234図)

##### 後期初頭～前葉

深鉢の口縁部破片が3点出土しているのみで、全形がわかる資料は無い。a 155は縦方向の2条の平行沈線が施され、その内部に刺突が2列施される。沈線は頸部で90°屈曲し、刺突は1列になるが同様の文様が頸部全体に巡らされる。a 2081は竹管による円形刺突が縦方向に1列施される。門前式に相当すると考えられるが、大木10式新段階に含まれる可能性もある。a 2331は原体の細かい単節斜行縄文を地文とし、沈線で曲線状に区画をして内部に磨消技法が施される。十腰内I式に相当すると考えられる。

#### (5) 赤 彩 土 器 (第11表、第2-238～243図)

縄文土器のうち、赤彩の付着が認められた破片を一括して掲載した。大木6～9式の土器で確認されているが、大半が大木8b式である。付着位置は口縁部外面・胴部外面・口縁部内面・胴部内面である。今回出土したものは他の縄文土器と器形や胎土に相違点はみられない。

## 2 土師器・須恵器 (第12表、第2-244～252図、写真図版457～461・532)

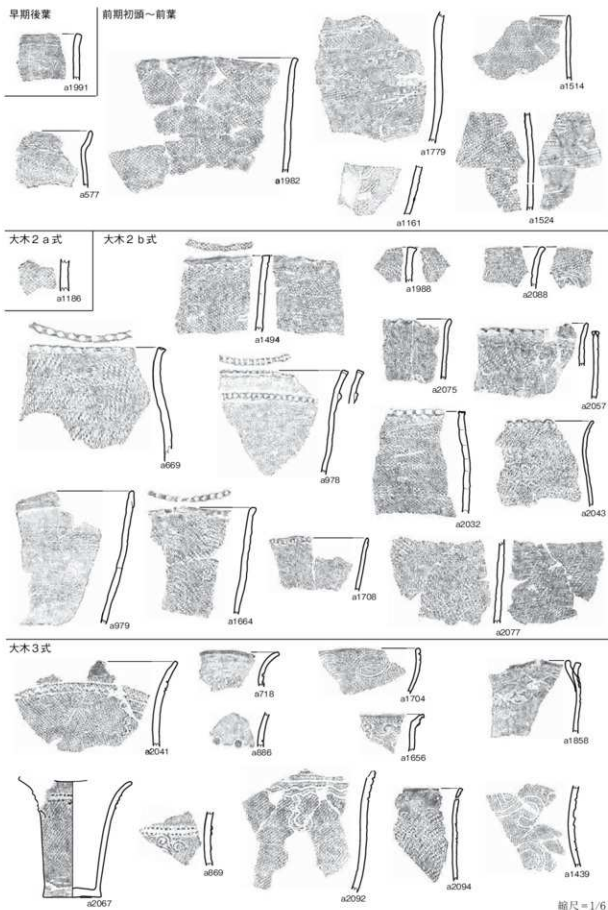
### (1) 土 師 器

坏・高坏・鉢・甕・壺が出土しており、79点掲載した。

坏 24点掲載した。轆轤使用の有無を大分類（I・II類）、黒色処理の有無を小分類（a・b類）とし、例えば轆轤使用で内面に黒色処理を施すものは「II a類」等とした。

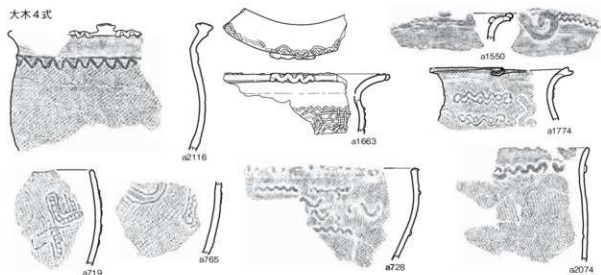
I類は、非轆轤成形の製品で6点掲載した（b 59・60・63・86～88）。胴部調整は、外面は横ナデ・ナデ、外面下位～底部付近はケズリである。b 59・60は胴部内面下位に沈線状の段、b 88は胴部外面中位に細い隆帯状の段が施されている。

II類は、轆轤成形の製品で19点掲載した（b 2・5・13・15～18・42・49・51・66～71・89～91）。大きさや口縁部の屈曲度合いに若干の偏差はあるが、いずれも胴部が丸みをもって立ち上がる器形である。胴部調整は、内面黒色処理のa類は外面が回転ナデ、内面がミガキ・黒色処理、内外面黒色処理のb類が内外面ともミガキ・黒色処理である。底部切り離し技法は回転糸切りが基本であるが、b 18はヘラケズリ、b 69・91はナデ調整が施されている。なお、b類のうちb 5は外面が黒色処理ではなく赤彩となっている。

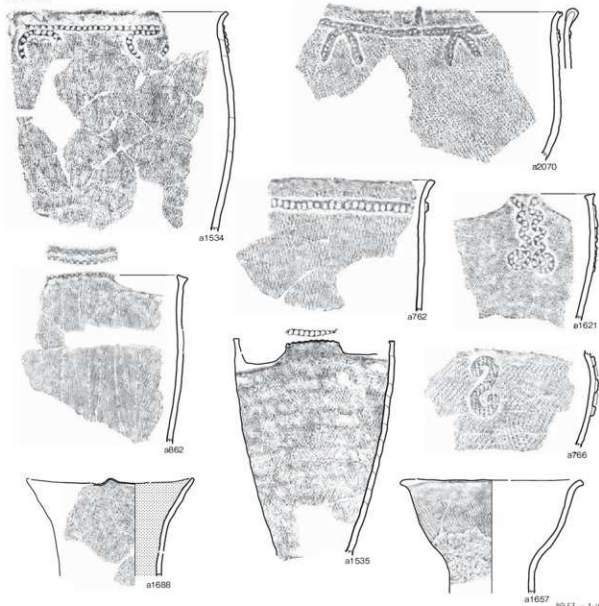


第226図 縄文土器分類図(1)

大木4式

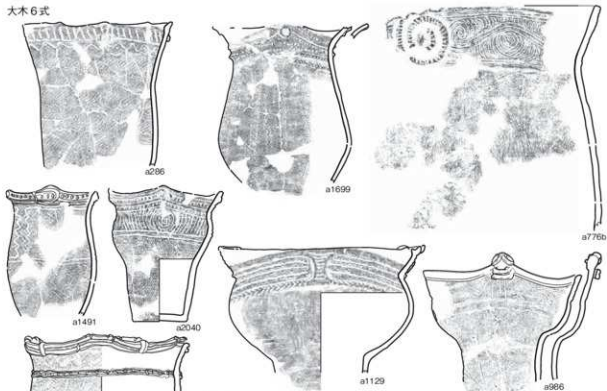


大木5式

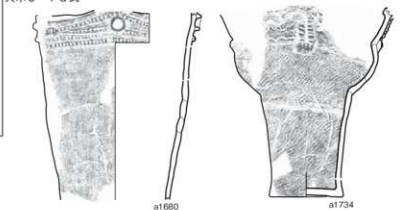


第227図 縄文土器分類図(2)

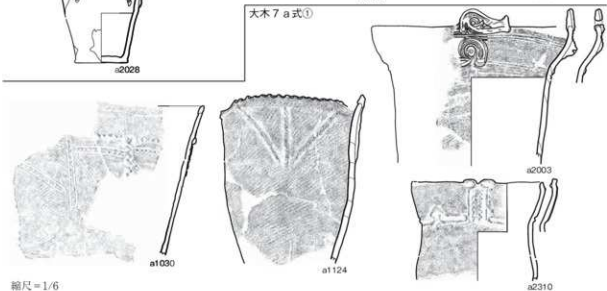
大木6式



大木6~7 a式



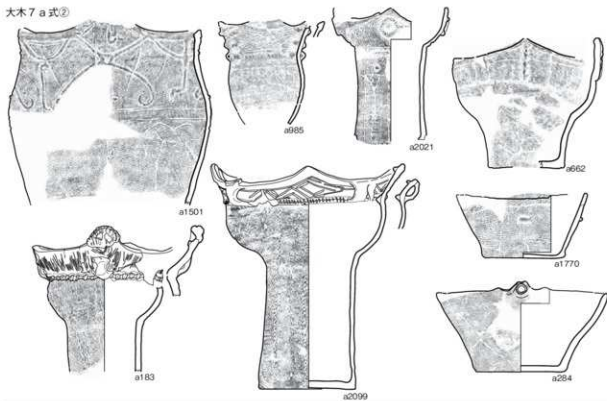
大木7 a式①



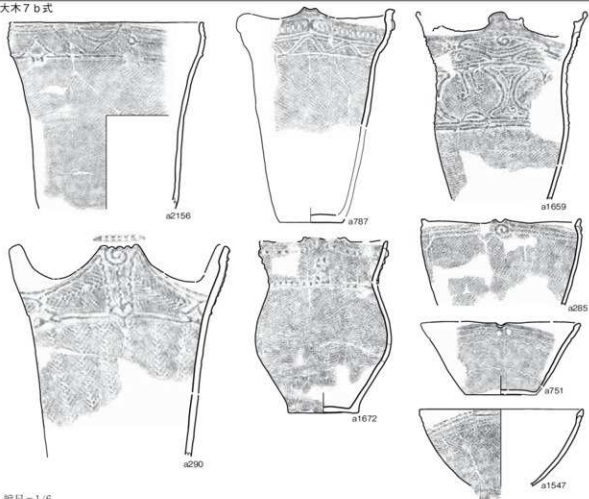
縮尺=1/6

第228図 縄文土器分類図(3)

大木7 a 式②



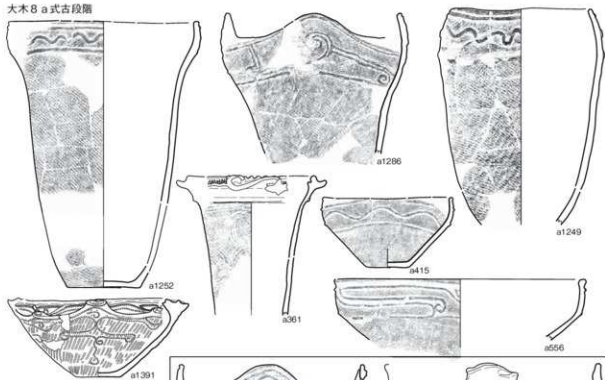
大木7 b 式



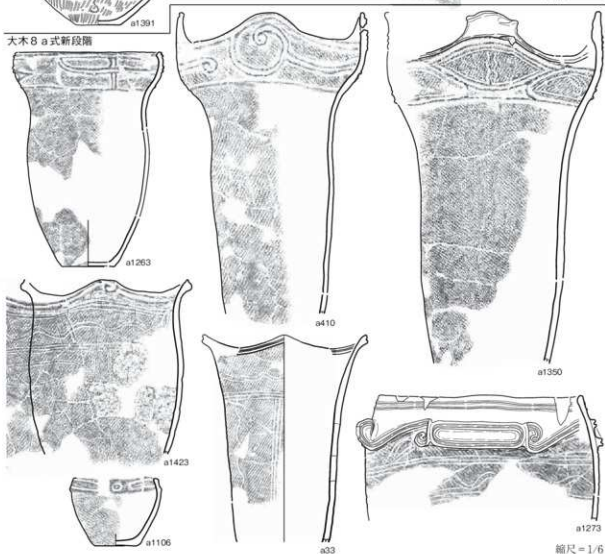
縮尺=1/6

第229図 縄文土器分類図(4)

## 大木8 a式古段階



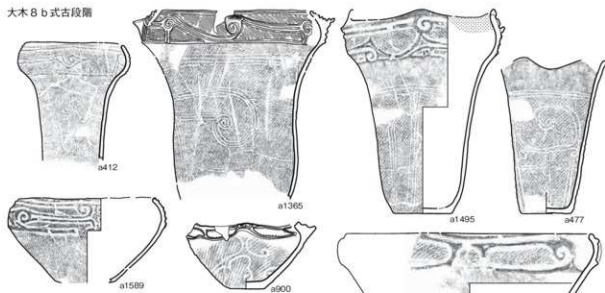
## 大木8 a式新段階



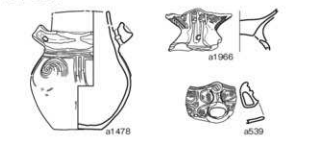
縮尺 = 1/6

第230図 縄文土器分類図(5)

大木8b式古段階



大木8b式



大木8b式新段階①

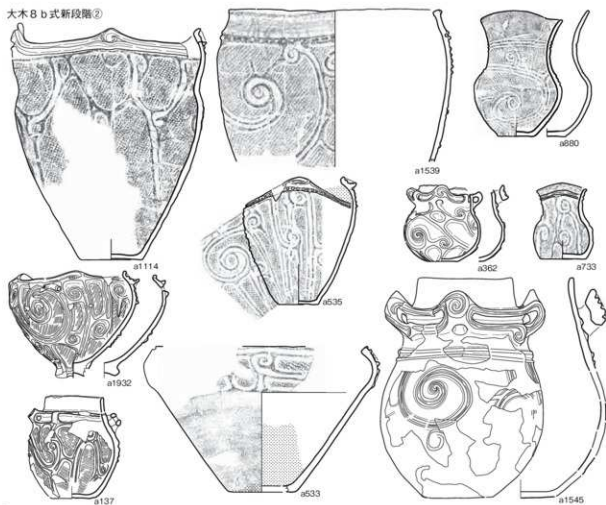


縮尺=1/6

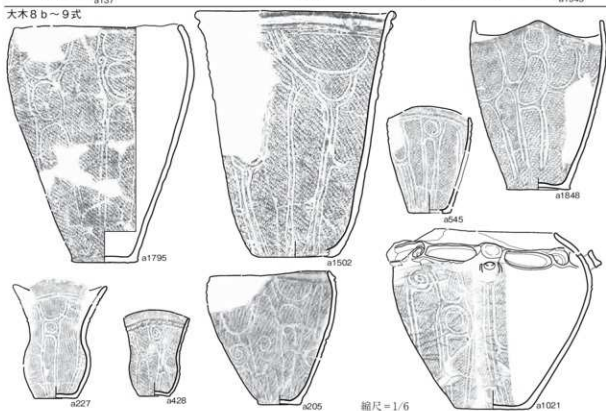
第231図 縄文土器分類図(6)



## 大木8b式新段階②



## 大木8b~9式

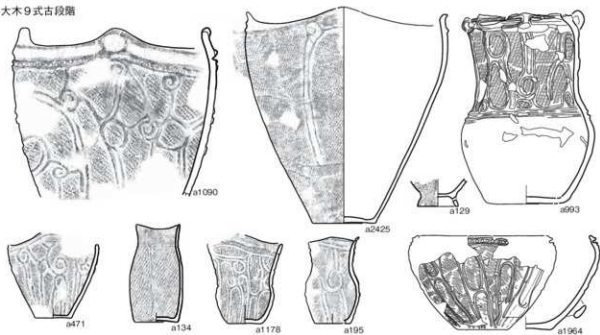


縮尺=1/6

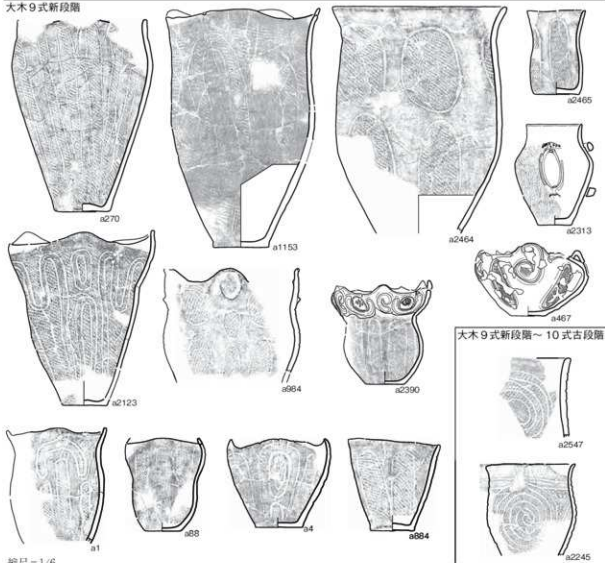
第232図 縄文土器分類図(7)



大木9式古段階



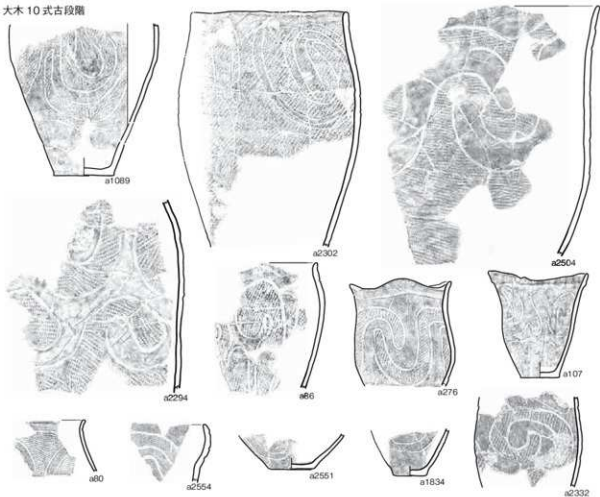
大木9式新段階



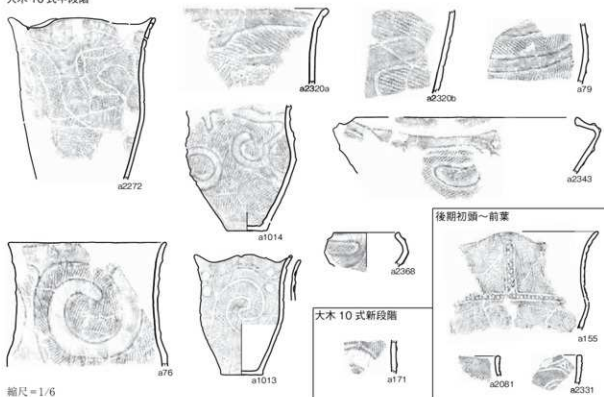
縮尺 = 1/6

第 233 図 縄文土器分類図 (8)

大木 10 式古段階



大木 10 式中段階

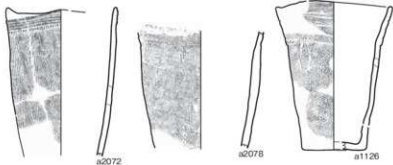


第 234 図 縄文土器分類図 (9)

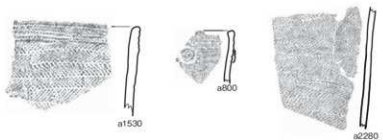
円筒下層 b 式?



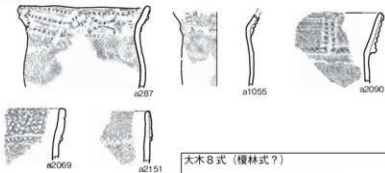
円筒下層 d 式



円筒下層 d ~ 上層 a 式



円筒上層 a 式



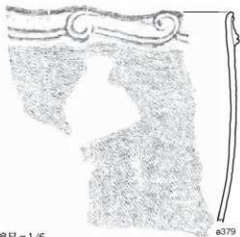
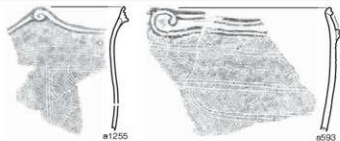
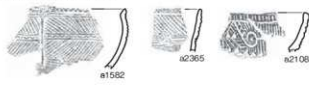
大木 8 式 (榎林式?)



円筒上層 c 式



中期前葉 (五領ヶ台系?)



縮尺 = 1/6

第 235 図 縄文土器分類図 (10)

**高杯** 1点掲載した (b 80)。ハの字状に外側に開く脚部の破片で、外面は横ナデ、胴部内面には黒色処理が施されている。脚部と胴部の接合部付近に透かし穴が施されている。

**鉢** 2点掲載した (b 65・83)。b 65 は内湾する口縁部の破片で、外面に横ナデ、内面にハケ調整が施されている。b 83 は杯 I a 類と調整技法は同じであるが、杯よりも大型であることから今回は鉢とした。

**甕** 土師器の中で最も出土量が多く、47点掲載した。全体形がわかるものが少ない為、杯と同じく轆轤使用の有無でのみ分類 (I・II類)を行った。

I類は、非轆轤成形の製品で43点掲載した (b 1・3・4・6～12・30～34・43～46・50・52・53・55～58・61・62・64・72～74・81・82・84・93～98・10・102)。器形の判明するものを見ると、胴部は長胴形で、胴部上～中位に最大径を持つ。胴部調整は、外面が縦方向のナデ・ハケ・ケズリ、内面は横・斜め方向のナデ・ハケである。口縁部は、「く」の字状に斜め上方に立ち上がる単純口縁で頸部に明瞭な屈曲があるもの (b 3・4・7・8・30・31等)と頸部の屈曲が弱く不明瞭なもの (b 6・44・46・84等)がある。また、口縁端部が直線的なもの (b 3・7・43・45等)と外反するもの (b 1・31等)があるが、b 95のみ口縁端部がわずかに直立し受口状となる。なお、b 61は口縁部外面に沈線が複数巡らされており、擦土土器またはその影響を受けて製作されたものと考えられる。

II類は、轆轤成形の製品で4点掲載した (b 26～29)。I類と同じく胴部は長胴形で、胴部上～中位に最大径を持つ。胴部調整は、内外面が回転ナデ、外面中～下位が縦方向のヘラケズリ、底部付近が横方向のヘラケズリである。口縁部は、端部が直立する受け口状である。

なお、胴部外面に赤彩が施されているものが5点あるが (b 73・74・81・101・102)、いずれもI類でII類では確認されていない。

**壺** 4点掲載した (b 54・77・103・104)。いずれも口縁部の破片であるが、単純口縁で斜め上方に立ち上がるもの (b 54)、ほぼ直立するもの (b 103)、短く直立するもの (b 77)と、複合口縁のもの (b 104)がある。なお、b 103・104は内外面に赤彩が施されている。

## (2) 須 恵 器

**杯・瓶・壺・甕**が出土しており、25点掲載した。

**杯** 8点掲載した (b 19～25・92)。いずれも轆轤成形で、口縁部の屈曲度合いに若干の偏差はあるが、いずれも幅広の底部から胴部下半は丸みをもって立ち上がり、中位から直線的になる器形である。胴部調整は、内外面とも回転ナデである。底部切り離し技法は回転系切りである。b 23には胴部外面に「×」の宛書が認められる。

**瓶** 胴部最大径に対して頸部径が1/2以下となるもので、7点掲載した (b 38・41・47・48・75・76・85)。大きさは、大型 (b 41)、中型 (b 47)、小型 (b 38・75・76)がある。いずれも轆轤成形で、胴部中～上位に最大径を持つ。胴部調整は、外面が回転ナデ、外面下位が回転ヘラケズリであるが、内面には当て具の痕跡が明瞭に残る。頸部はわずかに外方に開きながら立ち上がり、b 38・41ではリング状凸帯が巡らされている。底部切り離し技法は回転系切りであるが、b 41では回転ヘラケズリ、

b 38 では放射状痕跡が確認されている。

壺 胴部最大径に対して口縁径が1/2以上となるもので、いわゆる短頸壺である。後述する甕より小型のもので、2点掲載した(b 37・40)。いずれも轆轤成形で、胴部中位に最大径を持つ。胴部調整は、内外面ともに回転ナデ、外面下位が回転ヘラケズリである。

甕 瓶・壺より大型の貯蔵用具を一括し、8点掲載した。全体形がわかるものが少ない為、坏と同じく轆轤使用の有無でのみ分類(I・II類)を行った。

I類は、轆轤成形の製品で6点掲載した(b 14・35・36・39・78・99)。胴部調整は内外面が回転ナデ、外面中～下位が縦方向のヘラケズリ・ナデ、内面中～下位がナデ・ハケである。口縁部は外方に開く形状で、側面に平坦面を形成する(b 35・99)。成形・調整ではタタキも行われていたと考えられ、わずかに痕跡が確認できるものがある(b 36・99)。

II類は、非轆轤成形の製品で2点掲載した(b 79・100)。タタキ成形の大甕であるが、いずれも胴部の小破片で全体形は不明である。

### 3 石 器

剥片石器・礫石器・石製品を合わせて3,633点登録した。剥片石器は鎌・尖頭器、錐、匙、削器、筒状石器、細部加工剥片、異形石器、石核、礫石器は石斧、石皿・台石類、敲磨器類、円盤状石器に分類した。石材は、点数の多い種別から順に記載している。

#### (1) 剥 片 石 器

鎌・尖頭器(第13表、第2-253～262図、写真図版462～467)

平面形が左右対称で、扁平かつ全長が5cm未満のものを鎌、5cm以上のものを尖頭器とした。1077点登録し、232点掲載した(掲載率21.5%)。石材は、頁岩(赤色頁岩含む)1045点(うち掲載220、以下「掲載」を省略)、凝灰岩19点(3)、黒曜石5点(5)、石英3点(3)、流紋岩2点、玉髓1点(1)、粘板岩1点である。なお、黒曜石は産地同定の為に分析を行ったところ、3点が小赤沢系、1点が月山系であるとの結果を得ている(第VI章第5節)。鎌は基部形状から4類に分類した。

I類…無茎平基鎌。茎部をもたず基部が平坦なもので、平面形が長三角形のもの・長五角形のもの・三角形のものがある。766点登録し、150点掲載した。

II類…無茎凹基鎌。茎部をもたず基部に抉りが入るもので、平面形は三角形である。出土量が最も多い形態で、214点登録し、43点掲載した。

III類…有茎鎌。尖頭部と茎部の境界は凸状で、尖頭部平面形は、三角形・柳葉形・長三角形がある。22点登録し、10点掲載した。

IV類…尖基鎌。平面形が柳葉形で、尖頭部と基部の境界は不明瞭である。形態的には尖頭器と類似する。33点登録し、16点掲載した。

V類…尖頭器。平面形が左右対称で、全長が5cm以上のもの。先端部に二次加工を施しており、鋭く尖らせたものである。42点登録し、13点掲載した。

**錐** (第14表、第2-262・263図、写真図版467・468)

摘み部が尖頭状で平面形は石鏃に類似するが、石鏃よりも厚みがあるもの。38点登録し、18点掲載した(掲載率47.3%)。石材は、頁岩37点(18)、凝灰岩1点である。

**匙** (第15表、第2-263～371図、写真図版468～471)

摘み状の突起を一端に有し、二次加工によって片面あるいは両面に刃部を作出した。162点登録し、65点掲載した(掲載率40.1%)。石材は、頁岩(赤色頁岩含む)159点(62)、黒曜石1点(1)、凝灰岩1点(1)、石英1点(1)である。なお、黒曜石は産地同定の為に分析を行ったところ小赤沢系であるとの結果を得ている(第Ⅵ章第5節)。摘み部を上にして置き、挟り部が水平になるように設置した場合の平面形状から以下の通り分類した。

I類…形状が縦長になるもの。58点登録し、27点掲載した。

II類…形状が横長になるもの。40点登録し、23点掲載した。

III類…形状が斜めになるもの。30点登録し、13点掲載した。

IV類…欠損により分類不明なもの。34点登録し、2点掲載した。

**篋状石器** (第16表、第2-271～273図、写真図版471・472)

平面形が左右対称で、上端部が狭く下端部が広がっているもの。削器同様、細部加工のある剥片と判別が困難なものもあるが、平面形がほぼ左右対称のものはこちらに含めた。32点登録し、11点掲載した(掲載率34.4%)。石材は、頁岩29点(11)、ホルンフェルス2点、砂岩1点である。

**削器** (第17表、第2-273・274図、写真図版472・473)

定形した形状をもたないが、刃部が作り出されているもの。細部加工のある剥片と判別が困難なものもあるが、両側縁に刃部が形成されているものはこちらに含めた。29点登録し、10点掲載した(掲載率34%)。石材は、頁岩29点(10)である。

**細部加工剥片** (第20表、第2-274～278図、写真図版473～476)

不定形の剥片に二次加工を施して刃部を作り出しているもの。202点出土しており、20点掲載した(掲載率9.9%)。石材は、頁岩(珪質頁岩含む)188点(19)、凝灰岩4点(1)、瑪瑙5点、水晶3点、流紋岩2点である。

**異形石器** (第18表、第2-279図、写真図版476)

平面形がX字状の用途不明の石器である。2点登録し、2点とも掲載した(掲載率100%)。石材は、頁岩2点(2)である。

**石核** (第19図、第2-279～283図、写真図版475・476)

61点登録し、10点掲載した(掲載率16.4%)。石材は、頁岩58点(9)、チャート1点(1)、石英2点である。

**(2) 石 斧** (第21表、第2-284～291図、写真図版477～480)

未製品も含めて180点登録し、46点掲載した(掲載率25.6%)。石材は、頁岩61点(17)、玢岩41点(4)、

細粒花崗閃緑岩 24 点 (7)、細粒閃緑岩 14 点 (8)、砂岩 10 点 (4)、蛇紋岩 10 点 (4)、閃緑岩 6 点、ホルンフェルス 4 点 (1)、デイサイト 3 点 (2)、翡翠 1 点 (1)、花崗岩・花崗閃緑岩・凝灰岩・はんれい岩・流紋岩・礫岩各 1 点である。なお、翡翠は産地同定の為に分析を行ったが特定はできなかった (第 VI 章第 7 節)。全て磨製石斧と考えられ、形状と研磨の状況から以下の 3 類に分類した。

I 類…「定角式磨製石斧」(両側縁及び頭部が研磨され、正裏両面と側面の間に稜をもち、断面形が隅丸長方形となるもの)

II 類…「太型蛤刃石斧」(断面形が楕円形で、頭部が細く直線的なもの)

III 類…成形または研磨途中の未成品で、I 類か II 類の判別が困難なもの

#### (3) 石皿・台石類 (第 22 表、第 2-292～318 図、写真図版 481～494)

扁平な形状で敲打や摩擦痕跡があるものを石皿・台石類とした。使用痕が微弱なものが多く自然礫との判別が困難であったが、400 点登録し、109 点掲載した (掲載率 27.3%)。石材は、細粒花崗閃緑岩 89 点 (21)、砂岩 58 点 (12)、凝灰岩 47 点 (19)、花崗岩 42 点 (17)、花崗閃緑岩 35 点 (14)、安山岩 30 点 (5)、花崗斑岩 29 点 (8)、ヒン岩 26 点、閃緑岩 25 点 (4)、デイサイト 6 点 (3)、細粒閃緑岩 3 点 (2)、ペグマタイト・ホルンフェルス・はんれい岩各 2 点、頁岩・玄武岩・石英斑岩・流紋岩各 1 点である。側縁を加工して縁を有するものがある。

#### (4) 敲 磨 器 類 (第 23 表、第 2-319～357 図、写真図版 494～509)

表面に敲打あるいは摩擦痕跡が認められたものを敲磨器類とした。石皿・台石類と同じく使用痕が微弱なものが多かったが、1622 点登録し、208 点掲載した (掲載率 12.8%)。石材は、閃緑岩 366 点 (79)、花崗岩 267 点 (38)、花崗閃緑岩 153 点 (13)、デイサイト 104 点 (14)、砂岩 94 点 (23)、アブライト 55 点 (5)、細粒花崗閃緑岩 54 点 (9)、細粒閃緑岩 24 点 (3)、頁岩 (珪質頁岩含む) 19 点 (3)、溶結凝灰岩 15 点 (5)、花崗斑岩 15 点 (4)、安山岩 13 点 (3)、はんれい岩 11 点、ホルンフェルス 9 点 (1)、凝灰岩 8 点、ヒン岩 8 点、流紋岩 4 点 (3)、玄武岩 4 点 (1)、玢岩 3 点、蛇紋岩 2 点、石英・チャート・礫質砂岩各 1 点である。使用痕及び形状から以下の 4 類に分類した。

1 類…平面が丸形で、側面・断面が長楕円形のもの

2 類…平面・側面・断面いずれも丸形で、いわゆる球状のもの

3 類…平面が角形、側面が長楕円形、断面が三角形のもの

4 類…平面が角形、断面形が長楕円形、断面形が四角 (多角) のもの

#### (5) 円 盤 状 石 器 (第 24 表、第 2-358 図、写真図版 509)

25 点登録し、15 点掲載した (掲載率 60.0%)。石材は、頁岩 12 点 (5)、ホルンフェルス 10 点 (9)、砂岩 1 点 (1)、花崗閃緑岩・デイサイト各 1 点である。平面形が円形のを I 類、半円形のを II 類とした。また、細分類として周縁部を打ち欠いているものを A 類、研磨しているものを B 類とした。I 類は 13 点登録し、II 類は 12 点登録した。周辺部を研磨する B 類は 7 点で、いずれも I 類である。

### 4 石 製 品 (第 25 表、第 2-359～371 図、写真図版 510～517)

有孔垂飾具・三角塔形・石棒石刀類 (大型石棒・棒状礫含む)・軽石製品 (有孔軽石製品含む)・玉

石が出土しており、194点を登録し、117点を掲載した（掲載率60.3%）。玉石は古代に属すると思われるが、その他は縄文時代に属するものである。

### （1）有孔垂飾具

穿孔が施される小型の製品を一括した。26点出土しており、25点掲載した（掲載率96.2%）。石材は、頁岩8点（8）、滑石7点（7）、流紋岩4点（3）、凝灰岩2点（2）、蛇紋岩2点（2）、翡翠2点（2）である。なお、翡翠は産地同定のために分析を行ったが特定はできなかった（第VI章第7節）。平面形は円形基調（d 1・24等）、楕円形基調（d 10・12～15等）、方形基調（d 2・3・5等）、棒状・板状（d 7～9・22・23等）があり、非常に多様である。なお、円形基調のうちd 18～21はいわゆる扶状耳飾である。穿孔は1箇所のもの（d 1～7・9・11・12～14・17・18・22～24）、2箇所のもの（d 8・10・13）がある。穿孔は平らな面の短側面付近に施されるものがほとんどであるが、d 5・6は長軸に沿って施されている。

### （2）三角壱形石製品

三角柱状の形態となる石製品である。3点登録し、全点掲載した（掲載率100%）。石材は、全て流紋岩である。横断面形は二等辺三角形で、側片は緩やかに弯曲する。両側面の大きさが異なり、正面形は台形となる。底面には底面形と同じ形状の凹みがある。d 26は、広いほうの側面の中央に1個、底面の凹み内に2個の穿孔が施されているが、貫通はしていない。d 27は、広いほうの側面から底面に向かって斜位に先行が施されており、貫通している。

### （3）石棒石刀類

細長い棒状の石製品であり、断面形が円または方形のものは石棒、三角形のものは石刀とすべきところであるが、判別が困難なものが多いことから両者を一括して分類した。また、大型のものは大型石棒、小型で使用痕が微弱なものは棒状礫とした。75点登録し、35点掲載した（掲載率46.7%）。石材は、頁岩33点（10）、砂岩25点（18）、アイサイト5点（4）、ホルンフェルス5点（1）、細粒花崗閃緑岩3点（1）、粘板岩2点（1）、花崗閃緑岩・滑石各1点である。形態は、断面形がレンズ状または菱形で横幅がほとんど変わらない長方形タイプ（d 29～36）、断面形が円形で、上端と下端の幅が異なる台形タイプ（d 41・47～48・50・52～57）、平面形が円形で、台形タイプであるが一端が有頭状となるタイプ（d 38～40・42～45）、平面形が方形または隅丸方形で、平面形が台形タイプ（d 46・49・61・63）、断面形が方形または隅丸方形で、平面形が長方形タイプ（d 51・58～60・62）に分類できる。また、側面に摩擦による凹みや細溝があるものも確認されており（d 55・46・47・58・59）、これらは砥石として使用されていた可能性がある。

### （4）軽石製品

軽石で作られた石製品で、孔があるものと無いものがある。52点登録し、25点掲載した（掲載率48.1%）。形態は、円筒状（d 66・68・76）、扁平板状（d 64・70・75・77・80・81・85・87）、四角柱状（d 71・74・76・86）、球・扁平球状（d 65・69・79・82・83）不整形（d 67・84・88・89）があり、いずれにも穿孔が施されるものがある。穿孔は、有孔垂飾具と同じく平らな面の短側面に施されるものが多いが、d 76のように長軸に沿って施されるものもある。



## (5) 玉 石

使用痕・加工痕が確認できない為厳密には石製品ではないが、ほぼ同一形態のものがまとまって出土したことから掲載した。ほとんどが古代の竪穴建物であるB8号竪穴建物から出土しており、29点登録し、23点掲載した(掲載率79.3%)。石材は、玉髓9点(9)、ヒン岩6点(6)、花崗斑岩5点(3)、頁岩4点(4)、閃緑岩2点(1)、砂岩・デイスイト・ホルンフェルス各1点である。

## 5 土 製 品 (第26表、第2372～378図、写真図版518～522)

土偶・動物形・キノコ形・斧形・三角錐形・耳環・玉・垂飾具・有孔円盤・土錘・環状・棒状・円錐形・ミニチュア土器がある。189点登録し、141点掲載した(掲載率74.6%)。ここでは主要なものについて記載する。

## (1) 土 偶

6点登録し、全点掲載した(掲載率100%)。e1は板状土偶の体～脚部と腕部の破片で、いわゆる板状土偶である。体部中央には臍を表現したと考えられる円形突起が1個付けられている。半截竹管による押し引きにより表面と背面に斜線・鋸歯・渦巻文が施される。e2も板状土偶の体～脚部の破片であるが、脚は円形で二脚の表現は無い。表面と背面に沈線で斜線・鋸歯・弧状文が施される。e3は頭部と考えられる破片である。e4は腕部と考えられる破片で、表面に単節斜行縄文が施される。e5は板状土偶の腕部破片で、表面と背面に沈線で斜線文が施される。e6は部位不明の破片である。腕部であるe1-2と5は先端付近に穿孔が1個施される。

## (2) 斧 形 土 製 品

磨製石斧のような短冊形で、横断面形が楕円形または隅丸方形となる。19点登録し、全点掲載した(掲載率100%)。基本的に頭部側に穿孔を施し先端部が平たく尖る形態となるが、穿孔の無いものもある(e29)。頭部平面形は円形(e15・20・21・22・25・29)と隅丸方形(e26)があり、隅丸方形のものは頂部断面形が窪んでいる。穿孔は、平らな面に直交して施されるものが多いが(e15・21・22・25・26・30・32・33)、併行に施すものもある(e20)。施文方法は、縄文のみ(e15・16・18・19・21～25・28・29)、隆沈線と縄文(e30)、沈線と縄文、(e19・32・33)、磨消縄文(e28)、無文(e17・27・31)がある。

## (3) 三角錐形土製品

三角柱状の形態となる土製品である。2点登録し、全点掲載した(掲載率100%)。三角錐形石製品と同じく横断面形は二等辺三角形で、側片は緩やかに弯曲する。2点とも欠損しており両側面の大きさは不明であるが、正面形は台形になると考えられる。底面には底面形と同じ形状の凹みがある。e35は、両正面に沈線と刺突列を二重に巡らせている。側面は中央の穿孔の周囲に刺突列と沈線を各一列巡らせている。底面にも沈線と刺突列が施されている。e36は側面付近のみの破片である。中央に穿孔した後、斜行縄文と原体側面圧痕を施している。

#### (4) 装身具類

管玉・垂飾具・耳環・玉(土玉・飾り玉)・有孔円盤がある。垂飾具(e 38)は平面形が長楕円形になると考えられ、石製品と同形態である。縄文を施文した後に穿孔の周囲に沈線を巡らせている。耳環は円盤形(e 41・42)と鼓形(e 39・43)があり、円盤形は表裏面に沈線が施されるが、鼓形は無文である。土玉は横断面形が算盤玉形(e 44~47)・円形(e 49~54)・台形(e 48)があり、算盤玉形と台形は大型である。飾り玉は扁平球形(e 61)とドーナツ形(e 62)があり、片面に貫通しない穿孔が多数施される。

#### (5) ミニチュア土器

小型の土器との判別は難しいが、おおよそ器高11cmまでのものをミニチュア土器とし、56点掲載した。ナデ調整のみを施した手づくね成形のもの(e 86~89・91・125)と同時期の器種を小型化したものがある。後者には大木8a~10式古段階の文様構成をもつものが確認できる。用途については不明であるが、ススコゲが付着しているものも一定量確認されている。

### 6 台形土器(第28表、第2379・380図、写真図版523)

脚付深鉢の脚部の可能性があるものを含めて22点を登録、全点掲載した。不明な1点を除いて阿部昭典の分類(阿部2017)の1~4類に該当するものが確認できる。いずれも円孔を持つものをa類、持たないものをb類としているが、今回は細分はしていない。

- 1類…有脚で鐏の無い円筒形(台形)で、9点が該当する(f 6・10・12~14・17~20)。受け面よりも脚端部の径が大きく、器高と脚部径の比率は1.0に近い数値(0.8~1.25)となる。
- 2類…有脚で鐏の無い円筒形(台形)で、6点が該当する(f 3・4・8・11・21・22)。器高と受け面の比率が0.5前後となり、受け面径に比べて器高が低くなる。
- 3類…受け面が広く、鐏が付いて円卓状となる形態で、4点が該当する(f 1・2・9・15)。器高と受け面径の比率が0.4前後となる。
- 4類…受け面が広く、鐏が付いて円卓状となる形態で、2点が該当する(f 5・7)。器高は非常に低く、器高と受け面径の比率は0.1~0.3となる。

### 7 土器片円盤(第27表、第2381~387図、写真図版524~528)

土器の周辺を打ち欠きまたは研磨して作成された円盤状の土製品である。ただし、今回は平面形状が円形のものだけではなく、方形・三角形・不整形のものも含めている。536点出土しており、206点掲載した(掲載率38.2%)。なお、残存状態については、1/3以上欠損しているものは「欠損」、それ以下のものは「一部欠」とした。穿孔が施されているものは53点で、全体の約10%程度である。内訳は貫通しているものが33点、未貫通のものが20点である。基本的には1個のみ穿孔されるが、g 8・165のように複数穿孔されるものもある。側面加工の有無については、全体の50%以上加工しているものが159点、50%以下のものが272点、加工されていないものが104点であり、部分的に加工するものが50%を占めている。

## 8 土製支脚 (第31表、第2-380図、写真図版529)

約10点出土しているが、被熱や風化により取り上げ前に復元不能な状態で出土したものが多く、図示できたものは2点のみである (h1・2)。

## 9 金属製品 (第29表、第2-388・389図、写真図版529・530)

## (1) 鉄製品

刀子・馬具・鎌・釘・鈎・鎌・鍋が出土しており、18点掲載した。このうち刀子・馬具・鎌・鈎針・鎌は古代、釘・鍋は近世に属すると考えられる。ここでは主要なものについて記載する。

**刀子** 可能性があるものを含めて7点掲載した (i1・2・4・5・9・11・12)。横幅の偏差はあるが、いずれも刃部横断面形は逆三角形、柄部横断面形は長方形である。関部が確認できたもの少ないが、i1は両角関、i5・9は斜め片関である。

**馬具** 引手と鍔吊金具があり、各1点掲載した (i6・13)。引手は、轡の一部で銜の先に取り付けられて手綱を連結する為の道具である。i6は両端に環を持つ棒状の一本引手で、引手壺は「く」の字状に屈曲する。また、引手壺の中央で合わせ目が確認できる。鍔吊金具は、鍔の本体と兵庫鎖を連結する為の道具で、木芯金属張三角錐形鍔の一部分である。i13は一本の鉄棒を逆台形状に曲げ、一端を扁平な板状、もう一端を横断面形が「く」の字状になる板状に成形している。錆により塞がれているが、扁平な側には端部に穿孔が1個確認できる。

**鎌** 2点掲載した (i7・8)。いずれも無頸鑿根鎌であるが、i7は先端部が錐状で横断面形が方形に近く、i8は横断面形が長方形となる。茎部には柄部の木質が残存している。

**鈎** 1点掲載した (i10)。一本の鉄棒をU字状に曲げ、先端部には返しが付けれらる。

## (2) 銅製品

鈎帯金具・煙管・銭貨が出土しており、6点掲載した (i3・20～24)。i3は鈎帯金具の巡方で、下半部を若干欠損している。表金具のみで、裏金具は確認されていない。外面には布状の付着物が確認されている。i20は煙管の火皿で、江戸時代後半のものと考えられる。銭貨は、i21～23が寛永通宝 (初鑄年1636年)、i24が洪武通宝 (初鑄年1368年) である。

## 10 鉄生産関連遺物 (第30表、第2-389・390図、写真図版530～532)

羽口・鉄滓・炉壁を合わせて119kg出土している。第2節で述べている通り、まず肉眼分類で羽口・鉄滓・炉壁に分類し、羽口は個体毎に登録、鉄滓についてはさらに磁石を使用して細分を行った。なお、今回の調査では鏡鉄に該当するものは出土していない。

### (1) 羽 口

中コンテナで約3箱分出土している。そのうち内外径や装着角度など羽口の使用状況がわかる個体78点を登録し、13点掲載した(j 1～13、掲載率16.7%)。支脚に転用されたものもあり、判別困難なものも多いが、中空のものは羽口とした。いずれも円筒状で、横断面形は円形である。手づくね成形で、胎土は砂粒を含む橙土上である。全体形が判明するものは1点(j 2)しかないが、今回出土した羽口の大きさの平均は、長さ15～20cm、内径3～4cm、厚さ2～4cmである。

### (2) 鉄 滓

鉄滓は、下記の3つの段階を経て分類を行っている。第一段階は、洗浄後に肉眼による大分類(羽口・鉄滓・炉壁)である。第二段階は、大分類のうち鉄滓のみの肉眼分類である。第三段階は、強力磁石を用いた磁着の有無による分類である。今回の調査では出土した鉄滓が排出されたと考えられる鉄生産関連炉が確認できなかった為、第二・三段階の分類をもとに一般的な生産工程を意識して大きく以下の3つに分類した。なお、写真のみであるが代表的なものを21点掲載しており(掲載重量6,687.7g)、そのうち4点は化学分析を行っている(第VI章第8節)。

分類1…製鉄・製錬工程で排出されたと考えられるもので、8点掲載した(j 14・19・23・26・27・30～32)。外面色調が灰～赤褐色で、光沢を持つものもある。磁着するものが若干含まれている。炉内滓・炉外流出滓がある。

分類2…精錬工程で排出されたと考えられるもので、12点掲載した(j 15～18・20・21・24・25・28・29・33・34)。外面色調が橙～赤褐色で、外面が錆化しているものが多い。磁着するものはほとんど無い。炉内滓・炉外流出滓・流出孔滓がある。

分類3…鉄塊系遺物で、1点掲載した(j 22)。色調は赤褐色で、反応は弱いが磁着する。

### (3) 炉 壁

大半が3・4号溝とその周辺からの出土で、6点掲載した(j 35～40)。スサや長石、石英等の混和物が含まれている。

## 11 陶磁器・ガラス製品(第32表、第2-391・392図)

陶磁器22点とガラス製品3点を掲載した。産地が判明するものは、k 1が狼投窯産灰軸陶器碗、k 2・3が常滑窯産陶器片口鉢、k 4が中国産青磁碗、k 5・9・10が大塚相馬産陶器碗・腰鍔、k 6が瀬戸窯産陶器刷毛目碗、k 7・8が瀬戸産陶器腰鍔、k 11が瀬戸産陶器筒形碗、k 12～16が肥前産磁器碗・皿、k 21が瀬戸産陶器香炉である。年代はk 1が9世紀後半、k 2・3が12世紀代、k 4が中世、k 5～22は18～19世紀前半代と考えられる。ガラス製品は、k 23がウズラ酢、k 24がヤクルトの瓶、k 25がおはじきである。

## 12 動物遺存体

獸骨・魚骨・貝類が出土している。詳細な種別については第VII章第4節に記載している。

## VI 自然科学分析

### 1 放射性炭素年代測定

(株) 加速器分析研究所

#### 1 測定対象試料

間木戸 I 遺跡は、岩手県下閉伊郡山田町山田第 3 地割地内（北緯 39° 48' 21"、東経 141° 95' 47"）に所在する。測定対象試料は、堅穴建物・土坑・鍛冶炉から出土した木炭 10 点である（表 1）。

#### 2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

#### 3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸・アルカリ・酸（AAA: Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

#### 4 測定方法

加速器をベースとした <sup>14</sup>C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、<sup>14</sup>C の計数、<sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、<sup>14</sup>C 濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C) の測定を行う。測定では、米国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

#### 5 算出方法

- (1) δ <sup>13</sup>C は、試料炭素の <sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

- (2)  $^{14}\text{C}$ 年代 (Libby Age:yrBP) は、過去の大気中  $^{14}\text{C}$ 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 $^{14}\text{C}$ 年代は  $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 $^{14}\text{C}$ 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$ 年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の  $^{14}\text{C}$ 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の  $^{14}\text{C}$ 濃度の割合である。pMCが小さい ( $^{14}\text{C}$ が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 ( $^{14}\text{C}$ の量が標準現代炭素と同等以上) の場合 Modern とする。この値も  $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の  $^{14}\text{C}$ 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の  $^{14}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma = 95.4\%$ ) で表示される。グラフの縦軸が  $^{14}\text{C}$ 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない  $^{14}\text{C}$ 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

## 6 測定結果

測定結果を表1・2に示す。分析は3箇年にわたり実施しており、試料No.は平成26年度実施分を1~5、平成27年度実施分をH27-1・2、平成31年度実施分をH31-1~3とした。

試料の  $^{14}\text{C}$ 年代は、1・2・5・H27-2・H31-1・3が4200yrBP前後、3・4・H27-1・H31-2が1300yrBP前後の値を示した。暦年較正年代 ( $1\sigma$ ) は、1・2・H27-2・H31-3が縄文時代中期中葉~後葉頃、5・H31-1が中期中葉頃に相当する (小林編 2008)。3・4は7世紀後半から8世紀前半頃、H27-1・H31-2は8世紀前葉~9世紀中葉頃の値を示している。なお、試料H31-1が出土した鍛冶炉は平安時代の遺構と考えられるが、縄文時代中期の堅穴建物堆積土中に構築されたものであり、H31-1は先行する堅穴建物の堆積土中に含まれていた炭化物が鍛冶炉に混入した可能性がある。試料の炭素含有率はすべて約45%以上の適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

## 参考文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51(1), 337-360  
 小林 謙一 2017 縄文時代の実年代 - 土器型式編年と炭素14年代 -, 同成社  
 小林達雄 編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55(4), 1869-1887

佐原 眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分 佐原眞, ウェルナー・シュタインハウス監修, 独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所編集, ドイツ展記念概説 日本の考古学 上巻, 学生社, 14-19

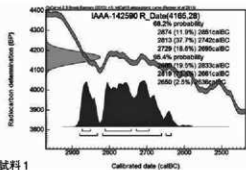
Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 (δ 13C 補正值)

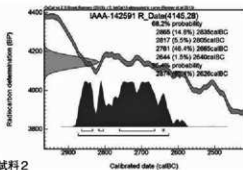
測定番号	試料 No.	採取場所	試料 形態	処理 方法	δ 13C (‰) (AMS)	δ 13C 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-142590	1	A197号型穴建物 石洞内No.1	木炭	AsA	-26.85 ± 0.41	4170 ± 30	59.54 ± 0.21
IAAA-142591	2	A49号型穴建物 炭化材 No.2	木炭	AsA	-27.26 ± 0.45	4150 ± 30	59.68 ± 0.21
IAAA-142592	3	B7号型穴建物 床面直上 炭 No.1	木炭	AAA	-25.35 ± 0.66	1290 ± 30	85.12 ± 0.27
IAAA-142593	4	B9号型穴建物 土器 No.1内	木炭	AAA	-26.87 ± 0.41	1310 ± 20	84.98 ± 0.25
IAAA-142594	5	A69号型穴建物 堆積土下位	木炭	AAA	-26.38 ± 0.66	4230 ± 30	59.09 ± 0.21
IAAA-152174	H27-1	B8号型穴建物 床面直上C-1	木炭	AAA	-25.80 ± 0.3	1230 ± 20	85.86 ± 0.26
IAAA-152175	H27-2	A165号型穴建物 ヘルト①堆積土	木炭	AAA	-27.15 ± 0.29	4170 ± 30	59.51 ± 0.19
IAAA-190039	H31-1	1号銀冶炉 焼土面直上	木炭	AAA	-27.11 ± 0.21	4280 ± 30	58.68 ± 0.20
IAAA-190040	H31-2	B1号型穴建物 カマド燃焼部	木炭	AAA	-27.60 ± 0.22	1210 ± 20	86.07 ± 0.25
IAAA-190041	H31-3	77号土坑 堆積土	木炭	AAA	-27.01 ± 0.22	4140 ± 30	59.73 ± 0.20

表2 放射性炭素年代測定結果 (δ 13C 未補正值、暦年較正用 14C 年代、較正年代)

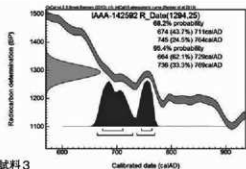
測定番号	試料 No.	δ 13C 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1σ 暦年較正範囲	2σ 暦年較正範囲
		Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142590	1	4200 ± 30	59.31 ± 0.2	4165 ± 28	2874calBC - 2854calBC (11.9%)	2890calBC - 2833calBC (19.5%)
					2813calBC - 2742calBC (37.7%)	2819calBC - 2661calBC (73.4%)
					2729calBC - 2695calBC (18.6%)	2690calBC - 2636calBC (2.5%)
IAAA-142591	2	4180 ± 30	59.41 ± 0.2	4145 ± 28	2865calBC - 2835calBC (14.8%)	2874calBC - 2826calBC (95.4%)
					2817calBC - 2805calBC (5.5%)	
					2761calBC - 2665calBC (46.4%)	
IAAA-142592	3	1300 ± 20	85.06 ± 0.24	1294 ± 25	2644calBC - 2640calBC (1.5%)	661calAD - 723calAD (62.1%)
					674calAD - 711calAD (43.7%)	
					745calAD - 764calAD (24.5%)	
IAAA-142593	4	1340 ± 20	84.66 ± 0.24	1307 ± 23	665calAD - 695calAD (43.8%)	660calAD - 722calAD (68.0%)
					703calAD - 707calAD (3.4%)	
					746calAD - 764calAD (20.9%)	
IAAA-142594	5	4250 ± 30	58.92 ± 0.19	4226 ± 28	2898calBC - 2868calBC (45.7%)	2905calBC - 2858calBC (52.2%)
					2804calBC - 2777calBC (22.5%)	2811calBC - 2751calBC (36.7%)
					2723calBC - 2701calBC (6.5%)	2723calBC - 2701calBC (6.5%)
IAAA-152174	H27-1	1240 ± 20	85.71 ± 0.25	1225 ± 24	722calAD - 740calAD (14.3%)	695calAD - 702calAD (1.8%)
					767calAD - 779calAD (9.8%)	
					790calAD - 829calAD (25.6%)	
					838calAD - 866calAD (18.5%)	
IAAA-152175	H27-2	4200 ± 30	59.25 ± 0.19	4169 ± 25	2875calBC - 2854calBC (12.0%)	2890calBC - 2835calBC (19.8%)
					2812calBC - 2746calBC (39.2%)	2817calBC - 2666calBC (75.6%)
					2726calBC - 2697calBC (17.1%)	
IAAA-190039	H31-1	4320 ± 30	58.42 ± 0.20	4282 ± 27	2909calBC - 2889calBC (68.2%)	2924calBC - 2877calBC (95.4%)
					774calAD - 778calAD (3.9%)	730calAD - 736calAD (1.7%)
IAAA-190040	H31-2	1250 ± 20	85.61 ± 0.24	1305 ± 22	789calAD - 868calAD (64.3%)	769calAD - 886calAD (93.7%)
					2862calBC - 2834calBC (14.7%)	2872calBC - 2823calBC (95.4%)
IAAA-190041	H31-3	4170 ± 30	59.48 ± 0.2	4139 ± 26	2818calBC - 2808calBC (5.1%)	
					2758calBC - 2718calBC (20.5%)	
					2707calBC - 2663calBC (23.0%)	
					2648calBC - 2636calBC (4.9%)	



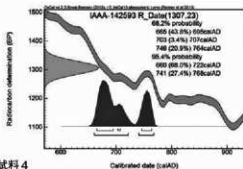
試料 1



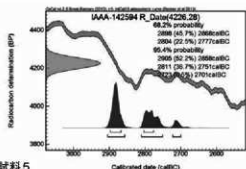
試料 2



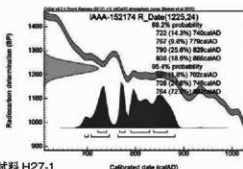
試料 3



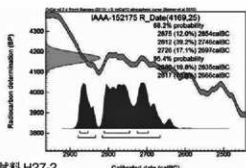
試料 4



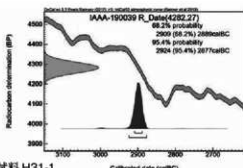
試料 5



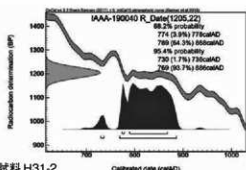
試料 H27-1



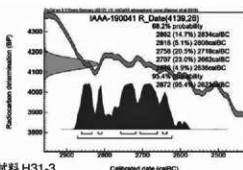
試料 H27-2



試料 H31-1



試料 H31-2



試料 H31-3



## 2 火山灰分析

株式会社火山灰考古学研究所

### はじめに

東北地方北部の三陸沿岸域の地層や土壌の中には、十和田、岩手、秋田駒ヶ岳、焼石、鳴子、肘折、愛高、沼沢などの東北地方の火山のほか、洞爺、浅間、榛名、御岳、三瓶、阿蘇、始良、鬼界など遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が数多く認められる。とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代さらに岩石記載的な特徴がテフラ・カタログ（町田・新井，1992，2003，2011）に収録されており、考古遺跡などで調査分析を行い年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、地形や地層の形成年代さらには考古遺物や遺構の年代などに関する情報を得られるようになってきている。

山田町間木戸Ⅰ遺跡の発掘調査でも火山灰の可能性が高い土層が検出されたことから、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、実験室内でテフラ分析（テフラ検出分析、テフラ組成分析、屈折率測定、EPMA分析）を実施して、すでに年代が明らかにされている指標テフラとの同定を行うことになった。

### 1 分析試料

テフラ分析の対象となった試料は、間木戸Ⅰ遺跡ⅡA7・8 x グリッドにおいてⅢ層から採取された試料1である。

### 2 テフラ検出分析

#### (1) 分析方法

試料1に含まれるテフラの量や特徴を定性的に把握するために、テフラ検出分析を実施した。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の相対的な量や特徴を観察。

#### (2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。試料から比較的粗粒な軽石やスコリアは検出されなかったものの、火山ガラスが比較的多く検出された。火山ガラスは、無色透明の繊維束状軽石型である。不透明鉱物（おもに磁鉄鉱）以外の重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、少量の角閃石や黒雲母が認められる。

### 3 テフラ組成分析（火山ガラス比分析・重鉱物組成分析）

#### （1）分析 方法

試料1を対象に、火山ガラスの色調・形態別含有率と、重鉱物や軽鉱物の含有率を合わせて求める火山ガラス比分析と、重鉱物組成分析（火山ガラス比分析と合わせてテフラ組成分析とする）を実施して、火山ガラスの色調・形態別含有率を求め、重鉱物組成上の特徴を定量的に明らかにした。分析の手順は次のとおりである。

- 1) 試料 25 g を秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°C で恒温乾燥。
- 4) 分析篩により 1/4 ~ 1/8mm と 1/8 ~ 1/16mm の粒子を篩別。
- 5) 偏光顕微鏡下で 1/4 ~ 1/8mm 径の 250 粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別含有率ならびに軽鉱物や重鉱物の含有率を求める（火山ガラス比分析）。
- 6) 偏光顕微鏡下で 1/4 ~ 1/8mm 径の重鉱物 250 粒子を観察し、重鉱物組成を求める（重鉱物組成分析）。

#### （2）分析 結果

テフラ組成分析の結果を図1に、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析の結果を表2と表3に示す。試料1における火山ガラス、軽鉱物、重鉱物の含有率は、順に8.8%、71.2%、13.2%で、軽鉱物の含有率が高い。この試料に含まれる火山ガラスは、含有率が高い順に、分厚い中間型ガラス（5.2%）、スポンジ状軽石型（2.8%）、繊維束状軽石型および無色透明パブル型（各0.4%）である。不透明鉱物（おもに磁鉄鉱）をのぞく重鉱物としては、順に斜方輝石（38.4%）、単斜輝石（17.6%）、角閃石（6.8%）、黒雲母（3.2%）が認められる。斜方輝石の中には、火山ガラスが付着したものがある。

### 4 屈折率測定（火山ガラス・斜方輝石）

#### （1）測定 方法

試料1に含まれる火山ガラスの屈折率測定を行って、指標テフラとの同定精度の向上を図った。測定対象は1/8 ~ 1/16mmの火山ガラスで、温度変化型屈折率測定法（壇原, 1993）に従って測定を実施した。

#### （2）測定 結果

屈折率の測定結果を表4に示す。この表には、岩手県域の後期更新世後半以降の代表的指標テフラの火山ガラスおよび斜方輝石の屈折率特性も合わせて示した。試料1に含まれる火山ガラス（30粒子）と斜方輝石（31粒子）の屈折率は、それぞれ  $n$  : 1.511-1.514 と  $\gamma$  : 1.700-1.713 である。

## 5 EPMA 分析 (火山ガラスの主成分分析)

### (1) 分析 方法

指標テフラとの同定確度をさらに向上させるため、個々の粒子の些少な領域の主成分組成を明らかにできる EPMA 分析を実施した。分析対象は、偏光顕微鏡下で 1/4 ~ 1/8mm 粒子の中から手選した火山ガラスである。また、分析に使用した電子線プローブマイクロアナライザ (EPMA) は、山形大学理学部の日本電子 JXA8600MWDS 型 EPMA である。加速電圧 15kV、照射電流 0.01  $\mu$  A、ビーム径 10  $\mu$  m の条件で行った。なお、補正には Oxide ZAF 法を用いた。

### (2) 分析 結果

試料 1 に含まれる火山ガラスの EPMA による主成分分析の結果を表 5 に、試料 1 と指標テフラに含まれる火山ガラスの主成分組成を表 6 に示す。

試料 1 に含まれる火山ガラスの主成分のばらつきはさほどではなく、遺跡周辺に降灰している指標テフラと比較すると、SiO<sub>2</sub> および K<sub>2</sub>O に乏しく、逆に TiO<sub>2</sub>、Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、FeO\*、MgO、CaO、Na<sub>2</sub>O を多く含むことが明らかになった。

## 6 考 察

試料 1 (II A 7・8 x グリッド・Ⅲ層) に比較的多く含まれる火山ガラスは、その形態、屈折率特性、さらに主成分組成から、約 6,000 年前の十和田中振テフラ (To-Cu、大池ほか、1966、早川 1983、町田・新井、1992、2003、2011) に由来すると考えられる。重鉱物も、斜方輝石や単斜輝石が多いことや、斜方輝石の屈折率特性から、多くは To-Cu に由来する可能性が高い。

ただし、試料 1 から得られた斜方輝石の屈折率は、To-Cu の値より range が広く、To-Cu 以外に由来するものも含まれている可能性が高い。少量ながら検出された角閃石や黒雲母も、本来 To-Cu の本質物質では記載されていないことから、やはり To-Cu 以外のものと推定される。分析者が実際に現地で試料採取を実施していないことから原因の詳細は不明であるが、試料採取時の混入物の可能性が高い。

いずれにしても、試料の純度は非常に高いとはいえないものの、試料に含まれる多くのテフラ粒子は To-Cu と考えられる。

### ま と め

山田町間木戸 I 遺跡で採取されたテフラ分析用試料 (試料 1) を対象として、テフラ検出分析、テフラ組成分析 (火山ガラス比分析・重鉱物組成分析)、火山ガラスおよび鉱物の屈折率測定、さらに火山ガラスの EPMA 分析を実施した。その結果、分析対象となった試料 1 (II A 7・8 x グリッド・Ⅲ層) に、十和田中振テフラ (To-Cu、約 6,000 年前) に由来するテフラ粒子が多く含まれていることが明らかになった。

## 参考文献

- 青木かおり・新井房夫 (2000) 三陸沖改訂コア KH93, LM-8 の後期更新世テフラ層序, 第四紀研究, 39, p.107-120.
- 新井房夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究, 第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法, 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法 2」, p.136-149.
- 増草 徹 (1993) 温度変化型屈折率測定法, 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法 2」, 東京大学出版会, p.149-158.
- 早川由紀夫 (1983) 十和田中振テフラ層の分布, 粒度, 組成, 年代, 火山, 28, p.263-273.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 「火山灰アトラス」, 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫 (2003) 「新編火山灰アトラス」, 東京大学出版会, 336p.
- 町田 洋・新井房夫 (2011) 「新編火山灰アトラス (第2編)」, 東京大学出版会, 336p.
- 大池昭二・中川久夫・七崎 修・松山 力・米倉伸之 (1966) 馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰, 第四紀研究, 5, p.29-35.

表1 テフラ検出分析結果

試料 (採取地点)	軽石・スコリア		火山ガラス			重鉱物 (不透明鉱物以外)
	量	色調	量	形態	色調	
開木川1遺跡-試料1 (B A 7・8 x グリッド・並層)				pm (f, h)	無色透明, 白	opx, cpx, (am, bi)

\*\*\*: (と)に多い, (\*\*)に多い, (\*)に中程度, (△)に少ない, bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型, sc:スコリア型, sp:スポンジ状, fb:繊維束状, ol:カンラン石, opx:斜方輝石, cpx:斜方輝石, am:角閃石, bi:黒雲母, ( ):量が少ないことを示す。

表2 火山ガラス比分析結果

試料 (採取地点)	火山ガラス						軽鉱物	重鉱物	その他	合計
	bw (cl)	bw (ph)	bw (br)	md	pm (sp)	pm (fb)				
開木川1遺跡-試料1 (B A 7・8 x グリッド・並層)	1	0	0	13	7	1	178	33	17	250

bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型, sc:スコリア型, cl:無色透明, ph:淡褐色, br:褐色, sp:スポンジ状, fb:繊維束状, 数字は粒子数。

表3 重鉱物組成分析結果

試料 (採取地点)	ol	opx	cpx	am	bi	spq	その他	合計
試料1 (B A 7・8 x グリッド・並層)	0	96	44	17	8	79	6	250

ol:カンラン石, opx:斜方輝石, cpx:斜方輝石, am:角閃石, bi:黒雲母, o p q:不透明鉱物(黒色で光沢をもつもの), 数字は粒子数。

表5 試料1に含まれる火山ガラスのEPMA分析結果

試料1	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	total
1	74.93	0.41	13.45	2.27	0.08	0.62	2.80	3.96	1.30	0.18	100.00
2	75.16	0.40	13.35	2.41	0.08	0.65	2.55	3.94	1.32	0.14	100.00
3	75.39	0.41	12.87	2.41	0.12	0.55	2.77	3.94	1.29	0.15	100.00
4	74.78	0.48	13.48	2.58	0.09	0.60	2.71	3.85	1.32	0.11	100.00
5	75.48	0.44	13.32	2.47	0.06	0.58	2.55	3.72	1.35	0.04	100.00
6	74.67	0.49	13.48	2.57	0.12	0.61	2.80	3.79	1.36	0.11	100.00
7	74.89	0.49	13.44	2.37	0.11	0.62	2.58	3.95	1.42	0.12	100.00
8	74.61	0.47	13.41	2.50	0.09	0.66	2.88	4.01	1.33	0.04	100.00
9	75.21	0.47	13.43	2.37	0.04	0.60	2.54	3.94	1.40	0.00	100.00
10	75.13	0.48	13.60	2.54	0.07	0.65	2.62	3.94	1.13	0.05	100.00
平均値	75.03	0.45	13.38	2.45	0.08	0.61	2.66	3.90	1.33	0.09	100.00

無水に換算。

表4 屈折率測定結果

地点・試料・指標テフラ	火山ガラス		斜方輝石		文献
	屈折率 (n)	測定点数	屈折率 (γ)	測定点数	
岡本戸1遺跡・試料1	1.511-1.514	30	1.700-1.713	31	本報告
三陸沿岸地域の指標テフラ (後期更新世以降)					
十和田 a (To-a, 岩手・秋田)	1.500-1.508		1.706-1.708		町田・新井 (2011)
十和田 b (To-b)	1.496-1.508		1.705-1.708		町田・新井 (2011)
十和田中根 (To-Cu, 青森)	1.510-1.514		1.704-1.708		町田・新井 (2011)
十和田中根 (To-Cu, 岩手・秋田)	1.508-1.512		1.703-1.709		町田・新井 (2011)
十和田南部 (To-Nb)	1.512-1.517		1.708-1.718		町田・新井 (2011)
秋田駒橋沢 (Ak-Y)	未詳		1.718-1.723		町田・新井 (2011)
村折尾花沢 (Hj-O)	1.499-1.504		1.712-1.716		町田・新井 (2011)
秋田駒小岩井 (Ak-K)	未詳		1.708-1.712		町田・新井 (2011)
十和田八戸 (To-H)	1.505-1.509		1.705-1.708		町田・新井 (2011)
浅間板鼻黄色 (As-YP)	1.501-1.505				町田・新井 (2011)
鴨子馬沼上原 (Nk-U)	1.492-1.500		1.711-1.715		町田・新井 (2011)
始良 Tn (AT)	1.498-1.501				町田・新井 (2011)
十和田大不動 (To-Of)	1.505-1.511		1.707-1.711		町田・新井 (2011)
西岩手雪浦・生田 (Iw-Y, Od)	1.508-1.508		1.721-1.726		町田・新井 (2011)
鴨子橋沢 (Nr-Y)	1.500-1.503		1.717-1.722		町田・新井 (2011)
鏡石山形 (Yk-Y)	1.501-1.503		1.720-1.725		町田・新井 (2011)
鏡石村崎野 (Yk-M)	1.503-1.508		1.717-1.722		町田・新井 (2011)
阿蘇 4 (Aso-4)	1.506-1.510				町田・新井 (2011)
鴨子薮取 (Nr-N)	1.500-1.502		1.724-1.728		町田・新井 (2011)
村折北原 (Hj-Kh)	1.499-1.502		1.728-1.733		町田・新井 (2011)
三瓶木次 (SK)	1.496-1.498				町田・新井 (2011)
洞爺 (Toya)	1.494-1.498				町田・新井 (2011)

本報告における屈折率の測定は、温度変化型屈折率測定法(植原, 1993)による。

テフラ・カタラジ(町田・新井, 2011)の屈折率測定は、温度一定型屈折率測定法(新井, 1992, 1993)による。

表6 テフラ試料と約3万年前以降の指標テフラに含まれる火山ガラスの主成分化学組成

地点・試料	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	備考
岡本戸1遺跡・試料1	75.03	0.45	13.38	2.45	0.08	0.61	2.66	3.90	1.33	0.99	本報告
指標テフラ											
To-a	77.87	0.37	12.81	1.75	0.10	0.42	2.00	3.29	1.34		1)
Nm-N	78.10	0.24	12.10	1.14	0.09	0.19	1.34	3.35	3.45		2)
To-Cu	75.08	0.44	13.28	2.46	0.08	0.63	2.63	4.04	1.29		1)
K-Ah	75.24	0.53	12.85	2.42	0.08	0.47	2.02	3.32	3.00		1)
Hj-O	77.79	0.16	12.76	1.05	記載なし	0.44	1.09	3.61	3.10		2)
To-H (pd) 上部	78.30	0.29	12.67	1.52	0.06	0.29	1.73	3.84	1.30		2)
To-H (pd) 下部	76.38	0.40	13.43	1.90	0.11	0.44	2.22	3.88	1.24		2)
As-YP	78.15	0.27	11.99	1.33	0.04	0.26	1.30	3.72	2.89		1)
Nr-KU	77.98	0.22	12.28	1.22	記載なし	1.01	1.59	4.23	1.47		2)
AT	78.25	0.13	12.14	1.36	0.04	0.11	1.09	3.41	3.56	0.02	1)
To-Of (pd)	77.82	0.36	12.45	1.88	0.08	0.33	1.87	3.97	1.25		2)

無水に換算, 1)八木(未公表), 2)青木・新井(2000)。

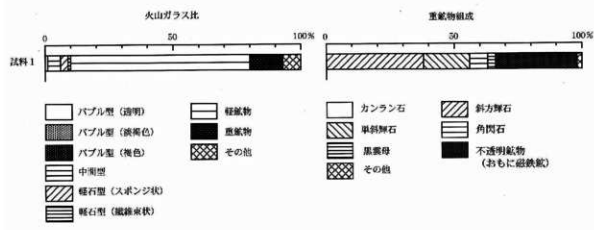


図1 間木戸I遺跡のテフラ組成ダイヤグラム



写真1 試料1

中央左 (暗色塊状) : 中間型ガラス。

中央右 (有色鉱物) : 斜方輝石。

中央下 : 角閃石。



写真2 試料1

中央下 : スポンジ状軽石型ガラス。

中央 (有色鉱物) : 斜方輝石  
(ガラス付着)

左上 (有色鉱物) : 角閃石。

## 3 炭化材樹種同定

吉川純子（古代の森研究会）

## はじめに

間木戸1遺跡は、山田町山田第3地割の海岸線から500mほど内陸に入った丘陵の南側斜面部裾部に立地している。本遺跡では縄文時代中期とされる竪穴建物群と平安時代と考えられる竪穴建物集落跡が検出され、平安時代の焼失家屋とみられる竪穴建物で炭化材が多く検出された。そこで当時の建物構築材等の木材利用状況を調査する目的で分析をおこなった。なお、縄文時代中期の炭化材検出建物は焼失かどうか不明である。今回分析に供した試料は10試料で、平安時代とみられるB7竪穴建物から4試料、B8号竪穴建物から5試料、縄文時代中期中～後葉とみられるA197号竪穴建物から1試料となっている。なお、試料に複数の破片があるものは個々の破片を観察し、異なる樹種の場合は2種を記した。炭化材は自然乾燥後に剃刀で横断面、放射断面、接線断面の3方向に割り実体顕微鏡及び反射光式顕微鏡で同定した。

## 同定結果及び考察

本遺跡の住居跡から出土した炭化材同定結果を表1に示した。2種類の炭化材片が含まれていたのは3試料で計13点を同定し、7点がコナラ属コナラ節と最も多く、クリが3点、ケヤキ、ハコヤナギ属、不明散孔材がそれぞれ1点ずつであった。以下に出土した炭化材の形態記載をおこなう。

ハコヤナギ属 (*Populus*): 年輪内にやや小さい道管が単独ないし2.3個放射方向に複合して年輪内にほぼ均等に分布する散孔材で晩材部ではやや径を減じ年輪界は比較的明瞭である。道管は単穿孔で側壁には交互壁孔がみられ、道管放射組織間壁孔は比較的大きなふるい状となる。放射組織は単列で同性。

クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.): 年輪はじめに大きい道管がほぼ単独で数列配列しその後径が急減して薄壁の角張った小管孔が火炎状に配列する環孔材。道管は単穿孔を有し、放射組織は平伏細胞のみの同性で単列である。

コナラ属コナラ節 (*Quercus* sect. *Prinus*): 年輪はじめに大きい道管がほぼ単独で数列配列しその後径が急減して波状ないし火炎状に配列する環孔材で小管孔は薄壁で角張っている。道管は単穿孔を有し、放射組織は平伏細胞のみの同性で、単列と幅の広い複合型の広放射組織がある。

ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino): きわめて大きい道管が年輪はじめに1列並び、急に径を減じて小さい管孔が多数集合して接線状、斜線状に連なる環孔材。道管は単穿孔で小道管内壁にらせん肥厚があり、道管放射組織間壁孔は大きいふるい状。放射組織は平伏細胞であるが上下縁辺に方形細胞が見られ異性、1.7-8細胞幅で縁辺にしばしば大きい結晶細胞がみられ、周囲はごつごつして見える。

不明散孔材: 年輪内にやや小さい道管が単独ないし2.3個放射方向に複合して年輪内にほぼ均等に分布する散孔材で晩材部ではやや径を減じ年輪界は比較的明瞭である。道管は単穿孔で側壁には交互壁孔がみられ、道管放射組織間壁孔は比較的大きなふるい状となる。放射組織は単列と時々3細胞幅

程度のものがあり、平伏細胞と方形細胞が半々くらいの異性である。

本遺跡で炭化材が出土した建物跡は焼失家屋と考えられ、炭化した木材のほとんどは建物構築材と考えられている。平安時代の炭化材全体としては約6割にコナラ節が利用され25%がクリであった。東北の平野から丘陵にかけてはコナラなどの落葉広葉樹を主体とした二次林が広く分布しており、調査が容易であることと土木建築材として優れているため利用されてきたと考えられる。建物毎ではB7号竪穴建物は同定に供した破片が大きく建築材と見られ樹種はコナラ節のみであったが、B8号竪穴建物はクリとコナラ節があり、小さい破片にケヤキ、ハコヤナギ属、散孔材があった。ケヤキは建築材にも利用するがハコヤナギ属は軽く軟らかいため通常は建築材として利用しない。不明散孔材も含め破片が小さいことから建物内に置かれていた器具類などが焼失し建築材とともに検出された可能性も考えられる。岩手県の奈良～平安時代にかけての焼失家屋における炭化材出土例では、一戸町小井田V遺跡の古墳末～平安とみられる住居構築材109点のうち約80%をコナラ節材が占める例があるが、同時期の一戸町上野遺跡ではシナノキ属やケヤキが多くコナラ節はわずか5%である例もある(伊東・山田2012)。

縄文時代中期のA197号竪穴建物から出土した炭化材はクリであり、当時の建物構築材あるいは燃料材として利用していたと考えられる。クリは縄文時代の東北地方において建築材や燃料材として多用されてきた。

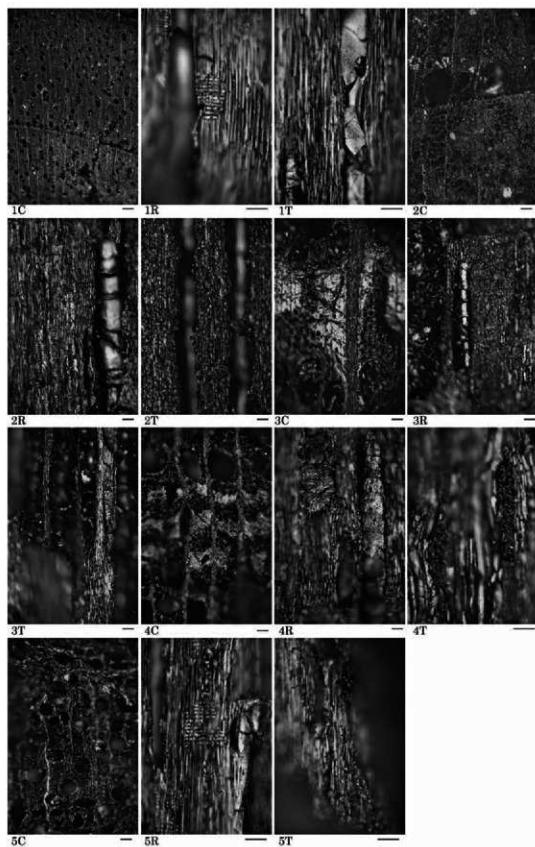
## 引用文献

伊東隆夫・山田昌久 編. 2012. 木の考古学 出土製品用材データベース, 449pp, 海青社.

表1 炭化材観察表

番号	時期	遺構	層位	状況	樹種
1	平安	B7号竪穴建物	床面直上炭化物 No.1	棒材 垂木ないし腰板用の柱	コナラ節
2	平安	B7号竪穴建物	炭化物 No.2	棒材 主柱	コナラ節
3	平安	B7号竪穴建物	炭化物 No.3	棒材 垂木ないし桁	コナラ節
4	平安	B7号竪穴建物	炭化物 No.4	棒材 垂木	コナラ節
5	平安	B8号竪穴建物	C-1	板材 腰板(取附り)	クリ ハコヤナギ属
6	平安	B8号竪穴建物	C-2	棒材 腰板を押さえる副縁(建物内面)	クリ 散孔材
7	平安	B8号竪穴建物	C-3	棒材 腰板用の柱	コナラ節
8	平安	B8号竪穴建物	C-4	板材 腰板(横貼り)ないし板床ないし腰板を押さえる副縁(建物内側)	コナラ節
9	平安	B8号竪穴建物	C-5	棒材 主柱ないしサスないし垂木	コナラ節
10	縄文中期	A197号竪穴建物	炭化物 No.4		ケヤキ クリ





1. ハコヤナギ属 (No.5) 2. クリ (No.5) 3. コナラ属コナラ節 (No.2) 4. ケヤキ (No.9) 5. 不明散孔材 (No.6)  
C: 横断面, R: 放射断面, T: 接線断面, スケールは 0.1mm

図版 1 岡木戸 I 遺跡から出土した炭化材の顕微鏡写真

## 4 動物遺存体分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

岡木戸Ⅰ遺跡（岩手県下閉伊郡山田町第3地割ほかに所在）は、丘陵地の尾根上から斜面部にかけて位置し、縄文時代の竪穴建物、フラスコ状土坑、古代の竪穴建物や溝等が検出されている。今回、調査区内から出土した動物遺体について、その種類を明らかにするため骨貝類同定を実施した。

### 1 試料

試料は、古代の竪穴建物、縄文時代の土坑、近世の溝から採取された骨貝類12試料（K-1～12）である。出土地点と乾燥重量は、表1に示す。

表1 分析試料一覧

試料番号	遺構名	出土地点	乾燥重量 (g)
K-1	B3号竪穴建物		1521.05
K-2	75号土坑	2層下位	18.01
K-3	76号土坑		1019.33
K-4	76・77号土坑	7層	560.75
K-5	77号土坑		370.09
K-6	3号溝	埋積土 (B B11a グリッド付直)	130.61
K-7	3号溝	北端部埋積土	172.82
K-8	17号土坑		461.65
K-9	53号土坑	埋積土下位	39.28
K-10	26号土坑		367.17
K-11	76・77号土坑	7層	661.41
K-12	77号土坑		969.85

### 2 分析方法

試料には、砂・泥分が付着するため、乾燥重量を計測した後、軽く水洗する。自然乾燥後、試料を肉眼および実顕微鏡下で観察し、形態の特徴から種・部位を特定する。必要に応じてデジタルノギスを使用して計測を行うが、貝類は完形殻のみを対象として殻長あるいは殻高を計測する。なお、貝類の生態等については、奥谷ほか（2000）、奥谷編著（2004）を参考とする。

### 3 結果

検出された種類は、腹足綱4種類（クボガイ類・スガイ・エゾタマガイ?・チヂミボラ）、二枚貝綱12種類（イガイ科・マガキ・ミルクイ・ヒメシラトリ・シラトリモドキ・イソシジミ類・マテガイ類・オニアサリ・カガミガイ・アサリ・ウチムラサキ・オノノガイ）、顎脚綱（チシマフジツボ）、硬骨魚綱10種類（フナ属・メバル類・スズキ属・ハタ類・クロダイ属・サバ属・ソウダガツオ属・カツオ?・カレイ類・カワハギ類）、鳥綱3種類（キジ類・クイナ科・サギ類）、哺乳綱6種類（ヒト・イヌ・アシカ属・ウマ・イノシシ・ニホンジカ）である（表2）。同定結果を表3、貝類の計測結果を表4・5に示す。以下、試料ごとに結果の概略を示す。

< K-1 : B3号竪穴建物 >

二枚貝類のアサリを主体として、イソシジミ類などを伴う。

< K-2 : 75号土坑 >

二枚貝類のシラトリモドキ、アサリ、オノノガイなどが検出されるが、数量的には少ない。

< K-3 : 76号土坑 >

二枚貝類のアサリを主体として、ヒメシラトリ、シラトリモドキ、イソシジミ類、マテガイ類、カ

表2 検出分類群一覧

軟体動物門 <i>Phylum Mollusca</i>	脊椎動物門 <i>Phylum Vertebrata</i>
腹足綱 <i>Class Gastropoda</i>	硬骨魚綱 <i>Class Osteichthyes</i>
前鰓亜綱 <i>Subclass Prosobranchia</i>	糸鰓亜綱 <i>Subclass Actinopterygii</i>
古腹足目 <i>Order Vetigastropoda</i>	コイ目 <i>Order Cypriniformes</i>
ニシキウスガイ科 <i>Family Trochidae</i>	コイ科 <i>Family Cyprinidae</i>
クボガイ類 <i>Chlorostoma sp.</i>	コイ亜科 <i>Subfamily Cyprininae</i>
サザエ科 <i>Family Turbinidae</i>	フナ属 <i>Genus Carassius</i>
スガイ <i>Turbo (Lunella) cornatus corensis</i>	カサゴ目 <i>Order Scorpaeniformes</i>
盤足目 <i>Order Discopoda</i>	カサゴ亜目 <i>Suborder Scorpaenoidei</i>
タマガイ科 <i>Family Naticidae</i>	フサカサゴ科 <i>Family Scorpaenidae</i>
エゾタマガイ? <i>Crypannatica andoi?</i>	メバル亜科 <i>Subfamily Sebastinae</i>
新腹足目 <i>Order Neogastropoda</i>	メバル類 <i>Gen. et. sp. indent.</i>
アツキガイ科 <i>Family Muricidae</i>	スズキ目 <i>Order Perciformes</i>
ヨウラクガイ亜科 <i>Subfamily Ocenebrinae</i>	スズキ亜目 <i>Suborder Percoidae</i>
チヂミボラ <i>Nucella lima</i>	スズキ科 <i>Family Moronidae</i>
二枚貝綱 <i>Class Bivalvia</i>	スズキ属 <i>Genus Lateolabrax</i>
翼形亜綱 <i>Subclass Pteriomophia</i>	ハタ科 <i>Family Serranidae</i>
イガイ目 <i>Order Mytiloidea</i>	ハタ類 <i>Gen. et. sp. indent.</i>
イガイ科 <i>Family Mytilidae</i>	タイ科 <i>Family Sparidae</i>
カキ目 <i>Order Ostreoida</i>	ダイ亜科 <i>Subfamily Sparinae</i>
カキ亜目 <i>Suborder Ostreina</i>	クロダイ属 <i>Genus Acanthopagrus</i>
イタボガキ科 <i>Family Ostreidae</i>	サバ亜目 <i>Suborder Scombroidei</i>
マガキ <i>Crassostrea gigas</i>	サバ科 <i>Family Scombridae</i>
異歯亜綱 <i>Subclass Heterodonta</i>	サハ属 <i>Genus Scomber</i>
マルスダレガイ目 <i>Order Veneroidea</i>	ツダガツオ属 <i>Genus Auxis</i>
バカガイ科 <i>Family Macrtridae</i>	カツオ? <i>Katsuwonus pelam</i>
ミルクイ <i>Tresus keenae</i>	カレイ目 <i>Order Pleuronectiformes</i>
ニッコウガイ科 <i>Family Tellinidae</i>	カレイ科 <i>Family Pleuronectidae</i>
ヒメシラトリ <i>Macoma incongrua</i>	カレイ類 <i>Gen. et. sp. indent.</i>
シラトリモドキ <i>Heteromacoma irus</i>	フグ目 <i>Order Tetraodontiformes</i>
シオサザナミ科 <i>Family Psammobidae</i>	フグ亜目 <i>Tetraodontoidae</i>
イソシジミ類 <i>Nuttallia sp.</i>	カワハギ科 <i>Family Monacanthidae</i>
マテガイ科 <i>Family Solenidae</i>	カワハギ類 <i>Gen. et. sp. indent.</i>
マテガイ類 <i>Gen. et. sp. indent.</i>	鳥綱 <i>Class Aves</i>
マルスダレガイ科 <i>Family Veneridae</i>	キジ目 <i>Order Galliformes</i>
オニアサリ <i>Protohaca jadoensis</i>	キジ科 <i>Family Phasianidae</i>
カガミガイ <i>Phacosoma japonicum</i>	キジ類 <i>Gen. et. sp. indent.</i>
アサリ <i>Ruditapes philippinarum</i>	ツル目 <i>Order Gruiformes</i>
ウチムラサキ <i>Saxidomus purpurata</i>	クイナ亜目 <i>Suborder Galli</i>
オオノガイ目 <i>Order Myoida</i>	クイナ科 <i>Family Rallidae</i>
オオノガイ亜目 <i>Suborder Myoida</i>	コウノトリ目 <i>Order Ciconiiformes</i>
オオノガイ科 <i>Family Myidae</i>	サギ科 <i>Family Ardeidae</i>
オオノガイ <i>Mya arenaria oonogai</i>	サギ類 <i>Gen. et. sp. indent.</i>
節足動物門 <i>Phylum Arthropoda</i>	哺乳綱 <i>Class Mammalia</i>
顎脚綱 <i>Class Maxillopoda</i>	サル目 (霊長目) <i>Order Primates</i>
顎甲亜綱 <i>Subclass Thecostraca</i>	ヒト科 <i>Family Hominidae</i>
無柄目 <i>Order Sessilia</i>	ヒト <i>Homo sapiens</i>
フジツボ亜目 <i>Balanina</i>	ネコ目 (食肉目) <i>Order Carnivora</i>
フジツボ科 <i>Family Balanidae</i>	ネコ亜目 <i>Suborder Fissipedia</i>
アカフジツボ亜科 <i>Subfamily Megabalaninae</i>	イヌ科 <i>Family Canidae</i>
チシマフジツボ <i>Balanus cariosus</i>	イヌ <i>Canis familiaris</i>
	アシカ亜目 <i>Suborder Pinnipedia</i>
	アシカ科 <i>Family Otariidae</i>
	アシカ属 <i>Genus Zalophus</i>
	ウマ目 (奇蹄目) <i>Order Perissodactyla</i>
	ウマ科 <i>Family Equidae</i>
	ウマ <i>Equus caballus</i>
	ウシ目 (偶蹄目) <i>Order Artiodactyla</i>
	イノシシ科 <i>Family Suidae</i>
	イノシシ <i>Sus scrofa</i>
	シカ科 <i>Family Cervidae</i>
	ニホンシカ <i>Cervus nippon</i>

表3 骨貝類同定結果(1)

試料番号	遺構名	種類	部位	左	右	部分	数量	換算	備考	
K-1	E3号型穴建物 (SI13)	腹足類	殻			破片	1			
		イガイ科	殻	左		破片	2			
						右	破片	1		
		イソシジミ類	殻	左		破片	4			
						右	破片	5		
		マルスダレガイ科	殻	左		破片	51			
						右	破片	36		
		アサリ	殻	左		略完	3			
					左		破片	252		
						右	略完	6		
						右	破片	279		
		オオノガイ	殻			右	破片	1		
		二枚貝類	殻				破片	675.45	g	
		貝類	殻				破片	69.67	g	
K-2	75号土坑 (SKK11)	シラトリモドキ	殻	左	右	略完	1		合貝	
						破片	5			
		シラトリモドキ	殻		右	破片	2			
		マルスダレガイ科	殻		右	破片	2			
		アサリ	殻	左		破片	1			
						右	破片	2		
		オオノガイ	殻	左		破片	1			
		二枚貝類	殻			破片	6.04	g		
						破片	3			
						破片	2			
K-3	76号土坑 (SKK12)	クボガイ類	殻			破片	2			
		スガイ	殻			略完	1			
		ヒメシラトリ	殻	左		破片	5			
					右	破片	2			
		シラトリモドキ	殻	左		破片	2			
					右	破片	2			
		イソシジミ類	殻	左		破片	2			
					右	破片	2			
		マナガイ類	殻			破片	7			
		マルスダレガイ科	殻	左		破片	91			
						右	破片	74		
		カガミガイ類	殻	左		破片	2			
		オニアサリ	殻	左		略完	2			
		アサリ	殻	左		略完	37			
					左		破片	187		
						右	略完	48		
						右	破片	221		
		ウナムラサキ	殻			右	破片	1		
		オオノガイ	殻	左		破片	1			
						右	破片	3		
		チシマフジツボ	殻			破片	1			
		二枚貝類	殻			破片	291.95	g		
						破片	0.79	g	○	
貝類	殻			破片	18.83	g				
貝類	不明			破片	1		○			
植物遺体				破片	1					
土器				破片	1					
K-4	76・77号土坑 (SKK12・13)	腹足類	殻			破片	3			
		ニシキウズガイ科	殻			破片	1			
		エゾタマガイ?	殻			破片	1			
		タマガイ科	殻			破片	1			
		ヒメシラトリ	殻	左	右	略完	1		合貝	
				左		略完	1			
					右	略完	2			

表3 骨貝類同定結果(2)

試料番号	遺構名	種類	部位	左	右	部分	数量	焼熱	備考		
K-4	76・77号土坑 (SKK12・13)	イソシジミ類	殻	左		破片	6				
					右	略完	1				
					右	破片	1				
		マテガイ類	殻	左		破片	1				
						破片	2				
		マルスダレガイ科	殻	左		破片	11				
					右	破片	15				
		オニアサリ	殻	左		略完	1				
				アサリ	殻	左		略完	31		
		左				破片	121				
			右			略完	38				
			右	破片	111						
		ウチムラサキ	殻	右		破片	1				
		オオノガイ	殻	右		破片	3				
		二枚貝類	殻			破片	107.98	g			
		貝類	殻			破片	6.68	g			
		K-5	77号土坑 (SKK13)	腕足類	殻			破片	12		
				クボガイ類	殻			破片	2		
				スガイ	蓋			略完	2		
						略完	1				
タマガイ科	殻					破片	1				
チヂミボラ	殻					略完	1				
						破片	1				
イガイ科?	殻					破片	1				
				左		破片	1				
マガキ	殻			左		破片	1				
ミルカイ	殻			左		破片	1				
				左		略完	10				
ヒメシラトリ	殻			左		破片	1				
					右	略完	8				
	右			破片	7						
シラトリモドキ	殻			左	右	略完	3		合貝		
				左		略完	2				
				左		破片	5				
					右	略完	2				
	右			破片	4						
イソシジミ類	殻			左		略完	1				
				左		破片	14				
マテガイ類	殻				右	破片	21				
				左		破片	2				
				右		破片	5				
						破片	7				
マルスダレガイ科	殻			左		破片	303				
				左		破片	2		○		
					右	破片	297				
カガミガイ	殻				右	略完	1				
カガミガイ類	殻			左		破片	1				
オニアサリ	殻			左	右	略完	1		合貝		
				左		破片	2				
					右	略完	2				
	右			破片	2						
アサリ	殻			左		略完	161				
				左		破片	768				
					右	略完	173				
					右	破片	753				
ウチムラサキ	殻			左	右	略完	1		合貝		
				左		破片	1				

表3 骨貝類同定結果 (3)

試料番号	遺構名	種類	部位	左	右	部分	数量	重量	焼熱	備考
K-5	77号土坑 (SKK13)	オオノガイ	殻	左		破片	7			
					右	破片	10			
		チシマフジツボ	殻			破片	2			
		二枚貝綱	殻			破片	956.35	g		
		貝類	殻			破片	82.23	g		
		獣類	不明			破片	1			
					破片	2			○	
K-6	3号溝 (SDK01)	ウマ	上顎第1後臼歯?		右	破片	1			
			上顎第2後臼歯?		右	破片	1			
			上顎第3後臼歯?		右	破片	1			
			上顎歯牙			破片	56			
						破片	32.61	g		
K-7	3号溝 (SDK01)	ヒト	頭蓋骨			破片	49		+	
			脳頭蓋骨			破損	1			
						破片	8			
			後頭骨			斜台部	1			
			側頭骨	左		破片	1			
			嚙形骨			破片	1			
			下顎骨		右	破片	1			M2 補立
			下顎骨?			関節突起?	1			
			第1頸椎			破片	1			
						破損	1			
K-8	17号土坑	アシカ属	上腕骨	左		破損	1			
K-9	53号土坑 (SK56)	ニホンジカ	角			破片	19	+		
			下顎骨		右	破片	1			P3-M3 補立
			基節骨			略定	1			
			中節骨			略定	1			
			大頰骨			遠位端破片	1			
		獣類	仙骨			破片	1			
			肋骨			破片	1	+		
			四肢骨			破片	4			
			肋骨/四肢骨			破片	1			
			不明				4.79	g		
K-10	76号土坑 (SKK12)	アサリ	殻	左		破片	1			
		メバル類	上擬鎖骨		右	破片	1			
		スズキ属	尾椎			略定	1			
		ハタ類	上舌骨	左		破片	1			
			尾椎			破片	1			
		ハタ類?	主嚙蓋骨		右	破片	1			
		カワハギ科	脊椎棘			破片	1			
		ソウダガツオ属	尾椎			略定	1			
		魚類	前上顎骨/歯骨			破片	1			
			前嚙蓋骨			破片	2			
			肩甲骨			破片	1			
			腹椎			破片	1			
			下尾骨			破片	2			
			棘棘等			破片	6.63	g		
			不明			破片	1.39	g		
			サギ類	大頰骨	左		近位端	1		
			タイナ科	鳥門骨		右	近位端	1		
			鳥類	桡骨			近位端破片	1		
		イノシシ	頭蓋骨	左		耳骨類	1			
			中節骨			略定	1			近位端未化石 外れ
			第2/5中足骨			略定	1			遠位端未化石 外れ
			第2/5基節骨			略定	1			近位端未化石 外れ
			第2/5中節骨			略定	1			
				略定	1			近位端未化石 外れ		
第2/5末節骨				略定	1					
末節骨			略定	1						

表3 骨貝類同定結果(4)

試料番号	遺構名	種類	部位	左	右	部分	数量	重量	備考			
K-10	76号土坑 (SKK12)	ニホンジカ	頭蓋骨		右	岩様骨	1					
			下顎第3前臼歯		右	略完	1		未出歯牙			
			下顎第4前臼歯		右	略完	1		未出歯牙			
			胸椎				椎体破片	1				
							破片	1				
			尺骨	左		近位端	1					
			第2+第3手根骨		右	略完	1					
			距骨	左		略完	1					
			中足骨			近位端欠	1			遠位端未化骨		
			基節骨			略完	2					
			中節骨			略完	1					
			末節骨			略完	1					
			ニホンジカ?	距骨		右	破片	1				
				肋骨			破片	2				
				頭蓋骨			破片	1				
		大型獣類	獣類	下顎骨?			破片	4				
				歯牙			破片	1				
				頸椎			椎体破片	1				
				胸椎			椎体板	2				
				尾椎			略完	1				
				肋骨			破片	10				
				肋骨?			破片	5				
				四肢骨			破片		13			
				肋骨/四肢骨			破片	11				
				大腸骨			近位端	1			未化骨骨端	
				不明			破片	17.56	g			
							破片	8			○	
				不明	不明		破片	84.63	g			
				土器			破片	2				
				K-11	76・77号土坑 (SKK12・13)	マテガイ類	殻		右	破片	2	
		二枚貝類	殻						破片	1		
		スズキ属?	尾椎						略完	1		
		クロダイ属	前上顎骨				左		略完	1		
魚類	主上顎骨	左				破片	1					
	歯骨		右			破片	1					
	口蓋骨					破片	1					
	椎骨					破片	1					
	軸骨等					破片	1.41	g				
	不明					破片	0.85	g				
	イノシシ	下顎第3後臼歯				右	略完	1			未出歯牙	
		肩甲骨	左				破片	1				
		左				破片	1			幼獣		
			右			破片	1			幼獣		
第2/5中手骨/中足骨						遠位端欠	1					
第4足根骨			右			略完	1					
第2/5基節骨						略完	2					
第2/5中節骨						略完	1					
ニホンジカ		角					破片	1				
		下顎骨	左				下顎枝	1				
			右			下顎枝欠	1			P2-M2 積立・M3 途中		
	胸椎					略完	1			椎体板未化骨		
						破損	1			椎体板未化骨		
	上顎骨		右			遠位端	1			Isd.44.12		
	尺橈手根骨	左				略完	1					
	第2+第3手根骨	左				破片	1					
	中手骨/中足骨					遠位端破片	2					
	大腸骨		右			遠位端破片	1					

表3 骨貝類同定結果 (5)

試料番号	遺構名	種類	部位	左	右	部分	数量	g	g	焼熱	備考			
K-11	76・77号土坑 (SKK12・13)	ニホンシカ	距骨	左		略完	1							
			中足骨			右	近位端	1						
								破片	2					
			基節骨					略完	1					
			中節骨					略完	1					
			肋骨					破片	13					
			踵骨	左				破片	1					
			獣類	椎骨					椎体板	2				
									椎体破片	2				
				肋骨					破片	10				
		肋骨?						破片	2					
							四肢骨	破片	15					
							肋骨/四肢骨	破片	19					
		不明					破片	55.36	g					
		不明					破片	32.51	g					
		K-12	77号土坑 (SKK13)	マガキ	殻	左		破片	1					
				貝類	殻			破片	3			○		
				フナ属	腹椎				略完	1				
				スズキ属	前上顎骨	左				破片	1			
主上顎骨						右		略完	1					
前鰓蓋骨						右		破片	1					
上眼顔骨						右		略完	2					
尾椎								略完	1					
サハ属	尾椎							略完	1					
カレイ類	腹椎						破片	1						
ハタ類	角舌骨					右		破片	1					
	主鰓蓋骨			左				破片	1					
						右		破片	1					
				尾椎				略完	1					
カワハギ科	尾椎						略完	1						
カツオ?	前上顎骨					右		破片	1					
ソウダガツオ属?	椎骨							破片	1					
魚類	前上顎骨/歯骨							破片	2					
	咽頭骨							破片	1					
	前鰓蓋骨							破片	1					
	腹椎							破片	1					
	終尾椎							略完	2					
	椎骨							破片	6					
	棘棘等							破片	12.11	g				
	不明							破片	5.79	g				
	キジ類			枕骨	左				近位端欠	1				
							右		近位端欠	1				
キジ類?	枕骨			左				近位端	1					
鳥類	上顎骨							破片	1					
	四肢骨							破片	1					
イヌ	第4中足骨			左				遠位端欠	1					
イノシシ	下顎門歯							破片	1					
	肩甲骨			左				破片	1					
	第4中手骨					右		略完	1				GL8253	
	第2/5中手骨							略完	1				遠位端未化石 94L	
	第2/5中手骨/ 中足骨							近位端欠	1				遠位端未化石 94L	
	中手骨/中足骨							遠位端	1				未化石骨端	
	中手骨/中足骨							破片	1					
	基節骨							近位端破片	1				未化石骨端	
	第2/5中節骨							略完	1					
第2/5末節骨							略完	1						



表3 骨貝類同定結果(6)

試料番号	遺構名	種類	部位	左	右	部分	数量	焼熟	備考		
K-12	77号土坑 (SKK13)	ニホンジカ	下顎骨	左		破片	1		M3破片補立		
					右	破片	1				
			下顎第4門歯		右	破片	1				
			歯牙			破片	8				
			涙骨			破片	1				
			胸椎			破損	4				椎体板未化骨 外れ
						椎体	1				椎体板未化骨 外れ
						破片	2				
			尾椎			破片	3				
			椎骨			椎体板	6				
			椎骨?			棘突起?	10				
			肋骨			右	遠位端	1			Bd.4265
			腕手根骨			右	略定	1			
			中間手根骨			右	略定	2			
			尺腕手根骨			左	略定	1			
			副手根骨			右	略定	1			
			中手骨			右	近位端	1			Bp.3146
							近位端欠	1			Bd.3516
			膝蓋骨			左	略定	1			
						右	略定	1			
			中心+第4足 根骨			左	略定	1			
						左	破損	1			
						右	略定	1			
			第2+第3足根 骨			左	略定	1			
						右	略定	1			
			中足骨			左	近位端	1			Bp.2921
			中手骨/中足骨				遠位端	1			未化骨骨端
							遠位端破片	3			
							破片	4			
			基節骨				略定	1			近位端未化骨
			中節骨				略定	2			
			第2/5中節骨				略定	1			
			末節骨				略定	3			
			第2/5末節骨				破片	1			
			第2/3種子骨				略定	2			
			第1/4種子骨				略定	1			
			大型獣類			肋骨	破片	37			
			獣類			下顎骨	破片	3			
						下顎骨?	破片	1			
						歯牙	破片	1			
						肋骨?	破片	1			
						椎骨	破片	1			
						肋骨	破片	19			
						四肢骨	破片	19			
						肋骨/四肢骨	破片	69			
						不明	破片	26.43	g		
							破片	4			○
							破片	1			赤色顔料?付着
			不明	不明			破片	154.67	g		
							破片	6			○

ガミガイ類、オニアサリ、ウチムラサキ、オオノガイなどが検出される。この他、腹足綱のクボガイ類・スガイ、チシマフジツボ、獣類の部位不明破片が検出される。これらの中には、焼けているものが含まれる。

<K-4:76・77号土坑>

二枚貝類のアサリを主体として、ヒメシラトリ、イソシジミ類、マテガイ類、オニアサリ、ウチムラサキ、オオノガイなどが検出される。この他には、腹足綱のニシキウスガイ科、タマガイ科、エゾタマガイ?が検出される。



表5 アサリ以外の計測結果

種類	試料	左右	股長	股高	種類	試料	左右	股長	股高
スゴイ	K5	-	-	23.16		K2	左右	30.27	26.43
スゴイ	K5	-	-	10.79		K5	左右	35.94	30.03
チヂミゴウ	K5	-	-	35.42		K5	左右	33.59	28.32
ヒメシタトリ	K4	左右	30.73	16.23		K5	左右	30.96	23.42
	K4	左	25.05	19.56	シタトリモドキ	K5	左	34.05	28.82
	K4	右	25.86	20.39		K5	左	32.84	25.62
	K4	右	25.48	19.43		K5	右	34.63	27.32
	K5	左	27.33	19.36		K5	右	36.1	28.41
	K5	左	25.56	20.01	イソシジメ類	K4	左	48.34	36.21
	K5	左	23.45	19.04		K5	左	49.23	41.65
	K5	左	25.93	19.8		K3	左	52.07	45.43
	K5	左	24.37	19.45		K3	左	43.17	38.79
	K5	左	22.35	17.97	オニアサリ	K4	左	33.86	31.38
	K5	左	24.18	18.81		K5	左右	38.94	36.04
	K5	左	22.84	18.9		K5	右	40.66	35.09
	K5	左	24.39	19.39		K5	右	42.66	37.13
	K5	左	22.72	18.37	カガミガイ	K5	右	54.07	51.51
	K5	右	24.85	18.24	ウナムクサキ	K5	左右	58.99	45.23
	K5	右	24.99	19.72	X				
	K5	右	24.54	19.39					
	K5	右	25.99	19.87					
	K5	右	24.85	19.62					
	K5	右	22.65	18.8					
	K5	右	22.8	18.7					
	K5	右	22.34	18.21					

&lt; K-6: 3号溝 &gt;

ウマの上顎歯牙片である。これらの歯牙の中には、右上顎第1～3後臼歯の可能性のある破片がみられる。

&lt; K-7: 3号溝 &gt;

ヒトの頭蓋骨、脳頭蓋骨、後頭骨、左側頭骨、蝶形骨、右下顎骨、第1頸椎などである。右下顎骨では、第2大臼歯が植立する。

&lt; K-8: 17号土坑 &gt;

アシカ属の左上腕骨である。部分的に破損する。

&lt; K-9: 53号土坑 &gt;

ニホンジカの角・右下顎骨・基節骨・中節骨、ニホンジカの可能性のある大腿骨遠位端片、獣類の仙骨・肋骨・四肢骨・肋骨/四肢骨などである。右下顎骨では、第3前臼歯～第3後臼歯が植立する。

&lt; K-10: 76号土坑 &gt;

骨を主体とする。メバル類の右上擬鎖骨、スズキ属の尾椎、ハタ類の左上舌骨・尾椎、ハタ類?の右主鰓蓋骨、カワハギ科の背鰭棘、ソウダガツオ属の尾椎、魚類の前上顎骨/歯骨・腹骨・前鰓蓋骨・下尾骨・肩甲骨・棘鰭等、サギ類の左大腿骨、クイナ科の右鳥口骨、鳥類の脛骨、イノシシの左頭蓋骨・第2/5中足骨・第2/5基節骨・第2/5中節骨・第2/5末節骨・末節骨、ニホンジカの右頭蓋骨・右下顎第3前臼歯・右下顎第4前臼歯・胸椎・胸椎・左尺骨・右第2+第3手根骨・左距骨・中足骨・基節骨・中節骨・末節骨、ニホンジカ?の右距骨片、大型獣類の肋骨、獣類の頭蓋骨・下顎骨?・歯牙・頸椎・胸椎・尾椎・肋骨・大腿骨・四肢骨などが検出される。また、アサリの左殻がみられる。これらの中には、焼けているものが含まれる。

なお、イノシシの第2/5中足骨・第2/5基節骨・第2/5中節骨、ニホンジカの中足骨・中節骨、獣類の大腿骨は骨端が未化骨である。また、ニホンジカの右下顎第3前臼歯・右下顎第4前臼歯は未出歯牙である。

&lt; K-11: 76・77号土坑 &gt;

スズキ属?の尾椎、クロダイ属の左上上顎骨、魚類の左上上顎骨・右歯骨・口蓋骨・椎骨・棘鰭等、イノシシの左下顎第3後臼歯・左右肩甲骨・第2/5中手骨/中足骨・右第4足根骨・第2/5基節骨・第2/5中節骨、ニホンジカの角・左右下顎骨・胸椎・右上腕骨・左尺側手根骨・左第2+第3手根骨・らの中には、焼けているものが含まれる。

なお、イノシシの第2/5中足骨・第2/5基節骨・第2/5中節骨、ニホンジカの中足骨・中節骨、獣類の大腿骨は骨端が未化骨である。また、ニホンジカの右下顎第3前臼歯・右下顎第4前臼歯は未出歯牙である。

&lt; K-11: 76・77号土坑 7層 &gt;

スズキ属?の尾椎、クロダイ属の左上上顎骨、魚類の左上上顎骨・右歯骨・口蓋骨・椎骨・棘鰭等、イノシシの左下顎第3後臼歯・左右肩甲骨・第2/5中手骨/中足骨・右第4足根骨・第2/5基節骨・

第2/5中節骨、ニホンジカの角・左右下顎骨・胸椎・右上腕骨・左尺側手根骨・左第2+第3手根骨・中手骨/中足骨・右大腿骨・左距骨・右中足骨・中足骨・基節骨・中節骨、大型獣類の肋骨・左踵骨・椎骨・肋骨・四肢骨などが検出される。またマテガイ類の右殻、二枚貝鋼の破片もみられる。

なお、イノシシの右下顎第3後臼歯は未出歯牙である。また、ニホンジカでは、右下顎骨は第2前臼歯～第2後臼歯が植立し、第3後臼歯が萌出途中であり、胸椎は椎体板が未化骨で外れる。

<K-12:77号土坑>

フナ属の腹椎、スズキ属の左上上顎骨・右上上顎骨・右前鰓蓋骨・右上疑鎖骨・尾椎、サバ属の尾椎、カレイ類の腹椎、ハタ類の右舌舌骨・左右主鰓蓋骨・尾椎、カワハギ科の尾椎、カツオ?の右上上顎骨、ソウダガツオ属?の椎骨、魚類の前上顎骨/歯骨・咽頭骨・前鰓蓋骨・腹椎・終尾椎・椎骨・棘鰭等、キジ類の左右腕骨、鳥類の上腕骨・四肢骨、イヌの左第4中足骨、イノシシの下顎門歯・左肩甲骨・右第4中手骨・第2/5中手骨・第2/5中手骨/中足骨・中手骨/中足骨・基節骨・第2/5中節骨・第2/5末節骨、ニホンジカの涙骨・左右下顎骨・右下顎第4門歯・歯牙・胸椎・尾椎・椎骨・右腕骨・右尺側手根骨・右中間手根骨・右副手根骨・左尺側手根骨・右中手骨・左右膝蓋骨・左右中心+第4足根骨・左右第2+第3足根骨・左中足骨・中手骨/中足骨・基節骨・中節骨・第2/5中節骨・末節骨・第2/5末節骨・第2/3種子骨・第1/4種子骨、大型獣類の肋骨、獣類の下顎骨・歯牙・仙骨?・椎骨・肋骨・四肢骨などが検出される。また、マガキの左殻がみられる。これらの中には、焼けているものが含まれる。

なお、イノシシやニホンジカの中手骨/中足骨、指趾骨などには骨端が未化骨のものが含まれ、ニホンジカの胸椎は、椎体板が未化骨で外れる。また、ニホンジカの左下顎骨は、第3後臼歯が破片となっているが植立する状態が確認される。なお、本試料では、種類・部位ともに不明の破片であったが、赤色顔料のようなものが付着する状態が観察される。

#### 4 考 察

本遺跡で検出される貝類の内、マルスダレガイ科としたものは、おそらくアサリの破片と思われる。そこで、遺構ごとに貝類の最小個体数を求めてみた(表6)。これで見ると、本遺跡で検出される貝類は、アサリおよびその破片と思われるマルスダレガイ科で90%以上となり、その他の種類は高くても2%以下で、大変は1%以下となる。遺構別にみると、77号土坑で最も多くの貝類が検出され、次いでB3号竪穴建物・76号土坑となる。

アサリは、北海道～九州・朝鮮半島・中国大陸沿岸に分布し、潮間帯中部～水深10mの砂礫泥底に棲息するとされている。この他の種類も、多くは同様な環境に棲息する。これらは、山田湾などの海浜部で採取され、持ち込まれたものと思われる。ただし、クボガイ類、スガイ、チヂミボラ、イガイ科など岩礁地に棲息する種類も僅かに検出されていることから、近隣の岩礁地帯にも赴いていたと考えられる。また、検出されるアサリは、大きさが比較的そろった状態にあり(図1)、殻長20～30mm程度の大きさとなっている。採取地で普通に採取できるサイズとみられ、それよりも大型のサイズはそれほど採取できなかったと考えられる。

魚類では、フナ属・メバル類・スズキ属・ハタ類・クロダイ属・サバ属・ソウダガツオ属・カツオ?・カレイ類・カワハギ類が確認された。76・77号土坑でのみ確認される。フナ属は、淡水生の魚類であり、大沢川などで捕獲されたのであろう。メバル類・ハタ類・カワハギ類が浅い岩礁地、スズキ属・クロダイ属・サバ属・カレイ類が内湾域で、ソウダガツオ沖合などで採取されたと思われる。

表6 貝類遺構別最少個体数

種類	遺構	75号 土坑	76号 土坑	76・77 号土坑	77号 土坑	3号溝	17号 土坑	53号 土坑	合計	比率 (%)
	B3号整 穴建物 試料	K-1	K-2	K-3 K-10	K-4 K-11	K-5 K-12	K-6 K-7	K-8		
クボガイ類			1		1				2	0.1%
ニシキウズガイ科				1					1	0.0%
スガイ			1		2				3	0.1%
エゾタマガイ?				1					1	0.0%
タマガイ科				1	1				2	0.1%
チヂミボラ					2				2	0.1%
イガイ科	2								2	0.1%
イガイ科?					1				1	0.0%
マガキ					2				2	0.1%
ミルカイ					1				1	0.0%
ヒメシラトリ			5	3	15				23	1.0%
シラトリモドキ			6	2	10				18	0.8%
イソシジミ類	5		2	6	21				34	1.5%
マテガイ類			1	2	5				8	0.4%
オニアサリ			2	1	5				8	0.4%
カガミガイ・カガミガイ類			2		1				3	0.1%
アサリ	285	2	269	152	929				1637	73.3%
ウチムラサキ			1	1	2				4	0.2%
マルスダレガイ科	51	2	91	15	305				464	20.8%
オオノガイ	1	1	3	3	10				18	0.8%
合計	344	11	380	186	1313	0	0	0	2234	100.0%
比率 (%)	15.4%	0.5%	17.0%	8.3%	58.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	

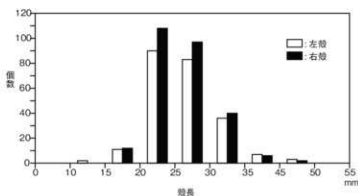


図1 アサリ殻長分布

鳥類のキジ類・クイナ科・サギ類、哺乳綱のイノシシ・ニホンジカなどは、食料資源として周辺後背地に棲息していたものが採取されたとみられる。検出される遺構が53・76・77号土坑に限定されており、これらの遺構の中に食物残渣などが廃棄されたと考えられる。種類別、遺構別に検出される破片数でみると(表7)、ニホンジカが最も多い。遺構ごとにもみると、76号土坑は最小1個体で、右下顎第3前臼歯と右下顎第4前臼歯が未出歯牙であることから25～35歳以下とみられる。77号土坑は左右中心+第4足根骨が2点みられることから最小2個体とみられ、内1体は第3後臼歯が萌出済であることから4歳以上、もう1体は四肢骨の骨端や胸椎椎体板が未化骨であることから幼～若獣と推定される。なお、76・77号土坑で右下顎骨の第3後臼歯が萌出途中であることから25～35歳程度となる。これより、前記した77号土坑で幼～若獣とした個体はこの年齢になる可能性もある。53号土坑は最小1個体で、右下顎骨の第3後臼歯が植立していることから4歳以上と考えられる。以上、ニホンジカの最小個体数は、25～35歳以下が1個体、4歳以上が2個体、幼～若獣が1個体、合計4個体となる。イノシシは、ニホンジカと比較して検出破片数は少ないが、左肩甲骨が3点検出されることから最小個体数は3個体とみられる。76・77号土坑でも中手骨/中足骨や指趾骨の骨端が未化骨であることから幼～若獣が含まれるとみ

表7 骨種種類別・遺構別破片数

種類	遺構	B3号壁 穴建物	75号 土坑	76号 土坑	76・77 号土坑	77号 土坑	3号溝	17号 土坑	53号 土坑	合計	比率 (%)
	試料	K-1	K-2	K-3 K-10	K-4 K-11	K-5 K-12	K-6 K-7	K-8	K-9		
フナ属						1				1	0.2%
メバル類				1						1	0.2%
スズキ属・スズキ属?				1	1	6				8	1.3%
ハタ類・ハタ類?				3		4				7	1.1%
クロダイ属					1					1	0.2%
サバ属						1				1	0.2%
ソウダゴツオ属・ソウダゴツオ属?				1		1				2	0.3%
カツオ?						1				1	0.2%
カレイ類						1				1	0.2%
カワハギ類				1		1				2	0.3%
魚類(鱈科等・不明除く)				7	4	13				24	3.9%
キジ類・キジ類?						3				3	0.5%
クイナ科				1						1	0.2%
サギ類				1						1	0.2%
鳥類				1		2				3	0.5%
ヒト										64	10.5%
イヌ						1				1	0.2%
アシカ属								1		1	0.2%
ウマ							59			59	9.7%
イノシシ				8	9	10				27	4.4%
ニホンジカ・ニホンジカ?				14	17	74			23	128	20.9%
大型獣類				2	14	37				53	8.7%
獣類				50	50	114			7	221	36.2%
合計		0	0	91	96	270	123	1	30	611	100.0%
比率 (%)		0.0%	0.0%	14.9%	15.7%	44.2%	20.1%	0.2%	4.9%	100.0%	

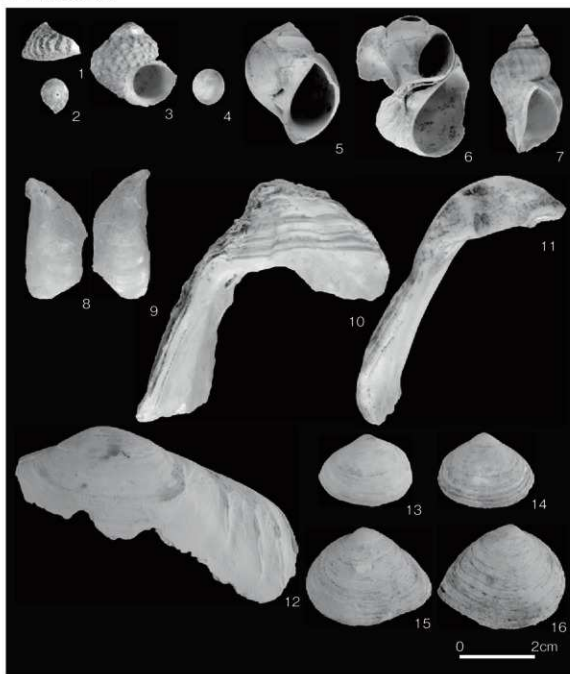
られる。残り1体は、76・77号土坑でみられる左肩甲骨の大きさから成獣の可能性がある。

ウマおよびヒトは、3号溝から出土する。ウマは、物資やヒトを運ぶ役割、軍用、農耕用など、多様な用途が考えられる。松井(1997)によると、ウマ・ウシの出土例を整理・分類すると、自然死・事故死、屠殺、犠牲に分類できるとしている。ただし、上顎歯牙のみが検出されており、部分的な検出であることから別の場所から二次的に流れ込んだ可能性もあり詳細不明である。ヒトは頭蓋および第1頸椎の破片が確認された。頭蓋では矢状縫合の外側が閉じていないものの、内側が閉塞していることから熟年(40～59歳程度)の可能性がある。また、外後頭骨突起と乳様突起が発達することから男性と判断される。アシカ属は17号土坑で左上腕骨が検出されている。沿岸部を回遊していたものを捕獲した可能性もある。ただし、76・77号土坑など他の骨や貝類などと同時に検出しておらず、食物残渣の廃棄等とは異なる取り扱いであった可能性もある。

## 引用文献

- 松井 章.1997.考古学から見た動物利用.部落開放なら82-31.  
 奥谷 喬司編著.2004.改訂新版 世界文化生物大図鑑 貝類.株式会社世界文化社.399p.  
 奥谷 喬司・窪寺 恒己・黒住 耐二・斎藤 寛・佐々木 猛智・土田 英治・土屋 光太郎・長谷川 和範・濱谷 巖・速水 格・堀 成夫・松隈 明彦.2000.日本近海産貝類図.奥谷喬司編.東海大学出版会.1173p.

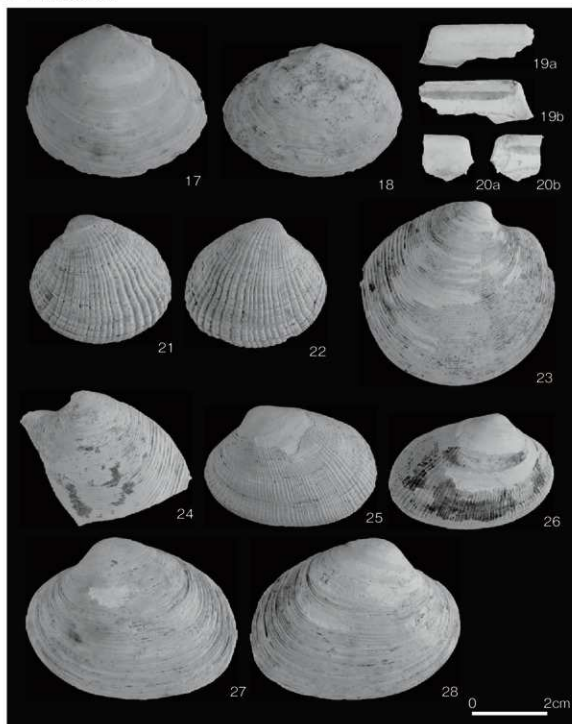
図1 出土骨貝類 (1)



1. クボガイ類殻 (K-3 : 76号土坑)
3. スガイ殻 (K-5 : 77号土坑)
5. エソタマガイ?殻 (K-4 : 76・77号土坑)
7. チヂミボラ殻 (K-5 : 77号土坑)
9. イガイ科右殻 (K-1 : B3号竪穴建物)
11. マガキ左殻 (K-12 : 77号土坑)
13. ヒメシラトリ左殻 (K-3 : 76号土坑)
15. シラトリモドキ左殻 (K-5 : 77号土坑)

2. ニシキウスガイ科殻 (K-4 : 76・77号土坑)
4. スガイ蓋 (K-5 : 77号土坑)
6. タマガイ科殻 (K-4 : 76・77号土坑)
8. イガイ科左殻 (K-1 : B3号竪穴建物)
10. マガキ左殻 (K-5 : 77号土坑)
12. ミルクイ左殻 (K-5 : 77号土坑)
14. ヒメシラトリ右殻 (K-3 : 76号土坑)
16. シラトリモドキ右殻 (K-5 : 77号土坑)

図2 出土骨貝類(2)

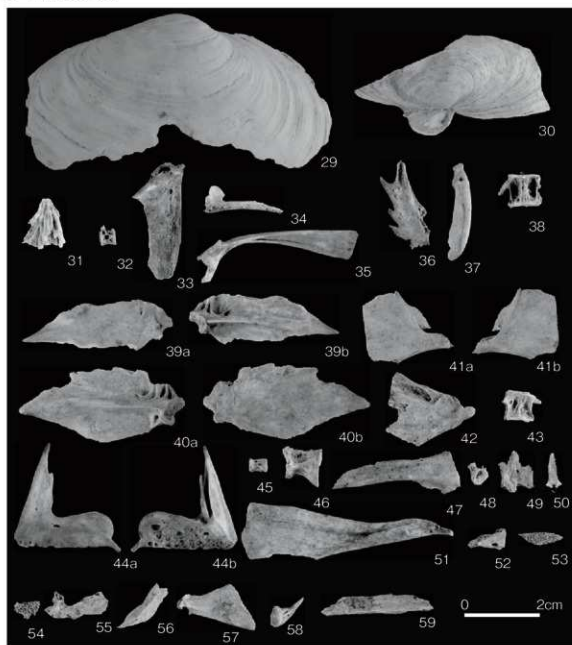


17. イソシジミ類左殻(K-5; 77号土坑)  
 19. マテガイ類左殻(K-5; 77号土坑)  
 21. オニアサリ左殻(K-5; 77号土坑)  
 23. カガミガイ右殻(K-5; 77号土坑)  
 25. アサリ左殻(K-5; 77号土坑)  
 27. ウチムラサキ左殻(K-5; 77号土坑)

18. イソシジミ類右殻(K-4; 76・77号土坑)  
 20. マテガイ類右殻(K-5; 77号土坑)  
 22. オニアサリ右殻(K-5; 77号土坑)  
 24. カガミガイ類左殻(K-5; 77号土坑)  
 26. アサリ右殻(K-5; 77号土坑)  
 28. ウチムラサキ右殻(K-5; 77号土坑)



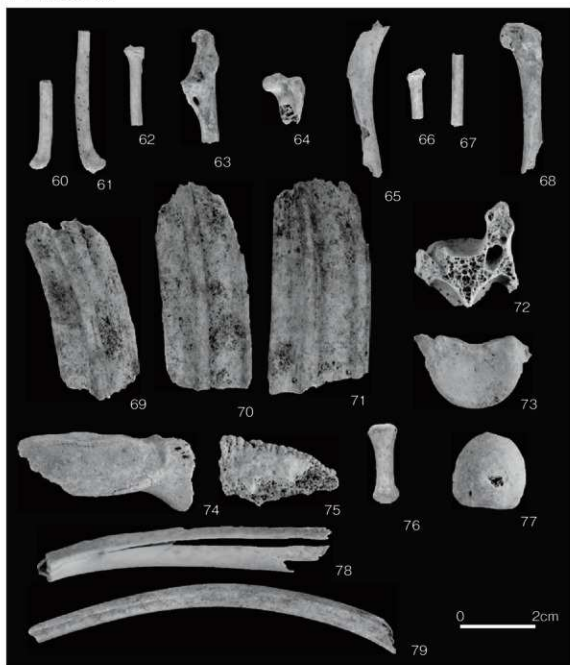
図3 出土骨貝類(3)



29. オオノガイ右殻(K-5; 77号土坑)  
 31. チシマフジツボ殻(K-3; 76号土坑)  
 33. メバル類右上擬鎖骨(K-10; 76号土坑)  
 35. スズキ属右上顎骨(K-12; 77号土坑)  
 37. スズキ属右上擬鎖骨(K-12; 77号土坑)  
 39. ハタ類左主鰓蓋骨(K-12; 77号土坑)  
 41. ハタ類右角舌骨(K-12; 77号土坑)  
 43. ハタ類尾椎(K-12; 77号土坑)  
 45. サバ属尾椎(K-12; 77号土坑)  
 47. カツオ? 右前上顎骨(K-12; 77号土坑)  
 49. カワハギ科尾椎(K-12; 77号土坑)  
 51. 魚類左上顎骨(K-11; 76・77号土坑)  
 53. 魚類口蓋骨(K-11; 76・77号土坑)  
 55. 魚類肩甲骨(K-10; 76号土坑)  
 57. 魚類下尾骨(K-10; 76号土坑)  
 59. 種類部位不明破片(K-12; 77号土坑)

30. オオノガイ左殻(K-5; 77号土坑)  
 32. フナ属腹椎(K-12; 77号土坑)  
 34. スズキ属左前上顎骨(K-12; 77号土坑)  
 36. スズキ属右前鰓蓋骨(K-12; 77号土坑)  
 38. スズキ属尾椎(K-10; 76号土坑)  
 40. ハタ類右主鰓蓋骨(K-12; 77号土坑)  
 42. ハタ類左上舌骨(K-10; 76号土坑)  
 44. クロダイ属左前上顎骨(K-11; 76・77号土坑)  
 46. ソウダガツオ属尾椎(K-10; 76号土坑)  
 48. カレイ類腹椎(K-12; 77号土坑)  
 50. カワハギ科背棘棘(K-10; 76号土坑)  
 52. 魚類右歯骨(K-11; 76・77号土坑)  
 54. 魚類頭骨(K-12; 77号土坑)  
 56. 魚類前鰓蓋骨(K-12; 77号土坑)  
 58. 魚類終尾椎(K-12; 77号土坑)

図4 出土骨貝類(4)



60. キジ類左橈骨 (K-12: 77号土坑)  
 62. キジ類?左橈骨 (K-12: 77号土坑)  
 64. サギ類左大腿骨 (K-10: 76号土坑)  
 66. 鳥類橈骨 (K-10: 76号土坑)  
 68. イヌ左第4中足骨 (K-12: 77号土坑)  
 70. ウマ右上顎第2後臼歯?(K-6: 3号溝)  
 72. 獣類頸椎 (K-10: 76号土坑)  
 74. 獣類仙骨 (K-9: 53号土坑)  
 76. 獣類尾椎 (K-10: 76号土坑)  
 78. 獣類肋骨 (K-9: 53号土坑)

61. キジ類右橈骨 (K-12: 77号土坑)  
 63. クイナ科右鳥口骨 (K-10: 76号土坑)  
 65. 鳥類上腕骨 (K-12: 77号土坑)  
 67. 鳥類四肢骨 (K-12: 77号土坑)  
 69. ウマ右上顎第3後臼歯?(K-6: 3号溝)  
 71. ウマ右上顎第1後臼歯?(K-6: 3号溝)  
 73. 獣類胸椎 (K-10: 76号土坑)  
 75. 獣類仙骨?(K-12: 77号土坑)  
 77. 獣類大腿骨 (K-10: 76号土坑)  
 79. 獣類肋骨 (K-12: 77号土坑)

図5 出土骨貝類 (5)



80. ヒト脳頭蓋骨 (K-7 : 3号溝)  
82. ヒト左側頭骨 (K-7 : 3号溝)  
84. ヒト右下顎骨 (K-7 : 3号溝)  
86. ヒト脳頭蓋骨 (K-7 : 3号溝)  
88. アシカ属左上腕骨 (K-8 : 17号土坑)

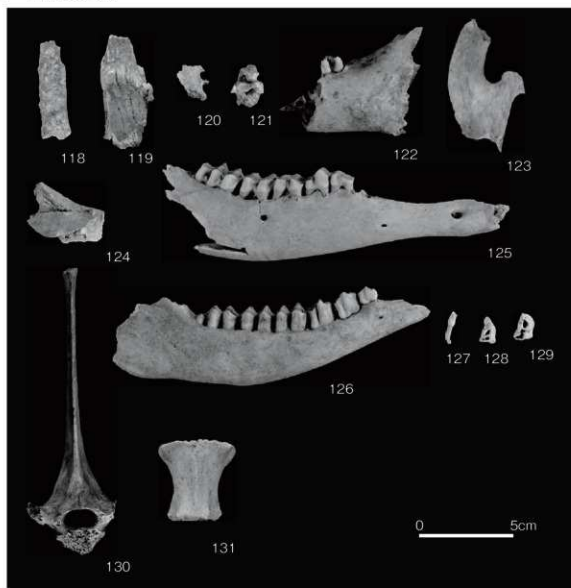
81. ヒト後頭骨 (K-7 : 3号溝)  
83. ヒト蝶形骨 (K-7 : 3号溝)  
85. ヒト下顎骨 ? (K-7 : 3号溝)  
87. ヒト第1頸椎 (K-7 : 3号溝)

図6 出土骨貝類(6)



89. イノシシ左頭蓋骨耳骨腔 (K-10; 76号土坑)  
 91. イノシシ右下顎第3後臼歯 (K-11; 76・77号土坑)  
 93. イノシシ左肩甲骨 (K-11; 76・77号土坑)  
 95. イノシシ右肩甲骨 (K-11; 76・77号土坑)  
 97. イノシシ第4中手骨 (K-12; 77号土坑)  
 99. イノシシ右第4足根骨 (K-11; 76・77号土坑)  
 101. イノシシ中手骨 / 中足骨 (K-12; 77号土坑)  
 103. イノシシ第2/5中手骨 / 中足骨 (K-11; 76・77号土坑)  
 105. イノシシ基節骨 (K-12; 77号土坑)  
 107. イノシシ第2/5基節骨 (K-10; 76号土坑)  
 109. イノシシ第2/5中節骨 (K-10; 76号土坑)  
 111. イノシシ第2/5中節骨 (K-11; 76・77号土坑)  
 113. イノシシ第2/5末節骨 (K-10; 76号土坑)  
 115. 大型獣類肋骨 (K-12; 77号土坑)  
 117. 大型獣類左踵骨 (K-11; 76・77号土坑)
90. イノシシ下顎門歯 (K-12; 77号土坑)  
 92. イノシシ左肩甲骨 (K-11; 76・77号土坑)  
 94. イノシシ左肩甲骨 (K-12; 77号土坑)  
 96. イノシシ右第4中手骨 (K-12; 77号土坑)  
 98. イノシシ第2/5中手骨 (K-12; 77号土坑)  
 100. イノシシ第2/5中足骨 (K-10; 76号土坑)  
 102. イノシシ中手骨 / 中足骨 (K-12; 77号土坑)  
 104. イノシシ第2/5中手骨 / 中足骨 (K-12; 77号土坑)  
 106. イノシシ末節骨 (K-10; 76号土坑)  
 108. イノシシ第2/5基節骨 (K-11; 76・77号土坑)  
 110. イノシシ第2/5中節骨 (K-10; 76号土坑)  
 112. イノシシ第2/5中節骨 (K-12; 77号土坑)  
 114. イノシシ第2/5末節骨 (K-12; 77号土坑)  
 116. 大型獣類肋骨 (K-10; 76号土坑)

図7 出土骨貝類(7)



118. ニホンジカ角 (K-9 ; 53 号土坑)

120. ニホンジカ涙骨 (K-12 ; 77 号土坑)

122. ニホンジカ左下顎骨 (K-12 ; 77 号土坑)

124. ニホンジカ右下顎骨 (K-12 ; 77 号土坑)

126. ニホンジカ右下顎骨 (K-11 ; 76・77 号土坑)

128. ニホンジカ右下顎第 3 前臼歯 (K-10 ; 76 号土坑)

130. ニホンジカ胸椎 (K-11 ; 76・77 号土坑)

119. ニホンジカ角 (K-11 ; 76・77 号土坑)

121. ニホンジカ右岩様骨 (K-10 ; 76 号土坑)

123. ニホンジカ左下顎骨 (K-11 ; 76・77 号土坑)

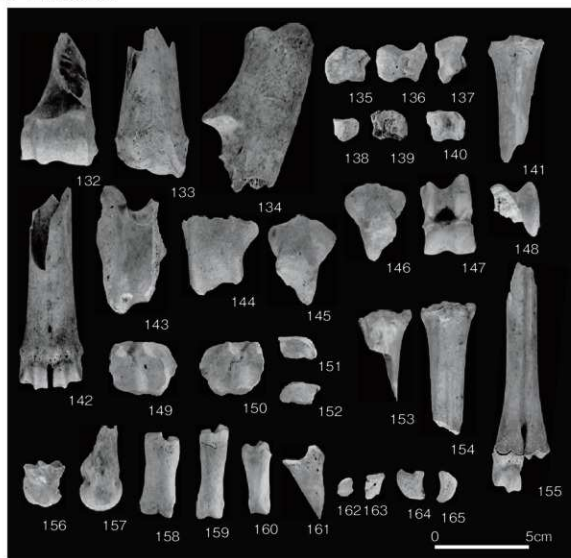
125. ニホンジカ右下顎骨 (K-9 ; 53 号土坑)

127. ニホンジカ右下顎第 4 門歯 (K-12 ; 77 号土坑)

129. ニホンジカ右下顎第 4 前臼歯 (K-10 ; 76 号土坑)

131. ニホンジカ尾椎 (K-12 ; 77 号土坑)

図8 出土骨貝類(8)



132. ニホンジカ右上腕骨 (K-11 : 76・77号土坑)  
 134. ニホンジカ左尺骨 (K-10 : 76号土坑)  
 136. ニホンジカ右橈側手根骨 (K-12 : 77号土坑)  
 138. ニホンジカ右副手根骨 (K-12 : 77号土坑)  
 140. ニホンジカ右第2+第3手根骨 (K-10 : 76号土坑)  
 142. ニホンジカ中手骨 (K-12 : 77号土坑)  
 144. ニホンジカ?大腿骨 (K-9 : 53号土坑)  
 146. ニホンジカ右膝蓋骨 (K-12 : 77号土坑)  
 148. ニホンジカ?右距骨 (K-10 : 76号土坑)  
 150. ニホンジカ右中心+第4足根骨 (K-12 : 77号土坑)  
 152. ニホンジカ右第2+第3足根骨 (K-12 : 77号土坑)  
 154. ニホンジカ右中足骨 (K-11 : 76・77号土坑)  
 156. ニホンジカ中手骨/中足骨 (K-12 : 77号土坑)  
 158. ニホンジカ基節骨 (K-9 : 53号土坑)  
 160. ニホンジカ中節骨 (K-9 : 53号土坑)  
 162. ニホンジカ第2/5中節骨 (K-12 : 77号土坑)  
 164. ニホンジカ第1/4種子骨 (K-12 : 77号土坑)
133. ニホンジカ右橈骨 (K-12 : 77号土坑)  
 135. ニホンジカ左尺側手根骨 (K-12 : 77号土坑)  
 137. ニホンジカ右中間手根骨 (K-12 : 77号土坑)  
 139. ニホンジカ左第2+第3手根骨 (K-11 : 76・77号土坑)  
 141. ニホンジカ右中手骨 (K-12 : 77号土坑)  
 143. ニホンジカ右大腿骨 (K-11 : 76・77号土坑)  
 145. ニホンジカ左膝蓋骨 (K-12 : 77号土坑)  
 147. ニホンジカ左距骨 (K-10 : 76号土坑)  
 149. ニホンジカ左中心+第4足根骨 (K-12 : 77号土坑)  
 151. ニホンジカ左第2+第3足根骨 (K-12 : 77号土坑)  
 153. ニホンジカ左中足骨 (K-12 : 77号土坑)  
 155. ニホンジカ中足骨 (K-10 : 76号土坑)  
 157. ニホンジカ中手骨/中足骨 (K-12 : 77号土坑)  
 159. ニホンジカ基節骨 (K-12 : 77号土坑)  
 161. ニホンジカ末節骨 (K-10 : 76号土坑)  
 163. ニホンジカ第2/5末節骨 (K-12 : 77号土坑)  
 165. ニホンジカ第2/3種子骨 (K-12 : 77号土坑)

## 5 黒曜石分析

### 1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製J SX-3200）で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（F P法）による自動定量計算システムが採用されており、6 C～92 Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源（最大30 k V、4 mA）の採用で微量試料～最大290mmφ×80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクF P法でおこなった。F P法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクF P法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気=真空、X線管ターゲット素材=Rh、加速電圧=30 k V、管電流=自動制御、分析時間=200秒（有効分析時間）である。

分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量=0と仮定し、酸化物の重量%を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量%では小数点以下3～4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量%）で $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ 、 $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-TiO}_2$ 、 $\text{K}_2\text{O-CaO}$ の各相関図、Rb-Srは積分強度の相関図の4組の組み合わせで図を作成した。

### 2 分析結果

第1表化学分析表には分析結果に基づいて原産地も記載してある。

第2表原産地対比表には出土遺跡の石器類の原産地が記載してある。なお、分析は平成27・28年度の二箇年で実施しており、27年度分はM・○、28年度分はZ・○及びA・○と表記した。

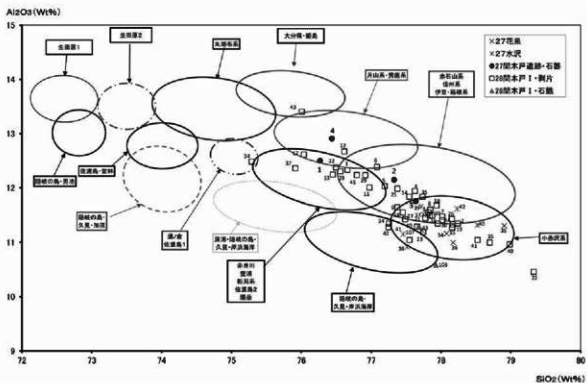
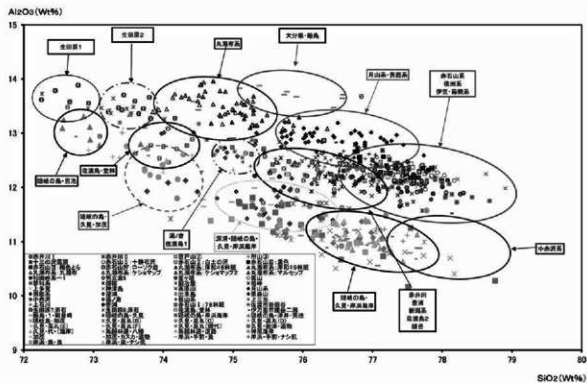
- 1) 小赤沢系とは小赤沢、花泉、水沢の礫層中の黒曜石の採石地の化学組成が同じものであるので一連のものとして小赤沢系とした。
- 2) 第2表に示すように最も多く検出されたのは小赤沢系である。全49個の分析のうち35個が該当する。Z-17とZ-22の2個は弱比熱をしている。
- 3) 男鹿系に対比されるものは8個で、Z-24は弱比熱している。
- 4) 月山系に対比されるものは3個で、Z-1とZ-43は弱比熱している。
- 5) 和田峠系2に対比されるものは3個で、Z-12とZ-13の2個は弱比熱している。

### 引用文献

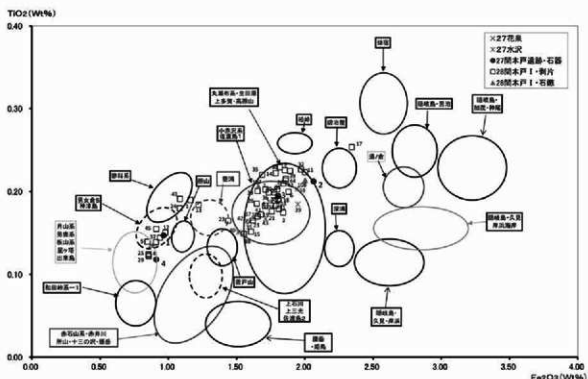
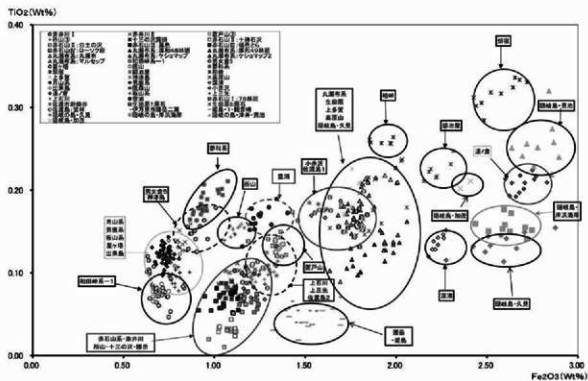
- 井上 巖 (2001) 東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光X線分析 (XRF) 北越考古学、第11号、23-38/  
井上 巖 (2001) テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第7号 23-51.



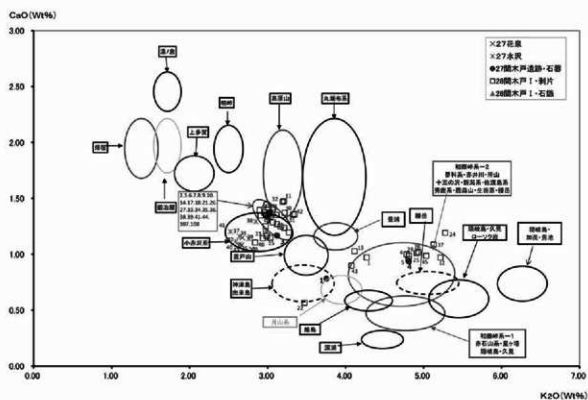
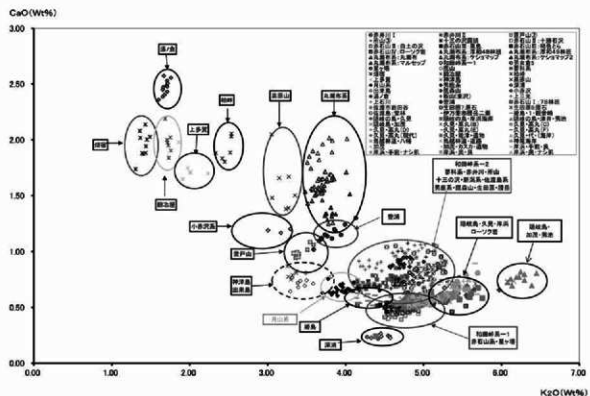




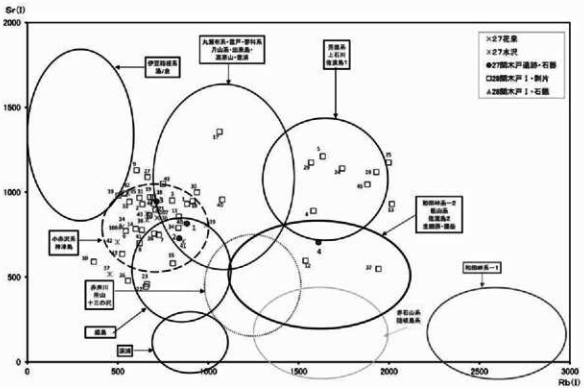
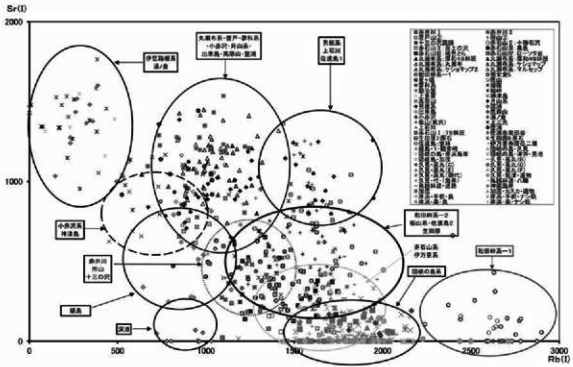
第1図 日本の黒曜石 SiO<sub>2</sub> - Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 図 (総合図)



第2図 日本の黒曜石  $Fe_2O_3 - TiO_2$  図 (総合図)



第3図 日本の黒曜石 K2O - CaO 図 (総合図)



第4図 日本の黒曜石 Rb - Sr 図 (総合図)

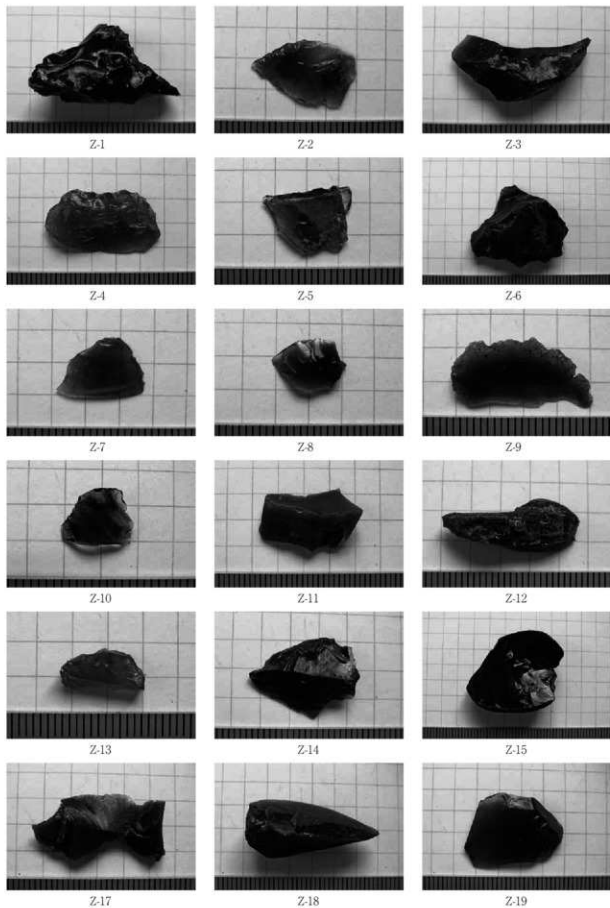


写真1 分析対象試料(1)

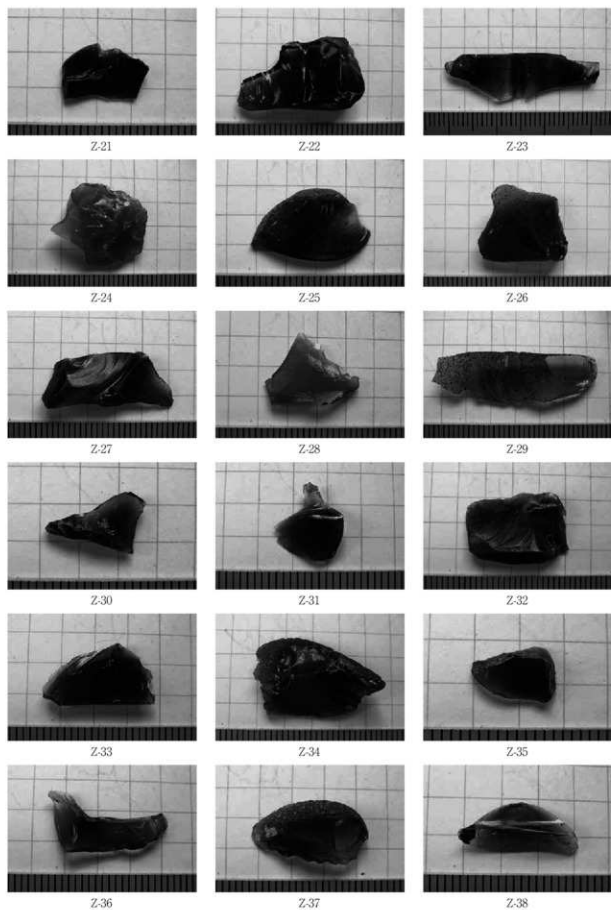
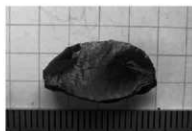
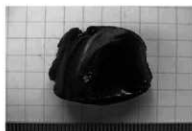


写真2 分析対象試料(2)



Z-39



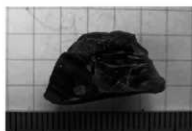
Z-40



Z-41



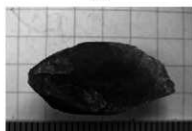
Z-42



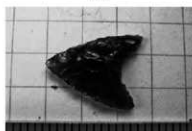
Z-43



Z-44



Z-45



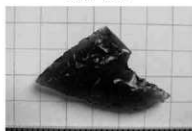
A-107 (c89)



A-108 (c75)



M-1 (c137)



M-2 (c92)



M-3 (c292)



M-4 (Z-20)

※ ( ) 内は図版掲載番号

写真3 分析対象試料(3)

第2表 原産地対比表

試料名	原産地	備考	試料名	原産地	備考
Z-2	小水沢系	調片	Z-40	小水沢系	調片
Z-3	小水沢系	調片	Z-41	小水沢系	調片
Z-6	小水沢系	調片	Z-42	小水沢系	調片
Z-7	小水沢系	調片	Z-44	小水沢系	調片
Z-8	小水沢系	調片	A-107	小水沢系	石籠
Z-9	小水沢系	調片	A-108	小水沢系	石籠
Z-10	小水沢系	調片	M-2	小水沢系	石籠
Z-11	小水沢系	調片	M-3	小水沢系	石籠
Z-14	小水沢系	調片	Z-17	小水沢系・御比熱	調片
Z-15	小水沢系	調片	Z-22	小水沢系・御比熱	調片
Z-18	小水沢系	調片	Z-4	男鹿系	調片
Z-19	小水沢系	調片	Z-5	男鹿系	調片
Z-21	小水沢系	調片	Z-25	男鹿系	調片
Z-23	小水沢系	調片	Z-28	男鹿系	調片
Z-26	小水沢系	調片	Z-29	男鹿系	調片
Z-27	小水沢系	調片	Z-45	男鹿系	調片
Z-30	小水沢系	調片	M-4	男鹿系	調片
Z-31	小水沢系	調片	Z-24	男鹿系・御比熱	調片
Z-32	小水沢系	調片	M-1	月山系	石籠
Z-33	小水沢系	調片	Z-1	月山系・御比熱	調片
Z-34	小水沢系	調片	Z-43	月山系・御比熱	調片
Z-35	小水沢系	調片	Z-37	相田峠系2	調片
Z-36	小水沢系	調片	Z-12	相田峠系2・御比熱	調片
Z-38	小水沢系	調片	Z-13	相田峠系2・御比熱	調片
Z-39	小水沢系	調片			

## 6 琥珀分析

(株)第四紀地質研究所

### 1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法(FPP法)による自動定量計算システムが採用されており、6C~92Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源(最大30kV、4mA)の採用で微量試料~最大290mmφ×80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクFPP法でおこなった。FPP法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。分析にあたっては標準サンプルを分析し、キャリブレーションを行い、装置の正常さを保って行った。

実験条件はバルクFPP法(スタンダードレス方式)、分析雰囲気=真空、X線管ターゲット素材=Rh、加速電圧=30kV、管電流=自動制御、分析時間=200秒(有効分析時間)である。

分析対象元素はAlSiSKCaCrMnFeCuAsOsAuHgPdの14元素、分析値は試料の含水量=0と仮定し、元素の重量%を100%にノーマライズし表示した。分析対象元素は自動定性で行った。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb、Sr、Y、Zrは重量%では小数点以下3~4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素の濃度(重量%)でSi-Al、S-Si、K-Caの3組の組み合わせで図を作成した。

### 2 分析試料

第1表に示すように間木戸I遺跡より出土した琥珀遺物(AM-1~3、KOH-19~24)と現地に赴き採取した久慈市琥珀博物館・琥珀、久慈市琥珀神社・琥珀、提供していただいた琥珀は久慈市滝沢(滝沢地区の滝沢氏)、久慈市・上山昭彦氏からは上山氏所有の琥珀鉾山、野田村・琥珀海岸の琥珀、いわき市・アンモナイトセンターの鈴木直氏からはいわき市琥珀である。なお、鏡子市君ヶ浜・長崎浜で採取した試料については肉眼的には琥珀に類似するが、分析値はSiO<sub>2</sub>が90%以上で組成的には瑪瑙に近く、今回の調査の琥珀類とは明らかに異なるので除外した。ただし、分析表と写真は添付した。なお、間木戸I遺跡の試料出土地点は、AM-1~3がII B 6 b グリッドII層、KOH-19~21がA131号堅穴建物床面直上、KOH-22~24がA151号堅穴建物堆積土下位である。

### 3 分析結果

#### 3-1 Si-Alの相関について

第1図Si-Al図に示すように琥珀類はSi-1~Si-5の5つの領域に分かれる。

Si-1の領域には久慈市・上山琥珀、久慈市・琥珀博物館、久慈市滝沢琥珀が集中する。



Si-2の領域にはいわき市の琥珀が集中する。

Si-3の領域には間木戸I遺跡II B 6 b グリッド及びA151号竪穴建物の琥珀遺物が集中する。

Si-4の領域には間木戸I遺跡A131号竪穴建物の琥珀遺物が集中する。

Si-5の領域には久慈市琥珀神社・琥珀が集中する。

各領域には原産地琥珀や遺物琥珀が集中し、組成的違いで分類できることが分かる。

### 3-2 S-Siの相関について

第2図S-Si図に示すように琥珀類はS1～S4の4つの領域に分かれる。

S1の領域には間木戸I遺跡A131号竪穴建物の琥珀遺物と上山琥珀（黒色）が共存する。

S2の領域には間木戸I遺跡II B 6 b グリッドの琥珀遺物と琥珀神社・琥珀が共存する。

S3の領域にはいわき市琥珀が集中する。

S4の領域には久慈市琥珀博物館・琥珀、久慈市滝沢・琥珀、上山琥珀、野田村・琥珀海岸が集中し、間木戸I遺跡A151号竪穴建物の琥珀遺物が共存する。

### 3-3 K-Caの相関について

第3図K-Ca図に示すようにK-1～K-4の4つの領域に分かれる。

K-1の領域には久慈市の原産地琥珀である琥珀博物館・琥珀、上山琥珀、久慈市滝沢・琥珀が集中する。

K-2の領域にはいわき市琥珀が集中する。

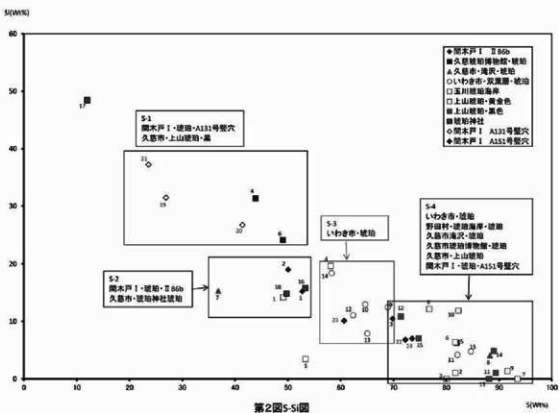
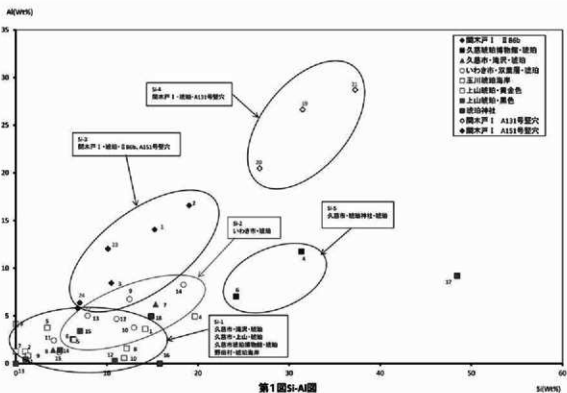
K-3の領域には間木戸I遺跡II B 6 b グリッド・A131号竪穴建物・A151号竪穴建物の琥珀遺物と琥珀神社・琥珀が共存する。

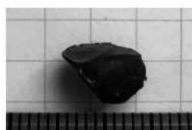
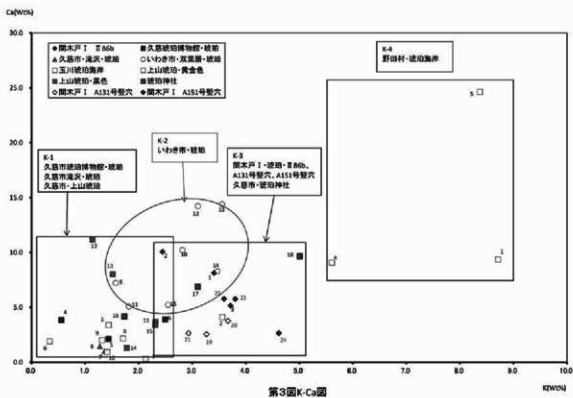
K-4の領域には野田村・琥珀海岸の琥珀が集中する。

## 4 まとめ

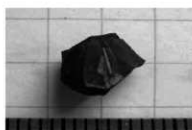
- 1) 琥珀は木の樹液が地中に樹木とともに埋没して形成されたもので、地層の続成作用の過程でゲル状の $\text{SiO}_2$ や $\text{Al}_2\text{O}_3$ 及びその他の元素が樹液にしみこみ固化していったものと推察され、その時間経過と続成作用の過程が異なれば化学組成も異なるものであると考えられる。
- 2) Si-Alの相関では間木戸I遺跡出土の琥珀遺物のうち、A131号竪穴建物とA151号竪穴建物の琥珀は異なる領域にある。久慈市、野田村、いわき市の原産地琥珀との関連はなく久慈市の異なる原産地琥珀と推察される。
- 3) いわき市・琥珀と久慈市の原産地琥珀、野田村・琥珀海岸・琥珀は各元素による分別では異なる領域にあり、分別される。



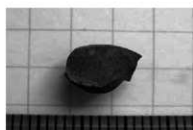




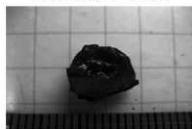
AM-1 (間木戸 I II B6b)



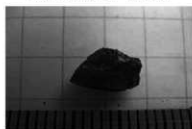
AM-2 (間木戸 I II B6b)



AM-3 (間木戸 I II B6b)



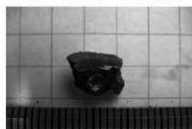
KOH-19 (間木戸 I A131号堅穴)



KOH-20 (間木戸 I A131号堅穴)



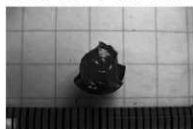
KOH-21 (間木戸 I A131号堅穴)



KOH-22 (間木戸 I A151号堅穴)

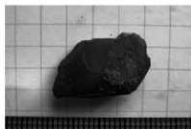


KOH-23 (間木戸 I A151号堅穴)



KOH-24 (間木戸 I A151号堅穴)

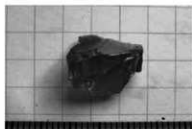
写真1 分析対象試料(1)



AM-4 (琥珀博物館-1)



AM-5 (琥珀博物館-2)



AM-6 (琥珀博物館-3)



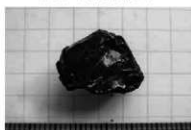
AM-7 (久慈市滝沢-1)



AM-8 (久慈市滝沢-2)



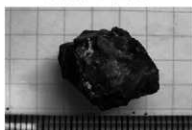
AM-9 (いわき市-1)



AM-10 (いわき市-2)



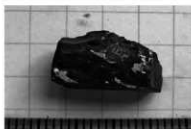
AM-11 (いわき市-3)



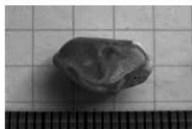
AM-12 (いわき市-4)



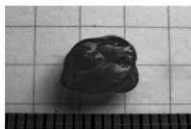
AM-13 (いわき市-5)



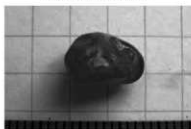
AM-14 (いわき市-5)



AM-16 (銚子市君ヶ浜-1)



AM-17 (銚子市君ヶ浜-2)



AM-18 (銚子市君ヶ浜-3)



AM-19 (銚子市長崎浜-1)



AM-20 (銚子市長崎浜-2)



AM-21 (銚子市長崎浜-3)



AM-22 (銚子市長崎浜-4)

写真2 分析対象試料(2)

## 7 翡翠分析

(株)第四紀地質研究所

### 1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置で行なった。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法(FPF法)による自動定量計算システムが採用されており、6C~92Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源(最大30kV、4mA)の採用で微量試料~最大290mmφ×80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクFPF法でおこなった。FPF法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。分析にあたっては標準サンプルを分析し、キャリブレーションを行い、装置の正常さを保って行った。

実験条件はバルクFPF法(スタンダードレス方式)、分析雰囲気=真空、X線管ターゲット素材=Rh、加速電圧=30kV、管電流=自動制御、分析時間=200秒(有効分析時間)である。分析対象元素はSi, Ti, Al, Fe, Mn, Mg, Ca, Na, K, P, Rb, Sr, Y, Zrの14元素、分析値は試料の含水量=0と仮定し、酸化物の重量%を100%にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量%は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb, Sr, Y, Zrは重量%では小数点以下3~4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度(重量%)で $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ 、 $\text{CaO-Na}_2\text{O}$ 、 $\text{CaO-K}$ の3組の組み合わせで図を作成した。

### 2 分析試料

第1表に示すように28年度間木戸I遺跡より出土した翡翠と石英質石器、22年度分析の古城方八丁遺跡出土の石帯(古城方八丁遺跡の石帯は表面と裏面を分析した。)と駒板3遺跡から出土したヒスイ性遺物1個および比較対象試料として北海道埋蔵文化財センターの柏木川13遺跡から出土した石製品と薄片、産地同定用の試料として北海道埋蔵文化財センター所有のベンケユクトラシナイ沢で採取した原石、斜里町立知床博物館より提供していただいた日高ヒスイ、井上が糸魚川翡翠峡の周辺で採取したヒスイの原石である(北海道埋蔵文化財センター2004)。

### 3 分析結果

#### 3-1 $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ の相関について

第1図 $\text{SiO}_2\text{-Al}_2\text{O}_3$ 図に示すように28間木戸I遺跡・翡翠は駒板3遺跡・ヒスイと共存するもので糸魚川の翡翠とは明らかに領域が異なり、糸魚川系の翡翠ではないことが分かる。間木戸I遺跡の石英質遺物は $\text{SiO}_2$ が95%以上で、糸魚川の翡翠と同じ領域にあるがこれは石英質のためである。28間

木戸 I 遺跡・翡翠は駒板 3 遺跡・ヒスイの領域は  $\text{SiO}_2$  が 60-65%  $\text{Al}_2\text{O}_3$  が 20-25% で化学組成としては斜長石に近い領域にある。

### 3-2 CaO - $\text{Na}_2\text{O}$ の相間について

第 2 図 CaO -  $\text{Na}_2\text{O}$  図に示すように 28 間木戸 I 遺跡・翡翠は CaO が 8-10%、 $\text{Na}_2\text{O}$  が 2-7% の領域にあり、駒板 3 遺跡・ヒスイの領域と異なるものである。間木戸 I 遺跡の石英質遺物は糸魚川の翡翠と同じ領域にあり、分別される。

### 3-3 CaO- $\text{K}_2\text{O}$ の相間について

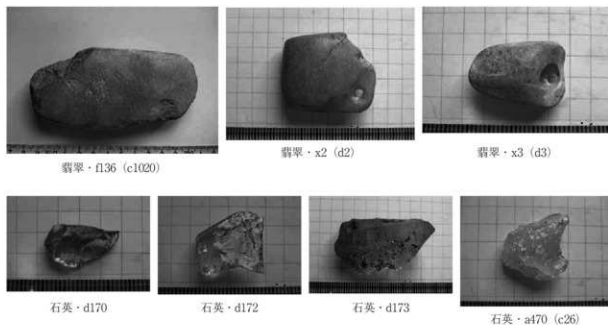
第 3 図 CaO- $\text{K}_2\text{O}$  図見られるように 28 間木戸 I 遺跡・翡翠と駒板 3 遺跡・ヒスイは領域を異にし、分別される。28 間木戸 I 遺跡・翡翠は柏木川 13 遺跡の石製品、日高ヒスイ、糸魚川翡翠などは化学組成が異なり、現在の対比試料では原産地の判断は難しい。

## 4 まとめ

28 間木戸 I 遺跡・翡翠は駒板 3 遺跡・ヒスイ、柏木川 13 遺跡の石製品、日高ヒスイ、糸魚川翡翠などとは化学組成が異なり、現在の対比試料では原産地の判断は難しい。

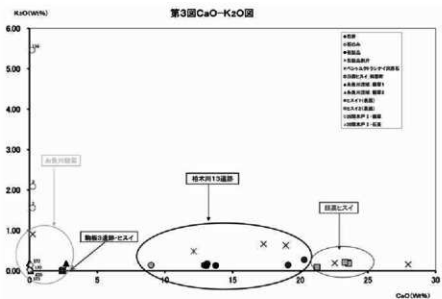
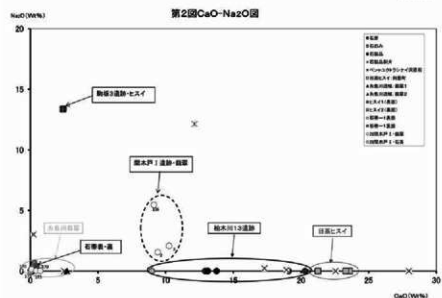
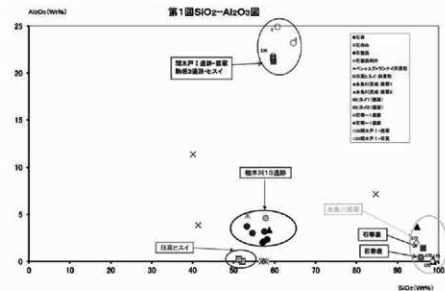
## 引用文献

- 井上 巖 (2000) 東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光 X 線分析 (XRF) 北越考古学, 第 11 号、23-38/  
井上 巖 (2001) テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌, 第 7 号 23-51.  
(財)北海道埋蔵文化財センター (2004) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書, 第 203 集、柏木川 13 遺跡



※ ( ) 内は図版掲載番号

写真 1 分析対象試料







## 8 鉄滓分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

問木戸I遺跡は、岩手県下閉伊郡山田町に所在する。発掘調査では古代の竪穴建物23軒や鉄生産に関わる炉跡が1基確認された。鉄滓の出土量は28リットルコンテナで12箱分と多くはないが、古代の竪穴建物・炉跡、近世の溝から出土している。本分析調査では、当地域周辺での鉄生産の実態を検討するため、竪穴建物および溝から出土した製鉄関連遺物を対象に分析を実施した。

### 1 試料

分析試料は、B4号竪穴建物から出土した炉外流出滓1点、B19号竪穴建物から出土した鉄塊系遺物1点、4号溝から出土した炉外流出滓1点、流出孔滓1点の計4点である。各遺物の詳細及び分析項目については表1に示した。

### 2 分析方法

#### (1) 外観観察

調査対象とした遺物の外観上の特徴を記載した。

#### (2) 顕微鏡組織

鉄滓の鉱物組成や金属鉄（またはその錆化物）の組織観察を目的とする。

遺物外観の特徴から断面観察の位置を設定し、切り出した試験片を樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の#150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の $3\mu\text{m}$ と $1\mu\text{m}$ で鏡面研磨した。さらに断面全体を金属反射顕微鏡で観察した後、代表的・特徴的な視野を写真撮影した。金属鉄を含む遺物は、金属組織の観察のため3%ナイトール（硝酸アルコール液）で腐食した。

#### (3) EPMA 調査

EPMA（日本電子製機 JXA-8230）を用いて、鉄滓の鉱物組成を調査した。測定条件は以下の通りである。加速電圧：15kV、照射電流（分析電流）：2.00E-8A。

#### (4) 化学組成分析

各成分の測定法は以下の通りである。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第1鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）：燃焼容量法、硫黄（S）：燃焼赤外吸収法。

二酸化珪素（SiO<sub>2</sub>）、酸化アルミニウム（Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、

酸化カリウム ( $K_2O$ )、酸化ナトリウム ( $Na_2O$ )、酸化マンガン ( $MnO$ )、二酸化チタン ( $TiO_2$ )、酸化クロム ( $Cr_2O_3$ )、五酸化燐 ( $P_2O_5$ )、バナジウム (V)、銅 (Cu)、二酸化ジルコニウム ( $ZrO_2$ ) : ICP (Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer) 発光分光分析法。

### 3 結 果

#### 1. MGI14-1 : 炉外流出滓

1) 外観観察 : 細い滓が複数重なって凝固した、炉外流出滓の側面破片 (502.6g) である。製鉄炉の操業中に排出された滓と推測される。上面の一部と下面および側面1面は本来の表面で、側面3面は破面である。滓の色調は暗灰色で、弱い着磁性がある。全体に気孔は少なく緻密で、重量感のある滓である。

2) 顕微鏡組織 : 図版1-①~③に示す。滓中の微細な淡茶褐色多角形結晶は、マグネタイト (Magnetite :  $FeO \cdot F_2O_3$ )、またはチタン磁鉄鉱 [Titanomagnetite : マグネタイトとウルボスピネル (Ulvöspinel :  $2FeO \cdot TiO_2$ ) の中間組成の固溶体] と推定される。さらに白色粒状結晶ウスタイト (Wustite :  $FeO$ )、淡灰色柱状結晶ファヤライト (Fayalite :  $2FeO \cdot SiO_2$ ) が晶出する。また、③の灰褐色粒は、下面表層に付着した砂鉄 (磁鉄鉱または含チタン鉄鉱) である。熱影響はほとんどなく、製錬滓を炉外に排出した時に、表面に付着したものと推測される。

3) 化学組成分析 : 表2に示す。全鉄分 (Total Fe) 50.79% に対して、金属鉄 (Metallic Fe) は 0.48%、酸化第1鉄 ( $FeO$ ) が 49.01%、酸化第2鉄 ( $Fe_2O_3$ ) 17.46% の割合であった。造滓成分 ( $SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O$ ) は 28.59% で、このうち塩基性成分 ( $CaO + MgO$ ) 5.00% とやや高めであった。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱 (注1)) 起源の二酸化チタン ( $TiO_2$ ) が 2.84%、バナジウム (V) は 0.22% であった。また酸化マンガン ( $MnO$ ) は 0.43%、二酸化ジルコニウム ( $ZrO_2$ ) は 0.10% であった。

以上の調査結果から、当鉄滓は低チタン ( $TiO_2$ ) 砂鉄を原料とした製錬滓と推定される。

#### 2. MGI14-2 : 鉄塊系遺物

1) 外観観察 : やや小形で不定形の鉄塊系遺物 (55.4g) である。表面全体が黄褐色の土砂や茶褐色の鉄銹化物で覆われる。表面に若干暗灰色の滓が付着するが、広い範囲で金属探知器反応がある。内部にまとまった金属鉄部が残存すると推定される。

2) 顕微鏡組織 : 図版1-④~⑥に示す。表層にごく薄く滓が付着しているが、鉄主体の遺物であった。明灰色~褐色部は金属鉄で、組織観察のため3% ナイタールで腐食したところ、亜共析組織~過共析組織が確認された。⑤は過共析組織部分の拡大である。素地は層状のパーライト (Pearlite) で、針状セメントイト (Cementite :  $Fe_3C$ ) が析出する。⑥は亜共析~共析組織部分の拡大で、表面に白色のフェライト (Ferrite :  $\alpha$  鉄) が析出する。また、⑥右側の暗灰色部は、白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色針状結晶イスコライト (Iscoelite :  $5FeO \cdot Fe_2O_3 \cdot SiO_{10}$ ) が晶出する。

3) EPMA 調査 : 図版2-①に鉄中非金属介在物の反射電子像 (COMP) を示す。鉄中の微細な淡黄色部は、特性X線像では硫黄 (S) に強い反応がある。定量分析値は 64.3%Fe - 35.2%S (分析点1) であった。硫化鉄 ( $FeS$ ) である。また特性X線像では、燐 (P) の偏析も確認された。定量分析値は 88.5%Fe - 9.2%P (分析点2) で、ステダイト (Steadite :  $Fe - Fe_3C - Fe_3P$ ) と推定される。

さらに滓部の組成を調査した。図版2②に反射電子像 (COMP) を示す。白色粒状結晶は鉄 (Fe)

に強い反応がある。定量分析値は94.2%FeO(分析点3)であった。ウスタイト(Wustite:FeO)と推定される。淡灰色針状結晶は、特性X線像では鉄(Fe)、珪素(Si)、アルミニウム(Al)に反応がある。定量分析値は77.3%FeO - 11.0%SiO<sub>2</sub> - 4.4%Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> - 3.5%TiO<sub>2</sub>(分析点4)であった。イスコライト(Iscorite:5FeO·Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>·SiO<sub>10</sub>)と推定される。

以上の調査結果から、当遺物は鍛冶加工前の小鉄塊(鋼)と推定される。部位により、炭素量は0.7~1.2%程度のばらつきがみられる。

### 3. MG114-3: 炉外流出滓

1) 外観観察: やや扁平な炉外流出滓の破片(178.1g)である。滓の色調は暗灰色で、弱い着磁性がある。上下面と側面2面は本来の表面で、側面5面はやや不規則な破面である。破面に大形の気孔が若干点在するが、緻密で重量感のある滓である。炉外流出滓(MG114-1)のような細かい滓が多数溶解した跡はなく、製鉄炉の操業中に多量の滓が一気に排出されて生じたものと考えられる。

2) 顕微鏡組織: 図版3-①~③に示す。滓中には微細な白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。

3) 化学組成分析: 表2に示す。全鉄分(Total Fe)51.82%に対して、金属鉄(Metallic Fe)は0.10%、酸化第1鉄(FeO)が54.85%、酸化第2鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)12.99%の割合であった。造滓成分(SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O)は29.48%で、このうち塩基性成分(CaO+MgO)の割合は1.94%と低い。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン(TiO<sub>2</sub>)は1.04%、バナジウム(V)が0.12%と低値であった。酸化マンガン(MnO)は0.20%で、二酸化ジルコニウム(ZrO<sub>2</sub>)は0.12%であった。

以上の調査結果から、当鉄滓も炉外流出滓(MG114-1)と同様に、低チタン(TiO<sub>2</sub>)砂鉄を原料とした製鉄滓と推定される。

### 4. MG114-4: 流出孔滓

1) 外観観察: 二条の棒状の滓が接着した、やや大形の流出孔滓(466.3g)と推測される。側面から下面にかけて砂粒を含む炉壁粘土が付着する。上面の中央は、小形の木炭灰による凹凸が著しい。表面の広い範囲で茶褐色の鉄錆化物が付着しており、弱い着磁性もあるが、まとまった鉄部はみられない。緻密で重量感のある滓である。

2) 顕微鏡組織: 図版3-④~⑥に示す。滓中の多角形結晶の明色部はチタン磁鉄鉱、暗色部はヘルシナイト(Hercynite:FeO·Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)と推測される。さらに白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。

3) 化学組成分析: 表2に示す。全鉄分(Total Fe)47.84%に対して、金属鉄(Metallic Fe)は0.14%、酸化第1鉄(FeO)が54.83%、酸化第2鉄(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)7.26%の割合であった。造滓成分(SiO<sub>2</sub>+Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>+CaO+MgO+K<sub>2</sub>O+Na<sub>2</sub>O)は27.75%で、このうち塩基性成分(CaO+MgO)の割合は2.30%と低い。製鉄原料の砂鉄(含チタン鉄鉱)起源の二酸化チタン(TiO<sub>2</sub>)は1.29%、バナジウム(V)が0.12%と低値であった。また酸化マンガン(MnO)は0.22%、二酸化ジルコニウム(ZrO<sub>2</sub>)は0.12%であった。

当鉄滓も炉外流出滓(MG114-1・3)とよく似た組成で、低チタン(TiO<sub>2</sub>)砂鉄を原料とした製鉄滓と推定される。

## 4 ま と め

間木戸Ⅰ遺跡の出土遺物を調査した結果、当遺跡では地域に分布する低チタン砂鉄を原料として鉄生産が行われていたと推定される。詳細は以下の通りである。

鉄滓3点(1・3・4)は、低チタン( $\text{TiO}_2$ )砂鉄を原料とした製錬滓と推定される。砂鉄製錬滓としては、チタニアの割合が低めであった( $\text{TiO}_2$ :1.04~2.84%)。岩手県内の製鉄遺跡の分析調査結果をみると、下閉伊郡に所在する多くの遺跡で、出土した砂鉄・製錬滓ともチタニアの割合が低く、低チタン砂鉄が製鉄原料であったことが明らかとなっている[山ノ内Ⅲ遺跡(山田町)は砂鉄:0.39~0.96%  $\text{TiO}_2$ 、製錬滓:0.38~2.79%  $\text{TiO}_2$ (注2)、鳥田Ⅱ遺跡(宮古市)は砂鉄:0.60~2.52%  $\text{TiO}_2$ 、製錬滓:2.04~7.62%  $\text{TiO}_2$ (注3)]。当遺跡でも地域周辺に分布する低チタン砂鉄を採取して、鉄を生産していたと考えられる。

鉄塊系遺物(2)は、当遺物は鍛冶加工前の小鉄塊と推定される。炭素量は0.7~1.2%程度の高炭素鋼で、焼き入れ硬さを要求される刃部の素材としても適した原料といえる。なお鉄中には、鍛冶加工時の鍛接不良や製品の脆化等の要因となる、硫黄(S)、燐(P)の影響が若干確認された。

## 注

(1) 木下亀城・小川留太郎,1995,『岩石鉱物』,保育社

チタン鉄鉱は赤鉄鉱とあらゆる割合に混じりあった固溶体をつくる。(中略)チタン鉄鉱と赤鉄鉱の固溶体には、チタン鉄鉱あるいは赤鉄鉱の結晶をなし、全体が完全に均質なものと、チタン鉄鉱と赤鉄鉱が平行にならんで規則正しい楕状構造を示すものがある。チタン鉄鉱は磁鉄鉱とも固溶体をつくり、これにも均質なものと、楕状のものがある。(中略)このようなチタン鉄鉱と赤鉄鉱、または磁鉄鉱との固溶体を含チタン鉄鉱 Titaniferous iron ore という。

(2) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,1993,『山ノ内Ⅲ遺跡発掘調査報告書』

(3) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター,2004,『鳥田Ⅱ遺跡第2~4次発掘調査報告書』

表1 分析試料一覧

試料番号	出土地点	遺物名称	推定年代	計測値		金属探知反応	調査項目		
				大きさ(mm)	重量(g)		顕微鏡組織	EPMA	化学分析
MGI14-1	B4号壱字遺物	炉外流出滓	古代	78×70×50	502.6	なし	○		○
MGI14-2	B19号壱字遺物	鉄塊系遺物		41×31×31	55.4	し・●	○	○	
MGI14-3	4号溝	炉外流出滓	近世	89×64×16	178.1	なし	○		○
MGI14-4	4号溝	流出孔滓		110×83×45	466.3	なし	○		○

表2 化学分析結果

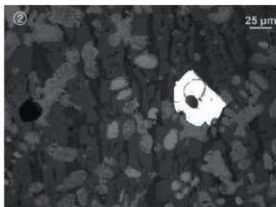
試料番号	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化 第1鉄 (FeO)	酸化 第2鉄 (Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	二酸化 珪素 (SiO <sub>2</sub> )	酸化 アルミニウム (Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	酸化 カルシウム (CaO)	酸化 マグネシウム (MgO)	酸化 カリウム (K <sub>2</sub> O)	酸化 ナトリウム (Na <sub>2</sub> O)	酸化 マンガン (MnO)	TiO <sub>2</sub>
MGI14-1	5079	0.88	4901	1746	1776	4.56	4.98	0.62	0.55	0.72	0.43	
MGI14-3	5182	0.10	5485	1299	1992	6.39	1.41	0.53	0.55	0.67	0.20	
MGI14-4	4784	0.14	5483	726	1845	5.98	1.59	0.71	0.52	0.50	0.22	
									Σ*			
試料番号	二酸化チタン (TiO <sub>2</sub> )	酸化クロム (Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )	硫黄 (S)	五酸化燐 (P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> )	炭素 (C)	バネジウム (V)	銅 (Cu)	二酸化 ジルコニウム (ZrO <sub>2</sub> )	造滓成分	造滓成分 Total Fe	TiO <sub>2</sub> Total Fe	
MGI14-1	2.84	0.04	0.023	1.51	0.03	0.22	<0.01	0.10	28.59	0.963	0.056	
MGI14-3	1.04	0.04	0.027	0.25	0.30	0.12	<0.01	0.12	29.47	0.569	0.020	
MGI14-4	1.29	0.04	0.023	0.33	0.19	0.12	<0.01	0.12	27.75	0.580	0.027	

図版1 炉外流出滓・鉄塊系遺物の顕微鏡組織

## MG14-1

## 炉外流出滓

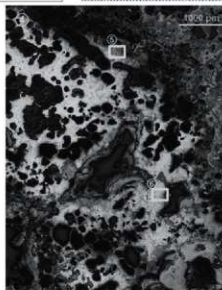
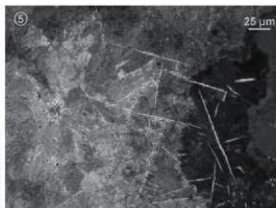
①滓部:77%矽石(または矽石・磁鉄鉱)・23%炭素・7%チタン、②滓部拡大、微小白色粒:金属鉄、71%単相、③下面表層付着砂鉄拡大



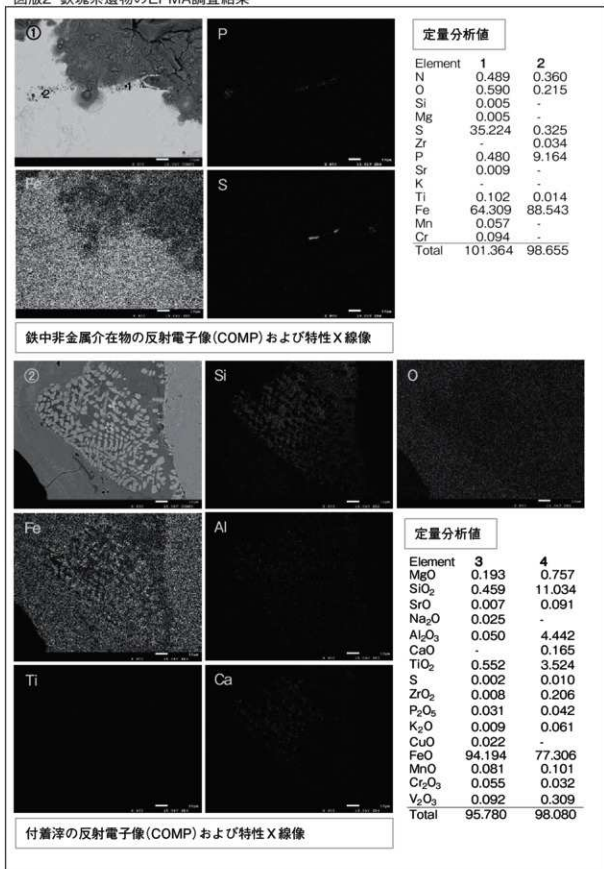
## MG14-2

## 鉄塊系遺物

④金属鉄部:亜共析組織～過共析組織、⑤過共析組織、⑥亜共析～共析組織部分拡大



図版2 鉄塊系遺物のEPMA調査結果



図版3 炉外流出滓・流出孔滓の顕微鏡組織

MGI14-3

炉外流出滓

①～③滓部:オースタイト・  
フェライト、微小白色  
粒:金属鉄

MGI14-4

流出孔滓

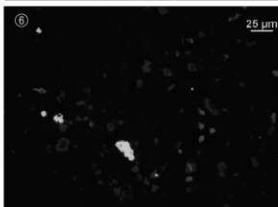
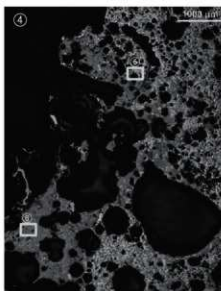
④～⑥オースタイト・マグネ  
シト (またはチン磁鉄  
鉱)・ヘムサイト・フェライト



表3 出土遺物の調査結果のまとめ

試料番号	顕微鏡組織	化学組成 (%)							所見	
		Total Fe	塩基性成分	Ti O <sub>2</sub>	V	Mn O	ZrO <sub>2</sub>	造洋成分		Cu
MG1141	浮部:M (または Ti) +W+F, 砂鉄粒子付着, 微小金属鉄粒:フェライト単相	50.79	5.00	2.84	0.22	0.43	0.10	28.59	<0.01	製錬滓 (原料: 低チタン砂鉄)
MG1142	浮部: W+Is, 金属鉄部: 亜共析組織-過共析組織	-	-	-	-	-	-	-	-	鍛冶加工前の小鉄塊 (鋼) 炭素量: 0.7 ~ 1.2% 程度
MG1143	浮部: W+F, 微小金属鉄粒	51.82	1.94	1.04	0.12	0.20	0.12	29.47	<0.01	製錬滓 (原料: 低チタン砂鉄)
MG1144	浮部: M (または Ti) +H+W+F	47.84	2.30	1.29	0.12	0.22	0.12	27.75	<0.01	製錬滓 (原料: 低チタン砂鉄)

W: Wustite (FeO), M: Magnetite (FeO・Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>), Ti: Titanomagnetite (Magnetite と Uvöspinel の中間組成), U: Uvöspinel (2FeO・TiO<sub>2</sub>), H: Hercynite (FeO・Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>), Is: Isoreite (5FeO・Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>・SiO<sub>2</sub>), F: Fayalite (2FeO・SiO<sub>2</sub>)

## 9 金属製品保存処理

### はじめに

今回の調査で出土した金属製品については、平成 28 年度の整理作業時に公益財団法人大阪市博物館協会大阪文化財研究所保存科学室に保存処理業務を委託した。本節では保存処理終了時に受領した報告書を基に、処理の過程と結果について記載を行う。

### 1 対象資料

対象資料は第 1 表の通りである。資料は引渡し前に肉眼観察を基にした錆落とし、実測・写真撮影を行っている。なお、資料には整理作業用の仮登録番号を付しているが、作業においては委託先便宜上通し番号を付け直しており、その対応関係も第 1 表に示している。

### 2 保存処理工程

#### 2-1 事前調査・記録

処理前の状態の観察とともに、記録のため外観の写真撮影、X線透過画像撮影を実施した (写真図版 1~4)。

#### 2-2 クリーニング・脱水処理

アルコールに浸漬し、表面に付着している砂などを除去するとともに、金属が錆びる原因のひとつである水分を除去した。

#### 2-3 錆落とし

資料上、また保存上取り除く必要のある錆についてはハンドグラインダー・メスなどを用いて物理的に取り除いた。

#### 2-4 脱塩処理・安定化処理

鉄製品については、錆びる原因である塩分を高温高圧脱酸素水法で除去した。脱塩処理液の塩化物イオン濃度及び硫酸イオン濃度については比濁法 (多項目水質計) を用いて測定し、測定限界値 (塩化物イオン 2ppm、硫酸イオン 10ppm) 以下になるまで脱塩処理を繰返し行った。銅製品 (IWT15018) については、銅の錆化を抑制するためベンゾトリアゾールのアルコール

溶液へ浸漬した。

## 2.5 樹脂含浸処理

金属が錆びる原因のひとつである酸素との接触を出来る限り防ぎ、傷んでいる遺物自体の強度を向上させるため、減圧下で合成樹脂含浸をおこなった。

使用した合成樹脂は非水溶性アクリルエマルジョン（商品名：バラロイド NAD10）、非水溶性アクリル樹脂（商品名：バラロイド B72）である。

## 2.6 接合・復元

小片の接合および亀裂の目立つ箇所に補填し、彩色を施した。接合復元にはシアノアクリレート系接着剤（商品名：アロンアルファ）、エポキシ系補填材（商品名：ウッドエポキシ）を用いた。

## 2.7 処理後記録・保管

処理後の記録のため写真撮影を実施した。低湿度状態で経過観察を行っている。

## 3 処理後の状況

資料の受領後、ユニバックにシリカゲルとともに密封し、温湿度変化が少ないようにコンテナに入れて保管している。

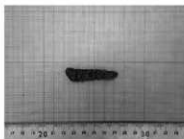
(村田)

第1表 保存処理対象資料一覧

処理No.	掲載No.	登録No.	器種	計測値 (cm)			備考
				長	幅	厚	
IWT16001	i1	F1	刀子	152	10	04	完形、破片3点
IWT16002	i2	F2	刀子	[50]	10	03	柄部破片
IWT16003	i17	F4	釘?	[29]	[31]	05	
IWT16004	i14	F5	不明	[104]	185	15	
IWT16005	i3	F7	鍔帯金具	[30]	[30]	02	蕨方、布? (繊維質付着)
IWT16006	i4	F8	刀子?	[38]	06	02	
IWT16007	i10	F10	釣針	126	75	045-09	
IWT16008	i11	F11	刀子	[57]	12	03	刃部破片
IWT16009	i12	F12	刀子	[92]	15	03	刃部破片
IWT16010	i13	F14	馬具	87	25	02-07	鍔帯金具
IWT16011	i15	F15	釘?	[82]	10	035	
IWT16012	i7	F221	簾	118	10	04-08	炭化した木質付着
IWT16013	i8	F222	簾	122	10	04-06	炭化した木質付着
IWT16014	i9	F223	刀子?	[88]	12	05	炭化した木質付着
IWT16015	i5	F23	刀子	[94]	11	035	片側、F22から割がれた1点
IWT16016	i6	F24	馬具	120	09-37	08	引手
IWT16017	i16	F25	簾	[140]	28	03	先端部欠損
IWT16018	i20	F26	櫛管	45	11	08	



i1 (IWT16001)



i2 (IWT16002)



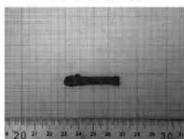
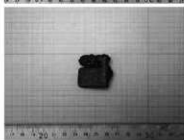
i17 (IWT16003)



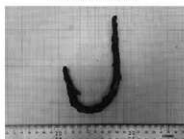
i14 (IWT16004)



i3 (IWT16005)



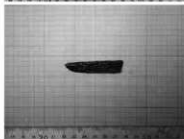
i4 (IWT16006)



i10 (IWT16007)



i11 (IWT16008)



i12 (IWT16009)



※上が保存処理前、下が保存処理後

写真1 対象資料外観写真(1)



i13 (IWT16010)



i15 (IWT16011)



i9 (IWT16012)



i8 (IWT16013)



i7 (IWT16014)



i5 (IWT16015)



i6 (IWT16016)



i16 (IWT16017)



i20 (IWT16018)

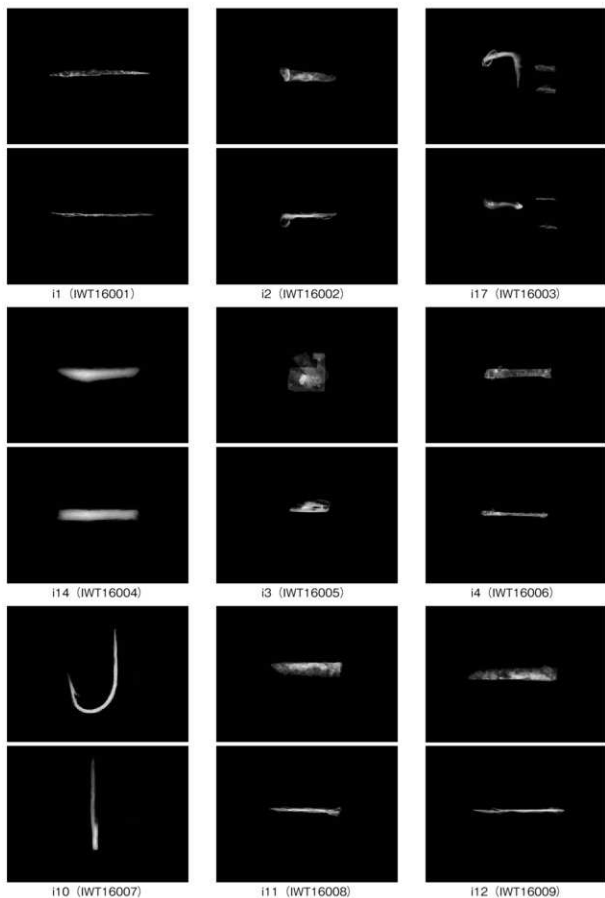


写真3 対象資料X線透過写真(1)

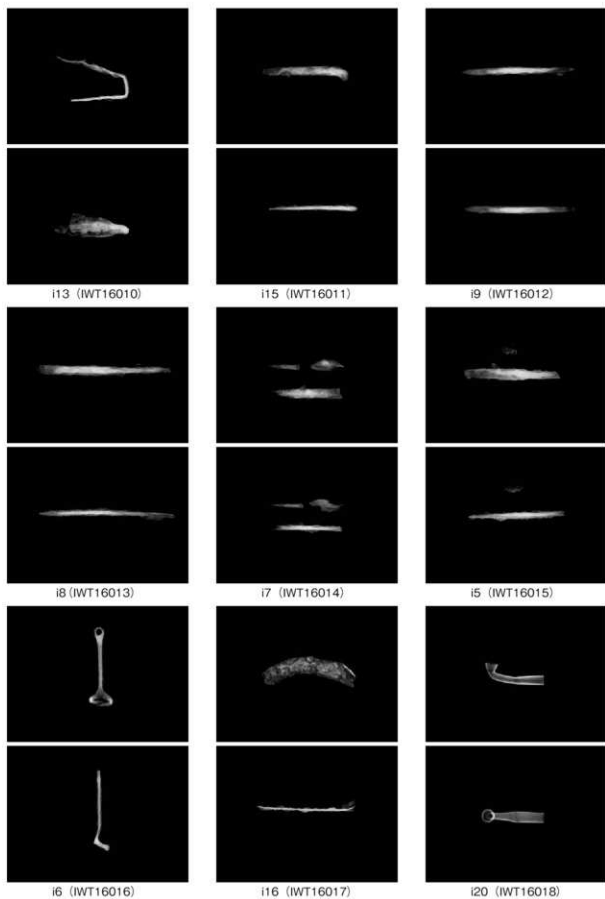


写真4 対象資料X線透過写真(2)

## Ⅶ 調査のまとめ

### 1 検出遺構

#### (1) 縄文時代

堅穴建物・土坑・炉・焼土・土器埋設遺構・配石遺構が検出されている。ここでは堅穴建物を中心に時期毎の分布状況等、全体的な様相についてみていく。堅穴建物は253軒検出しており、出土遺物と重複関係から大きく前期末葉、中期前葉、中期中葉、中期中葉～後葉、中期後葉、中期末葉～後期初頭の6時期に分類できる(第1-236図)。

##### 前期末葉

大木6式土器が出土した堅穴建物をこの時期とし、大木7a式古段階(中期初頭)の可能性のあるものを含めて11軒検出した(第1-236図:緑)。調査区中央の沢状地形部分と調査区南東隅の低位部に造られており、A16・17号堅穴建物が重複関係にあるが、それ以外は切り合うことなく単独で造られている。削平されているものが多いが、平面形は方形または隅丸方形が主体である。このうちA162号堅穴建物は長軸が9m以上あり、床面施設は確認されなかったが大型住居であった可能性がある。柱配置は、四角形(A191号堅穴建物)と六角形(A17号堅穴建物)がある(第1-17・72図)。また、A16・17・94・134号堅穴建物では周溝と柱配置から建て替え・拡張が行われていたと考えられる(第1-14・49・71図)。炉は5軒で検出されており、A174号堅穴建物の2基は石囲炉であるが、その他は地床炉である。

##### 中期前葉

大木7a・b式土器が出土した堅穴建物をこの時期とし、大木8a式(中期中葉)の可能性のあるものを含めて22軒検出した(第1-236図:赤)。分布域は、調査区中央の沢状地形部分に集中する点は前期末葉と同じであるが、南東隅の低位部ではなく西側尾根の頂部～斜面部に分布するようになる。前期末葉より建物数は増加するが、同時期の建物または前期末葉の建物と重複するものが多く、同時存在していた建物は少なかつたと考えられる。平面形は円形が主体となり、前期末葉に比べて規模は縮小する。柱配置は、四角形(A153・204号堅穴建物)、五角形(A203号堅穴建物)、六角形(A121号堅穴建物)がある(第1-68・98図)。この時期の堅穴建物では床面施設の検出数が少なく、明確に建て替え・拡張を確認できたものは無い。炉は11軒で検出されており、このうち4軒では複数確認されている。形態は石囲炉と地床炉が主体であるが、A153号堅穴建物では石囲炉と地床炉で構成される複式炉が検出されている(第1-65図)。

##### 中期中葉

大木8a・b式土器が出土した堅穴建物をこの時期とし、43軒検出した(第1-236図:青)。建物数の増加に伴って分布域も広がり、前期末葉～中期前葉までのものと同じ範囲に加えて西端区でも造られるようになる。西側尾根の頂部では中期前葉の建物と重複するが、前時期の建物を避けるように中央の沢状地形部分でも尾根の裾部に近い地点に造られるようになる。平面形は中期前葉と同じく円形が基本であるが、A58号堅穴建物のような方形も確認されている(第1-33図)。長軸4～5m規模の建物が主体となるが、5m以上の大型も9軒、3.5m以下の小型も5軒あり、規模の分化が認められる。柱配置は削平により不明なものが多いが、四角形(A12・31号堅穴建物)、五角形(A114・208号

堅穴建物)がある(第1-24・61・98図)。なお、中期前葉と同じくこの時期には建て替え・拡張を行ったと考えられる堅穴建物は確認されていない。炉は31軒で検出しており、このうち7軒で複数確認されている。単室の石囲炉が主体であるが、複式炉も6基確認されている。複式炉は種類が増え、A 110号堅穴建物では石組による二室構造、A 120・145・171号堅穴建物では石囲炉と地床炉、A 154・222号堅穴建物では石囲炉と土器埋設炉で構成される(第1-60・62・69・77・85・99図)。なお、複式炉は本期以降中期末葉まで造られるが、構造は上記パターンのいずれかとなる。

#### 中期中～後葉

大木8b～9式土器が出土した堅穴建物をこの時期とし、96軒検出した(第1-236図：黒)。最も建物数が多い時期であり、分布域は中期中葉と同じ範囲に加えて調査区中央南側の沢状地形低位部でも造られるようになる。ただし、重複が著しく単独で立地するものがほとんど無いことから、同時存在の建物数はあまり多くないと考えられる。平面形は円形または楕円形が主体で、A 239号堅穴建物のような方形プランはわずかである(第1-109図)。建物規模は中期中葉より大きくなり長軸5m以上のものが約半数の44軒である。また、長軸が7m以上となるものも6軒確認されている。柱配置は、四角形(A 18・67・73・219号堅穴建物)、五角形(A 56・75号堅穴建物)、六角形(A 20・76・209・211・231～234号堅穴建物)、七角形(A 99・117号堅穴建物)、八角形(A 19号堅穴建物)がある(第1-14・17・38・41・44・46・48・56・100・102・104・108図)。A 67・211号堅穴建物では支柱穴と壁柱穴の併用、A 127号堅穴建物では支柱穴の支持柱と考えられる壁面に斜めに掘削された柱穴が確認されている(第1-68図)。建て替え・拡張を行ったと考えられる建物は5軒あり、このうちA 42号堅穴建物では3回、A 221号堅穴建物では4回の建て替え・拡張が行われたと考えられる(第1-32・104図)。また、A 20号堅穴建物では北西壁に沿って壁面を保護する為と考えられる石列が検出されている(第1-14図)。炉は70軒で検出しており、このうち15軒で複数確認されている。種別は石囲炉が51軒(53基)と最も多く、次いで地床炉が多い。複式炉は3基のみであるが、長軸6.5m以上の大型建物で検出されている。なお、最も炉の検出数が多いのはA 126号堅穴建物で、4基の地床炉が検出されている(第1-65図)。

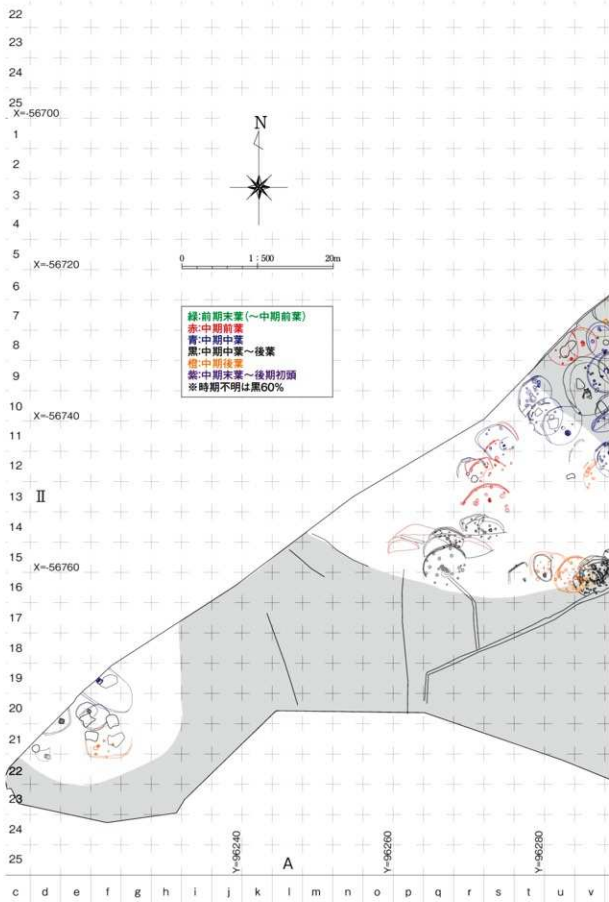
#### 中期後葉

大木9式土器が出土した堅穴建物をこの時期とし、38軒検出した(第1-236図：橙)。分布域は中期中～後葉とはほぼ同じで、前時期の建物の隣接地点に重複しながら造られている。平面形は円形または楕円形が基本で、方形のものは極少数である。建物規模は中期中～後葉より小さくなり、中期中葉と同じく長軸4～5mの建物が主体となる。柱配置は、五角形(A 235号堅穴建物)、六角形(A 10・25・220号堅穴建物)、八角形(A 30・40号堅穴建物)がある(第1-21・28・33・110図)。A 220・235号堅穴建物では、柱配置が複数確認されていることから建て替え・拡張が行われたと考えられる(第1-104・110図)また、A 236号堅穴建物では北西壁に沿って壁面を保護する為と考えられる石列が検出されている(第1-111図)。炉は29軒で検出しており、このうち4軒で複数確認されている。単室の石囲炉が主体であり、地床炉は2基、複式炉は5基確認されている。

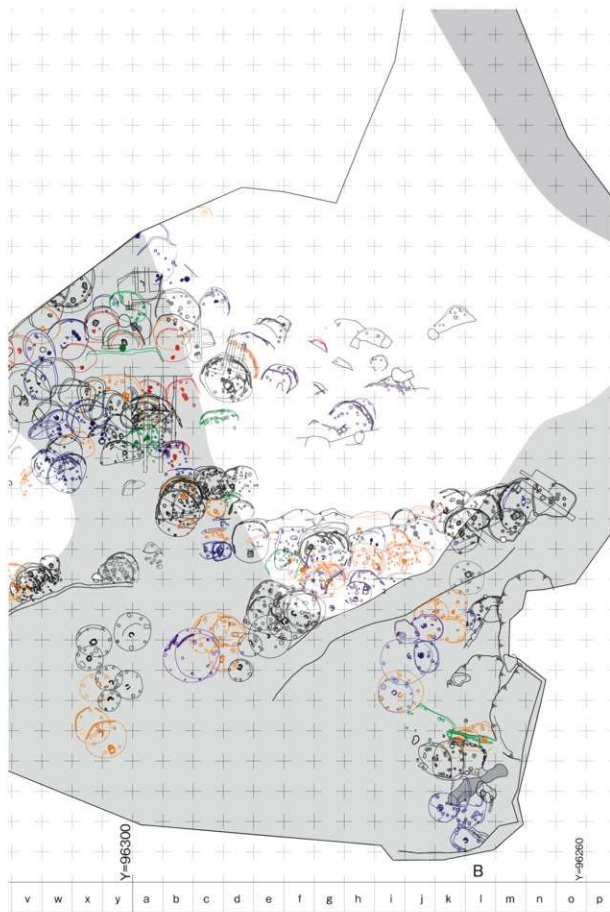
#### 中期末葉

大木10式土器が出土した堅穴建物をこの時期とし、中期末葉以降の可能性のあるものを合わせて16軒検出した(第1-236図：紫)。分布域は中期後葉とはほぼ同じで、中期後葉の建物と重複するものが多い。また、新たに北側尾根の斜面中腹に造られるようになる。削平されているものが多いが、平面形は円形または楕円形が主体となるが不整形なものも多い。柱配置はA 11・107・237・238号堅穴建物で確認できるが、いずれも多角形である。建て替え・拡張が行われた建物も多く、A 107号堅穴建物





第 236 図 縄文時代竪穴建物時期別分布図



では斜面上方である北側に拡張している状況が確認されている（第1-55図）。また、A 237・238号竪穴建物では北西壁に沿って壁面を保護する為と考えられる石列が検出されている（第1-111図）。炉は9軒で検出されており、このうち2軒では複数確認されている。複式炉はA 11・27・105号竪穴建物で石組による二室構造のものが各1基検出されている（第1-23・26・54図）。

なお、今回の調査では最も新しい時期の竪穴建物として後期初頭に属するA 50号竪穴建物がある（第1-37図）。北側尾根の中腹に位置し、石囲炉を有する方形プランの建物である。

#### 土坑の分布状況

縄文時代に属する土坑は294基検出されており、今回の調査で最も遺構数が多い。出土遺物から時期の判明する土坑は、前期初頭が1基、前期末葉が9基、中期前葉が25基、中期中葉が9基、中期中～後葉が26基、中期後葉が16基、中期末葉が6基で、中期前葉を除きおおむね竪穴建物の数に比例した検出数である。分布域は各時期とも竪穴建物の近傍あるいは北側尾根の南側斜面であり、その多くは竪穴建物に伴う貯蔵穴として掘削されたものと考えられる。なお、本遺跡で最も古い遺構は295号土坑で、調査区中央南側の沢状地形内（II A 19 r グリッド）に単独で位置しており、貯蔵穴と考えられるが同時期の遺構は確認されていない（第1-207図）。

#### (2) 古 代

竪穴建物と土坑、鉄生産関連炉があり、ここでは検出数が最も多い竪穴建物についてみていく。竪穴建物は23軒検出しており、年代はいずれも平安時代で9世紀代が中心となるが、B 19号竪穴建物は12世紀代の可能性がある。立地は北端区ではII層で検出されているが、その他の地点では沢状地形堆積土であるIII層の範囲を避けて尾根上などIV層露出範囲に造られている。

まず平面形と規模についてみていく。全形が残存しているものは少ないが、平面形は方形と円形のがあり、方形はさらに正方形（B 2・6号竪穴建物等）と長方形（B 14・15号竪穴建物等）に分類できる。遺構としては竪穴部のみ検出されているが、B 3号竪穴建物では西壁側にテラス状の施設が確認されている。円形の竪穴建物としてはB 16・23号竪穴建物がある。出土遺物及び他遺構との重複関係から古代の遺構としたが、方形のものとは構築方法を含めて性格が異なると考えられる。規模については床面全体が残存しているものが無く面積の算出ができないことから、長軸を基準にみていく。長さが判明する12軒の長軸平均値は4.64mである。平均値に近い規模の建物が多く、1m以上大きい建物はB 11・14号竪穴建物、1m以上小さい建物はB 2・16・22号竪穴建物である。なお、長軸の最大はB 14号竪穴建物の7.38m、最小はB 22号竪穴建物の2.76mである。

次に床面施設についてみていく。床面施設には壁溝・貯蔵穴・炉があり、壁溝は5軒、貯蔵穴は3軒、炉は3軒で確認されている。壁溝は全周するものは無く、カマドを設置している壁面に巡らせるものが多い。貯蔵穴は、いずれも北壁に設置されたカマドの東側に掘削されている。平面形はB 2・9号竪穴建物は円形、B 8号竪穴建物は方形である。B 8号竪穴建物の貯蔵穴からは多量の土器が出土している。炉はいずれも地床炉で、B 3・11号竪穴建物では炉の周辺から鉄滓（精練滓）が出土していることから鍛冶炉としての機能が想定される。また、B 23号竪穴建物では竪穴外に現地性焼土が検出されており、検出層位からB 23号竪穴建物に帰属する焼土としたが性格は不明である。柱配置は、四角形（B 2号竪穴建物）と六角形（B 11号竪穴建物）、壁柱穴が巡るもの（B 14号竪穴建物）が確認されているが、全ての柱穴が検出された建物は無い。また、検出面からの深さが30cm以上あっても柱穴が検出されない建物もあり、無柱穴の建物もあったと考えられる。

カマドは15軒で検出されている。B 9号竪穴建物では2基検出されているが、基本的には1軒に

1基である。設置位置は西壁が11軒、北壁が3軒、不明が1軒であり、斜面下方にあたる東壁や南壁に設置されるものは無い。壁面での設置位置をみると、中央が9基と最も多い。袖の構築方法は、基底部分を平坦に整えるか若干削り出し、芯材に板石または川原石を設置するものがほとんどである。被覆土が残存するものは少ないが、地山由来の黄褐色土を使用するものが多い。また、天井部にも板石を使用するものがあり、B4号竪穴建物及びB9号竪穴建物カマド2では架構された状態で検出されている。煙道はいずれも長煙道で、掘り込み式が6基、削り抜き式が3基、不明が6基である。煙道の傾きは煙出しに向かって上昇するA型が4基、煙出しまで水平となるB型が10基であり、下降するC型も設定したが本遺跡では確認されていない。煙出しピットを持つものはB1号竪穴建物の1基のみで、基本的に煙出しと煙道の底面は段差が無く一連となる。

B7・8号竪穴建物は焼失家屋であり、特にB8号竪穴建物は板材と柱材の遺存状況が良好である(第1-173図)。本建物では北～西壁沿いの壁溝に沿ってコナラ節を主体とした板材が検出されており、壁面から床面内側に向かって倒れ込んでいることから、壁板として使用されたものと考えられる。柱材はクリが使用されており、板材の付近で検出されている。ただし、直径が10cm弱と細く、それに伴う柱穴も検出されていないことから側壁を支える杭のように使用されていたものと考えられる。また、ハコヤナギ属や散孔材も確認されているが、これらは建築材としては不向きな木材であり、建物内に置かれていた器具類等であった可能性が指摘されている(第Ⅶ章第3節)。

本遺跡で検出された竪穴建物はカマドを持つものは住居、持たないものは鉄生産関連遺物などの出土を考慮して工房の機能を想定した。ただし、鍛冶炉を有するもの(B3・11号竪穴建物)や羽口など鉄生産関連遺物が出土するもの(B7号竪穴建物)等、カマドを有する竪穴建物でも一部工房としての機能を有していたものがあつたと考えられる。

## 2 出土遺物

### (1) 縄文土器

総重量は11,261,228.9 g(約11 t)である。分類は第Ⅴ章で記載した通りであり、ここでは出土状況についてまとめておく。

#### 遺構内出土土器

遺物包含層を除く遺構内で2,640,017.2 g出土している。内訳は、竪穴建物2,207,955.7 g(84%)、土坑326,165.9 g(12%)、溝59,067.6 g(2%、近世溝からの出土含む)、土器埋設遺構23,901.4 g(1%)、焼土14,185.9 g(0.5%)、炉4,674.6 g、配石遺構1,950.2 gである。竪穴建物での出土量をみると、一括で取り上げを行った分を除いた242軒のうち(第4表)、出土量が1,000 g以下の建物は75軒(31%)、1,001～10,000 gの建物は107軒(44%)、10,001～20,000 gの建物は26軒(11%)、20,001～30,000 gの建物は17軒(7%)、30,001 g以上の建物は17軒(7%)である。斜面上方からの流れ込みや下位の遺構堆積土からの混入もあり、埋設土器や床面直上以外で出土したものは建物構築時期以外のものが含まれている点は注意しておくべきであるが、中期末葉を除く各時期に30,001 g以上出土した竪穴建物があり、時期ごとの多寡は認められない。なお、中期中～後葉のA116号竪穴建物と中期後葉のA151号竪穴建物では100,000 g以上している。

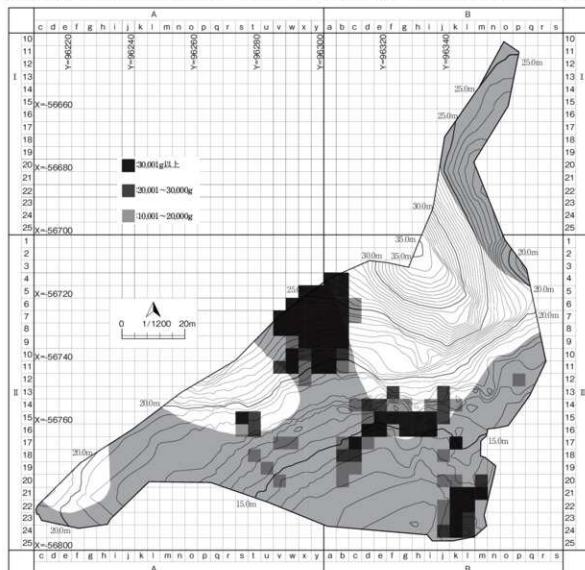
#### 遺構外出土土器

土師器・須恵器など古代の土器も少量含まれているが、調査区全域で7,437,757.0 g出土している。このうちグリッドで取り上げを行った土器は5,467,906.6 g(遺構外全体の73%)あり、これを基に出

土傾向をみていく。1グリッドあたり10,000g以上出土した地点を第1-237図に示した(遺物包含層は除く)。これを見ると出土量が多い地点は沢状地形内に集中しており、大きく①調査区中央北側(標高20~25m)、②北側尾根南側(標高15~17m)、③調査区南東側低位部(標高12~13m)の3箇所にとまられる。一方、同じ沢状地形でも調査区西側(II A 16 j~20 pグリッド周辺)は現在も湿地帯となっており、遺物はほとんど出土していない。沢状地形内での土器の出土層位はI~III層で、特にII層での出土量が多い。ただし、II層は斜面上方からの流れ込みによって形成された自然堆積層であり、II a層とII b層に分層(可能な範囲ではさらに細分)したが、各層とも出土する土器は前期前葉~中期前葉までのものが混在しており、層位毎に年代を区分することはできなかった。また、この3地点では竪穴建物の検出数も多く(第1-236図)、II層で出土した土器には斜面上方からの流れ込みの他に本来III層以下で造られた竪穴建物に帰属する土器(特に大木5~6式土器)も含まれていると考えられる。

## (2) 土 偶

6点出土しており、ここではいわゆる「板状O脚土偶」と考えられる土偶について検討を加える。「板状O脚土偶」とは、岩手県の北上川上~中流域で出土する前期前葉~中期前葉に位置づけられる板状



第237図 遺構外出土土器重量分布図

土偶の一群を指し(金子2012)、本遺跡から出土した土偶のうち、3点がこれに該当すると考えられる(第2-372図e1、第2-373図e2・5)。

第V章第5節でも述べているが、ここで再度これら3点の特徴についてみておきたい。e1-1はA162号竪穴建物から出土した体～脚部にかけての破片で、脚部はO脚である。体部の中央には臍を表現したと考えられる円形突起が1個付けられている。表裏面には半葎竹管による押し引きにより斜線・鋸歯・渦巻文が施され、裏面の鋸歯文は肋骨状となる。大きさは、長さが残存値で22.7cm、横幅が16.7cmであり、残存部位からの復元長は約45cmになると考えられる。e1-2は同じくA162号竪穴建物から出土した腕部の破片で、接合はしないがe1-1と同一個体と考えられる。裏面は剥離により不明であるが、表面には押し引きによる斜線・鋸歯文が施され、先端部付近には穿孔が1個施される。e2はII B14mグリッドから出土した体～脚部にかけての破片で、脚部は円形で二脚の表現は無い。表裏面に沈線により斜線・鋸歯・弧状文が施され、裏面の鋸歯文は肋骨状となる。e5はII B8bグリッドから出土した腕部の破片で、表裏面に沈線で斜線文が施される。先端の突出がe1-2より小さいことからe1より小型の土偶の破片と考えられる。

次に他遺跡の出土事例と比較しながら年代についてみていくが(第1-238図)、ここでは金子昭彦が提示した編年観に基づいて記載する(金子2012)。まずe1であるが、年代を推定する為の特徴として①半葎竹管による押し引き、②表面の体部中央を垂下する線、③裏面の肋骨状の鋸歯文が挙げられる。これらの特徴は岩手県内では北上市滝の沢遺跡例(第1-238図6、以下第1-238図を省略)や北上市鳩岡崎遺跡例(3)、雫石町塩ヶ森I遺跡例(7・8)といった大木6式中～7a式古期の資料で確認されていることから、e1もこれらと同時期に属するものと考えられる。また、体部形態が滝の沢遺跡例(6)に比べて胴部が長く、塩ヶ森I遺跡例に近いプローションであることから比較的大木7a式古期に近いものと考えられる。なお、e1が出土したA162号竪穴建物は出土土器が大木6～7a式主体であり、土偶の年代と土器の年代には整合性があるといえる。次にe2であるが、年代を推定する為の特徴として①表面の文様が縦方向の沈線・鋸歯文、②裏面の肋骨状の鋸歯文、③円形の一腳が挙げられる。①・②については鳩岡崎遺跡や滝の沢遺跡等で類似があり、e1と同じく大木6式中～7a式古期に属すると考えられる。③については大木式土器文化圏での出土量は少ないが、奥州市新田遺跡で大木6式古期の資料が出土している(9)。ただし、6は裏面文様が無く簡素であり、文様構成が複雑なe2は相対的に新しいと考えられる。なお、円形の一腳は円筒土器文化圏で多くみられる形態で、円筒下層d～上層a式とされる青森県三内丸山遺跡等で出土例が多い。遺構外からの出土であり土器との共伴関係は不明であるが、本遺跡からもこの時期に属する円筒土器が出土していることから(第1-235図)、土器と共に持ち込まれた土偶の可能性もある。最後にe5であるが、腕部だけの破片であるが文様構成などがe1・2と類似することから同じく大木6式中～7a式古期に属すると考えられる。

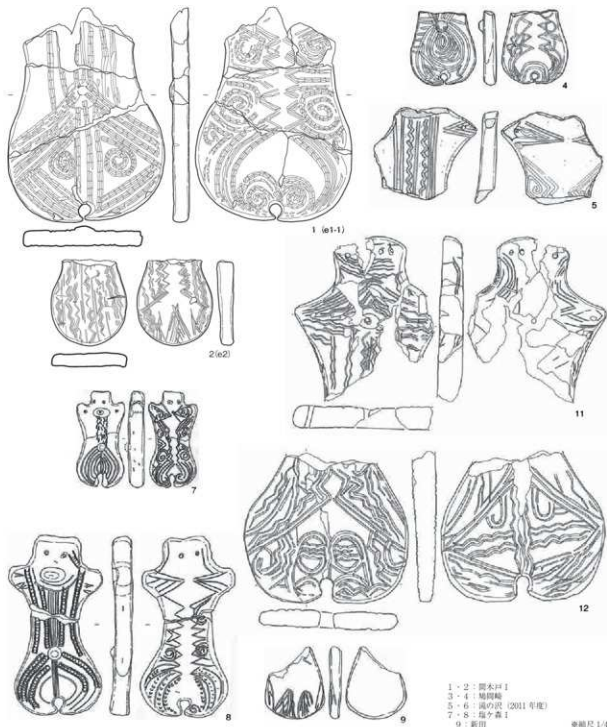
### (3) 台形土器

中期中～後葉(大木8b～9式期)になり注口付浅鉢や壺形土器と共に出現する器種であり、破片資料を含めて22点出土している(第2-379・380図)。台形土器は名称が示す通り本来的には土器の一器種であり、一般的な縄文土器と同じ胎土で作られている。しかし、後述するように使用法が異なり、出土量も少ない特殊な器物と考えられることから縄文土器と分けて掲載した。

出土事例は山梨県をはじめ中部高地や関東地方が多いが、東北地方では岩手県と福島県が比較的多い。岩手県では現在のところ本遺跡を含めて約20遺跡で出土が確認されている(第1-239図)。年代

は、盛岡市上米内遺跡や山王山遺跡では大木8b式新段階、大船渡市長谷堂貝塚では大木9～10式、花巻市観音堂遺跡では大木10式～後期初頭の土器と共伴しており、大半が中期後葉～後期初頭に属すると考えられる。本遺跡では遺構内出土資料は5点あるが、A116号竪穴建物が中期中～後葉、A44・132号竪穴建物が中期後葉、A235号竪穴建物が中期後～末葉であり、県内の出土傾向と合致する。器形は2類が多く4類が少ないという傾向はあるが、时期的な偏りは認められない。また、本遺跡では22点のうち6点でススが付着しており、他遺跡では上米内遺跡や山王山遺跡、陸前高田市堂の前貝塚出土資料にはタール状の付着物が確認されている（阿部勝2001）。

用途については出土事例の多い中部・関東地方では「土器を載せる台」、「調理台」、「土器焼成台」、



第238図 板状土偶の諸例

「土器製作（回転台）台」等の見解が示されているが、現在では「土器製作台」とする説が有力となっている（柳原 2004・室伏 2008）。一方で、東北地方では器面に残る使用痕や付着物の分析から「注口付浅鉢を加熱する際に用いられる五徳状の台」としての機能が想定されている（阿部昭 2016）。中部高地の例として山梨県釈迦堂遺跡出土事例をみると、岩手県内出土事例に比べて大きく、鈿を有する 3・4 類が多い。器面をみると受部上面や高台端部が摩耗しており、特に高台端部は土器製作時の回転による使用痕と考えられる片減り（柳原 2004）によって内面の胎土が露出しているものもある。なお、釈迦堂遺跡例では摩耗は顕著に認められるが、スズ等が付着しているものは少ないようである。岩手県内の事例と比較すると、本遺跡例をはじめ高台端部が摩耗しているものはあるが、釈迦堂遺跡例のような片減りは確認されていない。一方で付着物が認められるものは比較的多く、器面観察からは先述の通り同じ台形土器でも地域によって使用方法が異なっていたものと推察される。なお、岩手県内では台形土器の出土遺跡は中期後葉～後期初頭全体の遺跡数と比べると非常に少なく、山田湾周辺では本遺跡の南西に位置する沢田 I 遺跡で 4 類が 1 点出土しているのみである。台形土器の出土量が少ない要因の一つとして台付土器が代替となっていたからと考えられているが（阿部昭 2016）、約 11 t の出土量を誇る本遺跡でも台付土器の出土量は少なく代替といえる量ではない。このことは、本遺跡を含め岩手県内ではそもそも台付の器種の使用頻度が低く、それに伴い台形土器も定着しなかった為と考えられる。

#### （4）馬 具

B 8 号堅穴建物から轡の一部である引手、B 15 号堅穴建物から鐙の一部である吊金具が各 1 点出土している（第 2388 図 i 6・13）。考古学で使用される馬具の名称は承平年間（931～938 年）に編纂された辞書『倭名類聚抄』等の古文獻から援用したものが多く、それ以前の時代で使用されていたものとは限らないが、慣例的に使用されていることからそれに基づいて記載を行う。

ここで再度形状について述べておきたい。引手（i 6）は両端に環を持つ棒状の一本引手で、引手壺は「く」の字状に屈曲する。また、引手壺の中央で合わせ目が確認できる。轡は鏡板・引手・銜で構成される馬を制御するための道具であり、引手は銜の先に取り付けられて手綱を連結する為に用いられる。B 8 号堅穴建物の堆積土中から出土しているが、遺構内共伴土器及び炭化材年代測定結果から 9 世紀前葉に属すると考えられる。轡は岩手県内では古墳時代以降の遺跡から出土しており、そのうち引手は引手壺の形状から二条線引手と「く」の字状引手がある。前者のほうが古くは 6 世紀からみられるが、後者は 7 世紀以降に出現する。「く」の字状引手は古墳時代の事例として北上市五条丸 47-51 号墳、平安時代の事例として盛岡市志波城跡、平泉町志羅山遺跡等で出土が確認されている（第 1240 図上）。なお、近隣での出土事例としては、本遺跡の西側約 600 m に位置する房の沢古墳群 R T 07 古墳等で 8 世紀代の二条線引手を有する轡が出土している。

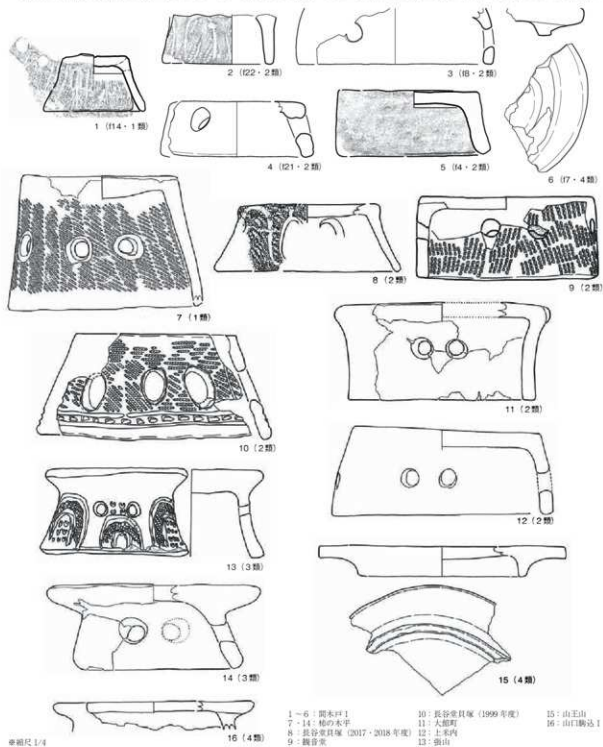
鐙吊金具（i 13）は一本の鉄棒を逆台形状に曲げ、一端を扁平な板状、もう一端を横断面形が「く」の字状になる板状に成形している。錆により塞がれているが、扁平な側には端部に穿孔が 1 個確認できる。B 15 号堅穴建物の床面直上から出土しており、年代は遺構内出土土器との共伴関係から 9 世紀後半に属すると考えられる。鐙は鉸具と革または鎖で構成される鐙鉤（みずお）を通して鞍轡に取り付けられた力革と連結し垂下される道具で、乗馬する際の足掛けと騎乗中の体の安定を保つために使用される。このうち吊金具は壺鐙本体と革・鎖を連結する為の道具であり、本資料はいわゆる木芯金属張三角錐形壺鐙の一部となるものである。岩手県内で最も古い壺鐙は 7 世紀前半と考えられる矢巾町藤沢伏森古墳群の鉄製壺鐙であるが、平安時代に属する木芯金属張三角錐形壺鐙の吊金具は本遺



跡を含めて11遺跡で出土している（第1-240図中）。中央の屈曲部は逆台形のもの（1・6・7）と楕円形のもの（2・3）があり、後者のほうが幅狭となる。両端の形状は一端が扁平な板状、もう一端が「く」の字または半円形の横断面となる点はいずれも同じであるが、鉤または鉤を通す穿孔の数は1個のもの（1・3・4）と2個のもの（5・8）がある。

### （5）鉤 帯

銅製の鉤帯金具が1点出土している（第2388図i 3）。鉤帯とは帯金具や石帯で裝飾された革帯の



第239図 台形土器の諸例

ことで、律令官人の朝服と制服に伴う腰帯である。鈎帯は、帯留金具である「鉸具」、帯の先端を飾る「鉈尾」、留め穴周辺を飾る「巡方」と「丸軛」で構成される。律令期の官人は「養老衣服令」等の法令で位階に応じて所有できる鈎帯の大きさや色が決められていたことから、鈎帯は色調や寸法から所有者の位階が推定できる遺物といえる。松村恵司が平城京・宮出土資料を対象として行った分析によると、革帯は幅に1分単位8段階の規格差が存在し、革帯幅=巡方横幅=丸軛横幅という相関があるということである(松村2002)。

まず形状について再度触れておく。i 3 (以下、本資料とする)は巡方の表金具で、下半部を若干欠損しているが、計測値(寸法)は横3.0cm、縦3.0cm、厚さ0.2cmで、下部に方形の透かし穴が施されている。また、外面には布状の付着物が確認されている。B 8号堅穴建物の床面直上から出土しており、付着物があることから布など繊維質のものにくるまれた状態で保管・使用されていた可能性がある。年代は、遺構内共伴土器及び炭化材年代測定結果から9世紀前葉に属すると考えられる。

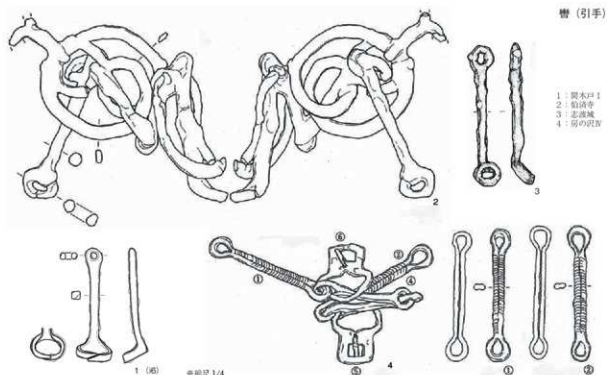
岩手県内での出土例をみると、銅製の鈎帯金具は本遺跡の他に盛岡市太田蝦夷森古墳群(2号墳)、花巻市熊堂古墳群、金ヶ崎西根古墳群、北上市千苺遺跡、奥州市杉の堂遺跡等で出土が確認されている(第1-240図下)。種別は間木戸Ⅰ・先苺・杉の堂遺跡が巡方のみ、太田蝦夷森2号墳が巡方と丸軛、熊堂古墳群と西根古墳群では鉸具・鉈尾・巡方・丸軛の全てが出土している。出土遺構は太田蝦夷森古墳群と熊堂古墳群は8世紀代の古墳、千苺遺跡は8世紀末～9世紀初頭の堅穴建物、杉の堂遺跡は9世紀中葉の堅穴建物である。点数は古墳からは複数出土する傾向があり、最も多いのは西根古墳群で13点(鉈尾1・巡方4・丸軛8)である。

最後に巡方の規格についてみていく。本県で出土した巡方は、古墳出土品は長方形、集落遺跡出土品は正方形である。また、欠損している千苺遺跡例を除いて全て透かし穴が確認できる。計測可能な資料の寸法は、太田蝦夷森2号墳例と杉の堂遺跡例が幅3.3cm(一寸一分)、本資料と熊堂古墳群例は幅3.0cm(一寸)である。平城京での銅製鈎帯の分析結果を参考にすると、一寸一分は従七位、一寸は正八位の官位に相当する人物が保有できたものと考えられ、一本の革帯に装着できる点数が出土している熊堂古墳群と西根古墳群では古墳の被葬者が実際にこの官位に相当する人物であった可能性がある。しかし、本遺跡では1点のみの出土であり、革帯として機能したと考え難いことから鈎帯としての本来の性格を有したものとして遺跡内に持ち込まれたものかは不明である。

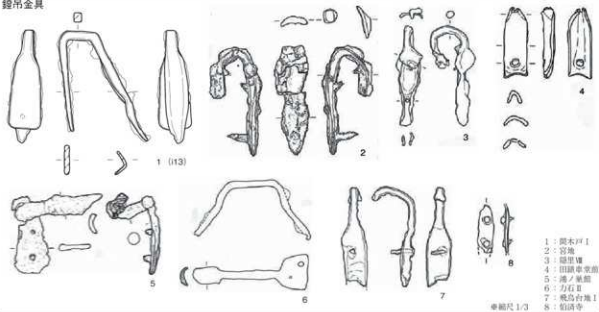
## (6) 陶磁器

22点掲載しており、ここでは古代に属する陶磁器である灰釉陶器と常滑窯産陶器についてみていく(第1-391図k1～3)。k1はⅡB22Ⅰグリッドから出土した灰釉陶器碗の底部破片で、胎土と灰釉の色調から猿投窯産と考えられる。高台は貼付の角高台であるが、中央がわずかに膨らみ端部は丸みを帯びる。灰釉は、体部内面と外面上半に刷毛塗りで施軸されている。なお、体部内面と高台端部には摩滅の痕跡が確認できる。高台形状をもとに年代を推定すると、高台は比較的高いが三日月高台ではないことから黒笹90号窯式期古段階(9世紀後半)に製作されたものと考えられる。古代の施軸陶磁器は岩手県では現在のところ約60遺跡で出土しているが、沿岸部では本遺跡を含めて宮古市田鎮車堂前遺跡、同隠里Ⅲ遺跡、田野畑村浜岩泉Ⅲ遺跡の4遺跡で出土しているのみである(村田2016b)。出土遺跡の性格は多様であるが、鉄生産関連炉や鉄生産関連遺物が共存する遺跡が多いことが指摘されており、本遺跡でも工房や鉄生産関連遺物が検出されていることから、他遺跡と同じく鉄生産に関連して持ち込まれた器物と考えられる。

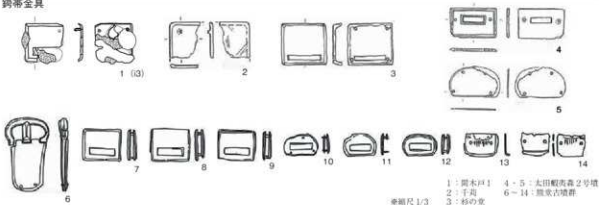
k2は中段田区、k3はB19号堅穴建物から出土した片口鉢で、k2は口縁部、k3は体部の破



鍍吊金具



鈎帯金具



第 240 図 鑿・鍍吊金具・鈎帯金具の諸例

片である。胎土と色調からいずれも常滑窯産で、詳細な年代は不明であるが12世紀代に製作されたものと考えられる。12世紀は平泉で奥州藤原氏が繁栄していた時代であり、岩手県沿岸部ではこの時代の遺物が出土した遺跡は現在のところ約20遺跡である(村田2016a)。本遺跡で出土した器種はかわらけや壺・甕類等、宴会儀礼に使用された器種ではなく片口鉢であり、どのような意図を持って持ち込まれた器物であるかは不明である。また、出土遺構は工房と考えられる堅穴建物であるが、堆積土中からの出土であり使用状況についても不明である。

### 3 総括

3箇年にわたる発掘調査により、間木戸Ⅰ遺跡は縄文時代～近世にかけての複合遺跡であることが確認された。最後に時代毎に周辺遺跡との関係も踏まえながら特徴を列記することで総括としたい。

#### 縄文時代

前期～後期初頭にかけて集落として利用されており、今回の調査で最も遺構・遺物の検出数が多い時代である。遺構は堅穴建物・土坑・炉・焼土・土器埋設遺構・配石遺構等があり、前期初頭～前期末葉～後期初頭に属すると考えられる。堅穴建物は時期ごとに地点の移動はあるものの、期間を通じてみると尾根頂部を除いてほぼ同じ場所で繰り返し建てられている。土坑は貯蔵穴が多数を占め、尾根の南側斜面に集中して掘削されている。遺物は早期後葉～後期初頭の土器をはじめ多種多量であり、中には遠隔地との交流を示す遺物も含まれている。土器では県北部や津軽地方との交流を示す円筒土器や椀形式土器、関東地方との交流を示す五領ヶ台系土器、その他に黒曜石、翡翠、琥珀等がある。ただし、黒曜石は分析により月山・小赤沢・男鹿・和田峠系があることを確認できたが(第Ⅵ章第5節)、翡翠と琥珀については原産地を特定することはできなかった(第Ⅵ章第6・7節)。これらは遺物全体から見れば極少量であるが、本遺跡では地域内だけではなくより広域との関わりを持って生活が営まれていたことを示す遺物として認識しておく必要がある。

山田湾沿岸の縄文時代の遺跡を時期ごとにみると、早期の遺跡としては後葉に属する槻木Ⅰ式土器を伴う堅穴建物が検出された沢田Ⅰ遺跡がある。前期の遺跡としては前葉の大型住居が検出された沢田Ⅰ遺跡や川半貝塚、後葉の大型住居が検出されたクク井遺跡などがある。中期に入ると遺跡数は増加し、本遺跡の周辺では間木戸Ⅱ遺跡や沢田Ⅰ遺跡、浜川目沢田Ⅰ遺跡等がある。本遺跡でも中期前葉から堅穴建物数が増加傾向にあり、特に中～後葉(大木8b～9式)に96軒と最も多くなる。ここで中期における山田湾岸の様相についてみていく。齋藤瑞穂は縄文時代における三陸地震津波の解明の為、山田湾岸に位置する中期の遺跡について堅穴建物の軒数からその消長を分析している(齋藤2020)。それによると山田湾岸の中期集落では大木8～9式(中間)式(本報告書での大木8b～9式に相当)の遺跡がほとんど無く、大木9式(後葉)になり浜川目沢田Ⅰ遺跡等で堅穴建物の構築が再開されるとしている。確かにこの時期の土器が多量に出土した浜川目沢田Ⅰ遺跡でも堅穴建物は6軒程度で、しかも重複関係にあることから1時期あたりの建物数は1～2軒と想定されている(岩文振第689集)。齋藤は津波の発生年代を大木8～9(中間)期とみており、それに伴う人口減少の反映として遺跡数・堅穴建物数が減少したと考えている。確かに山田湾全域で見た場合遺跡数は減少しているが、本遺跡では大木8b～9式の堅穴建物は100軒近くあり、堅穴建物の総数でいえば山田湾全域での大幅な減少は認められない。また、本遺跡での建物数は中～後葉のものが中期中葉のものより2倍以上に増加しており、建物数のみを基準とすれば中～後葉に人口が大幅に増加したとみることもできる。この現象は、遺跡内での自然な人口増加ではなく津波による避難などで他の集落からの移

動により一時的に人口が増加したことを示している可能性もある。一方、本遺跡では後葉には建物数は中～後葉の約1/3に減少するが、浜川目沢田Ⅰ・沢田Ⅰ・沢田Ⅱ遺跡といった標高の低い土地にあった遺跡では再び建物数が増加する。これは津波被害から復興が行われる後葉になり、本遺跡に一時避難をしていた低地部の住人が再びかつての集落へと戻って生活を再開したことを示していると考えられる。

### 古 代

縄文時代より遺構・遺物の検出数は少なくなるが、堅穴建物が20軒以上検出されており、比較的規模の大きな集落であったといえる。堅穴建物は9世紀代のものが主体で、尾根頂部及び北端区に分布する。遺物は土師器・須恵器が主体であるが、前節で検討を加えた銅製鈎帯金具や馬具、陶磁器といった岩手県内では比較的出土数の少ない遺物も出土している。本遺跡が位置する山田湾には煎手刀や多量の馬具が出土した房の沢古墳群があり、古墳時代以来律令国家との結びつきがあったことが知られている。房の沢古墳群と同時期（7世紀後半～8世紀前半）の集落としては間木戸Ⅱ遺跡や沢田Ⅱ遺跡があり、続く奈良時代の集落として和同開珎が出土した沢田Ⅲ遺跡がある。本遺跡はそれらよりも新しいが、搬入品である鈎帯金具や灰釉陶器などが出土していることから、本遺跡を含めたこの地域は平安時代に入っても律令国家との結びつきをもっていたと考えられる。また、B12号堅穴建物では擦文土器と考えられる口縁部に横方向の沈線を施す土師器甕も出土しており、これは北方地域との結びつきを示唆する遺物といえる。

### 近 世

明確な遺構は少ないが、鉄生産に関連するものが検出されている。3・4号溝は調査区東端付近で検出された溝で、2条が重複関係にある。平面形は溝状であるが、鉄滓を主体とする鉄生産関連遺物が多量に出土しており、排滓場として使用されたものと考えられる。出土した鉄滓は精練滓が多く、羽口も内径が小さいものが多いことから精練に関わる炉が存在していたと考えられたが、調査区内では鉄生産関連炉は検出されなかった。

(村田)

### 参考文献

- 相原淳一 1990 「東北地方における縄文時代早期後葉から前期前葉にかけての土器編年 - 仙台湾周辺の分層発掘資料を中心に -」『考古学雑誌』第76巻第1号
- 相原淳一 2018 「縄文時代前期末葉から中期初頭の土器編年 - 宮城県七ヶ宿町小梁川遺跡を中心とする層位学的再検討 -」『東北歴史博物館研究紀要』第19号
- 青森県史編纂考古部会 2017 『青森県史 資料編 考古1』
- 今村啓爾 2006 「大木6式土器の諸系統と変遷過程」『東京大学考古学研究室研究紀要』第20号
- 阿部昭典 2008 「東日本の中期末葉から後期前葉の土器様式」『縄文時代の社会変動論 アム・プロモーション』
- 阿部昭典 2015 「縄文の儀器と世界観 - 社会変動期における精神文化の標相 -」知泉書館
- 阿部昭典 2016 「東北地方における中期末葉の台形土器と台付浅鉢」『縄文時代』第27号 縄文時代研究会
- 阿部勝則 2001 「岩手県内出土の縄文時代中期の器台について」『紀要 XX』  
(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 阿部勝則 2004 「縄文時代中期の三角塙形土製品・三角磨石製品について - 岩手県内出土事例の検討 -」  
『紀要 XXⅢ』(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 池谷信之 1988 「東北地方における縄文時代中期末葉土器の変遷と後期土器の成立」『沼津市博物館紀要』12  
沼津市歴史民俗資料館

- 石巻市教育委員会 2018 『中沢遺跡 -小寺筑防災集団移転促進事業に係る発掘調査報告書-』  
石巻市文化財調査報告書第14集
- 井上 巖 2017 『岩手県山田町岡木戸Ⅰ遺跡出土琥珀遺物と原産地琥珀の混雑について』『日本考古学協会第83回  
総会研究発表要旨』一般社団法人日本考古学協会
- 岩手県教育委員会 1980a 『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ(宮地遺跡)』岩手県文化財調査報告書第48集  
1980b 『東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅴ(鴻ノ巣館遺跡, 高畑遺跡, 白沢遺跡)』  
岩手県埋蔵文化財調査報告書第49集  
1982a 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅢ 太田方八丁遺跡(志波城跡)』  
岩手県埋蔵文化財調査報告書第68集  
1982b 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅤ(江釣子村崎岡崎遺跡)』  
岩手県埋蔵文化財調査報告書第70集
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書は岩文振○集と省略)
- 1979 『主要地方道一関・北上線関連遺跡発掘調査報告書(岩手県江刺市力石Ⅱ遺跡・鬼Ⅱ遺跡  
・落合Ⅲ遺跡・朴ノ木遺跡)』岩文振第8集  
1982 『御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書(塩ヶ森Ⅰ・Ⅱ遺跡)』岩文振第31集  
1988 『飛鳥台Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第120集  
1994 『塚孫遺跡発掘調査報告書』岩文振第196集  
1995a 『大畑Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩文振第218集  
1995b 『上米内遺跡第9次発掘調査報告書』岩文振第220集  
1997 『沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩文振第268集  
1998 『房の沢Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩文振第287集  
1999 『山王山遺跡第9次発掘調査報告書』岩文振第316集  
2000 『沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第318集  
2001a 『沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第342集  
2001b 『長谷堂貝塚発掘調査報告書』岩文振第367集  
2002 『新田遺跡発掘調査報告書』岩文振第405集  
2005 『滝の沢地区遺跡発掘調査報告書』岩文振第456集  
2006 『大清水上遺跡発掘調査報告書』岩文振第475集  
2008 『力持遺跡発掘調査報告書』岩文振第510集  
2009 『道上遺跡第3次・合野遺跡・小林繁長遺跡発掘調査報告書』岩文振第544集  
2010 『隠里塚遺跡発掘調査報告書』岩文振第552集  
2011 『八木沢野来遺跡発掘調査報告書』岩文振第573集  
2012 『滝の沢遺跡発掘調査報告書』岩文振第590集  
2015 『岡木戸Ⅱ遺跡・岡木戸Ⅴ遺跡発掘調査報告書』岩文振第640集  
2016 『千角遺跡発掘調査報告書』岩文振第652集  
2018a 『浜川目沢田Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩文振第679集  
2018b 『荷竹日向Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第681集  
2018c 『浜川目沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第689集  
2019a 『力持遺跡発掘調査報告書』岩文振第694集  
2019b 『山口駒込Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第696集  
2020 『長谷堂貝塚発掘調査報告書』岩文振第719集
- 岩手県立博物館 1990 『熊堂古墳群・浮島古墳群発掘調査報告書』岩手県立博物館調査研究報告書第六冊
- 大迫町教育委員会 1986 『観音堂遺跡 第1~6次発掘調査報告書』大迫町埋蔵文化財調査報告書第11集
- 折登亮子 2019 『円筒土器文化圏における縄文時代前期末葉~中期初頭の土偶に関する一考察 -大木式土器文化  
圏の土偶との比較を中心に-』『特別史跡三内丸山遺跡 年報』22 青森県教育委員会

- 金子昭彦 2012 「大木式北部・板状O脚土偶の編年 - 東北地方中部における縄文時代前期～中期前葉の土偶 -」  
『岩手考古学』第23号 岩手考古学会
- 神原雄一郎 2004 「渦巻文様の展開 - 盛岡の縄文時代中期の土器 -」『縄文の彩華 - 中期の技と美 -」
- 橋原功一 2004 「台形土器の研究」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第12集
- 小島俊彰 1983 「三角埴形土製品」『縄文文化の研究』9 縄文人の精神文化 雄山閣
- 小林達雄編 2008 『総覧 縄文土器』アム・プロモーション
- 斎藤瑞穂 2020 「縄文三陸地帯津波への接近」『考古学ジャーナル』第746号 ニュー・サイエンス社
- 坂本美夫 1985 『馬具』ニュー・サイエンス社
- 須原 拓 2018 「V 出土遺物の分類」『浜川日沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩文振第689集
- 須原 拓 2019 「岩手県沿岸地域の太木8a式土器について - 浜川日沢田Ⅰ遺跡の資料から」『紀要』第38号  
(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 東海古墳文化研究会 2006 『東海の馬具と輪大刀』
- 遠野市教育委員会 2006 『張山遺跡』遠野市埋蔵文化財調査報告書第8集
- 日本考古学協会 2005 「板状埴と縄文文化」『日本考古学協会2005年度福島大会シンポジウム資料集』  
2016 『津軽海峡圏の縄文文化』一般社団法人日本考古学協会2016年度弘前大会 第1分科会  
研究報告資料集』
- 早瀬亮介・菅野智則・須藤隆 2006 「東北大学文学研究科 考古学陳列館所蔵大木道具塚出土土基準資料  
- 山内清男編年基準資料 -」『Bulletin of the Tohoku University Museum』No.5 東北大学
- 松田光太郎 2003 「大木6式土器の変遷とその地域性」『神奈川考古』第39号 神奈川考古同人会
- 松村忠司 2002 「鈎帯金具の位階表示機能」『鈎帯をめぐる諸問題』奈良考古学研究所
- 水沢市教育委員会 2004 「伯濟寺遺跡」『水沢遺跡群範囲確認調査 - 平成14年度発掘調査概報 -』岩手県水沢市  
文化財報告書第37集
- 村田 淳 2016a 「岩手県沿岸部の様相」『考古資料にみる「平泉」とその周辺』岩手考古学会第48回研究大会資料集  
2016b 「東北地方北部出土の施軸陶磁器」『第Ⅱ分科会 東北9・10世紀社会の変動 研究報告資料集』  
日本考古学協会2016年度弘前大会実行委員会
- 室伏 徹 2008 「台形土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
- 盛岡市遺跡の学び館 2004 『縄文の彩華 - 中期の技と美 -』開館記念特別展図録  
2008 『柿ノ木平遺跡 環根遺跡 - 浅岸地区区画整理事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ -』
- 盛岡市教育委員会 1997 「大館遺跡群 - 大館遺跡 - 平成6・7年度発掘調査概報』
- 八木光則 1996 「馬具と鞍夷 - 藤澤殿夷古墳群出土の遺物をとおして -」『岩手史学研究』第79号 岩手史学会
- 山田町教育委員会 2002a 「山田町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ 山田・折笠地区」山田町埋蔵文化財調査報告書  
第7集  
2002b 「細浦Ⅳ・後山Ⅰ遺跡発掘調査報告書」山田町埋蔵文化財調査報告書第9集  
2015 「岡木Ⅰ里塚発掘調査報告書」山田町埋蔵文化財調査報告書第14集
- 山梨県教育委員会 1987a 「釈迦堂 Ⅱ」山梨県埋蔵文化財センター調査報告第21集  
1987b 「釈迦堂 Ⅲ」山梨県埋蔵文化財センター調査報告第22集
- 山梨県考古学協会 2002 「土器から探る縄文社会」

第10表 露文土器調査表(1)

No.	器種	時期	遺構・地誌・層位	埋存部位	数量 (個)	計測値(mm)	重量 (g)	文様・調査 (内照・内照)	備考	図版 No.	写真 No.
a1	深鉢	A. 1号穿穴遺物	3・5層・5層以下	口-胴部	146	161	0.05	7959 底→朝顔ノ	AS.27P	1	274
a2	深鉢	A. 1号穿穴遺物	5層	口-胴部	172	-	0.07	8013 底	AS.27P	1	274
a3	深鉢	A. 1号穿穴遺物	5層	口-胴部	172	-	0.06	8013 底	AS.27P	1	274
a4	深鉢	A. 1号穿穴遺物	5層	口-胴部	143	144	0.06	8076 底→朝顔ノ	AS.27P	1	274
a5	深鉢	A. 1号穿穴遺物	5層	胴部	767	-	0.19	12533 底(口内)	AS.27P	1	274
a6	深鉢	A. 1号穿穴遺物	5層以下	口-胴部	139	132	0.05	8159 底	AS.27P	1	274
a7	深鉢	A. 1号穿穴遺物	5層	口-胴部	116	116	0.04	8081 底	AS.27P	1	274
a8	深鉢	A. 1号穿穴遺物	4層	口-胴部	109	109	0.03	8081 底	AS.27P	1	274
a9	深鉢	A. 1号穿穴遺物	4層	口-胴部	124	124	0.04	8123 底	AS.27P	1	274
a10	深鉢	A. 1号穿穴遺物	4層下・中位(遺物土層)	口-胴部	437	-	1.10	12523 輪軸全体ノ	AS.27P	2	274
a11	深鉢	A. 1号穿穴遺物	5層	口-胴部	-	-	0.10	9665 底→朝顔ノ	AS.27P	1	274
a12	深鉢	A. 1号穿穴遺物	5層	口-胴部	-	-	0.06	727 底	AS.27P	1	274
a13	深鉢	A. 1号穿穴遺物	5層以下・西<6>ト一	口-胴部	-	-	0.17	1719 底(口内)	AS.27P	2	275
a14	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	71	-	0.07	3042 底→朝顔ノ	AS.27P	2	275
a15	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	71	-	0.07	3042 底→朝顔ノ	AS.27P	2	275
a16	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	-	-	0.14	629 輪軸全体ノ	AS.27P	2	275
a17	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	-	-	0.08	369 底部→*4Pノ	AS.27P	2	275
a18	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	130	151	0.05	8149 底(口内)	AS.27P	2	275
a19	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	-	-	0.04	809 底→朝顔ノ	AS.27P	2	275
a20	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	-	-	0.03	101 底(口内)	AS.27P	2	275
a21	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	-	-	0.04	101 底(口内)	AS.27P	2	275
a22	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	-	-	0.14	132 底→朝顔ノ	AS.27P	3	275
a23	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	-	-	0.14	132 底→朝顔ノ	AS.27P	3	275
a24	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	182	182	0.05	851 底→*12層(平・山)	AS.27P	3	275
a25	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	-	-	0.05	318 底部→*12層(平・山)	AS.27P	3	275
a26	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	-	-	0.07	380 底(口内)	AS.27P	3	275
a27	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	37	37	0.05	101 底(口内)	AS.27P	3	275
a28	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	95	95	0.04	815 底	AS.27P	3	275
a29	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	49	49	0.05	42 底→*4Pノ	AS.27P	3	275
a30	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	108	-	0.05	1173 底(口内)	AS.27P	3	275
a31	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	175	-	0.05	2579 底(口内)	AS.27P	3	275
a32	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	胴部	-	-	0.05	833 底→朝顔ノ	AS.27P	3	275
a33	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	-	-	0.08	1049 底(口内)	AS.27P	3	275
a34	深鉢	A. 2号穿穴遺物	5層	口-胴部	264	264	0.10	8909 胴部全体ノ	AS.27P	4	276
a35	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	385	360	1.15	16601 底(口内)	AS.27P	4	276
a36	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	283	-	1.05	14963 底(口内)	AS.27P	4	276
a37	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	-	-	0.06	4982 底(口内)	AS.27P	4	276
a38	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	-	-	0.05	4982 底(口内)	AS.27P	4	276
a39	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	-	-	0.06	1345 底(口内)	AS.27P	4	276
a40	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	-	-	0.06	1345 底(口内)	AS.27P	4	276
a41	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	102	102	0.07	2446 底	AS.27P	4	276
a42	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	-	-	0.05	1014 底(口内)	AS.27P	4	276
a43	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	-	-	0.07	2724 底→朝顔ノ	AS.27P	4	276
a44	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	-	-	0.05	3113 底(口内)	AS.27P	4	276
a45	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	-	-	0.08	364 底→朝顔ノ	AS.27P	5	277
a46	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	-	-	0.08	364 底→朝顔ノ	AS.27P	5	277
a47	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	-	-	0.08	364 底→朝顔ノ	AS.27P	5	277
a48	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	-	-	0.08	364 底→朝顔ノ	AS.27P	5	277
a49	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	337	-	0.94	2030 底	AS.27P	5	277
a50	深鉢	A. 6号穿穴遺物	6号穿穴遺物土層	口-胴部	-	-	0.75	796 底(口内)	AS.27P	5	277



第10表 講文土器類群表(2)

器種 No.	器種	種類	遺構・地誌・層位	埋存部位	数量 口数	計数量 (口)	口径 底径	厚	重量 (g)	文様・溝部 (内面・外面)	図版 No.	写真
a513	深鉢	大6	A16 穿型土器類 日置前10層	口縁部	-	-	-	1.1	290	LR 内面→暗文部	10	深鉢
a514	深鉢	大9	A18-19 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.5	210	半輪状本器1番→LR部、前縁	5	深鉢
a515	深鉢	大8	A18 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.5	210	半輪状本器1番→LR部、前縁	5	深鉢
a516	深鉢	大8	A18-19 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	215	LR→暗文部	5	深鉢
a517	深鉢	大6	A20 穿型土器類 北野原埋土	口縁部	-	-	-	0.9	182.3	帯帯、前縁欠部	5	深鉢
a518	深鉢	大6	A20 穿型土器類 北野原埋土	口縁部	-	-	-	0.5	212	LR、口内、暗文部	5	深鉢
a519	深鉢	大8	A20 穿型土器類 北野原埋土	口縁部	-	-	-	0.35	256	LR→暗文部	5	深鉢
a520	深鉢	大8	A20 穿型土器類 北野原埋土	口縁部	-	-	-	0.5	217	LR→暗文部	5	深鉢
a521	深鉢	大8	A20 穿型土器類 A埋土上	口縁部	310	110	105	0.7	327	LR→暗文部	5	深鉢
a522	深鉢	大8	A20 穿型土器類 A埋土上	口縁部	247.1	90	-	0.5	217	LR→暗文部	5	深鉢
a523	深鉢	大8	A20 穿型土器類 日置前6層	底面	128.21	-	-	0.8	400	LR→暗文部	6	深鉢
a524	深鉢	大8	A20 穿型土器類 日置前6層	口縁部	22.7	-	-	0.6	188.2	LR→暗文部	5	深鉢
a525	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.9	170.3	LR→LR部、口内暗文部→LR部	6	深鉢
a526	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	121	-	-	0.95	343.3	LR→暗文部、口内暗文部→LR部	6	深鉢
a527	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	6	深鉢
a528	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a529	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a530	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.6	268.8	LR	7	深鉢
a531	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.9	460	LR、LR→暗文部	7	深鉢
a532	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	1.0	128.7	LR→LR部、前縁	7	深鉢
a533	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a534	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a535	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a536	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a537	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a538	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a539	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a540	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a541	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a542	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a543	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a544	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a545	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a546	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a547	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a548	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a549	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a550	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a551	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a552	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢
a553	深鉢	大8	A20 穿型土器類 埋土上	口縁部	-	-	-	0.8	222	LR→暗文部	7	深鉢



第 10 表 織文土器調査表 (4)

No.	器種	種類	遺構・地誌・層位	埋存状況	数量 (個)	支片・調査 (内訳・内容)	備考	所属 号順 No.
a153	沓鉢	大形器	A148号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.9 1770 泥→硝化燻		14-283
a154	沓鉢	大形器→9	A149号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.7 252 硝化燻→硝化燻		14-282
a155	沓鉢	大形器	A150号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.7 252 硝化燻→硝化燻		14-282
a156	沓鉢	大形器	A151号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.6 461 泥→硝化燻	流口口縁, 平腹面の硝化燻も有	15-283
a157	沓鉢	大形器	A152号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.6 461 泥→硝化燻		15-283
a158	沓鉢	大形器	A153号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.6 979 泥→硝化燻		15-284
a159	沓鉢	大形器	A154号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.75 669 泥→硝化燻		15-284
a160	沓鉢	大形器	A155号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.8 659 硝化燻→土灰		15-284
a161	沓鉢	大形器	A156号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.56 1305 硝化燻		15-284
a162	沓鉢	大形器	A157号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.6 792 泥(硝化燻)		15-284
a163	沓鉢	大形器	A158号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.56 1629 硝化燻		15-284
a164	沓鉢	大形器	A159号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.7 572 泥→硝化燻		15-284
a165	沓鉢	大形器	A160号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.55 1983 泥(硝化燻)		15-284
a166	沓鉢	大形器	A161号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.6 3625 泥(硝化燻)		15-284
a167	沓鉢	大形器	A162号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.7 3217 硝化燻	2単位口縁口縁	15-284
a168	沓鉢	大形器	A163号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.7 3217 硝化燻		15-284
a169	沓鉢	大形器	A164号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.16 1665 泥(硝化燻)		15-284
a170	沓鉢	大形器	A165号室(土器室) 1層	口縁部	1	1.0 1720 泥→硝化燻		16-284
a171	沓鉢	大形器	A166号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.8 227 泥→硝化燻		16-284
a172	沓鉢	大形器	A167号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.56 1605 泥→硝化燻	3, 5, 3, 3, 3, 硝化燻も有	16-285
a173	沓鉢	大形器	A168号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.16 544 泥→硝化燻		16-285
a174	沓鉢	大形器	A169号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.16 544 泥→硝化燻		16-285
a175	沓鉢	大形器	A170号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.8 2609 硝化燻	大形6-7, 5, 式の可能性も有	16-285
a176	沓鉢	大形器	A171号室(土器室) 1層	口縁部	1	1.2 1959 硝化燻		16-285
a177	沓鉢	大形器	A172号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.65 5715 泥→硝化燻		16-285
a178	沓鉢	大形器	A173号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.7 777 泥→硝化燻		16-285
a179	沓鉢	大形器	A174号室(土器室) 1層	口縁部	1	1.0 274 硝化燻		16-285
a180	沓鉢	大形器	A175号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.5 938 泥→硝化燻		16-285
a181	沓鉢	大形器	A176号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.6 334 泥→硝化燻		16-285
a182	沓鉢	大形器	A177号室(土器室) 1層	口縁部	1	1.0 4674 硝化燻	口縁部口縁口縁, 口縁部内側口縁口縁は管状のコブ	17-285
a183	埴輪器鉢	大形器	A178号室(土器室) 1層	胴部	2	0.11 1970 硝化燻		17-286
a184	沓鉢	大形器	A179号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.58 2090 泥→硝化燻		17-286
a185	沓鉢	大形器	A180号室(土器室) 1層	口縁部	1	1.48 1365 10677 泥→硝化燻		17-285
a186	沓鉢	大形器	A181号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.75 2922 泥(硝化燻)		17-286
a187	沓鉢	大形器	A182号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.8 448 硝化燻		17-285
a188	沓鉢	大形器	A183号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.8 448 硝化燻		17-285
a189	沓鉢	大形器	A184号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.8 448 硝化燻		17-285
a190	沓鉢	大形器	A185号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.8 387 硝化燻		17-285
a191	沓鉢	大形器	A186号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.8 2636 泥(硝化燻)		17-286
a192	沓鉢	大形器	A187号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.7 546 泥→硝化燻		17-286
a193	沓鉢	大形器	A188号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.6 411 硝化燻		17-286
a194	沓鉢	大形器	A189号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.11 1970 硝化燻		17-286
a195	沓鉢	大形器	A190号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.60 640 硝化燻	2単位口縁口縁	17-286
a196	沓鉢	大形器	A191号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.65 2321 泥→硝化燻	流口口縁口縁, 流口口縁口縁	18-286
a197	沓鉢	大形器	A192号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.85 2972 硝化燻		18-286
a198	沓鉢	大形器	A193号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.6 1301 泥→硝化燻		18-286
a199	沓鉢	大形器	A194号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.6 437 泥→硝化燻	3, 5, 3, 3, 3, 硝化燻	18-286
a200	沓鉢	大形器	A195号室(土器室) 1層	口縁部	1	0.59 656 硝化燻		18-286

第10表 縄文土器調査表(5)

調査 No.	器種	種類	遺構・地誌・層位	埋存状況	調査 部位	計測箇所 (No.)	寸法	重量 (g)	文様・特徴 (内面・外面)	所属 No.	備考
a201	深鉢	大8新 A74号型小建物 A74号型小建物	床面直上 A74号型小建物	埋	口縁部	-	φ10	4(60)	口縁→暗紅色ノキズノ	18_286	単位遺構口縁
a202	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	-	0.6	6.25	赤土面、散粒状赤土	18_287	大820号
a203	深鉢	大8b新 A75号型小建物 南偏上	埋	口縁部	側面	-	0.9	22.64	赤土面、散粒状赤土	18_287	大820号
a204	深鉢	大9新 A77号型小建物 南偏上	埋	口縁部	側面	-	0.7	26.64	口縁部	18_287	大820号
a205	深鉢	大9 A79号型小建物 南偏上	埋	口縁部	側面	15	0.8	0.7	赤土面	18_287	大820号
a206	深鉢	大7b A75号型小建物 165 南偏上	埋	口縁部	側面	165	0.7	28.0	口縁部	19_286	大820号
a207	深鉢	大8b A75号型小建物 北北 南偏上	埋	口縁部	側面	165	0.6	29.0	口縁部	19_287	大820号
a208	深鉢	大8b A75号型小建物 北北 南偏上	埋	口縁部	側面	165	0.9	35.35	口縁部	19_287	大820号
a209	深鉢	大8b A75号型小建物 北北 南偏上	埋	口縁部	側面	165	1.0	31.0	口縁部	19_287	大820号
a210	深鉢	大8b A75号型小建物 北北 南偏上	埋	口縁部	側面	165	0.8	32.17	口縁部	19_287	大820号
a211	深鉢	大8b A77号型小建物 南偏上	埋	口縁部	側面	165	0.7	32.17	口縁部	19_287	大820号
a212	深鉢	大8b A77号型小建物 南偏上	埋	口縁部	側面	165	0.8	32.17	口縁部	19_287	大820号
a213	深鉢	大8b A77号型小建物 南偏上	埋	口縁部	側面	165	0.7	32.17	口縁部	19_287	大820号
a214	深鉢	大8b A77号型小建物 南偏上	埋	口縁部	側面	165	0.6	29.0	口縁部	19_287	大820号
a215	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.7	22.8	口縁部	19_287	大820号
a216	深鉢	大8b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a217	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.7	25.0	口縁部	19_287	大820号
a218	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a219	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a220	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a221	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a222	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a223	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a224	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a225	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a226	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a227	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a228	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a229	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a230	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a231	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a232	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a233	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a234	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a235	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a236	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a237	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a238	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a239	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a240	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a241	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a242	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a243	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a244	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a245	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a246	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a247	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号
a248	深鉢	大7b A75号型小建物 161 南偏上	埋	口縁部	側面	161	0.5	25.0	口縁部	19_287	大820号



第10表 論文士器観察表(7)

氏名	性別	所属	職種	遺構・地点・層位	埋存部位	数量	計測値(cm)	重量(g)	材質	文様・溝痕	(内側・外側)	図版	号順	
A301	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.8	2940	底→底面	-	遺口口縁	26	
A302	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	胴部	-	-	0.8	2852	底面→底面	横子→竹管痕跡	-	26	
A303	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.4	324	底→底面	-	遺口口縁	26	
A304	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.4	314	底→底面	-	遺口口縁	26	
A305	男性	大分	A109号穴状遺物	5層	胴部	-	-	0.9	593	中継条→中継条	-	外周部腹	26	
A306	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.85	840	底→底面	底面	-	26	
A307	女性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.7	688	底→底面	底面	-	26	
A308	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	1.3	2853	中継条部	底面	-	26	
A309	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	1.1	2853	中継条部	底面	-	26	
A310	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	1.1	2860	横子	-	スズコテ	27	
A311	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.6	972	底→底面	-	スズ	27	
A312	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.6	2572	底→底面	口縁部交差	-	27	
A313	男性	福岡	A109号穴状遺物	青磁土	胴部	-	-	0.8	1292	中継条部	-	スズ	27	
A314	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.8	6354	底面	底面→底面	系柱痕跡	27	
A315	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.7	2862	底面	底面	-	27	
A316	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.6	251	底→底面	-	遺口口縁	27	
A317	男性	大分	A109号穴状遺物	6層1段	口縁部	-	-	0.75	1145	底→底面	-	遺口口縁	27	
A318	男性	大分	A109号穴状遺物	6層1段	口縁部	-	-	0.8	4133	底→底面	底面	-	27	
A319	男性	大分	A109号穴状遺物	7層1段	口縁部	-	-	1.0	2862	底面	底面	-	27	
A320	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	胴部	-	-	0.65	259	底面	底面	-	27	
A321	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.7	2862	底面	底面	-	27	
A322	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.65	313	底→底面	-	遺口口縁	28	
A323	男性	大分	A109号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.7	2715	横子交差	底面	-	28	
A324	男性	福岡	A110号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.7	422	底→底面	-	地帯特に変形、筋跡多し、灰色	28	
A325	男性	大分	A110号穴状遺物	6層1段	胴部	-	-	1.1	951	底→底面	-	コテ	28	
A326	男性	大分	A110号穴状遺物	6層1段	口縁部	-	-	1.0	3115	底→底面	-	スズ	28	
A327	男性	大分	A110号穴状遺物	6層1段	口縁部	-	-	1.0	1766	底→底面	-	スズ	28	
A328	男性	大分	A110号穴状遺物	6層1段	口縁部	-	-	0.6	1070	底→底面	-	遺口口縁	28	
A329	男性	大分	A110号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.65	785	底→底面	-	遺口口縁	28	
A330	男性	大分	A110号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.75	2342	底→底面	-	遺口口縁	28	
A331	男性	大分	A110号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.6	801	底→底面	-	遺口口縁	28	
A332	男性	大分	A110号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.6	2840	底→底面	-	遺口口縁	28	
A333	男性	大分	A110号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.7	2840	底→底面	-	遺口口縁	28	
A334	男性	大分	A110号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.8	571	底→底面	横子	-	28	
A335	男性	大分	A110号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.6	468	底→底面	-	外周部腹	28	
A336	男性	大分	A110号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.6	1151	底→底面	底面	-	28	
A337	男性	大分	A110号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.65	1146	底→底面	底面	-	28	
A338	男性	大分	A110号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.8	5969	底→底面	底面	-	コテ、口縁下腹式の可動性も有	
A339	男性	大分	A110号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.8	2860	底→底面	-	スズ	29	
A340	男性	大分	A110号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.55	1385	底→底面	底面	-	スズ	29
A341	男性	福岡	A113号穴状遺物	青磁土	胴部	300	73	0.35	3877	底→底面	底面	底面	29	
A342	男性	大分	A113号穴状遺物	青磁土	胴部	655	91	0.5	3877	底→底面	底面	底面	29	
A343	男性	大分	A113号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.7	786	底→底面	口縁部交差	-	29	
A344	男性	大分	A113号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.9	3048	底→底面	底面	-	29	
A345	男性	大分	A113号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.9	3048	底→底面	底面	-	29	
A346	男性	大分	A113号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.9	3048	底→底面	底面	-	29	
A347	男性	福岡	A114号穴状遺物	青磁土	口縁部	1843	220	-	5985	底→底面	底面	底面	30	
A348	男性	福岡	A114号穴状遺物	青磁土	胴部	1927	-	107	8976	底→底面	底面	底面	30	
A349	男性	福岡	A114号穴状遺物	青磁土	胴部	254	-	10.0	8	1102	中継条部	底面	30	
A350	男性	大分	A114号穴状遺物	青磁土	口縁部	342	11.8	-	665	3943	中継条部	底面	30	
A351	男性	大分	A114号穴状遺物	青磁土	口縁部	460	31.8	-	127	1390	中継条部	底面	30	
A352	男性	大分	A114号穴状遺物	青磁土	口縁部	530	20.6	-	2672	底→底面	底面	底面	30	
A353	男性	大分	A114号穴状遺物	青磁土	口縁部	-	-	0.8	3225	横子	横子	-	30	







第10表 絹文土器類群表(10)

図号	器種	時期	遺跡・地名・層位	形状・部位	高さ cm	口径 cm	底径 cm	重量 g	支那・漢書 (5世紀・4世紀)	図版 号順 No.
a451	深鉢	中前期	A129 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	199	—	105	0.6	8458 LR	42-305
a452	深鉢	大前期	A129 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	145	114	—	0.4	8526 LR	42-305
a453	深鉢	大前期	A129 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	69	—	39	—	8527 LR	42-305
a454	深鉢	大前期	A129 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	69	—	—	0.6	8543 LR	42-305
a455	深鉢	大5	A129 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.6	813 LR	42-305
a456	深鉢	大5	A129 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.7	1427 LR	42-305
a457	深鉢	大8a	A130 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.8	1417 甕物上1/10断面	42-305
a458	深鉢	大8a	A130 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.9	1460 甕物上1/10断面	42-305
a459	深鉢	大6	A130 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.8	614 甕物(平・山)	42-305
a460	深鉢	大6	A130 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	60	—	82	0.6	2963 LR	43-306
a461	深鉢	不明	A131 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.7	1765 LR	43-306
a462	深鉢	大6	A131 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.75	717 LR	43-306
a463	深鉢	大3	A131 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.75	717 LR	43-306
a464	深鉢	大3	A131 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.75	717 LR	43-306
a465	深鉢	大3	A131 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.75	717 LR	43-306
a466	深鉢	不明	A132 穿穴式甕物 A 甕物上	胴一断面 1/10断面	637	137.0	130	1.5	6837 LR	43-306
a467	深鉢	不明	A132 穿穴式甕物 A 甕物上	胴一断面 1/10断面	292	—	—	0.9	2073 LR	43-306
a468	深鉢	大9	A132 穿穴式甕物 A 甕物上	胴一断面 1/10断面	117	—	56	0.6	5203 LR	43-306
a469	深鉢	大9	A132 穿穴式甕物 A 甕物上	胴一断面 1/10断面	114	11.6	—	0.7	2968 LR	43-306
a470	深鉢	大8b-9	A132 穿穴式甕物 A 甕物上	胴一断面 1/10断面	240	196	72	0.4	1384 甕物上1/2-上下方向の不明な断面	43-306
a471	深鉢	大8b-9	A132 穿穴式甕物 A 甕物上	胴一断面 1/10断面	142	—	—	0.5	1349 LR	43-306
a472	深鉢	大8b	A132 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	185	14.2	—	0.5	1349 LR	43-306
a473	深鉢	大8b	A132 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.6	2422 LR	44-307
a474	深鉢	大8b	A132 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.7	710 LR	44-307
a475	深鉢	大6	A134 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.8	330 甕物	44-306
a476	深鉢	大8	A135 穿穴式甕物 13層	胴一断面 1/10断面	126	196	—	0.7	6983 LR	44-307
a477	深鉢	大8	A135 穿穴式甕物 13層	胴一断面 1/10断面	251	162	—	0.5	5282 LR	44-307
a478	深鉢	不明	A135 穿穴式甕物 13層	胴一断面 1/10断面	179	—	100	0.6	6516 LR	44-307
a479	深鉢	不明	A135 穿穴式甕物 13層	胴一断面 1/10断面	192	—	—	0.8	6553 LR	44-307
a480	深鉢	不明	A135 穿穴式甕物 13層	胴一断面 1/10断面	226	—	—	0.8	6553 LR	44-307
a481	深鉢	不明	A135 穿穴式甕物 13層	胴一断面 1/10断面	53	—	—	0.4	303 LR	44-307
a482	深鉢	不明	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	53	—	—	0.4	303 LR	44-307
a483	深鉢	大8b	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.6	1349 LR	44-307
a484	深鉢	大8b	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.7	6796 LR	45-308
a485	深鉢	大8b	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.75	2113 LR	45-308
a486	深鉢	大8b	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.75	2113 LR	45-308
a487	深鉢	大8b	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.6	2216 LR	45-307
a488	深鉢	大8b	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.6	2216 LR	45-307
a489	深鉢	不明	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	252	—	—	0.65	6350 LR	45-307
a490	深鉢	不明	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.75	2113 LR	45-307
a491	深鉢	不明	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.6	2216 LR	45-307
a492	深鉢	不明	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.6	2216 LR	45-307
a493	深鉢	不明	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.6	2216 LR	45-307
a494	深鉢	大8	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.6	291 LR	46-308
a495	深鉢	大8	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.8	212 甕物上1/10断面	46-308
a496	深鉢	大8b-9	A135 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	500	—	—	0.7	12858 トナリ断面	46-309
a497	深鉢	大8b	A136 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	198	186	—	0.7	8543 LR	46-309
a498	深鉢	大8	A136 穿穴式甕物 甕物上	胴一断面 1/10断面	—	—	—	0.7	1372 LR	47-308
a499	深鉢	不明	A136 穿穴式甕物 E 甕物上	胴一断面 1/10断面	102	21.4	—	0.7	9012 LR	47-308
a500	深鉢	大7b	A136 穿穴式甕物 E 甕物上	胴一断面 1/10断面	137	—	88	0.6	2672 甕物上1/10断面	47-308

第10表 絹文土器器類表 (11)

No.	器種	種類	遺跡・地区・層位	埋没部位	数量	計器種 (No.)	重量	支那・漢朝 (5世紀-9世紀)	器名	所属 号No.		
a501	深鉢	A136 穿穴式器物	E 南側4層	口縁部	5	5 (1)	0.65	1237	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307		
a502	深鉢	A136 穿穴式器物	南側4層	口縁部	352	352	1.01	0.6	727A	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307	
a503	深鉢	A136 穿穴式器物	南側4層	口縁部	2	2	0.1161	0.9	727B	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307	
a504	深鉢	A138 穿穴式器物	E 南側4層	口縁部	2	2	0.25	332	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307		
a505	深鉢	A136 穿穴式器物	E 南側4層	口縁部	2	2	0.65	206	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307		
a506	深鉢	A136 穿穴式器物	E 南側4層	口縁部	2	2	0.75	202	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307		
a507	深鉢	A136 穿穴式器物	E 南側4層	口縁部	1	1	0.75	185	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307		
a508	深鉢	A136 穿穴式器物	E 南側4層	口縁部	1	1	0.75	182	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307		
a509	深鉢	A136 穿穴式器物	E 南側4層	口縁部	1	1	0.75	182	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307		
a510	深鉢	A137 穿穴式器物	E 南側4層	口縁部	2	2	0.65	165A	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307		
a511	深鉢	A137 穿穴式器物	C 南側1層	口縁部	1	1	0.4	555	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a512	深鉢	A137 穿穴式器物	C 南側1層	口縁部	1	1	0.5	542	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a513	深鉢	A137 穿穴式器物	南側土上	口縁部	128	128	1.0	262	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a514	深鉢	A137 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.615	18	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a515	深鉢	A137 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.6	264	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a516	深鉢	A137 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.6	264	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a517	深鉢	A137 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.7	260	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a518	深鉢	A137 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.55	454	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a519	深鉢	A137 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.7	348	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a520	深鉢	A137 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.65	280	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a521	深鉢	A137 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.7	352	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a522	深鉢	A137 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.7	352	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a523	深鉢	A137 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.7	352	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a524	深鉢	A137 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.65	145	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a525	深鉢	A137 穿穴式器物	南側土上	口縁部	292	292	31.8	0.85	2749	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310	
a526	深鉢	A137 穿穴式器物	C 南側1層	口縁部	1	1	0.85	115	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a527	深鉢	A137 穿穴式器物	C 南側1層	口縁部	368	368	11.5	0.85	115	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310	
a528	深鉢	A138 穿穴式器物	南側土上	口縁部	268	268	13.4	1.1	1799	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310	
a529	深鉢	A138 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.9	423A	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a530	深鉢	A138 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.7	932	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a531	深鉢	A139 穿穴式器物	南側土上	口縁部	178	178	10.5	1.0	8659	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310	
a532	深鉢	A139 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.7	355	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a533	深鉢	A139 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.65	192	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a534	深鉢	A139 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.6	192	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310		
a535	深鉢	A140 穿穴式器物	南側土上	口縁部	201	201	24.2	1.0	1407	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310	
a536	深鉢	A141 穿穴式器物	南側土上	口縁部	320	320	34.2	1.0	1407	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.310	
a537	浅鉢	A140 穿穴式器物	東区 南側直土・南側土上	口縁部	214	214	11.0	1.0	774	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307	
a538	深鉢	A140 穿穴式器物	東区 南側直土・南側土上	口縁部	156	156	6.8	0.5	4332	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307	
a539	深鉢	A140 穿穴式器物	東区 南側直土・南側土上	口縁部	205	205	117.8	6.4	0.6	3961	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307
a540	深鉢	A140 穿穴式器物	東区 南側直土・南側土上	口縁部	3	3	8.0	0.6	3335	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307	
a541	深鉢	A140 穿穴式器物	東区 南側直土・南側土上	口縁部	94	94	0.8	1.0	1627	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307	
a542	深鉢	A140 穿穴式器物	東区 南側直土・南側土上	口縁部	27	27	0.4	0.8	1627	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.307	
a543	深鉢	A140 穿穴式器物	東区 南側直土・南側土上	口縁部	1	1	0.6	957	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.312		
a544	深鉢	A140 穿穴式器物	東区 南側直土・南側土上	口縁部	1	1	0.7	627	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.312		
a545	深鉢	A140 穿穴式器物	東区 南側直土・南側土上	口縁部	1	1	0.9	1572	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.312		
a546	深鉢	A140 穿穴式器物	東区 南側直土・南側土上	口縁部	1	1	0.8	1544	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.312		
a547	深鉢	A140 穿穴式器物	東区 南側直土・南側土上	口縁部	172	172	132.0	6.8	0.55	4440	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.312
a548	深鉢	A141 穿穴式器物	南側土上	口縁部	1	1	0.6	262	底平→底凹, 口縁部隆起→平削	A.S.312		

第 10 表 絹文土器観覧表 (12)

図号 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	発見部位	高さ 計測値 (cm)	口径 口径	底径 底径	厚 厚	重量 (g)	文様・調査 (5角形・内径)	備考	図例 No.	写真 No.
a564	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 4-5層	口縁部	27(5)	—	0.6	3008	—	口縁部→底縁部、口縁部下部突縁・商部突縁→口・面	黒口土師、ススゴフ	51	312
a567	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 4-5層	口縁部	28(4)	—	1.0	1368	—	口縁部突縁1帯→口縁部	ススゴフ	51	313
a568	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 北東区 4-5層	胴部	—	—	—	1.0	1261	口縁部→口縁部	黒口土師、黒文の彫り柄あり	52	312
a569	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 南東区 4-5層	口縁部	—	—	—	0.6	653	黒部区→口縁部 竹葉形突縁・黒部付	スス	52	312
a570	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 北東区 4-5層	口縁部	—	—	—	0.6	488	口縁部突縁→口縁部 竹葉形突縁・黒部付	スス	52	313
a571	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 北東区 4-5層	口縁部	—	—	—	0.5	1942	口縁部→口縁部 竹葉形突縁・黒部付	スス	52	313
a572	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 北東区 4-5層	口縁部	—	—	—	0.5	1842	口縁部→口縁部 竹葉形突縁・黒部付	スス	52	313
a573	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 北東区 4-5層	口縁部	—	—	—	1.3	538	黒部区→口縁部 竹葉形突縁・黒部付	a551と同・胴部付の組合せナシ	52	313
a574	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 南東区 4-5層	口縁部	—	—	—	0.8	984	口縁部→口縁部 竹葉形突縁・黒部付	a551と同・胴部付の組合せナシ	52	313
a575	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 北東区 4-5層	口縁部	—	—	—	0.8	611	口縁部→口縁部 竹葉形突縁・黒部付	a551と同・胴部付の組合せナシ	52	313
a576	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 南東区 4-5層	口縁部	3(8)	4(9)	—	0.8	3017	口縁部→口縁部	竹葉形突縁	52	313
a577	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 北東区 4-5層	口縁部	—	—	—	0.7	902	口縁部→口縁部	竹葉形突縁	52	313
a578	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 北東区 4-5層	口縁部	—	—	—	0.7	902	口縁部→口縁部	竹葉形突縁	52	313
a579	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 南東区 4-5層	口縁部	—	—	—	1.1	4308	口縁部→口縁部 竹葉形突縁・黒部付	胴部多し	52	313
a580	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 南東区 4-5層	口縁部	27(2)	—	—	0.6	1094	口縁部→口縁部 竹葉形突縁・黒部付	4.10位部突縁口縁部、黒部突縁大、外周部突縁、コア	53	314
a581a	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 南東区 4-5層	口縁部	—	—	—	0.8	6963	口縁部→口縁部 竹葉形突縁・黒部付	4.10位部突縁口縁部、黒部突縁大、外周部突縁、コア	53	314
a581b	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 南東区 4-5層	口縁部	—	—	—	0.8	2779	口縁部→口縁部 竹葉形突縁・黒部付	4.10位部突縁口縁部、黒部突縁大、外周部突縁、コア	53	314
a582	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 南東区 4-5層	口縁部	—	—	—	0.9	3114	口縁部→口縁部	4.10位部突縁口縁部、黒部突縁大、外周部突縁、コア	53	314
a583	深鉢	大和前期	A141 穿穴瓦器物 南東区 4-5層	口縁部	414	332(2)	12(6)	0.9	3741	口縁部→口縁部	ススゴフ	53	314
a584	深鉢	中期	B R 6、7 a 11-12層	胴部	(48)	—	2(8)	0.8	1477(9)	子ノ	黒部ススゴフ	54	314
a585	深鉢	中期	A140 穿穴瓦器物 3-5層	口縁部	—	—	—	1.2	14952	口縁部→口縁部	スス	54	313
a586	深鉢	中期	A140 穿穴瓦器物 3-5層	口縁部	—	—	—	1.3	565	口縁部→口縁部	スス	53	314
a587	深鉢	中期	A146 穿穴瓦器物 北東区 18層部上・南東区下位	口縁部	—	—	—	1.5	526	口縁部→口縁部 1.5倍上・黒部付(黒部付)	スス	53	314
a588	深鉢	中期	A146 穿穴瓦器物 北東区 18層部上・南東区下位	口縁部	—	—	—	1.5	526	口縁部→口縁部 1.5倍上・黒部付(黒部付)	スス	53	314
a589	深鉢	中期	A146 穿穴瓦器物 北東区 18層部上・南東区下位	口縁部	—	—	—	0.9	319	口縁部→口縁部	スス	53	314
a590	深鉢	中期	A146 穿穴瓦器物 北東区 18層部上・南東区下位	口縁部	—	—	—	1.35	214	口縁部→口縁部	スス	53	314
a591	深鉢	中期	A146 穿穴瓦器物 北東区 18層部上・南東区下位	口縁部	—	—	—	0.7	2519	口縁部→口縁部	スス	54	314
a592	深鉢	中期	A146 穿穴瓦器物 北東区 18層部上・南東区下位	口縁部	—	—	—	0.7	411	口縁部→口縁部	スス	54	314
a593	深鉢	中期	A146 穿穴瓦器物 北東区 18層部上・南東区下位	口縁部	17(0)	37(4)	—	0.7	4919	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、ススゴフ	54	314
a594	深鉢	中期	A146 穿穴瓦器物 北東区 18層部上・南東区下位	口縁部	—	—	—	0.6	797	口縁部→口縁部	2.10位部突縁付、ススゴフ	54	314
a595	深鉢	中期	A146 穿穴瓦器物 北東区 18層部上・南東区下位	口縁部	13(6)	17(2)	—	0.6	797	口縁部→口縁部	2.10位部突縁付、ススゴフ	55	314
a596	深鉢	中期	A146 穿穴瓦器物 北東区 18層部上・南東区下位	口縁部	—	—	—	0.9	941	口縁部→口縁部	スス	55	314
a597	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	3(5)	3(6)	—	0.6	6971	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、ススゴフ	54	315
a598	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	—	—	—	0.6	1417	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	55	315
a599	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	—	—	—	0.6	809	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	55	315
a600	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	—	—	—	0.6	811	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	55	315
a601	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	—	—	—	1.2	2618	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	55	315
a602	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	14(4)	—	0.5	4867	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	55	315	
a603	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	21(4)	17(4)	—	0.7	7774	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	55	315
a604	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	20(9)	19(6)	—	0.8	13952	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	55	315
a605	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	7(4)	11(4)	—	0.8	1264	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	55	315
a606	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	4(1)	—	—	0.4	465	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	56	315
a607	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	13(1)	—	—	0.5	1815	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	56	315
a608	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	13(6)	—	—	0.5	2632	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	56	315
a609	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	17(1)	—	—	0.4	1665	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	56	315
a610	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	6(7)	—	—	0.7	400	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	56	315
a611	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	13(4)	—	—	0.7	2903	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	56	316
a612	深鉢	中期	A150 穿穴瓦器物 南東区 1層部	口縁部	19(5)	—	—	0.2	119	口縁部→口縁部	口縁部突縁付、スス	56	315

第10表 縄文土器調査表 (13)

図版 No.	器種	時期	遺跡・地区・層位	埋存状況	数量 (個)	計測値 (cm)	重量 (g)	寸法	形状	文様・調査 (内訳・内装)	備考	図版 No.	写真 No.
a592	深鉢	中8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.19	79.65	LP	LP		56	316
a593	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.17	64.68	LP	LP→胴底縁→胴底、口縁部5字状残存・胴部(山)		56	316
a594	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.19	62.85	LP→胴底	LP→胴底縁→胴底、口縁部5字状残存・胴部(山)	ス.S.、胴部5字状残存も有	56	316
a595	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.18	32.96	LP 10段→胴底縁、文字状残存	大股分直流		57	316
a596	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.15	18.67	LP→胴底	ス.S.		57	316
a597	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.17	13.84	LP→胴底	ス.S.		57	316
a598	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.17	11.84	LP→胴底	ス.S.		57	316
a599	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	6.4	112.61	0.16	55.58	RL→胴底	4.4単位直流口縁		57	316
a600	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.75	121.18	LP→胴底	ス.S.字状残存		57	316
a601	深鉢	大7b	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.85	80.01	RL→胴底	ス.S.		57	316
a602	深鉢	不明	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.14	52.22	LP			57	316
a603	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.16	52.22	LP			57	316
a604	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.16	50.69	LP→胴底	ス.S.		57	316
a605	深鉢	大6~7a	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.19	70.55	LP→胴底	ス.S.縁部→胴底、7.4単位直流		57	316
a606	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.19	59.14	RL, LP			57	316
a607	深鉢	大6	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	1.10	63.3	胴底→胴底	胴底		57	316
a608	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.85	30.3	胴底縁	胴底縁		57	316
a609	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.13	22.66	LP→胴底	ス.S.		57	316
a610	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.13	22.66	LP→胴底	ス.S.		57	316
a611	深鉢	大8c	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	6.61	86.0	0.13	22.66	LP→胴底	ス.S.		57	316
a612	深鉢	大6	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.5	20.6	RL→胴底	ス.S.		57	317
a613	深鉢	大7a	A151 早雲寺遺物 青磁土	胴底	-	-	1.10	113.6	LP→胴底	山		57	317
a614	深鉢	大7a	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	1.06	60.1	胴部→胴底	胴底		57	317
a615	深鉢	大6	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.85	11.5	胴底縁	胴底縁		57	317
a616	深鉢	大6	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.85	11.5	胴底縁	胴底縁		57	317
a617	深鉢	大6	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.85	12.5	胴底縁	胴底縁		57	317
a618	深鉢	大6	A151 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	1.15	10.65	胴部直流胴底	胴底		57	317
a619	深鉢	大5.4	A151 早雲寺遺物 A 黒灰土層	口→胴底	-	-	0.8	13.96	LP→胴底	山		57	317
a620	深鉢	大7a	A152 早雲寺遺物 黒灰土層	口→胴底	3.31	122	0.85	32.02	LP→胴底	山		58	317
a621	深鉢	大6	A152 早雲寺遺物 黒灰土層	口→胴底	-	-	0.19	11.17	胴底縁	胴底縁		58	317
a622	深鉢	大6	A152 早雲寺遺物 黒灰土層	口→胴底	-	-	0.19	11.17	胴底縁	胴底縁		58	317
a623	深鉢	大6	A152 早雲寺遺物 黒灰土層	口→胴底	-	-	0.19	11.17	胴底縁	胴底縁		58	317
a624	深鉢	大6	A152 早雲寺遺物 黒灰土層	口→胴底	-	-	0.19	11.17	胴底縁	胴底縁		58	317
a625	深鉢	大7a	A153 早雲寺遺物 C 黒灰土層	口→胴底	-	-	1.2	92.8	胴部→胴底	胴底		58	317
a626	深鉢	不明	A153 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.17	89.6	LP→胴底	ス.S.		58	317
a627	深鉢	不明	A153 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.75	38.89	胴部直流胴底	胴底		58	317
a628	深鉢	不明	A153 早雲寺遺物 青磁土	口→胴底	-	-	0.19	24.2	胴部直流胴底	胴底		58	317
a629	深鉢	不明	A154 早雲寺遺物 黒灰土層	胴底	-	-	0.75	74.76	LP	胴部直流胴底		59	317
a630	深鉢	大8a	A154 早雲寺遺物 黒灰土層	口→胴底	-	-	0.35	13.2	LP→胴底	胴部直流		58	317
a631	深鉢	大8a	A154 早雲寺遺物 黒灰土層	口→胴底	-	-	1.3	80.9	胴部直流	胴部直流		58	317
a632	深鉢	大8c	A155 早雲寺遺物 黒灰土層	口→胴底	3.02	134.4	0.16	23.97	胴部直流	胴部直流		59	318
a633	深鉢	不明	A155 早雲寺遺物 黒灰土層	胴底	-	-	1.3	28.8	胴部直流胴底	胴部直流		59	317
a634	深鉢	大8c	A155 早雲寺遺物 黒灰土層	口→胴底	21.5	184.3	0.10	71.28	胴部直流	胴部直流		59	318
a635	深鉢	大8a	A155 早雲寺遺物 黒灰土層	口→胴底	3.04	92.2	4.4	0.85	22.72	胴部直流		59	318
a636	深鉢	大6~7a	A155 早雲寺遺物 黒灰土層	口→胴底	-	-	0.17	55.0	胴部直流	胴部直流		59	318
a637	深鉢	大8c	A155 早雲寺遺物 黒灰土層	口→胴底	-	-	1.0	1.003	胴部直流	胴部直流		60	318
a638	深鉢	大8a	A158 早雲寺遺物 黒灰土層	口→胴底	-	-	1.0	1.003	胴部直流	胴部直流		60	318
a639	深鉢	大8a	A158 早雲寺遺物 黒灰土層	口→胴底	-	-	0.19	12.71	胴部直流	胴部直流		60	318

第10表 縄文土器類表(14)

No.	器種	時期	遺構・地名・層位	検出部位	数量	計測値(mm)	口径	高さ	重量(g)	文様・調査 (内径・内高)	所属 号順 No. No.
a640	深鉢	大6-9	A168 穿穴穴建物 南壁土	口一断面	20(7)	23.41	φ 8.8	77.5	1.8 → 陸産土	横江川跡, ス.S	60 318
a641	深鉢	大6	A159 穿穴穴建物 南壁土	口一断面	—	—	—	89.2	陸産土 → 陸産土 + 赤土	横江川跡, ス.S	60 318
a642	深鉢	大5	A156 穿穴穴建物 南壁土	口一断面	—	—	—	60.1	陸産土, 口縁部土混赤土	横江川跡, ス.S	60 318
a643	深鉢	大8	A160 穿穴穴建物 南壁土 2目, 4, 6, 8 層位部(赤土 2, 3層)	口一断面	405	33.0	11.0	13.2	1000.0	口一断面土混赤土	61 319
a644	深鉢	大5	A160 穿穴穴建物 東区 南壁土 2目, 4, 6, 8 層位部(赤土 2, 3層)	口一断面	320(1)	31.41	—	—	324.1	口一断面土混赤土 → 赤土	61 318
a645	深鉢	大5	A160 穿穴穴建物 東区 南壁土 2目, 4, 6, 8 層位部(赤土 2, 3層)	口一断面	320(1)	31.41	—	—	324.1	口一断面土混赤土 → 赤土	62 319
a646	深鉢	大5	A160 穿穴穴建物 東区 南壁土 2目, 4, 6, 8 層位部(赤土 2, 3層)	口一断面	318	33.0	—	—	305.6	赤土, 腹帯 → 赤土, 口縁部赤土	61 319
a647	深鉢	大7	A160 穿穴穴建物 東区 南壁土	口一断面	—	—	—	—	130.4	口一断面	61 319
a648	深鉢	大7	A160 穿穴穴建物 東区 南壁土	口一断面	—	—	—	—	165.6	口一断面	61 318
a649	深鉢	大7	A160 穿穴穴建物 東区 南壁土	口一断面	—	—	—	—	272.3	口一断面 → 赤土	61 319
a650	深鉢	大8	A160 穿穴穴建物 東区 南壁土	口一断面	—	—	—	—	272.6	口一断面 → 赤土	61 319
a651	深鉢	大8	A160 穿穴穴建物 東区 南壁土	口一断面	—	—	—	—	272.6	口一断面 → 赤土	61 319
a652	深鉢	大8-9	A168 穿穴穴建物 南壁土	胴一断面	138	—	14.4	11.1	142.9	中腹部赤土混赤土, 口一断面	62 319
a653	深鉢	大4	A163 穿穴穴建物 南壁土	口一断面	105(1)	14.6	—	—	30.7	口一断面(赤土・山)	62 319
a654	深鉢	大8	A163 穿穴穴建物 南壁土	胴一断面	135(1)	—	11.8	1.0	42.8	口一断面	62 320
a655	深鉢	大8	A162 穿穴穴建物 南壁土	口一断面	134	18.0	—	—	47.4	口一断面土混赤土	62 320
a656	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 南壁土	胴一断面	130	—	16.8	0.9	87.3	陸産土, 口縁部土混赤土, ス.S, コブ	62 320
a657	深鉢	大6	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	137	8.4	6.8	0.6	327.7	口一断面, 口縁部土混赤土	63 320
a658	深鉢	不明	A162 穿穴穴建物 1層	断面	(41)	—	16.2	0.8	227.0	赤土	63 319
a659	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	321.3	口一断面 → 赤土	63 320
a660	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	(41)	—	—	—	321.3	口一断面 → 赤土	63 320
a661	深鉢	大5	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	(41)	—	—	—	162.7	陸産土 → 赤土	63 320
a662	深鉢	大8	A162 穿穴穴建物 東区 南壁土 2目, 4, 6, 8 層位部(赤土 2, 3層)	口一断面	22.6	12.0	10.9	10.2	30.2	口一断面 → 赤土	63 320
a663	深鉢	大6-7	A162 穿穴穴建物 中腹土 2層位部(赤土)	口一断面	—	—	—	—	6.0	陸産土	63 320
a664	深鉢	不明	A162 穿穴穴建物 南壁土	口一断面	138	18.4	—	—	69.2	口一断面土混赤土(山)	64 320
a665	深鉢	不明	A162 穿穴穴建物 南壁土	胴一断面	134	—	6.0	0.5	113.3	口一断面	63 320
a666	深鉢	大8	A162 穿穴穴建物 南壁土	口一断面	63	17.0	—	—	132.7	口一断面 → 赤土	63 320
a667	深鉢	不明	A162 穿穴穴建物 1層	胴一断面	64	—	7.6	0.5	133.8	口一断面 → 赤土	63 320
a668	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	84.3	口一断面	64 320
a669	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	84.3	口一断面	64 320
a670	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	106.6	口一断面	64 320
a671	深鉢	大6	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	22.1	横江川跡以上と赤土の混交(赤土混赤土)	64 321
a672	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	21.3	口一断面 → 赤土	64 321
a673	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	84.2	口一断面 → 赤土	64 321
a674	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	36.9	口一断面 → 赤土	64 321
a675	深鉢	大6	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	68.1	口一断面 → 赤土	65 321
a676	深鉢	大6	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	50.0	陸産土 → 赤土	65 321
a677	深鉢	大6-7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	30.0	口一断面(赤土・山)	65 321
a678	深鉢	大6-7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	26.9	口一断面(赤土・山)	65 321
a679	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	24.5	赤土 → 赤土	65 321
a680	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	24.5	赤土 → 赤土	65 321
a681	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	1.0	陸産土	65 321
a682	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 1層	断面	—	—	—	—	16.5	陸産土 → 赤土	65 321
a683	深鉢	大6	A162 穿穴穴建物 1層	断面	—	—	—	—	16.6	陸産土 → 赤土	65 321
a684	深鉢	大6	A162 穿穴穴建物 1層	断面	—	—	—	—	69.2	赤土 → 赤土	65 321
a685	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	59.3	15.6	—	—	131.7	口一断面(赤土・山)	65 321
a686	深鉢	大7	A162 穿穴穴建物 1層	口一断面	—	—	—	—	6.8	133.5 陸産土混赤土 → 赤土	65 321

第10表 織文土器観覧表(15)

図番 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	埋存状況	器高 cm	口径 cm	口径 比率	容 cc	重量 (g)	支脚・溝部 (内径・内厚)	備考	図版 No.	写真 No.
6677	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	-	105	-	-	1372	LS → 灰土 → 下方の小の刺突 /	スス	65	321
6678	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	188	182	-	06	2385	透管 → LS → 灰土層付、口縁部破 /	スス、コブ	65	321
6679	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	-	-	-	06	1303	LS → 灰土層 灰土層 /	スス、コブ	65	321
6680	浅鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	-	-	-	07	672	LS → 灰土層付 /	スス、コブ	65	321
6681	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	-	-	-	07	563	LS → 灰土層 /	スス	65	321
6682	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	-	-	-	13	1133	透穴付、LS → 灰土層付 /	スス、コブ、外側に遺留の付下壁1層	65	321
6683	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	-	-	-	06	667	LS → 灰土層 → 下方の小の刺突 /	スス、コブ	65	321
6684	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	-	-	-	08	945	穿鉢付、LS → 灰土層、口縁部高付 /	コブ	66	321
6685	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	-	-	-	08	514	LS → 灰土層、刺突 /	横溝口、スス	66	321
6686	埋存深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	-	-	-	07	1021	透管 → 灰土層、刺突、キチ、口縁部上面付突 /	横溝口、スス	66	322
6687	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	-	-	-	07	1084	LS → 灰土層 /	66	322	
6688	埋存深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	-	-	-	07	1084	LS → 灰土層 /	66	322	
6689	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	111	114	-	05	2017	LS → 灰土層 /	横溝口、コブ、透土層、刺突	66	322
6690	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	111	114	-	05	2017	LS → 灰土層 /	横溝口、コブ、透土層、刺突	66	322
6691	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	129	118	06	09	2493	LS → 灰土層、口縁部破 /	横溝口、コブ、透土層、刺突	66	322
6692	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	224	209	-	09	13992	LS → 灰土層、口縁部高付、LS → 灰土層 /	スス、コブ	66	322
6693	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	264	264	-	06	2166	LS → 透管、刺突 → 下方の小の刺突、口縁部高付 /	スス	66	322
6694	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	-	-	-	03	517	透土層、刺突 /	スス	66	322
6695	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	-	-	-	09	665	LS → 灰土層、刺突 /	スス	66	322
6696	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 1層	口縁破	233	202	-	08	5033	LS → 灰土層 /	スス、コブ	67	322
6697	浅鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	06	647	LS → 透管 → 刺突 /	スス、コブ	67	322
6698	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	06	612	LS → 透管 → 刺突 /	スス	67	322
6699	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	04	618	LS → 灰土層、刺突 /	66	322	
6700	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	04	618	LS → 灰土層、刺突 /	66	322	
6701	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	07	2655	LS → 灰土層、刺突 /	67	323	
6702	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	112	120	-	07	2655	LS → 灰土層、刺突 /	67	323	
6703	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	09	2655	LS → 透管 → 灰土層付、刺突 /	67	323	
6704	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	05	2655	LS → 透管 → 灰土層付、刺突 /	67	323	
6705	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	10	13642	LS → 灰土層 /	コブ	67	323
6706	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	20.8	28.4	-	10	13642	LS → 灰土層 /	スス、コブ、外側に遺留の付下壁	68	323
6707	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	22.7	27.6	-	10	13642	LS → 灰土層 /	スス、コブ、外側に遺留の付下壁	68	323
6708	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	22.7	27.6	-	10	13642	LS → 灰土層 /	スス、コブ、外側に遺留の付下壁	68	323
6709	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	07	9096	LS → 灰土層 /	68	323	
6710	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	12	3414	LS → 刺突 /	横溝口、スス、コブ	68	323
6711	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	09	3489	LS → 刺突 /	スス、コブ	68	323
6712	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	05	2210	LS → 灰土層、刺突 /	スス、コブ、外側に遺留の付下壁	68	323
6713	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	12.9	11.2	05	05	2210	LS → 灰土層、刺突 /	スス、コブ、外側に遺留の付下壁	68	323
6714	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	16.2	12.4	7.8	0.6	4315	LS → 灰土層、刺突 /	スス、コブ、外側に遺留の付下壁	68	323
6715	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	18.8	14.2	7.8	0.5	3778	LS → 灰土層、刺突 /	スス、コブ、外側に遺留の付下壁	68	324
6716	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	15.4	23.2	-	07	3778	LS → 灰土層、刺突 /	スス、コブ、外側に遺留の付下壁	69	324
6717	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	10	8672	穿鉢付、LS → 灰土層、刺突、LS → 灰土層 /	スス	69	324
6718	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	07	3012	LS → 灰土層 /	横溝口	69	324
6719	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	09	2835	LS → 灰土層 /	横溝口	69	324
6720	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	08	3384	LS → 灰土層付、LS → 灰土層 /	横溝口	69	324
6721	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	04	662	LS → 灰土層 /	横溝口	69	324
6722	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	08	312	LS → 灰土層 /	横溝口	69	324
6723	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	-	-	-	08	312	LS → 灰土層 /	横溝口	69	324
6724	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	13.7	11.1	06	05	1613	穿鉢付、LS → 灰土層、刺突 /	横溝口、スス、コブ	69	324
6725	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	32.7	25.9	7.5	0.7	3334	LS → 灰土層、刺突 /	横溝口、スス、コブ	70	325
6726	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	16.9	15.2	7.4	0.6	4317	穿鉢付、LS → 灰土層、刺突 /	横溝口、スス、コブ	70	325
6727	深鉢	大7b	A162 穿穴灰土器 A 割付1層	口縁破	19.8	11.2	1.0	1.0	13052	LS → 灰土層 /	横溝口、スス、コブ	70	325



第10表 縄文土器調査表 (17)

調査 No.	器種	種類	遺跡・地区・層位	発見位置	数量	計測箇所 (cm)	重量 g	直径 cm	厚 mm	材質	文様・溝線 (内径・外径)	図録 No.	写真 No.	
a782	深鉢	丸底	A176 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.85	7.69	1.8	LS → 灰濁 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	ス.S.S.コブ	74	328	
a783	深鉢	丸底	A176 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	1.19	22.4	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	平肌管管	74	329	
a784	深鉢	丸底	A176 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.8	6.38	0.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	ス.S	74	328	
a785	深鉢	丸底	A176 早刈次遺物 青凝土	胴部	-	-	0.7	6.30	1.2	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	ス.S.S.コブ	74	328	
a786	深鉢	丸底	A176 早刈次遺物 青凝土	胴部	-	-	0.8	3.50	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	ス.S.S.コブ	74	328	
a787	深鉢	丸底	A176 早刈次遺物 青凝土	胴部	343	253	1.01	0.7	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	平肌管管	75	328	
a788	深鉢	丸底	A176 早刈次遺物 青凝土	胴部	143	148	0.5	1.1	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	ス.S	75	328	
a789	深鉢	丸底	A176 早刈次遺物 青凝土	胴部	133	143	0.5	1.1	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	ス.S	75	328	
a790	深鉢	丸底	A179 早刈次遺物 青凝土	口縁部	178	212	-	0.7	28.14	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	ス.S	75	328	
a791	深鉢	丸底	A179 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.85	18.7	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	75	329	
a792	深鉢	丸底	A179 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.85	14.59	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	75	329	
a793	深鉢	丸底	A179 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.9	30.10	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	75	329	
a794	深鉢	丸底	A179 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	1.05	30.32	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	75	329	
a795	深鉢	丸底	A179 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	1.05	30.32	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	75	329	
a796	深鉢	丸底	A179 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	1.0	34.17	1.2	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	76	329	
a797	深鉢	丸底	A179 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.6	19.64	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	76	329	
a798	深鉢	丸底	A179 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.5	13.01	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	76	329	
a799	深鉢	丸底	A179 早刈次遺物 青凝土	胴部	-	-	0.8	31.19	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	75	329	
a800	深鉢	丸底	A179 早刈次遺物 青凝土	胴部	-	-	0.8	30.55	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	75	329	
a801	深鉢	丸底	A179 早刈次遺物 青凝土	胴部	-	-	0.8	30.69	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	75	329	
a802	深鉢	丸底	A183 早刈次遺物 青凝土	胴部	145	142	-	0.7	28.19	LS	平肌管管	76	329	
a803	深鉢	丸底	A183 早刈次遺物 青凝土	口縁部	145	142	-	0.7	28.19	LS	平肌管管	76	329	
a804	深鉢	丸底	A183 早刈次遺物 青凝土	口縁部	221	177	-	0.75	1.2653	LS → 灰濁 → 山肌	ス.S.S.コブ	76	329	
a805	深鉢	丸底	A183 早刈次遺物 青凝土	胴部	175	175	-	1.0	1.1153	LS → 灰濁 → 山肌	ス.S	76	329	
a806	深鉢	丸底	A183 早刈次遺物 青凝土	胴部	-	-	0.75	27.3	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	76	330	
a807	深鉢	丸底	A183 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.7	59.0	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	76	330	
a808	深鉢	丸底	A182 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.65	64.9	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	329	
a809	浅鉢	丸底	A183 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.8	178.2	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	330	
a810	深鉢	丸底	A183 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.86	193.3	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	330	
a811	深鉢	丸底	A183 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.8	62.0	1.2	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	330	
a812	深鉢	丸底	A183 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.65	122.3	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	330	
a813	深鉢	丸底	A185 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.4	27.8	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	330	
a814	深鉢	丸底	A185 早刈次遺物 青凝土	口縁部	421	7.0	1.6	62.92	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	330	
a815	深鉢	丸底	A185 早刈次遺物 青凝土	口縁部	421	7.0	1.6	62.92	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	330	
a816	深鉢	丸底	A186 早刈次遺物 C 形 2-4 層	口縁部	-	-	0.9	71.9	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	330	
a817	深鉢	丸底	A186 早刈次遺物 C 形 2-4 層	口縁部	-	-	0.9	231.2	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	330	
a818	深鉢	丸底	A186 早刈次遺物 C 形 2-4 層	口縁部	-	-	1.1	217.1	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	330	
a819	深鉢	丸底	A186 早刈次遺物 C 形 2-4 層	口縁部	-	-	0.9	39.6	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	330	
a820	深鉢	丸底	A186 早刈次遺物 C 形 2-4 層	口縁部	-	-	0.6	5.8	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	330	
a821	深鉢	丸底	A186 早刈次遺物 C 形 2-4 層	口縁部	-	-	0.85	31.1	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	330	
a822	深鉢	丸底	A186 早刈次遺物 C 形 2-4 層	口縁部	-	-	0.85	11.26	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	77	330	
a823	深鉢	丸底	A186 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	0.9	30.65	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	78	330	
a824	深鉢	丸底	A186 早刈次遺物 青凝土	口縁部	-	-	1.0	18.03	1.8	LS → 灰濁 → 山肌 → 平肌管管(2.2身厚1.1寸)	山肌部平肌管	78	331	
a825	深鉢	丸底	A182 早刈次遺物 青凝土	口縁部	253	268	-	1.3	22.09	山肌部平肌管(1.8身厚1.1寸)	山肌部平肌管	78	330	
a826	深鉢	丸底	A182 早刈次遺物 青凝土	口縁部	149	149	-	0.7	25.53	山肌部平肌管(1.8身厚1.1寸)	山肌部平肌管	78	330	
a827	深鉢	丸底	A182 早刈次遺物 青凝土	口縁部	149	149	-	0.7	25.53	山肌部平肌管(1.8身厚1.1寸)	山肌部平肌管	78	331	
a828	深鉢	丸底	A182 早刈次遺物 青凝土	口縁部	149	149	-	0.7	25.53	山肌部平肌管(1.8身厚1.1寸)	山肌部平肌管	78	331	
a829	深鉢	丸底	A182 早刈次遺物 青凝土	口縁部	149	149	-	0.7	25.53	山肌部平肌管(1.8身厚1.1寸)	山肌部平肌管	78	331	
a830	深鉢	丸底	A182 早刈次遺物 青凝土	口縁部	124	124	-	0.8	6.6	1.2	LS → 灰濁 → 山肌	ス.S	78	330



第10表 絹文土器調査表(18)

No.	器種	時期	遺構・地誌・層位	検出部位	高さ	計測箇所 (cm)	口径	底径	厚	重量	文様・調査 (内訳・内容)	図版 No.	写真 No.
8532	甗鉢	大和系	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	116.0	-	0.8	0.55	1422	1.5	底→暗文線	78	331
8533	甗鉢	大和系	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	133.0	-	0.2	0.6	604	1.5	底→暗文線	78	331
8534	甗鉢	大和系	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	133.0	-	0.2	0.6	604	1.5	底→暗文線	78	331
8535	甗鉢	大和系	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	204	116.0	0.1	0.5	5345	1.5	底→暗文線	78	331
8536	甗鉢	大和系	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	39.0	28.4	-	0.85	3515	1.5	単線輪帯体 IA 帯下→帯上線、十字	78	331
8537	甗鉢	不明	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴部	17.0	-	13.0	1.25	2662	1.5	単線輪帯体 IA 帯	78	331
8538	甗鉢	不明	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴部	17.0	-	13.0	1.25	2662	1.5	単線輪帯体 IA 帯	78	331
8539	甗鉢	不明	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴部	17.0	-	13.0	1.25	2662	1.5	単線輪帯体 IA 帯	78	331
8540	甗鉢	大和系	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	142.7	26.6	-	0.7	397	1.5	底→暗文線	78	331
8541	甗鉢	大和系	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.75	6563	1.5	底→暗文線	79	332
8542	甗鉢	大和系	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.9	2014	1.5	底→暗文線	79	332
8543	甗鉢	大和系	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.95	6258	1.5	底→暗文線	79	332
8544	甗鉢	大和系	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.8	5228	1.5	底→暗文線	79	332
8545	甗鉢	大和系	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.8	5228	1.5	底→暗文線	79	332
8546	甗鉢	大和系	A187 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	144.7	23.4	-	0.9	5642	1.5	底→暗文線	79	332
8547	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	214.3	22.6	-	0.8	2241	1.5	底→暗文線	80	332
8548	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	214.3	22.6	-	0.8	2241	1.5	底→暗文線	80	332
8549	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	177	-	13.0	0.9	4018	1.5	底→暗文線	80	332
8550	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	145	22.1	-	0.7	1423	1.5	底→暗文線	80	332
8551	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	135	22.1	-	0.8	4253	1.5	底→暗文線	80	332
8552	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	135	22.1	-	0.8	4253	1.5	底→暗文線	80	332
8553	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	135	22.1	-	0.8	4253	1.5	底→暗文線	80	332
8554	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.8	3262	1.5	底→暗文線	81	333
8555	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.9	2027	1.5	単線輪帯体 IA 帯	81	333
8556	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	1.0	3651	1.5	底→暗文線	81	333
8557	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.95	6118	1.5	底→暗文線	80	333
8558	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	1.0	3388	1.5	底→暗文線	80	333
8559	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.9	4648	1.5	底→暗文線	81	333
8560	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.8	1233	1.5	底→暗文線	81	333
8561	甗鉢	不明	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴部	-	-	-	-	1613	1.5	底→暗文線	81	333
8562	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.9	7248	1.5	単線輪帯体 IA 帯、大連口線	82	334
8563	甗鉢	大和系	A188 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.95	8250	1.5	底→暗文線	82	334
8564	甗鉢	大和系	A189 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	227	18.1	-	0.8	8250	1.5	底→暗文線	82	334
8565	甗鉢	大和系	A189 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	194	33.7	-	0.9	12043	1.5	底→暗文線	82	334
8566	甗鉢	大和系	A189 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	215	33.9	-	1.0	3304	1.5	底→暗文線	82	334
8567	甗鉢	大和系	A189 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	1.0	3304	1.5	底→暗文線	82	334
8568	甗鉢	大和系	A190 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	1.05	981	1.5	底→暗文線	82	335
8569	甗鉢	大和系	A190 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.95	494	1.5	底→暗文線	82	335
8570	甗鉢	大和系	A191 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.95	608	1.5	底→暗文線	82	335
8571	甗鉢	大和系	A191 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.95	608	1.5	底→暗文線	82	335
8572	甗鉢	大和系	A191 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	95.0	-	6.4	0.9	5628	1.5	底→暗文線	83	334
8573	甗鉢	大和系	A191 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.65	218	1.5	単線輪帯体 IA 帯	83	334
8574	甗鉢	大和系	A200 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.65	218	1.5	単線輪帯体 IA 帯	83	334
8575	甗鉢	大和系	A201 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.55	1982	1.5	底→暗文線	83	334
8576	甗鉢	大和系	A201 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.65	3113	1.5	底→暗文線	83	334
8577	甗鉢	大和系	A201 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	17.0	17.6	-	0.35	3041	1.5	底→暗文線	83	334
8578	甗鉢	不明	A201 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	-	-	-	0.8	1389	1.5	底→暗文線	84	335
8579	甗鉢	不明	A201 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	236.6	26.5	-	0.8	1389	1.5	底→暗文線	84	335
8580	甗鉢	大和系	A201 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	202	14.6	5.6	0.65	6514	1.5	底→暗文線	84	334
8581	甗鉢	大和系	A201 穿穴土器物 甗鉢土	胴一断面	197	20.4	-	0.65	3226	1.5	底→暗文線	84	335

第10表 縄文土器類群表(19)

群別 No.	群別	種類	遺構・地点・層位	発祥部位	数量 計器数(個)	計器数 L:R 破片 碎片 罅	重量 (g)	文様・溝彫 (内訳・内用)	図版 No.	写真	
a052	深鉢	丸底・9	A103 穿穴式土器 中5区 2層	口一解部	158	174	0.65	4790 L/R	84	335	3層位深鉢口縁, X.S.27
a053	深鉢	丸底	A103 穿穴式土器 中5区 3層	口一解部	-	-	0.66	9470 底L→底L底R	84	335	
a054	深鉢	丸底	A103 穿穴式土器 中5区 4層	口一解部	-	-	0.76	10410 底L→底L底R	84	335	
a055	深鉢	丸底	A102 穿穴式土器 北4区 南墳上土	口一解部	148	158	0.75	6915 L/R→解部	84	335	底底底底底
a056	深鉢	丸底	A102 穿穴式土器 北4区 南墳上土	口一解部	105	73	0.66	1730 L/R(口縁)	84	335	底底底底底
a057	深鉢	丸底	A103 穿穴式土器 中5区 2層	口一解部	-	-	0.9	626 底底(口縁)	84	335	
a058	深鉢	丸底	A103 穿穴式土器 中5区 2層	口一解部	-	-	0.85	5302 L/R	84	335	X.S.
a059	深鉢	丸底	A104 穿穴式土器 南墳上	口縁部	-	-	0.8	901 破底L	84	335	
a060	深鉢	丸底	A106 穿穴式土器 南墳上	口縁部	-	-	0.6	730 底L(口縁)→底底			横糸糸の付根付有
a061	深鉢	丸底	A107 穿穴式土器 南墳上	口縁部	-	-	0.9	1031 L/R→底底→底底底底底	85	335	
a062	深鉢	丸底	A107 穿穴式土器 南墳上	口縁部	-	-	0.75	1315 底L→底底底底底	85	335	7層
a063	深鉢	丸底	A107 穿穴式土器 南墳上	口縁部	-	-	0.25	1315 底L→底底底底底	85	335	
a064	深鉢	丸底	A107 穿穴式土器 南墳上	口縁部	-	-	1.2	2140 L/R→底底底底底	85	335	
a065	深鉢	丸底	A107 穿穴式土器 南墳上	口縁部	-	-	1.8	6631 L/R	85	336	底底底底底, X.S.27
a066	深鉢	丸底	A108 穿穴式土器 南墳上	口縁部	-	-	0.75	172 L/R→底底底底底	85	336	
a067	深鉢	丸底	A109 穿穴式土器 西2区 南墳上	口縁部	-	-	0.8	1797 L/R→底底底底底	85	336	4層位深鉢口縁
a068	深鉢	丸底	A109 穿穴式土器 西2区 南墳上	口縁部	-	-	1.0	1712 底L→底底底底底	85	336	
a069	深鉢	丸底	A109 穿穴式土器 西2区 南墳上	口縁部	-	-	0.8	1712 底L→底底底底底	85	336	
a070	深鉢	丸底	A106 穿穴式土器 東2区 南墳上	口一解部	-	-	1.1	6115 底L→底底底底底	85	336	底底底底底
a071	深鉢	丸底	A109 穿穴式土器 中5区 南墳上	口一解部	116	165	0.6	4968 底L→底底底底底	85	336	山頂部穿穴
a072	深鉢	丸底	A113 穿穴式土器 A 南墳5層	解一底部	123	-	3.4	0.35 底L→底底底底底	85	336	X.S.
a073	深鉢	丸底・9	A113 穿穴式土器 南墳6.4層	口一解部	135	174	0.5	4304 L/R	86	336	X.S.27
a074	深鉢	丸底	A120 穿穴式土器 西2区 南墳上	口縁部	-	-	0.6	1970 底L(口縁)→底底	86	336	
a075	深鉢	丸底	A121 穿穴式土器 A 南墳5層	口縁部	-	-	0.6	1318 底底底底底	86	336	
a076	深鉢	丸底	A120 穿穴式土器 西2区 南墳上	口縁部	-	-	0.9	2048 底L(口縁)→底底底底底	86	336	
a077	深鉢	丸底	A120 穿穴式土器 西2区 南墳上	口縁部	-	-	0.9	6339 中7層	86	336	
a078	深鉢	丸底	A123 穿穴式土器 A 南墳5層	口縁部	-	-	0.85	2095 底L/R→底底底底底	86	336	
a079	深鉢	丸底	A123 穿穴式土器 A 南墳5層	口縁部	16	-	1.14	605 底L→底底底底底	86	336	穿L底底
a080	深鉢	丸底	A120 穿穴式土器 西2区 南墳上	口縁部	-	-	0.9	1912 底L→底底底底底	86	336	
a081	深鉢	丸底	A120 穿穴式土器 西2区 南墳上	口縁部	-	-	0.8	1742 底L→底底底底底	86	336	穿L底底
a082	深鉢	丸底	A122 穿穴式土器 西2区 南墳上	口一解部	369	442	0.8	12842 L/R→底底底底底	87	337	穿L底底底底底, X.S.27
a083	深鉢	丸底	A122 穿穴式土器 西2区 南墳上	口縁部	55	-	5.8	0.75 772 L/R	87	337	底底底底底
a084	深鉢	丸底	A124 穿穴式土器 南墳上	口縁部	-	-	0.9	2932 L/R→底底	86	337	
a085	深鉢	丸底	A125 穿穴式土器 南墳上	口縁部	-	-	0.7	172 中解部中解部1A 底底底底底	86	337	
a086	深鉢	丸底	A126 穿穴式土器 南墳上	口縁部	158	-	0.65	6915 底底底底底	86	337	4層位深鉢口縁
a087	深鉢	丸底	A129 穿穴式土器 中5区 南墳上	解一底部	331	-	9.6	68 中解部底底底底底	86	337	
a088	深鉢	丸底	A129 穿穴式土器 中5区 南墳上	口縁部	-	-	0.8	3010 L/R→底底底底底	87	337	底底底底底
a089	深鉢	丸底	A220 穿穴式土器 C 南墳8層	口縁部	-	-	0.8	8455 L/R	87	337	
a090	深鉢	丸底	A220 穿穴式土器 北2区 南墳上	口一解部	216	-	0.6	3829 中7層中7層	87	337	
a091	深鉢	丸底	A220 穿穴式土器 北2区 南墳上	口一解部	110	-	0.6	0.5 底底底底底	88	337	2層
a092	深鉢	丸底	A220 穿穴式土器 西2区 南墳上	口一解部	-	-	0.7	1355 L/R(口縁)→底底底底底	88	337	
a093	深鉢	丸底	A220 穿穴式土器 西2区 南墳上	口縁部	310	-	0.5	1200 底底底底底	88	337	底底底底底
a094	深鉢	丸底	A220 穿穴式土器 中5区 南墳上	口縁部	-	-	0.2	16 底底底底底	88	338	X.S.
a095	深鉢	丸底	A220 穿穴式土器 中5区 南墳上	口縁部	134	-	0.8	5714 L/R	88	338	底底底底底
a096	深鉢	丸底	A220 穿穴式土器 北2区 南墳上	口一解部	97	-	10.7	665 407 L/R	88	338	底底底底底
a097	深鉢	丸底	A220 穿穴式土器 北2区 南墳上	口縁部	-	-	1.2	637 底L→底底底底底	88	337	
a098	深鉢	丸底	A220 穿穴式土器 北2区 南墳上	口縁部	-	-	0.8	4810 L/R	88	337	中底底底底

第 10 表 絹文土器調査表 (20)

調査 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	検出部位	数量 (口・破片)	重量 (g)	文様・調査 (内径・内高)	図版 No.	写真 No.	
a028	深鉢	大正～9	A120 穿穴灰土層 北地区 南側土	口・胴部	-	0.85	90.99 口 底→口縁部	88	338	
a029	深鉢	大正～9	A121 穿穴灰土層 北地区 南側土	口縁部	-	0.7	7.15 口 底→口縁部	88	338	
a030	深鉢	大正～9	A121 穿穴灰土層 北地区 南側土	口縁部	-	0.57	5.70 口 底→口縁部	88	338	
a031	深鉢	大正～9	A121 穿穴灰土層 北地区 南側土	胴部	-	0.57	5.72 単純胎土 A 器 1→底位置→口縁部研究	88	338	
a032	深鉢	大正～9	A121 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	1.19	17.19 胎土・土質	89	338	
a033	深鉢	大正～9	A121 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.9	7.15 口 底→口縁部	89	338	
a034	深鉢	大正～9	A121 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	1.05	2.43 口 底→口縁部	89	338	
a035	深鉢	大正～9	A125 穿穴灰土層 北地区 南側土	口・胴部	327(A)	100	1.1 211.5 口 底→口縁部	89	338	
a036	深鉢	大正～9	A125 穿穴灰土層 北地区 南側土	胴部	-	0.7	11.83 口 底→口縁部、胎土	89	338	
a037	深鉢	大正～9	A125 穿穴灰土層 北地区 南側土	胴部	-	1.05	30.23 口 底→口縁部	89	338	
a038	深鉢	大正～9	A125 穿穴灰土層 北地区 南側土	胴部	-	0.05	2.27 単純胎土 A 器 1→口縁部	89	338	
a039	深鉢	大正～9	A125 穿穴灰土層 北地区 南側土	口縁部	-	0.85	8.65 口 底→口縁部	89	338	
a040	深鉢	大正～9	A124 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.85	30.65 口 底→口縁部	89	338	
a041	深鉢	大正～9	A125 穿穴灰土層 南地区 南側土	口・胴部	-	0.8	60.00 口 底→口縁部	89	339	
a042	深鉢	大正～9	A125 穿穴灰土層 南地区 南側土	胴部	127(B)	80	0.7 414.3 口 底→口縁部、胎土	89	339	
a043	深鉢	大正～9	A125 穿穴灰土層 南地区 南側土	口・胴部	157	111.2	5.8 口 底→口縁部	89	339	
a044	深鉢	大正～9	A125 穿穴灰土層 南地区 南側土	口・胴部	-	0.8	21.9 口 底→口縁部	89	339	
a045	深鉢	大正～9	A127 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.65	6.58 胎土・胎土質	90	338	
a046	深鉢	大正～9	A127 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.65	6.58 胎土・胎土質	90	339	
a047	深鉢	大正～9	A121 穿穴灰土層 南地区 南側土	胴部	347(D)	8.5	0.75 241.2 胎土、胎土質	90	339	
a048	深鉢	大正～9	A121 穿穴灰土層 南地区 南側土	胴部	-	0.6	6.88 口 底→口縁部	90	339	
a049	深鉢	大正～9	A121 穿穴灰土層 南地区 南側土	胴部	-	0.65	6.88 口 底→口縁部	90	339	
a050	深鉢	大正～9	A121 穿穴灰土層 南地区 南側土	胴部	-	0.65	6.88 口 底→口縁部	90	339	
a051	深鉢	大正～9	A121 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.65	6.88 口 底→口縁部	90	339	
a052	深鉢	大正～9	A125 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.8	6.09 胎土	90	339	
a053	深鉢	大正～9	A125 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.75	5.11 口 底→口縁部	90	339	
a054	深鉢	大正～9	A125 穿穴灰土層 南地区 南側土	口・胴部	-	0.85	30.65 口 底→口縁部	90	339	
a055	深鉢	大正～9	A125 穿穴灰土層 南地区 南側土	口・胴部	-	0.65	33.19 口 底→口縁部	90	339	
a056	深鉢	大正～9	A125 穿穴灰土層 南地区 南側土	口・胴部	-	0.75	7.2 口 底→口縁部	90	339	
a057	深鉢	大正～9	A126 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.8	12.19 口 底→口縁部	90	339	
a058	深鉢	大正～9	A127 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.8	41.8 口 底→口縁部	90	339	
a059	深鉢	大正～9	A127 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.85	12.63 口 底→口縁部	90	339	
a060	深鉢	大正～9	A127 穿穴灰土層 南地区 南側土	胴部	-	1.0	7.88 口 底→口縁部	90	339	
a061	深鉢	大正～9	A127 穿穴灰土層 南地区 南側土	胴部	-	1.1	2.41 口 底→口縁部	90	339	
a062	深鉢	大正～9	A127 穿穴灰土層 南地区 南側土	胴部	-	0.8	12.19 口 底→口縁部	90	339	
a063	深鉢	大正～9	A126 穿穴灰土層 南地区 南側土	胴部	-	0.9	6.19 口 底→口縁部	90	340	
a064	深鉢	大正～9	A129 穿穴灰土層 南地区 南側土	胴部	-	1.3	49.6 口 底→口縁部	91	340	
a065	深鉢	大正～9	A129 穿穴灰土層 南地区 南側土	胴部	-	0.7	41.9 口 底→口縁部	91	340	
a066	深鉢	大正～9	A130 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	1.2	29.3 口 底→口縁部	91	340	
a067	深鉢	大正～9	A130 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.7	20.7 口 底→口縁部	91	340	
a068	深鉢	大正～9	A130 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.6	2.65 口 底→口縁部	91	340	
a069	深鉢	大正～9	A134 穿穴灰土層 南地区 南側土	胴部	313(E)	-	0.09	211.7 口 底→口縁部	91	340
a070	深鉢	大正～9	A134 穿穴灰土層 南地区 南側土	胴部	-	0.7	6.59 口 底→口縁部	91	340	
a071	深鉢	大正～9	A138 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.65	23.69 胎土質	91	340	
a072	深鉢	大正～9	A138 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.65	23.69 胎土質	91	340	
a073	深鉢	大正～9	A138 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.65	23.69 胎土質	91	340	
a074	深鉢	大正～9	A128 穿穴灰土層 南地区 南側土	口縁部	-	0.55	51.8 口 底→口縁部	91	340	
a075	深鉢	大正～9	1 号土質、南側土	口縁部	-	0.55	30.3 口 底→口縁部	91	340	
a076	深鉢	不明	3 号土質、南側土	口縁部	17(D)	1.4	48.43 口 底→口縁部	91	340	

第10表 絹文土器類表(21)

図号	器種	時期	遺構・地点・層位	形状	口径	底径	計測箇所 (cm)	重量 (g)	容量 (L)	文様・調査 (5内・内注)	備考	図版 No.	写真 No.
a0577	深鉢	大正14	4号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	口径 破片	0.5	2.14	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	91	340
a0578	深鉢	大正14	4号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	0.7	2626	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	91	340
a0579	深鉢	大正14	4号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	1.1	3334	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	91	340
a0580	深鉢	大正14	8号土坑 南壁上段・下段	口縁部	14.5	28.0	-	1.0	13062	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	92	340
a0581	深鉢	大正14	11号土坑 2層	口縁部	-	-	-	0.7	1094	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	92	340
a0582	深鉢	大正14	11号土坑 2層	口縁部	-	-	-	0.8	4030	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	92	341
a0583	深鉢	大正14	11号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	0.8	12099	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	92	341
a0584	深鉢	大正14	11号土坑 南壁上段・下段	口縁部	18.5	32.18	-	0.8	11099	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	92	341
a0585	深鉢	大正14	14号土坑 南壁上段	口縁部	16.5	14.3	-	0.5	4889	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	92	341
a0586	球状深鉢	大正6	14号土坑 南壁上段	口縁部	20.7	25.5	-	0.8	828	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	92	341
a0587	深鉢	大正27	16号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	1.06	351	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	92	340
a0588	深鉢	大正7	16号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	1.06	2628	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	92	340
a0589	深鉢	大正7	16号土坑 南壁上段	口縁部	8.5	12.1	0.2	0.5	1132	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	93	341
a0590	深鉢	大正7	16号土坑 南壁上段	口縁部	25.6	21.2	-	0.6	12758	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	93	341
a0591	深鉢	大正7	16号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	0.9	13062	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	93	341
a0592	深鉢	大正9	25号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	1.2	2137	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	93	341
a0593	深鉢	大正9	25号土坑 南壁上段	口縁部	30.4	30.4	-	1.24	10	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	93	341
a0594	深鉢	大正9	25号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	1.2	2065	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	93	342
a0595	深鉢	大正2	17号土坑 2・3層	口縁部	-	-	-	0.9	1728	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	93	341
a0596	深鉢	大正6	28号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	0.7	353	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	93	341
a0597	深鉢	大正6	28号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	1.1	1108	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	93	341
a0598	深鉢	大正6	28号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	0.8	793	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a0599	深鉢	大正6	28号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	0.8	793	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1000	球状深鉢	大正6	31号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	1.3	507	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1001	球状深鉢	大正6	31号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	0.9	2823	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1002	深鉢	大正7	32号土坑 南壁上段	口縁部	-	-	-	1.3	813	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1003	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1004	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1005	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.7	411	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1006	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1007	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1008	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1009	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1010	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1011	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1012	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1013	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1014	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1015	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1016	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1017	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1018	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1019	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1020	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1021	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1022	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1023	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342
a1024	深鉢	大正7	33号土坑 1層	口縁部	-	-	-	0.5	322	底径<破片>/ 口径<破片>	外縁部	94	342

第10表 縄文土器観察表(22)

図版 No.	器種	時期	遺跡・地点・層位	形状・部位	器高 cm	口径 cm	口径 比率	重量 (g)	文様・内面 (5倍・10倍)	図版 No.	号順 No.	
a1025	深鉢	大7号	53号土坑 南壁下下位	口一輪足	-	0.9	99.7	厚輪状体I型上→I型中	厚上付着	97	344	
a1026	深鉢	大5号~9	53号土坑 南壁下下位	口一輪足	255	1.33	0.8	8.031	厚輪状体I型上→I型中	97	344	
a1027	深鉢	中期	66号土坑 南壁下下位	口一輪足	169	1.12	0.8	1.0681	厚輪状体I型上→I型中	98	345	
a1028	深鉢	大6	62号土坑 5層	口一輪足	384.1	3.60	0.66	3.0327	厚輪状体I型上→I型中	98	345	
a1029	深鉢	大7号	56号土坑 南壁下下位	口一輪足	-	-	0.75	19.42	L→I型上→厚輪状体I型上→I型中、L型→I型中→I型上	98	344	
a1030	深鉢	大7号	56号土坑 南壁下下位	口一輪足	-	-	0.65	43.51	L→I型中、厚輪状体I型上→I型中、厚輪状体I型上→I型中	98	345	
a1031	深鉢	大6	57号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.72	18.42	厚輪状体I型上→I型中	98	345	
a1032	深鉢	大6	57号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.75	25.9	厚輪状体I型上→I型中	98	345	
a1033	深鉢	大6	58号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.72	25.9	厚輪状体I型上→I型中	98	345	
a1034	深鉢	大7号	58号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.8	138.3	厚輪状体I型上→I型中	98	345	
a1035	深鉢	大6	59号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.65	25.58	厚輪状体I型上→I型中	98	345	
a1036	深鉢	大6~7号	62号土坑 南壁中下下位	口一輪足	-	-	1.0	16.02	L型→I型上	98	345	
a1037	深鉢	大6	62号土坑 南壁中下下位	口一輪足	-	-	0.95	28.7	L型→I型上→I型中	98	345	
a1038	深鉢	大5号~9	68号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	1.1	10.09	L型→I型上→I型中	99	345	
a1039	深鉢	大5号~9	68号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.75	29.7	L型→I型上→I型中	99	345	
a1040	深鉢	大7号	70号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.75	29.7	L型→I型上→I型中	99	345	
a1041	深鉢	大6	71号土坑 南壁下下位	口一輪足	-	-	0.9	196.0	厚輪状体I型上→I型中→I型上	99	345	
a1042	深鉢	大5	71号土坑 南壁下下位	口一輪足	-	-	0.8	47.0	厚輪状体I型上→I型中→I型上	99	346	
a1043	浅鉢	不明	71号土坑 南壁下下位	口一輪足	-	-	0.35	22.9	厚輪状体I型上→I型中	99	345	
a1044	深鉢	大5号~9	71号土坑 南壁下下位	口一輪足	-	-	0.8	25.8	L型→I型上	99	345	
a1045	深鉢	大5号~9	71号土坑 南壁下下位	口一輪足	-	-	0.8	25.8	L型→I型上	99	345	
a1046	深鉢	大5号~7号	71号土坑 南壁下下位	口一輪足	174.1	1.61	1.0	94.13	L型→I型上→I型中→I型上	99	346	
a1047	深鉢	大7号	73号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.5	12.3	L型→I型上	99	346	
a1048	深鉢	大7号	74号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.7	62.8	厚輪状体I型上→I型中	99	346	
a1049	深鉢	大5~7号	75号土坑 南壁上	口一輪足	17.8	1.17	0.7	29.1	厚輪状体I型上→I型中	99	346	
a1050	深鉢	大5号~9	75号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	1.25	25.0	厚輪状体I型上→I型中	99	346	
a1051	深鉢	大5号~9	75号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.9	15.6	厚輪状体I型上→I型中	99	346	
a1052	深鉢	大6	77号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.9	15.6	厚輪状体I型上→I型中	99	346	
a1053	深鉢	大7号	77号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.8	179.1	厚輪状体I型上→I型中	100	346	
a1054	深鉢	大5号~9	78号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.65	127.4	厚輪状体I型上→I型中	100	346	
a1055	深鉢	大7号	79号土坑 南壁上	口一輪足	112.1	-	0.65	127.4	厚輪状体I型上→I型中	100	346	
a1056	深鉢	大7号	79号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.6	127.4	厚輪状体I型上→I型中	100	346	
a1057	深鉢	大7号	79号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.6	127.4	厚輪状体I型上→I型中	100	346	
a1058	深鉢	大5号~9	85号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.6	25.2	L型→I型上	100	346	
a1059	深鉢	大5号	100号土坑 甕口 南壁上	口一輪足	-	-	0.9	103.4	L型→I型上	100	346	
a1060	深鉢	大5~7号	100号土坑 甕口直上 取り上げNo.2	口一輪足	270.1	2.61	0.7	1.6712	厚輪状体I型上→I型中	100	346	
a1061	深鉢	大5号~9	101号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.5	21.6	L型→I型上	100	346	
a1062	深鉢	大7号	101号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.4	129.1	L型→I型上	100	346	
a1063	深鉢	大7号	101号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.8	26.2	厚輪状体I型上→I型中	100	346	
a1064	浅鉢	中期	106号土坑 南壁上	口一輪足	63.3	1.64	0.75	88.8	L型→I型上	100	346	
a1065	深鉢	大6	106号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.6	18.1	L型→I型上	100	346	
a1066	深鉢	大6	106号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.6	20.6	厚輪状体I型上→I型中	100	346	
a1067	深鉢	大5	106号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.55	16.9	L型→I型上	100	346	
a1068	深鉢	大5	106号土坑 南壁上	口一輪足	-	-	0.55	16.9	L型→I型上	100	346	
a1069	深鉢	大7号	106号土坑 甕口直上 取り上げNo.1	口一輪足	23.5	17.4	0.8	0.1302	L型→I型上	100	346	
a1070	深鉢	大7号	111号土坑 甕口 南壁上	口一輪足	-	-	0.8	80.2	厚輪状体I型上→I型中	100	346	
a1071	深鉢	中期	112号土坑 甕口直上	口一輪足	285.1	-	0.0	0.7	1.2894	厚輪状体I型上→I型中	100	347





第10表 縄文土器類群表 (25)

No.	器種	時期	遺跡・地点・層位	埋存状況	数量 口数	計量単位 (g)	重量 口数	文様・溝部 (内面・外面)	所属 No.
a1171	深鉢	大形器	13号区 Ⅱ層	口一底蓋	100	695	口一→底蓋・溝部	コヤ	111, 354
a1172	深鉢	大形器	18号区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	111, 354
a1173	深鉢	大形器	18号区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	111, 354
a1174	深鉢	大形器	12号区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	小森山遺跡	112, 355
a1175	深鉢	大形器	5号地区 上層部出土	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	112, 355
a1176	深鉢	大形器	15号地区 上層部出土	口一底蓋	200	1,770	口一→底蓋	コヤ	112, 355
a1177	深鉢	大形器	9号地区 上層部出土	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	112, 355
a1178	深鉢	大形器	12号地区 上層部出土	口一底蓋	120	95	口一→底蓋	コヤ	112, 355
a1179	深鉢	大形器	12号地区 上層部出土	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	112, 355
a1180	深鉢	大形器	15号地区 上層部出土	口一底蓋	44	346	口一→底蓋	コヤ	111, 354
a1181	深鉢	大形器	15号地区 上層部出土	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	111, 354
a1182	深鉢	大形器	3号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	112, 355
a1183	深鉢	大形器	3号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	112, 355
a1184	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	112, 355
a1185	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	112, 355
a1186	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1187	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1188	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1189	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1190	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1191	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1192	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1193	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1194	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1195	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1196	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1197	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1198	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1199	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1200	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1201	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1202	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1203	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1204	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1205	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1206	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1207	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1208	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1209	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1210	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1211	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1212	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1213	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1214	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1215	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1216	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1217	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1218	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1219	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1220	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1221	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1222	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353
a1223	深鉢	大形器	4号地区 Ⅱ層	口一底蓋	—	—	口一→底蓋	コヤ	113, 353



第10表 絹文土器類表(26)

No.	器種	時期	遺構・地点・層位	形状	口径(φ)	高さ	容量(ℓ)	重量(g)	文様・調査	所属	号数
a1224	深鉢	大・6	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.7	31.9	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	115-358
a1225	深鉢	大・6	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	1.0	39.2	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	115-358
a1226	深鉢	大・6	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	1.1	40.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	115-358
a1227	深鉢	大・6	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	1.1	40.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	115-358
a1228	深鉢	大・6	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	1.0	33.2	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	115-358
a1229	深鉢	大・6	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.8	25.8	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	115-358
a1230	深鉢	大・7	P 212c 灰層土	口縁型	-	-	0.8	25.8	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	115-358
a1231	深鉢	大・7	P 212c 灰層土	口縁型	-	-	0.8	25.8	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	115-358
a1232	深鉢	大・7	P 212c 灰層土	口縁型	-	-	0.8	25.8	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	115-358
a1233	深鉢	大・7	P 212c 灰層土	口縁型	-	-	0.7	46.6	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1234	深鉢	大・5	P 207 灰層土	口縁型	-	-	1.1	75.9	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1235	深鉢	大・4	P 207d 灰層土	口縁型	-	-	1.0	27.2	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1236	深鉢	大・7	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	1.0	54.9	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1237	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.8	32.0	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1238	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.8	42.7	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1239	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	1.0	20.8	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1240	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	23.1	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1241	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	47.3	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1242	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	11.2	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1243	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	1.2	112.2	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1244	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.9	40.2	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1245	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.8	26.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1246	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.9	43.0	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1247	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	1.1	284.3	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1248	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.4	61.0	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1249	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.7	63.9	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1250	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.7	33.6	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1251	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.7	29.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	116-358
a1252	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.8	40.1	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1253	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1254	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1255	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1256	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1257	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1258	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1259	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1260	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1261	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1262	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1263	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1264	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1265	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1266	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1267	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1268	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1269	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1270	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359
a1271	深鉢	大・8	P 212b 灰層土	口縁型	-	-	0.6	19.5	LP→LP+底文様	遺址口縁, ス.S.20	117-359

第10表 縄文土器調査表(27)

No.	器種	時期	遺構・地誌・層位	検出部位	数量(個)	重量(g)	直径(mm)	口径(mm)	底径(mm)	高さ(mm)	厚(mm)	取付	文様・模様	外観・形状	図例 No.
a1272	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	294	0.7	519	121	101	159	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1273	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	251	0.8	500	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1274	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	292	0.8	500	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1275	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	293	0.8	500	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1276	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	143	0.5	427	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1277	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	185	0.8	937	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1278	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	190	0.6	303	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1279	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	112	0.6	549	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1280	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	190	0.8	549	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1281	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	150	0.7	408	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1282	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	188	0.6	702	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1283	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	283	0.5	872	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1284	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	106	0.6	379	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1285	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	162	0.6	495	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1286	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	300	0.6	495	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1287	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	301	0.6	495	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1288	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	307	0.6	495	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1289	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	292	0.5	495	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1290	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	131	0.5	371.5	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1291	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	383	0.6	484	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1292	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	119	0.7	484	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1293	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	171	0.6	733	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1294	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	126	0.8	1097	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1295	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	293	0.6	474	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1296	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.9	616	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1297	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.8	517	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1298	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.8	517	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1299	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	186	0.7	371	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1300	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.5	652	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1301	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.7	389	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1302	深鉢	不明	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	146	0.6	309	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1303	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.8	473	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1304	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.6	135	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1305	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	103	0.9	285	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1306	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.6	361	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1307	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.6	361	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1308	深鉢	不明	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.5	405	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1309	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	1.0	411	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1310	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.7	484	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1311	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.5	238	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1312	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	61	0.7	312	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1313	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.7	312	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1314	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.6	545	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1315	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	114	0.6	460	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1316	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.9	506	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	
a1317	深鉢	大6a	ⅡB-4・5a・b・6a・7a・8a・9a・10a・11a・12a	口縁部	—	0.7	291	118	98	150	12	口縁部	口縁部	120 361	





第10表 縄文土器調査表(30)

No.	器種	時期	遺構・地誌・層位	検出部位	数量	計測箇所 (cm)	重量 (g)	直径	高さ	口径	底径	厚	備考	図版	写真 No.
a1008	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口-胴部	-	-	4258	1.8	-	1.8	-	0.5	内面磨光, 文33	136	374
a1009	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	-	-	101	1.8	-	1.8	-	0.5	内面磨光, 文33	136	375
a1010	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	-	-	101	1.8	-	1.8	-	0.5	内面磨光, 文33	136	376
a1011	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	1175	1062	2724	1.8	-	1.8	-	0.5	内面磨光, 外縁磨光, 文33	137	374
a1012	浅鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	-	-	07	2018	12	10	-	0.2	内面磨光, 文33	137	374
a1013	浅鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	-	-	06	2017	12	10	-	0.2	内面磨光, 文33	137	374
a1014	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	1740	1740	1867	1.8	-	1.8	-	0.5	内面磨光, 外縁磨光, 文33	137	374
a1015	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	-	-	106	3094	10	10	-	0.5	内面磨光, 文33	137	374
a1016	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	-	-	08	3027	10	10	-	0.5	内面磨光, 文33	137	374
a1017	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	-	-	05	1171	1.8	1.8	-	0.7	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	137	374
a1018	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	-	-	05	1133	1.8	1.8	-	0.5	内面磨光, 文33	138	374
a1019	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	-	-	05	1032	1.8	1.8	-	0.5	内面磨光, 文33	138	374
a1020	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	-	-	05	1032	1.8	1.8	-	0.5	内面磨光, 文33	138	374
a1021	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	1697	1664	5922	1.8	-	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	138	374
a1022	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	-	-	05	1271	1.8	1.8	-	0.5	内面磨光, 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	138	374
a1023	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	2540	2540	15294	1.8	-	1.8	-	0.6	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	138	375
a1024	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	-	-	06	5859	1	1	-	0.5	内面磨光, 文33	138	375
a1025	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	-	-	09	789	1.8	1.8	-	0.5	内面磨光, 文33	138	375
a1026	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	3348	107	548	1.8	-	1.8	-	0.5	内面磨光, 文33	138	375
a1027	深鉢	大6b	ⅡB-4・5a・b 遺構区画ⅡB-5b 2層	口部	1877	1877	594	1.8	-	1.8	-	0.5	内面磨光, 文33	138	375
a1028	浅鉢	不明	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	胴-底面	632	-	65	1424	7.7	7.7	-	0.9	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	139	375
a1029	深鉢	大6b	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	口部	-	-	10	1013	1.8	1.8	-	0.5	内面磨光, 文33	138	375
a1030	深鉢	大6b	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	口部	-	-	08	1819	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	139	375
a1031	深鉢	不明	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	胴部	-	-	05	7757	12	12	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	139	375
a1032	深鉢	不明	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	胴部	-	-	05	2241	4.7	4.7	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	139	375
a1033	深鉢	大6	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	口部	-	-	10	2828	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	139	375
a1034	深鉢	大7b	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	口部	-	-	07	1327	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	139	376
a1035	深鉢	大6	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	口部	-	-	1.3	2626	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	139	376
a1036	深鉢	大7b	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	口部	-	-	1.2	2944	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1037	打子鉢?	大8a	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	口部	655	1144	0.6	653	1	1	-	0.6	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1038	深鉢	大6	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	口部	-	-	09	3716	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1039	深鉢	大3	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	口部	-	-	05	2355	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1040	深鉢	大3	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	口部	-	-	05	2355	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1041	深鉢	大3	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	口部	-	-	09	3110	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1042	深鉢	大3	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	胴部	-	-	07	4059	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1043	深鉢	大7a	中ノ瀬谷区南西 遺構区画Ⅱ層	胴部	-	-	1.15	1941	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1044	深鉢	大8b・9	107号穴遺構Ⅱ層 北東区 2層 2層	口部	-	-	1.05	425	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1045	深鉢	大7b	107号穴遺構Ⅱ層 北東区 2層 2層	口部	-	-	1.05	425	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1046	深鉢	大7b	107号穴遺構Ⅱ層 北東区 2層 2層	口部	-	-	1.05	425	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1047	深鉢	不明	108号穴遺構Ⅱ層 北東区 2層 2層	口部	-	-	09	3002	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1048	深鉢	不明	108号穴遺構Ⅱ層 北東区 2層 2層	口部	-	-	06	408	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1049	深鉢	大8b	108号穴遺構Ⅱ層 北東区 2層 2層	胴部	-	-	06	3622	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1050	深鉢	不明	108号穴遺構Ⅱ層 北東区 2層 2層	口部	-	-	07	2814	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1051	深鉢	大8b	108号穴遺構Ⅱ層 北東区 2層 2層	口部	-	-	07	2814	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1052	深鉢	大8b	108号穴遺構Ⅱ層 北東区 2層 2層	口部	-	-	07	2814	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1053	深鉢	大8b	108号穴遺構Ⅱ層 北東区 2層 2層	口部	-	-	07	428	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376
a1054	深鉢	大8b・9	109号穴遺構Ⅱ層 北東区 2層 2層	口部	-	-	08	4306	1.8	1.8	-	0.5	455 輪縁部全体→文33, 外縁磨光, 文33	140	376

第10表 縄文土器観覧表 (31)

No.	器種	時期	遺構・地誌・層位	埋存状況	数量 計	口径 径	高さ 径	底径 径	重さ g	文様・調査 (内径・断面)	図版 No.	写真 No.
a1455	深鉢	大7b	3112号房公産物 南地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.85	3032	141	376
a1456	深鉢	大8b	3112号房公産物 南地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.5	3112	141	376
a1457	深鉢	大8	3112号房公産物 北地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.75	574	141	376
a1458	深鉢	大7b	3112号房公産物 北地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.5	363	141	376
a1459	深鉢	大8	3112号房公産物 南地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.6	37	141	376
a1460	深鉢	大8	3112号房公産物 南地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.7	337	141	376
a1461	深鉢	大8	3112号房公産物 南地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.85	492	141	376
a1462	深鉢	大8	3114号房公産物 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.5	462	141	376
a1463	深鉢	大8	3114号房公産物 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.6	521	141	377
a1464	深鉢	大8	3114号房公産物 南地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.9	387	141	377
a1465	深鉢	大8	3114号房公産物 南地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.9	521	141	377
a1466	深鉢	大8	3114号房公産物 南地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.5	309	141	377
a1467	深鉢	大7b	3114号房公産物 南地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.7	381	141	377
a1468	深鉢	大7b	3114号房公産物 南地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.7	381	141	377
a1469	深鉢	大7b	3114号房公産物 南地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.8	214	141	377
a1470	深鉢	大7	3114号房公産物 カマドトランプ	口縁部	-	-	-	-	0.6	299	141	377
a1471	深鉢	大7	3114号房公産物 カマドトランプ	口縁部	-	-	-	-	0.5	314	141	377
a1472	深鉢	大7	3114号房公産物 カマドトランプ	口縁部	-	-	-	-	0.5	314	141	377
a1473	深鉢	大7	3114号房公産物 南地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.8	191	141	377
a1474	深鉢	大7	3114号房公産物 南地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.8	634	141	377
a1475	深鉢	大7b	3114号房公産物 北地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	1.04	634	141	377
a1476	深鉢	大7b	3114号房公産物 北地区 溝埋土	口縁部	-	-	-	-	0.8	1960	141	377
a1477	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1478	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1479	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1480	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1481	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1482	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1483	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1484	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1485	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1486	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1487	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1488	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1489	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1490	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1491	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1492	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1493	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1494	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1495	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1496	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1497	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1498	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1499	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1500	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1501	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1502	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1503	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1504	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	
a1505	深鉢	大8b	3116号房公産物 溝埋土	口縁部	252	209	118	0.8	1960	141	377	

第10表 縄文土器調査表 (32)

No.	器種	時期	遺跡・地点・層位	埋没状況	数量	計測値 (cm)	寸法	重量 (g)	文様・特徴 (内径・断面)	所属	図録 号順
a1506	深鉢	大7a	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.95	30.5	19.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	145	279
a1507	深鉢	大7a	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	1.0	28.5	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	145	279
a1508	深鉢	大7a	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.9	28.5	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	145	279
a1509	深鉢	大6-7a	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.9	27.4	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	145	280
a1510	深鉢	大6	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.7	27.0	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	145	280
a1511	浅鉢	大8a	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	12/1	0.66	30.4	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	145	280
a1512	深鉢	大8a	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	20/2	0.65	30.3	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	145	280
a1513	深鉢	大7a	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.75	29.5	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	145	280
a1514	深鉢	大7a	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.75	29.5	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	145	280
a1515	深鉢	大7a	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.9	29.6	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	145	280
a1516	深鉢	大7a	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.8	30.0	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	145	280
a1517	深鉢	大5-6	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.55	31.4	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	145	280
a1518	深鉢	大5	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	1.1	45.5	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	145	280
a1519	深鉢	大5	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.9	17.2	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	146	281
a1520	深鉢	大5	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.65	12.27	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	146	281
a1521	深鉢	大4	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.65	12.27	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	146	281
a1522	深鉢	大4	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.75	61.6	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	146	281
a1523	深鉢	大6	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	1.1	27.9	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	146	280
a1524	深鉢	大2a	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.9	30.6	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	146	281
a1525	深鉢	大7a	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	12/1	0.55	19.7	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	146	281
a1526	深鉢	大7a	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.9	30.0	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	146	281
a1527	深鉢	大7a	Ⅱ A 6w Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.9	30.0	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	146	281
a1528	深鉢	大5	Ⅱ A 6w x 7a Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.9	43.1	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	146	281
a1529	深鉢	大7a	Ⅱ A 6k Ⅰ-Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.9	19.7	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	146	281
a1530	深鉢	大7a	Ⅱ A 6k Ⅰ-Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.9	19.7	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	146	281
a1531	深鉢	大7a	Ⅱ A 6k Ⅰ-Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.6	15.2	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	146	281
a1532	深鉢	大8a	Ⅱ A 6k Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.9	20.65	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	146	281
a1533	深鉢	大8a-9	Ⅱ A 6k Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.5	78.4	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	147	281
a1534	深鉢	大5	Ⅱ A 6k Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	1.0	1.657	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	147	281
a1535	深鉢	大5	Ⅱ A 6k Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.8	2.757	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	147	282
a1536	深鉢	大5	Ⅱ A 6k Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	1.2	14.1	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	147	282
a1537	深鉢	大8a	Ⅱ A 6k Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.9	22.0	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	147	282
a1538	浅鉢	Ⅱ A 6 x 7a Ⅱ Ⅱ	口縁部	20/1	42/0	-	1.0	87.9	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	147	282
a1539	深鉢	大8a	Ⅱ A 6 x 7a Ⅱ Ⅱ	口縁部	24/2	33/3	0.9	94.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	148	282
a1540	深鉢	大8	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.9	30.8	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	147	282
a1541	深鉢	大8	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.9	30.8	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	147	282
a1542	深鉢	大7b	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.7	54.5	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	148	282
a1543	深鉢	大7b	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	23/1	17.4	-	0.7	54.5	148	282
a1544	深鉢	大8a	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	10/0	6.2	0.4	20.20	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	148	282
a1545	深鉢	大8a	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	22/6	37/8	-	1.1	94.1	148	282
a1546	深鉢	大8a	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	35/2	14.8	1.2	3.965	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	149	283
a1547	深鉢	大7a	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	39/7	14.8	0.68	13.22	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	149	283
a1548	深鉢	大7b	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	12/5	26/0	-	0.7	30.6	149	283
a1549	深鉢	大7b	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	13/2	25.0	-	0.7	30.6	149	283
a1550	深鉢	大7a	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	-	-	1.1	40.2	149	283
a1551	深鉢	大7a	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	-	-	1.0	19.0	149	283
a1552	深鉢	大7a	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	-	-	0.8	30.4	149	283
a1553	深鉢	大7a	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	-	-	0.7	40.9	149	283
a1554	深鉢	大6-7a	Ⅱ A 6 y Ⅱ Ⅱ Ⅱ Ⅱ	口縁部	-	0.6	38.4	18.0	口縁部上→口内径による変形、厚、引ノ	149	283

第10表 縄文土器調査表 (33)

調査 No.	層位	種類	遺構・地点・方位	検出部位	数量	計測箇所 (cm)	重量 (g)	材質	文様・画像	付属 番号	
a1554	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.05	39.9	子ナク灰質→硬質化	149 385	
a1555	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.8	1.9	肌・口内→硬質化→硬質化	149 385	
a1556	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.8	1.9	肌・口内→硬質化→硬質化	149 385	
a1557	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.8	1.9	肌・口内→硬質化→硬質化	149 385	
a1558	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.8	1.9	肌・口内→硬質化→硬質化	149 385	
a1559	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.9	7.3	LP→硬質化、口縁部硬質化	149 385	
a1560	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.75	9.18	肌質硬質化	149 385	
a1561	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	1.2	23.53	肌質硬質化	149 384	
a1562	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.8	3.47	肌質硬質化、口縁部硬質化→子ナク	149 384	
a1563	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.6	6.17	硬質化、口縁部硬質化	149 384	
a1564	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.55	27.23	硬質化、口縁部硬質化	149 384	
a1565	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.05	40.68	肌質硬質化→硬質化、硬質化	150 384	
a1566	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.05	29.6	肌質硬質化、口縁部硬質化	150 384	
a1567	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	122	31.41	0.9	40.7	肌質硬質化、口縁部硬質化	150 384	
a1568	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	143	18.11	0.7	34.21	LP→硬質化、口縁部硬質化	150 384	
a1569	2018	土器	Ⅱ A 6 F Ⅱ 土層	口縁部	135	19.42	0.05	30.53	子ナク、硬質化、口縁部硬質化	150 384	
a1570	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	胴部	278	9.5	0.8	27.84	子ナク、硬質化、口縁部硬質化	150 384	
a1571	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.6	6.29	硬質化、口縁部硬質化	150 384	
a1572	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.7	5.21	硬質化、口縁部硬質化	150 384	
a1573	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.7	6.17	硬質化、口縁部硬質化	150 384	
a1574	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.7	27.5	子ナク	150 384	
a1575	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.8	9.79	硬質化、口縁部硬質化	150 384	
a1576	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	36.6	18.4	0.7	17.9	硬質化、口縁部硬質化	150 384	
a1577	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	25.2	17.0	6.0	6.0	硬質化、口縁部硬質化	150 384	
a1578	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	16.8	15.41	-	0.9	39.2	LP→硬質化	150 384
a1579	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.9	39.2	LP→硬質化	150 385	
a1580	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.75	16.52	硬質化、口縁部硬質化	150 385	
a1581	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.8	14.19	硬質化、口縁部硬質化	150 385	
a1582	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.7	33.7	硬質化	150 385	
a1583	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.9	58.4	硬質化	150 385	
a1584	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	144	31.21	-	0.9	58.4	硬質化	150 385
a1585	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	139	20.6	-	0.7	27.6	硬質化、口縁部硬質化	150 385
a1586	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.9	21.18	硬質化、口縁部硬質化	150 385	
a1587	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.75	7.36	硬質化、口縁部硬質化	150 385	
a1588	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	胴部	-	-	0.7	34.2	硬質化、口縁部硬質化	150 385	
a1589	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	150	29.0	1.28	0.7	89.3	硬質化	150 385
a1590	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	50.1	30.5	1.0	4.87	肌質硬質化	150 385	
a1591	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	58.5	11.8	0.8	6.43	子ナク	150 386	
a1592	2018	土器	Ⅱ A 7 F Ⅱ 土層	口縁部	342	29.6	-	0.75	12.5	硬質化	150 386
a1593	2018	土器	Ⅱ A 8 F Ⅱ 土層	口縁部	321	26.0	-	0.5	58.0	硬質化、口縁部硬質化	150 386
a1594	2018	土器	Ⅱ A 8 F Ⅱ 土層	口縁部	9.5	-	7.9	0.25	28.4	LP→硬質化	150 386
a1595	2018	土器	Ⅱ A 8 F Ⅱ 土層	口縁部	54.9	28.4	-	1.05	42.56	硬質化、口縁部硬質化	150 386
a1596	2018	土器	Ⅱ A 8 F Ⅱ 土層	口縁部	41.9	28.4	-	0.9	24.9	硬質化、口縁部硬質化	150 386
a1597	2018	土器	Ⅱ A 8 F Ⅱ 土層	口縁部	67.7	45.0	-	0.85	42.7	硬質化	150 387
a1598	2018	土器	Ⅱ A 8 F Ⅱ 土層	口縁部	22.5	43.4	-	0.7	82.92	硬質化	150 387
a1599	2018	土器	Ⅱ A 8 F Ⅱ 土層	口縁部	13.5	14.4	-	0.6	24.4	LP→硬質化	150 388
a1600	2018	土器	Ⅱ A 8 F Ⅱ 土層	口縁部	-	-	0.5	4.33	LP→硬質化	150 388	





第 10 表 縄文土器観覧表 (35)

No.	器種	時期	遺構・地点・層位	形状・部位	高さ	口径	容量 (cc)	底径	厚	重量 (g)	文様・内面	図版 No.	写真 No.
a1649	深鉢	大 5	Ⅱ A 7 層	根上 1c-7 層	—	—	—	—	—	0.50	文様・下腹管口による彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	157	200
a1650	深鉢	大 3	Ⅱ A 7 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.25	文様・根上 1c-7 層	157	200
a1651	深鉢	大 7a	Ⅱ A 7 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.59	284.3 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	157	200
a1652	深鉢	大 6	Ⅱ A 7 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.40	文様・根上 1c-7 層	157	200
a1653	深鉢	大 5	Ⅱ A 7 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.65	彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	157	200
a1654	深鉢	大 5	Ⅱ A 7 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.75	205.7 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	157	200
a1655	深鉢	大 5	Ⅱ A 7 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.58	彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	157	200
a1656	深鉢	大 5	Ⅱ A 7 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.6	46.0 文様・根上 1c-7 層	157	200
a1657	深鉢	大 5	Ⅱ A 7 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.66	66.73 1c-10 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	157	200
a1658	深鉢	大 3	Ⅱ A 7 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.85	112.9 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	157	201
a1659	深鉢	大 3	Ⅱ A 7 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.75	85.30 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	157	201
a1660	深鉢	大 6	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.9	117 文様・根上 1c-7 層	157	201
a1661	深鉢	大 5	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.7	138.2 文様・根上 1c-7 層	158	201
a1662	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.6	138.2 文様・根上 1c-7 層	158	201
a1663	深鉢	大 4	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.6	302.4 文様・根上 1c-7 層	158	201
a1664	深鉢	大 2b	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	1.0	274.2 LP 文様・根上 1c-7 層	158	201
a1665	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	1.1	164.9 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	158	201
a1666	深鉢	大 7	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.6	36.9 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	158	201
a1667	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.6	139.0 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	158	201
a1668	深鉢	大 6	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.8	209.6 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	158	201
a1669	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.6	17.0 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	158	201
a1670	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.6	22.6 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	158	201
a1671	深鉢	大 2b-9	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	109.7	19.4	—	—	—	0.8	86.4 LP 文様・根上 1c-7 層	158	201
a1672	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	202	20.4	112	0.75	—	1.020	LP 文様・根上 1c-7 層	159	202
a1673	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.65	25.6 LP 文様・根上 1c-7 層	159	202
a1674	深鉢	大 7	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.8	10.7 文様・根上 1c-7 層	158	201
a1675	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.7	20.9 文様・根上 1c-7 層	158	201
a1676	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.7	20.9 文様・根上 1c-7 層	158	201
a1677	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.75	117.0 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	158	202
a1678	深鉢	同 E.c.	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.8	135.3 LP 文様・根上 1c-7 層	159	202
a1679	深鉢	大 6-7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.65	63.5 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	159	202
a1680	深鉢	大 6-7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	302	32.2	—	—	—	0.9	83.3 LP 文様・根上 1c-7 層	159	202
a1681	深鉢	大 6-7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.8	311.3 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	159	202
a1682	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.66	331.0 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	159	202
a1683	深鉢	大 5	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.66	68.1 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	159	202
a1684	深鉢	大 6	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.8	77.6 文様・根上 1c-7 層	159	202
a1685	深鉢	大 4	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.7	30.0 LP 文様・根上 1c-7 層	159	202
a1686	深鉢	大 4	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.6	38.2 LP 文様・根上 1c-7 層	159	202
a1687	深鉢	大 6-7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.8	44.0 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	160	202
a1688	深鉢	大 5	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	13.7	26.4	—	—	—	0.8	44.0 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	160	202
a1689	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.7	20.9 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	160	202
a1690	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.8	20.9 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	160	202
a1691	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	1.0	266.4 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	160	202
a1692	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.7	22.8 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	160	202
a1693	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	1.2	124.6 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	160	202
a1694	深鉢	大 7a	Ⅱ A 8 層	Ⅱ層	—	—	—	—	—	0.9	29.1 彫刻 / 文様・根上 1c-7 層	159	202











第10表 絹文土器類表 (41)

No.	器種	時期	遺跡・地区・層位	形状・部位	数量	計量器 (cm)	重量	文様・調査 (内照・内注)	所属 号 No.	写真
a1943	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	115	0.8	0.7	1.8 → 2.0 段状	182	101
a1944	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	214	-	-	0.7 5.5 段状	182	100
a1945	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	211	-	-	0.7 5.5 段状	182	100
a1946	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	209	13.5	7.0	0.6 5.0 2段 1.8 → 2.0 段状	185	411
a1947	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	165	12.6	0.6	2.7 1.2 段状	185	411
a1948	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	178	-	-	0.55 2.2 5段 1.8 → 2.0 段状	185	410
a1949	深鉢	不明	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	53.1	-	-	4.6 0.4 5.6 段状	185	410
a1950	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	184	-	-	0.7 5.5 段状	185	411
a1951	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	149	20.9	-	0.45 4.5 段状	185	411
a1952	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	149	20.9	-	0.45 4.5 段状	185	411
a1953	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	175	-	-	0.85 6.7 10段 1.8 → 2.0 段状	185	411
a1954	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	227.8	32.8	-	0.75 9.6 2段 1.8 → 2.0 段状	185	412
a1955	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	111	15.4	5.2	0.65 2.0 1.8 → 2.0 段状	184	411
a1956	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	200	102	0.7	0.55 1.8 → 2.0 段状	184	411
a1957	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	184	19.7	-	0.7 2.2 2段 1.8 → 2.0 段状	184	411
a1958	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.6 7.8 段状	184	411
a1959a	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.8 3.2 6段 1.8 → 2.0 段状	184	412
a1959b	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	1.2 8.1 9段 1.8 → 2.0 段状	184	412
a1960	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.7 2.0 3段 1.8 → 2.0 段状	184	412
a1961	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.8 13.2 1.8 → 2.0 段状	184	412
a1962	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.8 13.2 1.8 → 2.0 段状	184	412
a1963	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.8 13.2 1.8 → 2.0 段状	184	412
a1964	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	153	20.8	8.0	0.75 5.0 6段 1.8 → 2.0 段状	184	412
a1965	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	184.1	17.4	-	0.55 4.1 7段 1.8 → 2.0 段状	185	412
a1966	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	168	-	-	0.45 3.0 5段 1.8 → 2.0 段状	185	412
a1967	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.7 2.2 2段 1.8 → 2.0 段状	185	412
a1968	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	133	13.3	0.6	0.47 1.8 → 2.0 段状	185	412
a1969	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	77	16.0	0.8	0.6 2.0 3段 1.8 → 2.0 段状	185	412
a1970	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	179.5	23.2	-	0.85 9.6 9段 1.8 → 2.0 段状	185	413
a1971	深鉢	大7a	3 11 6b 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	228	26.0	-	1.1 15.7 11段 1.8 → 2.0 段状	185	413
a1972	深鉢	大6	3 11 6b 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	290	21.0	-	0.7 8.0 6段 1.8 → 2.0 段状	185	413
a1973	深鉢	大7a	3 11 6b 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.7 10.6 1.8 → 2.0 段状	185	413
a1974	深鉢	大7a	3 11 6b 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.5 6.3 6段 1.8 → 2.0 段状	185	413
a1975	深鉢	大6	3 11 6b 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.5 5.2 5段 1.8 → 2.0 段状	185	413
a1976	深鉢	大6	3 11 6b 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.5 5.2 5段 1.8 → 2.0 段状	185	413
a1977	深鉢	大6	3 11 6b 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.6 5.8 5段 1.8 → 2.0 段状	185	413
a1978	深鉢	大7a	3 11 6b 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.75 12.1 11段 1.8 → 2.0 段状	185	413
a1979	深鉢	大7a	3 11 6b 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.9 6.7 6段 1.8 → 2.0 段状	185	413
a1980	深鉢	大7a	3 11 6b 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.8 2.0 3段 1.8 → 2.0 段状	186	413
a1981	深鉢	大7a	3 11 6b 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.5 3.5 5段 1.8 → 2.0 段状	186	413
a1982	深鉢	大7a	3 11 6b 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.5 3.5 5段 1.8 → 2.0 段状	186	413
a1983	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	175	18.5	-	0.8 16.4 1.8 → 2.0 段状	186	414
a1984	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.5 17.5 1.8 → 2.0 段状	186	414
a1985	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.25 6.1 7段 1.8 → 2.0 段状	186	414
a1986	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.8 28.1 7段 1.8 → 2.0 段状	186	414
a1987	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.5 11.1 11段 1.8 → 2.0 段状	186	414
a1988	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.8 11.5 1.8 → 2.0 段状	186	414
a1989	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	0.6 3.7 7段 1.8 → 2.0 段状	186	414
a1990	深鉢	大6	3 11 6a 西 南 部 2 号 土 器 室	口縁部	-	-	-	1.0 8.1 9段 1.8 → 2.0 段状	186	414



第 10 表 絹文土器類群表 (42)

No.	器種	時期	遺構・地点・層位	形状・部位	器高 口径	容量 (L)	重量 (g)	特徴	図版	写真 No.	
a3592	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口一柳型	-	0.8	261.0	LP→L2C→竹筒型→口縁部削平→柳型	スズ	187 414	
a3593	深鉢	ⅡB-8a	ⅡB-7a	口一柳型	28.4	11.8	320.0	柳型→柳型→口縁部削平→L2C→L2C	スズ	187 415	
a3594	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.7	83.4	柳型→L2C→L2C	スズ	187 414	
a3595	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.7	80.5	柳型→L2C→L2C	スズ	187 414	
a3596	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.7	109.2	柳型→L2C→L2C	スズ	187 414	
a3597	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	36.81	29.21	349.2	LP 10型、口縁部削平→LP 10型、小塚口直	スズ	187 414	
a3598	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	14.8	22.21	0.88	520.0	LP	187 414	
a3599	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.8	386.1	LP 10型→柳型体中、口縁部削平	スズ	187 415	
a3600	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.8	386.1	柳型→柳型体中、口縁部削平	スズ	187 415	
a3601	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.8	386.1	柳型→柳型体中、口縁部削平	スズ	187 415	
a3602	深鉢	ⅡB-5	ⅡB-7a	口柳型	-	0.8	52.3	柳型→柳型体中、口縁部削平	スズ	187 415	
a3603	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	24.91	31.0	640.0	柳型→柳型体中、口縁部削平	スズ	188 415	
a3604	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	14.91	23.31	0.7	463.3	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	188 415
a3605	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	13.91	17.0	0.8	243.3	柳型→柳型体中、口縁部削平	スズ	188 415
a3606	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	6.91	5.5	1.0	330.0	柳型→柳型体中、口縁部削平	スズ	188 415
a3607	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	-	1.0	296.0	柳型→LP→L2C	スズ	188 415
a3608	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	-	0.9	342.5	柳型→LP→L2C	スズ	188 415
a3609	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	17.6	19.6	0.9	334.1	LP→L2C→柳型	スズ	188 416
a3610	深鉢	ⅡB-8a	ⅡB	口柳型	-	0.6	203.5	LP→柳型	スズ	188 416	
a3611	深鉢	ⅡB-8a	ⅡB	口柳型	-	0.6	203.5	LP→柳型	スズ	188 416	
a3612	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.6	86.5	LP→柳型	スズ	188 416	
a3613	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.6	86.5	LP→柳型	スズ	188 416	
a3614	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.8	351.4	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	188 416	
a3615	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.8	351.4	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	188 416	
a3616	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	1.0	92.8	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	190 416	
a3617	深鉢	ⅡB-3	ⅡB-8a	口柳型	-	0.55	831	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	189 416	
a3618	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	1.0	274.4	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	189 416	
a3619	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.9	274.4	LP→L2C→柳型	スズ	189 416	
a3620	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	23.81	19.4	0.7	1203.3	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	189 416
a3621	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	21.1	18.2	0.6	133.3	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	189 416
a3622	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.6	133.3	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	189 416	
a3623	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	11.4	12.0	0.5	75.0	LP	スズ	189 416
a3624	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.8	75.0	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	189 416	
a3625	深鉢	ⅡB-5	ⅡB-8a	口柳型	-	0.95	277.0	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	190 416	
a3626	深鉢	ⅡB-5	ⅡB-8a	口柳型	-	0.95	277.0	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	190 416	
a3627	深鉢	ⅡB-4	ⅡB-8a	口柳型	-	0.75	307	LP→柳型	スズ	189 416	
a3628	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	20.3	15.0	0.5	878.0	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	190 417
a3629	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.6	222.5	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	190 417	
a3630	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	13.01	9.61	0.6	80.2	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	190 417
a3631	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	1.1	97.6	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	190 417	
a3632	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	1.0	328.6	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	190 417	
a3633	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.9	293.3	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	190 417	
a3634	深鉢	ⅡB-5	ⅡB-8a	口柳型	-	0.6	102.2	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	190 417	
a3635	深鉢	ⅡB-7a	ⅡB	口柳型	-	0.7	46.2	柳型→LP→柳型体中、口縁部削平	スズ	190 417	



第10表 絹文土器調査表(44)

図版 No.	器種	時期	遺跡・地点・層位	検出部位	数量	計測箇所 (cm)	重量 (g)	寸法	形状	付属品	調査 (年代・調査者)	図版 No.	器種
42080	深鉢	大 6	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	11.7	32.2	-	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	194 421	深鉢
42081	深鉢	大 6	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.65	-	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	194 422	深鉢
42082	深鉢	大 6	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.75	-	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	194 423	深鉢
42083	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	128	12.1	3.6	0.17	4.6	0.17	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	194 424	深鉢
42084	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	660	18.5	0.85	1.16	0.17	0.17	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	195 421	深鉢
42085	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	3053	26.11	-	0.75	20.94	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	195 422	深鉢
42086	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	3053	26.11	-	0.75	20.94	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	195 423	深鉢
42087	深鉢	大 6	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	1181	21.4	-	0.6	4.421	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	194 421	深鉢
42088	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.8	3.72	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	195 421	深鉢
42089	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.7	4.28	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	195 421	深鉢
42090	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.75	1.628	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	195 421	深鉢
42091	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	1.0	17.70	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	195 421	深鉢
42092	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.7	3.872	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	195 422	深鉢
42093	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.7	3.872	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	195 422	深鉢
42094	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.7	12.22	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	195 421	深鉢
42095	深鉢	大 6	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.9	20.1	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	195 421	深鉢
42096	深鉢	大 6-7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	1221	-	0.7	5.860	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	196 422	深鉢
42097	深鉢	大 5	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.65	8.68	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	196 422	深鉢
42098	深鉢	大 6	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.8	27.12	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	196 422	深鉢
42099	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	358	31.0	15.3	0.7	27.116	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	197 422	深鉢
42100	深鉢	大 6-7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	194.1	28.0	-	0.8	5.931	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	196 422	深鉢
42101	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.65	2.158	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	196 422	深鉢
42102	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.75	12.53	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	196 422	深鉢
42103	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.9	11.11	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	196 422	深鉢
42104	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.9	11.11	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	196 422	深鉢
42105	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.7	10.24	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	196 422	深鉢
42106	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.75	7.16	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	196 422	深鉢
42107a	深鉢	大 6-7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.6	8.60	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	196 422	深鉢
42107b	深鉢	大 6-7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.6	7.92	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	196 422	深鉢
42108	深鉢	大 6-7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	1.0	9.66	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	196 422	深鉢
42109	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	1.0	12.62	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	196 422	深鉢
42110	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.52	4.12	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	197 423	深鉢
42111	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.6	5.84	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	197 423	深鉢
42112a	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.8	22.69	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	197 423	深鉢
42113	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.8	47.00	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	197 423	深鉢
42114	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.5	4.89	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	197 423	深鉢
42115	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.5	3.84	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	197 423	深鉢
42116	深鉢	大 4	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	284.1	20.41	-	0.9	3.881	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	198 423	深鉢
42117	深鉢	大 4	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.8	42.13	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	198 423	深鉢
42118	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.7	3.72	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	198 423	深鉢
42119	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.7	5.21	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	198 423	深鉢
42120	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	115	13.61	10.27	1.2	13.61	10.27	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	198 423	深鉢
42121	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	123	26.01	-	0.9	46.00	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	198 423	深鉢
42122	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	279	23.0	7.0	0.6	14.824	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	198 423	深鉢
42123	深鉢	大 7a	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	口縁部	-	-	0.9	8.58	-	-	3 19 9a Ⅰ-1 層上層	198 423	深鉢

第10表 縄文土器調査表 (45)

No.	器種	時期	遺跡・地点・層位	検出状況	数量	計測箇所 (cm)	重量 (g)	直径 (cm)	高さ (cm)	厚	備考	図版 No.	写真 No.
4212	深鉢	大7a	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.7	7.74	0.7	7.74	底面→底面・縁面・中央→中央	198	421
4213	深鉢	大8b-9	3 1016 東地区 Ⅱ 土層下部	11-断面	-	-	0.75	32.74	0.75	32.74	底面→底面・縁面・中央→中央	199	422
4214	深鉢	大4	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	断面	-	-	0.7	13.09	0.7	13.09	底面→底面・縁面・中央→中央	199	423
4215	深鉢	大4	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	断面	-	-	0.7	53.0	0.7	53.0	底面→底面・縁面・中央→中央	199	424
4216	深鉢	大3	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.65	25.1	0.65	25.1	底面→底面・縁面・中央→中央	199	425
4217	深鉢	大9	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	180	258	0.9	86.21	0.9	86.21	底面→底面・縁面・中央→中央	199	426
4218	深鉢	大9	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	65	65	0.8	43.51	0.8	43.51	底面→底面・縁面・中央→中央	199	427
4219	深鉢	大8b-9	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	断面	-	-	0.85	61.9	0.85	61.9	底面→底面・縁面・中央→中央	199	428
4220	深鉢	大4	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	断面	-	-	0.8	80.1	0.8	80.1	底面→底面・縁面・中央→中央	199	429
4221	深鉢	大6	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.9	100.1	0.9	100.1	底面→底面・縁面・中央→中央	199	430
4222	深鉢	大8b	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.85	86.3	0.85	86.3	底面→底面・縁面・中央→中央	200	431
4223	深鉢	大8b	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	1.1	26.7	1.1	26.7	底面→底面・縁面・中央→中央	200	432
4224	深鉢	大8b	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.9	85	0.9	85	底面→底面・縁面・中央→中央	200	433
4225	深鉢	大7a	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.7	88.4	0.7	88.4	底面→底面・縁面・中央→中央	200	434
4226	深鉢	大7a	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.7	77.4	0.7	77.4	底面→底面・縁面・中央→中央	200	435
4227	深鉢	大8b	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	129	129	0.8	294.6	0.8	294.6	底面→底面・縁面・中央→中央	200	436
4228	深鉢	大9	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	85	85	0.8	134.9	0.8	134.9	底面→底面・縁面・中央→中央	200	437
4229	深鉢	大7a	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.65	27.7	0.65	27.7	底面→底面・縁面・中央→中央	200	438
4230	深鉢	大8b-9	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	1.0	136.0	1.0	136.0	底面→底面・縁面・中央→中央	200	439
4231	深鉢	大8b	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.95	90.8	0.95	90.8	底面→底面・縁面・中央→中央	200	440
4232	深鉢	大8b	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.9	81.1	0.9	81.1	底面→底面・縁面・中央→中央	200	441
4233	深鉢	大9	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	1.1	91.1	1.1	91.1	底面→底面・縁面・中央→中央	200	442
4234	深鉢	大9	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.9	60.4	0.9	60.4	底面→底面・縁面・中央→中央	200	443
4235	深鉢	大7a	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	断面	251	251	0.8	694.1	0.8	694.1	底面→底面・縁面・中央→中央	200	444
4236	深鉢	大8b	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.9	68.3	0.9	68.3	底面→底面・縁面・中央→中央	200	445
4237	深鉢	大8b	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	301	301	0.8	301.5	0.8	301.5	底面→底面・縁面・中央→中央	200	446
4238	深鉢	大8b	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	296	296	0.8	131.1	0.8	131.1	底面→底面・縁面・中央→中央	200	447
4239	深鉢	大8b	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	304	304	0.8	134.7	0.8	134.7	底面→底面・縁面・中央→中央	200	448
4240	深鉢	大8b	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.85	129.7	0.85	129.7	底面→底面・縁面・中央→中央	200	449
4241	深鉢	大8b	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	断面	138	138	0.9	424.6	0.9	424.6	底面→底面・縁面・中央→中央	200	450
4242	深鉢	大8b	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	1.1	82.3	1.1	82.3	底面→底面・縁面・中央→中央	200	451
4243	深鉢	大9	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.7	44.3	0.7	44.3	底面→底面・縁面・中央→中央	200	452
4244	深鉢	大9	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.9	259.9	0.9	259.9	底面→底面・縁面・中央→中央	200	453
4245	深鉢	大9	3 1017 西地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.85	54.8	0.85	54.8	底面→底面・縁面・中央→中央	200	454
4246	深鉢	大6	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	断面	-	-	0.95	14.1	0.95	14.1	底面→底面・縁面・中央→中央	200	455
4247	深鉢	大8b	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.95	75.2	0.95	75.2	底面→底面・縁面・中央→中央	200	456
4248	深鉢	大8b	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.8	29.5	0.8	29.5	底面→底面・縁面・中央→中央	200	457
4249	深鉢	大8b	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.8	23.8	0.8	23.8	底面→底面・縁面・中央→中央	200	458
4250	深鉢	大7a	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.6	23.2	0.6	23.2	底面→底面・縁面・中央→中央	200	459
4251	深鉢	大8b-9	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.85	89.7	0.85	89.7	底面→底面・縁面・中央→中央	200	460
4252	深鉢	大8b-9	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	145	145	0.6	196.8	0.6	196.8	底面→底面・縁面・中央→中央	200	461
4253	深鉢	大8b	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	101	101	0.5	122.9	0.5	122.9	底面→底面・縁面・中央→中央	200	462
4254	深鉢	大8b-9	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	断面	100	100	0.6	63.3	0.6	63.3	底面→底面・縁面・中央→中央	200	463
4255	深鉢	大8b-9	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	断面	184	184	0.6	66.0	0.6	66.0	底面→底面・縁面・中央→中央	200	464
4256	深鉢	大8b	3 1016 東地区 Ⅱ 土層	11-断面	-	-	0.7	50.7	0.7	50.7	底面→底面・縁面・中央→中央	200	465

第10表 縄文土器調査表(46)

No.	器種	時期	遺跡・地点・層位	形状	高径	口径	底径	容積	重量	文様・調査	図版	号
42177	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	口縁部	185	400	-	0.6	8.65	ナシ	表印	202, 427
42178	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	口縁部	200	282	-	0.8	2.62	LP	裏面口縁部	202, 427
42179	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	口縁部	175	310	-	0.8	1.72	LP	裏面口縁部	202, 427
42180	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	口縁部	142	320	4.0	0.4	5.21	LP, 裏面口縁部	裏面口縁部, S.S., 1365, 本報告	203, 428
42181	甕鉢	不明	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	71.5	-	-	0.11	0.5	7.28	底, LP	203, 427
42182	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.4	2.05	LP, 裏面口縁部, 口縁部	底, LP	203, 427
42183	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.7	2.63	手輪跡, 裏面口縁部, 口縁部	底, LP	203, 428
42184	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.9	3.10	LP, 裏面口縁部, 口縁部	底, LP	203, 428
42185	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.8	2.58	LP, 裏面口縁部, 口縁部	底, LP	203, 428
42186	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.6	1.75	裏面口縁部, 口縁部	小底口縁部, S.S.	203, 428
42187	甕鉢	大9号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.75	1.68	底, LP	小底口縁部, S.S.	203, 428
42188	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	192	279	0.7	0.75	9.715	LP, 裏面口縁部, 口縁部	2 単位高口縁部, 底, S.S., コテ, 裏面	203, 428
42189	甕鉢	大9号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	318	307	10.1	0.7	1.660	LP, 裏面口縁部, 口縁部	裏面口縁部, 底, S.S., コテ, 裏面	204, 429
42190	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.7	1.35	底, LP	小底口縁部, S.S.	204, 428
42191	甕鉢	大6~7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.7	6.78	底, LP	S.S.	203, 428
42192	甕鉢	大6	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.85	2.94	底, LP	S.S., コテ	203, 428
42193	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	368	603	-	0.9	1.692	底, LP	底, LP	204, 429
42194	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.6	6.30	底, LP	底, LP	204, 429
42195	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.8	5.58	底, LP	底, LP	204, 429
42196	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.8	2.68	底, LP	底, LP	204, 429
42197	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.7	2.662	底, LP	表部, 裏面口縁部	204, 429
42198	甕鉢	大9号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.6	2.650	底, LP	底, LP	205, 429
42199	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	350	-	-	0.9	1.663	底, LP	小底口縁部	205, 429
42200	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.8	1.848	底, LP	底, LP	205, 429
42201	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.8	1.648	底, LP	底, LP	205, 429
42202	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	1.0	1.824	底, LP	底, LP	205, 429
42203	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.7	6.768	底, LP	底, LP	205, 429
42204	甕鉢	大9号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.7	4.01	底, LP	底, LP	206, 430
42205	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	1.1	2.71	底, LP	底, LP	206, 430
42206	甕鉢	大9号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.6	6.44	底, LP	底, LP	206, 430
42207	甕鉢	大9号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	1.0	1.69	底, LP	底, LP	206, 430
42208	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	330	-	-	0.7	2.536	底, LP	底, LP	206, 430
42209	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.5	3.263	底, LP	底, LP	206, 430
42210	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.6	5.02	底, LP	底, LP	206, 430
42211	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	315	-	-	0.6	1.603	底, LP	底, LP	206, 430
42212	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	315	-	-	0.6	1.603	底, LP	底, LP	206, 430
42213	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	315	-	-	0.6	1.603	底, LP	底, LP	206, 430
42214	甕鉢	大8号~9号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	243	-	-	0.9	2.260	底, LP	底, LP	206, 430
42215	甕鉢	大8号~9号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.8	3.070	底, LP	底, LP	206, 430
42216	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	311	-	-	0.6	6.47	底, LP	底, LP	206, 430
42217	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.85	1.603	底, LP	底, LP	207, 431
42218	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.6	17.43	ナシ	底, LP	207, 431
42219	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.6	8.03	底, LP	底, LP	207, 431
42220	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.7	4.278	底, LP	底, LP	207, 431
42221	甕鉢	大8号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	1.0	4.016	底, LP	底, LP	207, 431
42222	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.8	1.418	底, LP	底, LP	207, 431
42223	甕鉢	大7号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.5	2.445	底, LP	底, LP	207, 431
42224	甕鉢	大9号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.7	2.668	底, LP	底, LP	207, 431
42225	甕鉢	大10号	3 101c, 1 101b, 2 101a	胴部	-	-	-	0.3	5.868	底, LP	底, LP	207, 431



第10表 縄文土器類群表(48)

No.	器種	時期	産地・産地・産地	形状・用途	数量	出土地	調査者	調査年	調査地	調査方法	調査結果	備考	図版 No.
42576	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	0.19	80.6	深鉢→深鉢Ⅰ(器種)→深鉢Ⅱ(器種)	深鉢	深鉢→深鉢Ⅰ(器種)→深鉢Ⅱ(器種)	深鉢	深鉢	211
42577	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	304	1.14	0.5	深鉢→深鉢Ⅰ(器種)→深鉢Ⅱ(器種)	深鉢	深鉢→深鉢Ⅰ(器種)→深鉢Ⅱ(器種)	深鉢	深鉢	211
42578	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	-	深鉢	深鉢	深鉢	深鉢	211	
42579	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	0.6	3.14	深鉢	深鉢	深鉢	深鉢	211	
42580	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	0.6	351.3	深鉢	深鉢	深鉢	深鉢	211	
42581	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	0.8	117.9	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP	211
42582	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	0.7	254.6	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP	211
42583	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	0.8	197	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP	212
42584	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	0.8	104.6	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP	212
42585	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	310	0.2	0.4	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP	212
42586	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	0.7	0.3	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP	212
42587	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	0.8	202.9	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP	212
42588	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	0.8	680	ⅡP	ⅡP	ⅡP	ⅡP	212	
42589	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	1.2	584	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP	212
42590	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	0.8	176.8	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP	212
42591	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	0.7	262.9	ⅡP	ⅡP	ⅡP	ⅡP	212	
42592	新付深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	2.8	-	0.9	49.7	新付深鉢	新付深鉢	新付深鉢	新付深鉢	212
42593	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	0.8	794.5	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP	212
42594	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	0.8	171	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP	213
42595	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	8.0	4.9	0.5	276.3	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	213
42596	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	8.8	9.7	0.9	903.8	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	213
42597	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	197	-	0.2	0.9	903.8	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	213
42598	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	-	-	-	-	-	-	213
42599	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	9.4	4.4	0.6	142.2	ⅡP	ⅡP	ⅡP	213
42600	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	0.5	223	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	213
42601	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	37.0	-	0.9	146.9	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	213
42602	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	0.9	544.2	ⅡP	ⅡP	ⅡP	ⅡP	213
42603	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	0.8	225	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	214
42604	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	0.7	287	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	214
42605	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	0.8	289	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	214
42606	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	1.7	-	0.6	58.9	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	214
42607	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	3.9	-	13.8	1.0	589.9	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	214
42608	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	162	20.8	-	0.7	1166.2	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	214
42609	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	1.2	194.4	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	214
42610	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	0.9	127.8	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	214
42611	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	0.9	272.9	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	214
42612	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	30.0	3.2	0.7	75.3	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	214
42613	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	0.7	263	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	214
42614	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	6.4	96.6	91.6	ⅡP	ⅡP	ⅡP	ⅡP	214
42615	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	4.5	-	0.8	202.7	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	214
42616	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	0.7	134.4	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	214
42617	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	32.1	-	1.1	130.0	ⅡP	ⅡP	ⅡP	ⅡP	215
42618	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	21.5	-	1.6	1.0	130.0	ⅡP	ⅡP	ⅡP	215
42619	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	0.8	18.4	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	215
42620	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	29.3	17.6	-	0.7	442.5	ⅡP	ⅡP	ⅡP	215
42621	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	0.9	620	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	215
42622	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	0.7	175	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	215
42623	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	1.2	62	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	215
42624	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	3.1	-	0.7	138.4	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	ⅡP→ⅡPⅡ(器種)	ⅡP	215
42625	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	10.9	10.4	4.2	122.4	ⅡP	ⅡP	ⅡP	ⅡP	215
42626	深鉢	Ⅱ 105号	Ⅱ 105号	Ⅱ-105号	-	-	-	-	-	-	-	-	215





第10表 縄文土器調査表(50)

No.	器種	時期	遺構・地点・層位	検出部位	数量 (口数・破片)	重量 (g)	文様・調査 (内面・外面)	所属	図版 No.	写真 No.
452581	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.5	LS → 暗赤褐色	渡辺1層, A.S.	218	410
452582	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.5	LS → 暗赤褐色	渡辺1層, A.S.	218	410
452583	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.5	LS → 暗赤褐色	渡辺1層, A.S.	218	410
452584	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	28(5)	13.2	LS → 暗赤褐色	A.S.	218	410
452585	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.8	LS → 暗赤褐色	小原段1層, A.S.	218	410
452586	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	18(5)	10.1	LS → 暗赤褐色	2号段段取口層, 渡辺副1層 → 3号	218	410
452587	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	17	7.4	LS → 暗赤褐色	渡辺1層	219	410
452588	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	8(2)	4.2	LS → 暗赤褐色	2号段段取口層, 丹波層	219	410
452589	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	14(9)	10.4	LS → 暗赤褐色	2号段段取口層, 丹波層	219	410
452590	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	16(5)	13.0	LS → 暗赤褐色	6号段段取口層, 外原層	219	410
452591	深鉢	中0	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	28(4)	10.2	LS → 暗赤褐色	地層間遺構 → 4号	219	410
452592	深鉢	中0	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.8	LS → 暗赤褐色	地層間遺構 → 4号	219	410
452593	深鉢	中0	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.8	LS → 暗赤褐色	地層間遺構 → 4号	219	410
452594	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構 No.1	口・胴底	17(2)	10.0	LS → 暗赤褐色	地層間遺構 → 4号	219	411
452595	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	19(3)	13.4	LS → 暗赤褐色	1号段段取口層, A.S.	220	411
452596	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.7	LS → 暗赤褐色	2号段段取口層, A.S.	220	411
452597	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.7	LS → 暗赤褐色	渡辺1層	220	411
452598	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	7	3.0	LS → 暗赤褐色	渡辺1層	220	411
452599	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	13(2)	25.0	LS → 暗赤褐色	渡辺1層	220	411
452600	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	6(2)	8.4	LS → 暗赤褐色	渡辺1層	220	411
452601	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.6	LS → 暗赤褐色	地層間遺構	220	412
452602	深鉢	中0	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.7	LS → 暗赤褐色	A.S.	220	412
452603	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	14(5)	32.0	LS → 暗赤褐色	渡辺1層, 3号	221	412
452604	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	27(0)	25.0	LS → 暗赤褐色	渡辺1層, 10号	221	412
452605	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.6	LS → 暗赤褐色	外原層	221	411
452606	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	14(7)	15.0	LS → 暗赤褐色	A.S.	221	411
452607	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.75	LS → 暗赤褐色	A.S.	221	412
452608	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	1.0	LS → 暗赤褐色	A.S.	221	411
452609	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	13(1)	28(5)	LS → 暗赤褐色	6号段段取口層, A.S. 3号	221	412
452610	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	28(3)	25.3	LS → 暗赤褐色	A.S.	221	412
452611	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.8	LS → 暗赤褐色	A.S.	221	413
452612	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	1.2	LS → 暗赤褐色	A.S.	221	413
452613	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.5	LS → 暗赤褐色	A.S.	221	413
452614	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	13(4)	16.4	LS → 暗赤褐色	A.S.	222	413
452615	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.9	LS → 暗赤褐色	A.S.	222	413
452616	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	28(0)	20.0	LS → 暗赤褐色	3号	222	413
452617	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	23(5)	29.0	LS → 暗赤褐色	外原層, A.S.	222	414
452618	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.8	LS → 暗赤褐色	外原層, A.S.	222	413
452619	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.8	LS → 暗赤褐色	外原層, A.S.	222	413
452620	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.7	LS → 暗赤褐色	外原層, A.S.	222	414
452621	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	19(6)	0.9	LS → 暗赤褐色	地層間遺構 → 4号	222	413
452622	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.85	LS → 暗赤褐色	地層間遺構 → 4号	222	413
452623	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	-	0.8	LS → 暗赤褐色	地層間遺構 → 4号	222	413
452624	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	31(9)	10.0	LS → 暗赤褐色	1号段段取口層, A.S.	222	414
452625	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	17(1)	0.7	LS → 暗赤褐色	1号段段取口層, A.S.	222	414
452626	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	14(1)	21.1	LS → 暗赤褐色	渡辺1層	220	414
452627	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	23(5)	23.6	LS → 暗赤褐色	2号段段取口層, A.S. 3号	220	414
452628	深鉢	大9-9	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	8(2)	8.2	LS → 暗赤褐色	2号段段取口層, A.S. 3号	220	413
452629	深鉢	中0	15 121B 南東区 遺構	口・胴底	22(9)	26.0	LS → 暗赤褐色	縄文の層間に A.S. 残存	220	415





第10表 縄文土器調査表(53)

図番 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	埋存状況	数量 (口数・破片)	重量 (g)	直径 (mm)	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	厚 (mm)	取付 部分	文様・調査 (内外・内面)	図番 No.	号順
45501	深鉢	前期	Ⅱ 12区 北西区 Ⅱ層	口縁部	-	0.65	217	-	-	-	-	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	252	452
45502	深鉢	大9中	Ⅱ 12区 北西区 Ⅱ層	口縁部	-	0.35	275	-	-	-	-	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	252	452
45503	深鉢	大9中	Ⅱ 12区 北西区 Ⅱ層	口縁部	-	0.35	275	-	-	-	-	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	252	452
45504	深鉢	大9中	Ⅱ 12区 北西区 Ⅱ層	口縁部	-	0.8	91.6	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	252	452
45505	深鉢	大9中	Ⅱ 12区 北西区 Ⅱ層	胴部	-	1.0	99.6	1.8	1.8	1.8	1.8	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	252	452
45506	深鉢	大9中	Ⅱ 12区 北西区 Ⅱ層	口縁部	-	0.9	90.1	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	252	452
45507	深鉢	大9中	Ⅱ 12区 北西区 Ⅱ層	口縁部	-	0.8	90.0	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	252	452
45508	深鉢	大9中	Ⅱ 12区 北西区 Ⅱ層	口縁部	-	0.6	358.8	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	252	452
45509	深鉢	大9中	Ⅱ 12区 北西区 Ⅱ層	口縁部	-	0.8	207.0	74.0	74.0	74.0	74.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	252	452
45510	深鉢	大9中	Ⅱ 12区 北西区 Ⅱ層	口縁部	-	0.85	150.7	1.8	1.8	1.8	1.8	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	252	452
45511	深鉢	大7中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.7	333.5	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45512	深鉢	大7中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.8	287.2	74.0	74.0	74.0	74.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45513	深鉢	大7中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.9	284.3	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45514	深鉢	大7中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.9	302.2	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45515	深鉢	大7中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.9	192.2	1.8	1.8	1.8	1.8	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45516	深鉢	大9中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.7	194.2	1.8	1.8	1.8	1.8	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45517	深鉢	大9中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	1.0	134.1	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45518	深鉢	不明	中ノ瀬川付 Ⅱ層	胴部	-	0.75	25.3	1.8	1.8	1.8	1.8	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45519	深鉢	大7中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.65	71.6	1.8	1.8	1.8	1.8	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45520	深鉢	大7中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.65	71.6	1.8	1.8	1.8	1.8	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45521	深鉢	大9中	下ノ瀬川付 Ⅱ層	胴部	157	0.68	65.5	19.4	19.4	19.4	19.4	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45522	深鉢	大9中	下ノ瀬川付 Ⅱ層	胴部	157	0.57	185.1	1.8	1.8	1.8	1.8	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45523	深鉢	大4	下ノ瀬川付 Ⅱ層	口縁部	-	0.9	31.8	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45524	深鉢	大9中	西ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.9	56.6	1.8	1.8	1.8	1.8	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45525	深鉢	大9中	西ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.6	67.6	1.8	1.8	1.8	1.8	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45526	深鉢	大9中	西ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.6	67.6	1.8	1.8	1.8	1.8	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	253	453
45527	浅鉢	不明	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.6	291.2	74.0	74.0	74.0	74.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45528	深鉢	不明	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.6	291.2	74.0	74.0	74.0	74.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45529	深鉢	大7中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	91	22.9	9.5	0.9	0.9	0.9	0.9	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45530	深鉢	大7中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	147	16.6	0.7	441.9	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45531	深鉢	大7中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	130	21.6	0.8	388.1	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45532	浅鉢	不明	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	314	21.8	1.10	444.8	74.0	74.0	74.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45533	深鉢	大7中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	胴部	-	1.0	133.0	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45534	深鉢	大6	中ノ瀬川付 Ⅰ層	口縁部	-	0.85	192.3	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45535	深鉢	大5	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	胴部	-	0.6	36.2	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45536	深鉢	大7中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.6	57.2	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45537	深鉢	大9中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	1.1	279.9	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45538	深鉢	大7中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.8	319.9	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45539	深鉢	大7中	中ノ瀬川付 Ⅰ-Ⅱ層上層	口縁部	-	0.85	297.7	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45540	深鉢	大5	Ⅰ層	胴部	-	0.9	63.6	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45541	深鉢	大4	Ⅰ層	胴部	-	0.65	108	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45542	深鉢	大3	Ⅰ層	胴部	-	0.3	74.4	74.0	74.0	74.0	74.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45543	深鉢	大3	Ⅰ層	胴部	-	0.8	101.1	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45544	深鉢	大3	Ⅰ層	胴部	-	0.8	327.2	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45545	深鉢	大3	Ⅰ層	胴部	-	0.8	327.2	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	254	454
45546	深鉢	大7中	Ⅱ層 Ⅱ層上層	口縁部	-	1.0	79.5	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	255	454
45547	深鉢	大9中	Ⅱ層 Ⅱ層上層	口縁部	-	0.6	225.6	1.8	1.8	1.8	1.8	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	255	454
45548	深鉢	大4	Ⅱ層	口縁部	-	0.8	54.3	1.8	1.8	1.8	1.8	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	255	454
45549	深鉢	大9中	Ⅱ層 Ⅱ層上層	口縁部	-	0.85	194.5	81.0	81.0	81.0	81.0	片縁部系片文様 /	Ⅱ区	255	454

第10表 縄文土器観察表 (54)

器種 No.	器種	時期	遺構・地点・層位	発掘年度	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	重量 (g)	文様・調査 (内径・内面)	備考	図版 No.
42580	深鉢	大形類	T4 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42581	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42582	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42583	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42584	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42585	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42586	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42587	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42588	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42589	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42590	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42591	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42592	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42593	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42594	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42595	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42596	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42597	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42598	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42599	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42600	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42601	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42602	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42603	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42604	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42605	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42606	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42607	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42608	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42609	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42610	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42611	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42612	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403
42613	深鉢	大形類	T5 3層	11-10	280	17.0	—	0.85	底→灰泥 <sup>1)</sup>	ススコヤ	205 403









第 13 表 石鏡・尖頭器類表 (1)

図録 No.	器物 No.	所在地	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)			重量 g	石質	備考	図録 No.
				長	幅	厚				
c21	①	交野 A 14 号墓穴遺物	北西区 南側上段	17	13	0.1	0.8	河野	北土山墳, 古生代	253
c22	①	交野 A139 号墓穴遺物	南西区 南側上段	14	14	0.1	1.5	河野	北土山墳, 古生代	253
c23	①	交野 A139 号墓穴遺物	南西区 南側上段	25	16	0.1	1.6	河野	北土山墳, 古生代	253
c24	①	交野 A139 号墓穴遺物	南西区 南側上段	31	15	0.5	1.9	河野	北土山墳, 古生代	253
c25	①	交野 A139 号墓穴遺物	南西区 南側上段	32	20	0.7	3.4	河野	北土山墳, 古生代	253
c26	①	交野 B 号墓穴遺物	南西区 南側上段	26	18	0.8	2.7	河野	北土山墳, 中生代	253
c27	①	交野 B 号墓穴遺物	北西区 南側上段	21	25	0.6	2.3	河野	北土山墳, 古生代	253
c28	①	交野 B14 号墓穴遺物	南西区 南側上段	26	18	0.7	2.5	河野	北土山墳, 古生代	253
c29	①	交野 A139 号墓穴遺物	南西区 南側上段	29	21	0.5	2.7	河野	北土山墳, 古生代	253
c30	①	交野 A111 号墓穴遺物	南西区 南側上段	18	20	0.5	1.3	河野	北土山墳, 古生代	253
c31	①	交野 A112 号墓穴遺物	南西区 南側上段	15	17	0.3	1.3	河野	北土山墳, 古生代	253
c32	①	交野 A116 号墓穴遺物	南西区 南側上段	12	11	0.3	0.8	河野	北土山墳, 古生代	253
c33	①	交野 A126 号墓穴遺物	南西区 南側上段	20	21	0.6	1.8	河野	北土山墳, 古生代	253
c34	①	交野 A122 号墓穴遺物	南西区 南側上段	13	14	0.4	0.6	河野	北土山墳, 古生代	253
c35	①	交野 A124 号墓穴遺物	南西区 南側上段	16	15	0.3	0.6	河野	北土山墳, 古生代	253
c36	①	交野 A124 号墓穴遺物	北西区 南側上段	13	14	0.3	0.4	河野	北土山墳, 古生代	253
c37	①	交野 A126 号墓穴遺物	南西区 下段	17	23	0.5	1.4	河野	北土山墳, 古生代	253
c38	①	交野 A126 号墓穴遺物	南西区 下段	19	14	0.5	1.1	河野	北土山墳, 古生代	253
c39	①	交野 A127 号墓穴遺物	南西区 下段	23	17	0.5	1.8	河野	北土山墳, 古生代	253
c40	①	交野 A127 号墓穴遺物	南西区 下段	13	11	0.3	0.4	河野	北土山墳, 古生代	253
c41	①	交野 A127 号墓穴遺物	南西区 下段	13	11	0.3	0.5	河野	北土山墳, 古生代	253
c42	①	交野 A127 号墓穴遺物	南西区 下段	18	17	0.4	0.9	河野	北土山墳, 古生代	253
c43	①	交野 A139 号墓穴遺物	南西区 下段	18	17	0.4	0.9	河野	北土山墳, 古生代	253
c44	①	交野 A140 号墓穴遺物	南西区 下段 1-3 層	16	16	0.4	0.7	河野	北土山墳, 古生代	253
c45	①	交野 A141 号墓穴遺物	南西区 下段	29	21	0.5	2.5	河野	北土山墳, 古生代	253
c46	①	交野 A144 号墓穴遺物	南西区 下段	16	17	0.7	1.9	石鏡	北土山墳, 古生代(石鏡)	253
c47	①	交野 A145 号墓穴遺物	南西区 下段	17	14	0.5	1.0	河野	北土山墳, 古生代	253
c48	①	交野 A133 号墓穴遺物	南西区 下段	3.3	1.9	0.9	0.6	河野	北土山墳, 古生代	254
c49	①	交野 A146 号墓穴遺物	南西区 下段	3.5	1.1	0.3	0.4	河野	北土山墳, 古生代	254
c50	①	交野 A146 号墓穴遺物	南西区 下段	22	13	0.6	1.7	河野	北土山墳, 古生代	254
c51	①	交野 A146 号墓穴遺物	南西区 下段	31	15	0.5	1.9	河野	北土山墳, 古生代	254
c52	①	交野 A146 号墓穴遺物	南西区 下段	31	15	0.5	2.7	河野	北土山墳, 古生代	254
c53	①	交野 A162 号墓穴遺物	南西区 下段	4.3	21	0.6	3.7	河野	北土山墳, 古生代	254
c54	①	交野 A162 号墓穴遺物	南西区 下段	3.1	18	0.5	1.8	河野	北土山墳, 古生代	254
c55	①	交野 A164 号墓穴遺物	南西区 下段	2.6	19	0.6	2.4	河野	北土山墳, 古生代	254
c56	①	交野 A175 号墓穴遺物	南西区 下段	13	14	0.3	0.5	河野	北土山墳, 古生代	254
c57	①	交野 A179 号墓穴遺物	南西区 下段	3.3	19	0.4	2.9	河野	北土山墳, 古生代	254
c58	①	交野 A179 号墓穴遺物	南西区 下段	2.5	19	0.5	1.8	河野	北土山墳, 古生代	254
c59	①	交野 A179 号墓穴遺物	南西区 下段	17	20	0.5	1.4	河野	北土山墳, 古生代	254
c60	①	交野 A179 号墓穴遺物	南西区 下段	19	19	0.3	1.1	河野	北土山墳, 古生代	254
c61	①	交野 A179 号墓穴遺物	南西区 下段	13	13	0.3	0.4	河野	北土山墳, 古生代	254
c62	①	交野 A188 号墓穴遺物	南西区 下段	3.3	19	1.1	5.6	河野	北土山墳, 古生代	254
c63	①	交野 A188 号墓穴遺物	南西区 下段	19	18	0.4	1.2	河野	北土山墳, 古生代	254
c64	①	交野 A188 号墓穴遺物	南西区 下段	19	14	0.5	0.8	河野	北土山墳, 古生代	254
c65	①	交野 A188 号墓穴遺物	南西区 下段	16	16	0.5	0.9	河野	北土山墳, 古生代	254
c66	①	交野 A188 号墓穴遺物	南西区 下段	22	16	0.5	1.3	河野	北土山墳, 古生代	254
c67	①	交野 A188 号墓穴遺物	南西区 下段	18	19	0.4	1.0	河野	北土山墳, 古生代	254
c68	①	交野 A207 号墓穴遺物	南西区 下段	29	18	0.5	1.6	河野	北土山墳, 古生代	254
c69	①	交野 A233 号墓穴遺物	南西区 下段	28	13	0.1	1.2	河野	北土山墳, 古生代	254

第13表 石鐵・尖頭器類表(2)

民器 No.	器種 No.	所在地	出土遺構・地点・層位	長さ (cm)	厚 (mm)	重量 (g)	石質	産地	備考	民器 No.
c50	①	交野	155号土坑 厚土層	1.9	0.1	0.9	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代		254
c51	①	交野	155号土坑 厚土層	2.1	0.1	1.0	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代		254
c52	①	交野	155号土坑 厚土層	2.1	0.2	1.0	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代		254
c53	①	交野	155号土坑 厚土層	2.6	0.2	1.2	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代		254
c54	①	交野	155号土坑 厚土層	2.0	0.6	1.6	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代		254
c55	①	交野	155号土坑 厚土層	3.0	1.4	0.7	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代		254
c56	①	交野	155号土坑 厚土層	2.5	1.5	0.4	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代		255
c57	①	交野	155号土坑 厚土層	2.7	1.6	0.4	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代		255
c58	①	交野	155号土坑 厚土層	1.5	1.4	0.3	0.7	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c59	①	交野	155号土坑 厚土層	1.4	1.8	0.5	1.0	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c60	①	交野	155号土坑 厚土層	2.7	1.8	0.1	1.3	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c61	①	交野	155号土坑 厚土層	1.5	1.6	0.2	0.7	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c62	①	交野	155号土坑 厚土層	1.5	1.6	0.2	0.6	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c63	①	交野	155号土坑 厚土層	2.5	1.7	0.6	2.0	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c64	①	交野	155号土坑 厚土層	1.3	1.8	0.4	0.9	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c65	①	交野	155号土坑 厚土層	2.3	1.7	0.6	2.3	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c66	①	交野	155号土坑 厚土層	2.4	1.3	0.5	1.4	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c67	①	交野	155号土坑 厚土層	1.6	1.6	0.4	1.1	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c68	①	交野	155号土坑 厚土層	2.1	1.6	0.4	1.1	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c69	①	交野	155号土坑 厚土層	3.0	1.9	0.9	4.5	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c70	①	交野	155号土坑 厚土層	1.5	1.5	0.2	0.7	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c71	①	交野	155号土坑 厚土層	1.5	2.0	0.1	1.7	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c72	①	交野	155号土坑 厚土層	1.4	1.5	0.4	0.7	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c73	①	交野	155号土坑 厚土層	2.5	1.4	0.5	1.2	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c74	①	交野	155号土坑 厚土層	3.3	2.2	0.5	2.6	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c75	①	交野	155号土坑 厚土層	1.0	0.9	0.3	0.2	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c76	①	交野	155号土坑 厚土層	1.2	1.4	0.2	0.4	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c77	①	交野	155号土坑 厚土層	1.6	1.4	0.4	1.0	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c78	①	交野	155号土坑 厚土層	2.1	1.6	0.5	1.2	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c79	①	交野	155号土坑 厚土層	3.5	2.5	0.6	2.8	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c80	①	交野	155号土坑 厚土層	1.6	1.7	0.3	1.6	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c81	①	交野	155号土坑 厚土層	2.6	1.2	0.5	1.9	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c82	①	交野	155号土坑 厚土層	1.6	1.5	0.5	0.7	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c83	①	交野	155号土坑 厚土層	1.2	1.0	0.3	0.2	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c84	①	交野	155号土坑 厚土層	3.4	1.9	0.5	2.3	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	255 603
c85	①	交野	155号土坑 厚土層	2.4	1.7	0.4	1.8	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	256 603
c86	①	交野	155号土坑 厚土層	1.3	1.7	0.3	0.4	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	256 603
c87	①	交野	155号土坑 厚土層	1.4	1.5	0.3	0.4	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	256 603
c88	①	交野	155号土坑 厚土層	3.3	1.8	0.8	4.4	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	256 603
c89	①	交野	155号土坑 厚土層	1.0	1.1	0.3	0.3	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	256 603
c90	①	交野	155号土坑 厚土層	1.0	1.1	0.3	0.3	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	256 603
c91	①	交野	155号土坑 厚土層	1.2	1.4	0.6	0.5	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	256 603
c92	①	交野	155号土坑 厚土層	1.7	1.6	0.4	0.9	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	256 603
c93	①	交野	155号土坑 厚土層	1.5	1.2	0.3	0.4	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	256 603
c94	①	交野	155号土坑 厚土層	1.5	0.9	0.3	0.3	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	256 603
c95	①	交野	155号土坑 厚土層	2.4	1.6	1.5	1.4	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	256 603
c96	①	交野	155号土坑 厚土層	2.1	1.5	0.5	1.4	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	256 604
c97	①	交野	155号土坑 厚土層	2.5	1.6	0.7	2.5	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	256 604
c98	①	交野	155号土坑 厚土層	2.0	2.1	0.1	1.3	北土山層, 中年代	北土山層, 中年代	256 604

第13表 石鏡・尖頭器類表(3)

図録 No.	器種 分類	所在地	保存 機関	出土遺跡・地点・層位	長さ (cm)	厚 (mm)	重量 (g)	石種	年代	備考	図録 No.
c199	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	3.0	1.5	0.6	2.0	河野	北山遺跡, 中生代	256
c200	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.4	1.2	0.5	2.1	河野	北山遺跡, 中生代	256
c201	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.4	1.2	0.5	2.1	河野	北山遺跡, 中生代	256
c202	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.6	1.4	0.6	1.9	河野	北山遺跡, 中生代	256
c203	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.4	1.6	0.5	1.7	河野	北山遺跡, 中生代	256
c204	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.3	1.7	0.6	1.9	河野	北山遺跡, 中生代	256
c205	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.9	1.6	0.3	0.7	河野	北山遺跡, 中生代	256
c206	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.6	1.8	0.5	2.0	河野	北山遺跡, 中生代	256
c207	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.7	1.9	0.5	1.5	河野	北山遺跡, 中生代	256
c208	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.8	1.4	0.4	0.8	河野	北山遺跡, 中生代	256
c209	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	4.3	2.1	0.9	8.1	河野	北山遺跡, 中生代	256
c210	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.5	1.4	0.5	0.2	河野	北山遺跡, 中生代	256
c211	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.6	1.9	0.4	1.2	河野	北山遺跡, 中生代	256
c212	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.6	1.9	0.4	1.2	河野	北山遺跡, 中生代	256
c213	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.0	1.4	0.4	0.8	河野	北山遺跡, 中生代	256
c214	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.9	1.3	0.4	1.0	河野	不明	257
c215	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	3.3	1.8	0.5	2.1	河野	北山遺跡, 中生代	257
c216	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.9	1.6	0.3	0.8	河野	北山遺跡, 中生代	257
c217	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.5	1.1	0.2	0.6	河野	北山遺跡, 中生代	257
c218	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.8	1.4	0.4	0.7	河野	北山遺跡, 中生代	257
c219	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.2	1.5	0.5	1.0	河野	北山遺跡, 中生代	257
c220	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.2	1.5	0.5	1.0	河野	北山遺跡, 中生代	257
c221	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.5	1.6	0.4	0.6	河野	北山遺跡, 中生代	257
c222	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.5	1.3	0.3	0.4	河野	北山遺跡, 中生代	257
c223	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.0	1.6	0.5	1.3	河野	北山遺跡, 中生代	257
c224	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.0	1.7	0.4	1.2	河野	北山遺跡, 中生代	257
c225	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.8	1.1	0.4	0.4	河野	北山遺跡, 中生代	257
c226	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.0	1.4	0.2	0.3	河野	北山遺跡, 中生代	257
c227	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.9	1.8	0.5	2.1	河野	北山遺跡, 中生代	257
c228	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.7	1.4	0.6	1.9	河野	北山遺跡, 中生代	257
c229	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.2	1.2	0.2	0.3	河野	北山遺跡, 中生代	257
c230	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.2	1.2	0.2	0.3	河野	北山遺跡, 中生代	257
c231	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.5	2.0	0.5	2.1	河野	北山遺跡, 中生代	257
c232	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	0.6	0.8	0.1	0.1	河野	北山遺跡, 中生代	257
c233	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.5	1.6	0.3	0.8	河野	北山遺跡, 中生代	257
c234	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.4	1.4	0.3	0.5	河野	北山遺跡, 中生代	257
c235	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.2	1.1	0.3	0.3	河野	北山遺跡, 中生代	257
c236	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.0	1.5	0.4	1.0	河野	北山遺跡, 中生代	257
c237	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.3	1.2	0.3	0.4	河野	北山遺跡, 中生代	257
c238	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.1	1.0	0.3	0.3	河野	北山遺跡, 中生代	257
c239	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.1	1.0	0.3	0.3	河野	北山遺跡, 中生代	257
c240	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.6	1.4	0.3	0.5	河野	北山遺跡, 中生代	257
c241	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.6	1.4	0.3	0.5	河野	北山遺跡, 中生代	257
c242	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	3.1	1.6	0.6	2.0	河野	北山遺跡, 中生代	257
c243	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.4	1.4	0.4	0.6	河野	北山遺跡, 中生代	257
c244	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.5	1.4	0.5	1.5	河野	北山遺跡, 中生代	257
c245	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.1	0.6	2.3	河野	北山遺跡, 中生代	257	
c246	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	1.4	1.2	0.3	0.5	河野	北山遺跡, 中生代	258
c247	①	交野	石鏡	北山遺跡・北山・層位	2.4	1.6	0.4	1.1	河野	北山遺跡, 中生代	258

第13表 石鏡・尖頭器類表(4)

照例 No.	器種 No.	所在地	出土地名・地点・部位	長	厚	重量 (g)	石質	備考	照例 No.
c130	①	茨城県 中野郡川俣町 東郷 Ⅱa層		1.8	0.4	1.2	頁岩		258
c131	①	茨城県 中野郡川俣町 東郷 Ⅱa層		1.9	0.3	1.3	頁岩	北上山端, 古生代	258
c132	①	茨城県 中野郡川俣町 東郷 Ⅱa層		0.7	0.1	0.2	頁岩	北上山端, 古生代	405
c133	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		3.5	0.4	1.3	頁岩	北上山端, 中生代	258
c134	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		3.7	0.6	0.5	頁岩	北上山端, 中生代	405
c135	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.5	0.7	0.7	頁岩	北上山端, 中生代	258
c136	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		1.6	0.4	0.5	頁岩	北上山端, 中生代	405
c137	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		4.4	2.4	1.1	頁岩	北上山端, 中生代	258
c138	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.5	1.2	0.5	頁岩	北上山端, 中生代	405
c139	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.2	0.9	0.3	頁岩	北上山端, 中生代	258
c140	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.5	1.0	1.2	頁岩	北上山端, 中生代	405
c141	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.2	0.5	0.7	頁岩	北上山端, 中生代	258
c142	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.2	0.5	0.3	頁岩	北上山端, 中生代	405
c143	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		3.9	2.1	0.6	頁岩	北上山端, 中生代	258
c144	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.9	2.4	0.9	頁岩	北上山端, 中生代	405
c145	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.8	1.7	0.4	頁岩	北上山端, 中生代	258
c146	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		3.1	2.1	0.8	頁岩	北上山端, 中生代	405
c147	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.5	1.8	0.5	頁岩	北上山端, 中生代	258
c148	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.9	1.4	0.3	頁岩	北上山端, 中生代	405
c149	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.8	2.5	0.7	頁岩	北上山端, 中生代	258
c150	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.0	1.5	0.5	頁岩	北上山端, 中生代	405
c151	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.0	1.5	0.6	頁岩	北上山端, 中生代	258
c152	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.4	1.8	0.4	頁岩	北上山端, 中生代	405
c153	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		1.5	1.2	0.3	頁岩	北上山端, 中生代	258
c154	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		1.8	1.5	0.3	頁岩	北上山端, 中生代	405
c155	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		3.1	1.5	0.3	頁岩	北上山端, 中生代	258
c156	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		3.7	2.1	0.5	頁岩	北上山端, 中生代	405
c157	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		3.1	2.2	0.8	頁岩	北上山端, 中生代	259
c158	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.3	2.0	0.8	頁岩	北上山端, 中生代	405
c159	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.8	1.3	0.6	頁岩	北上山端, 中生代	259
c160	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		3.1	2.2	1.1	頁岩	北上山端, 中生代	405
c161	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		3.3	1.9	1.1	頁岩	北上山端, 中生代	259
c162	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		3.2	1.5	0.4	頁岩	北上山端, 中生代	405
c163	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		1.3	1.1	0.2	頁岩	北上山端, 中生代	259
c164	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		3.1	1.7	0.6	頁岩	北上山端, 中生代	405
c165	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.3	1.9	0.9	頁岩	北上山端, 中生代	259
c166	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.9	2.0	0.9	頁岩	北上山端, 中生代	405
c167	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.4	1.8	0.3	頁岩	北上山端, 中生代	259
c168	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		1.5	2.5	1.0	頁岩	北上山端, 中生代	405
c169	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		1.6	1.3	0.4	頁岩	北上山端, 中生代	259
c170	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		1.6	1.3	0.4	頁岩	北上山端, 中生代	405
c171	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		3.5	2.5	0.7	頁岩	北上山端, 中生代	259
c172	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		2.7	1.7	0.4	頁岩	北上山端, 中生代	405
c173	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		3.7	1.3	0.4	頁岩	北上山端, 中生代	259
c174	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		4.4	3.1	0.6	頁岩	北上山端, 中生代	405
c175	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		4.9	1.6	0.7	頁岩	北上山端, 中生代	260
c176	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		4.7	0.8	0.5	頁岩	北上山端, 中生代	406
c177	②	茨城県 八潮市久慈町 南郷上		4.2	1.3	1.1	頁岩	北上山端, 中生代	260



第14表 石趾観覧表

観覧 No.	所在地	地上遺構・地点・部位		計測箇所 (cm)		層別 記号	石積	築造	備考	図面 No.	写真 No.
		正	幅	高	厚						
c201	交野 A06 野宮穴建物 南棟土中・下段	14.5	1.7	1.3	6.1		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c202	交野 A09 野宮穴建物 南棟土中	4.8	1.6	0.1	1.9		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c203	交野 A10 野宮穴建物 南棟土中	4.6	1.5	0.1	1.9		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c204	交野 A11 野宮穴建物 南棟土中	4.6	0.8	0.6	2.0		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c205	交野 A12 野宮穴建物 南棟土中	4.6	0.8	0.6	2.0		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c206	交野 A13 野宮穴建物 南棟土中	4.6	0.8	0.6	2.0		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c207	交野 A145 野宮穴建物 南棟土中	4.6	0.8	0.6	2.0		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c208	交野 A155 野宮穴建物 南棟土中	4.6	0.8	0.6	2.0		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c209	交野 A175 野宮穴建物 上段南瓦代	4.1	1.2	0.1	2.0		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c210	交野 A186 野宮穴建物 南棟土中	4.3	1.4	1.0	3.0		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c211	交野 A296 野宮穴建物 南棟土中	3.8	2.9	0.8	4.3		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c212	交野 B14 野宮穴建物 南棟土中	4.2	2.3	1.9	7.1		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c213	交野 B14a 野宮穴建物 南棟土中	14.1	2.6	1.1	9.7		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c214	交野 B14b 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c215	交野 B14c 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c216	交野 B14d 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c217	交野 B14e 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c218	交野 B14f 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c219	交野 B14g 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c220	交野 B14h 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c221	交野 B14i 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c222	交野 B14j 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c223	交野 B14k 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c224	交野 B14l 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c225	交野 B14m 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c226	交野 B14n 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c227	交野 B14o 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c228	交野 B14p 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c229	交野 B14q 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c230	交野 B14r 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c231	交野 B14s 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c232	交野 B14t 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c233	交野 B14u 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c234	交野 B14v 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c235	交野 B14w 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c236	交野 B14x 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c237	交野 B14y 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c238	交野 B14z 野宮穴建物 南棟土中	2.7	2.0	0.7	2.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c239	交野 B15 野宮穴建物 南棟土中	3.2	1.9	0.5	3.8		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c240	交野 B16 野宮穴建物 南棟土中	3.8	1.3	0.6	3.5		同層	北上山端, 古瓦代		262	606
c241	交野 B17 野宮穴建物 南棟土中	4.0	1.6	1.0	5.3		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c242	交野 B18 野宮穴建物 南棟土中	14.3	1.3	0.8	2.2		同層	北上山端, 古瓦代		262	607
c243	交野 B19 野宮穴建物 南棟土中	14.8	1.0	0.5	2.0		同層	北上山端, 古瓦代		262	608

第15表 石趾観覧表 (1)

観覧 No.	所在地	地上遺構・地点・部位		計測箇所 (cm)		層別 記号	石積	築造	備考	図面 No.	写真 No.
		正	幅	高	厚						
c251	交野 A129 野宮穴建物 南棟土中	4.9	1.3	0.8	3.9		同層	北上山端, 古瓦代		262	606
c252	交野 A131 野宮穴建物 南棟土中	5.3	2.3	0.9	3.1		同層	北上山端, 古瓦代		262	606
c253	交野 A132 野宮穴建物 南棟土中	7.3	2.4	0.8	14.7		同層	北上山端, 古瓦代		262	606
c254	交野 A133 野宮穴建物 南棟土中	8.2	2.9	1.0	15.2		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c255	交野 A134 野宮穴建物 南棟土中	9.2	4.8	1.3	47.3		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c256	交野 A135 野宮穴建物 南棟土中	6.3	1.9	0.7	9.0		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c257	交野 A136 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c258	交野 A137 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c259	交野 A138 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c260	交野 A139 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c261	交野 A140 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c262	交野 A141 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c263	交野 A142 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c264	交野 A143 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c265	交野 A144 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c266	交野 A145 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c267	交野 A146 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c268	交野 A147 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c269	交野 A148 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c270	交野 A149 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c271	交野 A150 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c272	交野 A151 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c273	交野 A152 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606
c274	交野 A153 野宮穴建物 南棟土中	5.4	2.2	0.8	9.6		同層	北上山端, 古瓦代		264	606

第15表 石趾標榜表(2)

標榜 No.	標榜 名稱	標榜 所在地	標榜面積 (㎡)		遺構 形式	石質	遺構 年代	石質	遺構 年代	國庫 No.	写民 No.
			長	幅							
c275	① 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		7.2	2.1	0.8	石質	北土山遺構、古生代	石質	北土山遺構、古生代	2635	469
c276	② 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		7.2	2.1	0.8	石質	北土山遺構、古生代	石質	北土山遺構、古生代	2636	469
c277	③ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		4.7	2.2	0.7	6.6	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2637	469	
c278	④ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.0	5.5	1.0	22.6	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2638	469	
c279	⑤ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		2.2	3.7	0.5	3.4	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2639	469	
c280	⑥ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		4.3	3.4	0.9	13.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2640	469	
c281	⑦ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.5	5.5	1.2	13.9	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2641	469	
c282	⑧ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		5.0	6.1	1.4	20.3	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2642	469	
c283	⑨ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		5.1	4.1	0.9	15.3	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2643	469	
c284	⑩ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.2	6.1	1.0	11.9	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2644	469	
c285	⑪ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.2	6.1	1.0	11.9	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2645	469	
c286	⑫ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.8	2.7	0.5	2.5	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2646	470	
c287	⑬ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.5	3.9	0.7	6.7	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2647	470	
c288	⑭ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.5	5.7	1.1	14.4	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2648	470	
c289	⑮ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		1.9	1.5	0.5	1.4	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2649	470	
c290	⑯ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.1	2.8	1.0	10.3	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2650	470	
c291	⑰ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		5.3	4.8	0.9	9.9	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2651	470	
c292	⑱ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		4.9	5.9	1.8	25.0	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2652	470	
c293	⑲ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.9	6.9	0.9	18.1	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2653	470	
c294	⑳ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.1	2.7	0.7	5.4	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2654	470	
c295	㉑ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.1	2.7	0.7	5.4	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2655	470	
c296	㉒ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.3	4.8	0.6	7.1	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2656	470	
c297	㉓ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.9	4.3	0.6	11.0	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2657	470	
c298	㉔ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.3	3.8	1.1	12.1	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2658	470	
c299	㉕ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.4	4.1	0.9	9.1	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2659	470	
c300	㉖ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		2.8	2.4	0.6	6.7	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2660	470	
c301	㉗ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.4	2.2	0.5	2.9	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2661	470	
c302	㉘ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		5.1	2.3	0.5	2.7	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2662	470	
c303	㉙ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		6.5	2.2	0.9	11.1	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2663	470	
c304	㉚ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		7.2	4.8	1.9	26.1	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2664	471	
c305	㉛ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.4	4.8	1.9	26.1	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2665	471	
c306	㉜ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.4	2.2	0.7	3.4	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2666	470	
c307	㉝ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		8.7	1.7	1.1	14.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2667	471	
c308	㉞ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		6.6	2.9	1.0	19.8	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2668	471	
c309	㉟ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		8.0	3.5	1.3	25.5	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2669	471	
c310	㊱ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		6.7	2.7	1.1	11.5	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2670	471	
c311	㊲ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		4.3	2.9	0.9	10.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2671	471	
c312	㊳ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		4.2	2.2	0.4	3.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2672	471	
c313	㊴ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.0	3.9	0.6	6.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2673	471	
c314	㊵ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.0	3.9	0.6	6.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2674	471	
c315	㊶ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.0	3.9	0.6	6.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2675	471	
c316	㊷ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.0	3.9	0.6	6.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2676	471	
c317	㊸ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.0	3.9	0.6	6.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2677	471	
c318	㊹ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.0	3.9	0.6	6.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2678	471	
c319	㊺ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.0	3.9	0.6	6.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2679	471	
c320	㊻ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.0	3.9	0.6	6.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2680	471	
c321	㊼ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.0	3.9	0.6	6.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2681	471	
c322	㊽ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.0	3.9	0.6	6.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2682	471	
c323	㊾ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.0	3.9	0.6	6.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2683	471	
c324	㊿ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.0	3.9	0.6	6.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2684	471	
c325	㊽ 交野 中津藩陣元墓標榜 1層		3.0	3.9	0.6	6.2	北土山遺構、古生代	北土山遺構、古生代	2685	471	

第16表 寬伏石器觀察表

編號 No.	所存	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅						
c306	交野	A25号河内溝	7.6	3.1	40.2	頁岩	北山遺構、中年代		271	471
c312	交野	A153号小塚遺構	6.1	2.5	17	頁岩	北山遺構、中年代		271	471
c309	交野	A153号小塚遺構	7.4	3.0	22.4	頁岩	北山遺構、中年代		272	472
c320	交野	A162号小塚遺構	7.2	2.8	16.8	頁岩	北山遺構、中年代		272	472
c323	交野	B14号第六層遺構	4.5	2.1	6.6	頁岩	北山遺構、中年代		271	472
c322	交野	A.65	3.0	2.5	14	頁岩	北山遺構、中年代		272	472
c324	交野	A.7	4.8	3.1	18.7	頁岩	北山遺構、中年代	東風山	272	472
c325	交野	B.44b	7.5	3.6	29	頁岩	北山遺構、中年代		272	472
c326	交野	B.19	6.5	3.1	21.3	頁岩	北山遺構、中年代	東風山	273	473
c328	交野	B.17	5.8	2.3	12	頁岩	北山遺構、中年代		273	472

第17表 副器觀察表

編號 No.	所存	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅						
c327	交野	A133号小塚遺構	6.5	3.2	14.6	頁岩	北山遺構、中年代		273	472
c328	交野	A133号小塚遺構	4.3	3.4	11.3	頁岩	北山遺構、中年代		273	472
c329	交野	A.64	3.7	3.6	11	頁岩	北山遺構、中年代	アスファルト付着?	273	472
c330	交野	A.88	3.2	3.4	16.3	頁岩	北山遺構、中年代	東風山	273	472
c331	交野	A.106	3.7	4.8	13	頁岩	北山遺構、中年代		273	472
c332	交野	B.6	4.2	4.3	17	頁岩	北山遺構、中年代		273	472
c333	交野	B.9	5.6	4.1	14	頁岩	北山遺構、中年代		273	472
c334	交野	B.156	3.6	3.8	12	頁岩	北山遺構、中年代		273	472
c335	交野	中央遺構区南段 遺構B1層	5.8	4.7	26	頁岩	北山遺構、中年代		274	472
c336	交野	中央遺構区南段 遺構B2層	5.7	3.6	20.6	頁岩	北山遺構、中年代		274	473

第18表 異形石器觀察表

編號 No.	所存	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅						
c328	交野	中央遺構区南段	3.4	3.7	15	頁岩	北山遺構、中年代		278	476
c329	交野	B.5b	4.9	3.1	44.2	頁岩	北山遺構、中年代		279	476

第19表 石核觀察表

編號 No.	所存	出土遺構・地点・層位	計測値 (cm)		重量 (g)	石質	産地	備考	図版 No.	写真 No.
			長	幅						
c380	交野	A.7	5.6	7.8	47	頁岩	北山遺構、古年代		279	473
c381	交野	B.9	3.4	5.6	43	頁岩	北山遺構、中年代		280	476
c382	交野	A.139	6.9	6.5	301.6	頁岩	北山遺構、中年代		280	476
c383	交野	B.6	4.7	2.9	152.4	頁岩	北山遺構、中年代		279	476
c384	交野	B.4c	6.4	7.7	69	頁岩	北山遺構、中年代		281	476
c385	交野	B.14	2.6	1.4	33	頁岩	北山遺構、中年代		281	476
c386	交野	中央遺構区南段 遺構B1層	4.7	3.4	362.0	頁岩	北山遺構、中年代		281	476
c387	交野	B.16	6.7	3.4	63	頁岩	北山遺構、中年代		281	476
c388	交野	B.10	5.8	4.3	138.7	頁岩	北山遺構、古年代		281	476
c389	交野	B.12	5.5	7.5	61	頁岩	北山遺構、古年代		281	476



第20表 細部加工割片觀察表

観測 No.	取上割片・地点・層位	計測値 (cm)			重量 mg	石質	産地	備考	写真 No.
		長	幅	厚					
c327	A12号層(2)産物 層位上	4.8	7.9	1.2	22.5	同層	北上山塊, 古生代	274	
c328	A12号層(2)産物 層位上	4.4	7.6	0.8	11	同層	北上山塊, 古生代	274	
c329	A12号層(2)産物 層位上	2.4	2.6	0.6	4.0	同層	北上山塊, 古生代	274	
c330	A12号層(2)産物 層位上(砂)	5.2	3.9	1.4	18.4	同層	北上山塊, 古生代	274	
c331	A125号層(2)産物 層位上(砂)	6.7	3.9	1.0	17.1	同層	北上山塊, 古生代	275	
c332	A142号層(2)産物 ベルト下 附層上	6.1	2.5	1.5	16.1	同層	北上山塊, 中生代	275	
c333	A176号層(2)産物 層位上	4.8	2.6	1.1	13.0	同層	北上山塊, 中生代	274	
c334	A160号層(2)産物 北区 附層上	5.2	2.5	1.5	15.5	同層	北上山塊, 中生代	275	
c335	A188号層(2)産物	1.9	1.6	1.3	3.1	同層	北上山塊, 中生代	274	
c336	A187号層(2)産物 西区 附層上	2.2	1.9	0.8	3.0	同層	北上山塊, 中生代	275	
c337	A187号層(2)産物	4.4	2.2	0.8	6.1	同層	北上山塊, 中生代	275	
c338	A187号層(2)産物	1.1	1.1	0.2	2.3	同層	北上山塊, 中生代	275	
c339	A187号層(2)産物	1.6	1.1	0.2	2.3	同層	北上山塊, 中生代	275	
c340	A187号層(2)産物	3.6	6.2	1.3	22.2	同層	北上山塊, 中生代	275	
c341	A189a号層(2)産物	4.1	5.0	1.1	16.7	同層	北上山塊, 中生代	275	
c342	A189a号層(2)産物	6.8	4.0	1.5	41.8	同層	北上山塊, 中生代	275	
c343	A189a号層(2)産物	3.3	3.0	1.5	13.1	同層	北上山塊, 中生代	276	
c344	A189a号層(2)産物	5.2	4.5	1.2	26.7	同層	北上山塊, 中生代	276	
c345	A189a号層(2)産物	6.5	2.4	1.5	23.2	同層	北上山塊, 中生代	276	
c346	A189a号層(2)産物	6.0	3.0	1.1	23.4	同層	北上山塊, 中生代	275	
c347	A189a号層(2)産物	10.9	5.6	1.9	83.8	同層	北上山塊, 中生代	275	
c348	A189a号層(2)産物	4.8	2.4	1.2	16.2	同層	北上山塊, 中生代	275	
c349	A189a号層(2)産物	6.8	2.4	1.9	30.2	同層	北上山塊, 中生代	275	
c350	A189a号層(2)産物	4.5	2.4	1.2	14.9	同層	北上山塊, 中生代	275	
c351	A189a号層(2)産物	5.5	3.1	1.5	17.9	同層	北上山塊, 中生代	277	
c352	A189a号層(2)産物	6.0	1.7	1.1	8.2	同層	北上山塊, 中生代	277	
c353	A189a号層(2)産物	4.0	2.5	1.5	14.2	同層	北上山塊, 中生代	277	
c354	A189a号層(2)産物	3.4	2.0	0.6	4.3	同層	北上山塊, 中生代	277	
c355	A189a号層(2)産物	3.5	2.4	1.2	11.8	同層	北上山塊, 中生代	277	
c356	A189a号層(2)産物	3.1	4.8	1.2	10.0	同層	北上山塊, 中生代	277	
c357	A189a号層(2)産物	4.7	3.9	0.9	18.5	同層	北上山塊, 中生代	277	
c358	A189a号層(2)産物	3.1	3.0	1.2	10.2	同層	北上山塊, 中生代	277	
c359	A189a号層(2)産物	3.3	3.4	1.2	15.2	同層	北上山塊, 中生代	277	
c360	A189a号層(2)産物	3.9	1.4	0.8	4.1	同層	北上山塊, 中生代	277	
c361	A189a号層(2)産物	8.2	4.3	1.2	30.3	同層	北上山塊, 中生代	278	
c362	A189a号層(2)産物	1.8	3.1	0.4	1.7	同層	北上山塊, 中生代	278	
c363	A189a号層(2)産物	2.1	3.8	1.2	5.7	同層	北上山塊, 中生代	278	
c364	A189a号層(2)産物	3.9	2.7	1.2	14.9	同層	北上山塊, 中生代	278	
c365	A189a号層(2)産物	5.4	3.1	0.6	6.1	同層	北上山塊, 中生代	278	
c366	A189a号層(2)産物	5.9	3.4	1.3	16.0	同層	北上山塊, 中生代	278	
c367	A189a号層(2)産物	2.7	2.1	1.2	13.8	同層	北上山塊, 中生代	278	
c368	A189a号層(2)産物	3.1	2.1	1.2	13.8	同層	北上山塊, 中生代	278	
c369	A189a号層(2)産物	3.2	3.0	0.9	13.9	同層	北上山塊, 中生代	278	

第 21 表 石片群表

採番 No.	分類	出土遺構・地点・部位	長さ	厚	重量 g	石質	産地	備考	尺貫	写尺 No.
c1001	1	A1 石室内壁部 南壁土	3.5	2.6	1.1	20.0	河石	北上山端、古生代	264	477
c1002	1	A1 石室内壁部 南壁土	5.9	1.1	11.0	20.0	河石	北上山端、古生代	264	477
c1003	1	A1 石室内壁部 南壁土	8.2	3.1	23.7	20.0	河石	北上山端、古生代	264	477
c1004	1	A1 石室内壁部 南壁土	6.3	3.0	20.7	河石	北上山端、古生代	264	477	
c1005	1	A100 石室穴部 南壁土	10.9	4.8	26.4	20.0	河石	北上山端、古生代	264	477
c1006	1	A113 石室穴部 南壁土	6.7	3.4	14.3	20.0	河石	北上山端、古生代	264	477
c1007	1	A127 石室穴部 南壁土	8.8	3.5	17.1	18.4	河石	北上山端、古生代	264	477
c1008	1	A135 石室穴部 南壁土	8.5	6.6	19.2	20.8	河石	北上山端、古生代	265	477
c1009	1	A136 石室穴部 南壁土	10.4	4.9	25.2	20.1	河石	北上山端、古生代	265	477
c1010	1	A137 石室穴部 南壁土	5.9	1.5	10.3	13.4	河石	北上山端、古生代	264	477
c1011	1	A138 石室穴部 南壁土	11.1	4.7	25.1	20.0	河石	北上山端、古生代	265	477
c1012	1	A139 石室穴部 南壁土	6.8	3.5	18.8	20.0	河石	北上山端、古生代	265	477
c1013	1	A139 石室穴部 南壁土	6.2	3.1	16.1	18.2	河石	北上山端、古生代	265	477
c1014	1	11号石室 南壁土	4.6	5.1	23.3	80.7	板石	伊藤山頂部、古生代	265	477
c1015	1	11号石室 南壁土	4.7	2.2	0.7	11.8	河石	北上山端、古生代	266	477
c1016	1	PI405 南壁土	13.7	5.9	34.4	437.0	河石	北上山端、古生代	266	478
c1017	1	PI512	10.6	5.0	25.2	230.1	河石	北上山端、古生代	266	478
c1018	1	2 A 9号 土層	6.0	3.3	12.4	42.4	河石	北上山端、古生代	266	478
c1019	1	2 A 7号 土層	0.9	4.6	2.2	15.7	河石	北上山端、古生代	266	478
c1020	1	2 A 9号 土層	12.0	5.5	23.2	274.8	河石	北上山端、古生代	266	478
c1021	1	2 A 9号 土層	8.0	1.0	10.0	10.0	河石	北上山端、古生代	266	478
c1022	1	2 A 9号 土層	2.5	4.2	2.1	15.5	河石	北上山端、古生代	266	478
c1023	1	2 A 10号 土層	8.8	2.4	11.4	42.4	河石	北上山端、古生代	265	478
c1024	1	2 A 10号 土層	11.5	4.8	28.0	200.0	河石	北上山端、古生代	265	478
c1025	1	2 A 6号 土層	11.5	5.9	3.6	206.9	河石	北上山端、古生代	265	478
c1027	1	2 B 5号 土層	8.9	5.6	3.7	207.6	河石	北上山端、古生代	265	478
c1028	1	2 B 16号 土層	5.8	4.4	1.6	78.5	河石	北上山端、古生代	267	478
c1029	1	2 B 16号 土層	3.1	2.2	1.1	13.7	河石	北上山端、古生代	267	479
c1030	1	2 B 16号 土層	6.4	2.1	1.1	24.8	河石	北上山端、古生代	268	479
c1031	1	2 B 16号 土層	5.3	1.6	1.3	13.3	河石	北上山端、古生代	268	479
c1032	1	2 B 16号 土層	2.9	2.1	1.1	30.1	河石	北上山端、古生代	268	479
c1033	1	2 B 16号 土層	2.7	1.3	0.7	5.1	板石	伊藤山頂部、古生代	268	479
c1034	1	2 B 22号 土層	8.6	5.0	2.3	150.0	河石	北上山端、古生代	268	479
c1035	1	2 B 22号 土層	13.2	5.5	3.5	266.2	河石	北上山端、古生代	268	479
c1036	1	2 B 22号 土層	10.9	4.9	2.4	200.7	河石	北上山端、古生代	269	479
c1037	1	2 B 22号 土層	7.3	4.9	1.6	80.0	河石	伊藤山頂部、古生代	269	479
c1038	1	2 B 22号 土層	11.8	5.0	3.0	267.5	河石	北上山端、古生代	269	479
c1039	1	2 C 3号 土層	8.5	3.7	2.2	120.9	河石	北上山端、古生代	269	480
c1040	1	2 C 3号 土層	8.1	3.1	2.1	42.4	河石	北上山端、古生代	269	480
c1041	1	2 C 3号 土層	9.7	3.6	2.1	50.2	河石	北上山端、古生代	269	480
c1042	1	2 A 11号 土層	10.0	5.3	3.1	260.2	河石	北上山端、古生代	269	480
c1043	1	2 C 4号 土層	10.7	4.4	3.1	179.2	河石	北上山端、古生代	269	479
c1044	1	A124 石室穴部 南壁土	12.6	6.5	2.9	330.1	河石	北上山端、古生代	269	480
c1045	1	A130 石室穴部 南壁土	14.5	5.3	4.0	536.2	河石	北上山端、古生代	269	480
c1046	1	4号土 南壁土	11.2	6.2	3.1	382.6	河石	北上山端、古生代	269	480
c1047	1	4号土 南壁土	19.9	10.4	4.7	1,622.1	河石	北上山端、古生代	291	880
c1048	1	2 A 17号 土層	13.5	4.1	1.7	120.0	河石	北上山端、古生代	291	880

第22表 石皿・台石類調査表(1)

図号 No.	出土位置・地層・部位	長さ cm	幅 cm	厚 cm	重量 g	石質	産地	備考	図版 No.
c1089	A33号分室(遺物) 須石土	7.2	8.6	4.6	144.8	凝灰岩	美山山塊, 新生代礫層(一)	保存	262
c1090	A33号分室(遺物) 須石土	26.3	14.1	3.5	2,003.1	アモイナ	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	461
c1091	A33号分室(遺物) 須石土	17.2	13.2	6.5	1,800.3	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	461
c1092	A33号分室(遺物) 須石土	15.55	16.5	6.4	2,820.3	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	262
c1093	A33号分室(遺物) 須石土	20.0	14.5	16.2	11,300.0	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	262
c1094	A33号分室(遺物) 須石土	31.2	14.8	10.0	8,200.0	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	461
c1095	A33号分室(遺物) 須石土	11.8	8.5	4.9	260.3	凝灰岩	美山山塊, 新生代礫層(一)	保存	262
c1096	A33号分室(遺物) 須石土	9.8	7.0	4.7	304.7	砂岩	北上山塊, 中生代	保存	461
c1097	A33号分室(遺物) 須石土	9.3	10.5	5.9	399.0	凝灰岩	美山山塊, 新生代礫層(一)	保存	461
c1098	A33号分室(遺物) 須石土	33.7	14.3	12.6	12,400.0	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	461
c1099	A33号分室(遺物) 須石土	10.3	14.2	5.9	1,938.0	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	262
c1100	A33号分室(遺物) 須石土	11.3	13.9	5.6	2,313.8	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	462
c1101	A33号分室(遺物) 須石土	10.3	10.9	5.6	2,313.8	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	262
c1102	A33号分室(遺物) 須石土	9.3	7.1	10.1	1,180.1	アモイナ	美山山塊, 新生代礫層(一)	保存	462
c1103	A33号分室(遺物) 須石土	27.8	17.2	6.4	366.3	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	262
c1104	A33号分室(遺物) 須石土	14.4	13.3	6.4	2,442.3	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	462
c1105	A33号分室(遺物) 須石土	51.6	16.6	15.4	26,000.0	ペグマタイト(注脚)	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	262
c1106	A33号分室(遺物) 須石土	37.8	13.7	13.0	13,800.0	閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	262
c1107	A33号分室(遺物) 須石土	29.4	13.3	8.2	862.7	安山岩	美山山塊, 新生代礫層(一)	保存	463
c1108	A33号分室(遺物) 須石土	13.1	6.2	3.3	393.3	凝灰岩	美山山塊, 新生代礫層(一)	保存	463
c1109	A33号分室(遺物) 須石土	10.1	11.2	5.6	1,020.0	凝灰岩	美山山塊, 新生代礫層(一)	保存	463
c1110	A33号分室(遺物) 須石土	9.6	6.5	3.0	429.8	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	463
c1111	A33号分室(遺物) 須石土	26.4	20.3	4.2	3,671.1	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	463
c1112	A33号分室(遺物) 須石土	16.9	14.7	9.7	4,035.6	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	463
c1113	A33号分室(遺物) 須石土	13.5	14.3	7.5	2,306.2	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	463
c1114	A33号分室(遺物) 須石土	17.4	11.2	8.3	2,274.1	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	463
c1115	A33号分室(遺物) 須石土	29.0	13.3	5.3	3,306.1	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	463
c1116	A33号分室(遺物) 須石土	42.5	11.6	10.8	9,333.9	閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	464
c1117	A33号分室(遺物) 須石土	22.8	16.1	5.6	2,648.5	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	464
c1118	A33号分室(遺物) 須石土	17.2	13.3	7.0	2,314.1	砂岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	464
c1119	A33号分室(遺物) 須石土	15.7	11.6	6.1	1,400.0	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	464
c1120	A33号分室(遺物) 須石土	22.5	12.3	3.9	469.2	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	464
c1121	A33号分室(遺物) 須石土	22.2	12.3	5.1	2,447.6	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	464
c1122	A33号分室(遺物) 須石土	22.7	27.6	6.5	3,362.1	閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	464
c1123	A33号分室(遺物) 須石土	17.5	12.6	5.0	1,417.8	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	464
c1124	A33号分室(遺物) 須石土	27.6	14.7	6.6	4,655.0	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	465
c1125	A33号分室(遺物) 須石土	24.8	13.2	4.8	3,173.1	砂岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	465
c1126	A33号分室(遺物) 須石土	23.0	16.8	5.8	3,860.4	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	465
c1127	A33号分室(遺物) 須石土	19.9	25.2	4.1	2,430.0	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	465
c1128	A33号分室(遺物) 須石土	30.0	19.2	5.1	4,096.1	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	465
c1129	A33号分室(遺物) 須石土	30.0	20.2	5.1	4,096.1	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	465
c1130	A33号分室(遺物) 須石土	30.5	15.2	8.1	3,238.6	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	465
c1131	A33号分室(遺物) 須石土	20.7	11.9	8.2	3,562.7	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	465
c1132	A33号分室(遺物) 須石土	31.3	12.7	5.7	1,443.6	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	465
c1133	A33号分室(遺物) 須石土	17.6	12.6	4.9	1,718.5	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	466
c1134	A33号分室(遺物) 須石土	14.9	18.3	8.0	2,349.0	花崗閃緑岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	466
c1135	A33号分室(遺物) 須石土	28.3	14.6	4.7	2,500.1	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	466
c1136	A33号分室(遺物) 須石土	13.4	8.4	3.7	1,116.9	凝灰岩	北上山塊, 中生代礫層(一)	保存	466

第22表 石皿・台石類調査表(2)

民衆 No.	出土場所・遺点・層位	長 cm	幅 cm	厚 mm	重量 g	石質	産地	氏名 No.	
c1308	A175 石室遺物・石	210	337	57	2,663.1	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	304	
c1309	A175 石室遺物・石	174	244	91	3,149.2	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	304	
c1310	A309 石室遺物・石	156	69	28	362.6	砂岩	北上山塊、中生代片麻岩	305	
c1311	A309 石室遺物・石	172	125	45	3,276.6	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	306	
c1312	A318 石室遺物・石	139	165	88	4,127.9	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	305	
c1313	A229 石室遺物・石	138	132	74	2,270.3	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	305	
c1314	A229 石室遺物・石	140	136	47	1,298.8	砂岩	北上山塊、中生代片麻岩	305	
c1315	A321 石室遺物・石	164	144	67	897.6	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	306	
c1316	A325 石室遺物・石	118	128	49	312.1	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	306	
c1317	A325 石室遺物・石	118	149	70	3,242.0	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	306	
c1318	A325 石室遺物・石	108	115	51	3,274.6	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	306	
c1319	A313 石室遺物・石	23.6	120	11.5	6,880.0	北山燧石	北上山塊、中生代片麻岩	307	
c1320	A313 石室遺物・石	16.5	97	6.2	3,909.9	砂岩	北上山塊、中生代片麻岩	307	
c1321	36号土坑 西区 階梯土	7.7	66	3.5	301.4	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	307	
c1322	36号土坑 西区 階梯土	12.9	21.4	6.2	2,838.4	砂岩	北上山塊、中生代片麻岩	307	
c1323	35号土坑 南区 階梯土	48.2	31.9	11.8	26,860.0	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	308	
c1324	19号土坑 南区 階梯土	28.3	19.5	8.7	6,941.2	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	309	
c1325	74号土坑 南区 階梯土	43.4	32.9	14.2	20,000.0	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	309	
c1326	75号土坑 南区 階梯土	30.9	21.2	5.1	3,579.3	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	307	
c1327	112号土坑 階梯土	18	11.5	3.2	3,274.6	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	307	
c1328	112号土坑 階梯土	10.8	11.5	3.2	3,274.6	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	307	
c1329	144号土坑 階梯土	30.6	21.1	5.1	3,444.2	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	308	
c1330	144号土坑 階梯土	30.6	21.1	5.1	3,444.2	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	308	
c1331	141号土坑 階梯土	16.1	10.9	5.3	1,594.8	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	310	
c1332	135号土坑 階梯土	40.9	35.8	19.0	41,000.0	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	310	
c1320	4号溝 階梯土	7.6	7.4	2.7	1,517	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	310	
c1321	4号溝 階梯土	12.3	19.0	3.8	627.4	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	310	
c1325	20号土坑 階梯土	20.5	16.3	7.6	3,853.1	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	310	
c1326	F204 階梯土	19.5	22.5	10.4	7,000.0	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	311	
c1327	F202・203 階梯土	43.6	18.1	14.1	17,200.0	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	311	
c1328	F202・203 階梯土	43.6	18.1	14.1	17,200.0	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	311	
c1329	F204 階梯土	27.2	37.2	5.4	13,840.0	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	312	
c1330	F204 階梯土	27.2	37.2	5.4	13,840.0	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	312	
c1331	A 67 階梯土	20.6	21.2	6.7	4,861.0	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	312	
c1332	A 79 階梯土	28.1	17.9	5.6	31,624.9	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	312	
c1333	A 79 階梯土	19.7	13.5	23.5	6.8	3,301.6	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	313
c1334	A 98 階梯土	13.3	14.2	6.4	2,775.9	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	313	
c1335	A 98 階梯土	14.4	14.2	8.2	582.5	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	313	
c1336	A 98 階梯土	53.1	29.6	25.2	60,000.0	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	313	
c1337	A309 階梯土	17.8	12.8	5.5	2,133.7	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	313	
c1338	A309 階梯土	53.1	29.6	25.2	60,000.0	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	313	
c1339	A309 階梯土	21	14.8	4.5	1,822.3	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	314	
c1340	A309 階梯土	21	14.8	4.5	1,822.3	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	314	
c1341	A309 階梯土	14.3	10.3	4.5	355.3	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	315	
c1342	A 4b 階梯土	18.9	16.2	5.5	1,303.7	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	315	
c1343	A 4b 階梯土	18.3	13.5	6.2	2,430.0	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	315	
c1344	A 4b 階梯土	27.4	120	6.1	2,768.2	砂岩	北上山塊、中生代片麻岩	315	
c1345	A 5a 北区 階梯土	15.4	28.9	6.8	4,734.3	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	316	
c1346	A 5a 南区 階梯土	19.2	16.0	8.1	3,922.4	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	316	
c1347	A 5b 下階梯土	47.4	7.3	11,000.0	花崗閃輝石	北上山塊、中生代片麻岩	316		
c1348	A 5b 下階梯土	9.7	6.3	1.4	120.3	燧石	北上山塊、中生代片麻岩	315	

第22表 石皿・台石類調査表(3)

振番 No.	形状	出土遺構・地点・層位	長さ	幅	厚	重量 g	石質	産地	図版 No.	写真 No.
c1346	台石	東馬場 Ⅱ a層	167	205	49	3,066.5	細粒河原石	北上山層・中生代白雲岩	315	402
c1347	台石	東馬場 Ⅱ a層	270	226	59	6,780.6	砂岩	北上山層・中生代	317	403
c1348	台石	東馬場 Ⅱ a層	231	151	99	4,009.4	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	317	403
c1349	台石	東馬場 Ⅱ b層	136	126	73	431.6	安山岩	東上山層・新生代砂岩質頁岩	317	403
c1350	台石	東馬場 Ⅱ b層	226	161	52	2,483.8	砂岩	北上山層・中生代白雲岩	318	403
c1351	台石	東馬場 Ⅱ b層	124	108	46	357.0	燧石	東上山層・新生代砂岩	318	403
c1352	台石	東馬場 Ⅱ b層	317	219	49	4,302.1	閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	318	403
c1353	台石	東馬場 Ⅱ b層	185	101	54	411.4	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	318	403
c1354	台石	東馬場 Ⅱ b層	131	111	31	102.1	燧石	東上山層・新生代砂岩	318	403
c1355	台石	東馬場 Ⅱ b層	178	109	58	601.9	燧石	東上山層・新生代砂岩	318	404
c1356	台石	東馬場 Ⅱ b層	161	209	40	1,013.0	燧石	東上山層・新生代砂岩	317	404

第23表 黏器類調査表(1)

振番 No.	形状	出土遺構・地点・層位	径	径(開口)	高	重量 g	石質	産地	図版 No.	写真 No.
c1358	1	A 4号分室土器 甕蓋上	11.6	8.5	5.4	852.2	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	219	404
c1359	1	A 4号分室土器 甕蓋下	13.2	8.1	5.2	894.8	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	219	404
c1360	1	A 4号分室土器 甕蓋上	14.5	9.0	5.3	951.0	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	219	404
c1361	3	A 4号分室土器 甕蓋上	14.5	5.0	3.0	262.0	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	319	404
c1362	1	A 4号分室土器 甕蓋上	12.3	8.9	6.1	955.0	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	319	404
c1363	1	A 10号分室土器 甕蓋上	13.1	8.7	5.6	1,072.3	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	319	404
c1364	1	A 10号分室土器 甕蓋上	12.7	8.9	6.2	1,042.9	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	320	404
c1365	2	A 10号分室土器 <6> 1層	10.0	8.5	6.2	827.9	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	320	404
c1366	3	A 10号分室土器 <6> 2層	10.0	9.6	5.7	741.0	燧石	北上山層・中生代白雲岩	320	406
c1367	1	A 10号分室土器 甕蓋上	13.1	7.2	7.0	1,113.2	燧石	北上山層・中生代白雲岩	320	406
c1368	3	A 41号分室土器 甕蓋上	17.9	7.8	6.1	971.0	砂岩	東上山層・中生代白雲岩	321	405
c1369	3	A 41号分室土器 甕蓋上	14.0	5.9	5.0	749.7	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	321	405
c1370	3	A 41号分室土器 甕蓋上	11.3	7.6	6.7	698.1	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	321	405
c1371	3	A 41号分室土器 甕蓋上	11.3	7.6	6.7	698.1	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	321	405
c1372	3	A 41号分室土器 甕蓋上	11.3	7.2	6.5	646.4	燧石	北上山層・中生代白雲岩	321	405
c1373	3	A 41号分室土器 甕蓋上	11.3	7.2	6.5	646.4	燧石	北上山層・中生代白雲岩	321	405
c1374	4	A 41・45号分室土器 <6> 1層	8.2	8.3	5.5	580.6	燧石	北上山層・中生代白雲岩	321	405
c1375	4	A 41・45号分室土器 <6> 2層	15.4	7.8	6.5	1,679.9	細粒花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	322	405
c1376	1	A 45号分室土器 甕蓋上	11.2	8.3	6.3	896.4	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	322	405
c1377	1	A 45号分室土器 甕蓋上	11.2	9.4	6.1	1,077.9	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	323	406
c1378	1	A 45号分室土器 甕蓋上	11.2	9.4	6.1	1,077.9	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	323	406
c1379	1	A 45号分室土器 甕蓋上	17.0	8.5	7.1	1,726.5	燧石	北上山層・中生代白雲岩	323	406
c1380	4	A 52号分室土器 <6> 1層	10.3	7.6	3.1	351.1	砂岩	北上山層・中生代白雲岩	323	406
c1381	1	A 60号分室土器 甕蓋上	7.1	5.0	4.3	229.6	燧石	北上山層・中生代白雲岩	323	405
c1382	1	A 60号分室土器 甕蓋上	7.4	2.2	4.6	279.3	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	323	406
c1383	1	A 45号分室土器 甕蓋上	11.8	7.8	4.2	612.0	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	324	406
c1384	1	A 45号分室土器 甕蓋上	11.8	7.8	4.2	612.0	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	324	406
c1385	1	A 45号分室土器 甕蓋上	10.7	7.9	5.0	475.4	燧石	北上山層・中生代白雲岩	324	406
c1386	1	A 60号分室土器 甕蓋上	32.1	16.4	15.4	12,000.0	燧石	北上山層・中生代白雲岩	324	406
c1387	1	A 60号分室土器 甕蓋上	11.9	6.6	4.9	698.4	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	324	406
c1388	1	A 102号分室土器 甕蓋上	13.8	8.1	5.7	1,056.0	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	324	406
c1389	1	A 102号分室土器 甕蓋上	11.8	5.1	5.0	366.5	花崗閃緑岩	北上山層・中生代白雲岩	324	406
c1390	3	A 105号分室土器 甕蓋上	10.9	9.9	4.8	652.8	燧石	北上山層・中生代白雲岩	324	406
c1391	3	A 105号分室土器 甕蓋上	10.9	7.6	6.0	652.8	燧石	北上山層・中生代白雲岩	324	406
c1392	1	A 105号分室土器 甕蓋上	15.4	7.6	6.1	1,301.3	燧石	北上山層・中生代白雲岩	325	406









第23表 起磨器類観察表(5)

図版 No.	分類	出土地・地名・層位	計測値 (cm)			重量 g	石質	産地	備考	図版 No.
			長	幅	厚					
c1350	1	A Ⅱ 沼田西 溝原IV 遺層	6.3	7.4	2.6	166.4	砂岩	宮古層群、中生代白岩系	352	
c1351	4	B Ⅱ 沼田東 東区II 遺層	6.1	7.4	2.6	168.4	砂岩	宮古層群、中生代白岩系	353	
c1352	4	B Ⅱ 226 北東区II 遺層	11.6	11.6	7.2	1,380.10	砂岩	宮古層群、中生代白岩系	355	
c1353	4	B Ⅱ 229 北東区II 遺層	8.0	8.6	2.6	538.2	砂岩	宮古層群、中生代白岩系	355	
c1354	4	B Ⅱ 259 東東区II 遺層	9.7	13.2	7.7	1,233.0	砂岩	宮古層群、中生代白岩系	356	
c1355	3	A Ⅱ 1 沼田西 溝原IV 遺層	11.1	11.1	3.5	567.7	砂岩	宮古層群、中生代白岩系	356	
c1356	3	A Ⅱ 2 沼田西 溝原IV 遺層	17.2	14.4	2.6	405.7	砂岩	宮古層群、中生代白岩系	356	
c1357	1	A Ⅱ トロノ 北東区II 遺層	9.4	9.2	4.4	620.0	砂岩	北上山塊、中生代白岩系	356	
c1358	1	B トロノ 北東区II 遺層	12.3	6.8	4.5	661.7	砂岩	北上山塊、中生代白岩系	356	
c1359	3	T 5	10.9	5.1	2.0	206.3	頁岩	北上山塊、中生代白岩系	357	
c1360	3	中津浦西面西 T 5 6 層 2 層	9.3	6.9	5.0	472.6	アツタ石	北上山塊、中生代白岩系	357	
c1361	3	中津浦西面西 T 5 6 層 2 層	11.3	7.3	3.6	283.3	頁岩	北上山塊、中生代白岩系	357	
c1362	3	中津浦西面西 T 5 6 層 2 層	11.3	7.3	3.6	283.3	頁岩	北上山塊、中生代白岩系	357	
c1363	3	中津浦西面西 T 5 6 層 4 層	7.4	5.3	3.3	211.7	砂岩	北上山塊、中生代白岩系	357	
c1364	4	中津浦西面西 T 5 6 層 5 層	15.4	6.6	3.3	530.7	砂岩	北上山塊、中生代白岩系	357	
c1365	4	中津浦西面 1 - 3 層 1 層	8.5	6.5	2.1	1,810.1	砂岩	宮古層群、中生代白岩系	357	

第24表 円盤状石器観察表

図版 No.	分類	出土地・地名・層位	計測値 (cm)			重量 g	石質	産地	備考	図版 No.
			長	幅	厚					
c1369	1	A Ⅱ 沼田西 溝原IV 遺層	9.9	8.4	3.0	275.8	砂岩	北上山塊、中生代白岩系(産地不明)	358	
c1370	1	A Ⅱ 5 沼田西 溝原IV 遺層	9.3	8.3	2.3	210.0	頁岩	北上山塊、中生代白岩系	358	
c1371	1	A Ⅱ 25 沼田東 東区II 遺層	6.7	3.8	2.0	867.5	砂岩	北上山塊、中生代白岩系	358	
c1372	2	A Ⅱ 沼田西 北東区II 遺層	7.7	5.3	1.5	825.5	ホルンフェルス	北上山塊、中生代白岩系(産地不明)	358	
c1373	1	B Ⅱ 沼田東 東区II 遺層	10.9	9.8	1.5	251.5	頁岩	北上山塊、中生代白岩系	358	
c1374	2	A Ⅱ 沼田東 東区II 遺層	7.3	11.3	1.0	592.3	砂岩	北上山塊、中生代白岩系(産地不明)	358	
c1375	2	A Ⅱ 沼田東 東区II 遺層	7.3	11.3	1.0	592.3	砂岩	北上山塊、中生代白岩系(産地不明)	358	
c1376	1	A Ⅱ ANp 沼田東 東区II 遺層	10.7	10.5	3.2	561.4	ホルンフェルス	北上山塊、中生代白岩系(産地不明)	358	
c1377	1	A Ⅱ 沼田北 北東区II 遺層	13.8	10.6	2.5	381.3	頁岩	北上山塊、中生代白岩系	358	
c1378	2	A Ⅱ 沼田北 北東区II 遺層	7.5	5.7	1.8	148.1	頁岩	北上山塊、中生代白岩系	358	
c1379	3	A Ⅱ 沼田北 北東区II 遺層	10.0	8.4	1.3	148.5	ホルンフェルス	北上山塊、中生代白岩系(産地不明)	358	
c1380	1	B Ⅱ 沼田東 東区II 遺層	11.0	10.9	1.8	589.0	砂岩	北上山塊、中生代白岩系(産地不明)	358	
c1381	1	T 2 沼田東 東区II 遺層	5.9	6.2	1.4	589.0	砂岩	北上山塊、中生代白岩系(産地不明)	358	
c1382	1	T 2 沼田東 東区II 遺層	5.9	6.2	1.4	589.0	砂岩	北上山塊、中生代白岩系(産地不明)	358	
c1383	1	B Ⅱ 沼田東 東区II 遺層	6.5	7.6	1.8	1,392.7	ホルンフェルス	北上山塊、中生代白岩系(産地不明)	358	

第25表 石製品観察表(1)

図版 No.	分類	出土地・地名・層位	計測値 (cm)			重量 g	石質	産地	備考	図版 No.
			長	幅	厚					
c31	石片	中津浦西面西	20.5	25.0	13.2	2919	頁岩	北上山塊、中生代白岩系	359	
c32	石片	A Ⅱ 13 北東区II 遺層	21.4	13.4	9.0	42	頁岩	北上山塊、中生代白岩系	359	
c33	石片	A Ⅱ 13 北東区II 遺層	21.4	13.4	9.0	42	頁岩	北上山塊、中生代白岩系	359	
c34	石片	B Ⅱ 226 北東区II 遺層	31.1	20.6	13.2	151.0	頁岩	北上山塊、中生代白岩系	359	
c35	石片	沼田東 東区II 遺層	26.4	21.8	13.0	819	細粒頁岩	北上山塊、沼田村砂岩系、中生代白岩系	359	
c36	石片	沼田東 東区II 遺層	36.1	29.6	25.5	369	細粒頁岩	北上山塊、沼田村砂岩系、中生代白岩系	359	
c37	石片	中津浦西面西 T 5 6 層 1 層	87.7	27.9	17.9	65.1	頁岩	北上山塊、中生代白岩系	359	
c38	石片	沼田東 東区II 遺層	141.6	25.9	14.6	36.3	頁岩	北上山塊、中生代白岩系(産地不明)	359	
c39	石片	沼田東 東区II 遺層	16	10.9	6.5	11.5	砂岩	北上山塊、中生代白岩系	359	
c40	石片	沼田東 東区II 遺層	5.1	5.1	0.7	11.5	砂岩	北上山塊、中生代白岩系	359	
c41	石片	A Ⅱ 13 北東区II 遺層	1.5	1.8	0.9	2.6	頁岩	北上山塊、沼田村砂岩系、中生代白岩系	359	





第26表 土製品観察表(1)

国産 No.	副産物	出土遺跡・地点・層位	計測値 (cm)			重量 (g)	石質	産地	備考	国産 No.
			長	幅	厚					
e14	土鍋	A162号穴窯物 灰白色土質土器 A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土 A162号穴窯物 灰白色土質土器	[22] 16.7	2.2	e131	灰類	兵庫県(明石市), 美濃中谷(美濃市)の付帯副産物	体一割部, 3点組合	372	
e15	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	3.0	16.0	33.4	灰類	兵庫県, 香川, 1個	兵庫県, 丹波郡美作, 美原町清造	372	
e16	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	3.0	8.0	1.4	灰類	兵庫県, 香川, 1個	兵庫県, 丹波郡美作, 美原町清造	372	
e17	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	3.6	3.0	1.3	灰類	香川	体一割部	373	
e18	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.1	14.0	31.3	灰類	和歌山	頭蓋小	373	
e19	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	3.1	11.0	18.2	灰類	和歌山	頭蓋小	373	
e20	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.0	11.0	18.1	灰類	和歌山	頭蓋小	373	
e21	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	7.0	12.1	21.1	灰類	兵庫県(明石市), 香川, 1個	兵庫県, 丹波郡美作, 美原町清造	373	
e22	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.0	11.0	18.1	灰類	和歌山	頭蓋小	373	
e23	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	3.6	4.6	1.5	灰類	兵庫県	焼写欠損	373	
e24	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	3.4	3.4	0.7	灰類	兵庫県	焼写欠損	373	
e25	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	6.5	6.8	4.7	灰類	和歌山	焼写欠損	373	
e26	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	3.4	5.1	11.6	灰類	和歌山	焼写欠損	373	
e27	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.7	5.7	1.7	灰類	和歌山	焼写欠損	373	
e28	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.0	5.3	0.6	灰類	和歌山	焼写欠損	373	
e29	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	[11.5]	3.9	2.1	硬石膏	LR	2点組合	374	
e30	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	7.6	3.1	1.4	灰類	和歌山	和歌山	374	
e31	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	5.3	2.8	2.0	灰類	和歌山	和歌山	374	
e32	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.0	3.7	1.9	灰類	和歌山	和歌山	374	
e33	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	7.2	2.6	1.6	灰類	和歌山	和歌山	374	
e34	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.6	3.9	1.3	灰類	和歌山	和歌山	374	
e35	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	2.5	4.3	1.9	灰類	和歌山	和歌山	374	
e36	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	5.6	3.6	1.6	灰類	和歌山	和歌山	374	
e37	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.2	3.7	1.7	灰類	和歌山	和歌山	374	
e38	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.3	2.9	1.4	灰類	和歌山	和歌山	374	
e39	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	5.4	2.8	2.1	灰類	和歌山	和歌山	374	
e40	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	3.0	4.1	1.7	灰類	和歌山	和歌山	374	
e41	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.7	3.1	1.9	灰類	和歌山	和歌山	374	
e42	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.0	2.7	1.1	灰類	和歌山	和歌山	374	
e43	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.3	3.8	2.0	灰類	和歌山	和歌山	374	
e44	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	5.8	4.3	2.2	灰類	和歌山	和歌山	374	
e45	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.7	3.4	1.9	灰類	和歌山	和歌山	374	
e46	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	3.4	3.0	1.5	灰類	和歌山	和歌山	374	
e47	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	5.3	4.0	4.0	灰類	和歌山	和歌山	374	
e48	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	6.7	6.6	5.5	灰類	和歌山	和歌山	374	
e49	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	3.0	3.7	1.3	灰類	和歌山	和歌山	374	
e50	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	2.7	1.1	0.3	灰類	和歌山	和歌山	374	
e51	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	3.1	1.8	2.1	灰類	和歌山	和歌山	374	
e52	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.1	3.2	2.2	灰類	和歌山	和歌山	374	
e53	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	1.9	2.4	2.0	灰類	和歌山	和歌山	374	
e54	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	2.1	2.1	0.6	灰類	和歌山	和歌山	374	
e55	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	5.5	5.5	1.3	灰類	和歌山	和歌山	374	
e56	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	4.3	3.4	3.2	灰類	和歌山	和歌山	374	
e57	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	2.4	1.4	0.6	灰類	和歌山	和歌山	374	
e58	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	2.4	2.4	2.0	灰類	和歌山	和歌山	374	
e59	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	2.2	2.3	2.0	灰類	和歌山	和歌山	374	
e60	土鍋	A162号穴窯物 ベルト 17面内層下層灰白色土	3.3	3.4	3.0	灰類	和歌山	和歌山	374	



第20表 土製品觀察表(3)

国名	品名	出上産種・地名・単位	計量額 (千)		品名	産地	石種	産種	備考	国名
			量	価						
e100	1-2-6-7-7-5	1525 北支那	0.6	0.5	磁器	山西	磁器	山西	506	
e101	1-2-6-7-7-5	144 北支那	0.5	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e102	1-2-6-7-7-5	144 北支那	4.8	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e103	1-2-6-7-7-5	1525 北支那	4.6	0.4	磁器	山西	磁器	山西	507	
e104	1-2-6-7-7-5	A 6 支那	4.6	0.4	磁器	山西	磁器	山西	507	
e105	1-2-6-7-7-5	A 7 支那	2.2	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e106	1-2-6-7-7-5	A 7 支那	8.7	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e107	1-2-6-7-7-5	A 11 支那	2.2	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e108	1-2-6-7-7-5	A 11 支那	2.2	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e109	1-2-6-7-7-5	A 11 支那	1.5	0.6	磁器	山西	磁器	山西	507	
e110	1-2-6-7-7-5	A 20 支那	4.3	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e111	1-2-6-7-7-5	A 20 支那	1.5	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e112	1-2-6-7-7-5	A 20 支那	3.3	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e113	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	2.1	-	磁器	山西	磁器	山西	507	
e114	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	2.6	-	磁器	山西	磁器	山西	507	
e115	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	1.3	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e116	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	3.9	0.4	磁器	山西	磁器	山西	507	
e117	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	5.5	0.4	磁器	山西	磁器	山西	507	
e118	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	10.1	0.6	磁器	山西	磁器	山西	507	
e119	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	0.6	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e120	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	0.7	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e121	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	5.5	0.7	磁器	山西	磁器	山西	507	
e122	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	5.4	0.6	磁器	山西	磁器	山西	507	
e123	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	6.9	0.7	磁器	山西	磁器	山西	507	
e124	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	4.4	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e125	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	2.8	0.6	磁器	山西	磁器	山西	507	
e126	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	1.3	0.3	磁器	山西	磁器	山西	507	
e127	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	1.2	0.3	磁器	山西	磁器	山西	507	
e128	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	1.5	0.3	磁器	山西	磁器	山西	507	
e129	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	2.9	0.3	磁器	山西	磁器	山西	507	
e130	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	9.1	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e131	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	2.5	0.4	磁器	山西	磁器	山西	507	
e132	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	4.2	0.4	磁器	山西	磁器	山西	507	
e133	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	4.2	0.4	磁器	山西	磁器	山西	507	
e134	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	7.5	0.6	磁器	山西	磁器	山西	507	
e135	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	2.3	0.6	磁器	山西	磁器	山西	507	
e136	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	1.1	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e137	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	2.7	0.4	磁器	山西	磁器	山西	507	
e138	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	0.3	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e139	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	0.6	0.5	磁器	山西	磁器	山西	507	
e140	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	4.3	0.4	磁器	山西	磁器	山西	507	
e141	1-2-6-7-7-5	B 1 支那	10.0	0.8	磁器	山西	磁器	山西	507	

第1 品名欄の14位以下は中国産品を示す。15位以下は以下の産地を示す。  
 第2 品名欄の14位以下は中国産品を示す。15位以下は以下の産地を示す。

第27表 土器片白磁観覧表(1)

No.	品名	出土遺構・地点・層位	片面積 (cm)		重量 (g)	部位	残存	文様・図形	穿孔	観察 部位	備考	写真 No.
			長	厚								
a6	土器片行徳 A1 号器片遺物 3-4層		31	3.6	1.1	脚底	欠片	LR	○			361
a7	土器片行徳 A1 号器片遺物 3-4層		31	3.6	1.1	脚底	欠片	ナテ	○			362
a8	土器片行徳 A1 号器片遺物 高橋土台遺構上層		38	4.0	1.0	1566	脚底	欠片 LR	○			363
a9	土器片行徳 A1 号器片遺物 高橋土台遺構上層下内		49	5.0	1.1	253	脚底	欠片 LR	○			364
a10	土器片行徳 A1 号器片遺物 高橋土台遺構上層下内下段		29	2.9	0.8	69	脚底	欠片 LR	○			365
a11	土器片行徳 A1 号器片遺物 5層以下		35	3.6	1.1	130	脚底	欠片 LR	○			366
a12	土器片行徳 A1 号器片遺物 5層以下		34	3.7	1.2	260	脚底	欠片 LR	○			367
a13	土器片行徳 A1 号器片遺物 5層以下		34	3.7	1.2	260	脚底	欠片 LR	○			368
a14	土器片行徳 A1 号器片遺物 5層以下		34	3.7	1.2	260	脚底	欠片 LR	○			369
a15	土器片行徳 A1 号器片遺物 5層以下		34	3.7	1.2	260	脚底	欠片 LR	○			370
a16	土器片行徳 A1 号器片遺物 高橋土台遺構上層下内下段		25	2.6	0.6	34	脚底	欠片 ナテ	○			371
a17	土器片行徳 A1 号器片遺物 高橋土台遺構上層下内下段		25	2.6	0.6	34	脚底	欠片 ナテ	○			372
a18	土器片行徳 A1 号器片遺物 高橋土台遺構上層下内下段		47	5.6	0.9	103	1566	欠片 遺構ナテ	○			373
a19	土器片行徳 A1 号器片遺物 ベルト		34	3.6	0.9	122	1566	欠片 LR	○			374
a20	土器片行徳 A19 号器片遺物 埋蔵土		25	2.9	0.8	177	1566	欠片 埋蔵遺物	○			375
a21	土器片行徳 A27 号器片遺物 埋蔵土		32	2.8	1.0	96	脚底	欠片 ナテ	○			376
a22	土器片行徳 A27 号器片遺物 埋蔵土		32	2.8	1.0	96	脚底	欠片 ナテ	○			377
a23	土器片行徳 A27 号器片遺物 埋蔵土		32	2.8	1.0	96	脚底	欠片 ナテ	○			378
a24	土器片行徳 A27 号器片遺物 3層		34	3.7	1.0	117	脚底	欠片 LR	○			379
a25	土器片行徳 A27 号器片遺物 3層		34	3.7	1.0	117	脚底	欠片 LR	○			380
a26	土器片行徳 A28 号器片遺物 1層		24	2.5	0.9	48	脚底	欠片 LR	○			381
a27	土器片行徳 A33 号器片遺物 1層		35	3.4	1.0	126	脚底	欠片 ナテ	○			382
a28	土器片行徳 A36 号器片遺物 南内区 埋蔵土		33	3.3	0.8	99	脚底	欠片 LR	○			383
a29	土器片行徳 A36 号器片遺物 南内区 埋蔵土		33	3.3	0.8	99	脚底	欠片 LR	○			384
a30	土器片行徳 A36 号器片遺物 南内区 埋蔵土		33	3.3	0.8	99	脚底	欠片 LR	○			385
a31	土器片行徳 A37 号器片遺物 ベルト 埋蔵土下段		42	3.6	0.8	134	脚底	欠片 LR	○			386
a32	土器片行徳 A37 号器片遺物 ベルト 埋蔵土下段		42	3.6	0.8	134	脚底	欠片 LR	○			387
a33	土器片行徳 A37 号器片遺物 埋蔵土上段		37	3.5	1.0	130	脚底	欠片 ナテ	○			388
a34	土器片行徳 A44 号器片遺物 埋蔵土下段		23	3.2	0.6	60	脚底	欠片 埋蔵遺物	○			389
a35	土器片行徳 A47 号器片遺物 埋蔵土		37	3.4	0.7	106	脚底	欠片 RL	○			390
a36	土器片行徳 A72 号器片遺物 埋蔵土		32	3.2	0.7	81	脚底	欠片 埋蔵ナテ	○			391
a37	土器片行徳 A93 号器片遺物 埋蔵土		37	2.9	0.8	95	脚底	欠片 RL	○			392
a38	土器片行徳 A93 号器片遺物 埋蔵土		37	2.9	0.8	95	脚底	欠片 RL	○			393
a39	土器片行徳 A105 号器片遺物 埋蔵土		35	2.9	1.0	98	脚底	欠片 ナテ	○			394
a40	土器片行徳 A105 号器片遺物 埋蔵土		35	2.9	1.0	98	脚底	欠片 ナテ	○			395
a41	土器片行徳 A110 号器片遺物 埋蔵土		37	3.5	1.0	163	脚底	欠片 LR	○			396
a42	土器片行徳 A111 号器片遺物 埋蔵土		36	3.3	1.0	153	脚底	欠片 LR	○			397
a43	土器片行徳 A111 号器片遺物 埋蔵土		47	4.5	0.8	207	脚底	欠片 ナテ	○			398
a44	土器片行徳 A113 号器片遺物 埋蔵土		39	4.1	0.8	154	脚底	欠片 埋蔵遺物	○			399
a45	土器片行徳 A114 号器片遺物 埋蔵土		31	3.2	0.8	81	脚底	欠片 LR	○			400
a46	土器片行徳 A114 号器片遺物 埋蔵土		31	3.2	0.8	81	脚底	欠片 LR	○			401
a47	土器片行徳 A117 号器片遺物 埋蔵土		42	4.1	1.0	153	脚底	欠片 ナテ	○			402
a48	土器片行徳 A117 号器片遺物 東区トレンテ 埋蔵土上段		42	4.1	1.0	153	脚底	欠片 埋蔵遺物	○			403
a49	土器片行徳 A117 号器片遺物 東区トレンテ 埋蔵土中下段		37	3.6	0.7	106	脚底	欠片 埋蔵土上段	○			404
a50	土器片行徳 A129 号器片遺物 東区 埋蔵土中下段		45	2.7	0.9	66	脚底	欠片 ナテ	○			405
a51	土器片行徳 A129 号器片遺物 東区 埋蔵土中下段		48	3.7	0.8	272	脚底	欠片 埋蔵遺物	○			406
a52	土器片行徳 A127 号器片遺物 埋蔵土		37	4.0	0.5	111	脚底	欠片 埋蔵遺物	○			407
a53	土器片行徳 A133 号器片遺物 埋蔵土		13	2.7	0.3	52	脚底	欠片	○			408
a54	土器片行徳 A133 号器片遺物 埋蔵土		13	2.7	0.3	52	脚底	欠片	○			409
a55	土器片行徳 A133 号器片遺物 埋蔵土		13	2.7	0.3	52	脚底	欠片	○			410
a56	土器片行徳 A133 号器片遺物 埋蔵土		26	2.5	1.0	82	脚底	欠片 ナテ	○			411
a57	土器片行徳 A137 号器片遺物 埋蔵土		33	2.9	0.7	73	脚底	欠片 ナテ	○			412
a58	土器片行徳 A138 号器片遺物 埋蔵土		39	4.0	0.9	164	脚底	欠片 一部分 RL	○			413
a59	土器片行徳 A138 号器片遺物 埋蔵土		39	4.3	0.7	145	脚底	欠片 一部分ナテ	○			414
a60	土器片行徳 A138 号器片遺物 埋蔵土		34	3.4	0.8	109	脚底	欠片 LR	○			415
a61	土器片行徳 A138 号器片遺物 埋蔵土		37	3.9	0.9	145	脚底	欠片 埋蔵遺物	○			416
a62	土器片行徳 A201 号器片遺物 東区トレンテ 埋蔵土		37	3.9	0.9	145	脚底	欠片 埋蔵遺物	○			417
a63	土器片行徳 A201 号器片遺物 東区トレンテ 埋蔵土		34	2.8	0.7	60	脚底	欠片 埋蔵遺物	○			418
a64	土器片行徳 A235 号器片遺物 埋蔵土		30	3.0	0.8	85	脚底	欠片 一部分 RL	○			419
a65	土器片行徳 A235 号器片遺物 埋蔵土		43	2.4	0.9	87	脚底	欠片 RL	○			420
a66	土器片行徳 A235 号器片遺物 埋蔵土		37	2.3	1.0	145	脚底	欠片 LR	○			421

第27表 土器片目録観察表(2)

図録 No.	部様	出土層様・地点・層位	片面積積 (cm <sup>2</sup> )		重量 g	部位	機存	文様・溝彫	穿孔	断面	備考	写真 No.
			長	幅								
p54	土器片行類 A255 器底残片	上層 陶器土	3.6	4.1	0.9	脚底	交形 片断		○	平面片断		382
p55	土器片行類 A255 器底残片	上層 陶器土	3.6	4.1	0.9	脚底	交形 ナメ		○	平面片断		382
p56	土器片行類 A259 器底残片	中層 陶器土	2.1	4.1	1.3	脚底	交形 ナメ		○	平面片断		382
p57	土器片行類 A259 器底残片	中層 陶器土	3.6	3.9	0.8	11.75	脚底	交形 LR	△	平面片断		382
p58	土器片行類 A251 器底残片	中層 陶器土	2.8	2.7	0.9	11.75	脚底	交形 LR		平面片断		382
p59	土器片行類 1号土坑 房様・中位		4.7	4.7	1.0	29.0	脚底	交形 断面+上縁		平面片断		382
p60	土器片行類 1号土坑 房様		3.7	3.7	1.1	15.2	脚底	交形 断面+上縁		平面片断		382
p61	土器片行類 1号土坑 房様		3.7	3.7	1.1	15.2	脚底	交形 断面+上縁		平面片断		382
p62	土器片行類 25号土坑	中位 陶器土	3.6	3.6	0.6	13.0	脚底	交形 断面+上縁		平面片断		382
p63	土器片行類 1号土坑 房様		3.2	3.7	0.6	8.8	11.脚底	交形 ナメ		断面片断		382
p64	土器片行類 中位溝部(南西) T.3. 中層 2層		4.0	3.7	0.7	15.3	脚底	交形 断面+上縁		平面片断		382
p65	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.5	3.5	0.8	12.0	脚底	交形 LR		平面片断		382
p66	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		11.0	11.8	1.2	19.1	脚底	交形 断面+上縁		平面片断		383
p67	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.3	2.5	0.2	0.10	脚底	交形 断面+上縁		平面片断		383
p68	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.3	2.5	0.2	0.10	脚底	交形 ナメ		断面片断		383
p69	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		4.3	3.3	0.8	12.2	脚底	交形 LR	△	断面片断		383
p70	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.1	3.1	0.9	10.5	脚底	交形 LR	○	断面片断		383
p71	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		8.4	9.8	1.0	110.4	脚底	交形 断面+上縁		断面片断		383
p72	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		5.0	5.1	0.6	16.7	脚底	交形 LR		断面片断		383
p73	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.3	3.4	1.0	13.0	脚底	交形 LR		断面片断		383
p74	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.3	3.4	1.0	13.0	脚底	交形 LR		断面片断		383
p75	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		5.1	6.8	0.6	23.1	脚底	交形 ナメ		断面片断		383
p76	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		4.0	3.6	0.7	12.5	脚底	交形 LR		断面片断		383
p77	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		4.5	4.1	0.7	19.1	脚底	交形 断面+上縁	△	断面片断		383
p78	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		4.1	3.6	0.6	9.5	脚底	交形 LR	○	断面片断		383
p79	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		5.0	5.3	0.8	18.2	11.脚底	交形 断面+上縁		断面片断		383
p80	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		5.1	5.1	0.8	19.0	11.脚底	交形 断面+上縁		断面片断		383
p81	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		5.1	5.1	1.1	25.3	脚底	交形 断面+上縁		断面片断		384
p82	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		6.8	4.0	1.0	25.3	脚底	交形 LR		断面片断		384
p83	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		4.8	4.7	0.9	21.7	脚底	交形 LR		断面片断		384
p84	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		7.2	7.8	0.8	61.3	脚底	交形 断面+上縁		断面片断		384
p85	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.4	3.6	0.9	14.9	脚底	交形 断面+上縁		断面片断		384
p86	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		2.5	6.4	0.8	9.70	脚底	交形 断面+上縁		断面片断		384
p87	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		2.5	6.4	0.8	9.70	脚底	交形 断面+上縁		断面片断		384
p88	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		7.6	7.2	1.1	66.0	脚底	交形 断面+上縁		断面片断		384
p89	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		5.8	5.7	1.0	37.1	脚底	交形 断面+上縁		断面片断		384
p90	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		4.7	6.3	0.9	29.0	脚底	交形 ナメ		断面片断		384
p91	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		6.1	5.8	0.9	24.2	脚底	交形 断面+上縁		断面片断		384
p92	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		4.6	4.5	0.9	23.3	脚底	交形 断面+上縁		断面片断		384
p93	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.3	2.8	0.5	7.1	脚底	交形 LR		断面片断		384
p94	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		4.1	4.4	1.0	23.0	脚底	交形 LR		断面片断		384
p95	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		2.2	3.1	0.5	3.3	脚底	交形 断面+上縁		断面片断		384
p96	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.5	4.0	0.7	12.6	脚底	交形 断面+上縁	△	断面片断		384
p97	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.5	3.7	1.0	15.0	11.脚底	交形 断面+上縁		断面片断		384
p98	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.1	3.5	1.0	10.0	11.脚底	交形 断面+上縁		断面片断		384
p99	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		5.0	5.1	0.8	23.2	脚底	交形 LR		断面片断		384
p100	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.6	3.3	1.1	15.2	脚底	交形 LR		断面片断		384
p101	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		2.8	3.0	1.1	10.6	脚底	交形 LR		断面片断		384
p102	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.6	3.3	1.1	10.6	脚底	交形 LR		断面片断		384
p103	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.3	3.5	0.8	11.1	脚底	交形 断面+上縁		断面片断		384
p104	土器片行類 中位溝部(南西) 明瓦土		3.0	3.0	1.0	9.4	脚底	交形 断面+上縁		断面片断		384



第 27 表 土器片目録観察表 (3)

No.	品種類	出土遺構・地点・層位		計測値 (cm)		重量 (g)	部位	残存	文様・図形	穿孔	断面加工	備考	写真 No.
		高さ	幅	厚	径								
e200	土器片行類	01016 西Ⅱ区 Ⅱ層	31	3.7	0.8	1.1	脚端	△		○			385
e201	土器片行類	01016 西Ⅱ区 Ⅱ層	31	3.5	0.8	1.4	脚端	△		○			385
e202	土器片行類	01014 Ⅱ層	41	4.1	1.2	1.6	脚端	△		○			385
e208	土器片行類	01015 Ⅱ区 Ⅱ層	27	3.1	0.8	7.7	脚端	△		○			385
e209	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	26	4.0	0.8	1.8	脚端	△		○			385
e210	土器片行類	01016 西Ⅰ区 Ⅱ層	31	3.1	3.0	0.7	7.3	脚端	△		○		385
e211	土器片行類	01016 西Ⅰ区 Ⅱ層	37	4.0	1.0	1.0	脚端	△		○			385
e212	土器片行類	01016 西Ⅰ区 Ⅱ層	33	3.3	0.7	3.0	脚端	△		○			385
e213	土器片行類	01015 Ⅱ層	23	1.9	0.7	3.0	脚端	△		○			385
e214	土器片行類	01013 Ⅱ区 Ⅱ層	30	3.6	0.9	9.2	脚端	△		○			385
e215	土器片行類	01016 西Ⅰ区 Ⅱ層	30	2.7	0.9	7.3	脚端	△		○			385
e216	土器片行類	01016 西Ⅰ区 Ⅱ層	37	3.6	1.0	1.0	脚端	△		○			385
e217	土器片行類	01016 Ⅱ層	32	3.3	0.3	6.3	脚端	△		○			385
e218	土器片行類	01016 Ⅱ層	33	3.3	0.3	6.3	脚端	△		○			385
e219	土器片行類	01016 Ⅱ層	33	2.6	0.8	1.2	脚端	△		○			385
e220	土器片行類	01016 Ⅱ層	38	3.7	1.2	1.7	脚端	△		○			385
e221	土器片行類	01016 西Ⅰ区 Ⅱ層	27	2.6	0.9	8.1	脚端	△		○			385
e222	土器片行類	01016 Ⅱ層	28	3.0	0.8	7.9	脚端	△		○			385
e223	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	37	3.0	0.7	8.7	脚端	△		○			385
e224	土器片行類	01016 西Ⅰ区 Ⅱ層	41	4.0	1.0	1.5	脚端	△		○			385
e225	土器片行類	01016 西Ⅰ区 Ⅱ層	33	3.3	0.8	4.4	脚端	△		○			385
e226	土器片行類	01016 西Ⅰ区 Ⅱ層	31	3.0	0.8	8.2	脚端	△		○			385
e227	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	32	3.1	1.1	1.0	脚端	△		○			385
e228	土器片行類	01016 西Ⅰ区 Ⅱ層	41	4.2	1.0	20.3	脚端	△		○			385
e229	土器片行類	01016 西Ⅰ区 Ⅱ層	40	3.9	1.1	24.6	脚端	△		○			385
e230	土器片行類	01016 西Ⅰ区 Ⅱ層	50	5.0	0.9	28.0	脚端	△		○			385
e231	土器片行類	01016 Ⅱ層	45	4.5	1.0	1.0	脚端	△		○			385
e232	土器片行類	01016 Ⅱ層	45	4.2	0.9	1.0	脚端	△		○			385
e233	土器片行類	01016 Ⅱ層	31	3.3	0.8	11.6	脚端	△		○			385
e234	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	35	3.9	1.1	15.7	脚端	△		○			385
e235	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	42	4.2	0.8	15.6	脚端	△		○			385
e236	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	39	4.1	0.8	13.7	脚端	△		○			385
e237	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	54	5.4	0.8	22.3	1.脚端	△		○			385
e238	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	46	4.6	0.8	17.1	脚端	△		○			385
e239	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	47	4.5	0.8	17.5	脚端	△		○			385
e241	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅰ-Ⅱ層上層	25	2.8	0.9	7.4	脚端	△		○			385
e242	土器片行類	01016 Ⅱ層下段	22	2.5	0.6	3.6	脚端	△		○			385
e243	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	41	4.0	1.1	17.7	1.脚端	△		○			385
e244	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	51	5.1	0.8	13.0	脚端	△		○			385
e245	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	51	5.1	0.8	13.0	脚端	△		○			385
e246	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	53	4.9	0.9	24.4	脚端	△		○			385
e247	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	32	3.4	0.8	8.0	脚端	△		○			385
e248	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	26	3.1	0.6	5.7	脚端	△		○			385
e249	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	54	5.2	0.8	29.1	脚端	△		○			385
e250	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	35	3.7	0.8	11.2	脚端	△		○			385
e251	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	42	4.2	1.2	26.7	脚端	△		○			385
e252	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	42	4.3	1.2	26.7	脚端	△		○			385
e253	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	47	4.6	0.8	19.6	脚端	△		○			385
e254	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	36	3.7	1.4	19.1	脚端	△		○			385
e255	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	36	3.5	0.7	9.3	脚端	△		○			385
e256	土器片行類	01016 東Ⅰ区 Ⅱ層	38	4.1	1.3	24.9	脚端	△		○			385

第27表 土器片白磁器類表(4)

国号	器種	出土遺跡・地点・層位	重量 (g)		直径	口径	底径	底形	残存	文様・模影	穿孔	断面	備考	国号	
			高	厚											
4526	土器片行燈	15214-南地区 Ⅱ層	56	11	114	62	62	平底	完整	文様・模影	○	平削片形	366	527	
4528	土器片行燈	15214-南地区 Ⅱ層	24	28	47	5.4	1.1	山形底	完整	文様	△	○	平削片形	366	527
4529	土器片行燈	15211-北地区 Ⅱ層	3.6	0.6	9.4	0.8	0.4	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	527
4530	土器片行燈	15211-北地区 Ⅱ層	4.4	3.9	1.0	19.6	0.8	平底	破欠	文様	△	○	平削片形	366	527
4531	土器片行燈	15211-北地区 Ⅱ層	4.7	4.9	0.9	20.5	0.8	平底	完整	文様・模影	△	○	平削片形	366	528
4532	土器片行燈	15211-北地区 Ⅱ層	1.5	3.2	0.9	28.1	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4533	土器片行燈	15211-北地区 Ⅱ層	1.5	3.2	0.9	28.1	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4534	土器片行燈	15211-北地区 Ⅱ層	1.4	3.1	1.1	27.8	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4535	土器片行燈	15211-北地区 Ⅱ層	1.4	3.1	1.1	27.8	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4536	土器片行燈	15211-北地区 Ⅱ層	3.2	2.7	0.8	5.8	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4537	土器片行燈	15211-北地区 Ⅱ層	2.4	2.0	0.4	3.3	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4538	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	4.9	3.3	0.6	8.6	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	527
4539	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	2.2	2.1	0.6	2.7	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	527
4540	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	0.7	6.4	0.8	40.3	1.1	山形底	完整	文様	△	○	平削片形	366	527
4541	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	1.2	2.2	0.8	10.5	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4542	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	3.5	3.5	0.8	10.6	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4543	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	3.5	3.3	0.6	7.1	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4544	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	4.3	4.3	1.1	23.6	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4545	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	4.3	4.4	0.7	15.5	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4546	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	2.6	2.7	0.8	6.4	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4547	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	1.7	1.3	0.8	11.8	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4548	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	1.7	1.3	0.8	11.8	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4549	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	3.7	4.0	0.8	13.9	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4550	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	2.4	2.1	0.7	3.9	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4551	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	3.1	3.2	0.5	5.5	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4552	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	2.7	3.0	0.9	6.8	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4553	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	3.5	4.0	0.9	14.9	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4554	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	1.8	1.5	1.6	31.3	1.1	山形底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4555	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	1.6	2.1	0.6	2.5	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4556	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	2.2	2.1	0.6	3.1	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4557	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	2.4	2.9	1.0	8.6	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4558	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	1.3	1.3	0.7	20.0	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4559	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	1.1	1.0	0.9	20.0	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4560	土器片行燈	15226-北地区 Ⅱ層	1.5	1.0	0.9	20.0	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4561	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	3.4	3.5	0.9	9.5	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4562	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	3.4	3.1	1.3	12.6	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4563	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	3.9	4.2	0.9	19.4	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4564	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	2.7	2.9	0.8	6.0	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4565	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	2.5	2.3	0.7	5.7	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4566	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	4.8	4.4	1.1	26.6	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4567	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	4.8	4.4	1.1	26.6	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4568	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	4.4	4.0	0.8	18.6	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4569	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	3.6	3.3	0.8	16.3	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4570	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	3.7	3.8	0.9	15.2	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4571	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	2.6	2.7	0.8	6.6	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4572	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	4.4	4.7	1.0	25.2	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4573	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	3.3	3.5	0.9	13.7	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4574	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	3.3	3.5	0.9	13.7	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4575	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	5.3	4.5	1.1	27.2	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528
4576	土器片行燈	15241-南地区 Ⅱ層	3.4	4.1	0.6	8.0	0.8	平底	完整	文様	△	○	平削片形	366	528

※1 穿孔部が○は加工部のみ、△は未加工のもの  
 ※2 断面に黒の○は加工部のみ、△は未加工のもの、○は加工部のみ、△は未加工のもの

第28表 台形土器類表

国産品 No.	器種	分類	産地・産点・単位	器高 寸法(mm)	器口 寸法(mm)	器底 寸法(mm)	重量 g	注記	出所	年代
101	台形土器	3	A164号形土器類 東條土上段	-	-	-	51.4	横文字→+字 / +字	○	5.5
102	台形土器	3	A164号形土器類 東條土上段	-	-	-	136.3	横文字→+字 / +字	○	5.5
103	台形土器	2	A115号形土器類 東條土上段	-	-	-	67	134.5 横文字 / +字	○	5.79
104	台形土器	2	A132号形土器類 4層	71	145	162	13	803.3 横文字 / +字	○	5.79
105	台形土器	1	A252号形土器類 東條土上段	-	-	-	279	138.2 横文字 / +字	○	5.79
106	台形土器	2	A252号形土器類 東條土上段	[53]	[41]	[29]	[18.2]	横文字 / +字	○	5.79
107	台形土器	4	A266A 4層	-	-	-	146	228.4 横文字 / +字	○	5.79
108	台形土器	2	B 161B 西段 3層	61	-	-	133.1	横文字 / +字	○	5.79
109	台形土器	3	B 113B 西段 3層	-	-	-	-	133.6 横文字 / +字	○	5.79
110	台形土器	3	B 125A 西段 3層	-	-	-	-	71.6 横文字 / +字	○	5.79
111	台形土器	3	B 125B 西段 3層	-	-	-	-	53.7 横文字 / +字	○	5.79
112	台形土器	3	B 125C 西段 3層	-	-	-	-	53.7 横文字 / +字	○	5.79
113	台形土器	1	B 121A 東段 3層	-	-	-	-	64.5 横文字 / +字	○	5.79
114	台形土器	1	B 122A 東段 3層	58	68	105B	10	106.9 横文字 / +字	○	3.0
115	台形土器	3	B 122B 東段 3層	-	-	-	-	170 横文字 / +字	○	3.0
116	台形土器	4層	B 122C 東段 3層	-	-	-	-	150 横文字 / +字	○	3.0
117	台形土器	1	B 123A 東段 3層	-	-	-	-	151 横文字 / +字	○	3.0
118	台形土器	1	B 123B 東段 3層	-	-	-	-	80.2 横文字 / +字	○	3.0
119	台形土器	1	B 123C 東段 3層	-	-	-	-	125.7 横文字 / +字	○	3.0
120	台形土器	1	B 123D 東段 3層	-	-	-	-	41.0 横文字 / +字	○	3.0
121	台形土器	2	B 121 東段 3層	58	110B	110	11	200.6 横文字 / +字	○	3.0
122	台形土器	2	B 122 東段 3層	[54]	-	-	-	118.1 横文字 / +字	○	3.0

※計測時の寸法単位は台形寸法

第29表 金属製品類表

国産品 No.	器種	出土産地・産点・単位	計測値 (mm)			備考	国産品 No.	年代	
			長さ	幅	厚				
101	刀子	B14号形土器類 東條土上段	15.2	1.0	0.4	横片 3点、両面研行	368	529	
102	刀子	B14号形土器類 東條土上段	15.0	1.0	0.3	両面研行	368	529	
103	銅管多目	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 1	3.00	3.80	0.2	両方、舟下 両面研行、片倉	368	529	
104	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 2	3.81	0.6	0.2	両方、舟下 両面研行、片倉	368	529	
105	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 3	1.91	0.5	0.2	片倉研	368	529	
106	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 4	0.9	0.37	0.1	片倉研	368	529	
107	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 5	11.8	1.0	0.4	柄部の木製覆板化	368	529	
108	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 6	12.2	1.0	0.4	柄部の木製覆板化	368	529	
109	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 7	8.85	1.2	0.5	柄部の木製覆板化、片倉研	368	529	
110	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 8	12.6	7.5	0.45	0.9	368	529	
111	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 9	15.7	1.2	0.3	片倉研行	368	529	
112	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 10	19.2	1.5	0.3	片倉研行	368	529	
113	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 11	6.7	2.5	0.2	0.07 木心部減損 二面研行 片倉研	368	529	
114	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 12	11.8	1.0	0.4	柄部の木製覆板化	368	529	
115	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 13	8.21	1.0	0.26	柄部の木製覆板化	369	529	
116	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 14	14.00	2.8	0.3	片倉研	369	529	
117	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 15	7.91	1.11	0.5	片倉研	369	529	
118	刀子	B16号形土器類 東條土上段 鉄製品 No. 16	10.6	1.0	0.4	片倉研	369	529	
119	銅管	B13B	中央部研削 1—II層上段	2.81	5.85	0.2	口縁部研削	369	529
120	銅管	B 1A 5x 1B—II層	4.5	1.1	0.6	片倉研行	369	529	
121	銅管	B 1E 1A 5x 1B—II層	2.2	2.0	0.2	片倉研行	369	529	
122	銅管	B 1E 1A 5x 1B—II層	2.2	2.0	0.2	片倉研行	369	529	
123	銅管	B 1E 1A 5x 1B—II層	2.2	2.0	0.2	片倉研行	369	529	
124	銅管	B 1E 1A 5x 1B—II層	1.91	1.1	0.2	片倉研行	369	529	

※計測時の寸法単位は台形寸法

第30表 鉄生産関連遺物観察表

国庫 No.	分類	出土遺構・地点・層位	計測距離 (cm)		位置	面積 (㎡)	備考	国庫 No.	写真 No.	
			北	西						
11	3H11	15号炉内遺物 炉内炉壁跡	112.1	3.3	29.0	300		309	M10	
12	3H11	15号炉内遺物 炉内炉壁跡	105.5	5.1	29.0	300		309	M11	
13	3H11	15号炉内遺物 炉内炉壁跡	105.5	3.2	23.2	427.6		309	M12	
14	3H11	15号炉内遺物 土坑1 炉壁土	100.0	6.3	25.5	669.9		300	530	M12
15	3H11	4号炉 炉壁土	116.5	-	33.8	10 - 42		300	530	M13
16	3H11	4号炉 炉壁土	117.0	12.8	3.8	308	958.8	300	530	M14
17	3H11	2号炉 炉壁土	114.5	-	3.4	3.1	716.7	300	530	M16
18	3H11	2号炉 炉壁土	140.0	52.0	23.0	1.8	409	300	530	M16
19	3H11	2号炉 炉壁土	111.3	10.4	4.1	24	699.5	300	530	M17
20	3H11	2号炉 炉壁土	111.3	13.4	4.1	24	699.5	300	530	M18
21	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
22	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
23	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
24	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
25	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
26	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
27	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
28	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
29	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
30	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
31	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
32	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
33	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
34	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
35	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
36	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
37	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
38	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
39	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18
40	3H11	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530	M18

第31表 土製支脚観察表

国庫 No.	分類	出土遺構・地点・層位	計測距離 (cm)		位置	面積 (㎡)	備考	国庫 No.	写真 No.
			北	西					
11	土製支脚	15号炉内遺物 炉内炉壁跡	112.1	3.3	29.0	300		309	530
12	土製支脚	15号炉内遺物 炉内炉壁跡	105.5	5.1	29.0	300		309	530
13	土製支脚	15号炉内遺物 炉内炉壁跡	105.5	3.2	23.2	427.6		309	530
14	土製支脚	15号炉内遺物 土坑1 炉壁土	100.0	6.3	25.5	669.9		300	530
15	土製支脚	4号炉 炉壁土	116.5	-	33.8	10 - 42		300	530
16	土製支脚	4号炉 炉壁土	117.0	12.8	3.8	308	958.8	300	530
17	土製支脚	2号炉 炉壁土	114.5	-	3.4	3.1	716.7	300	530
18	土製支脚	2号炉 炉壁土	140.0	52.0	23.0	1.8	409	300	530
19	土製支脚	2号炉 炉壁土	111.3	10.4	4.1	24	699.5	300	530
20	土製支脚	2号炉 炉壁土	111.3	13.4	4.1	24	699.5	300	530
21	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
22	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
23	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
24	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
25	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
26	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
27	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
28	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
29	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
30	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
31	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
32	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
33	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
34	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
35	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
36	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
37	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
38	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
39	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530
40	土製支脚	2号炉 炉壁土	141.0	-	33.3	22.0	367.2	300	530

第32表 廣播器・ガラス製品観察表

図録 No.	図様	山上遺跡・風心・塚山	重量		残存部位	産地	用途	備考	図録 No.	写真 No.	図録 No.
			長さ(cm)	直径(φ)(cm)							
K1	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	24	8.6	底足	瀬田	甕	甕蓋(2)付型式古石積	391	-	C1
K2	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	-	-	底足	瀬田	甕	17番8.4cm	391	-	C1
K3	陶器 片立鉢	土師町 西平川 遺跡	-	-	底足	瀬田	甕	12番8.4cm	391	-	C2
K4	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	1.1	27.5	底足	瀬田	甕	12番8.4cm	391	-	C2
K5	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K6	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K7	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K8	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K9	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K10	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K11	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K12	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K13	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K14	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K15	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K16	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K17	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K18	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K19	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K20	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K21	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K22	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K23	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K24	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5
K25	陶器 甕	土師町 西平川 遺跡	0.5	3.3	底足	瀬田	甕	甕蓋	391	-	C5

## 報告書抄録

ふりがな	まぎどいせきはつつちょうさほうこくしょ								
書名	問木戸I遺跡発掘調査報告書								
副書名									
巻次									
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書								
シリーズ番号	第723集								
編著者名	村田 淳・村上 拓・北村忠昭・北田 勲・佐藤あゆみ・中村隼人・高橋静歩・酒井野々子								
編集機関	(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター								
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地 TEL (019) 638-9001								
発行年月日	2021年3月12日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
問木戸I遺跡	岩手県山田郡山田町山田第3地割ほか	03482	LG94-0005	39度29分00秒	141度57分09秒	2013.11.05 ～ 2013.11.28	1,600㎡	三陸沿岸道路建設事業(各年度の調査範囲は重複部分を含み、総調査面積は9,800㎡)	
						2014.04.08 ～ 2014.12.19			7,660㎡
						2015.04.17 ～ 2015.08.07	2,140㎡		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項				
問木戸I遺跡	狩猟場 集落 生産遺跡	縄文	堅穴建物253軒 土坑294基 炉23基、焼土18基 溝10条 配石遺構1箇所 土器埋設遺構7基 遺物包含層2箇所	土器(早期後葉～後期前葉) 石器(鏃・鏃・匙・石斧・ 敲磨器類等) 石製品(垂飾具・三角埴形・ 石棒石刀類等) 土製品(板状土偶・三角埴 形・ミニチュア土器等) 台形土器、土器片円盤、動 物遺存体	板状土偶は前期 末～中期初頭				
		古代	堅穴建物23軒 土坑5基 鉄生産関連炉1基 溝3条	土師器・須恵器 灰釉陶器、常滑窯産陶器 金属製品(鈔帯金具・馬具・ 鏃・刀子・鈎等)	灰釉陶器は9世 紀、常滑窯産陶器 は12世紀代				
		近世以降 ・時期不明	土坑13基、焼土1基 溝6条、竪地3箇所 性格不明遺構1基 柱穴2805個	陶磁器 鉄生産関連遺物 金属製品(釘・鍋・煙管) 銭貨					
要約	問木戸I遺跡は、山田湾に向かって南東方向に張り出した丘陵尾根の先端部に立地する縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。縄文時代の堅穴建物は前期末葉～中期末葉に属し、尾根頂部を除いて同一地点で繰り返し建てられており重複が著しい。土坑は貯蔵穴が多数を占め、尾根の南側斜面に集中して掘削されている。遺物は遺構内・外共に多量に出土しており、前期末～中期後葉のものが主体となる。古代の遺構は平安時代前半のものが主体で、尾根頂部及び北端区に分布する。遺物は主に堅穴建物から出土しており、銅製鈔帯金具(巡方)や馬具(引手・鍔吊金具)等が出土している。近世の遺構では排滓場として使用された溝などがあり、炉は検出されていないが鉄滓を主体とする鉄生産関連遺物が多量に出土している。								

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第723集

## 間木戸 I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査  
(第1分冊 本文・遺構図版・自然科学分析・総括編)

印刷 令和3年3月1日

発行 令和3年3月12日

編集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地  
電話 (019) 638-9001

発行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所  
〒027-0029 岩手県宮古市藤の川町4番1号  
電話 (0193) 62-1711

(公財)岩手県文化振興事業団  
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号  
電話 (019) 654-2235

印刷 (株)杜陵印刷  
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ二丁目22番地50号  
電話 (019) 641-8000







